

高等専門学校機関別認証評価

自己評価書

平成20年6月

神戸市立工業高等専門学校

目 次

I	高等専門学校の現況及び特徴	1
II	目的	2
III	基準ごとの自己評価	
	基準1 高等専門学校の目的	4
	基準2 教育組織（実施体制）	30
	基準3 教員及び教育支援者	113
	基準4 学生の受入	153
	基準5 教育内容及び方法	180
	基準6 教育の成果	263
	基準7 学生支援等	293
	基準8 施設・設備	359
	基準9 教育の質の向上及び改善のためのシステム	380
	基準10 財務	409
	基準11 管理運営	431

I 高等専門学校の現況及び特徴

1 現況

(1) 高等専門学校名：神戸市立工業高等専門学校

(2) 所在地：兵庫県神戸市

(3) 学科等の構成

学 科：下表のとおり 5 学科 専攻科：4 専攻

(4) 学生数及び教員数（平成20年5月1日現在）

学生数（準学士課程）

単位；名

	1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	合計
MA, MD	41	40	40	39	43	203
MB, MC	40	39	38	41	39	197
E	41	41	40	35	38	195
D	40	41	39	43	37	200
C	40	41	39	37	36	193
S	40	42	43	32	38	195
計	242	244	239	227	231	1183

MA：機械工学科A組 MB：機械工学科B組 MD：設計システムコース MC：システム制御コース E：電気工学科 D：電子工学科 C：応用科学科 S：都市工学科

学生数（専攻科課程）

単位；名

	1学年	2学年	合計
AM	12	14	26
AED	18	15	33
AC	6	7	13
AS	3	6	9
計	39	42	81

AM：機械システム工学専攻 AED：電気電子工学専攻 AC：応用化学専攻 AS：都市工学専攻，専任教員数：95人，助手数：0人

2 特徴

神戸市立工業高等専門学校（以下本校という。）は、昭和38年4月に神戸市立六甲工業高等専門学校として設置された。開校当時は、機械工学科，電気工学科，工業化学科，土木工学科の4学科であった。昭和41年4月に校名を「神戸市立六甲工業高等専門学校」から「神戸市立工業高等専門学校」に変更した。以後，時代の要請に応えるべく，昭和63年4月に「電子工学科」を新設，平成2年4月新学舎移転時に，「工業化学科」を「応用化学科」に改組，機械工学科3年次以降に「設計システムコース」と「システム制御コース」の2コース制を導入，平成6年4月に「土木工学科」を「都市工学科」に改組した。

また，平成7年1月の阪神・淡路大震災の復興計画の一翼を担うものとして，平成10年4月に電気電子工学専攻，応用化学専攻，平成12年4月に機械システム工学専攻，都市工学専攻の4専攻を有する専攻科が設置された。

このため本校の教育は，「震災体験をふまえて地域との協働，人類の幸福や豊かさについて考える能力と素養を身に付けさせると共に，高専の特徴とする早期一貫教育を活かした実践的技術者を教育の基幹としている。また，グローバル化した社会に対応した国際的に通用する複合的視点を持った創造性豊かな技術者育成を目指している。」。平成15年には，このような観点から，新たに教育プログラム「工学系複合プログラム」とその学習・教育目標を定めて，教育を行うことにした。また，本校は神戸研究学園都市連絡協議会に所属し，5大学1高専の単位互換制度の中で，専攻科生は他大学のカリキュラムも受講し，複合性を高めている。この工学系複合プログラムは，平成18年5月8日に日本技術者教育認定機構（JABEE）から認定を受けた。

また，本校の教育は，「環境問題」にも力を入れており，平成19年度には，全学挙げてKEMS（神戸環境マネジメントシステム）の認証を取得した。これを契機に学生に環境問題を体得させるべく省エネ等種々の行事を実施中である。

卒業生の進路は，就職と大学等への進学である。就職については，国内経済状況を反映して，準学士課程卒業生の求人倍率は約16～30倍以上の高率を維持し，就職希望者の就職率はほぼ100%である。大学へ編入する卒業生は約40%（本校専攻科進学を含む）であり，そのほとんどが希望する大学に編入している。専攻科修了生の求人倍率は約60～120倍，就職希望者の就職率はほぼ100%である。大学院へ進学する修了生は約55%であり，そのほとんどが希望する大学院へ進学している。

高専発足当時に「高専研究会」を設立し，平成4年には，産学官技術フォーラムを開催することになり，平成20年度には第17回が開催される予定である。その間，「高専研究会→研究振興委員会→地域協働研究センター」と名称変更しながら，名前にふさわしい改革を行ってきた。いま，現在では，「フォーラム」や「技術相談」，「共同研究」に加え，市民を対象にした「公開講座」，「オープンキャンパス」，「小学生を対象とした水泳教室」等様々な行事を行い，地域連携に努めている。

Ⅱ 目的

1. 本校の使命 本校は、学校教育法の定める高等専門学校として、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成すること、並びにその教育、研究機能を活用して国際港都神戸の産業及び文化の発展向上に寄与することを使命とする。

2. 本校の教育方針

■ 人間性豊かな教育

心身の調和のとれた、たくましい感性豊かな人間形成をめざして、教養教育の充実をはかるとともに、スポーツ・文化クラブ等の課外活動を振興する。

■ 基礎学力の充実と深い専門性を培う教育

工学に関する基礎知識と専門知識を身につけ、日進月歩する科学技術に対応し、社会に貢献できる実践的かつ創造的人材を育成する。

■ 国際性を育てる教育

国際・情報都市神戸にふさわしい高専として、世界的視野を持った、国際社会で活躍できる人材を育成する。

3. 養成すべき人材像（準学士課程）

健康な心身と豊かな教養のもと、工学に関する基礎的な知識を身につけると同時に、創造性も合わせ持つ、国際性、問題解決能力を有する実践的技術者を養成する。

4. 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力（準学士課程の学習・教育目標）

(A) 工学に関する基礎知識を身に付ける。

(A1) 数 学 工学的諸問題に対処する際に必要な数学の基礎知識を身につけ、問題を解くことができる。

(A2) 自 然 科 学 工学的諸問題に対処する際に必要な自然科学に関する基礎知識を身につけ、問題を解くことができる。

(A3) 情 報 技 術 工学的諸問題に対処する際に必要な情報に関する基礎知識を身につけ、活用することができる。

(A4) 専 門 分 野 各学科の専門分野における工学の基礎知識・基礎技術を身につけ、活用することができる。

(B) コミュニケーションについての基礎的能力を身に付ける。

(B1) 論理的説明 自分の意図する内容を文章および口頭で相手に適切に伝えることができる。

(B2) 質 疑 応 答 自分自身の発表に対する質疑に適切に応答することができる。

(B3) 日 常 英 語 日常的な話題に関する平易な英語の文章を読み、聞いて、その内容を理解することができる。

(B4) 技 術 英 語 英語で書かれた平易な技術的文章の内容を理解し、日本語で説明することができる。

(C) 複合的な視点で問題を解決する基礎的能力や実践力を身に付ける。

(C1) 応用・解析 工学的基礎知識を工学的諸問題に応用して、得られた結果を的確に解析することができる。

(C2) 複合・解決 与えられた課題に対して、工学的基礎知識を応用し、かつ情報を収集して戦略を立て、解決できる。

(C3) 体力・教養 技術者として活動するために必要な体力や一般教養の基礎を身につける。

(C4) 協調・報告 与えられた実験テーマに対してグループで協調して挑み、期日内に解決して報告書を書くことができる。

(D) 地球的視点と技術者倫理を身に付ける。

(D1) 技術者倫理 工学技術が社会や自然に与える影響および技術者が負う倫理的責任を理解することができる。

(D2) 異文化理解 異文化を理解し、多面的に物事を考えることができる。

5. 養成すべき人材像（専攻科課程）

専門分野の知識・能力を持つと共に他分野の知識も有し、培われた一般教養のもとに、柔軟で複合的視点に立った思考ができ、問題発見、問題解決ができる創造性豊かな開発型技術者を養成する。

6. 修了時身につけるべき学力や資質・能力（専攻科課程の学習・教育目標）

(A) 工学に関する基礎知識と専門知識を身につける。

(A1) 数 学 工学的諸問題に対処する際に必要な線形代数，微分方程式，ベクトル解析，確率統計などの数学に関する知識を身につけ，問題を解くことができる。

(A2) 自 然 科 学 工学的諸問題に対処する際に必要な力学，電磁気学，熱力学などの自然科学に関する知識を身につけ，問題を解くことができる。

(A3) 情 報 技 術 工学的諸問題に対処する際に必要な情報技術に関する知識を身につけ，活用することができる。

(A4) 専 門 分 野 各専攻分野における工学基礎と専門分野の知識・技術を身につけ，活用することができる。

(B) コミュニケーション能力を身に付ける。

(B1) 論理的説明 技術的な内容について，図，表を用い，文章および口頭で論理的に説明することができる。

(B2) 質 疑 応 答 自分自身の発表に対する質疑に適切に応答することができる。

(B3) 日 常 英 語 日常的な話題に関する英語の文章を読み，聞いて，その内容を理解することができる。

(B4) 技 術 英 語 英語で書かれた技術的・学術的論文の内容を理解し，日本語で説明することができる。また，特別研究等の研究に関する概要を英語で記述することができる。

(C) 複合的な視点で問題を解決する能力や実践力を身につける。

(C1) 応用・解析 工学基礎や専門分野の知識を工学的諸問題に応用して，得られた結果を的確に解析することができる。

(C2) 複合・解決 与えられた課題に対して，工学基礎や専門分野の知識を応用し，かつ情報を収集して戦略を立てることができる。また，複合的な知識・技術・手法を用いてデザインし工学的諸問題を解決することができる。

(C3) 体力・教養 技術者として活動するために必要な体力や一般教養を身につける。

(C4) 協調・報告 特定の問題に対してグループで協議して挑み，期日内に解決して報告書を書くことができる。

(D) 地球的視点と技術者倫理を身につける。

(D1) 技術者倫理 工学技術が社会や自然に与える影響を理解し，また技術者が負う倫理的責任を自覚し，自己の倫理観を説明することができる。

(D2) 異文化理解 異文化を理解し，多方面に物事を考え，自分の意見を説明することができる。

Ⅲ 基準ごとの自己評価

基準 1 高等専門学校の目的

(1) 観点ごとの分析

観点 1-1-①： 目的として、高等専門学校の使命、教育研究活動を実施する上での基本方針、及び、養成しようとする人材像を含めた、達成しようとしている基本的な成果等が、明確に定められているか。

(観点到係る状況)

本校の目的

本校の目的は、以下の6項目で構成されている。

(1) 本校の使命

本校は、学校教育法の定める高等専門学校として、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成すること、並びにその教育、研究機能を活用して国際港都神戸の産業及び文化の発展向上に寄与することを使命とする(資料1-1-①-1, 資料1-1-①-2)。

資料 1-1-①-1

「学則 第1章 本校の目的」

第1条 神戸市立工業高等専門学校(以下「本校」という。)は、学校教育法(昭和22年法律第26号)の定める高等専門学校として、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成すること、並びにその教育及び研究機能を活用して、国際港都神戸の産業及び文化の発展向上に寄与することを目的とする。

(出典：平成19年度神戸市立工業高等専門学校学生便覧)

資料 1-1-①-2

学則第1条は、平成18年度将来計画委員会で審議され、上述のように、平成19年度学則から、それ以前の学則に「並びにその教育及び研究機能を活用して、国際港都神戸の産業及び文化の発展向上に寄与することを目的とする」という文言を付け加え、設置者である神戸市への貢献をより鮮明にした。

(出典：平成18年度第4回将来計画委員会(議事録概要)2006年10月27日)

(2) 本校の教育方針(資料1-1-①-3, 資料1-1-①-4)

人間性豊かな教育

心身の調和のとれた、たくましい感性豊かな人間形成をめざして、教養教育の充実をはかるとともにスポーツ・文化クラブ等の課外活動を振興する。

基礎学力の充実と深い専門性を培う教育

工学に関する基礎知識と専門知識を身につけ、日進月歩する科学技術に対応し、社会に貢献できる実践的かつ創造的人材を育成する。

国際性を育てる教育

国際・情報都市神戸にふさわしい高専として、世界的視野を持った、国際社会で活躍できる人材を育成する。

上述教育方針は、下記資料 1-1-①-3 の「本校の教育方針」の文言を微修正したものであり、平成 20 年度の学生便覧には、この教育方針を記載した。

資料 1-1-①-3

「本校の教育方針」

人間性豊かな教育

心身の調和のとれた、たくましい感性豊かな人間性をめざして、教養教育の充実をはかるとともにスポーツ・文化クラブ等の課外活動の振興につとめます。

基礎学力の充実と深い専門性を培う教育

工学に関する基礎知識と専門知識を身につけ、日進月歩する科学技術に対応し、社会に貢献できる実践的かつ創造的人材の育成につとめます。

国際性を育てる教育

国際・情報都市神戸にふさわしい高専として、世界的視野を持った、国際社会で活躍できる優秀な技術者を育てます。

(出典：平成 19 年度神戸市立工業高等専門学校学生便覧)

(上述教育方針は、平成 15 年度外部評価を受けたときに、「JABEE 取得を目指しておられることに敬意を表します。ただ、そのことを教育方針や目的に反映されるべきです。」という指摘及び、JABEE 受審時に必要な学習・教育目標の作成と並行して、下記の従来教育方針を平成 16 年度に検討し、上述のように改定した。)

資料 1-1-①-4

「従来教育方針」

人間性豊かな教育

心のふれあいを大切に、ゆとりある教育を通して創造性をはぐくみ、奥行きのある個性豊かな技術者を育成します。

たくましい体と心をきたえる教育

心身の調和のとれた、たくましい情緒豊かな人間形成をめざして、一般教育の充実とスポーツ文化クラブの振興につとめます。

開かれた教育

国際・情報都市神戸にふさわしい高専として科学技術の進歩を広い視野に立って展望し、国際社会で活躍できる優秀な技術者を育てます。

(出典：平成 15 年度神戸市立工業高等専門学校学生便覧)

(3) 養成すべき人材像 (準学士課程)**(4) 卒業時に身につけるべき学力や資質・能力 (準学士課程の学習・教育目標)****(5) 養成すべき人材像 (専攻科課程)****(6) 修了時に身につけるべき学力や資質・能力**

以上 (3) から (6) は (資料 1-1-①-5, 資料 1-1-①-6, 資料 1-1-①-7) に基づく

資料 1-1-①-5, 資料 1-1-①-6

養成すべき人材像や卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力等について、平成 19 年 1 月 24 日と 4 月 2 日の将来計画委員会で議論された。

（出典： 将来計画委員会資料 2007/1/24, 将来計画委員会資料 2007/4/2）

資料 1-1-①-7

その後、教務主事と教育プログラム委員長で、各科・各専攻の目的も含めた案を作成し、平成 19 年 9 月 3 日の校務運営委員会です承された。専攻科課程の修了時に身に付けるべき学力や資質・能力は、JABEE 受審時にすでに確立されており、本会議では、主に準学士課程の養成すべき人材像や卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力および専攻科課程の養成すべき人材像について議論された。

（出典： 平成 19 年度第 5 回校務運営委員会議事録）

以上のように、準学士課程は、創造性を合わせ持つ、国際性、問題解決能力を有する実践的技術者を育成することを主眼としている。また、専攻科課程は、準学士課程に積み上げ型の形態を取り、個々の専門性を高めると同時に、複合的視点で創造・問題発見・問題解決ができる創造・開発型技術者を養成することを主眼としている。

（分析結果とその根拠理由）

本校では、学校が社会や地域社会に対して担う基本的な役割として、高等専門学校の使命を定めている。また、学校としての教育方針に沿った、課程ごとの養成すべき人材像を定めているほか、卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力を詳細に定め、達成しようとしている基本的な成果等をより明確にしている。

以上のことから、本校は、高等専門学校として目的を明確に定めている。

観点 1-1-②： 目的が、学校教育法第 70 条の 2 に規定された、高等専門学校一般に求められる目的から、はずれるものでないか。

（観点に係る状況）

学則に規定した本校の目的（資料 1-1-①-1）は「本校の教育方針」の涵養で達成され、その思想で準学士・専攻科両課程の養成すべき人材像と卒業（修了）時に身に付ける学力や資質・能力が作られており、それらを学校教育法第 70 条の 2 に照らすと「深く専門の学芸を教授」と「職業に必要な能力」に大別できる（資料 1-1-②-1）。その対応関係は次のとおりである。

(資料1-1-②-1)

「深く専門の学芸を教授し」に対応	「職業に必要な能力を育成」に対応
準学士課程の卒業時に身につけるべき学力や資質・能力のうち、 (A1)数学、(A2)自然科学、(A3)情報技術の基礎知識を身につけ、問題を解決あるいは活用することができる。	準学士課程の養成すべき人材像の、健康な心身と豊かな教養のもと、工学に関する基礎的な知識を身につけると同時に、創造性も合わせ持つ国際性、問題解決能力を有する実践的技術者を養成する。
準学士課程の卒業時に身につけるべき学力や資質・能力のうち、 (A4)各学科の専門分野における工学の基礎知識・基礎技術を身につけ、活用することができる。	準学士課程の卒業時に身につけるべき学力や資質・能力のうち、 (B)コミュニケーションの基礎的な能力を身につける、(C)複合的な視点で問題を解決する基礎的な能力や実践力を身につける、(D)地球的視点と技術者倫理を身につける。
専攻科課程の修了時に身に付ける学力や資質・能力のうち、 (A1)数学、(A2)自然科学、(A3)情報技術に関する知識を身につけ、問題を解決あるいは活用することができる。	専攻科課程の養成すべき人材像の、専門分野の知識・能力を持つと共に他分野の知識も有し、培われた一般教養のもとに、柔軟で複合的な視点に立った思考ができ、問題発見、問題解決ができる創造性豊かな開発型技術者を養成する。
専攻科課程の修了時に身に付ける学力や資質・能力のうち、 (A4)各専攻分野における工学基礎と専門分野の知識・技術を身につけ、活用することができる	専攻科課程の修了時に身に付ける学力や資質・能力のうち、 (B)コミュニケーション能力を身に付ける、(C)複合的な視点で問題を解決する能力や実践力を身につける、(D)地球的視点と技術者倫理を身に付ける。

(出典：教育プログラム委員会資料)

(分析結果とその根拠理由)

本校の目的は教育基本法に則り、学校教育法の目的に基づいて定められ、高等専門学校一般に求められる目的に沿っている。準学士・専攻科両課程で分けて定めた学習・教育目標は、教育方針に基づき、各々「深く専門の学芸を教授」と「職業に必要な能力を育成」の項目に類別され、育成人材像及び卒業・修了時の学力と資質・能力は、学校教育法第70条2項の目的に合致する。

観点1-2-①： 目的が、学校の構成員（教職員及び学生）に周知されているか。

(観点到る状況)

学則に掲げた本校の使命、教育方針、養成すべき人材像および卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力は、平成19年9月3日の校務運営委員会で改訂・確定され、携帯版を発行（資料1-2-①-1）し、全教職員並びに学生に配布するとともに、平成19年10月1日の全校集会で説

明することにより教職員及び学生に周知した。また、本校Webページに掲載（資料1-2-①-2）することにより、いつでも見られる状態にした。新入生には、平成20年3月14日の合格者招集日に学生便覧を用いて説明（資料1-2-①-3）した。これら目的の掲載資料（資料1-2-①-4）を表にして下記に示す。

資料1-2-①-4

	学校要覧	学生便覧	学生募集要項	ウェブサイト
使命	有	有	有	有
教育方針	有	有	有	有
養成すべき人材像	有	有	有	有
卒業（修了）時身に付けるべき学力や資質・能力	有	有	有	有
配布対象者	全教職員	全教職員及び学生	全教職員	—

（出典：平成20年5月12日 校務運営会議資料）

平成20年4月には、教職員（非常勤を含む）、準学士課程及び専攻科課程の学生に対して、目的の周知状況についてアンケート調査（資料1-2-①-5～11）を実施した。このアンケートは、目的の携帯版の配布以降、学習・教育目標等の内容をわかっているかに主眼を置いて実施した。したがって、アンケートのやり方は、目的が記述されている用紙とアンケート用紙の両者を配布することによって実施した。これによって、学校としての目的が存在することについては、全学生に周知できたと考えている。アンケート内容は、[「4つの大きな学習・教育目標の全てを知っている」場合は①よく知っている。「2, 3個知っている」場合は②ある程度知っている。「1個知っている」場合は③あまり知らない。「全く知らない」場合は④よく知らない]の段階別に別けた。その結果、教職員の約9割が概ね知っている（①と②の合計）、また、専攻科課程の学生の約6割5部が「概ね知っている」と回答している。しかしながら、準学士課程については、学年によってばらつきがあるとともに、2割から5割の学生が概ね知っているとは答えているのみで、準学士課程の学生に内容が十分に理解されていないことは明らかである。救いは、まったく知らない学生が0.5割から3割弱であり、一応関心は持ってくれていると思っている。この点については、今後、学習・教育目標の重要性とその内容に関するていねいな説明が必要と考えている。そこで、6月9日に再度、ガイダンスとアンケートを実施した。このアンケートは、前回失念していた本校の使命、教育方針、養成すべき人材像を含めて行った。結果を資料1-2-①-12～16に示す。本校の使命の周知度（概ね知っている）は、準学士課程70%、専攻科課程93%、非常勤を含む教員99.5%、職員81%であった。教育方針については、準学士課程80%、専攻科課程99%、教員98.5%、職員85%であった。養成すべき人材像については、準学士課程76%、専攻科課程96%、教員98.5%、職員85%であった。学習・教育目標については、準学士課程78%、専攻科課程65%（前回実施分）、教職員約90%（前回実施分）であった。このように、再度、ガイダンスを行った結果、周知度が向上した。

(分析結果とその根拠理由)

本校の使命や教育方針等を掲載した学生便覧等を教職員と学生に配布した。また、養成すべき人材像や卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力については、携帯版を発行するとともに、全校集会で教職員や学生に周知した。なお、新入生には合格者招集日に以上について説明した。なお、これらのすべてはWebページで公開し、教職員と学生がいつでも見られる状態にしている。

これら目的の周知状況を把握するためのアンケート調査において、非常勤を含む教職員については約9割以上が本校の目的を「概ね知っている」と回答しており、専攻科課程の学生についても約6割5分以上が「概ね知っている」と回答している。また、再アンケート結果より準学士課程も7割以上の学生が「概ね知っている」と回答している。

本校の目的 (携帯版 表)

本校の目的

1. 本校の使命

本校は、学校教育法の定める高等専門学校として、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成すること、およびその教育、研究機能を活用して国際港都神戸の産業及び文化の発展向上に寄与することを使命とする。

2. 本校の教育方針

■ 人間性豊かな教育

心身の調和のとれた、たくましい感性豊かな人間形成をめざして、教養教育の充実をはかるとともに、スポーツ・文化クラブ等の課外活動を振興する。

■ 基礎学力の充実と深い専門性を培う教育

工学に関する基礎知識と専門知識を身につけ、日進月歩する科学技術に対応し、社会に貢献できる実践的かつ創造的人材を育成する。

■ 国際性を育てる教育

国際・情報都市神戸にふさわしい高専として、世界的視野を持った、国際社会で活躍できる人材を育成する。

3. 養成すべき人材像 (準学士課程)

健康な心身と豊かな教養のもと、工学に関する基礎的な知識を身につけると同時に、創造性も合わせ持つ国際性、問題解決能力を有する実践的技術者を養成する。

4. 卒業時に身につけるべき学力や資質・能力 (準学士課程の学習・教育目標)

(A) 工学に関する基礎知識を身につける。

- (A1) 数 学 工学的諸問題に対処する際に必要な数学の基礎知識を身につけ、問題を解くことができる。
- (A2) 自然科学 工学的諸問題に対処する際に必要な自然科学に関する基礎知識を身につけ、問題を解くことができる。
- (A3) 情報技術 工学的諸問題に対処する際に必要な情報に関する基礎知識を身につけ、活用することができる。
- (A4) 専門分野 各学科の専門分野における工学の基礎知識・基礎技術を身につけ、活用することができる。

(B) コミュニケーションの基礎的能力を身につける。

- (B1) 論理的説明 自分の意図する内容を文章および口頭で相手に適切に伝えることができる。
- (B2) 質疑応答 自分自身の発表に対する質疑に適切に回答することができる。
- (B3) 日常英語 日常的な話題に関する平易な英語の文章を読み、聞いて、その内容を理解することができる。
- (B4) 技術英語 英語で書かれた平易な技術的文章の内容を理解し、日本語で説明することができる。

(C) 複合的な視点で問題を解決する基礎的能力や実践力を身につける。

- (C1) 応用・解析 工学的基礎知識を工学的諸問題に応用して、得られた結果を的確に解析することができる。
- (C2) 運用・解決 与えられた課題に対して、工学的基礎知識を応用し、かつ情報を収集して戦略を立て、解決できる。
- (C3) 体力・教養 技術者として活動するために必要な体力や一般教養の基礎を身につける。
- (C4) 協調・報告 与えられた実験テーマに対してグループで協調して挑み、期日内に解決して報告書を書くことができる。

(D) 地球的視点と技術者倫理を身につける。

- (D1) 技術者倫理 工学技術が社会や自然に与える影響および技術者が負う倫理的責任を理解することができる。
- (D2) 異文化理解 異文化を理解し、多面的に物事を考えることができる。

(次ページへ続く)

本校の目的（携帯版 裏）

5. 養成すべき人材像（専攻科課程）

専門分野の知識・能力を持つと共に他分野の知識も有し、培われた一般教養のもとに、柔軟で複合的視点に立った思考ができ、問題発見、問題解決ができる創造性豊かな開発型技術者を養成する。

6. 修了時に身につけるべき学力や資質・能力（専攻科課程の学習・教育目標）

(A) 工学に関する基礎知識と専門知識を身につける。

- (A1) 数 学 工学的諸問題に対処する際に必要な線形代数、微分方程式、ベクトル解析、確率統計などの数学に関する知識を身につけ、問題を解くことができる。
- (A2) 自 然 科 学 工学的諸問題に対処する際に必要な力学、電磁気学、熱力学などの自然科学に関する知識を身につけ、問題を解くことができる。
- (A3) 情 報 技 術 工学的諸問題に対処する際に必要な情報技術に関する知識を身につけ、活用することができる。
- (A4) 専 門 分 野 各専攻分野における工学基礎と専門分野の知識・技術を身につけ、活用することができる。

(B) コミュニケーション能力を身につける。

- (B1) 論理的説明 技術的な内容について、図、表を用い、文章および口頭で論理的に説明することができる。
- (B2) 質疑応答 自分自身の発表に対する質疑に適切に回答することができる。
- (B3) 日常英語 日常的な話題に関する英語の文章を読み、聞いて、その内容を理解することができる。
- (B4) 技術英語 英語で書かれた技術的・学術的論文の内容を理解し、日本語で説明することができる。また、特別研究等の研究に関する概要を英語で記述することができる。

(C) 複合的な視点で問題を解決する能力や実践力を身につける。

- (C1) 応用・解析 工学基礎や専門分野の知識を工学的諸問題に応用して、得られた結果を的確に解析することができる。
- (C2) 複合・解決 与えられた課題に対して、工学基礎や専門分野の知識を応用し、かつ情報を収集して戦略を立てることができる。また、複合的な知識・技術・手法を用いてデザインし工学的諸問題を解決することができる。
- (C3) 体力・教養 技術者として活動するために必要な体力や一般教養を身につける。
- (C4) 協調・報告 特定の問題に対してグループで協議して挑み、期限内に解決して報告書を書くことができる。

(D) 地球的視点と技術者倫理を身につける。

- (D1) 技術者倫理 工学技術が社会や自然に与える影響を理解し、また技術者が負う倫理的責任を自覚し、自己の倫理観を説明することができる。
- (D2) 異文化理解 異文化を理解し、多面的に物事を考え、自分の意見を説明することができる。

出典：本校の目的の携帯版

ウェブサイトの本校の目的



神戸高専

Kobe City College of Technology

[ホーム](#)
[サイトマップ](#)
[アクセス・マップ](#)
[問い合わせ](#)
[検索](#)
[神戸高専の紹介](#)[教育プログラム](#)[学科・専攻](#)[キャンパスライフ](#)[神戸高専の活動](#)[入試情報](#)

神戸高専の紹介

校長より

高専とは？

本校の目的

教育の特色

沿革

組織

校歌

ホーム > 神戸高専の紹介 > 本校の目的

本校の目的

1. 本校の使命

本校は、学校教育法の定める高等専門学校として、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成すること、並びにその教育、研究機能を活用して国際港都神戸の産業及び文化の発展向上に寄与することを使命とする。

2. 教育方針

■ 人間性豊かな教育

心身の調和のとれた、たくましい感性豊かな人間形成をめざして、教養教育の充実をはかるとともに、スポーツ・文化クラブ等の課外活動を振興する。

■ 基礎学力の充実と深い専門性を培う教育

工学に関する基礎知識と専門知識を身につけ、日進月歩する科学技術に対応し、社会に貢献できる実践的かつ創造的人材を育成する。

■ 国際性を育てる教育

国際・情報都市神戸にふさわしい高専として、世界的視野を持った、国際社会で活躍できる人材を育成する。

3. 養成すべき人材像(準学士課程:5年間)

健康な心身と豊かな教養のもと、工学に関する基礎的な知識を身につけると同時に、創造性も合わせ持つ国際性、問題解決能力を有する実践的技術者を養成する。

■ 機械工学科

数学、自然科学、情報処理技術、計測技術、電気電子技術、加工技術、設計法等の基礎技術を習得し、豊かな一般教養のもと、創造性も合わせ持つ柔軟な思考を有し、設計や製作ができる実践的技術者を養成する。

■ 電気工学科

数学、自然科学、情報処理技術、電磁気学、電気回路、実験等により基礎技術を習得し、豊かな一般教養のもと、創造性も合わせ持つ柔軟な思考ができる実践的技術者を養成する。

■ 電子工学科

数学、自然科学、情報処理技術、エレクトロニクスの基礎技術を習得し、豊かな一般教養のもと、創造性も合わせ持ち、多種多様な課題を解決できる実践的技術者を養成する。

■ 応用化学科

数学、自然科学、情報処理技術に加え、物質の基本を理解し、新しい物質作りに応用できる基礎学力を習得し、豊かな一般教養のもと、創造性も合わせ持ち柔軟な思考ができる実践的技術者を養成する。

■ 都市工学科

数学、自然科学、情報処理技術、構造力学、水理学、土質力学、計画、環境に関する科目に重点をおき、豊かな一般教養のもと、自然や人間に優しい生活環境をデザインするための総合的な技術力、判断力、創造性を合わせ持つ実践的技術者を養成する。

4. 卒業時に身につけるべき学力や資質・能力(準学士課程の学習・教育目標)

(A) 工学に関する基礎知識を身につける。

- (A1) 数 学 工学的諸問題に対処する際に必要な数学の基礎知識を身につけ、問題を解くことができる。
- (A2) 自然 科学 工学的諸問題に対処する際に必要な自然科学に関する基礎知識を身につけ、問題を解くことができる。
- (A3) 情 報 技 術 工学的諸問題に対処する際に必要な情報に関する基礎知識を身につけ、活用することができる。
- (A4) 専 門 分 野 各学科の専門分野における工学の基礎知識・基礎技術を身につけ、活用することができる。

(学科別細目)

出典：ウェブサイトより抜粋

神戸市立工業高等専門学校の目的

1. 神戸市立工業高等専門学校学則

〔 制定 昭和38年1月 〕
〔 改正 平成18年12月 〕

第1章 本校の目的

第1条 神戸市立工業高等専門学校（以下「本校」という。）は、学校教育法（昭和22年法律第26号）の定める高等専門学校として、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成すること、並びにその教育及び研究機能を活用して国際港都神戸の産業及び文化の発展向上に寄与することを目的とする。

第2章 修業年限、学年、学期、休業日及び授業終始の時刻

第2条 修業年限は、5年とする

第3条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第4条 学年を分けて、次の2学期とする。

前期 4月1日から9月30日まで

後期 10月1日から3月31日まで

第5条 休業日は、次のとおりとする。

(1) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日

(2) 日曜日及び土曜日

(3) 春季休業日 4月1日から4月7日まで

夏季休業日 7月21日から8月31日まで

冬季休業日 12月25日から1月7日まで

学年末休業日 3月20日から3月31日まで

(4) 創立記念日 6月3日

(5) 前各号に掲げるもののほか、教育委員会が定める日

2 校長は、教育上必要と認めるときは、教育長の承認を得て、前項に掲げる休業日の時期及び期間を変更することができる。

資料1-2-①-5

「本校の目的」・「アドミッション・ポリシー」周知度アンケート依頼文

平成20年4月25日

教員各位
事務職員各位

k-pro 委員長
教務主事

「アドミッションポリシー」および「本校の目的」周知度アンケートのお願い

本校は今年度、機関別認証評価を受審する予定であり、それに向けた準備を進めてまいりました。現在は自己評価書作成の最終段階に入っておりますが、その中で「アドミッションポリシー」および「本校の目的」の周知度を学校構成員（常勤職員、非常勤職員、事務職員）にアンケート調査することが求められております。

まことに急なお願いではありますが、別紙アンケートにご記入いただき、ご提出いただきますようお願いいたします。

■提出期限：平成20年5月7日（水）

■提出先：事務室（提出用の箱を準備します）

■アンケート回等基準：

「アドミッションポリシー」は教務必携の表紙に掲載されております。本科のアドミッションポリシーを中心に回答をお願いします。

「本校の目的」については既に全教職員に配布しております「本校の目的（携帯版）」に記載されている教育目標の項目を基準に回答してください。

K（工学の基礎知識）、C（コミュニケーション能力）、C（複合的視点）、T（地球的視点）

- | | | |
|-------------|---------|----------------------|
| ① よく知っている | K C C T | の各教育目標を全て知っている。 |
| ② ある程度知っている | K C C T | の各教育目標のうち2, 3個知っている。 |
| ③ あまり知らない | K C C T | の各教育目標のうち1個知っている。 |
| ④ よく知らない | K C C T | の各教育目標を全く知らない。 |

以上

出典：教務主事室資料

資料1-2-①-6

「本校の目的」周知度アンケート依頼文（学生用）

平成20年4月25日

担任各位
専攻科主任各位

k-pro 委員長
教務主事

「本校の目的」周知度アンケートのお願い

本校は今年度、機関別認証評価を受審する予定であり、それに向けた準備を進めてまいりました。現在は自己評価書作成の最終段階に入っておりますが、その中で「本校の目的」の周知度を学生にアンケート調査することが求められております。

まことに急なお願いではありますが、下記要領にてアンケート実施ならびに集計をお願いいたします。

■アンケート実施日

4/28（月）

1～3年はHRにおいてアンケートを実施してください。

4、5年、専攻科は放課後等を利用してアンケートを実施してください。

■アンケートの集計

本科は担任が各クラス分を集計して下さい。

- ・ 学年集計は学年主任にお願いします。
- ・ 別紙集計用紙に人数を記入の上、提出して下さい。

専攻科は専攻科主任が各専攻分を集計して下さい。

- ・ 学年集計は専攻科長にお願いします。
- ・ 別紙集計用紙に人数を記入の上、提出して下さい。

■集計結果の提出先および〆切

提出先 教務主事室

提出期限 5/7（水）17:00まで

■アンケート回答基準（学生へ口頭で説明してください）

既に全学生、教職員に配布しております「本校の目的（携帯版）」に記載されている教育目標の項目を基準に回答してください。

K（工学の基礎知識）、C（コミュニケーション能力）、C（複合的視点）、T（地球的視点）

- | | | |
|-------------|---------|---------------------|
| ① よく知っている | K C C T | の各教育目標を全て知っている。 |
| ② ある程度知っている | K C C T | の各教育目標のうち2、3個知っている。 |
| ③ あまり知らない | K C C T | の各教育目標のうち1個知っている。 |
| ④ よく知らない | K C C T | の各教育目標を全く知らない。 |

以上

出典：教務主事室資料

資料1-2-①-7

「本校の目的」周知度アンケート依頼文（非常勤教員用）

平成20年4月25日

非常勤教員各位

k-pro 委員長
教務主事

「本校の目的」周知度アンケートのお願い

近年、高等専門学校を取り巻く環境は大きく変化しており、本校におきましても外部評価を受ける必要性が生じています。本校では2006年5月に日本技術者教育認定機構（JABEE）の認定を受け、本校の教育プログラムが国際的に通用するものであることが認められました。今年度は大学評価・学位授与機構による機関別認証評価を受ける予定であり、申請に必要となる自己評価書の作成を進めております。

認証評価では評価項目の1つに「学校構成員に学校の目的が周知されているか」という項目があり、周知度が低いと判断されると学校の評価を下げる要因となります。本校では、アンケート用紙の上半分に記載されている「本校の目的」を全学生・全教職員に配布し、学校のWebページにも掲載することで周知をはかってきました。このたび、その周知度をアンケート調査することとなりましたので、非常勤の先生方にもご協力をお願いいたします。

まことに急なお願いではありますが、別紙アンケートにご記入いただき、ご提出いただきますようお願いいたします。

提出期限：平成20年5月8日（木）

提出先：非常勤講師室に提出用の箱を準備しますので、そちらにご提出願います。

以上

出典：教務主事室資料

「本校の目的」・「アドミッション・ポリシー」周知度アンケート例（教職員用）

・「本校の目的」について

・入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）について

----- 切り取り線 -----

<教職員用アンケート>

職員・M・E・D・C・S・G 科 氏名 _____

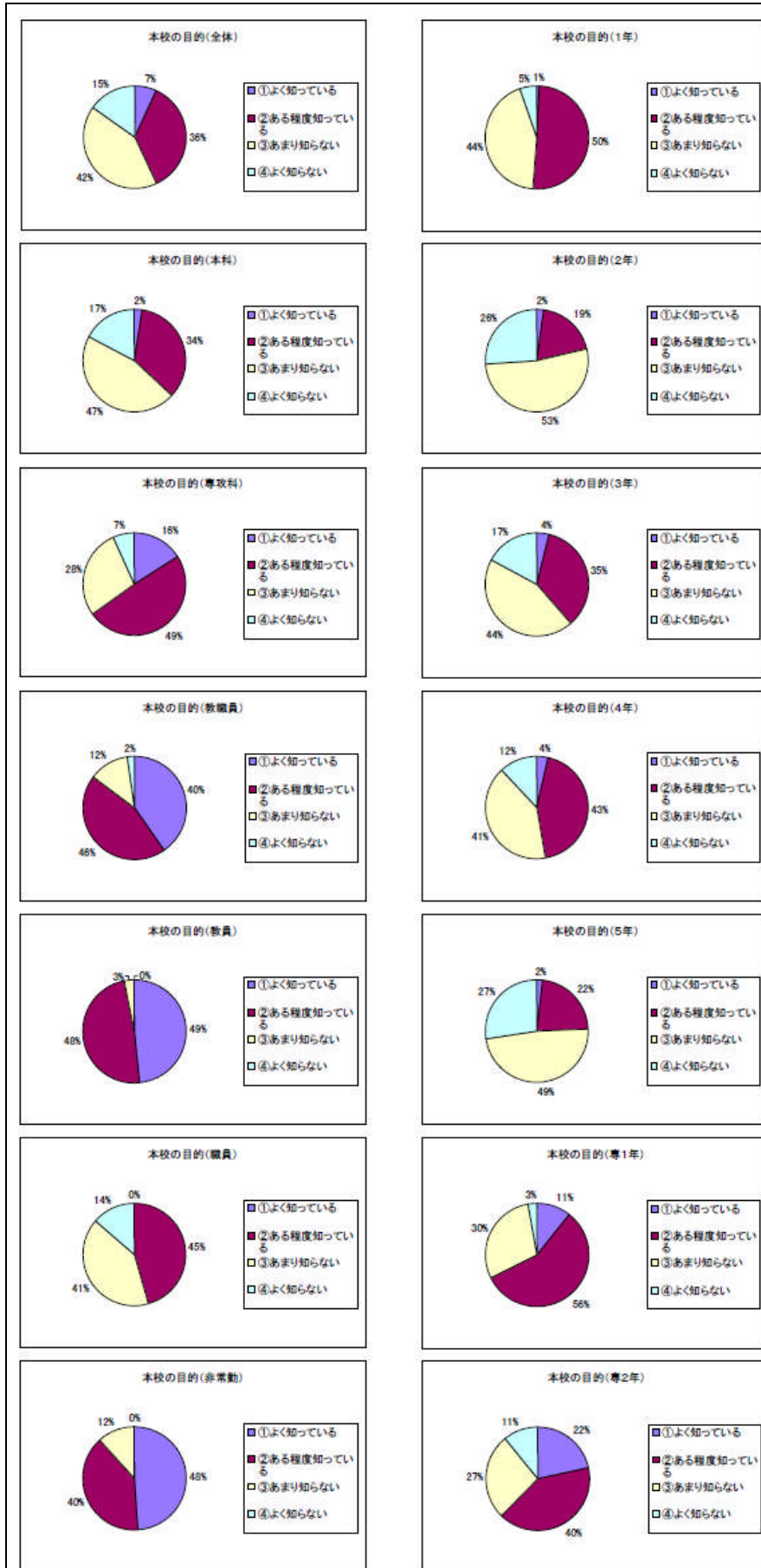
非常勤 氏名 _____

本校の目的をどの程度知っているか、
①～④の番号を、○で囲んで下さい。

- ① よく知っている
- ② ある程度知っている
- ③ あまり知らない
- ④ よく知らない

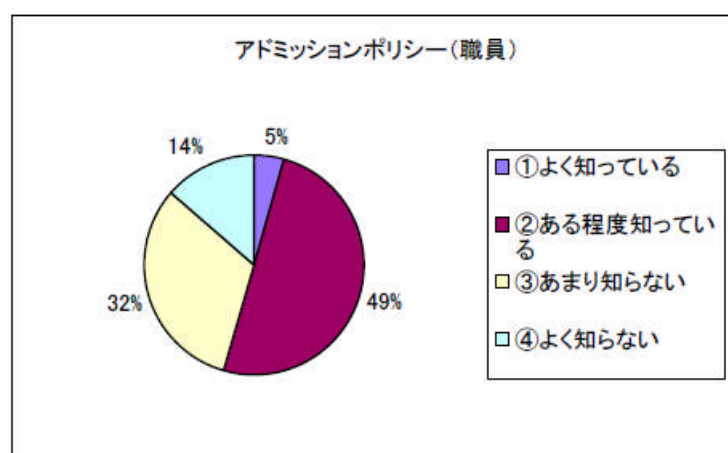
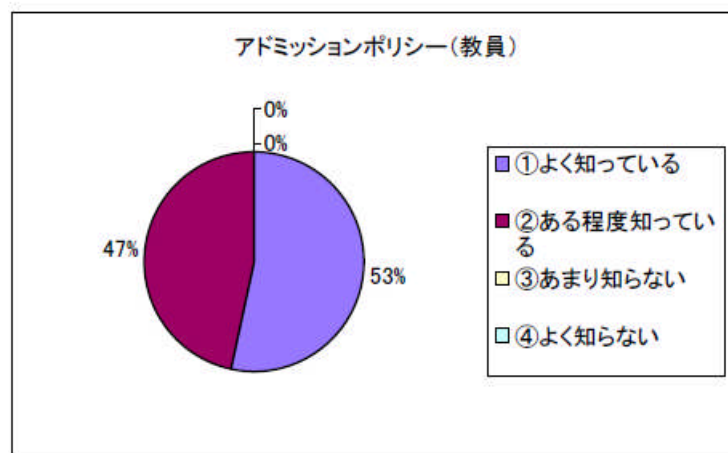
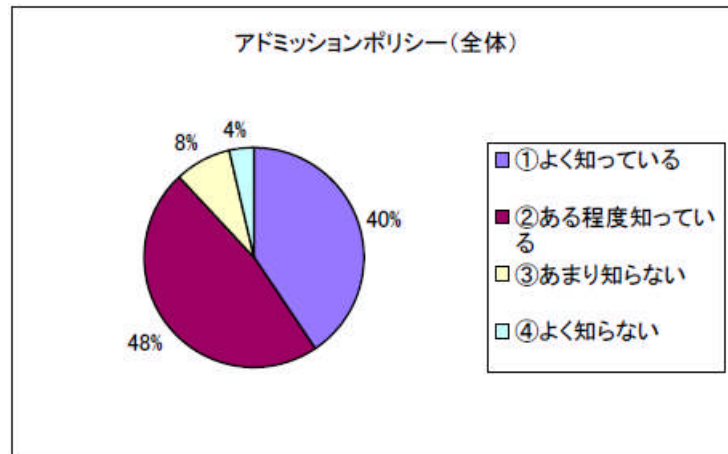
資料1-2-①-9

「本校の目的」
の周知度



出典：教務主事室資料

「入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）」の周知度



出典：教務主事室資料

「本校の目的」・「アドミッション・ポリシー」周知度のアンケート結果一覧表

	1年	2年	3年	4年	5年	小計	専1年	専2年	小計	教員	職員	非常勤	小計	計
①よく知っている	2	5	9	8	4	28	4	8	12	31	0	21	52	92
②ある程度知っている	121	46	81	95	44	387	21	15	36	31	10	17	58	481
③あまり知らない	105	125	103	89	95	517	11	10	21	2	9	5	16	554
④よく知らない	13	62	40	26	54	195	1	4	5	0	3	0	3	203

「本校の目的」の周知度(全体)

「入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)」の周知度(全体)

	教員	職員	計
①よく知っている	33	1	34
②ある程度知っている	29	11	40
③あまり知らない	0	7	7
④よく知らない	0	3	3

出典：教務主事室資料

「本校の目的」の周知度（全体集計）

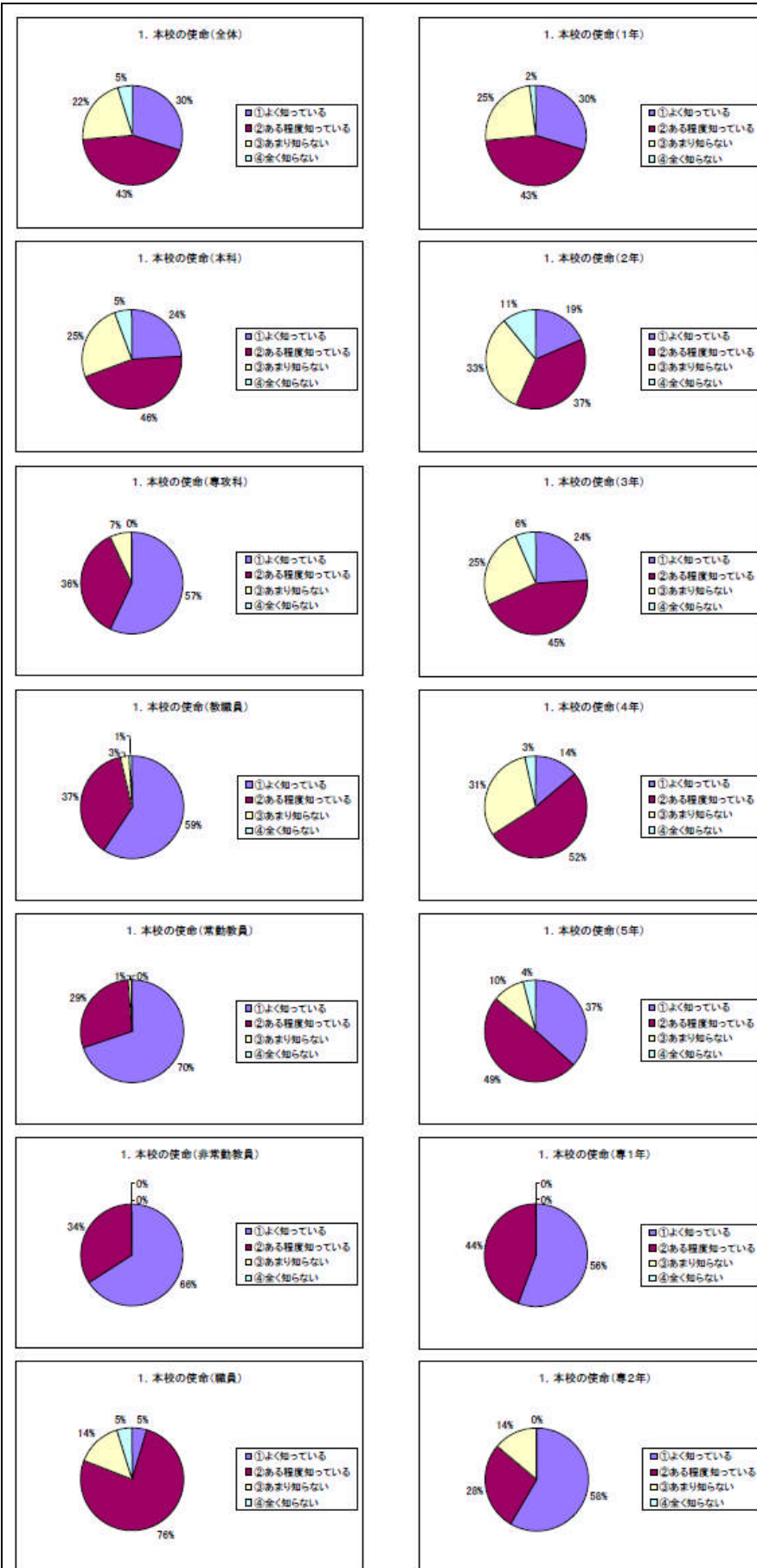
「本校の目的」の周知度（全体集計）

1. 本校の使命	本科学生					小計	専攻科生		小計	教員 (常勤)	教員 (非常勤)	職員	小計	計
	1年	2年	3年	4年	5年		1年	2年						
①よく知っている	59	45	56	30	75	265	20	21	41	60	23	1	84	390
②ある程度知っている	86	91	102	112	100	491	16	10	26	25	12	16	53	570
③あまり知らない	49	79	59	67	21	275	0	5	5	1	0	3	4	284
④全く知らない	4	26	15	7	8	60	0	0	0	0	0	1	1	61
2. 本校の教育方針	本科学生					小計	専攻科生		小計	教員 (常勤)	教員 (非常勤)	職員	小計	計
1年	2年	3年	4年	5年	1年		2年							
①よく知っている	87	47	67	51	87	339	24	24	48	65	22	4	91	478
②ある程度知っている	92	111	110	127	93	533	12	11	23	21	12	14	47	603
③あまり知らない	16	65	42	34	19	176	0	1	1	0	1	2	3	180
④全く知らない	3	19	13	4	4	43	0	0	0	0	0	1	1	44
3. 養成すべき人材像	本科学生					小計	専攻科生		小計	教員 (常勤)	教員 (非常勤)	職員	小計	計
1年	2年	3年	4年	5年	1年		2年							
①よく知っている	62	46	54	42	80	284	21	19	40	57	22	2	81	405
②ある程度知っている	108	99	117	113	97	534	15	14	29	29	12	16	57	620
③あまり知らない	25	73	47	57	21	223	0	3	3	0	1	2	3	229
④全く知らない	3	24	14	4	4	49	0	0	0	0	0	1	1	50
4. 学習教育目標	本科学生					小計	専攻科生		小計	教員 (常勤)	教員 (非常勤)	職員	小計	計
1年	2年	3年	4年	5年	1年		2年							
①よく知っている	73	45	66	49	92	325	4	8	12	31	21	0	52	389
②ある程度知っている	110	106	109	112	90	527	21	15	36	31	17	10	58	621
③あまり知らない	12	72	45	51	14	194	11	10	21	2	5	9	16	231
④全く知らない	3	19	12	4	5	43	1	4	5	0	0	3	3	51

出典：教務主事室資料

資料 1 - 2 - ① - 13

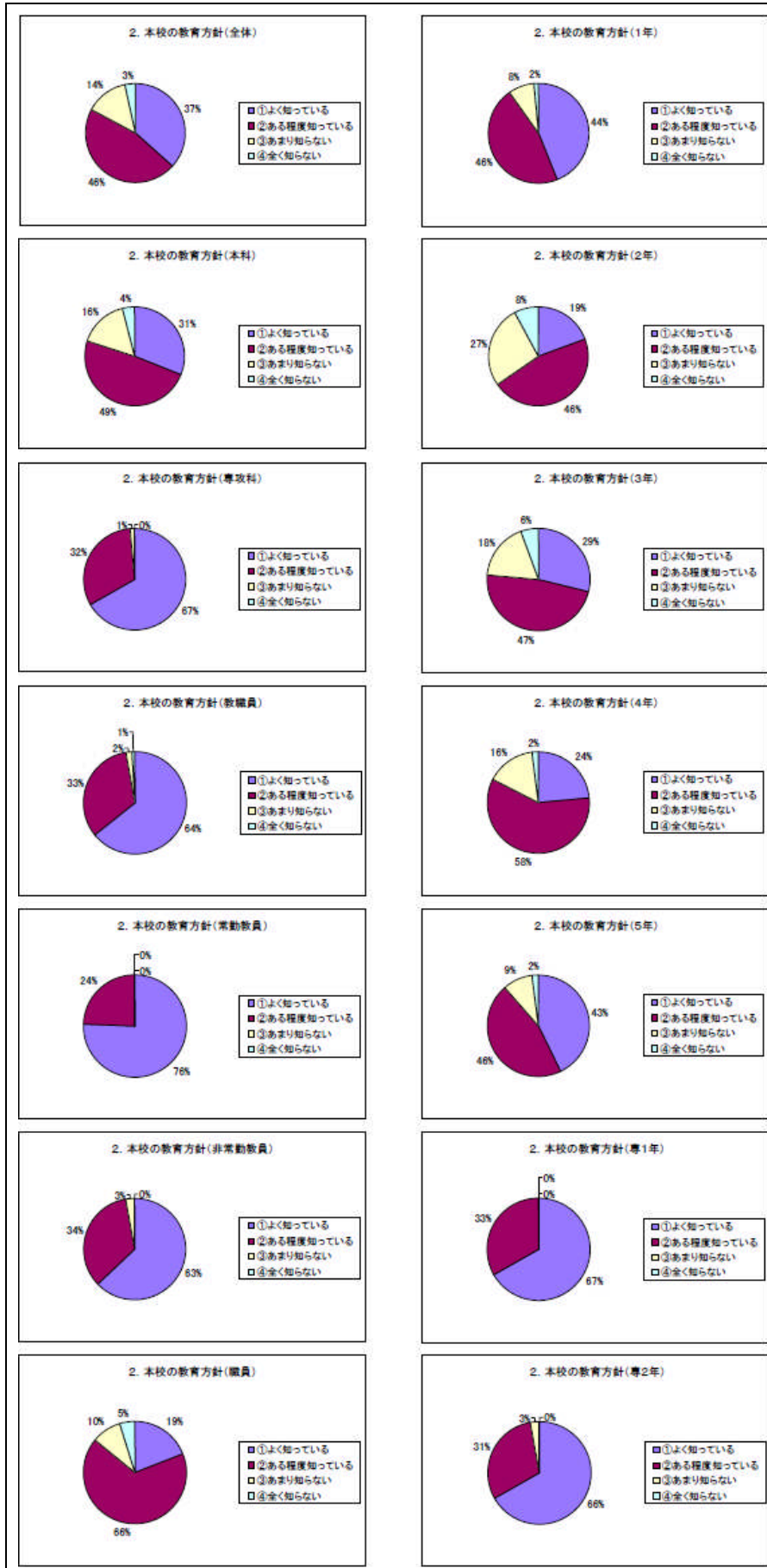
「1. 本校の使命」
の周知度



出典：教務主事室資料

資料 1 - 2 - ① - 14

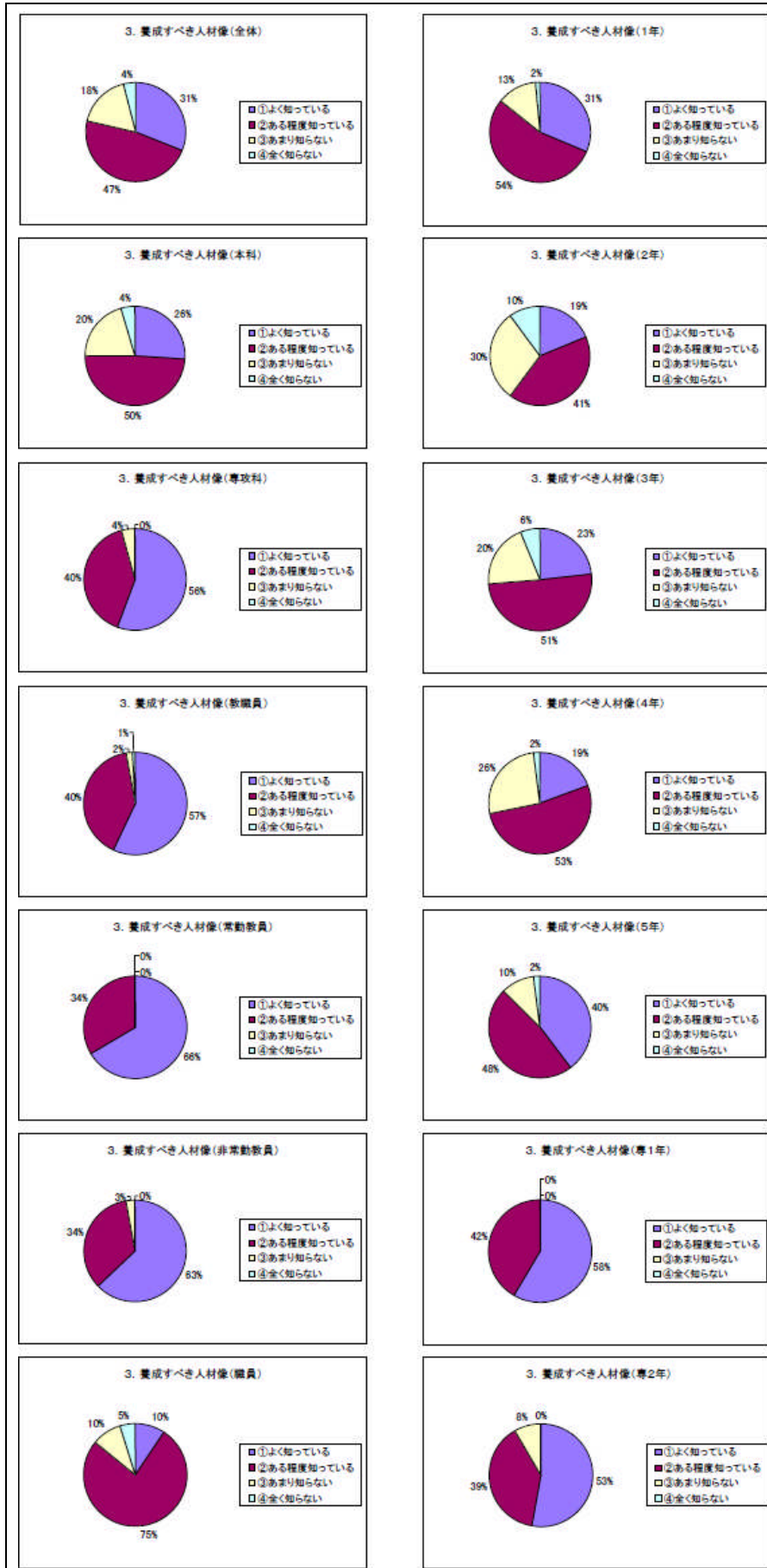
「2. 本校の教育方針」
の周知度



出典：教務主事室資料

資料1-2-①-15

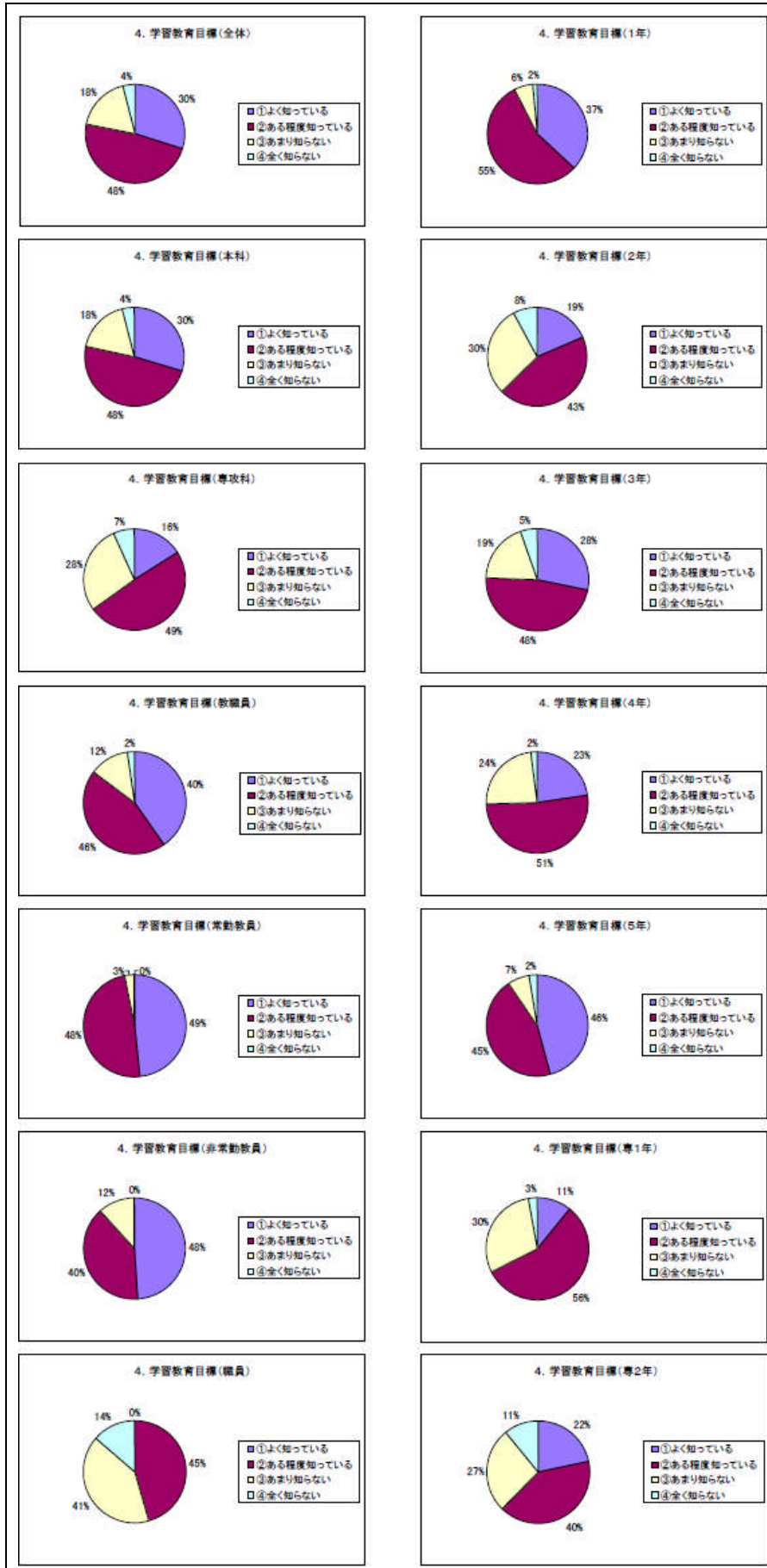
「3. 養成すべき人材像」の周知度



出典：教務主事室資料

資料 1 - 2 - ① - 16

「4. 学習教育目標」
の周知度



出典：教務主事室資料

観点1-2-②： 目的が、社会に広く公表されているか。

(観点に係る状況)

本校の使命等は、Webページ（前述の資料1-2-①-2）に掲載することによって、社会に公表している。「学生募集要項」（資料1-2-②-1）にも、本校の使命、課程ごとの養成すべき人材像、卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力等を記載し、10月に実施している中学進路担当者説明会で説明した。さらに、12月に実施した中学校校長会でも説明した。8月実施のオープンキャンパスでは、本校の目的をより具体的に分かりやすく説明している。

また、卒業生、修了生の就職先である関連企業や進学先等にも学校の目的等が記載されている「学校要覧」を配布している。

下表（1-2-②-2）に配布先と配布部数を示す。

資料1-2-②-2 各種資料の配布先と配布部数

1. 専攻科学生募集要項	800部
・全国高等専門学校	62部
・本校在学生，卒業生	200部
・本校教職員	150部
2. 編入学生募集要項	800部
・県下高等学校	220部
・県下工業高校	100部
・本校教職員	150部
3. 準学士学生募集要項	2000部
・県下中学校	398部
・配布希望中学校	500部
・進路説明会で配布	800部
・本校教職員	150部
・その他志願者	152部
4. 高専ガイド	10000部
・県下中学校	398部
・配布希望中学校	2500部
・進学説明会で配布	2000部
・県下高等学校	250部
・オープンキャンパス参加者	800部
・学校見学会参加者	500部
・その他志願者見学者企業	3402部
5. 学校要覧	500部
・主な就職先	250部
・主な進学先	50部
・見学者等	50部

・本校教職員	150部
6. 第4回神戸高専の現状と課題報告書	300部
・全国高等専門学校	62部
・本校教職員	150部
・保管	88部

(出典：事務室学生係資料)

(分析結果とその根拠理由)

Webページや「学生募集要項」等には、本校の使命、養成すべき人材像、卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力を記載しており、中学校長会や中学校訪問時等に積極的に説明している。また、就職先企業や進学先の大学などには、目的が記載された「学校要覧」等を配布している。

以上のことから、本校の目的は、社会に対して広く公表している。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

特になし。

(改善を要する点)

特になし。

(3) 基準1の自己評価の概要

本校では、創設時に学校の使命を定めたが、社会貢献の重要性を認識し平成18年度に改定し、平成19年度からそれに基づいて、課程ごとの養成すべき人材像、卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力を新たに定めた。また、これは平成18年度にJABEE認定された専攻科課程の人材像や学習・教育目標とも一貫性のあるものとして定められた。

本校の使命は、高等専門学校創設の趣旨及び学校教育法上の高等専門学校の目的も踏まえて定められたものであり、課程ごとの養成すべき人材像及び卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力は、学校教育法上の高等専門学校の目的との関連を明確にして策定されていることから、本校の目的は、学校教育法の規定からはずれるものではない。

教職員や学生に対しては、本校の使命、教育方針、養成すべき人材像、卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力について、それぞれ積極的に周知を図っている。また、周知状況を調査するアンケート結果からも概ね周知できていると考えている。

なお、本校の目的は、Webページや刊行物に掲載しているのをはじめ、オープンキャンパスや県内を中心とする中学校への訪問時、中学校校長会、中学校進路担当者説明会等での説明及び就職先の関連企業や進学先等に「学校要覧」等の刊行物を配布するなど、社会に広く公表されている。

基準2 教育組織（実施体制）**（1）観点ごとの分析**

観点2-1-①： 学科の構成が、教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

（観点に係る状況）

準学士課程は、中学校卒業生を対象に5ヶ年一貫教育を実施することにより、工学に関する基礎知識を身につけ、創造性も合わせ持つ国際性、問題解決能力を有する実践型技術者養成することを目的とし、工業の分野を幅広くカバーするべく、機械工学科、電気工学科、電子工学科、応用化学科、都市工学科の5学科で構成している（資料2-1-①-1）。

第7条 学科、学級数及び入学定員

資料2-1-①-1

学 科	学 級 数	入 学 定 員
機 械 工 学 科	2	80人
電 気 工 学 科	1	40人
電 子 工 学 科	1	40人
応 用 化 学 科	1	40人
都 市 工 学 科	1	40人

出典：平成19年度学生便覧（p10）

本校では「健康な心身と豊かな教養のもと、工学に関する基礎的な知識を身につけると同時に、創造性も合わせ持つ国際性、問題解決能力を有する実践的技術者を養成する。」という養成すべき人材像の基に、学科ごとに養成すべき人材像を定めている（資料2-1-①-2）。

資料2-1-①-2

<機械工学科の目的（準学士課程：5年間）>

1. 養成すべき人材像

数学、自然科学、情報処理技術、計測技術、電気電子技術、加工技術、設計法等の基礎技術を習得し、豊かな一般教養のもと、創造性も合わせ持つ柔軟な思考を有し、設計や製作ができる実践的技術者を養成する。

2. 学習教育目標（A4：専門分野）

①機械工学的諸問題に対処する際に必要な材料に関する基礎知識を身につけ、活用できる。

・機械工学的諸問題に対処する際に必要な材料および材料力学に関する基礎知識を身に付け、活用できる。

②機械工学的諸問題に対処する際に必要な熱力学および流体力学に関する基礎知識を身につけ、活用できる。

・熱および流体の諸性質を理解し、対象とする熱流体の物性値を定めることができる。
 ・熱流体に関する諸定理を理解し、それを用いて熱流動現象を説明できる。
 ・各種熱機関や流体機械の動作原理や特徴を理解し、エネルギー・環境問題を念頭におきながら、目的に応じた応用技術・システムを構築できる。

③機械工学的諸問題に対処する際に必要な計測および制御に関する基礎知識を身につけ、活用できる。

- ・設計、製造等を行う際に必要な計測の基礎知識を身につけ活用できる。
- ・設計、製造等を行う際に必要な制御の基礎知識を身につけ活用できる。

④機械工学的諸問題に対処する際に必要な生産に関する基礎知識を身につけ、活用できる。

- ・機械工作に関連する基本作業を習得し、実用に応じた加工ができる。
- ・機械加工および塑性加工の基礎知識を習得し、設計・生産分野における技術課題に対応できる。
- ・生産システムに必要な基礎知識を理解し、生産管理や生産技術として活用できる。

3. 教育の特徴

準学士課程では、座学と実習系科目を科目間の連携に配慮して配置し、専門分野の基礎を教授することによって実践的技術者の養成を目指している。座学では、専門分野の基礎知識と機械工学における基本的な考え方を身につけ、実習系科目では、製図やコンピュータ演習によってイメージの表現能力や情報伝達能力を養っている。「機械実習」では、種々の工作機械や測定機器の操作方法を身につけ、3学年での「創造設計製作」において座学と実学の融合を図っている。また、ロボットコンテスト、レスキューロボットコンテスト、ソーラーカー競技などの各種競技会へ積極的に参加することによって実践力を育成している。さらに、「機械工学実験」を通して解析・設計に要求されるデータ処理能力と論理的な思考能力を養うことに力を入れている。これらの集大成として、卒業研究で、課題の理解、解決策の検討と実行、結果の評価と発表などのプロセスを踏むことによって、即戦力となる実践的技術者の養成をはかっている。

<電気工学科の目的（準学士課程：5年間）>

1. 養成すべき人材像

数学、自然科学、情報処理技術、電磁気学、電気回路、実験等により基礎技術を習得し、豊かな一般教養のもと創造性も合わせ持ち、柔軟な思考ができる実践的技術者を養成する。

2. 学習教育目標（A4：専門分野）

①電気電子工学分野に関する基礎知識を身に付け、活用できる。

- ・電気および磁気に関する諸現象と諸定理を理解し、それらを説明できる。
- ・電気回路や電子回路の解析ができ、基本的な回路を組み活用できる。
- ・コンピュータリテラシーと基本的なプログラミング技術を身に付け、活用できる。

②電気材料や電子デバイスに関する基礎知識を身に付け、活用できる。

- ・電気電子材料における原子集合としての諸現象と諸定理を理解し、それらを説明できる。
- ・電気電子材料の特性を理解し、電気電子素子を活用できる。

③計測や制御に関する基礎知識を身に付け、活用できる。

- ・計測機器のしくみを理解し、適切な使用ができる。
- ・計測システムを構築し、計測データの処理ができる。
- ・制御システムを解析でき、基本的なシステムを組み活用できる。

④エネルギー，電気機器，設備に関する基礎知識を身に付け，活用できる。

- ・電気エネルギーの発生と輸送のしくみを理解し，環境や信頼性を考慮した電気設備の基礎知識を身に付ける。
- ・電気機器の仕組みを理解し，用途に応じて適切な機器を使用できる。

3. 教育の特徴

カリキュラムは，（1）電気材料，電子デバイス，（2）電気エネルギー，電気機器，電気設備，（3）コンピュータ，計測，制御，通信，を専門3本柱とし，これに一般科目，実験実習，学外実習，卒業研究を組み入れて構成されており，電気主任技術者の資格認定基準を満たしているだけでなく，現在の電気系学科に必要な分野をバランスよく持っている。このカリキュラムの下，基礎と実験実習とコミュニケーションを重視した少人数教育を行っている。実験実習ではレポート提出だけでなくディスカッションも取り入れ，また学外実習終了後は学内でも実習報告発表をしている。11研究室の卒業研究のキーワードは，「環境」「エネルギー」「ライフサイエンス」「ナノ材料」「ものづくり」「情報通信」など多彩である。学内で，年間最低2回の研究発表があり，さらに学会や産官学技術フォーラムなど外部発表もある。在学中に電気主任技術者，基本情報技術者など各種資格を取ることを進めている。

<電子工学科の目的（準学士課程：5年間）>**1. 養成すべき人材像**

数学，自然科学，情報処理技術，エレクトロニクスの基礎技術を習得し，豊かな一般教養のもと創造性も合わせ持ち，多種多様な課題を解決できる実践的技術者を養成する。

2. 学習教育目標（A4：専門分野）**①電気電子工学分野に関する基礎知識を身につけ，活用できる。**

- ・電界および磁界に関する諸定理を理解し，それらによって生じる物理現象を説明できる。
- ・電気回路や電子回路の動作を理解し，基本的な回路を設計できる。
- ・工学系に必要な情報リテラシーと基本的なプログラミング技術を身につける。

②物性や電子デバイスに関する基礎知識を身につけ，活用できる。

- ・電子部品や電子素子(電子デバイス)に使用される材料の特徴を理解し，取り扱うことができる。
- ・電子部品や電子素子のしくみと特性を理解し，活用できる。

③計測や制御に関する基礎知識を身につけ，活用できる。

- ・計測機器のしくみを理解し，適切な使用ができる。
- ・自動計測システムを構築し，計測データの処理ができる。
- ・電子制御システムを理解し，簡単なシステムを構成できる。

④情報や通信に関する基礎知識を身につけ，活用できる。

- ・コンピュータおよび周辺ハードウェアのしくみを理解し，基本的な回路を設計できる。
- ・コンピュータソフトウェアを利用活用でき，開発できる。
- ・情報ネットワークのしくみを理解し，小規模なネットワークを構築できる。

3. 教育の特徴

エレクトロニクス（電子工学）はまさに現在の高度情報化社会を支えている学問分野である。電話に始まり、ラジオ、テレビ、レーザ、ロボット、コンピュータ、情報ネットワークなど電子工学の応用製品は次々と人々の夢を実現してきた。電子工学科では、今後もますます多様化、高度化していくであろうエレクトロニクス分野の第一線で活躍できるように、電気電子系基礎科目をベースに物性・デバイス系科目、計測・制御系科目、情報・通信系科目をバランスよく配置した5年間の系統的なカリキュラムで学ぶことができる。また電子工学科には、情報（コンピュータのハードウェアとソフトウェア）、通信、計測、制御、半導体、音響、光エレクトロニクスなどの実験を行うための設備をもった多くの実験室があり、実験実習、学外実習、卒業研究などを通して、実践的で独創的な開発研究能力を有するエンジニアの養成を目指している。

<応用化学科の目的（準学士課程：5年間）>

1. 養成すべき人材像

数学、自然科学、情報処理技術に加え、物質の基本を理解し、新しい物質作りに応用できる基礎学力を習得し、豊かな一般教養のもと、創造性も合わせ持ち柔軟な思考ができる実践的技術者を養成する。

2. 学習教育目標（A4：専門分野）

①有機化学関連分野に関する基礎知識を身につけ、活用できる。

- ・代表的な有機化合物の構造・性質・反応性について説明できる。
- ・各種スペクトルの原理を理解し、解析に利用できる。
- ・有機化学反応を電子論や分子構造に基づいて反応機構を解説できる。

②無機化学・分析化学関連分野に関する基礎知識を身につけ、活用できる。

- ・主な無機化合物の製法や性質を説明できる。
- ・容量分析や代表的な分析機器の使用法を習得し、その解析ができる。

③物理化学関連分野に関する基礎知識を身につけ、活用できる。

- ・化学熱力学の基礎概念を理解し、それらの応用としての相平衡関係について説明できる。
- ・反応速度式や量子理論の基礎を理解し、それらを用いて各種現象の説明ができる。

④化学工学関連分野に関する基礎知識を身につけ、活用できる。

- ・拡散単位操作の物理化学的基礎を理解し、各種装置の基本的な設計ができる。
- ・移動現象の基礎理論を理解し、装置設計に活用できる。
- ・反応工学の基礎理論を理解し、反応モデルや反応器の種類に応じた反応器の基本設計ができる。

⑤生物工学関連分野に関する基礎知識を身につけ、活用できる。

- ・生物を構成する生体分子の種類、構造について理解し、生合成過程を説明できる。
- ・遺伝子組み換え技術の応用例を理解し、有用性と問題点について説明できる。

3. 教育の特徴

化学工業は物質の基本的仕組みや性質を理解し、その知識に基づいて物質を造ったり利用したりす

る素材産業です。近年、エレクトロニクス、バイオテクノロジー、エネルギー関連の先端技術分野では、新しい機能を有する素材の開発という面からその必要性が強く求められている。この要請に応えるため、応用化学科では学習教育目標に掲げている5つの分野（有機化学、無機化学・分析化学、物理化学、化学工学、生物工学）をコアとし、それら分野の有機的なつながりに配慮したカリキュラムを編成している。またこれら5つの分野を学ぶにあたり、必要不可欠な基礎としての情報技術や先端分野として着目されているエネルギー、新素材関連、環境問題なども取り入れている。また上記各分野の実験を1年生から数多く開講しており、座学で学んだ内容について実際に実験を通して確かめ体験することにより理解を深め、社会で活躍できる実践的な技術者の養成を目指している。

＜都市工学科の目的（準学士課程：5年間）＞

1. 養成すべき人材像

数学、自然科学、情報処理技術、構造力学、水理学、土質力学、計画、環境に関連する科目に重点を置き、豊かな一般教養の下、自然を活かした人間に優しい生活環境をデザインするための総合的な技術力、創造性を合わせ持つ実践的技術者を養成する。

2. 学習教育目標（A4：専門分野）

①設計に関する基礎知識を身につけ、活用できる。

- ・測量に関する理論を理解し、測量技術を身につける。
- ・設計製図に関する理論を理解し、図面作成技術を身につける。
- ・情報処理、CADに関する理論を理解し、設計に活用できる。

②力学に関する基礎知識を身につけ、活用できる。

- ・応用物理に関する理論を理解し、力学の解析に活用できる。
- ・構造力学、水理学、土質力学に関する諸定理を理解し、基礎的解析ができる。

③施工に関する基礎知識を身につけ、活用できる。

- ・コンクリート工学、材料学に関する理論を理解し、基礎的な施行技術を身につける。
- ・施工管理学に関する理論を理解し、施工に対して活用できる。
- ・防災に関する理論を理解し、施工に対して活用できる。

④環境に関する基礎知識を身につけ、活用できる。

- ・都市環境、環境水工、環境生態に関する理論を理解し、建設に対して活用できる。
- ・都市交通に関する理論を理解し、交通データの処理ができる。
- ・デザイン、景観に関する理論を理解し、建設に対して活用できる。

3. 教育の特徴

都市工学科(Department of Civil Engineering)では、都市(まち)の「環境」やその保全について学び、また人々が暮らす安全・快適で美しい「都市空間」をデザインする方法、いろいろな災害から都市を守る「防災」などの基礎的な工学について学ぶ。

都市工学は英語で Civil Engineering (市民工学) と表わされる。私たち市民が安全で快適な生活をするためには道路、鉄道などの交通施設、上・下水道、電気、ガス、通信設備など生活を支えるラ

イフラインといわれる多くの施設が必要である。都市（まち）や国土全体の観点から夢のある未来を描き、社会の基盤を計画・設計・建設・保全していくのが都市工学の役目である。

地球環境や都市環境を考えながら、私たちの身近な生活を基本的なところで支え、都市（まち）を災害から守り、人々が憩う公園・公共空間や快適な都市空間を造る基本的な技術を習得し、それらを社会において実践できる技術者の育成を目指している。

出典：教務主事室集約資料

（分析結果とその根拠理由）

各学科は、教育方針や準学士課程全体の養成すべき人材像に基づき、学科の特徴を踏まえた養成すべき人材像を具体化した。各学科においては、本校の使命、教育方針、具体化した養成すべき人材像および学習・教育目標に沿って教育を実施しており、学科の構成は、教育の目的を達成する上で適切なものになっている。

観点2-1-②： 専攻科を設置している場合には、専攻科の構成が、教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

(観点に係る状況)

専攻科課程は、高専準学士課程あるいはそれに相当する学力を有する者を受け入れ、専門分野の知識・能力を持つと共に他分野の知識も有し、培われた一般教養のもとに、複合的視点で思考、問題発見、問題解決ができる創造性豊かな開発型技術者を養成することを目的とし、準学士課程に積み上げ型の4専攻、機械システム工学専攻、電気電子工学専攻、応用化学専攻、都市工学専攻で構成している(資料2-1-②-1)。

第39条 専攻科の専攻及び入学定員

資料2-1-②-1

機械システム工学専攻	8 人
電気電子工学専攻	8 人
応用化学専攻	4 人
都市工学専攻	4 人

出典：平成19年度学生便覧(p14)

本校では、「専門分野の知識・能力を持つと共に他分野の知識も有し、培われた一般教養のもとに、複合的視点で思考、問題発見、問題解決ができる創造性豊かな開発型技術者を養成する。」という養成すべき人材像の基に、専攻ごとに養成すべき人材像を定めている(資料2-1-②-2)。

資料2-1-②-2

<機械システム工学専攻の目的(専攻科課程：2年間)>

1. 養成すべき人材像

数学、自然科学、情報処理技術、計測技術、電気電子応用技術、加工技術、設計法等の基礎技術を習得し、培われた一般教養のもと、設計や製作において複合的視点で創造、問題発見、問題解決ができる創造性豊かな開発型技術者を養成する。

2. 学習教育目標(A4：専門分野)

①機械工学的諸問題に対処する際に必要な材料に関する基礎知識を身につけ、活用できる。

・機械工学的諸問題に対処する際に必要な材料および材料力学に関する基礎知識と発展的な知識を身に付け、活用できる。

②機械工学的諸問題に対処する際に必要な熱力学および流体力学に関する基礎知識を身につけ、活用できる。

・熱流体に関する各種物理量の計測法を理解し、実際に計測し評価できる。
 ・理想化された熱流体および実際の熱流体の移動を数式で表し、それをを用いて熱流動現象を説明できる。
 ・各種熱機関の特性を理解し、エネルギー変換技術における性能改善のための指針を提案できる。

③機械工学的諸問題に対処する際に必要な計測および制御に関する基礎知識を身につけ、活用できる。

- ・研究開発，応用設計，製造等を行う際に必要な計測の基礎知識を身につけ活用できる。
- ・研究開発，応用設計，製造等を行う際に必要な計測の専門知識を身につけ活用できる。
- ・研究開発，応用設計，製造等を行う際に必要な制御の専門知識を身につけ活用できる。

④機械工学的諸問題に対処する際に必要な生産に関する基礎知識を身につけ，活用できる。

- ・工業材料，先端材料の成形加工法に関する専門知識を習得し，材料加工や生産加工に活用できる。
- ・切削加工に関する専門知識や先端加工技術を習得し，生産技術として応用できる。
- ・生産に関する専門的かつ総合的な知識および技術を習得し，生産システムの構築ができる。

3. 教育の特徴

専攻科課程では，準学士課程で身につけた専門の基礎をもとに，さらに2年間精深で広範な専門教育を施すことにより，自らが技術的課題を発見し解決することができる柔軟な思考力・創造力および鋭い洞察力を持つ開発型技術者の養成を目指している。座学において，専門分野をより深めた応用的内容を教授し，より高度で幅広い理論と技術を習得させるとともにその科学的思考力を養っている。

専攻科ゼミナールや2年間の専攻科特別研究において，少人数教育による自発的学習を促し，さらに調査・研究能力を高め，複合的視点で自ら問題を発見し，機械システムを解析的・総合的に解決できる開発型技術者を養成している。また，プレゼンテーション形式の授業を一部で取り入れ，コミュニケーション力のさらなる向上をはかっている。これらの総まとめとして，各種の学会で多くの機械システム工学専攻学生が発表している。

<電気電子工学専攻の目的（専攻科課程：2年間）>

1. 養成すべき人材像

数学，自然科学，情報処理技術，電磁気学，電気回路，エレクトロニクス，実験等により専門技術を習得し，培われた一般教養のもと，柔軟な思考ができ，複合的視点で創造，問題発見，問題解決ができる創造性豊かな開発型技術者を養成する。

2. 学習教育目標（A4：専門分野）

①電気電子工学分野に関する基礎知識を身につけ，活用できる。

- ・電磁気学に対する理解をより深め，応用力を養う。
- ・高電圧の発生方法ならびに測定方法を理解することができる。
- ・集中・分布定数回路をコンピュータを用いて解析することができる。
- ・離散フーリエ変換，逆離散フーリエ変換を理解し，応用することができる。

②物性や電子デバイスに関する基礎知識を身につけ，活用できる。

- ・光の波動的性質，および光を導波する光ファイバの原理，特性，応用などを理解する。
- ・光デバイスの原理や応用技術を理解する。
- ・人間生活と照明及び環境と照明について理解する。
- ・プラズマについての基礎特性や計測技術について理論する。

③計測や制御に関する基礎知識を身につけ，活用できる。

- ・光センサの原理を理解し，具体例の問題解決能力を身につける。

- ・放射線計測の手法理解し，医療機器などの産業応用に関して学習する。
- ・最適制御，ロバスト制御などの設計理論を理解する。

④情報や通信に関する基礎知識を身につけ，活用できる。

- ・デジタル信号処理の基礎的な考え方を理解する。
- ・一般的なアルゴリズムやそれを実現するためのデータ構造を理解する。
- ・画像処理の基礎及びコンピュータグラフィックスの基礎を理解する。

⑤エネルギー，電気機器，設備に関する基礎知識を身につけ，活用できる。

- ・電力変換装置や電力用デバイスの基礎を理解する。
- ・現状のエネルギー変換の基本をなす熱力学について理解することができる。

3. 教育の特徴

高専の電気工学，電子工学系学科の卒業生に対して，さらに2年間精深かつ広範な専門教育を行うことにより，独創性を持つ研究開発技術者の育成を目指している。

最近の電気電子工学分野のめざましい発展は，私たちの生活を豊かで便利なものにしてきた。その中心をなすエネルギーや情報関連の新技术の開発はますます重要性を増してきている。また，それらを支える材料，半導体，計測，制御などの技術分野の開発も重要である。本専攻では，このような分野に関連する科目を適宜配置し，高専本科での教育を基礎として，より高度な内容を教授する。

また，実験やゼミナール等を取り入れ，実践的教育も重視している。さらに基礎的な技術教育のうえに，先端技術に関する研究テーマを個別に設定し，研究の計画立案から学会での成果報告まできめ細かい指導を行うことにより，研究開発能力の育成をはかっている。

<応用化学専攻の目的（専攻科課程：2年間）>

1. 養成すべき人材像

数学，自然科学，情報処理技術に加え，物質の基本を十分理解し，新しい物質作りに応用できる専門学力を習得し，培われた一般教養のもと柔軟な思考ができ，複合的視点で創造，問題発見，問題解決ができる創造性豊かな開発型的技術者を養成する。

2. 学習教育目標（A4：専門分野）

①有機化学関連分野に関する基礎知識を身につけ，活用できる。

- ・有機反応機構を説明できるとともに，有機金属錯体の構造や反応を理論的に説明できる。
- ・高分子化学の基本知識をより理解を深めるとともに，機能性高分子材料についても説明できる。

②無機化学・分析化学関連分野に関する基礎知識を身につけ，活用できる。

- ・無機化学物質の各種合成法の特徴を説明できる。
- ・無機材料合成の基礎となる相平衡や錯体の合成法を説明できるとともに，無機化学物の潜在危険性を理解し安全に取り扱える。
- ・大気浮遊物質の性状や環境に対する影響など大気環境に関する諸問題の概要を説明できる。

③物理化学関連分野に関する基礎知識を身につけ，活用できる。

- ・原子・分子の電子状態に起因する現象，分光学等が定性的に理解できる。

- ・ 化学反応の基礎理論を説明できるとともに、量子化学計算を用いて遷移状態の構造を予測できる。
- ・ 電気化学反応の基礎理論を説明できるとともに、その応用例の概要を説明できる。

④化学工学関連分野に関する基礎知識を身につけ、活用できる。

- ・ 化学工学単位操作の基礎理論の理解を確実なものにするとともに、それを応用した各種装置の概要を説明でき、装置設計に活かせる。
- ・ 熱力学のうち化学技術者に必要な分野に関する熱力学計算ができる。

⑤生物工学関連分野に関する基礎知識を身につけ、活用できる。

- ・ 生化学の基礎を理解しながら分子生物学と遺伝子工学の基礎と応用について理解できる。

3. 教育の特徴

応用化学専攻のカリキュラムは、準学士過程においてコアとした5つの専門分野（有機化学，無機化学・分析化学，物理化学，化学工学，生物工学）の学習教育目標をより高いレベルで到達させるよう、応用力の向上や他教科との関連を意識した専門性豊かな内容となっている。また、少人数でのゼミナールによって英語論文に馴染ませたり，2年間にわたる専攻科特別研究の成果を関連学会や産学官技術フォーラムで発表させたりするなどして，研究開発能力とコミュニケーション能力の向上に努めている。

さらに，他専攻の専門教科の受講や実験実習の実施による幅広い分野の知識の習得，専攻科特別実習（インターンシップ）による企業や大学における先端技術への接触などが行えるカリキュラム編成となっている。これらを通じて専攻科の養成すべき人物像（複合的視点で創造，問題発見，問題解決ができる創造性豊かな開発型的技術者）の実現を目指している。

<都市工学専攻の目的（専攻科課程：2年間）>

1. 養成すべき人材像

数学，自然科学，情報処理技術，構造力学，水理学，土質力学，計画，環境に関連する専門技術に重点を置き，培われた一般教養のもと，柔軟な思考ができ，複合的視点で課題の発見，問題解決ができる創造性豊かな開発型技術者を養成する。

2. 学習教育目標（A4：専門分野）

①設計に関する基礎知識を身につけ、活用できる。

- ・ 数理工学，数理統計に関する理論を理解し，設計に活用できる。
- ・ シミュレーションに関する理論を理解し，設計に活用できる。

②力学に関する基礎知識を身につけ、活用できる。

- ・ 応用数学，応用物理に関する理論を理解し，力学の応用的解析に活用できる。
- ・ 数値流体力学に関する諸定理を理解し，応用的解析ができる。

③施工に関する基礎知識を身につけ、活用できる。

- ・ コンクリート構造，複合構造に関する理論を理解し，施行技術を身につける。
- ・ 応用防災に関する理論を理解し，施工に対して活用できる。
- ・ 基礎，耐震に関する理論を理解し，施工に対して活用できる。

④環境に関する基礎知識を身につけ、活用できる。

- ・水辺環境，海岸，河川に関する理論を理解し，建設に対して活用できる。
- ・都市計画，交通計画に関する理論を理解し，計画データの処理ができる。

3. 教育の特徴

都市工学専攻(Department of Civil Engineering)では，都市（まち）の「環境」やその保全，人々が暮らす安全・快適で美しい「都市空間」をデザインする方法，災害から都市を守る「防災」などの応用的な工学について学ぶ。

神戸市は緑豊かな六甲山系を抱え，温暖な瀬戸内海に面し，東西に長い地域に街が形成されている。21世紀に向けた都市（まち）造りには，恵まれた自然環境を十分に活用する必要がある。自然環境は土砂災害，地震，高潮などの自然災害の源ともなり，また急速な都市化は新たな都市災害を生じることにもなる。今後は防災機能を備え，少子・高齢化社会，福祉社会に対応した豊かな自然環境を織り込んだ都市（まち）造りが期待されている。

従来の土木工学，環境工学を基礎とし本科で習得した専門的知見に加え，防災，水圏・地圏における環境保全，自然や市民に配慮した街作りに関連する教育・研究を行うことにより，自ら課題の発見・解決できる技術者の育成を目指している。

出典：教務主事室集約資料

（分析結果とその根拠理由）

各専攻は，教育方針や専攻科課程の養成すべき人材像に基づき，専攻の特徴を踏まえた養成すべき人材像を具体化した。各専攻においては，本校の使命，教育方針，具体化した養成すべき人材像および学習・教育目標に沿って教育を実施しており，専攻科の構成は，教育の目的を達成する上で適切なものになっている。

観点2-1-③： 全学的なセンター等を設置している場合には、それらが教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

(観点に係る状況)

教育の目的を達成するための全学的なセンターとして総合情報センター、地域協働研究センターを設置している。

1) 総合情報センター

総合情報センターは、低学年用の「情報基礎コンピュータリテラシ入門」を発刊し、低学年教育に力を入れるとともに、高学年および専攻科課程の応用情報処理教育も支援している。また、学生・教職員が常時使用している校内LAN環境を管理する重要な役割を担っている(資料2-1-③-1, 2-1-③-2, 2-1-③-3, 2-1-③-4)。そして、研究管理やシラバス作成等の教員データベースの構築は、すべて校務分掌で割り当てられた教員がセンタースタッフとして自前で行っている。これに関しては、学内表彰規程に基づき本年4月の職員会議で校長より表彰を受けた。

2) 地域協働研究センター

地域協働研究センターの前身は「高専研究会」であり、当初は機関紙「研究紀要」の刊行と研究会や講演会の開催のみを行ってきたが、平成4年から始まり平成20年度に第17回の開催を迎える神戸高専、神戸市、神戸市機械金属工業会、神戸市産業振興財団主催の「産学官技術フォーラム」を皮切りに産学官の連携を深めることに、重点を移していった。それに伴い名称も、平成14年に「地域協働研究センター」に変更された。いま、現在では、「産学官民」を旗頭に掲げ、フォーラムの開催、技術相談、共同研究に加え、市民を対象とした公開講座、オープンキャンパス、水泳教室等様々な地域連携に努めている。学生はこれらの行事に参加しながら、指導性や協調性を高めると同時に、フォーラム等での発表を通じて、自身の研究が世の中の役に立っているかを常に確認している(資料2-1-③-5, 2-1-③-6, 2-1-③-7, 2-1-③-8, 2-1-③-9, 2-1-③-10)。

(分析結果とその根拠理由)

総合情報センターは、卒業時身につけるべき学力や資質・能力の(A3)情報技術を支援しており、地域協働研究センターは、同(B)や(C)のコミュニケーション能力や複合的視点で問題を解決する実践力を身につける等に寄与している。したがって、両センターは、教育の目的を達成する上で適切なものになっている。

総合情報センター規程

(趣 旨)

第1条 この規程は、神戸市立工業高等専門学校総合情報センター（以下「センター」という。）の組織及び運営に関して必要な事項を定める。

(目 的)

第2条 センターは、本校の情報ネットワークシステム（以下「情報ネットワーク」という。）および電子計算機システムを管理・運用し、本校の教職員及び学生の利用に供するとともに、情報教育の充実、情報ネットワークを用いた広報活動、校内の情報化を推進することを目的として設置する。

(業 務)

第3条 センターは、前条の目的を達成するために次の業務を行う。

- (1) センターが管轄する電子計算機システムの運用と管理に関すること。
- (2) センターが管轄する情報ネットワークの運用と管理に関すること。
- (3) 教育・研究における電子計算機システムと情報ネットワーク利用の支援に関すること。
- (4) 事務処理における電子計算機システムと情報ネットワーク利用の支援に関すること。
- (5) 情報ネットワークを用いた本校の広報活動に関すること。
- (6) センターの広報に関すること。
- (7) 校内の情報化に関すること。
- (8) 情報セキュリティに関すること。
- (9) 校内の情報システムの企画、設計及び改善に関すること。
- (10) 情報機器の利用に関すること
- (11) その他センターの目的達成に必要な業務に関すること。

(組 織)

第4条 センターは、以下で構成する。

- (1) 総合情報センター長
（以下「センター長」という。） 1名
- (2) 総合情報センター長補佐
（以下「センター長補佐」という。） 4名
- (3) 総合情報センター専任職員
（以下「センター職員」という。） 1名

2 センター長、センター長補佐及びセンター職員を合わせてセンタースタッフと呼ぶ。

(センター長等)

第5条 センター長及びセンター長補佐は、校長が任命する。

- 2 センター長は、センターの業務を統括する。
- 3 センター長補佐、センター職員は、センター長の指示を受けて、センターの管理、運営及びその他の業務を行う。
- 4 センター長の任期は原則2年とし、再任を妨げない。
- 5 センター長補佐の任期は原則4年以内とする。

(部 門)

第6条 センターに、以下の部門を置く。

- (1) システム管理部門
 - (2) 情報教育部門
 - (3) 広報部門
 - (4) 情報化推進部門
- 2 部門員は、以下で構成する。
- (1) センタースタッフ
 - (2) その他必要に応じてセンター長が委嘱した教職員
- 3 部門に部門長を置き、センタースタッフの中からセンター長が指名する。
- 4 部門員の任期は原則1年とする。

(次ページへ続く)

(運営委員会)

第7条 センターに総合情報センター運営委員会（以下「運営委員会」）を置く。

2 運営委員会では、次に掲げる事項を審議する。

- (1) センターの事業の計画及び実施に関する事項
- (2) 専門部会の設置に関する事項。
- (3) その他センターに運営に関する重要事項

3 運営委員会は、以下で構成する。

- (1) センター長
- (2) 教務主事
- (3) 学生主事
- (4) 教育プログラム委員長
- (5) 図書館長
- (6) 専攻科長
- (7) 地域協働研究センター長
- (8) 庶務係長
- (9) 学生係長
- (10) その他センター長が必要と認めた教職員

4 運営委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

5 委員長は、運営委員会を年度初め(4月)と年度末(1月)の年2回召集し、その議長となる。ただし、委員長が必要と認めたとき、臨時の運営委員会を召集することができる。

(情報委員会)

第8条 センターに情報委員会を置く。

2 情報委員会では、次の業務を行う。

- (1) 本校webページの更新に関すること。
- (2) センターの広報誌に関すること。
- (3) 講習会に関すること。
- (4) その他センターで必要と判断した業務に関すること。

3 情報委員会は、以下で構成する。

- (1) センタースタッフ
- (2) 各学科の代表者 1名
(ただし、機械工学科と一般科は2名。)
- (3) 事務室学生係 1名

(4) 事務室庶務係 1名

(5) 技術職員 若干名

4 情報委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

(専門部会)

第9条 センターは、必要に応じて、運営委員会の了承を得て専門部会を置くことができる。

(細則)

第10条 この規程に定めるもののほか、センターの運営、管理、利用に関する細則は別にこれを定める。

附 則

(施行日)

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

(廃止)

神戸市立工業高等専門学校情報教育センター規程(昭和51年12月11日制定)は、廃止する。

総合情報センターシステム利用規程

12. 総合情報センターシステム利用規程

(趣 旨)

第1条 この規程は、神戸市立工業高等専門学校（以下、「本校」という。）の総合情報センター（以下、「センター」という。）が運用する計算機・校内LAN（KINDS）および関連機器・施設（以下、「システム」という。）の利用について必要な事項を定めることを目的とする。

(利用目的)

第2条 システムの利用は、原則として本校における教育・研究・学習・事務処理及び地域貢献に資することを目的とする。

(利用資格)

第3条 システムを利用することができる者は、次の各号に掲げるとおりとする。

- (1) 本校の学生
- (2) 本校の専任教職員
- (3) 本校の非常勤教職員
- (4) 前各号に掲げる者のほかセンター長が適当と認めた者

(利用許可)

第4条 システムを利用しようとする者は、システムの利用権（以下、「アカウント」という。）の取得手続きを経て、総合情報センター長（以下、「センター長」という。）からその許可を得なければならない。

(アカウント)

第5条 アカウントには、授業用アカウント・一般アカウント・臨時アカウントがある。

- 2 授業用アカウントの有効期限は1年間（4月から翌年3月）とする。
- 3 一般アカウントの有効期限は、アカウント取得以降の本校在籍又は在職期間とする。ただし、アカウントを取り消された者、又は停止された者の有効期限はこの限りではない。
- 4 臨時アカウントの有効期限はセンター長が必要と認めた期間とする。

(休館日)

第6条 センター施設の利用は、原則として次に掲げる日を除いた日とする。

- (1) 休日、祭日、年末年始休

(次ページへ続く)

(2) 定期保守日

2 前項に定める他、システムの障害等、センター長が特に必要と認めた場合は、臨時に当該システムの利用を停止又は、利用時間を変更することができる。

(利用上の注意)

第7条 利用者は、次に掲げる事項を遵守しなければならない。

- (1) アカウントを他の目的に利用、又は第三者に譲渡しないこと
- (2) 利用時間を守り、許可された機器以外は使用しないこと
- (3) 営利的行為のために利用しないこと
- (4) 著作権を侵害する等の違法行為は行わないこと
- (5) センターから貸し出された機器等は、予め定めた期限内に返却すること
- (6) センター内の整理整頓に努め、他の妨げになる行為及び試食をしないこと
- (7) 機器及びその他の付帯設備を滅失又は破損しないよう充分注意すること
- (8) 機器及びその他付帯設備に異常が生じ、又は異常を発見した場合は、速やかにセンター事務室に連絡すること
- (9) 施設の利用は、責任者の指示に従うこと
- (10) センター及び他の利用者に迷惑又は損害を与えてはならないこと
- (11) その他、システムに支障を与える一切の行為は行わないこと

(アカウントの取消)

第8条 センター長は、利用者がセンターの定めた規則に従わない場合又は承認された目的以外にシステムを利用した場合には、当該利用者のアカウントを取り消し、又は停止することができる。

(損害の弁償)

第9条 利用者は、故意又は重大な過失により、センターの機器及びその他の付帯設備を滅失し、又は損傷した場合は、その損害を弁償しなければならない。

(雑 則)

第10条 この規則に定めない事項についてこれを定める必要がある場合には、神戸市立工業高等専門学校総合情報センター運営委員会の議を経てセンター長が定める。

附 則

1 この規則は、平成19年4月1日から施行する。

出典：平成20年度学生便覧(p61-62)

『情報基礎』コンピュータリテラシ入門

(総合情報センター刊行の教科書)

A4サイズ 目次：i-vi頁 本文：1-133頁

目次

第1章 作業の基礎知識—Linuxの基本—	1
1.1 導入	1
1.2 目的	1
1.3 まず、始めの心構え	1
1.4 ログインとパスワード	1
1.5 ログアウト	2
1.6 シャットダウン	3
1.7 パスワードの変更	3
1.8 キーボードの扱いとタッチタイピング	5
1.8.1 タイピング練習の目標値	6
1.9 マウスの扱いと X Window System	7
1.9.1 kterm	8
1.10 ホームディレクトリ	9
1.11 章の復習	9
1.12 演習問題	9
第2章 作業の基礎知識—Linuxの基本コマンド—	11
2.1 導入	11
2.2 目的	11
2.3 ヒストリーと補完	11
2.3.1 入力の補完	11
2.3.2 ヒストリー	12
2.4 調べるためのコマンド	12
2.5 プロセスの扱い (ps,kill)	13
2.5.1 ps	14
2.5.2 kill コマンド	14
2.6 ファイルに関連する UNIX コマンド	15
2.6.1 ls(LisT) コマンド	15
2.6.2 cp(CoPy), mv(MoVe) コマンド	16
2.6.3 cat, more, less	16
2.6.4 rm(ReMove) コマンド	16
2.7 ディレクトリに関連する UNIX コマンド	16
2.7.1 ディレクトリ	16
2.7.2 pwd(Print Working Directory) コマンド	17
2.7.3 mkdir(MaKe DIrectory) コマンド	18
2.7.4 rmdir(ReMove DIrectory) コマンド	18
2.7.5 cd(Change Directory) コマンド	18

(次ページへ続く)

2.7.6	利用許可モードの操作 (chmod)	19
2.8	演習問題	20
2.9	この章の参考文献	22
第3章	Emacs 入門	23
3.1	導入	23
3.2	目的	23
3.3	テキストエディタ	23
3.4	Emacs の起動	24
3.4.1	最低限必要な操作は？	24
3.5	キーボードでの基本操作	25
3.5.1	文書作成のはじめ	25
3.5.2	ファイルへの保存	26
3.5.3	編集作業の終了	26
3.5.4	カーソルの移動	26
3.5.5	削除 (Delete)	27
3.5.6	消去 (Kill)/コピー	27
3.6	知っておくと便利な機能	27
3.6.1	取り消し	27
3.6.2	サーチ	27
3.6.3	置換	27
3.6.4	ファイルとバッファ	28
3.6.5	ワークスペースの分割/ウインドウ	28
3.7	Emacs Tutorial から始めよう	29
3.8	この章の参考文献	29
第4章	Canna によるかな漢字の入力	31
4.1	導入	31
4.2	目的	31
4.3	日本語の入力	31
4.3.1	かな入力とローマ字入力	31
4.3.2	仮名から漢字への変換	32
4.3.3	日本語入力の開始・終了	32
4.3.4	ローマ字入力と漢字変換	32
4.3.5	文節の区切りの調整	33
4.3.6	カタカナ, アルファベットの入力	33
4.3.7	記号の入力	33
4.3.8	設定の変更	33
4.3.9	拡張モード	34
4.3.10	辞書登録の方法	34
4.4	演習問題	34
4.5	この章の参考文献	34
4.6	参考—コンピュータ中での情報の表現	35
4.7	参考—漢字コード, 改行コード	35

(以下省略)

出典：総合情報センター刊行教科書の目次より抜粋

図書館情報端末の利用について

13. 図書館情報端末の利用について

- (1) 図書館情報端末（以下、「情報端末」という。）は、図書館の開館中に利用することができる。
- (2) 情報端末の利用には、総合情報センターシステム利用規程に定められたアカウントが必要である。
- (3) 情報端末利用者は、静粛にし、他の利用者の迷惑にならないように努めること。
- (4) 情報端末を長時間占有しないこと。概ね、1回の使用は15分程度とする。
- (5) 情報端末本体は触らないこと。
- (6) 情報端末を使用中に破損、故障が生じた場合には、速やかに図書館事務室または総合情報センター事務室まで申し出ること。
- (7) 教職員の指示に従って利用すること。
- (8) その他、利用にあたっては総合情報センターシステム利用規程および図書館規程を遵守すること。

14. 総合情報センター演習室の放課後開放について

- (1) 総合情報センター（以下、「センター」という。）の第1演習室（以下「演習室」という。）は、始業式の翌週から授業がある日の午後3:00～午後5:45分までの間、利用することができる。（ただし、試験期間中は除く。）
- (2) 演習室の端末を利用するには、センターシステム利用規程に定められたアカウントが必要である
- (3) センター内は土足厳禁なので、入口でスリッパに履き替えること。
- (4) センター内への飲食物、雨傘等の持込みは、厳禁とする。
- (5) センター内では、静粛にすること。騒がしい場合は、退出を命じる場合がある。
- (6) 利用者は、演習室入口で「入室記録簿」に氏名等を記入すること。
- (7) 演習室の端末本体には触れないこと。
- (8) 端末装置、周辺機器の設定等を無断で変更しないこと。
- (9) 無駄なプリント出力はやめ、用紙の節約に努めること。
- (10) 許可なくセンターが管理する機器以外のコンピュータや入出力機器を持ち込んで使用しないこと。
- (11) 演習室内の機器を使用中に破損、故障が生じた場合には、速やかに管理スタッフ又はセンター事務室まで申し出ること。
- (12) 教職員、センター管理スタッフの指示に従って利用すること。
- (13) その他、利用にあたってはセンターシステム利用規程を遵守すること。

地域協働研究センター規程

制 定 平成14年3月2日

改 定 平成18年4月1日

(目的)

第1条 地域協働研究センターは、本校の教育及び研究の向上と地域貢献の推進を図ることを目的として、次のことを実施する。

- (1) 本校における産学官連携事業の推進
- (2) 一般市民及び生徒等との交流
- (3) 教職員の教育研究活動の振興
- (4) 地域協働を促進する事業

(構成及び職務)

第2条 地域協働研究センター（以下「センター」という。）は、地域協働研究センター長（以下「センター長」という。）、部会長、各科代表者、事務職員、技術職員で構成する。

- 2 センターの業務を円滑に遂行するため、運営委員会、第1部会及び第2部会を置く。
- 3 センター長は、運営委員会の委員長を兼任し、センターの管理運営を掌理する。
- 4 部会長は、センター長を補佐するとともにその指示を受けて部会の所掌業務を掌理する。
- 5 部会長は、該当学科の委員を兼任することができる。
- 6 各科の委員は次のとおりとし、人選はセンターと各科主任との間で調整する。
 - (1) 運営委員会は、センター長、第1部会長、第2部会長、庶務係長、学生係長とする。
 - (2) 第1部会は、各科1名、庶務係長、庶務係担当、技術職員とする。
 - (3) 第2部会は、各科1名、学生係長、学生係担当、庶務係担当、技術職員とする。
- 7 本センター委員は、原則として教務委員会、学生委員会および総合情報センターの委員を兼任しないものとする。

(任命)

第3条 センター長及び部会長は、校長が任命する。

(任期)

第4条 センター長及び部会長の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

(業務)

第5条 運営委員会、第1部会及び第2部会が所掌する業務は、おおむね別表に掲げるとおりとする。

- 2 センター長は、各企画の運営に関して、学科主任を通して各科から当日の要員を求めることができる。

(雑則)

第6条 この規程に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、校長が別に定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この規程は、平成14年4月1日から施行する。

(研究振興委員会規程の廃止)

- 2 研究振興委員会規程（平成11年4月1日）は、廃止する。

附 則

この規程は、平成15年4月1日から施行する。

(次ページへ続く)

附 則

この規程は、平成17年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

別表

部 会	所 掌 業 務
運 営 委 員 会	1 センターの企画・運営に関する事。 2 センター年報の発行に関する事。 3 その他
第 1 部 会	1 共同研究、受託研究及び奨学寄附金の推進、受入れ窓口に関する事。 2 技術相談の受入れ窓口に関する事。 3 神戸高専産学官技術フォーラムの開催に関する事。 4 兵庫産学交流会（H I X）に関する事。 5 産学官技術交流懇談会（こうベテクノサロン）に関する事。 6 神戸リエゾンラボにおける交流事業に関する事。 7 中小企業及びベンチャー企業の技術支援に関する事。 8 合同見学会の実施に関する事 9 イブニングセミナーの開催に関する事。 10 校内学術講演会の開催に関する事。 11 花時計ギャラリー、アドウインドウ、その他出展・展示に関する事。 12 各種講演会・交流会の案内と参加に関する事。 13 出前技術相談に関する事。 14 学外実習（インターンシップ）の開拓に関する事。 15 その他
第 2 部 会	1 中高生対象の学校紹介に関する事。 1-1 編入生見学会 1-2 オープンカレッジ 1-3 中学生見学会 2 一般市民を対象とする公開講座の奨励・調整、企画、記録に関する事 2-1 各科公開講座（夏季、冬季） 2-2 ユニティ公開講座 2-3 水泳教室 2-4 その他 3 卒業記念講演会及び退官記念講演会に関する事。 4 HP更新（随時）に関する事。 5 中学校の先生への講習会に関する事。 6 出前授業の奨励・調整、企画に関する事。 7 その他

出典：地域協働研究センター年報第5号(P109-110)

神戸市立工業高等専門学校における民間等との共同研究取扱要綱

制 定 昭和 60 年 7 月 1 日
最終改正 平成 19 年 4 月 1 日

(趣旨)

第1条 神戸市立工業高等専門学校（以下「本校」という。）における民間等外部機関（以下「民間機関」という。）との共同研究の取扱に関し、別に定めるもののほか、この要綱の定めるところによる。

(定義)

第2条 この要綱で「共同研究」とは、次の各号に掲げるものをいう。

- (1) 本校において、民間機関等から研究者及び研究経費等を受入れて、本校の教員が当該民間機関等の研究者と共通の課題について共同して行う研究
- (2) 本校及び民間機関等において共通の課題について分担して行う研究で、本校において、民間機関等から研究者及び研究経費等、又は研究経費等を受入れるもの
- (3) 本校及び民間機関等において共通の課題について分担して行う研究で、研究費等の受入れがないもの

2 この共同研究は、本校の教育研究上有意義であり、かつ、本来の教育及び研究に支障を生じる恐れがないと認められる場合に限り行うものとする。

(受入れ原則)

第3条 本校が研究者を受け入れる場合、次により行うものとする。

- (1) 本校は、民間機関等に属する研究者を「民間等共同研究員」として受け入れること。
- (2) 民間等共同研究員は、民間機関等において現に研究業務に従事しており、共同研究のために在職のまま本校に派遣される者であること。
- (3) 校長は、民間等共同研究員の研究料の額を共同研究員1人につき年額420,000円とし、これを徴収するものとする。ただし、月割り計算はしないものとする。

(受入れ条件)

第4条 共同研究を受け入れる場合は、次の各号に掲げる条件を付さなければならないものとする。

- (1) 共同研究は、民間機関等が一方向的に中止することができないこと。
 - (2) 共同研究に要する経費は、当該研究の開始前に納付すること。
 - (3) 納付された経費は、原則として返還しないこと。
 - (4) 共同研究に要する経費及び研究の必要上新たに取得した設備等は、返還しないこと。
- 2 前項の条件は、委託者が国、地方公共団体又は法律により設置された特殊法人の場合は、双方協議のうえ付さないことができる。

(共同研究に要する経費)

第5条 本校は、その施設・設備を共同研究の用に供するとともに、当該施設・設備の維持管理に必要な経常経費等を負担するものとする。

- 2 民間機関等は、共同研究遂行のために、前項により本校が負担するもののほか、特に必要となる謝金、旅費、消耗品費等の直接経費及び直接経費の10%に相当する間接経費を負担するものとする。

(共同研究における設備等の取扱い)

第6条 直接経費により取得した設備等の取扱いは、次の各号に定めるところによる。

- (1) 前条第1項により、研究の必要上、本校において新たに取得した設備等は、本校の所有に属するものとする。
 - (2) 前条第2項により、研究の必要上、民間機関等において新たに取得した設備等は、民間機関等の所有に属するものとする。
- 2 共同研究の遂行上必要な場合には、民間機関等から、直接経費及び間接経費のほか、その所有に係る設備を受入れることができるものとする。この場合における設備の搬入、据付け、運用等の経費及び撤去等に要する経費は、民間機関等が負担するものとする。
- 3 第1項の規定にかかわらず、本校及び民間機関等が共同研究契約において合意した場合、別の取扱いができるものとする。

(次ページへ続く)

(本校外での研究)

第7条 当該民間機関等の所有する特定の設備を使用することが必要であり、当該設備を本校に搬入することが困難な場合には、研究上必要な限度内で当該設備が所在する施設での研究を行うことができるものとする。

2 前項の場合において、校長は、当該研究担当者に対し出張を命じ、研究に従事させなければならないものとする。

(受入れの決定等)

第8条 共同研究の申請をしようとする者(以下「申請者」という。)は、「共同研究申請書」(様式第1号)を校長に提出しなければならない。

2 校長は、前項の申請書を受けたときは、研究担当者及び当該研究担当者の属する学科主任等の意見を徴するものとする。

3 校長は、第1項の申請書の内容が適当であると認めた場合は、研究担当者から共同研究実施計画書(様式第2号)及び共同研究費計算基礎明細書(別表5)を作成させ、所属学科主任を経て提出させるものとする。

(契約の締結)

第9条 契約担当者は、共同研究の受入れが決定されたときは、共同研究契約書により速やかに契約を締結するものとする。

(変更等)

第10条 研究担当者は、当該共同研究を中止し、又はその期間を延長する必要があるときは、直ちに学科主任を経て校長に申請(様式第3号)し、その指示を受けるものとする。

2 校長は、前項の報告により共同研究の遂行上真にやむを得ないと認めるときは、これを中止し、又は期間を延長することを決定し、その旨を研究担当者及び契約担当者に通知(様式第4号)するものとする。

(特許出願)

第11条 校長及び民間機関等の長は、研究担当者及び民間等共同研究員が共同研究の結果共同して発明を行った場合において、特許出願を行おうとするときは、持分等を定めた共同出願契約を締結のうえ、共同出願を行うものとする。ただし、民間機関等の長から特許を受ける権利を承継した場合は、校長が単独で出願を行うことができる。

(特許権等の実施)

第12条 特許権等の実施については、以下に定めるところによる。

2 校長は、共同研究の結果生じた発明につき、市が承継した特許を受ける権利又はこれに基づき取得した特許権(以下「市が承継した特許権等」という。)を当該民間機関等又は民間機関等の指定する者に限り、共同研究完了の日から7年を超えない範囲内において優先的に実施させることができる。

3 校長は、共同研究の結果生じた発明につき、民間機関等との共有に係る特許を受ける権利又はこれに基づき取得した特許権(以下「共有に係る特許権等」という。)を民間機関等の指定するものに限り、共同研究完了の日から7年を超えない範囲内において優先的に実施させることができる。

4 第2項の場合において民間機関等若しくは民間機関等の指定する者が市が承継した特許権等を、前項の場合において民間機関等の指定する者が共有に係る特許権等を、それぞれ優先的に実施の期間中その第2年次以降において正当な理由なく実施しないとき、又は当該特許権等を優先的に実施させることが公共の利益を著しく損なうと認められるときは、校長は、民間機関等及び民間機関等の指定する者以外の者に対し、当該特許権等の実施を許諾することができる。

5 前3項の規定により、市が承継した特許権等又は共有に係る特許権等の実施を許諾したときは、校長は、別に実施契約で定める実施料を徴収するものとする。

(実用新案権等の取扱い)

第13条 実用新案権及び実用新案登録を受ける権利については、前2条の規定に準じて取り扱うものとする。

(次ページへ続く)

(研究成果の報告)

第14条 研究担当者は、当該研究終了後速やかに、研究成果及び所要経費について校長に報告（様式第5号）するものとし、校長はそれを受けて教育長に通知（様式第6号）する。

(その他)

第15条 この要綱に関し必要な事項は、校長が定める。

附 則

この要綱は、昭和60年7月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成3年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成18年8月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成19年4月1日から施行する。

出典：地域協働研究センター年報第5号(P111-113)

神戸市立工業高等専門学校受託研究取扱要綱

制定 平成10年4月1日

(趣旨)

第1条 この要綱は、神戸市立工業高等専門学校（以下「本校」という。）における受託研究の取扱いに関し、必要な事項を定める。

(受託研究の定義)

第2条 受託研究とは、外部からの委託を受けて行う研究、試験、試作、及び調査等（以下「研究等」という。）で、これに要する経費を委託者が負担するものをいう。

(受託の基準)

第3条 本校において受託する研究等は、本校の教育研究上有意義であり、かつ、本校の教育業務に支障を及ぼさないものでなければならない。

(受託の条件)

第4条 研究等の受入れに当たっては、次の各号に掲げる条件を付すものとする。

- (1) 受託研究に要する経費（以下「受託研究費」という。）によって取得した設備等は、返還しないこと。
 - (2) 受託研究の結果生じた特許権等の権利を委託者に対し無償で使用させ、又は無償で譲渡することができないこと。
 - (3) 受託研究費は、研究開始前に納入し、原則として返還しないこと。
 - (4) 受託研究の結果の公表は、委託者ができないこと。
 - (5) 受託研究は、委託者による一方的な中止ができないこと。
 - (6) やむを得ない事由により受託研究を中止し、又は研究等の期間を延長したことにより委託者が損害を受けたときは、これに対し本校は責任を負わないこと。
- 2 前項第1号から第4号までの条件は、委託者が国、地方公共団体又は法律により設置された特殊法人の場合は、双方協議のうえ付さないことができる。

(申込み)

第5条 受託研究の申込みをしようとする者は、様式第1号による受託研究申込書、様式第2号による企業・機関の概要及び様式第3号による受託研究経費内訳書を校長に提出するものとする。

(受託の承認)

第6条 受託研究の受入れは、様式第4号による受託研究実施計画書により、当該研究を担当する教員、当該教員の属する学科主任等の意見を参考にして、校長が決定する。

(受託の通知)

第7条 校長は、受託研究の受入れが決定した場合は、様式第5号による受託研究受入承認書により委託者に通知するとともに、教育長に報告するものとする。

(受託研究費の算定)

第8条 受託研究を受け入れるに当たって委託者が負担する額は、旅費(国内旅行)、消耗品費、図書購入費、使用料及び賃借料、備品購入費等の、当該研究遂行に直接必要な経費に相当する額（以下「直接経費」という。）及び当該研究遂行に関連し直接経費以外に必要な経費を勘案して定める額（以下「間接経費」という。）の合算額とし、当該負担する額を算定する場合にお

(次ページへ続く)

ける間接経費の額は、直接経費の10%に相当する額を基準とする。ただし、委託者が国、地方公共団体又は法律により設置された特殊法人の場合は、双方協議のうえ間接経費を付さないことができる。

(契約手続き)

第9条 校長は、受託研究の受入れを決定した後、様式第6号による受託研究契約書により契約を行うものとする。ただし、当該契約の性質又は目的によりこれにより難い場合には、校長がその都度定める契約書によることができる。

(受託研究費の予算手続き)

第10条 受託研究費の収入及び支出の手続きは、市費として行う。

(受託研究費の変更)

第11条 校長は、受託研究費を増額する必要があると認め、委託者の同意を得たときは、様式第7号による受託研究費変更契約書の作成等必要な手続きを行わなければならない。

(研究成果の報告)

第12条 校長は、受託研究が完了し、又は受託研究の一部若しくは全部を取り消し、若しくは中止したときは、速やかに委託者に報告しなければならない。

(特許権等の帰属)

第13条 受託研究の結果生じた特許権、実用新案権、意匠権等の権利(以下「特許権等」という。)は、神戸市に帰属する。ただし、神戸市立工業高等専門学校発明規程第5条による場合は、この限りでない。

(特許権等の実施)

第14条 校長は、特許権等を委託者及び委託者の指定する者に限り、当該委託研究完了の日から7年を超えない範囲内において、優先的に実施させることができる。

2 前項の場合において、委託者及び委託者の指定する者が当該特許権等を優先的に実施の期間中その第2年次以降において正当な理由なく実施しないとき、又は当該特許権等を優先的に実施させることが公共の利益を著しく損なうと認められるときは、委託者及び委託者の指定する者以外の者に対し、当該特許権等の実施を許諾することができる。

3 前2項により当該特許権等の実施を許諾したときは、別に実施契約で定める実施料を徴収する。

(事業完了の報告)

第15条 校長は、受託研究が終了した後、5月末までに様式第8号による受託研究完了報告書により事業結果を教育長に報告する。

(その他)

第16条 その他受託研究に必要な事項は、校長が定める。

附 則

この要綱は、平成10年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成15年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成16年4月1日から施行する。

(次ページへ続く)

附 則

この要綱は、平成19年4月1日から施行する。

出典：地域協働研究センター年報第5号(P114-116)

地域協働研究センター年報
第5号



2007年6月

神戸市立工業高等専門学校

奨学寄附金の取扱いに関する要綱

平成13年2月27日
保健福祉局長決裁
外国語大学長決裁
教育委員会教育長決裁

(趣旨)

第1条 外国語大学、看護大学、看護大学短期大学部及び工業高等専門学校（以下「大学等」という。）における奨学を目的とする寄附金（以下「奨学寄附金」という。）の受入れ、払出し及び処理については、別に定めるもののほか、この要綱の定めるところによる。

(受入れの基準)

第2条 大学等に対し、本市以外の者から次の各号に掲げる経費に充てることを目的として、現金の寄附があった場合は、これを奨学寄附金として取り扱わなければならない。

- (1) 学生に貸与又は給付する学資
- (2) 学生に貸与又は給付する図書、機械、器具及び標本等の購入費
- (3) 学術研究に要する経費
- (4) 前各号に掲げるもののほか教育研究の奨励を目的とする経費

(受入れの制限)

第3条 次の各号に掲げる条件を付したものは、これを奨学寄附金として受入れることができない。

- (1) 寄附金により取得した財産を無償で寄附者に譲与すること。
- (2) 寄附金による学術研究の結果得られた特許権、実用新案権、意匠権、商標権及び著作権その他これらに準ずる権利を寄附者に譲渡し、又は使用させること。
- (3) 寄附金の使用について、寄附者が会計監査を行うこと。
- (4) 寄附申込後、寄附者がその意志により寄附金の全部又は一部を取り消すこと。

2 前号に掲げるもののほか、次の各号に掲げるものは受入れてはならない。

- (1) 寄附金を受入れることに伴い、大学等の経費が著しく増大する恐れがあるもの。
- (2) その他大学等の長が適当でないとするもの。

(受入れの決定)

第4条 奨学寄附金の寄附の申込みをしようとする者は、奨学寄附金申込書（様式第1号）を大学等の長に提出しなければならない。

2 大学等の長は、前項の申込書を受理したときは、その内容を審査し、教育又は学術研究上及び寄附条件等について支障がないと認めた場合は、受入れを決定するものとする。

3 大学等の長は、受入れを決定したときは、その旨を奨学寄附金受入通知書（様式第2号）により寄附申込者に通知するものとする。

(納付の方法)

第5条 受入れを決定した奨学寄附金の歳入納付については、納付書により直ちに行うものとする。

(歳入納付の報告)

第6条 大学等の長は、奨学寄附金が歳入に納入されたときは、奨学寄附金受入報告書（様式第3号）により所管局長に報告しなければならない。

(次ページへ続く)

(奨学寄附金交付金の出納保管等)

第7条 所管局長は、奨学寄附金が歳入に納入されたときは、その同額を奨学寄附金交付金として、歳出予算の負担金補助及び交付金から歳入歳出外現金に振り替えるものとする。

2 歳入歳出外現金で保管する奨学寄附金交付金は、大学等の長の請求により支出する。

3 大学等の長は、前項の規定により支出した奨学寄附金交付金について、直ちに最寄りの金融機関に奨学寄附金交付金専用口座を設けて預託しなければならない。

4 奨学寄附金交付金は、第2条各号に掲げる経費としてのみこれを使用することができる。

5 奨学寄附金交付金は、債権者に対する支払いを行う場合でなければこれを支出することはできない。ただし、金額が少額で緊急の必要により立替を行った場合で大学等の長が適当と認めたものは、この限りでない。

6 大学等の長は、奨学寄附金交付金について奨学寄附金交付金収支簿(様式第4号)を設けて整理しなければならない。

(奨学寄附金交付金の使途の報告)

第8条 大学等の長は、毎年度終了後速やかに奨学寄附金交付金使途報告書(様式第5号)を作成し、奨学寄附金交付金の使途について所管局長に報告しなければならない。

(雑則)

第9条 大学等の長及び教員は、奨学寄附金交付金により購入した物品については、直ちにこれを市に寄附しなければならない。

(施行細目の委任)

第10条 この要綱の施行に関し必要な事項は、大学等の長が定める。

附 則

この要綱は、平成13年4月1日から施行する。

出典：地域協働研究センター一年報第5号(P117-118)

産学官技術フォーラム'06

－ ものづくり、ひと創り －

第1部会 橋本渉一

1. はじめに

産学官技術フォーラムは、平成3年に第1回を開催し、平成18年度には15回目を数えることとなりました。会場を神戸高専内および部外会場の2箇所に分けて別日に開催する方式として3年目となります。

今年度から経済産業省による「高専等を活用した中小企業人材育成事業」がスタートし、全国で30プログラム(31高専)が選ばれました。神戸高専は明石高専とともにこの事業に参加し、平成18年9月から19年2月まで毎週土曜日にこの事業を推進中です。この実績を踏まえ今回は高専の役割として期待されている、「実践的でものづくりに強い人材の育成」を念頭に、フォーラム'06のメインテーマとして「ものづくり、ひと創り」としました。

天地創造の“創”の文字は、“新しく創る”、“初めて創る”という意味が含まれています。人材を創造するという気持ちを込めたテーマ設定となりました。

フォーラム開催は一昨年から2会場2日間開催としており、パートI(第1日目・10月28日)は高専祭に同日併催とし、保護者やその他の方々に、本校教員および5年生、専攻科生の研究の一端を知って頂くことを目的としてポスター研究発表を行いました。

パートII(第2日目・11月15日)は学園都市駅に近い大学共同利用施設ユニティを会場としました。昨年からは、本校から近く部外の方々も参加し易い駅直近の会場として、ユニティを活用しています。実施内容はオーラル研究発表、基調講演、パネルディスカッション、交流会となります。

2. 運営組織

開催内容および運営方針などは、主催する3団体神戸高専・神戸市機械金属工業会・神戸市産業振興財団のメンバーで実行委員会を組織し、5月から10月にかけて毎月の定例会議を重ねながら体制を固めていきます。昨年からは、共催として兵庫工業会も加わり、多くの参加者を得ています。

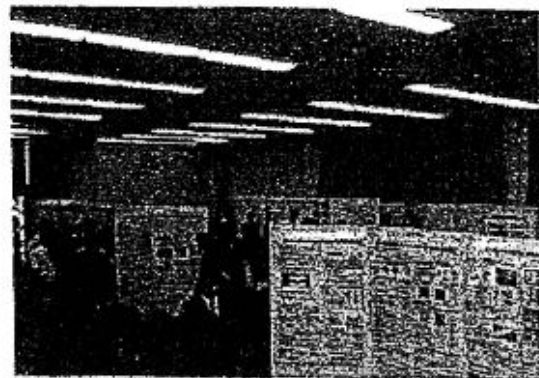
校内では地域協働研究センター第1部会の定例会議で議論し、主担・副担の他、準備作業は全員で割

り振りバックアップしています。

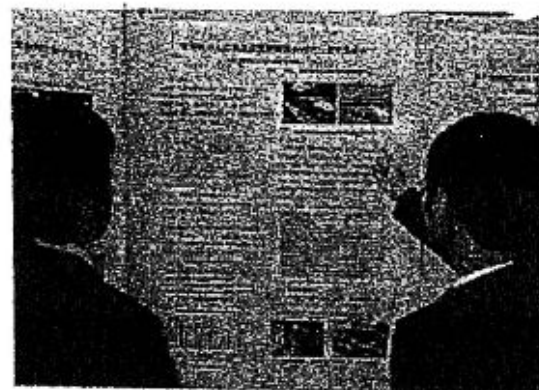
3. パートI(10月28日)

高専祭の1日目10月28日(土)に併催とし、体育館小体育室で、ポスター研究発表を行いました。これは高専祭で来校された保護者、一般市民の方々はもちろん本校学生にも、本校の教員、5年生の卒業研究、専攻科生の特別研究の活動内容を知ってもらいたいとの考えからです。

発表の大多数は本校の本科生、専攻科生ですが、企業、同志社大学、明石高専からの発表も含め全部で5セッションに分かれ57件の発表があり、発表者と参加者との間で活発な議論が繰り広げられました。



ポスターセッション会場



発表者同士の活発な質疑応答

(次ページへ続く)

4. パートⅡ (11月15日)

4.1 研究発表会

11月15日(水)には、大学共同利用施設ユニティを会場としてパートⅡを開催しました。この会場は学園都市駅から近いため部外参加者からも好評で、本校の教職員・学生にとっても参加しやすい会場です。

オーラル(口頭)発表は3つのセミナー室を使い、午前中はフリーテーマとし高専および大学の学生、本校教員からの発表がありました。

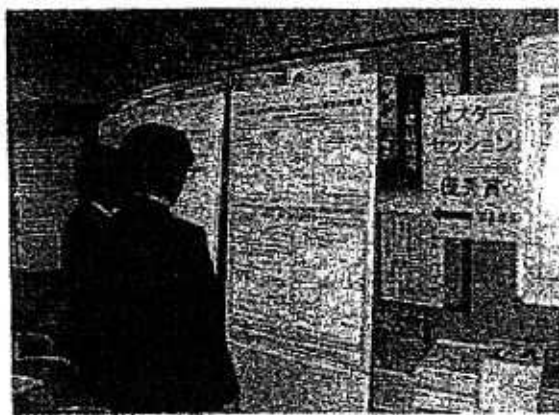
発表テーマは、環境・防災・まちづくり・材料・エネルギー・情報・新技術開発・技術教育など本校の専門学科すべてに関係する内容で多岐に亘っており21件の発表がありました。

午後からは産学官連携に関わるテーマとして、本校教員、神戸市、企業からの8件の発表が行われ、聴講者も企業関係が多く活発な質疑応答が交わされました。

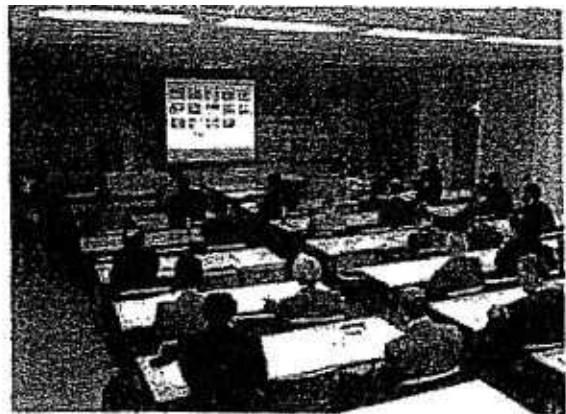
また受付付近のロビー内には、パートⅠの優秀ポスターの掲示を行いました。



受付の様子



パートⅠ優秀ポスターの展示



オーラルセッション(企業からの発表)

4.2 基調講演

基調講演者はミツ精機の三津相談役をお願いし、「これからのものづくりと人材育成」と題して話して頂きました。長年の会社経営におけるノウハウ、経験話も多く、事業を発展させるために望まれる人材について、具体的な話も多く熱の入った内容に参加者一同が引き込まれていきました。



基調講演

4.3 パネルディスカッション

パネルディスカッションは、経済産業省による今年度からスタートした事業に因んで、テーマは「高専を活用した中小企業人材育成について」とし、コーディネータは元教務主事の日下部名誉教授に務めて頂き、パネリストは基調講演者のミツ精機の三津相談役、兵庫工業会の綱崎課長、近畿経済産業局の山崎室長、の3名が参加されました。皆さんの経験を踏まえた話が披露されましたが、時間の関係で、聴講の方々との意見交換の時間が少なかったことが残念でした。

観点2-2-①： 教育課程全体を企画調整するための検討・運営体制及び教育課程を有効に展開するための検討・運営体制が整備され、教育活動等に係る重要事項を審議するなどの必要な活動を行っているか。

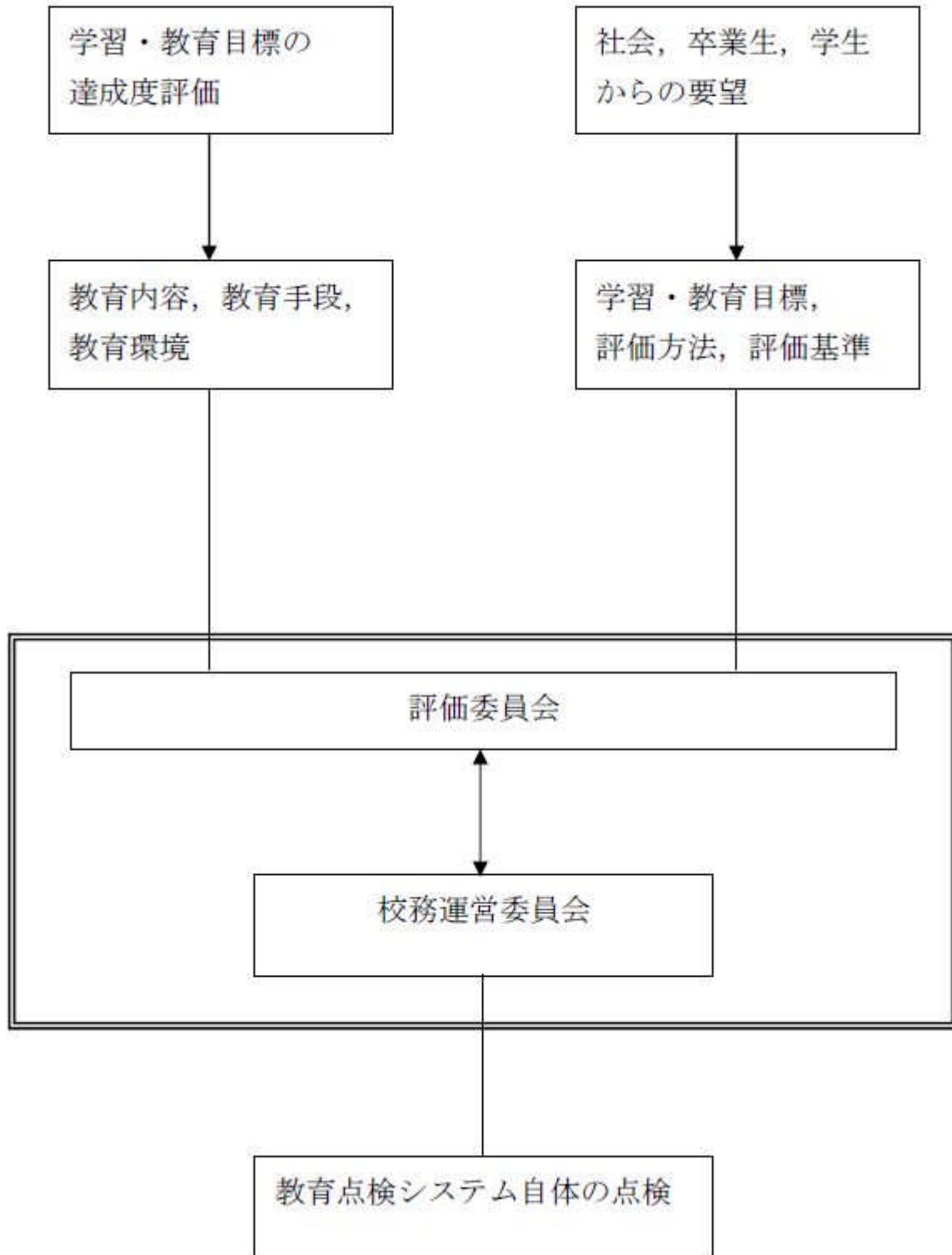
(観点に係る状況)

本校では、工学系複合プログラムのPDCAシステム(資料2-2-①-1)に基づいて、全学の教育活動に係る重要事項を審議するとともに実践している。学習・教育目標、水準の設定、教育方法、評価方法の設定等のPlanは、教育プログラム委員会で行っている(資料2-2-①-2)。教育の実施Doは、教務委員会(資料2-2-①-3)と専攻科運営委員会(資料2-2-①-4)が担っている。学習・教育目標の達成は、進級・卒業認定会議及び修了認定会議で行っている(資料は訪問調査で開示予定)。これらの教育点検 Checkは、評価委員会(資料2-2-①-5)が担当している。その結果は将来計画委員会(資料2-2-①-6)で審議され、各委員会に Actionされる。校務運営委員会は学校の中核部の委員会(資料2-2-①-7)であり、PDCAの統括をしている。各種委員会とキャッチボールしながら、全体のまとめをするとともに、評価委員会が行う教育点検がスムーズかつ慎重に行われているか等、教育点検システム自体の点検も行っている。PDCAの一例を以下に示す。外部評価、外部研修会、授業アンケート、教育研究業績報告等について、平成18年度にPDCAを実施した。評価委員会では、これらをチェックするためのプロジェクトを立ち上げた(資料2-2-①-8)。これについての報告を平成18年度第2回の校務運営委員会で報告(資料2-2-①-9)し、学内全員にチェック開始を周知した。チェック結果は、11月度評価委員会で報告(資料2-2-①-10)され、その結果は、第7回将来計画委員会で議論され、各検討部署にアクション(資料2-2-①-11)された。平成19年度は各部署でそれらの結果を検討(資料2-2-①-12)した。

(分析結果とその根拠理由)

工学系複合プログラムのPDCAシステムに基づいて、教育課程全体の企画調整を行っており、教育課程を有効に展開するための検討は常に行われ、それらに基づいて教育を実施している。

教育点検システム



出典：J A B B E 自己点検書

教育プログラム委員会規程

制 定 平成15年12月1日
最終改正 平成19年4月1日

(目的)

第1条 この規程は、教育プログラム委員会（以下「委員会」という。）の設置及び運営について必要な事項を定める。

第2条 委員会は、本校の教育プログラムの適正な内容の作成・運用を確保し、これを充実発展させるために必要な事項を審議する。

(構成)

第3条 委員会は教務主事、教務副主事1名、専攻科長、専門学科及び一般科各教員2名、事務室長、学生係長、事務担当者2名で構成する。

2 委員長及び委員長補佐は、校長の指名によるものとする。委員長に事故があるときは、委員長補佐がその職務を代行する。

(委員会の任務)

第4条 委員会の任務は本校の教育プログラムに関する次の事項とする。

- (1) 教育プログラムの設定。
- (2) 教育プログラム継続的改善の企画。
- (3) FDに関する企画。
- (4) 認証評価に関する企画。

(定足数および議決)

第5条 委員会の会議は、委員の過半数の出席をもって成立する。なお、委員が出席できない場合には、代理者の出席を認めるものとする。

2 議決を必要とするときには、出席委員（代理者を含む。）の過半数の同意をもって決する。

(会議の開催および運営)

第6条 会議は原則として毎月1回開催するものとし、委員長がこれを召集する。また、必要な場合には臨時に召集することができる。

2 委員会が必要と認めたときには、委員以外の関係職員の出席を求め、意見を聞くことができる。

3 委員会が必要と認めたときには、委員以外の関係職員を含めた小委員会を設けて、必要事項の審議を行うことができ、その審議結果を委員会に答申するものとする。

(他の委員会との関係)

第7条 他の委員会等と関係ある事項については、他の委員会等に措置を要請することができる。

2 委員会が特に重要であると認めた事項は、校務運営委員会又は将来計画委員会に付議してこれを決定する。

(事務処理および記録)

第8条 会議に係る事務は、事務室で行う。

(改正)

第9条 この規程の改廃は、委員会の議を経て定める。

付 則

この規程は、平成15年12月1日から施行する。

付 則

この規程は、平成16年6月10日から施行する。

付 則

この規程は、平成17年8月1日から施行する。

附 則

この規定は、平成19年4月1日から施行する。

教務委員会規程

制 定 昭和40年4月1日
最終改正 平成10年4月1日

(目的)

第1条 この規程は、本校における教務の適正、公平な運用を確保するため設置される教務委員会（以下「委員会」という。）に関して必要な事項を定めることを目的とする。

(構成)

第2条 委員会は、教務主事、教務主事補佐及び各科の代表者で構成する。

2 委員長は、教務主事とする。

(定数教及び決議)

第3条 委員会の会議は、構成員の過半数の出席をもって成立する。また、決議を必要とするときは、特別の場合を除いて出席者の過半数をもって決める。

(委員会の任務)

第4条 委員会の任務は、次のとおりとする。

- (1) 教務に関する情報の収集、整理及び適用
- (2) 教育活動として行われる諸活動の立案及び実施
- (3) 視聴覚教育に関すること。
- (4) 他の委員会に属さない教務に関すること。

(会議の開催)

第5条 会議は、原則として毎月第1水曜日に委員長が招集する。ただし、第1水曜日が休日のときは、委員長が別に定める。

(他の委員会との関係)

第6条 他の委員会との関係のある事項については、会議に必要な他の職員の出席を求めることができるほか、他の委員会に処理を要請することができる。

(事務の処理)

第7条 委員会に係る事務は、教務主事室及び学生係で行う。

(その他)

第8条 この規定の改廃は、委員会の議を経て定める。

附 則

この規程は、昭和40年4月1日から施行する。

(略)

附 則

この規程は、平成10年4月1日から施行する。

専攻科運営委員会規程

制 定 平成12年1月24日

(目的)

第1条 この規程は、専攻科運営委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営について必要な事項を定めることを目的とする。

第2条 委員会は、本校専攻科の適正かつ公正な運用を確保し、これを充実発展させるために必要な事項を審議する。

(構成)

第3条 委員会は、専攻科長、教務主事、学生主事、機械システム工学専攻2名、電気電子工学専攻2名、応用化学専攻1名、都市工学専攻1名、専攻科一般科目担当者1名及び学生係長で構成する。
なお、各専攻主任は、構成員を兼ねるものとする。

2 委員長は、専攻科長とする。委員長に事故があるときは、委員長が指名した委員がその職務を代行する。

(委員会の任務)

第4条 委員会の任務は、専攻科に関する次に掲げる事項とする。

- (1) 教務及び教育研究活動に関すること。
- (2) 教育研究環境及び福利厚生の実施に関すること。
- (3) 他の委員会に属さない専攻科に関すること。

(定足数、議決等)

第5条 委員会の会議は、委員の過半数の出席をもって成立する。なお、委員が出席できない場合には、代理者の出席を認めるものとする。

- 2 議決を必要とするときは、出席委員（代理者を含む。）の過半数の同意をもって決する。
- 3 委員会が必要と認めるときは、委員以外の関係職員の出席を求めることができる。
- 4 委員会が特に重要であると認めた事項は、校務運営委員会又は教官会議に付議してこれを決する。

(会議の開催)

第6条 会議は原則として毎月1回開催するものとし、委員長がこれを招集する。また、必要な場合は、臨時に招集することができる。

(他の委員会との関係)

第7条 他の委員会等と関係のある事項については、当該委員会等に措置を要請することができる。

(事務処理及び記録)

第8条 会議に係る事務は、学生係で行う。

(その他)

第9条 この規程に定めるもののほか専攻科の運営に関し必要な事項は、委員会の議を経て校長が定める。

(改正)

第10条 この規程の改廃は、委員会の議を経て定める。

附 則

この規程は、平成12年4月1日から施行する。

神戸市立工業高等専門学校評価委員会規程

制定平成15年4月1日

改正平成17年8月1日

(目的)

第1条 この規定は、神戸市立工業高等専門学校評価委員会（以下「評価委員会」という。）について必要な事項を定めることを目的とする。

(設置)

第2条 学校教育法施行規則第71条の2の規定を受け、神戸市立工業高等専門学校（以下「当校」という）の学習・教育目標の達成度や教育研究等の状況について自ら点検及び評価を行うため、当校に評価委員会を置く。

(組織)

第3条 評価委員会は以下に掲げる者をもって組織する。

- (1) 校長
- (2) 教務主事及び教務副主事1名
- (3) 学生主事及び学生副主事1名
- (4) 専攻科長
- (5) 各科からそれぞれ1名
- (6) 事務室長及び両係長

(任務)

第4条 評価委員会は、次の事項を任務とする。

- (1) 内部アンケート（学生にたいする授業アンケート等）の実施及びその結果の分析並びに対応の検討。
- (2) 外部アンケート（卒業生、修了生、企業等にたいするアンケート等）の実施及びその結果の分析並びに対応の検討。
- (3) 外部評価及び自己評価に関する企画及び総括。
- (4) (1)～(3)に基づく学習・教育目標の達成度や教育研究等についての点検及び評価。

(委員長等)

第5条 評価委員会に委員長及び副委員長を置く。

- 2 委員長は、校長をもってあてる。
- 3 副委員長は、教務主事をもってあてる。
- 4 委員長に事故あるときは、あらかじめ委員長が指名する委員がその職務を代行する。

(プロジェクトチーム)

第6条 前条各号の任務及び評価委員会の業務を実施するため、プロジェクトチームを組織することができる。

- 2 プロジェクトチームの構成員は、副委員長が指名する。

(任期)

第7条 委員の任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。

附 則

この規定は、平成15年4月1日から施行する。

附 則

この規定は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規定は、平成17年8月1日から施行する。

将来計画委員会規程

制定 平成15年12月1日

(目的)

第1条 この規程は、将来計画委員会（以下「委員会」という。）の設置及び運営について必要な事項を定める。

第2条 委員会は、本校の更なる充実・発展をはかるために必要な将来計画に関する事項を審議する。

(構成)

第3条 委員会は校長、教務主事、学生主事、専攻科長、教育プログラム委員長、専門学科主任、一般科主任、事務室長、庶務係長、学生係長および庶務係、学生係の事務担当者で構成する。

2 委員長は校長とし、座長は校長が指名する。

3 委員長に事故があるときは、委員長が指名した委員がその職務を代行する。

(委員会の任務)

第4条 委員会の任務は、次の事項とする。

(1) 学校運営全般の将来計画に関する事項の審議。

(2) 評価委員会の点検事項に基づく教育改善の方針に関する審議。

(定足数および議決)

第5条 委員会の会議は、委員の過半数の出席をもって成立する。なお、委員が出席できない場合には、代理者の出席を認めるものとする。

2 議決を必要とするときには、出席委員（代理者を含む。）の過半数の同意をもって決する。

(会議の開催および運営)

第6条 会議は原則として毎月1回開催するものとし、委員長がこれを召集する。また、必要な場合には臨時に召集することができる。

2 委員会が必要と認めたときには、委員以外の関係職員の出席を求め、意見を聞くことができる。

3 委員会が必要と認めたときには、委員以外の関係職員を含めた小委員会を設けて、必要事項の審議を行うことができ、その審議結果を委員会に答申するものとする。

(他の委員会との関係)

第7条 他の委員会等と関係ある事項については、当該委員会等に措置を要請することができる。

2 委員会が特に重要であると認めた事項は、校務運営委員会に付議してこれを決定する。

(事務処理および記録)

第8条 会議に係る事務は、事務室で行う。

(改正)

第9条 この規程の改廃は、委員会の議を経て定める。

付 則

この規程は、平成15年12月1日から施行する。

付 則

この規程は、平成17年8月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

校務運営委員会規程

制 定 昭和45年4月1日
最終改正 平成16年3月31日

(目的)

第1条 この規程は、校務運営委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営に関して必要な事項を定めることを目的とする。

(構成)

第2条 委員会は、校長、教務主事、学生主事、図書館長、教育プログラム委員長、専攻科長、総合情報センター長、地域協働研究センター長、広報委員長、各科主任及び事務室長をもって構成する。

(委員会の任務)

第3条 委員会の任務は、次のとおりとする。

- (1) 校務運営に係る重要事項について協議すること。
- (2) 校務運営に係る連絡調整を行うこと。
- (3) 他の委員会に属さない校務運営に関する事項について協議すること。

(会議の開催)

第4条 会議は、原則として毎月第1月曜日に校長が招集する。ただし、第1月曜日が休日のときは、校長が別に定める。

(他の委員会との関係)

第5条 他の委員会に関係のある事項について、構成員以外の出席を求めることができるほか、他の委員会に処理を要請することができる。

(事務処理)

第6条 委員会に係る事務は、庶務係が行う。

(その他)

第7条 この規定の改廃は、委員会の議を経て定める。

附 則

この規程は、昭和45年4月1日から施行する。

(略)

附 則 (平14.3.)

この規程は、平成14年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

評価委員会[Check]で「4つの評価プロジェクト」を設置

平成18年4月19日

評価委員会レジュメ

各評価プロジェクトの設置 (案、敬称略)

- (1) 授業アンケートプロジェクト (リーダー: 松本 委員 (小林氏)、(大多喜))
 内容: 平成18年度授業アンケートの実施
 平成17年度授業アンケート結果の分析
 各科および各教科の総括をみていただいて、良好な点、改善点を要約いた
 いて、FD学習会で発表。
- (2) シラバスチェックプロジェクト (リーダー: 尾崎 委員 (桐倉))
 各科および各教科から提出されたシラバスチェックシート等を再点検
 問題があれば、所定の部署に返却して修正いただく。
- (3) 外部評価結果、外部アンケート結果、本科4、5年生の認定会議結果、専攻科の
 修訂認定会議結果、教育プログラムの修訂認定会議結果のチェックプロジェクト
 (リーダー: 赤対 委員 (道子))
 外部評価結果および外部アンケート結果の総括はすでにされている。これを
 PDCAを回して、各学科および各教科で検討いただいて、改善できる点を文章で
 提出いただく。各認定会議結果については、良好な点、改善点を整理いただき、何
 らかの形態で改善していきたい。
- (4) 教育改善事項報告書プロジェクト (リーダー: 松山 委員 (見玉))
 平成18年度教育改善事項の実施
 平成16、17年度報告書の分析、分析結果については何らかの形態で活かして生
 きたい。

- * 各プロジェクト2名で検討いただくが、必要なときは全員で対処。
- * 個々の内容については、暫時プロジェクトリーダーと打ち合わせさせていただく。
- * チェックが済めば、JABEE チェックリストにチェック済み (日付け) と記入いただき
 リーダーの押印をいただく。

出典: 平成18年4月19日 評価委員会レジュメ

校務運営委員会[PDCAの統括]で「4つの評価プロジェクト」を報告→全員に周知

平成18年度 第2回校務運営委員会議事録

日時：平成18年5月8日（月）15：50

場所：本部棟2階第1会議室

(協議事項)

なし

(報告・依頼事項)

1. 教務主事室関係について

(教務主事)

(1) 校務運営委員会議事録の教員への開示の周知について

H14年第1回校務運営委員会において協議済。

大事なものは、教職員全員に協議の趣旨・内容を正確に伝えること。

科内会議等で各科の主任から、適切に説明願いたい。

なお、会議録・資料等は事務室庶務係で整理保存する。

(2) 立命館大学推薦入試について

大学の学科で3名（本科生3名）、大学院のコースで1名（専攻科1名）、計4名

神戸高専内規の推薦基準は、本科生のものであり、専攻科は1年生の成績順位で願います。

5月中旬までに教務主事まで連絡のこと

(3) 教員の教育表彰における発表について

5月17日 FDを予定している。

副賞はそれぞれ、15万円をお願いしたい。

教育表彰内規等を整理する。

(4) H18年度共同研究費配分について

技術的研究について、奨励研究と同一テーマがでている。

再検討し、早急に調整し決定する。

メール等で、了解を取りたい。

(5) 評価委員会の報告・入試委員会の報告について

別紙のとおり

(6) 中学校説明会について

今年度は阪神地区も訪問。

すでに、要請がきているのでご協力よろしく。

入試関係の問い合わせに対するマニュアルは6月の初めに作成して

訪問時の参考にしていただく。

* その他、今年度新人の人に、海外研修の規定の説明よろしく。

2. 学生主事室関係について

(1) 5月12日(金) 学年学科行事

(学生主事)

5/12～5/13 1年野外活動（国立淡路青少年交流の家）

(2) 授業公開(5/27(土))の清掃依頼及び校内進入規制

各教室の清掃をお願いする。

保護者のみ入校を限定する。(友人等はダメ)

車での入校禁止。

(3) 前期中間試験の学習支援活動

※ 学習支援 6/7(水)～6/13(火)

6：00～8：30

(4) H18年度学生会委員決定

評議委員・課外活動委員

(次ページへ続く)

題名 評価委員会の報告および入試委員会の報告
 差出人 中辻武

中辻武 さんのコメントを転送します：
 各位

1. 評価委員会関係

授業アンケートプロジェクト（リーダー：松本久、委員：小林洋、大多喜）

- *平成17年度の日程と要領をリーダーに手渡す
- *5月度の評価委員会で18年度の日程と要領を提案いただく
- *5月に平成17年度授業アンケート結果の印刷が出来上がる予定
- *9月度のFD学習会で、授業アンケート総括の報告をリーダーにさせていただく
- *別件：FD委員会のアンケートのまとめは、9月度or10月度のFD学習会で報告していただく これらはこれで完了したい。

シラバスチェックプロジェクト（リーダー：尾崎進、委員：朝倉）

- *各科および各教科から提出されたシラバスチェックシート等を至急整理する。
- *それらをまずチェックいただく
- *非常勤科目については、シラバス自体の再チェックをいただく（教務主事室のシラバスを貸し出す）。専攻科ゼミナールの再チェックもしていただく。これらのボックスの確認もいただく。これで完了であればOK。そうでなければ訂正の指示を出していただく。

外部評価結果、外部アンケート結果、本科4、5年生の進級・卒業認定会議結果および専攻科修了認定会議結果、教育プログラム修了認定会議結果のチェックプロジェクト（リーダー：赤対、委員：道平）

- *外部評価、外部アンケート結果をリーダーに手渡す（リーダーから将来計画委員長 藤井先生に手渡していただく。その後、各科・各教科でD。（良好な点、改善点を検討いただき、実際に改善できる点、改善してきている点等を文章にして、教務主事室に提出いただく）。これで完了であればOK。そうでなければ、再度、PDCAを回していく。
- *各認定会議の結果には、議事録だけではなく、守秘資料として成績も振じる
- *これらをリーダーに手渡す。リーダーはJABEE基準1～5を参照して、認定の妥当性を検証する。これでOKであれば、OK。そうでなければ、PDCAを回していく。

教育改善事項報告書プロジェクト（リーダー：松山、委員：児玉）

- *平成18年度の実施
- *16年度と17年度報告書の分析。分析結果については、いずれかの方法で全教職員に公表。これでOKであれば、OK。そうでなければPDCAを回していく。

- ◎チェックが済んだ段階で教務主事室のJABEEチェックシートに日付け記入と押印をしていただく。
- ◎OKになれば、そのときの日付け記入と押印をしていただく。PDCAを回してOKになれば、そのときの日付け記入と押印をしていただく。

*その他、認証評価関係で、神戸高専の現状と課題を冊子化して、公表の必要有り

2. 入試委員会関係

本科入試—昨年度とほぼ同様な形態で実施の方向
 （公表と開示）

〔学力入試〕

公表—学力入試の総合得点 750点、（筆記試験：数学220点
 英語140点 国語140点 計500点 内申：計250点）

開示—各学科の合格者の最高点、平均点、最低点、本人の点数の開示

出典：平成18年度5月校務運営委員会議事録より

評価委員会で「4つの評価プロジェクト」等の報告後，[Do]の検討部署へ

平成18年11月29日

評価委員会レジュメ

各評価プロジェクトの仕事の確認（リーダー名の敬称略）

(1) 授業アンケートプロジェクト（リーダー：松本）

- ・ 11月度のFD学習会においてご講演いただいた。
（別紙資料の説明）終了後、JABEEチェックリストにチェック済み（日付け）と記入いただき、リーダーの押印をいただきたい。
- ・ 今後の日程

(2) シラバスチェックプロジェクト（リーダー：尾崎）

各科および各教科から提出されたシラバスチェックシート等を再点検し問題があれば、将来計画委員会（Action）、K-pro（Do）を経て、所定の部署に返却して修正いただく。
特に、非常勤および専攻科ゼミナールのシラバス内容のチェックをお願いする。… チェックが済み次第、教務主事室へ連絡

(3) 外部評価結果、外部アンケート結果、本科4，5年生の認定会議結果、専攻科の修了認定会議結果、教育プログラムの修了認定会議結果のチェックプロジェクト （リーダー：赤対）

外部評価結果および外部アンケート結果の総括はすでにされている。これをPDCAを回して、各学科および各教科で検討いただいて、改善できる点を文章で提出いただく。各認定会議結果については、良好な点、改善点を整理いただき、何らかの形態で改善していきたい。結果が出ていれば将来計画委員会に回したい。

(4) 教育改善事項報告書プロジェクト（リーダー：松山）

平成18年度教育改善事項の実施

平成16，17年度報告書の分析、分析結果については何らかの形態で活かして生きたい。（16年度は教務として入手した。17年度をおまとめください。）両結果を、将来計画委員会に回したい。

- * 各プロジェクト2名で検討いただくが、必要なときは全員で対処。
- * 個々の内容については、暫時プロジェクトリーダーと打ち合わせさせていただく。
- * チェックが済めば、JABEEチェックリストにチェック済み（日付け）と記入いただき

リーダーの押印をいただく。PDCAを回して完了すれば、チェックリストにその旨明記。リーダーの押印をいただく。

(5) 冊子“神戸高专の現状と課題”の作成と外部への配布

まとめ、冊子化、外部に配布。立案は教育プログラム委員会。作業は評価委員会全員。

（次ページへ続く）

<平成18年度11月29日評価委員会記録>

11月度評価委員会会議議事録

日時：平成18年11月29日(水) 15:00~16:10

場所：第1会議室

出席者：黒田校長，中辻教務主事，中川学生主事，樽谷事務室長，赤対専攻科長，小林(洋)，朝倉，道平，尾崎(進)，松本，松山，児玉，大多喜，戸崎(書記)，三木主幹，枝澤学生係長

1. 校長より

宜しくご議論下さい。

2. JABEE最終審査報告の確認(ⅡとⅢの判定)

- ・3.2(2)，3.2(4)学生による達成度[校務運営委員会で報告]
- ・3.3(4)科目間連携[英語，人文社会と専門科との科目間連携
[現在プロジェクト進行中]]
- ・5(2)他高専からの入学[豊橋技術大学を参考に検討中]
- ・6.1(1)教育点検 PDCA 現在進行中
- ・3月までには完了させたい。ご協力をお願いします。

2-(1) 授業アンケートプロジェクト

- ・11月度FD発表会で講演頂いた。
- ・今後の日程
後期および通年科目のアンケートの依頼文書の確認
- ・日程確認された。
- ・アンケート用紙の保管は2年間保管で確認された。
- ・教員によるアンケート結果の報告を受けて，指導方法に関してもう少し詰めて今後議論する必要あり。

2-(2) シラバスチェックプロジェクト

シラバスチェックの結果より

- ・評価方法にレポート評価が書かれていないのに，総合評価でレポート評価が書かれている教科が多く見られた。改善の必要あり。
- ・評価基準が記述されていない科目が多い。
- ・来年度のシラバス作成に反映させたい。
- ・この報告を将来計画委員会で報告する。その後校務運営委員会，教務委員会へアクションする。
- ・結果の内容のとおり，レポートの位置付けが確認された。
- ・K-proと連携し，教官会議やその他の場所でミスを減らすように注意を促す。
- ・細かいマニュアル，模範記入例があればよいとの意見があった。

2-(3) 外部評価，外部アンケート結果，本科4,5年の認定会議結果，専攻科の終了認定会議結果，教育プロジェクトの修了認定会議結果のチェックプロジェクト

- ・中間報告がなされた。
- ・各自確認後，次回の会議で検討する。
- ・外部評価報告書に対する各科の見解を再度依頼する。
- ・専攻科修了認定委員会の運営母体の確認がなされた。

2-(4) 教育改善事項

- ・資料はできている。教務主事まで提出および相談の後，次回の会議で提出する。

3 その他

- ・最終審査結果報告において一部の科目のシラバスの指摘があったが？
- ・具体的にはないが，推察はできている。
- ・具体的にわかっているのであれば，連絡をしたほうが良いのでは？
- ・具体的にはわかっていないが，改善はされているようだ。
- ・各科シラバスチェック時前に，教務主事・K-pro委員長と各科主任との打ち合わせ会を持ちたい。

(次ページへ続く)

<各プロジェクトの報告など>

2006,11,29

**評価委員会「外部評価・外部アンケート結果
および各種認定会議結果のチェックプロジェクト」報告書（中間報告）**

プロジェクトリーダー：赤対、委員：道平

本プロジェクトの目的は、(1)外部評価結果および外部アンケート結果において指摘されている項目の中で、改善できる点をまとめる。(2)本科4、5年生の認定会議結果、専攻科の修了認定会議結果および教育プログラム修了認定会議結果について、良好な点と改善できる点を整理する。ことである。

(1)については、「PDCAのCAプロジェクト報告書(平成17年5月25日)」をさらに整理して改善できる点を絞り込む。また、(2)については、平成17年度の各種認定会議の判定資料および議事録等から良好な点と改善できる点をまとめる。

(1) 外部評価結果および外部アンケート結果

「外部評価報告書(2004年3月)」に対する各科の見解は、すでに「外部評価結果に対する各科の見解」(2004年12月)として報告されている。その後、約2年が経過しているが、各科でどのような対応がなされたのか、チェックする必要がある。

→検討部署：各科

次に、「PDCAのCAプロジェクト報告書(平成17年5月25日)」に対して、夏休み期間中に各科から得られた回答と本プロジェクトメンバーの意見を総合してまとめた。

1. 一般教育

一般教育で修得した基礎学力を定着させるため、また学生自身に目標をもたせるため、3年終了時に「総合試験(仮称)」の実施が指摘されている。試験時期、試験科目、試験問題、試験結果の成績への反映方法などを検討する必要がある。

→検討部署：一般科、k-pro委員会

2. 専門教育(実験実習を含む)

実際に議論が進んでいるところや実践している学科もあるが以下のような対応を検討する必要があると思われる。

○実験テーマについて

- ・カリキュラムを改訂していく中で、講義科目の学年移動がある場合、実験テーマと講義の整合性がとれるように対応させる。
- ・講義内容の理解が深まるような新たなテーマを立ち上げる。
- ・創造性や企画力を養うテーマを提案する。従来のように、ある程度、結果がわかっていることをするのではなく、考え方によっては結果が様々なものになるような実習が必要である。また、この様々な結果の中でどの結果が一番優れているかなど議論し、決定するような取組みも有効ではないかと思われる。

○実験実習装置について

古くからある装置や概念も重要であるが、科学の進歩の中でもうほとんど使われなくなった装置などを操作できてもあまり実用性がなく、ある程度、近年一般的に扱われている装置で実習することが重要と思われる。工学系の学校にとって、特に即戦力のエンジニアを育成する高専において設備更新は重要である。

→検討部署：各専門科、専攻科運営委員会、k-pro委員会

(次ページへ続く)

(2) 平成17年度各種認定会議（4年生以上）結果**1. 良好な点**

- (1) 各学生の履修・取得、出席状況の一覧表が提示されている。
- (2) 会議の資料は重要書類としてナンバリングされ、管理がしっかりとされている。
- (3) 司会進行もマニュアル化されておりスムーズである。

2. 改善が必要な点**本科卒業・進級会議全般に関する点**

- (1) 各学年で会議の出席表が添付されているが、出席すべき先生と、実際に出席した先生を区別して表示すべきである。また欠席者の理由を明示しておくべきである。
- (2) 認定会議の進め方で、「〇〇を認めてよろしいでしょうか」「意義なし」の繰り返しが行われているが、「意義なし」と声を出して同意する教員は少なく、また発言した教員を特定できないため責任の所在が不明である。さらには議事が進行するにつれて、「意義なし」の発言が減っている。これを改善するには、逆の聞き方をしてはどうか。つまり「〇〇が認めれますが、意義のある方は挙手をお願い致します」「ないようですので、〇名の〇〇が認められました。」
- (3) 会議に先立ち、資料の追加修正が行われるが、時間のロスである。主事室の責任で、事前に修正したものを配布すべきである。
- (4) 在籍、欠点なし、欠点保有、進級不可の数が、学年ごとに一覧表にまとめられている。それを整理すると、以下のとおりとなる。4年生の欠点保有者が他の学年に比べおおよそ倍になっている。この原因と対策を検討する必要がある。また、在籍は、年度始めの数を記録すべきであり、その数を基準に各割合を求め評価する必要がある。
- (5) 下記のとおり3年、4年の進級不可者が多い。その原因と対策を検討する必要がある。

5学年のデータを整理すると

	在籍者	欠点なし進級	欠点保有	進級不可
5年	220	166(75.5%)	54(24.5%)	1(0.5%)
4年	231	141(61.0%)	90(39.0%)	27(11.7%)
3年	240	186(77.5%)	54(22.5%)	13(5.4%)
2年	240	199(82.9%)	41(17.1%)	3(1.3%)
1年	241	201(83.4%)	40(16.6%)	4(1.7%)

→検討部署：教務主事室

平成17年度卒業認定会議

- (1) 5年生の再評価期間が、3/2～3/9となっているが、4年生以下で実施されている1年間をかけた再評価と比べると、非常に短期間に行われている。単に形式的な再評価となっていないか、チェックする必要がある。
- (2) 5年生で留年することになった学生の所属する学科主任より、認定会議の席で以下の提案があった（議事録より）。
「欠点科目を5科目もって5年生に進級しても、その後が難しい。再評価許可科目数を考え直したほうがよいのではないか」。この提案を真摯に受止め、検討するべきである。
- (3) M5D で結果次数が282時間の学生も卒業が認められている。1/3までの欠課時数が認められているが、この数字は大きいと考えられる。他高専では、厳しいところで1/5のところもあり、また表記すらしていない高専もある。本校も見直す時期ではないだろうか。
- (4) 逆に、皆勤の学生を表彰するのはどうであろう。皆勤賞は5年生ではクラスに数名程度である。

→検討部署：教務委員会

出典：平成18年度11月29日評価委員会より

評価委員会から将来計画委員会[Action]へ

平成18年度第7回将来計画委員会 2007年1月24日

校長(委員長)、藤井(座長)、中辻、赤対、尾崎、松田、林、杉、中西、吉川、
樽谷、三木、枝澤、松本、教育プログラム委員長:尾崎進;欠席:中川

1 規約改正について(座長)

校長の提案部分を追加して別紙のとおり修正した。承認。

2 教育研究業績書について(校長、教務主事)

資料:①「認証評価選択的評価事項の分析にあたっての留意点等について」、②「自己評価書イメージ」

提案:来年度より高専の職階が改定されるにあたり、教育研究業績書の教員全員(本年度末退職者を除く)の提出を提案する。

質問:その必要性何か

回答:今回の改訂は准教授、助教の新設を含めた高専の職階全体の見直しと考える。すべての職階でその求められる資質が新たに定められた。また、教員の業績をデータベースとして整えておくことは認証評価の準備としても必要である。

質問:各教員の作業が大変である。事務室に過去のデータがあるのではないか。

回答:事務室に最近のものはあるが、個人ごとに分類はしていない。

意見:このようなデータは今後必要となるのでこの機会に作っておくべきである。

結論:事務室で提供できる資料はできるだけ利用の便宜を図ることを要望して、これを実施。

3 認証評価、自己評価書について(教育プログラム委員長)

資料:①認証評価における「基準1 高等専門学校の目的」について、②「自己評価書イメージ」の要約、③「認証評価の概要」

説明および提案:

(1) 本校の目的の中で特に、4「養成すべき人材像」および、5「卒業(修了)時に身につけるべき学力や資質・能力」について具体的な教育目標を作っておく必要がある。これが自己評価書の基本になるので十分議論してほしい。

(2) 学習等達成度記録簿について、科目ごとにシラバスに書かれた到達目標の達成度評価を学生が端末上で入力し、これをコンピュータ上で積算する方法で行いたい。

意見:担当教員の労力が大きいのではないか。以前に行った方法を変更するのかわ。

回答:シラバスの達成目標で行う方が学生は評価しやすい。この方法は担任の負担も少ない。

結論:この方法で実施。

4 本校の教育目標(案)(教務主事)

資料:認証評価基準1「高等専門学校の目的」(案)

説明:準学士課程学科ごとの学習・教育目標の修正を加味した基準1のⅡ「目的」案について、3月中にまとめたいので点検をお願いします。

(次ページへ続く)

5 評価委員会のチェック結果についての報告（教務主事）

資料：「評価委員会報告書」

説明：評価委員会でチェックされた各事項の取り扱いについて次のように提案する。

（詳細は、評価委員会報告書および各プロジェクト議事録参照）

（1）外部評価結果および外部アンケート結果

各科での対応のチェックが必要（保留）

（2）PDCAのCAプロジェクト報告書に対する各科の回答

1 一般教育：改善方法をP→K-pro委員会（3学年終了時の総合試験実施等）

2 専門教育（実験実習を含む）：エンジニアリングデザイン教育あるいはPBL教育についてP→各専門科等

3 語学教育：講義時間、ネイティブ教員の配置についてP→K-pro委員会
留学生の受け入れA→将来計画委員会

3学年終了時の総合試験実施等P→K-pro委員会

4 卒業研究：指導体制、指導方法A→各専門科

→将来計画委員会（複数教員の指導体制）

5 情報教育：内容の見直し、システムの整備A、P→総合情報センター

6 インターンシップの必修化、長期化P→K-pro委員会

7 クラブ活動の充実：充実させるための方策の検討A、P→学生委員会

（3）平成17年度各種認定会議（4年生以上）結果

指摘された改善事項、検討事項A、C→教務主事室、K-pro委員会ほか関連委員会

以上、評価委員会の報告、提案（改善案）を了承。

6 その他（座長）

情勢分析を中心に中間報告をまとめたい。

次頁の2007.1.24評価委員会

「外部評価・外部アンケート結果および各種認定会議結果のチェックプロジェクト」報告書に続く

（次ページへ続く）

2007,1,24

評価委員会「外部評価・外部アンケート結果
および各種認定会議結果のチェックプロジェクト」報告書

プロジェクトリーダー：赤対、委員：道平

本プロジェクトの目的は、(1)外部評価結果および外部アンケート結果において指摘されている項目の中で、改善できる点をまとめる。(2)本科4、5年生の認定会議結果、専攻科の修了認定会議結果および教育プログラム修了認定会議結果について、良好な点と改善できる点を整理する。ことである。

(1)については、「PDCAのCAプロジェクト報告書(平成17年5月25日)」をさらに整理して改善できる点を絞り込む。また、(2)については、平成17年度の各種認定会議の判定資料および議事録等から良好な点と改善できる点をまとめる。

(1) 外部評価結果および外部アンケート結果

「外部評価報告書(2004年3月)」に対する各科の見解は、すでに「外部評価結果に対する各科の見解」(2004年12月)として報告されている。その後、約2年が経過しているが、各科でどのような対応がなされたのか、チェックする必要がある。

→検討部署：各科

本件については、2006年12月に各科から回答を頂いた。本報告の最後に添付する。

次に、「PDCAのCAプロジェクト報告書(平成17年5月25日)」に対して、夏休み期間中に各科から得られた回答と本プロジェクトメンバーの意見を総合してまとめた。

1. 一般教育

一般教育で修得した基礎学力を定着させるため、また学生自身に目標をもたせるため、3年終了時に「総合試験(仮称)」の実施が指摘されている。試験時期、試験科目、試験問題、試験結果の成績への反映方法などを検討する必要がある。

→検討部署：一般科、kpro委員会

2. 専門教育(実験実習を含む)

実際に議論が進んでいるところや実践している学科もあるが以下のような対応を検討する必要があると思われる。

○実験テーマについて

- ・カリキュラムを改訂していく中で、講義科目の学年移動がある場合、実験テーマと講義の整合性がとれるように対応させる。
- ・講義内容の理解が深まるような新たなテーマを立ち上げる。
- ・創造性や企画力を養うテーマを提案する。従来のように、ある程度、結果がわかっていることをするのではなく、考え方によっては結果が様々なものになるような実習が必要である。また、この様々な結果の中でどの結果が一番優れているかなど議論し、決定するような取組みも有効ではないかと思われる。

○実験実習装置について

古くからある装置や概念も重要であるが、科学の進歩の中でもうほとんど使われなくなった装置などを操作できてもあまり実用性がなく、ある程度、近年一般的に扱われている装置で実習することが重要と思われる。工学系の学校にとって、特に即戦力のエンジニアを育成する高専にお

(次ページへ続く)

て設備更新は重要である。

→検討部署：各専門科、専攻科運営委員会、k-pro 委員会、予算委員会

3. 語学教育

英語に関しては、センター試験、大学受験だけに必要になっているのではなく、今は学部卒、修士卒も含む全てのエンジニアに英語力は必要とされるようになってきている。企業に入り、学部卒や修士卒と比べ英語力が明らかに劣っているとすれば、高専卒業生が職場で仕事をしていく上でこれが大きな障壁になる可能性があると思念される。これを踏まえれば、高専としても相応の英語力の向上は不可欠であると思われる。特に、単語、熟語の絶対量を確保することは重要と思われる。英語科だけの問題ではなく、学校全体として対処ししっかりとした指針を示すことが重要と思われる。

対応策と問題点として、以下のようなことが挙げられている。

○英語の講義時間の増加

英語の時間数を増やすことは、全体の単位のバランスも考慮しながら配当していく必要があり英語科だけの問題ではなくなるので、全体的な議論が必要。

○ネイティブな外国人講師の配置

3ヶ月という短期間ではなく、年間を通じて配置する必要がある。常勤が望ましい。

○留学生の受け入れ

留学生が身近にいることの効果は高いと考えられるが、本校には寮がないので、この点も含めて検討する必要がある。

→検討部署：英語科、各専門科、専攻科運営委員会、k-pro 委員会

4. 卒業研究

卒業生のアンケートでは、「卒業研究」は、良かった点で第4位、悪かった点で第3位と相反する回答となっている。これは、教員一人で担当する従来からの指導体制や指導方法にひとつの原因があると指摘されている。複数人の指導体制や一般科教員の参画などの検討が必要である。

→各専門科、専攻科、一般科

5. 情報教育

本校の教育目標に「国際・情報都市神戸」がキーワードとして取り上げられており、それを十分に補うだけの情報教育が必要である。また社会の要請が急激に変化する分野でもあり、常に教育内容の見直しおよび情報関連システムの整備が必要である。

→担当部署：各専門科、専攻科運営委員会、総合情報センター、k-pro 委員会、予算委員会

6. インターンシップの必修化および長期化

本科のインターンシップを必修化し、また専攻科のインターンシップを必修化および長期化することが望ましい。

→検討部署 k-pro 委員会 専攻科運営委員会

7. クラブ活動の充実

卒業生のアンケートでは、高専教育のよかった点として、「クラブ活動」を回答したのは93%で第2位であった。第1位の「実験実習」の93.9%と同程度に高率である。CAプロジェクトでは、低学年では時間割上放課後に十分な時間が取れるように配慮することが指摘されている。また学校の指導体制や設備の充実等、クラブ活動をより充実させるための方策を検討する必要がある。

→検討部署 学生委員会 クラブ顧問会、教務委員会、予算委員会

(次ページへ続く)

(2) 平成17年度各種認定会議（4年生以上）結果**1. 良好な点**

- (1) 各学生の履修・取得、出席状況の一覧表が提示されている。
- (2) 会議の資料は重要書類としてナンバリングされ、管理がしっかりとされている。
- (3) 司会進行もマニュアル化されておりスムーズである。

2. 改善が必要な点**本科卒業・進級会議全般に関すること**

(1) 各学年で会議の出席表が添付されているが、出席すべき先生と、実際に出席した先生を区別して表示すべきである。また欠席者の理由を明示しておくべきである。

(2) 認定会議の進め方で、「〇〇を認めてよろしいでしょうか」「意義なし」の繰り返しが行われているが、「意義なし」と声を出して同意する教員は少なく、また発言した教員を特定できないため責任の所在が不明である。さらには議事が進行するにつれて、「意義なし」の発言が減っている。これを改善するには、逆の聞き方をしてはどうか。つまり「〇〇が認めれますが、意義のある方は挙手をお願い致します」「ないようですので、〇名の〇〇が認められました。」

(3) 会議に先立ち、資料の追加修正が行われるが、時間のロスである。主事室の責任で、事前に修正したものを配布すべきである。

(4) 在籍、欠点なし、欠点保有、進級不可の数が、学年ごとに一覧表にまとめられている。それを整理すると、以下のとおりとなる。4年生の欠点保有者が他の学年に比べおおよそ倍になっている。この原因と対策を検討する必要がある。また、在籍は、年度始めの数を記録すべきであり、その数を基準に各割合を求め評価する必要がある。

(5) 下記のとおり3年、4年の進級不可者が多い。その原因と対策を検討する必要がある。

5学年のデータを整理すると

	在籍者	欠点なし進級	欠点保有	進級不可
5年	220	166(75.5%)	54(24.5%)	1(0.5%)
4年	231	141(61.0%)	90(39.0%)	27(11.7%)
3年	240	186(77.5%)	54(22.5%)	13(5.4%)
2年	240	199(82.9%)	41(17.1%)	3(1.3%)
1年	241	201(83.4%)	40(16.6%)	4(1.7%)

→検討部署：教務主事室

平成17年度卒業認定会議

(1) 5年生の再評価期間が、3/2～3/9となっているが、4年生以下で実施されている1年間をかけた再評価と比べると、非常に短期間に行われている。単に形式的な再評価となっていないか、チェックする必要がある。

(2) 5年生で留年することになった学生の所属する学科主任より、認定会議の席で以下の提案があった（議事録より）。

「欠点科目を5科目もって5年生に進級しても、その後が難しい。再評価許可科目数を考え直したほうがよいのではないか」。この提案を真摯に受止め、検討するべきである。

(3) M5Dで欠課時数が282時間の学生も卒業が認められている。1/3までの欠課時数が認められているが、この数字は大きいと考えられる。他高専では、厳しいところで1/5のところもありまた表記すらしていない高専もある。本校も見直す時期ではないだろうか。

(4) 逆に、皆勤の学生を表彰するのはどうであろう。皆勤賞は5年生ではクラスに数名程度である

→検討部署：教務委員会、学生委員

(次ページへ続く)

4年生の進級認定会議

- (1) M4Cにおいて、欠時 349 時間の学生が進級しているが問題である。
 (2) クラス平均 60 点を切りそうな科目が見受けられる。(C4:60.1、S4:60.5)

→検討部署：教務委員会

平成17年度専攻科修了認定会議

- (1) 参加者が教員 44 名となっているが、出席人数のみが随事録にあり、出席表は添付されていない。また出席すべき先生も示されていない。
 (2) 運営母体はどこであるのか明確にするべきである。専攻科運営委員会（専攻科長）と教務主事室との関係があいまいである。特に成績処理については慎重に検討する必要がある。

→検討部署：専攻科運営委員会、教務主事室

教育プログラム「工学系複合プログラム」修了認定会議

- (1) 会議が一部の教員によって行われているが、本来、専攻科修了認定会議と同じメンバーが参加すべきではないだろうか。
 (2) 書類が煩雑である。本科のように、もっと簡素化できないものだろうか。
 (3) コンタクトタイムが問われていることより、最低基準は規定しないまでも、本科のように欠席時数もデータとして残す必要があると思われる。

→検討部署：k-pro 委員会

以上のように、改善すべき、または、検討すべき項目について報告した。現状を考えれば、早急に対応できる項目は少ないのが実情である。ただ、すべては卒業する学生がしっかりと企業、社会で活躍できるためにということを念頭に置き、積極的な議論、検討、改善を進めて行くべきである。

出典：平成18年度 第7回将来計画委員会より（平成19年度1月24日）

平成19年度から 教育プログラム委員会[Plan] へ

平成19年4月23日

4月度 教育プログラム委員会レジュメ

1. JABEE 中間審査各基準プロジェクトについて
別紙案参照
技術者教育プログラム中間審査申請書は、別紙の如く4月10日に発送済み。
2. 機関別認証評価各基準プロジェクトについて
(神戸高専の現状と課題プロジェクトについて)
別紙案参照
3. 機関別認証評価自己点検書作成の参考資料
近々に教務室に設置予定
4. エンジニアリングデザイン教育 (PBL 教育)
各科、赤対先生に提出ください
5. JABEE 修了要件と専攻科修了要件の一致
このような方向性は決まっているが、細部の検討については、次回以降
6. PDCA の流れ (次回以降の立案)
 - ・ 1/3 の欠課時数の検討。
 - ・ 3年生での総合試験の検討。
7. 19年度教育プログラム修了生版 (表3, 6, 9) の作成及び教員履歴等
(次回以降検討)
- B. FD 委員会 (次回以降検討)
8. その他

次回 5月30日(水)
15:00 ~ k-pro委員会予定

全体会議事録
町田先生

観点2-2-②： 一般科目及び専門科目を担当する教員間の連携が、機能的に行われているか。

(観点に係る状況)

一般科目と専門科目の連携は、日常的に行われているが、とくに組織的に実施した例を以下に示す。

(1) 数学・応用数学と専門科目の連携および物理・応用物理と専門科目の連携(資料2-2-②-1)

これらの連携は、平成16年度に実施し、資料に示すとおり「個々の専門科目で使用する数学や物理は、数学や物理の各学年で教授する内容と概ねマッチングしている」ことがわかった。これにより従来、数学教科や物理教科でその内容の学年配当を決めてきていたことと、専門科目で使用する数学や物理の内容に整合性があることが明確になった。また、一部ではあるが、専門科目で使用する数学や物理の内容を学生が把握していないことも明らかになった。これについては、今後の課題であるが少なくとも本資料により、専門科目を教える際に、数学や物理の不足分に対する配慮が必要であることが確認できた。なお、これを契機に(2)で後述するように、電気工学科と電子工学科において、電気電子回路や電磁気学等を理解するのに重要な「電気数学」を本科2、3学年に新設することになった。

(2) 数学と電気・電子専門科目との連携(資料2-2-②-2)

電気・電子回路や電磁気学等を理解するのに重要な「電気数学」については、資料に示すとおり、平成18年度に他高専との連携のもとに「高専だからできる一般科カリキュラム」と題してさらに研鑽を深め、高専としての共通の教科書作りを行うことに発展した。

(3) 英語・人文社会系科目と専門科目との連携(資料2-2-②-3)

平成18年12月5日に標記の連携会議を開催した。会議では英語・人文社会系のシラバスに基づいて、教科の内容が説明された後、各専門学科での英語や人文社会系科目の活用状況等の説明を行い、ディスカッションが行われた。以下にそのときの要点を記述する。

(英語)

- ・ 連携はできている。よりよい“英語”の教育実践のために、さらに連携しスパイラルアップをしていくことを確認した。
- ・ 受験がないから英語を学習することに対する動機付けが難しい。単語量や英文読解力が不足(本科3年生での総合試験の必要性を示唆している)。
- ・ 教室英語は逐語訳になってしまっている。低学年では、1文をしっかり理解させることに主眼が置かれてしまう。
- ・ しかしながら、やる気がある学生はしっかり伸びる。
- ・ 最近、アブストラクトを書かせると、英文がしっかりできている。指導の成果ではないか。反面、長い文章になる傾向もある。
- ・ 全校学生の英語の勉強量が絶対的に少ない。その中でもTOEIC700点以上取る学生がいる。

英語および関連する専門科目双方を合わせても少ない授業時間の中で、学生にいかに動機付けをし、自己学習に励む方向へ導けるかということが、この連携における課題との共通認識を持つに至った。

(人文社会系科目)

- ・ 地理、歴史(日本史、世界史)、政治経済、哲学、思想、倫理、論理学等の人文社会系科目は、教科間の連携を取っており、すべての科目において近代から現代までの内容に主眼を置

いたシラバス内容になっていることを確認した。これは将来エンジニアとして巣立っていく学生が持つべき素養を考慮してのことである。

- ・ しかし、例えば歴史であれば、古代から現在までの進展史を把握するなどの一般教養も必要ではないか。限られた授業時間であるので現状そこまではできない。これに関しては自己学習するよう動機付けを促していきたい。
- ・ 分業が進む大企業とは違い、中小企業においてはコスト計算等がエンジニアにも求められる。この点について政治経済の授業の中で取り扱うのは、時間的にも難しい。インターンシップの中で取り組めないか検討の必要がある。

インターンシップを社会的関心への動機付けとして活用するという提案は新しい観点と考えられる。また、英語同様、授業・教科内容をいかに自己学習につなげるか、ということについて、双方がその重要性を再確認できたことにも連携会議の意義があったと考える

(分析結果とその根拠理由)

以上のように、一般科目と専門科目の連携は機能的に行われている。

数学・応用数学と専門科目の連携および物理・応用物理と専門科目の連携について

本科における数学・応用数学および物理・応用物理と 各専門科目の科目間連携表

作成者： 科目間連携プロジェクトリーダー 末次

各科教務委員 長野、和田、山本、笠井、九鬼、嵯峨、手代木

作成完了： 平成17年1月

(次ページへ続く)

機械工学科

全体的な説明

平成17年度より、電気工学（M3D 後期、M4D 前期）がM3D通年開講となり、若干の不整合が生じるが、対処方法は下記（1）電気工学（M3C 前期）と同様である。また、電気・電子回路（M5C通年）は平成17年度より、第3学年での開講となるが、科目間の不整合は生じない。

平成16年度時点では、電子工学（M4C 前期）は物理との関連では不整合が生じているが、本科目は平成19年度より第5学年に移行するため、この不整合は解消する。

また、応用物理（4年通年）と機械力学（5年後期）は平成18年度以降、応用物理（4年半期）、機械力学Ⅰ（4年前期）、機械力学Ⅱ（4年後期）に再編されるが、この際に生じる新たな不整合については今後対処法を検討していく。

1. 数学・応用数学と専門教科でカリキュラムの不整合がある箇所とその対処について

（1）電気工学（M3C 前期）

<複素数>

電気工学で必要となる複素数の最低限の知識について教えている。本科目では、複素数を道具として使いこなせることを求めており、複素数の厳密な数学的定義などは応用数学に委ねている。

（2）材料力学（M3D、C 前期）

<重積分、微分方程式と解、2階微分方程式>

材料力学で必要となる最低限の知識について教えている。重積分、微分方程式の厳密な数学的意味合いなどは数学に委ねている。3年後期に数学で本格的に重積分、微分方程式の学習をする上で動機付けの役割も果たしている。

（3）自動制御（M4C 前期）

<ラプラス変換・逆変換、ラプラス変換の応用、フーリエ級数とフーリエ変換>

ラプラス変換は伝達関数など自動制御を学ぶ上で必須の基礎知識であるため、定義に基づいて各種関数への適用例や積定理並びに、その応用例について、授業の当初から約6回講義している。応用数学では、4年後期に数学的により一般的な形で扱う。

2. 物理・応用物理と専門教科でカリキュラムの不整合がある箇所とその対処について

（1）電気工学（M3C 前期）

<電界、電位、誘電体、磁性体>

電気工学で必要となる電磁気の最低限の知識について教えている。電磁気の厳密な物理的意味合いなどは物理に委ねている。3年後期に応用物理において本格的に電磁気の学習をする上で、動機付けの役割も果たしている。

（2）加工工学（M3D 後期）

<単振動、減衰振動>

加工工学の中で工具、工作機械の振動と防振対策は重要な部分である。振動問題を理解させる為

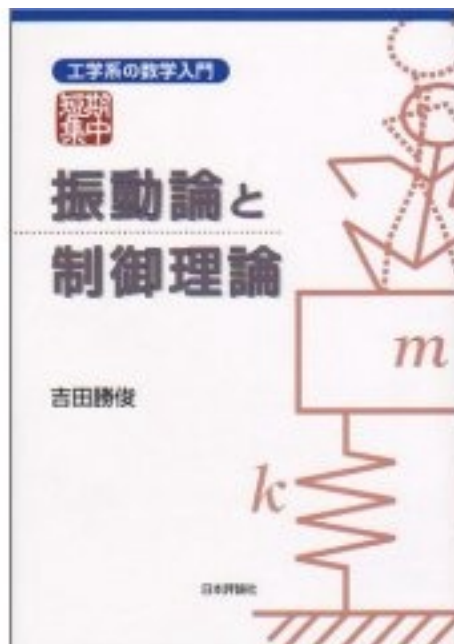
（次ページへ続く）

にはコンピュータシミュレーションで単振動と連成振動現象を把握させ、これの防振と減衰効果を高めるにはどうしたらよいか簡単に解説する。

(3) 電子工学 (M4 C 前期)

<原子構造、放射線と物質との相互作用>

4年生の電子工学前期では電子の真空中での振舞いや原子内での電子の運動などの基礎的なことを理解していなければ、ダイオードやトランジスタ、レーザー、太陽電池などの原理を理解することが困難である。その為、ポーアの量子条件や光電効果についてこの授業で先に説明している。



(次ページへ続く)

数学 科目関連図(機械工学科 Dコース) (1・2・3年)

		1年		2年					3年												
		前	後	前期		後期	前期			後期											
		情報基礎	情報基礎	情報処理	材料工学	機械工作法	材料工学	機械工学概論	工業力学	材料力学	機械設計	材料工学	加工工学	機械学	応用物産	工業力学	材料力学	機械設計	電気工学	材料工学	加工工学
*平成17年度より削除																					
1年	前期	数と式の計算	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	後期	方程式と不等式																			
2年	前期	2次関数			○	○															
	後期	いろいろな関数			○																
3年	前期	場合の数																			
	後期	確率の基礎																			
4年	前期	指数関数・対数関数			○				○	○	○			○	○	○	○				○
	後期	三角比とその応用			○				○	○	○			○	○	○	○				
5年	前期	三角関数			○				○	○	○			○	○	○	○				○
	後期	直線と2次曲線			○				○	○	○			○	○	○	○				
6年	前期	数列			○				○	○	○			○	○	○	○				
	後期	関数の極限							○	○	○			○	○	○	○				○
7年	前期	微分							○	○	○			○	○	○	○				○
	後期	関数の変動と極値							○	○	○			○	○	○	○				○
8年	前期	微分のいろいろな応用							○	○	○			○	○	○	○				○
	後期	平面のベクトル							○	○	○			○	○	○	○				○
9年	前期	積分							○	○	○			○	○	○	○				○
	後期	体積などへの応用							○	○	○			○	○	○	○				○
10年	前期	積分のいろいろな応用							○	○	○			○	○	○	○				○
	後期	空間のベクトルと図形							○	○	○			○	○	○	○				○
11年	前期	行列の基礎							○	○	○			○	○	○	○				○
	後期	数列の極限と級数							○	○	○			○	○	○	○				○
12年	前期	関数の展開							○	○	○			○	○	○	○				○
	後期	偏微分							○	○	○			○	○	○	○				○
13年	前期	偏微分の応用							○	○	○			○	○	○	○				○
	後期	行列式の性質							○	○	○			○	○	○	○				○
14年	前期	行列式の応用							○	○	○			○	○	○	○				○
	後期	重積分							○	○	○			○	○	○	○				○
15年	前期	変数の変換と重積分							○	○	○			○	○	○	○				○
	後期	微分方程式と解							○	○	○			○	○	○	○				○
16年	前期	2階微分方程式							○	○	○			○	○	○	○				○
	後期	線形変換							○	○	○			○	○	○	○				○
17年	前期	固有値とその応用							○	○	○			○	○	○	○				○
	後期	複素数							○	○	○			○	○	○	○				○
18年	前期	複素関数							○	○	○			○	○	○	○				○
	後期	複素関数の微分							○	○	○			○	○	○	○				○
19年	前期	複素関数の積分							○	○	○			○	○	○	○				○
	後期	行列の演算と一次変換							○	○	○			○	○	○	○				○
20年	前期	一次独立と階数							○	○	○			○	○	○	○				○
	後期	連立一次方程式							○	○	○			○	○	○	○				○
21年	前期	行列式の性質と展開							○	○	○			○	○	○	○				○
	後期	固有値と固有ベクトル(複素)							○	○	○			○	○	○	○				○
22年	前期	内積と正規直交系(複素)							○	○	○			○	○	○	○				○
	後期	行列の対角化(複素)							○	○	○			○	○	○	○				○
23年	前期	ラプラス変換・逆変換							○	○	○			○	○	○	○				○
	後期	ラプラス変換の応用							○	○	○			○	○	○	○				○
24年	前期	フーリエ級数とフーリエ変換							○	○	○			○	○	○	○				○
	後期	確率分布							○	○	○			○	○	○	○				○
25年	前期	データの整理							○	○	○			○	○	○	○				○
	後期	標本と推定							○	○	○			○	○	○	○				○
26年	前期	検定							○	○	○			○	○	○	○				○
	後期								○	○	○			○	○	○	○				○

(次ページへ続く)

物理 科目関連図(機械工学科 Dコース) (1・2・3年)

		1年		2年					3年														
		前	後	前	期	後	期	後	前	期	後	期	後	期	後	期	後						
		情報基礎	情報基礎	情報処理	材料工学	機械工作法	材料工学	機械工学概論	工業力学	材料力学	機械設計	材料工学	加工工学	機械学	工業力学	材料力学	機械設計	電気工学	材料工学	加工工学			
1年	前期	力学	等加速度直線運動																				
			運動の法則																				
			いろいろの力																				
			力積と運動量																				
1年	後期	力学	力学的エネルギー																				
			平面・空間での運動																				
			剛体と流体																				
2年	前期	熱学	温度と熱																				
			気体の分子運動																				
			熱力学の第1,2法則																				
		波動	いろいろの波																				
			波の性質・現象																				
	音波																						
	2年	後期	電磁気	静電界																			
				直流回路																			
				半導体と半導体素子																			
				磁界																			
交流回路																							
2年	後期	原子	原子と原子核																				
			素粒子																				
3年	後期	電磁気	電界																				
			電位																				
			誘電体																				
			磁性体																				
		3年	後期	光学	光の伝搬																		
	光の干渉																						
	光の回折																						
	偏光																						
	光の応用																						
	4年	前期	力学	運動量と力積																			
衝突																							
単振動																							
減衰振動																							
4年		後期	原子核	原子構造																			
				量子力学																			
				原子核の質量																			
				放射線と物質との相互作用																			
				原子核反応																			
				中性子のサイクル																			
原子力の応用																							

(次ページへ続く)

物理 科目関連図(機械工学科 Dコース) (4・5年)

		4年										5年																								
		前期					後期					前期					後期																			
		応用数学	材料力学	工業熱力学	流体工学	計測工学	電気工学	応用機械設計	応用数学	材料力学	工業熱力学	流体工学	計測工学	工業熱力学	流体工学	自動制御	電子工学	工作機械	精密加工工学	材料工学特論	環境工学	システム工学	ロボット工学	振動工学	機械力学	情報処理	自動制御	電子工学	生産工学	エネルギー変換工学	環境工学	衛生工学	自動設計論	流体力学		
1年	前期	力学	等加速度直線運動	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		運動の法則	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	後期	力学	力学的エネルギー	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		剛体と流体	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
2年	前期	数学	温度と熱	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		波動	気体の分子運動	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
			熱力学の第1,2法則	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
			いろいろな波	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
			波の性質・現象	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	後期	電磁気	音波	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		原子	光波	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
			静電界	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
			直流回路	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
			半導体と半導体素子	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
1年	後期	電磁気	磁界	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		原子	交流回路	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
			電磁波	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	光学	原子と原子核	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		素粒子	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		電界	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		電位	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
4年	前期	電磁気	誘電体	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		光学	磁性体	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
			光の伝搬	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	光の干渉		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	光の回折		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	偏光	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	光の応用	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
後期	力学	運動量と力積	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	衝突	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	単振動	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	減衰振動	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	原子核	原子構造	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
量子力学	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
原子核の質量	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
放射線と物質との相互作用	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
原子核反応	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
中性子のサイクル	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
原子力の応用	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

(次ページへ続く)

本科4，5年配当数学系および物理系科目内容と
専攻科1，2年各専攻専門科目の科目間連携表

作成者： 科目間連携プロジェクトリーダー 藤井
各科専攻科運営委員 小林洋、長、道平、三好、樋口、辻本、八百
教務副主事 戸崎

作成完了： 平成17年3月

(次ページへ続く)

応用数学・確率統計と専門科目 科目関連図(機械システム工学専攻)

		1 年											2 年													
		前期					後期						前期													
		数理統計	量子物理	レーザー工学	弾性力学	バイオメカニクス	制御工学	表面計測	トライボロジー	シミュレーション工学	製造工学Ⅰ	X線工学	金属表面加工工学	流体計測	熱機理論	システム制御理論Ⅰ	応用ロボット工学	航空工学概論	磁気力学	製造工学Ⅱ	数値流体力学	流体力学	成形加工工学	システム制御理論Ⅱ	振動・波動論	
		共通・選択	共通・選択	展開・選択	展開・選択	展開・選択	展開・選択	展開・選択	共通・必修	共通・選択	展開・選択	展開・選択	展開・選択	展開・選択	展開・選択	展開・選択	展開・選択	展開・選択	共通・選択	共通・選択	展開・選択	展開・選択	展開・選択	展開・選択	展開・選択	
4 年	前	複素数	○			○											○								○	
		複素関数	○				○																			○
		複素関数の微分	○				○																			○
		複素関数の積分	○				○																			○
	期	行列の演算と一次変換	○							○							○	○			○					○
		一次独立と階数	○							○							○	○			○					○
		連立一次方程式	○							○	○						○	○			○					○
		行列式の性質と展開	○							○							○	○			○					○
	後	固有値と固有ベクトル(複素)	○							○							○									○
		内積と正規直交系(複素)	○							○																○
		行列の対角化(複素)	○							○	○						○									○
	期	ラプラス変換・逆変換	○				○										○	○								○
		ラプラス変換の応用	○				○										○	○								○
		フーリエ級数とフーリエ変換	○				○				○															○
半	確率分布	○	○						○											○						
期	データの整理	○																								
	標本と推定	○																								
	検定	○																								

(次ページへ続く)

応用物理と専門科目 科目関連図(機械システム工学専攻)

		1 年														2 年											
		前期							後期							前期											
		数理統計	量子物理	レーザー工学	弾性力学	バイオメカニクス	制御工学	表面計測	トライボロジー	シミュレーション工学	数値工学I	X線工学	金属表面加工工学	流体力学	熱伝達論	システム制御理論I	応用ロボット工学	航空工学概論	破壊力学	数値工学II	数値流体力学	流れ学	成形加工学	システム制御理論II	振動・波動論		
		共通・選択	共通・選択	履修・選択	履修・選択	履修・選択	履修・選択	履修・選択	共通・必修	共通・選択	履修・選択	履修・選択	履修・選択	履修・選択	履修・選択	履修・選択	履修・選択	履修・選択	共通・選択	共通・選択	履修・選択	履修・選択	履修・選択	履修・選択	履修・選択		
4年	前期	力学	運動量と力積	○		○	○		○	○			○	○		○				○	○				○		
			衝突	○					○																		
			単振動	○		○	○		○						○	○	○							○	○		
			減衰振動			○	○		○						○	○	○							○	○		
	後期	原子核	原子構造	○				○	○	○								○									
				量子力学	○					○																	
					原子核の質量																						
					放射線と物質との相互作用	○	○			○		○															
					原子核反応																						
					中性子のサイクル																						
			原子力の応用																								

出典：本科および専攻科における数学・応用数学および物理・応用物理と各専門科目の科目間連携表

数学と電気・電子専門科目との連携

平成18年度特別教育研究経費事業
「高専だからできる一般科目カリキュラム」
報 告 会

開催期日 平成19年3月12日(月)
開催会場 ホテルグランヴィア和歌山
開催校 和歌山工業高等専門学校

(次ページへ続く)

平成18年度特別教育研究経費事業
「高専だからできる一般科目カリキュラム」報告会次第

日時 平成19年3月12日(月) 13時30分～17時20分

会場 ホテルグランヴィア和歌山 6階
全体報告会・基調講演・全大会・閉会式 メソングラン
分科会(電気磁気系) シェグラン 分科会(電気回路系) アクアグランB

日程

3月12日(月)

13:30～14:10 全体報告会

開催校挨拶

和歌山工業高等学校長 荻澤 弘志

国立高等専門学校機構挨拶

独立行政法人国立高等専門学校機構

理事 河村 潤子 氏

プロジェクトの概要説明

和歌山工業高等専門学校

教務主事 藤本 晶

14:10～15:20 基調講演

演題 「工科系のための基礎教育」

講師 同志社大学工学部インテリジェント情報工学科

教授 三木 光範 氏

15:20～15:30 休憩(各分科会会場にて)

15:30～17:00 分科会

○電気磁気学系の科目に用いる数学

報告者 和歌山工業高等専門学校

電気情報工学科

助教授 雑賀 洋平

○電気回路系の科目に用いる数学

報告者 神戸市立工業高等専門学校

電気情報工学科

教授 津吉 彰 氏

17:00～17:20 全体会・閉会式

報告会終了後

17:30～19:00 情報交換会 (同ホテル6階 アクアグランA)

出典：平成18年度特別教育研究経費事業「高専だからできる一般科目カリキュラム」報告会より

英語・人文社会系科目と専門科目との連携

2006年12月5日

各学科主任
および英語科、人文社会科教員各位

教務主事 中辻 武
英語科主任 柳生成世
人文社会科主任 町田吉隆

英語、人文社会系科目と専門学科との連携会議（最終案内）

先日来、ご案内してまいりました標記会議について、下記の通り、開催したいと思います。
中間試験中、お忙しいことと思いますが、ご出席くださいますようお願い申し上げます。

記

12月7日木曜日 14:00-16:00 第2会議室

14:00-14:50 英語科目と専門学科科目との連携

司会：柳生 書記：上垣

◇議事

- 1.教務主事あいさつ
- 2.英語科から
 - 2-1.英語科の本科および専攻科開講科目の内容と到達目標について。
 - 2-2.英語科における本科4・5年生および専攻科生に対する「科学技術英語」および「プレゼンテーション」指導の取り組みの事例。
 - 2-3.質疑・応答
- 3.専門学科・専攻から
 - 3-1.専門各学科・専攻における英語を使った専門教育の取り組みの事例。
 - 3-2.質疑・応答
- 4.前項を受けて、英語科と専門学科の教員間での連携・協力の可能性についての検討。
 - 4-1.「技術者に要求される実践的英語能力」とは何か。
 - 4-2.「技術者に要求される実践的英語能力」養成のために、英語科と専門学科間での可能な連携・協力とは何か。

(次ページへ続く)

15:00-15:50 人文・社会科目と専門学科科目との連携

司会：八百 書記：町田

◇議事

1.教務主事あいさつ

2.人文社会科から

2-1.本科および専攻科開講科目のカリキュラムおよび各教科担当者のねらい。

2-2.平成15(2003)年以降実施された、外部評価、専攻科修了生および進学先の大学院へのアンケート、卒業生および就職先企業へのアンケートなど各々の結果を受けて、検討および改善された事項について。

2-3.「異文化理解」「職業人としての倫理観」「経済のしくみをはじめとする社会常識」「日本語によるコミュニケーション」の4項目についての取り組みの事例。

2-4.質疑・応答

3.専門学科・専攻から

3-1.専門各学科・専攻における「異文化理解」「職業人としての倫理観」「経済のしくみをはじめとする社会常識」「日本語によるコミュニケーション」の4項目についての取り組みの事例。

3-2.質疑・応答

4.前項を受けて、人文社会系と専門学科の教員間での連携・協力の可能性についての検討。

4-1.技術者に要求される前記4項目における資質・能力とは何か。

4-2.技術者養成のために、人文・社会科と専門学科間での可能な連携・協力とは何か。

15:50 閉会あいさつ(教務主事)

(敬称略)

以上

出典：英語，人文社会系科目と専門学科との連絡会議（資料と議事録）

観点2-2-③： 教育活動を円滑に実施するための支援体制が機能しているか。

(観点に係る状況)

準学士課程では、全学級に学級担任が配置され(資料2-2-③-1) 学生の教育・生活指導に対応している。これら学級担任全員が集う担任会議は春と秋に年2回開催され、出席の校長、教務主事、学生主事に学級経営の問題点等が報告され、その改善に向けての討議がなされている。また、専攻科課程では、全専攻に専攻主任が配置され(資料2-2-③-1)、準学士課程の担任と同様な業務を行っている。専攻主任の統括は専攻科長であり、月1回開催される専攻科運営委員会で、学生の教育・生活指導に関する同様な議論がなされている。これらの教育面における統括は教務主事が行い、生活指導面における統括は学生主事が行っている。緊急を要する要件が出た場合は、校長、両主事、事務室長で構成される危機管理対策委員会が開催(資料2-2-③-2)され、対処している。学生主事は、また、学生会(資料2-2-③-3)を統括し、学生評議会から出された要望等を教育や生活指導に反映すべく努力している。この要望で実現した最大のものは、全ホームルーム教室へのエアコンの設置である。また、夏休み前と秋の高専祭時には、保護者会を開催し保護者を含めた教育・生活指導を実施している。学生の心のケアに関しては、学生相談室を設置しており、本校教員が相談室長と相談員を務め、日々、相談に応じている。また、月1回外部カウンセラーにお越しいただいて、学生相談室で悩みの相談に応じている。これは学生だけではなく、保護者も対象としている。課外活動に関しては、ほぼ全員の教師がこれの指導にあたっており(後述の資料5-4-②-2)、資料2-2-③-3に示した学生会の課外活動協議会と連携を保ち、クラブ内の指導だけではなく、学生とともに地域の清掃活動にも力を入れている。

(分析結果とその根拠理由)

校長、教務主事、学生主事、専攻科長の統括のもとに学級担任、担任会議、専攻主任、専攻科運営委員会等が設置され、日々の相談や要望はホームルーム等で担任によって行われているが、組織として学生の要望を聞くシステムも整備されている。また、心のケアをする学生相談室も設置されており、教育を円滑に実施するための支援体制は機能している。

資料2-2-③-1

平成20年度の主要分掌、クラス担任および専攻主任

教務主事

平成20年度担任および専攻主任

	M(A,D)	M(B,C)	E	D	C	S
1年	折附良啓	一瀬正嗣	田口純子	土居文人	春名 桂	町田吉隆
2年	大多喜重明	菅野聡子	寺田雅裕	前田誠一郎	八木善彦	西山正秋
3年	早稲田一嘉	朝倉義裕	下代雅啓	柳生成世	牧野貴至	並河 努
4年	宮本 猛	小林洋二	山本和男	小矢美晴	根津豊彦	亀屋恵三子
5年	森本義則	小林 滋	赤松 浩	藤本健司	小泉拓也	宇野宏司
専攻科	斉藤茂		戸崎哲也		松井哲治	柿木哲哉

20年度主要分掌

	M	E	D	C	S	G
教務主事			尾崎進			
学生主事						中川一穂
学科主任	尾崎元泰	松田忠重	若林茂	杉廣志	橋本渉一	吉川敏郎
専攻科長	赤対秀明					
教育プログラム委員長	中辻武					
図書館長					中西宏	
総合情報センター長			橋本好幸			
地域協働研究センター長				大淵真一		
相談室長						石塚正洋
教務副主事	和田明浩	山本伸一			山下典彦	上垣宗明 北村知徳
学生副主事	尾崎純一	道平雅一	西 敬生		上中宏二郎	小森田敏
総合情報センター補佐	石崎繁利 林公祐	加藤真嗣				横山卓司
地域協働研究センター部会長		第一 津吉 彰				第二 八百俊介
教育プログラム委員会補佐					辻本剛三	

以上

出典：2007年12月3日 校務運営委員会資料

神戸市立工業高等専門学校における危機管理に関する規程

制定 平成17年9月30日

(目的)

第1条 この規程は、学校において発生する様々な事象に伴う危機に、迅速かつ的確に対処するため、神戸市立工業高等専門学校（以下「本校」という。）における危機管理体制及び対処方法を定めることにより、本校の学生、職員及び近隣住民等の安全確保を図るとともに、高専の社会的な責任を果たすことを目的とする。

(危機管理の対象)

第2条 前条の目的を達成するため、この規程に定める危機管理の対象とする事象は、次の各号の一に該当するものとする。

- (1) 学生、教職員及び地域住民等の安全に係わる重大な事象
- (2) 施設管理上の重大な事象
- (3) 社会的影響の大きな事象
- (4) 本校に対する社会的信頼を損なう事象
- (5) 本校の研究教育活動の遂行に重大な支障のある事象
- (6) その他・前各号に相当するような事象であって、組織的・集中的に対処することが必要と考えられる事象

(危機管理のための校長等の責務)

第3条 校長は、本校における危機管理を統括する責任者であり、全校の危機管理体制の充実に努めなければならない。

- 2 事務室長、教務主事及び学生主事（以下「両主事等」という）は、校長を補佐し、危機管理体制の充実に努めなければならない。
- 3 各科主任及び専攻科長（以下「各科主任等」という）は、当該学科等における危機管理の責任者であり、全校的な危機管理体制と連携を図りつつ、当該学科等の危機管理体制の充実に努めなければならない。
- 4 全教職員は、その職務の遂行にあたり、危機管理に努めなければならない。

(危機管理体制の充実のための措置等)

第4条 校長並びに両主事等及び各科主任等は、危機管理に関する資料の配布、研修の実施等により、全校及び各科等における日常的な危機管理体制の充実に努めるものとする。

- 2 校長並びに両主事等及び各科主任等は、法令及び関係する学内規程等に従い、学生、職員及び近隣住民等が本校に起因する危機により災害等をこうむることのないよう、常に配慮しなければならない。
- 3 校長並びに両主事等及び各科主任等は、危機管理に当たり、学生、全教職員及び近隣住民等に対する必要な広報、情報提供等に努めるものとする。

(次ページへ続く)

(危機管理員)

第5条 校長の下に危機管理員を置く。

2 危機管理員は、校長の指揮の下に、全校的に対処が必要な危機管理に当たる。

3 危機管理員は、次の者をもって充てる。

- (1) 両主事等
- (2) 各科主任等
- (3) 図書館長、総合情報センター長、地域協働センター長、広報委員長のうち校長が指名する者

(危機に関する通報等)

第6条 全教職員は、緊急に対処すべき危機事象が発生又は発生するおそれがあることを発見した場合は、危機管理員に通報しなければならない。

2 危機管理員は、前号の通報を受け又は自ら危機事象を察知した場合は、直ちに書面で校長に報告しなければならない。(様式1・様式2)

3 校長は、当該危機の状況を確認し、両主事等と対処方針を協議するものとする。

(対策本部の設置)

第7条 校長は、危機事象の対処のために必要と判断する場合は、速やかに当該事象に係る対策本部を設置するものとする。

2 対策本部の構成は、次のとおりとする。

- (1) 本部長は、校長をもって充て、対策本部の業務を総括する。
- (2) 副本部長は、危機管理員の中から本部長が指名する者をもって充て、本部長を補佐する。
- (3) 本部員は、その他の危機管理員及び関係教職員等の中から本部長が指名する者をもって充てる。

3 対策本部の事務は事務室庶務係が主管する。

4 対策本部は、危機事象への対処の終了をもって解散する。

(対策本部の業務)

第8条 対策本部は、以下の業務を行う。

- (1) 情報の整理・分析
- (2) 急対応方針及び対応策の検討・決定
- (3) 関係機関との連絡・調整
- (4) 情報、対応の文章化(記録)
- (5) その他、別に定める業務

(対策本部の権限)

第9条 対策本部は、本部長の指揮の下に、迅速に危機に対処しなければならない。

2 全教職員は、対策本部の指示に従わなければならない。

(次ページへ続く)

3 対策本部は、その事案処理に当たり、校務運営委員会等の審議を含め本校の学内規程等により必要とされる手続を省略することができる。

4 前項の場合、対策本部は、事案の対処の終了後に、原則として校務運営委員会等に報告しなければならない。

(各学科等における危機への対処等)

第10条 各科主任等は、当該学科のみに係る危機であつて当該学科限りで対処することが適切と判断する事象については、その内容、対処方針、対処状況等を書面で校長に報告し、了解を得ることが出来る。(様式1・様式2) この場合において、校長は両主事等と協議し、了解を与えるものとする。

2 各科主任等は、その後の経過についても書面で校長に報告し、指示をうけるものとする。(様式3) この場合において、校長は両主事等に速やかに、知らしむることとする。

3 校長は、第1項の場合においても当該学科主任の判断にかかわらず対策本部を設置し全校的に対処することができる。

4 各科主任は、当該学科のみに係る危機事象であっても、全校的に対処すべきものと判断する場合は、校長に対し対策本部の設置を申し出るものとする。

(校長が不在の場合の措置)

第11条 長が外国出張等により不在の場合は、事務室長が、この規程に基づき、危機管理に当たるものとする。

(雑則)

第12条 この規程に定めるもののほか、危機管理に関し必要な事項は、校長が別に定める。

附 則

この規程は、平成17年10月1日から施行する。

出典：ウェブサイト庶務系のページ

学生会規約

7. 学生会規約

(制定 昭和52年5月16日)

(改正 平成12年4月1日)

第1章 総 則

(名 称)

第1条 本会は、神戸市立工業高等専門学校学生会と称する。

(目 的)

第2条 本会は、会員相互の人格と自治自律の精神をもって、民主的に活動し、学生生活全般にわたりその改善と向上を図るとともに社会公共生活に有益かつ必要な訓練に努め、もって堅実な校風の樹立を目的とする。

(会 員)

第3条 本会は、神戸市立工業高等専門学校全校生をもって組織し、本校生は等しく本会会員としての義務並びに権利を有する。

第2章 機 構

(機 構)

第4条 本会に次の機関をおく。

- | | | |
|------------|--------------|-------------|
| 1. 学生総会 | 2. 中央執行委員会 | 3. 評議会 |
| 4. 保健体育委員会 | 5. 図書委員会 | 6. 課外活動協議会 |
| 7. 学級会 | 8. 全校行事实行委員会 | 9. 高専祭実行委員会 |

(学生総会)

第5条 学生総会は、本会の最高議決機関で原則として毎年1回学生会会長がこれを召集する。ただし、次の場合には学生会会長が臨時に召集することができる。

- (1) 全会員の1/4以上の要求があったとき
- (2) 評議員の1/2以上の要求があったとき
- (3) 中央執行委員会が必要と認めたとき
- (4) 校長の要求があったとき

(次ページへ続く)

(学生総会)

第6条 学生は総会に出席する義務と権利を有する。総会は、全会員の2/3以上の出席をもって成立し、次のことを出席人員の過半数の賛成により議決する。

- (1) 会費に関する事
- (2) 規約に関する事
- (3) その他重要事項

(学生総会の役員)

第7条 総会の役員を次のようにおき、特別な場合を除いて評議会の役員がこれを兼ねる。

1. 議長
2. 副議長
3. 書記 各1名

(中央執行委員会)

第8条 中央執行委員会は学生会役員をもって組織し、次の役員をおく。

1. 会長 1名
2. 副会長 1名
3. 書記局 若干名
4. 会計局 若干名
5. 事業局 若干名
6. 広報局 若干名
7. 渉外局 若干名

(会長)

第9条 会長は選挙管理規定に従い全会員の直接選挙によって決定される。

- 2 会長は、本会を代表し、会務を統括する。又、本会活動について責任を有する。

(副会長)

第9条の2 副会長は、選挙管理規定に従い全会員の直接選挙によって決定される。

- 2 副会長は、会長を補佐する。

(会長・副会長を除く役員)

第9条の3 会長・副会長を除く役員は、会長及び副会長が推薦し評議会の承認を得る。

書記局 書記局は、本会事務を行う。

会計局 会計局は経費出納に関する責任を有し会計事務を行う。

事業局 事業局は、全校行事实行委員会・高専系実行委員会・図書委員会・

(次ページへ続く)

保健体育委員会を統括し、本会の行事を執行する。

広報局 広報局は、執行部の広報を行う。

渉外局 渉外局は、本会が必要とする渉外活動を行う。

(課外活動協議会)

第10条 課外活動協議会(以下協議会という)は各クラブ・同好会相互間の友好と協力をはかる重要な機関で、各クラブ・同好会の代表者各1名で組織する。

2 協議会は、次の場合にこれを開く。

- (1) 全クラブ・同好会の代表者の1/3以上の要求があったとき
- (2) 中央執行委員会の要求があったとき
- (3) 評議会の要求があったとき
- (4) 校長の要求があったとき
- (5) 協議会役員が必要と認めたとき

(協議)

第10条の2 協議会は、次のことを協議する。

- (1) クラブ費に関する事
- (2) クラブ・同好会活動における諸問題について
- (3) その他重要事項

(学生会各機関との関係)

第10条の3 他の学生会各機関と関係のある事項については、協議会は必要な学生・教職員に出席を求めることができるほか、他の学生会各機関に審議および処理を要請することができる。

(役員)

第10条の4 協議会に次の役員をおく。

- | | | | |
|-------|----|--------|----|
| 1. 議長 | 1名 | 2. 副議長 | 1名 |
| 3. 書記 | 2名 | | |

(会議の成立)

第10条の5 協議会は、全クラブ・同好会代表者の2/3以上の出席をもって成立し、議決は全て出席人員の過半数をもって成立する。

(任期)

第10条の6 協議会役員は、4月1日より3月31日までの1カ年とする。

(次ページへ続く)

(任期)

第11条 学生会役員の任期は、1月1日より12月31日までの1ヵ年とする。

(辞任)

第12条 学生会役員は、病気その他やむを得ない事情により職務を遂行できない場合に限り、評議会の承認を得て辞任することができる。

(不信任)

第13条 学生会役員の不信任は、評議会の出席人員の2/3以上の議決をもって発議し、学生総会において全会員の2/3以上の賛成があれば成立する。

(解散)

第14条 学生会会長が、辞任若しくは不信任により辞職した場合は、中央執行委員会を直ちに解散しなければならない。

(欠員)

第15条 不信任・辞任・その他の理由により役員に欠員が生じた場合、会長・副会長については25日以内に補欠選挙を、その他の役員については中央執行委員会が後任者を直ちに選び、評議会の承認を得るものとする。なお、後任者の任期は前任者の残任期とする。

ただし、解散してから新会長の選出までの期間は、中央執行委員会の任務を評議会に一任する。

第3章 評 議 会

(評議会)

第16条 本会に学生総会に次ぐ議決機関として評議会をおく。評議会は各学級の正・副委員長をもって、毎月1回これを開かねばならない。ただし、次の場合には評議会議長が臨時に召集することができる。

- (1) 評議会の1/3以上の要求があったとき
- (2) 中央執行委員会が必要と認めたとき
- (3) 校長の要求があったとき
- (4) その他議長が必要と認めたとき

(次ページへ続く)

(議 決)

第17条 評議会は、次のことを議決する。

- (1) 学生会諸行事に関する事
- (2) クラブ・同好会の設立・廃止に関する事
- (3) 予算・決算の承認
- (4) その他重要事項

(役 員)

第18条 評議会に次の役員をおく。

- | | | | |
|-------|----|---------|----|
| 1. 議長 | 1名 | 2. 副議長 | 1名 |
| 3. 書記 | 1名 | 4. 会計監査 | 3名 |

第19条 評議会に、評議員（各クラス正・副委員長）の1/2(30人)以上の出席をもって成立し、議決は出席人員の2/3以上の賛成をもって成立する。

第4章 専 門 委 員 会

第20条 中央執行委員会の直属機関として次の専門委員会をおく。

1. 保健体育委員会
2. 図書委員会
3. 全校行事实行委員会
4. 高専祭実行委員会

第5章 学 級 会

第21条 学級会は学生全員で構成し、その運営は担任の指導のもとに、それぞれの自治に委ねられる。

第22条 各学級会に次の役員をおく。

- | | | | |
|-----------|----|--------------------|----|
| 1. 学級委員長 | 1名 | 2. 学級副委員長（図書委員を兼務） | 1名 |
| 3. 会計委員 | 2名 | 4. 保健体育委員 | 2名 |
| 5. 全校行事委員 | 2名 | 6. 高専祭委員 | 2名 |

第23条 学級委員は各学級において選出する。

(委員の任期)

第24条 学級委員の任期は、4月1日より3月31日までとする。ただし、1学年

(次ページへ続く)

については、前期中間試験終了後に変更することができる。

第6章 附 則

(議長採決)

第25条 各委員会及び総会において賛否同数のときは議長がこれを決定する。

(執行委員の権利)

第26条 中央執行委員は、評議会並びに各専門委員会、その他において発言する権利と義務を有する。ただし、それらの議長・副議長・書記になることはできない。

(発言責任)

第27条 各専門委員・評議会・その他の議員は各委員会・評議会・その他各種会議においてなされた発言に対し、会議外においてその責任を問われない。

(規約改正)

第28条 この規約の改正は全会員の1/4以上若しくは、評議員の2/3以上の賛成でこれを発議し、学生に提案して、その承認を得なければならない。この承認には学生総会において全学生会員の1/2以上の賛成を必要とする。

(執行)

第29条 本会規約は昭和43年1月30日より実施する。

クラブ・同好会一覧表

体育クラブ	陸上競技、ソフトテニス、テニス、ラグビー、野球、バレーボール、バスケットボール、卓球、剣道、弓道、水泳、柔道、サッカー、バドミントン、空手道、アーチェリー
文化クラブ	吹奏楽、写真、アマ無線、E・S・S、自然科学、華道、電気工学実験、電子計算機、ライトミュージック、M・R・C、美術
同好会	スキー、囲碁、ハンドボール、アウトドア

出典：平成20年度学生便覧(P80-85)

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

地域協働研究センターは、地域連携が必要であるという社会認識が深まる前から、先鞭的に“産学官技術フォーラム”を実施してきた。平成19年度には第16回目が開催された。このフォーラムは産学官の関係者の参加のみならず、校5学年生と専攻科生がオーラルセッションやポスターセッションで積極的に発表し、企業の実際問題との討論を通じて、学生自身の実用化研究へのモチベーションを高めることに寄与している。

(改善を要する点)

特になし。

(3) 基準2の自己評価の概要

本校は「深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成すること、並びにその教育、研究機能を活用して国際港都神戸の産業及び文化の発展向上に寄与すること」を使命とし、三つの教育方針のもと、健康な心身と豊かな教養のもと、工学に関する基礎知識を身につけると同時に、創造性も合わせ持つ国際性、問題解決能力を有する実践的技術者の養成を目指しており、学科構成は教育の目的を達成する上で適切なものといえる。

専攻科においては、専門分野の知識・能力を持つと共に他分野の知識も有し、培われた一般教養のもとに、複合的視点で思考、問題発見、問題解決ができる創造性豊かな開発型技術者の養成を目指しており、教育の目的を達成するため十分な機能を持った構成となっている。

全学的なセンターとしては、総合情報センターと地域協働研究センターがあり、両センターとも低学年から高学年および専攻科課程の学生の教育研究支援をしており、教育の目的を達成する上で適切なものとなっている。

また、一般科目と専門科目の連携については、組織的に実施しており、現段階では、数学・応用数学、物理・応用物理、英語、人文社会系科目と専門科目との連携まで進んでいる。また、組織だっでの連携はしていないが、国語科においては、5年生や専攻科課程に進んだ際に、必須の各種実用文の書き方等を、4年生の国語演習で学んでいる。教員・科目個々の連携の一例と考えられよう。

教育活動を支援するための体制は、校長、教務主事、学生主事、専攻科長を中心に、学級担任、専攻主任、クラブ顧問が学生会と連携を保ちながら進めている。したがって、支援体制は充分機能している。

基準3 教員及び教育支援者

(1) 観点ごとの分析

観点3-1-①： 教育の目的を達成するために必要な一般科目担当教員が適切に配置されているか。

(観点に係る状況)

本校一般科目では、基準1の目的で述べたように準学士課程で4項目、専攻科課程で4項目の具体的な学習・教育目標を設定し、担当教員はこれを達成すべく配当された教育課程表(資料3-1-①-1)の各科目を担当している。

一般科目担当専任教員は、高等専門学校設置基準を満たす32名により構成され、その担当教科の内訳は国語3、人文社会5、数学8、理科4、英語7、ドイツ語1、保健体育4であり、教員の専門分野を考慮した適切な配置がなされている。これに経験や専門分野の見識を考慮して選ばれた16名の非常勤講師を加え、幅広く設定された諸科目の教育に当たっている(資料3-1-①-2)。ここに見られるように専任教員は専門分野を考慮し、担当時間数にも偏りなくバランスよく配置されている。また、外国人の非常勤教員において実践的な英会話能力獲得のための科目にあてるなど、本校一般科目の学習・教育目標の効果的な達成を意図した担当配置を行っている。

(分析結果とその根拠理由)

一般科目担当専任教員の構成は、高等専門学校設置基準を満たしつつ、教育課程表に配当された科目構成と比してバランスのとれた専門分野の配置となっている。専任教員にあっては専門分野や担当時間数の均衡化にも配慮しつつ、一般科目の学習・教育目標達成のために適切な担当配置を行っている。

以上のことから、本校の学習・教育の効果的な達成のために適切に配置されている。

一般科科目の教育課程表

別表1 (第12条関係) 一般科目に関する授業科目等
各学科共通

授 業 科 目	単位数	学 年 別 配 当					備 考
		1年	2年	3年	4年	5年	
必 修 科 目	国 語	9	3	3	2	1	
	倫 理	2		2			
	政 治・経 済	2			2		
	論 理 学	1			1		
	歴 史	4	2	2			
	地 理	2	2				
	数 学 I	14	6	4	4		
	数 学 II	4	2	2			
	確 率 統 計	1				1	
	物 理	5	2	3			
	化 学	5(4)	3(4)	2(0)			
	生 物	1(2)		(2)	1(0)		
	保 健・体 育	9	2	2	2	2	1
	芸 術	1	1				
	英 語	12	4	4	4		
	英 語 演 習	5			1	2	2
修 得 単 位 計	77	27(28)	24(24)	17(16)	6	3	
選 択 科 目	ド イ ツ 語	2				2	いずれか1 科目を選択
	中 国 語	2					
	哲 学	2					いずれか 1科目を 選択
	日 本 史	2					
	世 界 史	2					
	社会科学特講	2					
	人文科学特講	2					
	経 済 学	2					
	開 設 単 位 計	16				4	12
修 得 単 位 計	4				2	2	
一般科目開設単位計	93	27(28)	24(24)	17(16)	10	15	
一般科目修得単位計	81	27(28)	24(24)	17(16)	8	5	

(注) () 内は、応用化学科の実施単位数である。

出典：平成19年度学生便覧(p17)

一般科の教員数

一般科教員の数(平成20年度)

	国語科	人文社会科	数学科	理科	英語科	独語科	中国語	体育科	芸術	合計
教授	2	3	3	1	5	1	0	2	0	17
准教授	1	2	4	1	2	0	0	2	0	12
講師	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
助教	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
非常勤講師	2	0	4	8	1	0	1	1	2	18
合計	5	5	12	11	8	1	1	5	2	49

ウェブサイトより一般科の紹介

一般教養科目(一般科)

- 幅広い教養と基礎的学力を身につけましょう。

高専での5年間は、ものの見方や考え方、生き方の基本的な方向が定まる、人生においてとても重要な時期です。一般教養科目では、この大切な時期に、豊かな人間性を育て社会人としての幅広い教養を身につけるとともに、専門科目を学習するための基礎的な学力を養います。

LL教室をはじめ、人文社会視聴覚教室、国語演習室、数学演習室、物理実験室、化学実験室等、施設設備も充実し、いろいろな授業形態に対応できるようになっています。

英語では、外国人教師による実用的な授業があります。また、歴史や地理の授業では映像教材を活用しています。高学年では、人文社会系やドイツ語・中国語で選択科目が開設されています。

大小2つの体育館、武道場、プール、テニスコート、広いグラウンドなど体育施設も充実しており、体育の授業とクラブ活動で活用し、体力作りに力を注いでいます。

- [英語科の詳細](#)
- [理科の詳細](#)



LL教室



化学実験



体育の授業

(次ページへ続く)

一般科教員の専門分野と担当授業科目

一般科教員の専門分野と担当授業科目(平成20年度)

国語科

職名	氏名	学位	専門分野	担当授業科目
教授	西岡 一也	修士	国文学(日本近世文学)	国語
教授	吉川 敏郎	修士	国文学(中世軍記物語・中世紀行文)	国語
准教授	土居 文人	修士	文学(国文学)	国語

人文社会科

職名	氏名	学位	専門分野	担当授業科目
教授	福田 敬子	修士	史学(日本史)	歴史 日本史
教授	高橋 秀実	修士	国際関係論、国際政治経済学	政治経済 経済学
教授	手代木 陽	修士	哲学、倫理学	倫理 哲学 ※応用倫理学
准教授	町田 吉隆	修士	歴史	歴史 世界史
准教授	八百 俊介	修士	人文地理学	地理 社会科学特講 ※地域学

数学科

職名	氏名	学位	専門分野	担当授業科目
教授	石塚 正洋	修士	解析学	数学Ⅰ 確率統計
教授	末次 武明	修士	数学(統計学)	数学Ⅰ 確率統計
教授	八木 善彦	博士(学術)	数学一般、科学教育、教育工学	数学Ⅰ 数学Ⅱ ※数理工学Ⅰ
准教授	児玉 宏児	修士	数学(位相幾何学)	数学Ⅰ 数学Ⅱ
准教授	横山 卓司	修士	数学(代数幾何学)	数学Ⅰ 数学Ⅱ 応用数学Ⅰ 応用数学Ⅱ
准教授	菅野 聡子	博士(理学)	実解析学 関数方程式論	数学Ⅰ 数学Ⅱ
准教授	吉村 弥子	修士	数学(代数学(数論))	
講師	北村 知徳	博士(理学)	数学(代数学(計算可換代数、代数的組合せ論))	数学Ⅰ 数学Ⅱ

理科

職名	氏名	学位	専門分野	担当授業科目
教授	大多喜 重明	理学博士	格子欠陥(固体物性Ⅱ、物性一般、金属物性) 物理教育(科学教育、教育工学、教科教育)	物理
准教授	佐藤 洋俊	博士(工学)	分離・精製・検出法 化学教育	化学
講師	一瀬 昌嗣	博士(理学)	原子核物理・高エネルギー重イオン反応	物理

英語科

職名	氏名	学位	専門分野	担当授業科目
教授	西山 正秋	修士	英語教育	英語 ※英語講読
教授	前田 誠一郎	修士	英語教育、教育工学	英語 英語演習
教授	折附 良啓	学士	ワーズワース研究	英語 英語演習
教授	柳生 成世	学士	英語学・英語教育	英語 英語演習
教授	田口 純子	学士	英語 英語教育	英語 英語演習
准教授	今里 典子	修士	認知言語学・手話言語学	英語演習 人文科学特講 ※英語講読
准教授	上垣 宗明	修士	英語(外国語教育学)	英語 英語演習 ※時事英語

独語科

職名	氏名	学位	専門分野	担当授業科目
教授	本田 敏雄	博士(文学)	哲学	ドイツ語 論理学 ※現代思想文化論 ※哲学特講

体育科

職名	氏名	学位	専門分野	担当授業科目
教授	中川 一穂	学士	剣道の現代的意義 剣道指導法(703)	保健体育
教授	寺田 雅裕	修士	体育学	保健体育
准教授	小森田 敏	修士	保健体育	保健体育
准教授	春名 桂	学士	体育学 体育心理学	保健体育

(次ページへ続く)

一般科非常勤講師

職名	氏名	学位	専門分野	担当授業科目
非常勤	野村 繁樹			国語
非常勤	中本 百合枝			国語
非常勤	藤田 利明			数学Ⅰ 数学Ⅱ
非常勤	南出 大樹			数学Ⅱ
非常勤	土井 一幸			数学Ⅱ
非常勤	江口 直日			数学Ⅱ
非常勤	室井 元雄			化学
非常勤	松本 久司			化学
非常勤	木梨 憲司			化学
非常勤	安達 裕樹			物理
非常勤	大谷 聡			物理
非常勤	津田 久美子			生物
非常勤	向井 理恵			生物
非常勤	森 寿代			生物
非常勤	大倉 恭子			音楽
非常勤	鈴木 城			美術
非常勤	Einer Nilsen			英語演習
非常勤	陳 国祺			中国語
非常勤	寺田 晶裕			保健体育

※は、専攻科の開講科目

出典：平成20年度学校要覧より

観点3-1-②： 教育の目的を達成するために必要な各学科の専門科目担当教員が適切に配置されているか。

(観点に係る状況)

各専門学科においては、学習・教育目標の準学士課程で4項目、専攻科課程で4項目を具体的内容に設定し、これらの目標を達成するために、教育課程(資料3-1-②-1)を設定している。教員は、専門分野を照らし合わせて、かつ高等専門学校設置基準に定められた要件を満たしつつ、目標を達成するための科目設定に基づいて、バランスの良い適切な配置(資料3-1-②-2, 3-1-②-3)がなされている。各科の内訳は機械工学科 21, 電気工学科 11, 電子工学科 10, 応用化学科 10, 都市工学科 11 となっている。特に機械工学科が他の4学科と比べて教員数が多いのは、定員が80名で1学年2クラスとなっているためである。

また、目標を達成するために、より広い分野に科目展開を行っており、このため、専任教員で対応できない分野または実際の企業現場からの実務的な情報を導入するために、49名の非常勤講師を採用している。

(分析結果とその根拠理由)

学習教育目標の具体的内容を各学科が設定し、それを達成するために教育課程が適切に編成されている。科目担当教員は高等専門学校設置基準の人数を満たし、専門分野を考慮して適切に配されている。また、担当科目数も偏ることなくバランス良く配置されている。

以上のことから、本校の教育目的を達成するために必要な各学科の担当教員は適切に配置されている。

一般科科目の教育課程表(例)

別表2(第12条関係)専門科目に関する授業科目等

(1) 機械工学科

ア 共通

授 業 科 目	単位数	学 年 別 配 当					備 考
		1年	2年	3年	4年	5年	
共 通	応用数学ⅠA	2				2	
	応用数学ⅠB	1				1	
	応用数学Ⅱ	2				2	
	応用物理	2			1	1	
	工業力学	2			2		
	材料力学	2			2		
	材料力学Ⅰ	2				2	
	材料力学Ⅱ	1				1	
	工業熱力学	3				2	1
	流体工学	3				2	1
	機械力学Ⅰ	1				1	
	機械力学Ⅱ	1				1	
	必 修 科 目	情報基礎	2	2			
情報処理		2		1			1
計測工学		2				2	
工業英語		2					2
材料工学		2		2			
機械工作法		1		1			
機械工学概論		1		1			
機械設計		2			2		
設計製図		6	2	2	2		
機械実習		7	3	3	1		
創造設計製作		1			1		
機械工学実験		6				4	2
電気工学		2			2		
電子工学概論	1					1	
卒業研究	7					7	

イ 設計システムコース

授 業 科 目	単位数	学 年 別 配 当			備 考
		3年	4年	5年	
必 修 科 目	自動制御学	2		2	
	材料工学	2	2		
	加工工学	2	2		
	生産工学	1			1
	工作機械	1			1
	応用機械設計	2		2	
	機構学	1	1		
選 択 科 目	設計製図学	6		3	3
	学外学習	1		1	
	エネルギー変換工学	2			2
	精密加工学	2			2
	材料力学特論	2			2
	環境工学	2			2
	ロボット工学	2			2
数値計算法	2			2	

出典：平成20年度学生便覧(p18)

専門科目担当教員の数

専門科目担当教員の数(平成20年度)

	機械工学科	電気工学科	電子工学科	応用化学科	都市工学科	合計
教授	10	6	5	5	4	30
准教授	6	3	4	3	5	21
講師	5	1	1	2	2	11
助教	0	1	0	1	0	2
非常勤講師	11	7	10	12	13	53(48)
合計	32	18	20	23	24	117(112)

* 非常勤講師は複数学科の科目を担当している場合があり、()内は実人数を示す。

ウェブサイトより抜粋

機械工学科の概要

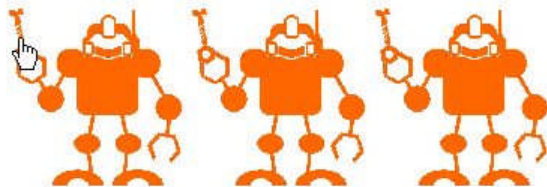
● あなたも、知的で創造的な機械エンジニアを目指ませんか！

- 「ものの動きやしぐみ」
- 「ものの強さや特性」
- 「ものを動かすみなもと」
- 「ものをまとめる情報」

これらの知識を使って緻密に計画し、体系化して機械の開発や設計を行います。機械工学科では、近年の科学技術の進歩に応えるべく、各種機器を開発・設計、製作するために必要な基礎的知識と技術を修得し、コンピュータ利用、計測制御技術、電気電子技術等の分野にも即応できる能力を持った独創的なエンジニアを育成することを目的としています。

機械工学科では、3年次から「設計システムコース」および「システム制御コース」に分かれます。両コースとも以下のような機械工学科の基礎科目を根幹に据え、その上で各コースに分かれて、それぞれ専門性の高い科目を学習します。

機械工学科の詳しい情報はこちら



機械工学科の専門科目例

1. 応用数学、応用物理、工業力学
2. 材料力学、工業熱力学、流体工学
3. 電気工学、電子工学
4. 材料学、機械設計法、機械工作法、生産工学
5. 情報処理、自動制御
6. 実験・実習、創造設計製作等



CAD演習室



NC旋盤

(次ページへ続く)

専門科目教員の専門分野と担当授業科目 (例)

専門科目担当教員の専門分野と担当授業科目

機械工学科

職名	氏名	学位	専門分野	担当学年、クラス	担当科目	学期・必修/必・単位	実務経験年数
教授	森本 義則	学士	生産工学, 生産	M2A	機械実習	通年・必修・3単位 (学修単位I)	
				M3D	機械実習	前期・必修・1単位 (学修単位I)	
				M4D	機械工学実験	通年・必修・4単位 (学修単位I)	
				M4C	機械工学実験	通年・必修・4単位 (学修単位I)	
				M4D	学外実習	前期・選択・1単位 (学修単位I)	
				M5D	生産工学	後期・必修・1単位 (学修単位I)	
教授	長野 優雄	学士	熱工学	M5C	生産システム	後期・必修・1単位 (学修単位I)	
				C5	品質管理	前期・必修・1単位 (学修単位I)	
				M2B	設計製図	通年・必修・2単位 (学修単位I)	
				M3D	工業力学	通年・必修・2単位 (学修単位I)	
				M3C	工業力学	通年・必修・2単位 (学修単位I)	
				M4D	工業熱力学	通年・必修・2単位 (学修単位III)	
教授	尾崎 元素	学士	機械要素, 機械システム	M4C	工業熱力学	通年・必修・2単位 (学修単位III)	
				M2A	設計製図	通年・必修・2単位 (学修単位I)	
				M3D	機械設計	通年・必修・2単位 (学修単位I)	
				M3C	機械設計	通年・必修・2単位 (学修単位I)	
				M3D	機構学	前期・必修・1単位 (学修単位I)	
				M4D	設計製図	通年・必修・3単位 (学修単位I)	
教授	中辻 武	博士(工学)	トライボロジー, 技術史	M1A	設計製図	通年・必修・2単位 (学修単位I)	
				M2A	機械工学概論	後期・必修・1単位 (学修単位I)	
				M2B	機械工学概論	後期・必修・1単位 (学修単位I)	
				M3C	機械設計	通年・必修・2単位 (学修単位I)	
				M3D	設計製図	通年・必修・2単位 (学修単位I)	
				M3D	設計製図	後期・必修・1単位 (学修単位I)	
教授	吉本 隆光	博士(工学)	燃焼・伝熱・熱機関	M4D	創造設計製作	通年・必修・2単位 (学修単位I)	
				M4D	応用機械設計	通年・必修・2単位 (学修単位III)	
				M5D	機械工学実験	前期・必修・2単位 (学修単位I)	
				M2B	機械実習	通年・必修・3単位 (学修単位I)	
				M3D	設計製図	通年・必修・2単位 (学修単位I)	
				M5D	工業熱力学	前期・必修・1単位 (学修単位I)	
教授	吉本 隆光	博士(工学)	燃焼・伝熱・熱機関	M5D	工業熱力学	前期・必修・1単位 (学修単位I)	
				M5D	工業熱力学	前期・必修・1単位 (学修単位I)	
				M5D	機械工学実験	前期・必修・2単位 (学修単位I)	
				M5D	機械工学実験	前期・必修・2単位 (学修単位I)	
				M5D	機械工学実験	前期・必修・2単位 (学修単位I)	
				M5D	機械工学実験	前期・必修・2単位 (学修単位I)	

出典：庶務係資料

各学科の学位取得者および企業経験者の配置状況(平成20年度)

	博士	修士	学士	その他	企業経験
機械工学科	15	3	2	1	9
電気工学科	11	0	0	0	2
電子工学科	8	2	0	0	3
応用化学科	11	0	0	0	4
都市工学科	9	1	1	0	6
合計	54	6	3	1	24

出典：庶務係資料

観点3-1-③： 専攻科を設置している場合には、教育の目的を達成するために必要な専攻科の授業科目担当教員が適切に配置されているか。

(観点に係る状況)

本校の専攻科は、機械システム工学専攻、電気電子工学専攻、応用化学専攻、都市工学専攻の4専攻を有している。これらの専攻は本科からの積み上げ方式により、本科5年間で修得した知識を無駄なくさらに発展させることに役立っている。専攻科は平成17年度にJABEE認定を受けた「工学系複合プログラム」の後半2年間で構成する。ことから、本校の教育目標に適合すると共に、更に詳細な学習・教育目標(A-1)から(D-2)まで14項目を設定している(資料3-1-③-1)。これらの教育目標を達成するため、専攻科では一般教養科目、専門共通科目、専門展開科目等を配備し、より高度で実践的かつ開発型の技術者教育を施している(資料3-1-③-2)。

さらに、学園都市および周辺にある大学等(流通科学大学、神戸市外国語大学、兵庫県立大学神戸学園都市キャンパス・神戸商科大学、神戸芸術工科大学、神戸市看護大学、神戸市立工業高等専門学校)がお互いに提供した授業科目を学習したことについて、それぞれ所属する学校における履修とみなし、単位の修得を認定する単位互換制度(ユニティ開講科目)を実施しており、より幅広い知識の習得が可能となっている(資料3-1-③-3)。

また、専攻科担当教員は原則博士の学位を有する講師以上の専任教員を中心に、担当授業科目数の均衡化に配慮しつつ、各教員の専門分野との緊密性を考慮して、これらの教育目標を十分に達成するような教員配置を実現している(資料3-1-③-4)。

(分析結果とその根拠理由)

専攻科では、一般教養科目、専門共通科目、専門展開科目等を配備し、本校の教育目標を十分に達成するための教育課程を構築している。専攻科を担当する教員は博士の学位を有する講師以上の常勤教員が主体であり、大学評価・学位授与機構により審査・認定されている。この教育課程は、教員の専門分野や担当授業科目数の均衡化等を配慮し、適切な教員配置のもとに実施されている。

以上のことから、本校の教育目的を達成するために必要な専攻科の授業科目担当教員は適切に配置されている。

JABEE 学習教育目標

(A) 工学に関する基礎知識と専門知識を身につける

- (A1) 工学的諸問題に対処する際に必要な線形代数、微分方程式、ベクトル解析、確率統計などの数学に関する知識を身につけ、問題を解くことができる。
- (A2) 工学的諸問題に対処する際に必要な力学、電磁気学、熱力学などの自然科学に関する知識を身につけ、問題を解くことができる。
- (A3) 工学的諸問題に対処する際に必要な情報技術に関する知識を身につけ、活用することができる。
- (A4) 各専攻分野における工学基礎と専門分野の知識・技術を身につけ、活用することができる。

(B) コミュニケーション能力を身につける

- (B1) 技術的な内容について、図、表を用い、文章および口頭で論理的に説明することができる。
- (B2) 自分自身の発表に対する質疑に適切に応答することができる。また、他者の発表に対して質疑することができる。
- (B3) 日常的な話題に関する英語の文書を読み、聞いて、その内容を理解することができる。
- (B4) 英語で書かれた技術的・学術的論文の内容を理解し、日本語で説明することができる。また、特別研究等の研究に関する概要を英語で記述することができる。

(C) 複合的な視点で問題を解決する能力や実践力を身につける

- (C1) 工学基礎や専門分野の知識を工学的諸問題に応用して、得られた結果を的確に解析することができる。
- (C2) 与えられた課題に対して、工学基礎や専門分野の知識を応用し、かつ情報を収集して戦略を立てることができる。また、複合的な知識・技術・手法を用いてデザインし工学的諸問題を解決することができる。
- (C3) 技術者として活動するために必要な体力や一般教養を身につける。
- (C4) 特定の問題に対してグループで協調して挑み、期限内に解決して報告書を書くことができる。

(D) 地球的視点と技術者倫理を身につける

- (D1) 工学技術が社会や自然に与える影響を理解し、また技術者が負う倫理的責任を自覚し、自己の倫理観を説明することができる。
- (D2) 異文化を理解し、多面的に物事を考え、自分の意見を説明することができる。

出典：教育プログラム委員会資料

専攻科目の教育課程表

(1) 機械システム工学専攻

区分	授業科目	単位数	学年別配当				備考
			第1学年		第2学年		
			前期	後期	前期	後期	
一般 教養 科目	必 現代思想文化論	2	2				
	修 コミュニケーション英語	1	1				
	修 必修科目開設単位計	3	3				
	選 哲学特講	2				2	
	地 地域学	2			2		
	時 時事英語	2		2			
	英 英語講読	2	2				
	応 応用倫理学	2			2		
	一 一般教養科目開設単位計	13	5	2	4	2	
	一 一般教養科目修得単位計	8単位以上を修得					
専 門 共 通 科 目	必 工学倫理	2			2		
	修 シミュレーション工学	2		2			
	修 必修科目開設単位計	4		2	2		
	選 数理工学Ⅰ	2		2			※
	数 数理工学Ⅱ	2			2		※
	数 数理統計	2		2			※
	数 数値流体力学	2			2		
	量 量子物理	2	2				※
	技 技術史	2			2		
	技 技術英語	2		2			
選 選択科目開設単位計	14	2	6	6			
専 門 展 開 科 目	必 専攻科実験	1				1	
	専 専攻科ゼミナールⅠ	2	2				
	専 専攻科ゼミナールⅡ	2			2		
	専 専攻科特別研究Ⅰ	7	3	4			
	専 専攻科特別研究Ⅱ	8			3	5	
	修 必修科目開設単位計	20	5	4	5	6	
	専 専攻科特別実習	2	2				
	レ レーザー工学	2	2				※
	X X線工学	2		2			※
	弾 弾性力学	2	2				◎
選 流れ学	2			2			
熱 熱機関論	2		2				
知 知的材料解析	2	2				◎	
成 成形加工学	2			2			
シ システム制御理論Ⅰ	2		2				
シ システム制御理論Ⅱ	2			2			
振 振動・波動論	2			2		※	
制 制御工学	2	2					
応 応用ロボット工学	2		2				
表 表面計測	2	2					
航 航空工学概論	2		2				
ト トライボロジー	2	2					
破 破壊力学	2		2			◎	
熱・物 熱・物質移動論	2			2			
熱 熱流体計測	2		2				
切 切削工学	2		2				
選 選択科目開設単位計	40	14	16	10			
専 専門科目開設単位合計	78	21	28	23	6		
専 専門科目修得単位合計	46単位以上を修得						
一 一般教養・専門科目開設単位合計	91	26	30	27	8		
一 一般教養・専門科目修得単位合計	62単位以上を修得						

(注)備考欄に※を付した科目中2科目以上を、◎を付した科目中1科目以上を修得すること。

(次ページへ続く)

(2)電気電子工学専攻

区分	授業科目	単位数	学年別配当				備考
			第1学年		第2学年		
			前期	後期	前期	後期	
一般教養科目	必修	現代思想文化論	2	2			
		コミュニケーション英語	1	1			
		必修科目開設単位計	3	3			
	選択	哲学特講	2			2	
		地域学	2		2		
		時事英語	2	2			
		英語講読	2	2			
		応用倫理学	2		2		
		一般教養科目開設単位計	13	5	2	4	2
		一般教養科目修得単位計	8単位以上を修得				
専門共通科目	必修	工学倫理	2		2		
		シミュレーション工学	2	2			
		必修科目開設単位計	4	2	2		
	選択	数理工学Ⅰ	2	2			※
		数理工学Ⅱ	2		2		※
		数理統計	2	2			※
		数値流体力学	2		2		
		量子物理	2	2			※
		技術史	2		2		
		技術英語	2	2			
	選択科目開設単位計	14	2	6	6		
専門科目	必修	専攻科実験	1			1	
		専攻科ゼミナールⅠ	2	2			
		専攻科ゼミナールⅡ	2		2		
		専攻科特別研究Ⅰ	7	3	4		
		専攻科特別研究Ⅱ	8		3	5	
		必修科目開設単位計	20	5	4	5	6
	選択	専攻科特別実習	2	2			
		電磁解析	2	2			
		プラズマ工学	2		2		
		照明工学	2		2		
	エネルギー工学	2		2			
科目	選択	高電圧工学	2	2			
		光波電子工学	2	2			
		光物性工学	2	2			
		光応用計測	2	2			
		放射線計測	2	2			
		システム制御工学	2	2			
		応用電気回路学	2	2			
		デジタル信号処理	2	2			
		フーリエ変換技術	2	2			※
		アルゴリズムとデータ構造	2	2			
	コンピュータグラフィクス	2	2				
	応用パワーエレクトロニクス	2	2				
	選択科目開設単位計	34	14	14	6		
	専門科目開設単位合計	72	21	26	19	6	
		46単位以上を修得					
	一般教養・専門科目開設単位合計	85	26	28	23	8	
	一般教養・専門科目修得単位合計	62単位以上を修得					

(注)備考欄に※を付した科目中2科目以上を修得すること。

(次ページへ続く)

(3) 応用化学専攻

区分	授業科目	単位数	学年別配当				備考
			第1学年		第2学年		
			前期	後期	前期	後期	
一般教養科目	必修	現代思想文化論	2	2			
		コミュニケーション英語	1	1			
		必修科目開設単位計	3	3			
	選択	哲学特講	2			2	
		地域学	2		2		
		時事英語	2	2			
		英語講読	2	2			
		応用倫理学	2		2		
		一般教養科目開設単位計	13	5	2	4	2
		一般教養科目修得単位計	8単位以上を修得				
専門共通科目	必修	工学倫理	2		2		
		シミュレーション工学	2	2			
		必修科目開設単位計	4	2	2		
	選択	数理工学Ⅰ	2	2			※
		数理工学Ⅱ	2		2		※
		数理統計	2	2			※
		数値流体力学	2		2		
		量子物理	2	2			※
		技術史	2		2		
		技術英語	2	2			
	選択科目開設単位計	14	2	6	6		
専門科目	必修	専攻科実験	1			1	
		専攻科ゼミナールⅠ	2	2			
		専攻科ゼミナールⅡ	2		2		
		専攻科特別研究Ⅰ	7	3	4		
		専攻科特別研究Ⅱ	8		4	4	
		必修科目開設単位計	20	5	4	6	5
	選択	専攻科特別実習	2	2			
		高分子材料化学Ⅰ	2	2			
		高分子材料化学Ⅱ	2		2		
		化学工学熱力学	2	2			
	有機金属化学	2	2				
	分子分光化学	2	2				
	分離工学	2		2			
	有機結合論	2	2				
	無機合成化学	2	2				
	大気環境化学	2	2				
	電気化学	2		2			
	化学反応論	2	2				
	分子生物学	2		2			
	移動現象論	2	2				
	有機反応機構論	2	2				
	選択科目開設単位計	30	8	14	8		
	専門科目開設単位合計	68	15	26	22	5	
	専門科目修得単位合計	46単位以上を修得					
	一般教養・専門科目開設単位合計	81	20	28	26	7	
	一般教養・専門科目修得単位合計	62単位以上を修得					

(注)備考欄に※を付した科目中1科目以上を修得すること。

(次ページへ続く)

(4) 都市工学専攻

区分	授業科目	単位数	学年別配当				備考
			第1学年		第2学年		
			前期	後期	前期	後期	
一般 教養 科目	必	現代思想文化論	2	2			
	修	コミュニケーション英語	1	1			
		必修科目開設単位計	3	3			
	選	哲学特講	2			2	
	択	地域学	2		2		
		時事英語	2	2			
		英語講読	2	2			
		応用倫理学	2		2		
		一般教養科目開設単位計	13	5	2	4	2
		一般教養科目修得単位計	8単位以上を修得				
専 門 共 通 科 目	必	工学倫理	2			2	
	修	シミュレーション工学	2		2		
		必修科目開設単位計	4		2	2	
	選	数理工学Ⅰ	2		2		※
	択	数理工学Ⅱ	2		2		※
		数理統計	2		2		※
		数値流体力学	2		2		
		量子物理	2	2			※
		技術史	2		2		
		技術英語	2		2		
	選択科目開設単位計	14	2	6	6		
専 門 科 展 開 科 目	必	専攻科実験	1				1
	修	専攻科ゼミナールⅠ	2	2			
		専攻科ゼミナールⅡ	2		2		
		専攻科特別研究Ⅰ	7	3	4		
		専攻科特別研究Ⅱ	8		4	4	
		必修科目開設単位計	20	5	4	6	5
	選	専攻科特別実習	2	2			
	択	構造解析	2	2			
		複合構造	2		2		
		海岸工学	2		2		
	河川工学	2		2			
	応用水理学	2		2			
	応用防災工学	2	2				
	基礎工学	2	2				
	耐震工学	2		2			
	交通計画	2		2			
	都市計画	2	2				
	コンクリート構造	2	2				
	水辺環境学	2		2			
	選択科目開設単位計	26	12	14			
	専門科目開設単位合計	64	19	26	14	5	
	専門科目修得単位合計	46単位以上を修得					
	一般教養・専門科目開設単位合計	77	24	28	18	7	
	一般教養・専門科目修得単位合計	62単位以上を修得					

(注)備考欄に※を付した科目中2科目以上を修得すること。

出典：平成20年度専攻科のしおり (p40-43)

ユニティ開講科目

平成19年度 特別科目時間割						
曜日	期間	科目名	単位	担当大学	担当教員	時間
月	前期	※臨床心理学	2	流通科学大	岩崎准教授	18:15-19:45
		現代思想文化論	2	神戸高专	本田教授	16:30-18:00
		※応用倫理学	2	神戸高专	手代木准教授	18:15-19:45
	後期	※繊維製品産業論	2	神戸芸工大	鈴木講師	16:30-18:00
		※女性と世界	2	神戸外大	長助教教授 浜崎助教教授	17:50-19:20
		※多国籍企業論	2	流通科学大	今西准教授	18:15-19:45
		哲学特選	2	神戸高专	本田教授	18:15-19:45
火	前期	※広告デザイン論	2	神戸芸工大	かわい教授	16:30-18:00
		※臨床心理学Ⅰ	2	神戸外大	村本教授	17:50-19:20
		※入門市場経済のミクロ分析★(消費経済論)	4	兵庫県立大 (神戸商大)	岡本教授	16:30-18:00
		※比較企業論	2	流通科学大	上田教授	18:15-19:45
		※地域学	2	神戸高专	八百准教授	18:15-19:45
	後期	※臨床心理学Ⅱ	2	神戸外大	村本教授	17:50-19:20
		※情報ネットワーク論 (ハードウェア・ハードウェア概論)	4	兵庫県立大 (神戸商大)	秋吉教授	16:30-19:45
水	前期	※知的財産権論	2	流通科学大	小畑教授	18:15-19:45
		※保険論	2	流通科学大	佐藤教授	18:15-19:45
		医療英語	1	市看護大	川越准教授	18:15-19:45
		※女性と女性の健康	1	市看護大	高田教授	16:40-18:00
	後期	哲学概論	2	市看護大	松葉教授	18:15-19:45
木	前期	※英米法Ⅰ	2	神戸外大	楠田教授	17:50-19:20
		※西洋文化社会史Ⅰ	2	神戸外大	指教授	17:50-19:20
		※政治学a	2	兵庫県立大 (神戸商大)	瀧井教授	16:30-18:00
		※日本経済論	2	流通科学大学	森澤講師	18:15-19:45
		※技術史	2	神戸高专	中辻教授	16:30-18:00
		ジェンダー論	2	市看護大	中村講師	18:15-19:45
		後期	※英米法Ⅱ	2	神戸外大	楠田教授
	※西洋文化社会史Ⅱ		2	神戸外大	指教授	17:50-19:20
	※アメリカ経済論★		4	兵庫県立大 (神戸商大)	田島教授	16:30-18:00
	国際経済学B	2	流通科学大学	岡島准教授	18:15-19:45	
金	前期	※英語学講義Ⅰ	2	神戸外大	山口教授	17:50-19:20
		※入門市場経済のミクロ分析★(消費経済論)	4	兵庫県立大 (神戸商大)	岡本教授	16:30-18:00
		※英語学講義Ⅱ	2	神戸外大	山口教授	17:50-19:20
	後期	※アメリカ経済論★	4	兵庫県立大 (神戸商大)	田島教授	16:30-18:00

※印は高大連携講座

出典：ユニティホームページより

専攻科の科目担当教員の専門分野と担当授業科目 (例)

専攻科の科目担当教員の専門分野と担当授業科目

一般教養科目

職名	氏名	学位	専門分野	担当学年、クラス	担当科目	学期・選/必・単位
教授	本田 敏雄	博士	哲学	A1	現代思想文化論	前期・必修・2単位(学修単位Ⅱ)
				A2	哲学特講	後期・選択・2単位(学修単位Ⅱ)
教授	手代木 陽	修士	哲学、倫理学	A2	応用倫理学	前期・選択・2単位(学修単位Ⅱ)
教授	西山 正秋	修士	英語教育	A1	英語講読	前期・選択・2単位(学修単位Ⅱ)
准教授	今里 典子	修士	認知言語学	A1	英語講読	前期・選択・2単位(学修単位Ⅱ)
准教授	八百 俊介	修士	人文地理学	A2	地域学	前期・選択・2単位(学修単位Ⅱ)
准教授	上垣 宗明	修士	英語(外国語教育学)	A1	時事英語	後期・選択・2単位(学修単位Ⅱ)
非常勤	木津 久美子		英語	A1	コミュニケーション英語	前期・必修・1単位(学修単位Ⅱ)

専門共通科目

職名	氏名	学位	専門分野	担当学年、クラス	担当科目	学期・選/必・単位
教授	中辻 武	博士(工学)	トライボロジー・技術史	A2	技術史	前期・選択・2単位(学修単位Ⅱ)
講師	朝倉 龍裕	博士(工学)	画像処理、接合技術	A1	シミュレーション工学	後期・必修・2単位(学修単位Ⅱ)
准教授	藤本 健司	博士(工学)	医用生体工学、情報通信工	A1	シミュレーション工学	後期・必修・2単位(学修単位Ⅱ)
教授	八木 登彦	博士	数学一般、科学教育、教育工学	A1	数理工学Ⅰ	後期・選択・2単位(学修単位Ⅱ)
講師	加藤 真嗣	博士(工学)	空気機器、パワーエレクトロニク	A2	数理工学Ⅱ	前期・選択・2単位(学修単位Ⅱ)
准教授	柳木 拓哉	博士(工学)	流体力学、海洋工学	A2	数値流体力学	前期・選択・2単位(学修単位Ⅱ)
准教授	九鬼 卓隆	博士(理学)	生物物理学	A1	量子物理	前期・選択・2単位(学修単位Ⅱ)
非常勤	秋吉 一郎			A1	数理統計	後期・選択・2単位(学修単位Ⅱ)

出典：庶務係資料

観点3-1-④： 学校の目的に応じて、教員組織の活動をより活発化するための適切な措置（例えば、均衡ある年齢構成への配慮、教育経歴や実務経歴への配慮等が考えられる。）が講じられているか。

（観点に係る状況）

本校の教員は、専門学科63名（機械工学科21名、電気工学科11名、電子工学科10名、応用化学科10名、都市工学科11名）及び一般科目32名の計95名より構成されている。教員の年齢構成は学科により幾分異なるが、20歳台から60歳台までの年齢層別教員数は、各年齢層に渡って概ね均等に分布している。また、教員全体の平均年齢は45.0歳であり、各学科の教員の平均年齢もこれと大差ない（資料3-1-④-1）。

本校では教員採用に際しては教員募集項目に年齢基準を記載するなどして、年齢分布に配慮した募集が行われている。男女別教員数では、全教員における女性教員数（6名）の割合は7%である。

本校着任以前に教育経歴あるいは企業経歴を有する教員の割合は、全体で約28%であり、各専門学科においては約40%となっている。資料3-1-④-1に示す通りである。このように、いずれの学科においても多くの教員が本校着任以前に教育経歴あるいは企業経歴を持ち、それを本校での実践的な教育に生かしている。外国人教員については、例年英語担当の専任教員1名を採用し、学生の国際性の向上を図っている。

なお、個人情報を含むため、全教員の氏名、年齢、学位、経歴等に関する一覧表は訪問調査時に提示する予定である。

博士の学位（以下「学位」という。）を有する専任教員数は資料3-1-④-1に示す通り、専門学科では約80%である。高専の教員は学生の教育や生活指導などに多くの時間が費やされるため、着任後に学位を取得するのは容易ではない。このため、専門学科では既に学位を有すること（講師以上）、それが望ましいこと（助教）を公募要項に明記して教員募集を行っている。なお、学位取得のため社会人ドクターコース制度を活用した事例があり、その際には校務分担を軽減するなどの配慮がなされている。なお、技術士の資格を有する教員も2名いる。

教員評価制度は、授業に関する新たな取り組みなど学力の向上に関して顕著な成果が認められた者または、それ以外の取り組みで顕著な成果が認められた者に対して原則1名（1グループ）を顕彰している。選考は候補者の成果に関する認査結果および意見聴取をもとに委員会が選考している（資料3-1-④-2）。

（分析結果とその根拠理由）

教員組織の活動を活性化するため、教員募集においては公募制を採用し、教員選考規則に基づく選考体制を整備している。この結果として、教員年齢構成の均衡化や性別による職位の均衡等についても配慮した選考が行われている。また、質の高い実践的な教育を施すため、教育経歴や企業経歴を重視した教員選考を行うとともに、博士の学位取得者数を高める努力を行っている。国際性を高める観点から、外国人非常勤教員を採用している。優秀教員評価制度が確立され、制度に基づく表彰を毎年実施している。

以上のことから、教員組織の活動をより活発化するための適切な措置が講じられている。

資料3-1-④-1

教員の年齢・経験・学位等

学科ごとの年齢構成

年齢	機械工学科	電気工学科	電子工学科	応用化学科	都市工学科	一般科	合計
50～	8	4	2	5	3	14	22
40～49	5	3	4	2	4	7	18
30～39	5	3	4	2	3	10	17
20～29	2	1	0	1	1	1	5
合計	20	11	10	10	11	32	94

	機械工学科	電気工学科	電子工学科	応用化学科	都市工学科	一般科	全平均
平均年齢	45.1	44.7	42.9	47.2	43.2	45.8	45

着任前の企業(教育)経験者数

	機械工学科	電気工学科	電子工学科	応用化学科	都市工学科	一般科	合計
企業経験者数	10	2	4	4	6	5	26
割合(%)	50.0	18.2	40.0	40.0	54.5	15.6	27.7

博士の学位取得者数

学位取得者数	機械工学科	電気工学科	電子工学科	応用化学科	都市工学科	一般科	合計
全体	13	11	8	9	9	8	58
割合(%)	65.0	100.0	80.0	90.0	81.8	25.0	61.7
講師以上	12	11	8	8	8	6	53
割合(%)	60.0	100.0	80.0	80.0	72.7	18.8	56.4

出典：庶務係資料

神戸高専教育表彰制度に関する規程

制定平成16年4月1日

(目的)

第1条 この規程は、神戸高専教育表彰制度に関して必要な事項を定めることを目的とする。

(教育表彰委員会)

第2条 教育表彰委員会（以下「委員会」という。）の構成は、以下の通りとする。

- (1) 校長
- (2) 教務主事
- (3) 学生主事
- (4) 事務室長
- (5) 各学科長並びに一般科長
- (6) 図書館長
- (7) 専攻科長

(委員会の任務)

第3条 神戸高専における教育・授業の向上に貢献したと認められる教職員を表彰するためその候補者を審査し、表彰者の選考を行う。

2 委員会は選考を円滑に行うため、表彰選考補助者（以下補助者という）を任命することができる。

(表彰部門)

第4条 表彰は、以下の2部門とする。

- (1) 授業に関する新たな取り組みなど学力の向上に関して顕著な成果が認められた者または、グループの代表者とする。ただし、原則として、それぞれ1名とする。
- (2) 上記(1)以外の取り組みで顕著な成果が認められた者または、グループの代表者とする。ただし、原則として、それぞれ1名とする。

(被表彰者の資格)

第5条 教職員全員が被表彰者の資格を有するものとし、候補者は、自薦、他薦を問わない。

(選考の方法)

第6条 候補者の成果に関する認査結果および意見聴取をもとに選考する。

2 委員会または補助者は、候補者ならびに全教職員に対して個別に意見を聴取することができる。

(被表彰者の義務)

第7条 表彰された教職員ならびにそのグループの代表者は、その成果や取り組み、考え方などを広く全教職員に伝えるため、講演や報告を行わなければならない。

附 則

この規程は、平成16年4月1日より施行する。

観点3-2-①： 教員の採用や昇格等に関する規定などが明確かつ適切に定められ、適切に運用がなされているか。

(観点に係る状況)

昇格の手続きは、昇任・昇格評価基準(資料3-2-①-1, 具体例は訪問調査時に提示する予定)で定められており、各科主任、専攻科長、副校長で構成する昇任・昇格委員会が最終候補者を選考し、教育委員会に推薦する。

教員の昇格に際しては、選考委員会は候補者の履歴書および教育研究業績書(資料3-2-①-2)による書類審査でその教育、研究活動実績等を評価し、設置基準も考慮して点数化した基準により昇格の可否を決定する。

また、非常勤講師の採用に関しては専門性、緊急性等を考慮し、各科の会議で候補者を推薦し、校務運営委員会です承後(資料3-2-①-3)、教育委員会が任用を決定している。

教員の採用に関しては各学科において、必要な教員の専門分野、経験などを検討し公募する。これらの公募は全国の大学、高等専門学校に広く公募するほか、学会誌、研究者人材データベース、本校ホームページでも公募している(資料3-2-①-4)。選考に際しては書類審査により原則として3名以上の面接候補者を挙げ、面接審査を経て選考委員会が採用者を決定している。面接審査委員は校長、副校長、担当学科代表(学科主任、専門が関連する教員)および教育委員会担当者から構成され、委員の合議の上採用を決定する。

(分析結果とその根拠理由)

採用や昇格に関する手続きの規定は明確に定められている。公募に際しては、高等専門学校設置基準に示された職位に応じた応募資格を公募文書ではっきりと謳っている。書類審査、面接審査の手続きは適切に定められており、また審査に際しては、高等専門学校設置基準に定められた教員資格を基準として、独自に候補者の教育指導能力の評価も行っており、適切に運用がなされている。

以上のことから、教員の採用や昇格等に関する規定などが明確かつ適切に定められ、適切に運用がなされている。

神戸市立工業高等専門学校教員昇任推薦基準

ここに定める基準は、本校校長が教育委員会に昇任・昇格を推薦するに必要な資格の最低基準であり、この基準を満たさないものは、教育委員会に推薦されない。

[1] 教員評価点

下記に示す項目について合計100点満点で評価する。

研究	研究業績点 ¹⁾	40点満点
教育	教育能力点 ²⁾ + クラブ担当点 ³⁾	30点満点
社会及学校運営貢献	校務分掌点 ⁴⁾ + 地域連携業績点 ⁵⁾	30点満点
合計		100点満点

* 上記1)～5)の各業績の評価点(10点満点)算定表は別途内規で定める。

[2] 教授推薦基準

神戸市立工業専門学校(以下、本校)に在籍する教員のうち教授に昇任しようとする者は、以下のア)を満たし、且つ、イ)またはウ)を満たす者に限る。

- ア) 高等専門学校において准教授(または助教授)として9年以上の勤務経験があり、満60歳未満の者、あるいはそれと同等以上の経験を有すると認められるもの。
- イ) 博士の学位を有し、教員評価点の合計が60点以上のもの。
- ウ) 博士の学位を持たないが教員評価点の合計が80点以上のもの。

[3] 准教授推薦基準

本校に在籍する教員のうち准教授に昇任しようとする者は、以下のア)且つ、ウ)、オ)、カ)のいずれかを満たす者、または、イ)且つ、ウ)、エ)、カ)のいずれかを満たす者に限る。

- ア) 博士の学位を有する者、または、昇任時を起点として1年以内に博士の学位を取得見込みの者で、教員評価点の合計が40点以上の者。
- イ) 博士の学位を持たないが教員評価点の合計が60点以上の者。
- ウ) 高等専門学校において助教(または助手)および講師の経験が通算で9年以上の者
- エ) 修士の学位を有する者で、高等専門学校において助教(または助手)および講師の経験が通算7年以上の者。
- オ) 博士課程を修了した者で、高等専門学校において助教(または助手)および講師の経験が通算4年以上の者。
- カ) ウ)からオ)に掲げる者と同等以上の経験を有すると認められる者。

[4] 講師推薦基準

本校に在籍する教員のうち講師に昇任しようとする者は、以下のア)且つ、ウ)、オ)、カ)のいずれかを満たす者、または、イ)且つ、ウ)、エ)、カ)のいずれかを満たす者に限る。

- ア) 博士の学位を有する者、または、昇任時を起点として1年以内に博士の学位を取得見込みの者で、教員評価点の合計が25点以上の者。
- イ) 博士の学位を持たないが教員評価点の合計が40点以上の者。

資料3-2-①-2

(その1)

履 歴 書

平成19年 月 日現在

フリガナ 氏 名	印	生年月日 (年齢)	
本籍地又は国籍			
現住所			
学 歴			
年 月	事 項		
昭和〇〇年 〇月	高校卒業時を含めて、以降の学歴を記入のこと		
昭和〇〇年 〇月	最終学位(博士(工学))等記載		
職 歴			
年 月	事 項		
平成〇年 〇月			
学 会 活 動			
年 月	事 項		
S.63.6~現在 H.5.6~H.7.5	加入学会名、学会委員会の役職等(会長、支部長、理事、委員長、幹事長、幹事、委員等)も記述のこと。 日本機械学会(正員) 日本機械学会関西支部評議員		
社 会 に お け る 活 動			
年 月	事 項		
S.58.4~S59.3 H18.5.25 H15.8.10~8.14	(外部委嘱委員会等：外部から委嘱された委員会名・役職および公職と在任期間を記入のこと) ・神戸金属機械協会：ナノテクノロジーの金属加工技術への応用に関する研究委員会・委員 (産学連携活動等：本校の産学連携行事等で実施した活動(技術相談、公開講座等について内容、相手、年月日を記入のこと、また、その他、活躍としての特記事項があれば記入のこと) ・神戸市産業振興財団主催：CAD講習会講師 ・神戸高専地域協働研究センター主催：小学生水泳教室講師		
賞 罰			
賞			
罰			

スペースが足りない場合は2頁に亘ってもかまわない

(次ページへ続く)

(その2)

教育研究業績書

平成 年 月 日

氏 名 印

教育上の能力に関する事項	年月日	概 要
1. 教育方法の実践 特に優れていると考える教育・教授法についてその講義名を記入 ・〇〇特論（専攻科1年前期）	H〇～	優れていると思われる内容を記入 (例) ・英語で作成した講義ノートを配布し、授業は英語で実施、学生にも授業中は英語で質問させる。また、随時、英語で説明させており、学生の英文読解・会話能力を講義と同時に養う。
2. 作成した教科書、教材 ・〇〇工学概論（××出版）	H〇～	概要・著者を記述する。 ・〇〇工学の大系、〇〇工学と〇〇事業、××と〇〇、△△と〇〇の仕組み、〇〇構造の機能と役割、今後の〇〇工学の方向、をわかりやすく解説（〇〇太郎、××一郎）。（担当：1章～3章、5章、6章）
3. 当該教員の教育上の能力に関する教育・研究機関の評価 教育・教授法に関連して学校等から得た表彰など	H〇～	表彰等の理由を記述する。
4. 担当した講義科目 過去に担当した講義科目と期間を記入のこと。 本校の勤務経験者にあつては、本科単独授業科目について、学生による授業アンケートの項目（A, B, C, E）の評価値の過去5年間の平均点を記入のこと。勤務年限が5年未満の教員は勤務年数内の平均点を記入のこと。		
5. 校内で担当した校務等 過去に就任した校内の担任等あるいは各種委員会等で果たした役職および就任期間について記入のこと		
6. 校内クラブ担当等 過去に顧問に就任したクラブ名および就任期間 （就任期間中に実施した特記すべき指導内容・成果等があれば記入すること）		
職務上の実績に関する事項	年月日	概 要
1. 資格、免許		技術士等記載のこと
2. 特許等		特許出願、特許登録の区分ごとに記入のこと。
外部資金の獲得等に関する事項	年	内 容
1) 科学研究費（・・研究B）		項目別に研究の題目、金額、研究代表者、分担者別に記入し、研究業務上の貢献度（%）を記入のこと。分担者の場合は代表者氏名も明記すること。
2) 委託研究業務（・・・調査会）		
3) 奨学寄付金（・・会社）		

出典：教務主事室資料

平成19年度第10回校務運営委員会議事録（非常勤講師について）

日時：平成20年2月4日（月）15:50

場所：本部棟2階第1会議室

（協議事項）

1. 「目安箱」の設置について（教務主事）＜承認＞（別紙資料：P1）
 - ・学生の意見をどのように汲みあげているのか、このような制度が必要である。
 - 本部棟1階ロビーに設置（施錠）、月1回程度開けて内容について検討する。
 - ・学年、氏名は記入するようにする。
2. 本校教職員、来校者の名札の着用について（学生主事）＜承認＞
 - ・学生が何科の教員か判断できるように、（非常勤講師も含）学校関係者と判るようにする。
 - 学力入試日から実施する。

（報告・依頼事項）

1. 校長より
 - (1) 教務主事（研究担当）の新設について
 - ・20年度から主事3人制になる（予算化）。研究担当教務主事は主事選挙によって決定するが、次回選挙（20年度実施、21年度任命）までの1年間は校長が任命する。
2. 教務主事室関係（別紙資料：P2～14）（教務主事）
 - (1) 推薦入試（1/25（金）実施）
 - 合格者…M(34/95)、E(16/42)、D(18/48)、C(16/56)、S(13/35)、志願者合計 276(59増)
 - ・学力入試志願者も前年より48名増である。
 - (2) 1月度評価委員会報告（別紙資料：P2）
 - (3) 授業アンケートについて（各科目のコメント、学科等の総括文）（別紙資料：P3～5）
 - (4) 「ロボットフェスティバル2008」（2007/12の近畿校長会を経て和歌山高専提案）
 - ・2月中旬までに参加の意思表示。明石高専と協議が必要、本校は大淵・朝倉の2名が担当。
 - 今後は、本校の「ロボコン振興会」の組織強化も必要である。
 - (5) 平成20年度非常勤講師について（別紙資料：P6～13）
 - ・各科新任の講師について説明。
 - 来年度からは、12月度の校務運営委員会において各科が資料作成のうえ新任非常勤講師の採用について報告、説明する。
 - (6) 平成20年度校務分掌について
 - ・一般科の情報委員会、ロボコン振興会の委員は、1名づつになる。
 - 機械工学科のKEMS委員は3名になる。
 - (7) 平成20年度行事予定表（別紙資料：P14）
 - ・保護者会は7/5にする。高専祭の代休について検討必要。

※ 本日校務運営委員会議事終了後、教育表彰選考委員会を開催
3. 学生主事室関係（学生主事）
 - (1) 学習支援（2/13（水）～19（火））
 - ・前回と同じく研究室待機、終了後施錠する。
 - (2) 全校清掃（2/22（金））・学力入試日に向けて、校内清掃実施。
4. 専攻科関係（別紙資料：P15）（専攻科長）
 - (1) 学位申請：2月28日（木）までに機構に成績証明書必着
 - (2) 専攻科修了、教育プログラム認定にむけて

（次ページへ続く）

平成 20 年度 非常勤講師名簿 (例)

08非常勤講師名簿

学科	新規	担当者	氏名	年齢 (2008/4/1 現在)	役職名	住所	期間	時間 (週)	単 位	学習 単位 II	教科名	担当 クラス
電子工学科		藤本	■■■■■	●●	▲▲▲▲▲	■■■■■ ■■■■■ ■■■■■	通期	2	2		情報理論	D5
電子工学科		笠井	■■■■■	●●	▲▲▲▲▲	■■■■■ ■■■■■ ■■■■■	通期	2	2		電子計測	D4
電子工学科		尾崎進	■■■■■	●●	▲▲▲▲▲	■■■■■ ■■■■■ ■■■■■	通期	2	2		電子工学序論	D1
電子工学科		若林	■■■■■	●●	▲▲▲▲▲	■■■■■ ■■■■■ ■■■■■	前期	2	2	○	工業英語	D5
電子工学科		尾崎進	■■■■■	●●	▲▲▲▲▲	■■■■■ ■■■■■ ■■■■■	通期	2	2		電気数学	D3
電子工学科		橋本好	■■■■■	●●	▲▲▲▲▲	■■■■■ ■■■■■ ■■■■■	通期	2	2		論理回路	D2
電子工学科		笠井	■■■■■	●●	▲▲▲▲▲	■■■■■ ■■■■■ ■■■■■	後期	4	2		実験実習	D5
電子工学科		笠井	■■■■■	●●	▲▲▲▲▲	■■■■■ ■■■■■ ■■■■■	前期	12	2 2 2		実験実習	D2 D3 D5
電子工学科		若林	■■■■■	●●	▲▲▲▲▲	■■■■■ ■■■■■ ■■■■■	通期	2	2		数値解析	D4
電子工学科		西	■■■■■	●●	▲▲▲▲▲	■■■■■ ■■■■■ ■■■■■	後期	4	2		実験実習	D2
電子工学科		小矢	■■■■■	●●	▲▲▲▲▲	■■■■■ ■■■■■ ■■■■■	前期	2	2	○	電子応用	D5

出典：教務主事監資料

教員公募

機械工学科(ロボット工学)教員公募

1. 専門分野	ロボット・計測分野
2. 担当予定科目	応用ロボット工学・計測工学関連科目、実験、実習または製図、卒業研究
3. 応募資格	<ul style="list-style-type: none"> • (1) 着任時に博士の学位を有する方 • (2) 高専の教育(学級担任、学生指導、クラブ・ロボコン指導を含む)および学術研究に熱意のある方
4. 募集職名及び人員	准教授または講師 1名
5. 採用予定日	平成20年4月1日
6. 必要書類(各一通)	<ul style="list-style-type: none"> • (1) 履歴書(写真貼付) ダウンロード: 記入説明 (PDF形式) 指定様式 (MS-Word形式) • (2) 教育研究業績書(論文、著書、学会発表、特許等) ダウンロード: 記入説明 (PDF形式) 指定様式 (MS-Word形式) ※(1)および(2)は、本校指定様式を上記からダウンロードして使用してください。 • (3) 主要論文の別刷りまたはコピー(5編以内) • (4) これまでの研究概要と着任後の教育・研究および地域貢献についての所見・抱負を含むもの(A4用紙4枚以内) • (5) 推薦書もしくは応募者についての参考意見を伺える方2名の連絡先(氏名、所属、電話番号、電子メールアドレス)
7. 応募締切	平成19年11月30日(金) 事務室必着
8. 選考方法	書類選考により第1次審査を行い、第1次審査合格者に面接を実施します。 面接予定日 平成19年12月22日(土)
9. 応募書類の送付先	〒651-2194 神戸市西区学園東町 8-3 神戸市立工業高等専門学校 事務室庶務係 TEL 078-795-3171 FAX 078-795-3314 ※封筒に「機械工学科(ロボット工学)教員公募」と朱書き、簡易書留で郵送してください。
10. 問い合わせ先	機械工学科主任 尾崎 元泰 TEL 078-795-3222 E-mail mozaki@kobe-kosen.ac.jp

出典：本校ウェブサイト

観点3-2-②： 教員の教育活動に関する定期的な評価を適切に実施するための体制が整備され、実際に評価が行われているか。また、その結果把握された事項に対して適切な取組がなされているか。

(観点に係る状況)

教員の教育活動を評価する組織として、「評価委員会」(資料3-2-②-1)が設置されており、評価事項の検討、評価結果の活用が検討されている。

教育活動に関する自己評価は、「教育活動報告書」および「教育改善」をWeb上から登録できる教職員データベースシステムが完成しており、全校で一元的に管理され実施されている(資料3-2-②-2)。ここでは年度毎に教育改善をおこなった業績を記録し、データベースとして担当者がいつでも閲覧できる形になっている。

また、各年度において教科が終了(もしくは担当者が交代)する前期終了時点と後期終了時点で全校一斉に「学生による授業アンケート」が実施されている(資料3-2-②-3)。この評価結果は教員がWeb上から入力後、一元的に管理され(資料3-2-②-4)、その評価結果をWeb上で確認することができる(資料3-2-②-5)。教員はその結果を元に改善策の入力が義務付けられており、次年度以降の教育改善に役立てることができる。また、そのアンケート結果と改善策は授業を通じて学生にフィードバックし公開されている。

平成18年度は評価委員会内に授業アンケートプロジェクトチームを立ち上げ、平成17年度の学生による授業アンケート結果(資料3-2-②-4, 5)の分析を行った。これは(E4)(総合評価)をベースにして、他の項目(A)群(先生の授業の様子)、(B)群(先生の授業準備や工夫について)、(C)群(授業の進め方や評価内容について)、(D)群(あなた自身の授業への取り組みについて)との相関をとった。その結果、(E4)(総合評価)と(B4)(要点・コツ・注意等がわかりやすい)、(C2)(学生の反応や理解度に応じた進み具合である)および(E2)(この教科に対する興味や学習意欲が増した)の相関が高いことが判明した。また、(E)群の平均値が高ければ、そのクラスの翌年の(E)群平均値も高いこともわかった。これは低学年での授業がいかにか大事であることを示唆している。また、全体的に年度を重ねる毎に(E)群の上昇傾向が見られ、各教科の授業改善が窺える。これらのチェック結果は、11月度のFD学習会で全教員に周知された。また、平成18年度の授業アンケート結果にもこの内容が盛り込まれており、図書館で閲覧できる形を取り、全教職員と学生に周知している。

さらに、学生による授業アンケート結果の5段階評価で2.5を下回る教科については、教務担当副校長より、各学科主任に改善勧告書を出し、当該科目担当者から文書で回答していただき、教科内容の改善を図っている(資料3-2-②-6)。

(分析結果とその根拠理由)

教員の教育活動を評価する委員会が設置され、教員は自己評価、教員による相互評価、学生による評価と多面的な評価を受けている。また、授業においても、学生による授業アンケートが実施され、評価を受けている。また、特にアンケート結果が不良であった教科については、教務担当副校長より、改善勧告書が手渡されている。

以上のことから、教育活動に関する定期的な評価を適切に実施する体制が整備され、実際に評価が行われている。

神戸市立工業高等専門学校評価委員会規程

制定平成15年4月1日

改正平成17年8月1日

(目的)

第1条 この規定は、神戸市立工業高等専門学校評価委員会（以下「評価委員会」という。）について必要な事項を定めることを目的とする。

(設置)

第2条 学校教育法施行規則第71条の2の規定を受け、神戸市立工業高等専門学校（以下「当校」という）の学習・教育目標の達成度や教育研究等の状況について自ら点検及び評価を行うため、当校に評価委員会を置く。

(組織)

第3条 評価委員会は以下に掲げる者をもって組織する。

- (1) 校長
- (2) 教務主事及び教務副主事1名
- (3) 学生主事及び学生副主事1名
- (4) 専攻科長
- (5) 各科からそれぞれ1名
- (6) 事務室長及び両係長

(任務)

第4条 評価委員会は、次の事項を任務とする。

- (1) 内部アンケート（学生にたいする授業アンケート等）の実施及びその結果の分析並びに対応の検討。
- (2) 外部アンケート（卒業生、修了生、企業等にたいするアンケート等）の実施及びその結果の分析並びに対応の検討。
- (3) 外部評価及び自己評価に関する企画及び総括。
- (4) (1)～(3)に基づく学習・教育目標の達成度や教育研究等についての点検及び評価。（委員長等）

第5条 評価委員会に委員長及び副委員長を置く。

- 2 委員長は、校長をもってあてる。
- 3 副委員長は、教務主事をもってあてる。
- 4 委員長に事故あるときは、あらかじめ委員長が指名する委員がその職務を代行する。（プロジェクトチーム）

第6条 前条各号の任務及び評価委員会の業務を実施するため、プロジェクトチームを組織することができる。

- 2 プロジェクトチームの構成員は、副委員長が指名する。

(任期)

第7条 委員の任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。

附 則

この規定は、平成15年4月1日から施行する。

附 則

この規定は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規定は、平成17年8月1日から施行する。

神戸高専教職員データベース

The screenshot shows the homepage of the '神戸高専教職員データベース' (Kobe City College of Technology Staff Database). The browser address bar shows 'http://hayabusa/index.php'. The page title is '神戸高専教職員データベース' and the subtitle is 'Database System for Education and Research in Kobe City College of Technology'. A login field shows 'Login: 橋本好幸'. The current location is indicated as '現在の位置: 一般HOME'. A navigation menu includes '個人データ', 'シラバス', 'オフィスアワーズ', '教育改善', '研究活動', '教育活動', and 'リンク'. A '注意事項' (Notice) section lists rules for input, such as no half-width kana and specific character restrictions. A '更新履歴' (Update History) section lists recent system changes from 2005 to 2007. Callouts provide additional context: '現在の位置を示します。' (Indicates current location), 'ログインユーザー名が表示されます。' (Login user name is displayed), 'データベース全般に関する注意事項です。最初にお読みください。' (Notice regarding the database in general, please read it first), '更新履歴です' (This is the update history), and '様々なメニューです。' (These are various menus).

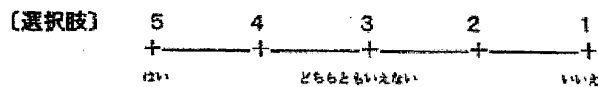
出典：ウェブサイト（教職員用）

学生による授業アンケート用紙

H18年度 学生による授業アンケート (座学・実験実習・設計製図・卒業研究)

クラス		教科名		教官名	
-----	--	-----	--	-----	--

私たち教員は、授業内容の向上を図り、学生の皆さんと共によりよい授業を実現したいと考えています。その資料とするために、皆さんの率直な意見を聞きたいと思っておりますので、高専生として自覚ある回答をお願いします。回答の記入は各群毎に5段階評価で設問順に数字で記入して下さい。なお、F群はその教科独自の設問です。その内容と選択肢は担当教官が説明します。



A群 先生の授業の様子について

- A1. 話し方、声は明瞭である。
- A2. 板書の文字や図は見やすい。
- A3. ノートをする時間に不足はない。
- A4. 授業への取り組みに熱意を感じる。

A群回答欄

--	--	--	--

B群 先生の授業準備や工夫について

- B1. 授業内容の準備や施設設備の点検整備は万全である。
- B2. 演習や課題があなたの理解や技能の向上に役立った。
- B3. 課題や宿題、レポート等の提出物のアフターケアは適切である。
- B4. 要点・コツ・注意点等がわかりやすい。

B群回答欄

--	--	--	--

C群 授業の進め方や評価内容について

- C1. シラバス通りに授業は行われている。
- C2. 学生の反応や理解度に応じた進み具合である。
- C3. 質問に気軽に応じてもらえる雰囲気や時間的ゆとりがある。
- C4. 試験(評価対象の課題やレポートなど)の内容は適切である。

C群回答欄

--	--	--	--

D群. あなた自身の授業への取り組みについて

- D1. シラバスを活用している。
- D2. 積極的に授業を受けている(私語・居眠り・内職などほとんどしない)。
- D3. 予習あるいは復習をしている。
- D4. オフィスアワーズを利用している。

D群回答欄

--	--	--	--

E群. この授業の総合評価について

- E1. 授業内容をよく理解できる。
- E2. この教科に対する興味や学習意欲が増した。
- E3. シラバスの到達目標を達成した。
- E4. この授業は良いと総合評価できる。

E群回答欄

--	--	--	--

F群. その他(教科独自の項目)

- F1.
- F2.
- F3.
- F4.

F群回答欄

--	--	--	--

記述欄 (この授業をよくするための建設的な意見や要望があれば書いて下さい。裏面も可)

平成17年度機械工学科教科別アンケート結果

学年	授業科目名	サンプル数	A群:授業の様子	B群:準備・工夫	C群:授業の進め方	D群:学生の取り組み	E群:総合評価
M1A	情報基礎[前期担当者]	39	3.68	3.88	3.60	2.37	3.48
	情報基礎[後期担当者]	40	3.55	3.44	3.27	2.18	3.33
	設計製図	40	3.37	3.19	3.26	2.01	3.03
M1B	情報基礎	40	3.52	3.67	3.76	2.62	3.77
	設計製図[前期担当者]	39	3.56	3.88	3.34	2.38	3.57
	設計製図	39	3.10	3.40	3.10	2.42	3.09
1年	平均		3.46	3.58	3.39	2.33	3.38
M2A	情報処理[担当者A]	38	3.56	3.79	3.67	2.57	3.45
	材料工学[前期担当者]	40	4.21	4.15	4.04	2.71	3.85
	材料工学[後期担当者]	37	3.54	3.40	3.51	2.12	3.10
	機械工作法	38	3.89	3.64	3.71	2.37	3.35
	機械工学概論	40	3.51	3.51	3.41	2.05	3.22
	設計製図	40	3.21	3.03	2.60	2.29	2.88
M2B	情報処理[担当者A]	36	3.57	3.33	3.40	2.33	3.11
	材料工学[前期担当者]	37	4.09	3.94	4.01	2.47	3.76
	材料工学[後期担当者]	29	3.03	2.91	2.97	2.03	2.59
	機械工作法	37	3.95	3.68	3.71	2.25	3.39
	機械工学概論	38	3.51	3.38	3.30	2.09	3.44
	設計製図	36	3.10	3.28	3.46	2.14	3.03
2年	平均		3.61	3.52	3.49	2.29	3.28
M3D	応用物理	34	3.48	3.88	3.85	2.07	3.34
	工業力学	34	2.31	2.38	2.18	1.75	2.07
	材料力学	32	4.41	4.27	4.27	2.15	3.79
	機械設計	35	4.14	4.30	4.09	2.11	3.91
	設計製図	33	3.77	3.78	3.83	2.14	3.64
	電気工学	36	4.13	4.09	4.01	2.21	3.65
	材料工学	34	3.18	3.37	3.49	1.84	3.09
	加工工学	36	4.43	4.19	4.41	2.15	4.06
	機構学	33	4.20	4.31	3.88	2.11	3.67

出典：学内ウェブサイトより抜粋

アンケートデータの確認(本科用)

クラス	教科名	必修・選択	単位数	前期・後期・通年
M2A	材料工学[前期担当者]	必修	2単位	通年

A群 先生の授業の様子について		5	4	3	2	1	回答数	平均値	群平均
A1.話し方・声は明瞭である。		24	8	4	0	0	36	4.6	
A2.板書の文字や図は見やすい。		21	9	5	1	0	36	4.4	
A3.ノートをする時間に不足はない。		21	8	7	0	0	36	4.4	
A4.授業への取組みに熱意を感じる。		14	14	8	0	0	36	4.2	4.4

B群 先生の授業準備や工夫について		5	4	3	2	1	回答数	平均値	群平均
B1.授業内容の準備や施設設備の点検整備は万全である。		21	6	9	0	0	36	4.3	
B2.演習や課題があなたの理解や技能の向上に役立った。		18	10	8	0	0	36	4.3	
B3.課題や宿題、レポート等の提出物のアフターケアは適当であった。		15	17	4	0	0	36	4.3	
B4.要点・コツ・注意点等がわかりやすい。		18	15	3	0	0	36	4.4	4.3

C群 授業の進め方や評価内容について		5	4	3	2	1	回答数	平均値	群平均
C1.シラバス通りに授業は行われている。		19	2	6	1	6	36	3.6	
C2.学生の反応や理解度に応じた進み具合である。		13	14	8	0	1	36	4.1	
C3.質問に気軽に応えてもらえる雰囲気や時間的なゆとりがある。		16	8	9	1	2	36	4.0	
C4.試験(評価対象の課題やレポートなど)の内容は適切である。		10	7	5	3	11	36	3.1	3.7

D群 あなた自身の授業への取り組みについて		5	4	3	2	1	回答数	平均値	群平均
D1.シラバスを活用している。		7	6	6	2	15	36	2.7	
D2.積極的に授業を受けている(私語・居眠り・内職などをほとんどしない)。		14	10	9	1	2	36	3.9	
D3.予習あるいは復習をしている。		12	14	5	2	3	36	3.8	
D4.オフィスパワーズを利用している。		6	6	3	1	20	36	2.4	3.2

E群 この授業の総合評価について		5	4	3	2	1	回答数	平均値	群平均
E1.授業内容をよく理解できる。		14	15	5	0	1	35	4.2	
E2.この教科に対する興味や学習意欲が増した。		11	14	8	1	1	35	3.9	
E3.シラバスの到達目標を達成した。		14	10	10	0	1	35	4.0	
E4.この授業は良いと評価できる。		9	14	8	2	1	34	3.8	4.0

F群 その他(自由設定項目)		5	4	3	2	1	回答数	平均値	群平均
F1.		0	0	0	0	0	0	0.0	
F2.		0	0	0	0	0	0	0.0	
F3.		0	0	0	0	0	0	0.0	

(次ページへ続く)

F4.

0 0 0 0 0 0 0.0 0.0

結果の分析:

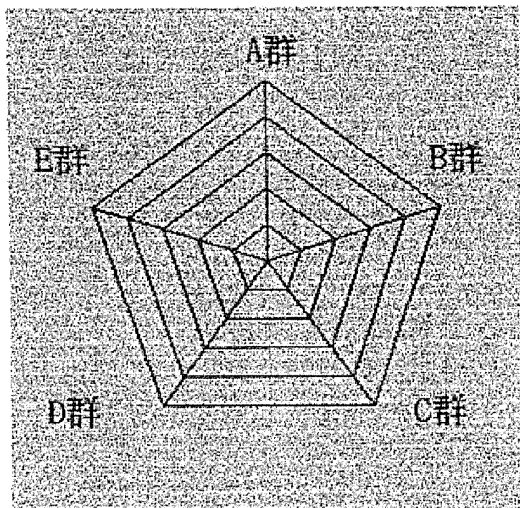
A群B群ともに4.0以上となっており、ある程度意欲を持って授業に望んでいることがうかがえる。C群の評価が他に比べてやや低くなっているのは、座学中心の暗記科目であるため、どうしても授業が単調になってしまうためであると考え。今回、授業中のレポートを翌日提出として、自宅学習の機会を作ったことで例年になくD群の結果が良くなっている。自学自習の習慣は、学問を理解できた時の喜びを得るためには必要不可欠な取り組みであるので、今後も工夫を凝らして進めていきたいと考える。

対応策:

C群の評価が他に比べてやや低くなっているのは、座学中心の暗記科目であるため、どうしても授業が単調になってしまうためであると考え。後期の授業はパワーポイントを使用して視覚的に取り組める内容となっているが、前期にも学生自身が手を動かして取り組むことのできる内容を取り入れたいと思う。その一方で、授業中にノートを取る習慣、さらに、ノートの取り方を充実させて、自分の自学自習に役立てる方法などを平行して教えたいと考えている。

その他:

クラスで一部、授業中に騒がしい学生がおり、他の学生が迷惑している。このあたり、タイミングを見て注意していきたい。クラス全体としては学習意欲の強いクラスで、集中力も高いと思われる。

メモの内容:**レーダーチャート**

kyoumubu@kobe-kosen.ac.jp

出典：学内ウェブサイトより抜粋

資料3-2-②-6

授業アンケート結果の改善について

平成20年4月14日

■■工学科 学科長 様

平成19年度の授業アンケート結果について

教育担当教務主事

平成19年度 ■■クラス「▲▲▲▲▲」の授業アンケート結果について、運営改善会議で検討した結果、下記の結論に至りました。
つきましては、改善策を平成20年4月末日までに教育担当教務主事に書面で報告下さい。

記

■■クラス「▲▲▲▲▲」について、■■工学科で、講義内容（レベル、ボリューム）及び開講時期について論議してください。

+

以上

出典：運営改善会議資料

観点3-3-①： 学校において編成された教育課程を展開するのに必要な事務職員，技術職員等の教育支援者が適切に配置されているか。

（観点に係る状況）

本校の事務は、事務室長，主幹，庶務係，学生係から構成されている。以上の部署のうち，教育課程の展開に直接的に関係するのは，学生係である。学生係では7名の職員が配置されており，これらの業務内容を資料3-3-①-1に示す。

図書館には，司書あるいは専門的知識を有する職員が4名配置されている。

庶務係では，9名の職員が教員予算，クラス費，備品管理，施設管理など学生に関連する業務を分担して担当している。業務内容は資料3-3-①-2に示す通りである。

庶務係に所属する技術指導員は計12名が各科に配置されており，学生の実験・実習の技術的支援や教職員からの技術相談等を担当する。また，学内での活動が円滑に進むように各科に技術指導員の部屋を準備している（資料3-3-①-2）。

（分析結果とその根拠理由）

本校の事務は，庶務，学生の2つの係から構成され，教育課程の展開に直接的に関係する事務職員は学生係に配置されている。庶務係及び図書館においては，教員予算，クラス費，備品管理，施設管理等の教育支援業務を的確に実施するために，業務内容に基づく適切な人数の職員配置を行っている。

技術指導員は，庶務係に所属するが業務上は各科に属し，教育・研究に関する技術支援と専門的業務を行うために，専門性を考慮して適切に配置されている。

以上のことから，本校において編成された教育課程を展開するのに必要な事務職員，技術職員等の教育支援者が適切に配置されている。

事務室庶務係 事務分担表

平成19年度 事務分担(庶務係)

平成19年5月1日

担 当	事 務 内 容	備 考
	1 受託研究、民間との共同研究及び奨学寄附金等各種助成関係 2 学則、その他諸規定の制定・改廃 3 教育委員会会議関係 4 校務運営委員会 5 教育プログラム委員会 6 事務・技術職員会議 7 技術職員との調整会議 8 学園都市八大学協議会 9 産学官連携関係(地域協働センター第1部会、技術フォーラム他) 10 事務室 LAN 担当(副) 11 学校例規等電子化作業 12 KEMS(副) 13 その他庶務事務	
	1 旅行命令及び旅費の支出(予算差し引きを含む) 2 クラブ指導等旅費 3 人事関係事務 4 給与関係事務 5 福利厚生関係事務 6 服務関係事務(研修・兼職承認等) 7 出勤簿管理 8 後援会補助	
	1 総合情報センターの運営 2 総合情報センター用消耗品の調達・支出及び執行管理 3 総合情報センター情報部会及びシステム管理部会 4 事務室 LAN 担当(正) 5 公開講座(副)(パソコン) 6 共用備品の管理・貸し出し(センター分)	

出典：ウェブサイト(教職員用)より抜粋

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

- ・外国人の教員を定期的に採用し、英語によるコミュニケーション能力や国際性の向上を積極的に図っている。
- ・実践的な教育を推進するため、教育経験や企業経験を重視した教員採用を実施している。
- ・教員の自己評価、相互評価、授業アンケート、授業改善の学生へのフィードバックなど、教員の教育活動に関する多面的な評価活動を組織的かつ積極的に行っている。

(改善を要する点)

特になし。

(3) 基準3の自己評価の概要

一般科目及び各専門科目では、豊かな人間性を育てると共に、基礎学力の充実と深い専門性および国際性を育てる教育を行うため、教員が高等専門学校設置基準に基づいて適切に配置されている。

専攻科は学位規則に基づき大学評価・学位授与機構の認定を受けており、授業科目担当教員が適切に配置され、より高度で実践的な技術者を育成するため、JABEE 認定を受けた「工学系複合プログラム」の学習・教育目標に従って教育を行っている。非常勤教員は、経歴や年齢に係る採用基準を満たしており、本校の教育目標を達成するために必要な専門分野を考慮して配置されている。

教員の年齢構成は、各学科ともいずれの年齢層にも偏りなく、全体としてバランスよく構成されている。教員の性別構成では、専門学科の女性教員が少ないものの、一般科目では相応な任用数と職位分布となっている。また、英語および中国語担当の外国人教員を採用し、国際性の向上に努めている。

教員の採用は公募制であり、採用に際しては各科の意向および選考委員会を開催し、専門分野、各種経歴等を考慮した適切な採用がなされている。特に、実践的な教育を実現するため、教育経験や企業経験を重視した選考が行われている。昇格に当たっては、昇任・昇格基準に沿って手続きが定められ、教員の自己評価を含む個人調書及び昇任・昇格委員会の公正な判断から選考が行われている。

教員の教育活動の定期的な評価として、評価等委員会規程に基づき自己評価の充実を図るとともに、教員相互評価や学生アンケートによる教員評価も実施されている。これらの評価結果は、本校の教員表彰にも反映されている。また、学生の授業アンケートにおける授業の改善に毎年挑戦し、改善の取り組み内容は学生にフィードバックされ公開されている。

教育課程を遂行するための教育支援は、主に学生係及び庶務係によって組織化されている。庶務係及び図書館では、教員予算、クラス費、備品管理、施設管理等の教育支援業務を的確に実施するため適切な人員配置を行っている。技術職員は庶務係に所属するが、実質は各科に密接にかかわり、各学科からの業務申請に基づいて各々の専門性を考慮した適切な人員配置を行い、学生の実験・実習支援や技術相談に応じるための体制を整備している。

基準4 学生の受入

(1) 観点ごとの分析

観点4-1-①： 教育の目的に沿って、求める学生像や入学者選抜（例えば、準学士課程入学者選抜、編入学生選抜、留学生選抜、専攻科入学者選抜等が考えられる。）の基本方針などが記載された入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）が明確に定められ、学校の教職員に周知されているか。また、将来の学生を含め社会に公表されているか。

（観点到係る状況）

教育の目的に沿うよう検討された本校の入学者選抜は、準学士課程入試・編入試・専攻科入試の3種類があり（資料4-1-①-1）、具体的な内容については、入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）が平成19年度初めの入試委員会（資料4-1-①-2）で正式に明示された。本校の学生受入の基本は、これまではウェブサイトの「Q&A」で、「高専にむいている人」（資料4-1-①-3）の形で具体的に紹介してきた。平成18年12月のウェブサイトのリニューアルを期に、（資料4-1-①-2）に記載されている入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）を各入試情報のウェブサイトに掲載（資料4-1-①-4）するとともに、すべての学生募集要項（資料4-1-①-5）、全学生・全教職員に配付する学校要覧などのパンフレットにも明記した。

中学生にとって高専は高校ほど身近な存在ではないので、高校と高専の違いなどを強調してきたが、近年の中学校訪問では、高専の卒業後の進路の具体的な内容等を質問されるケースも多くなり、それに伴った中学生向けの分かりやすいパンフレット作りにも取り組んでいる。入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）という言葉を使っていないがその内容を分かりやすく書き、進路説明に参加した中学生全員に配付する本校の1枚ものパンフレット（キャンパスガイド2008, A4サイズを三つ折り、両面印刷）で、入学者受入方針を分かりやすく記載している。また、専門科（機械・電気・電子・応用化学・都市）が独自に、各科の特色を分かりやすく説明したリーフレット（両面印刷）も作成している。

平成2年には「体験入学」の名前で始まったが、夏期休業期の3日間に、600人前後の中学生や300人程度の保護者・中学校教諭を本校に招き、終日、全体会や専門科（機械・電気・電子・応用化学・都市）の実験等を体験してもらう「オープンキャンパス」は好評で、本校の教育を具体的に説明して入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）の周知を計っている。また、10月末の高専祭時に、中学生を対象とした「学校見学会」を実施し、200人程度の参加者を得て本校の教育や雰囲気を知ってもらうよう力を尽くしている。

本校は寮がなく、自宅通学生がほとんどなので、通学可能かどうかの判断をしてもらうため、中学生が本校に来てもらう機会を多く設けていたが、近年の社会状況の変化（少子化・内申点の絶対評価総合選抜制度の廃止に伴う入試学区の変化など）を考え、平成19年度は8月5日に阪神地区神戸高専進学説明会を開催したら、約100人の参加者を得た（資料4-1-①-6）。10月14日には姫路で神戸高専進学説明会を開き、30数名の参加者があった。

将来の学生となる小学生や中学生を対象とした公開講座にも力を入れ、夏期講座を多く実施しているが、冬期講座も設け、教員中心の講座だけではなく、クラブ活動を中心とした公開講座や、各種大会を本校で数多く実施し、本校を、本校の学生を身近に知ってもらえる機会を設けている。高専とは「ものづくり」をする学校との理解を、子供の頃から、そして地域の方に知ってもらう努力をしてお

り、このような機会にも入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）等の説明を行っている。

本校の各種冊子配付数を、（資料4-1-①-7）にあげる。また、平成20年4月に教職員に実施した「入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）の周知度」に関するアンケート（前述の資料1-2-①-10）によると、88%の教職員が概ね周知していることが分かる

（分析結果とその根拠理由）

学生の受入について、（資料4-1-①-2）に示すように入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）が明確に定められており、学生も含め教職員全員が持っている教職員に配付される「学校要覧」「学生募集要項」で周知した。また、入学希望者についても、「学生募集要項」に明記するとともに、本校ウェブサイトで広く社会に公表している。さらに中学生には、より分かりやすい表現で説明し周知できるようパンフレットや各専門科リーフレットで案内文の工夫を行っている。本校を知ってもらう努力は、平成2年から実施したオープンキャンパス、学校見学会、阪神・姫路の進学説明会、公開講座、各種大会などを通じて行っている。

以上のことから、本校では、入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）が明確に定められ、学校の教職員に周知されているとともに、入学希望者に広く公表されている。

教職員の周知度に関するアンケートでは、88%の教職員が概ね入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）を周知していることがわかる。

入学者選抜の種類

種類	内容	対象	募集人員
準学士課程 入学	学力 推薦	中学生	240
準学士課程 4年次編入学	学力	工業高校 普通高校	若干名
専攻科課程 入学	学力（前期・後期） 学力試験免除（前期） 社会人選抜（後期）	高等専門学校卒業相当	24

出典：平成20年度学生募集要項より

<神戸市立工業高等専門学校入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）>**○ 準学士課程入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）**

- (1) 工学に興味を持ち、将来技術者として活躍したいと強く希望を持っていること
- (2) 論理的に考えることができ、実験や実習に興味を持っていること
- (3) 数学や理科が得意なこと、英語が好きなこと
- (4) 基礎的な学力を有していること

○ 編入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

- (1) 工学に関する基礎知識を有し、各専門分野(機械工学、電気工学、電子工学、
応用化学、都市工学)に強い関心を持っていること
- (2) 論理的に考えることができ、実験や実習に興味を持っていること
- (3) 理数系科目が得意なこと、外国語学習に関心があること

○ 専攻科課程入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

- (1) 総合的な基礎学力を有し、数学や英語が得意なこと
- (2) 各専門分野(機械工学、電気工学、電子工学、応用化学、都市工学)の基礎知識を有し、さらに専門性を深めることに熱意を持っていること
- (3) 他分野の技術にも興味を持ち、複合的な視点で問題発見と問題解決することに意欲的なこと

資料4-1-①-3

『高専には、どのような人が向いていますか』

Q 高専には、どのような人が向いていますか。

高専では低学年から数学や理科の授業が多く、これらの知識を基にして専門科目の授業が進められます。このため、中学時代から数学や理科が好きで、暗記力よりは理解力のある人が向いています。これらの科目が得意であれば、さらによいと思います。このほか、国際社会の技術者として、英語も好きな人がよいでしょう。

A 高専は、一般に高校ほど規則が厳しくなくて、校風が自由な学校です。このため、高専の学生には自己を規制する努力が要求されます。そこで、外から規制されなくても自主的に勉強できる人でなければなりません。そして、何よりも日本を支える工業技術者になって活躍したいという希望と情熱に燃えていることが大切です。

出典：本校旧ウェブサイトの「Q&A」より

資料4-1-①-4

● 入学者受入方針(アドミッションポリシー)

1. 工学に興味を持ち、将来技術者として活躍したいと強く希望を持っていること
2. 論理的に考えることができ、実験や実習に興味を持っていること
3. 数学や理科が得意なこと、英語が好きなこと
4. 基礎的な学力を有していること

出典：本校の新ウェブサイトの入試情報本科入学より

資料4-1-①-5

平成20年度学生募集要項

本校は次のような、入学生を求めています

神戸市立工業高等専門学校 入学者受入方針(アドミッションポリシー)

- (1) 工学に興味を持ち、将来技術者として活躍したいと強く希望を持っていること
- (2) 論理的に考えることができ、実験や実習に興味を持っていること
- (3) 数学や理科が得意なこと、英語が好きなこと
- (4) 基礎的な学力を有していること

出典：平成20年度準学士課程学生募集要項より

中学3年生の皆さん
保護者の皆さま

阪神地区神戸高専進学説明会

中学3年生の皆さん、皆さんが進学先を選ぶときに決め手になるのは何でしょう？

進学率？校風？文化祭？部活？etc

でも、ちょっと先に目を向けてみませんか。

学校を出てからどうするか？将来どんな職業についているか？

いまから20年程のちには、日本では研究者が約16万人、技術者が約109万人不足するといわれています。足りない人手は引く手あまた。さまざまな企業が技術者を求めていることでしょう。

わたしたち「神戸高専」は、そうした技術者を育てる学校です。これまでも多くの卒業生がさまざまなところで活躍しています。大企業や中小企業はもちろん、独立して会社を営んでいる人や大学、大学院に進学し研究者として活躍している人もいます。

そんな神戸高専を知っていただくため説明会を開きます。申し込みは要りません。気軽にのぞいてみてください。皆さんの選べる未来カードが1枚増えるかもしれません。

記

1. 日時

平成19年8月5日（日） 10:00受付開始

2. 会場

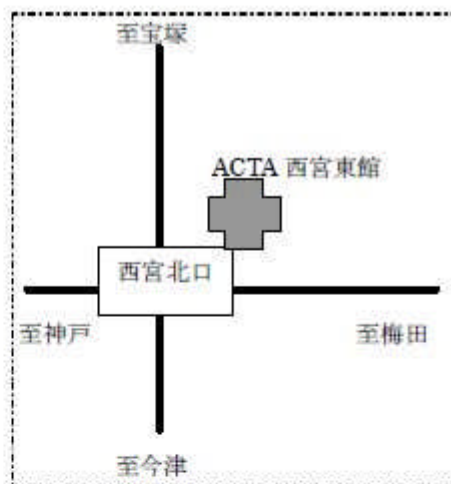
西宮市大学交流センター

西宮市北口町1番2号、ACTA 西宮東館6階

TEL 0798-69-3155

阪急神戸線 西宮北口駅より北東へ徒歩2分

<http://www.nishi.or.jp/~daigaku/info/index.html>



3. プログラム

10:00 受付開始

10:30 神戸高専副校長あいさつ

10:35 高専の全体説明会

11:15 個別質問コーナー

11:45 閉会予定

4. その他

(1) 申込の必要はありません。当日、直接会場へお越し下さい。

(2) 一人でも、ご家族でもかまいません。

(3) 当日は、各専門学科に関する質問にもお答えします。

(4) 今回の説明は、8月21日～23日に神戸高専において行われるオープンキャンパスと同じ内容です。オープンキャンパスは、今回の内容にプラスして、「実験を体験」して頂くことができます。オープンキャンパスの申込は締め切っていますが、8月5日に限り、説明会終了後、会場で特別に申し込むことができます。

(5) 本件に関するお問合せは、神戸高専学生係松本 (TEL:078-795-3322) までお願いします。本件は、下記のHPにも掲載しています。

神戸市立工業高等専門学校

URL <http://www.kobe-kosen.ac.jp/>

e-mail toiawase2007@kobe-kosen.ac.jp

出典：ウェブサイト（地域協働センター）

資料4-1-①-7

各種冊子配付数

1. 学生募集要項	2500 部
2. 編入生募集要項	800 部
3. 専攻科学生募集要項	500 部
4. 高専ガイド	10000 部
5. キャンパスガイド (中学生向け)	30000 部
6. 中学生のためのオープンキャンパスのしおり	1500 部
7. 学校要覧	500 部
8. 学生便覧	600 部
9. 各専門科リーフレット	各 450 部

出典：事務室学生係資料

観点4-2-①： 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切な学生の受入方法が採用されており、実際の入学者選抜が適切に実施されているか。

（観点に係る状況）

本校の入学者選抜は、資料4-1-①-1に示す3種類がある。入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）との関連は、準学士課程1年次は、10月に実施している中学進路担当者説明会で詳しく説明している。また、中学進路担当者説明会に出席されていない中学校で、近年本校に入学者のあった中学校には、教員が詳しい説明に伺っている。さらに、12月に実施する中学校校長会でも詳しく説明している。（資料4-2-①-1）に示す各試験で、試験成績、面接（専攻科入試では口頭試問）、調査書等を適切に評価し、総合的に成績上位の者を受け入れている。また、各学力の入学者選抜は、受検者本人に、「①受検者本人の総得点、②受検された学科の合格者の総得点の最高点・平均点・最低点」を開示している。以下それぞれの入学者選抜の内容について具体的に説明する。

(a) 準学士課程入学

準学士課程1年生への入学者選抜は、（資料4-2-①-2）に示すように推薦と学力の2種類があり、推薦の割合は40%程度である。なお、入学者選抜の具体的方法は、10月に行われる中学校の先生対象の入試説明会で開示しており、本校の入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿った中学生が受検してくれるよう要望している。

① 推薦による選抜

推薦は、在籍学校長から提出された調査書・推薦書、並びに面接試験の結果をもとに、推薦入学者選抜判定会議において総合的に判定する。面接試験は各科4人の面接官が、推薦入試実施要領に従い、また、推薦入試前日に面接担当教員全員による再確認の会議を行い、面接が適正に公平におこなわれるよう注意を払いながら、調査書、推薦書、並びに面接試験の結果をもとに判定資料を作成し、可否の判定は、校務運営の主要メンバーで構成される準学士課程の推薦入学者選抜判定会議において行う。中学進路担当者説明会では、9教科の内申合計が5段階評価で40点程度以上の生徒を望むと説明している。

② 学力による選抜（入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に記載の数学、英語を重視、調査書においては理科を重視）

学力は、全国国立高専共通の問題で、英語・数学・国語の3科目で行い、数学220点、英語140点、国語140点の傾斜配点の計500点とする。これに、出身中学校から提出された調査書（中学進路担当者説明会で説明した調査書の配点割合 数20点、国20点、英20点、音20点、美20点、体20点、理60点、社40点、技家30点の計250点）の成績を加えて判定資料を作成し、総合点で成績上位の者を受け入れている。可否の判定は、校務運営の主要メンバーで構成される準学士課程の学力入試判定会議において行う。中学進路担当者説明会では、年により若干の変動はあるが、学力と調査書の合計750点満点の約7割がボーダーであると説明している。また、国立高専機構の統計からみると、本校の英語・数学・国語の合計点は極めて上位に位置していると思われる。

(b) 準学士課程4年次編入学

準学士課程4年次への高校からの編入学選抜は、対象が資料4-2-①-1に示すように工業高校と普通高校から受け入れ、合格人数は若干名とし、当該在籍学生数を考慮しながら合格者を決定し

ている。4年次編入学試験は、小論文50点、英語100点、数学100点、専門100点（物理や化学[応用化学科のみ]でも受検可能）、面接50点、調査書50点、総得点450点で行う。工業高校・普通高校とも、専門（物理、応用化学科のみ化学）は、受験生の希望する科目で受験できる。近年、工業高校からの受験生が理科（物理、応用化学科のみ化学）で受験することもめずらしくない。面接試験の要領は上述の（a）準学士課程入学と同じで、提出されている調査書、推薦書をもとに各科4人の面接官が採点する。編入学受験者数は多くないので、本校の入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に合っているかは面接時に十分に判断できる。小論文50点、英語100点、数学100点、専門（理科）100点、面接50点、調査書50点、総得点450点で判定資料を作成し総得点で成績上位の者を受け入れている。合否の判定は、校務運営の主要メンバーで構成される編入学の入試判定会議において行う。合格のボーダーは年により変動するが、450点の約6割程度である。

（c）専攻科入学

専攻科への入学者選抜は、資料4-2-①-1に示すように、学力試験免除（前期のみ）と学力試験の2種類がある。

①学力試験免除による選抜

学力試験免除者は、在籍学校長から提出された調査書より判定資料を作成し、専攻科入試判定会議で決める。調査書、試験に変わる口頭試問をもとに専攻科入学者選抜判定会議において総合点で成績上位の者を受け入れている。

②学力による選抜

学力試験は、英語100点、数学150点、専門科目200点と、口頭試問100点、調査書100点、総得点650点で判定資料を作成し、総得点で成績上位の者を受け入れている。学力試験、調査書、口頭試問をもとに、合否の判定は、校務運営の主要メンバーで構成される専攻科の入試判定会議において行う。合格のボーダーは年により変動するが、650点の約6割程度である。

次に本校で実施されている上記（a）準学士課程入学、（b）準学士課程4年次編入学、（c）専攻科入学の選抜試験結果をまとめた入学試験実施状況一覧表を示す（資料4-2-①-3）。一覧にあるように、準学士課程入学試験は受検者数も多く、入試時に入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）を全員に確認することが難しいので、事前にオープンキャンパスや学校見学会などを通して、本校が理数系のエンジニアを目指す学校であることを強調している。平成15年度入試より推薦枠が25%程度から40%程度に増えたことから、推薦入試を受検する中学生数が本校定員の240人を上回るようになった。面接で必ず志望動機を聞いているが、入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿って受検していることが確認できる。推薦入試で合格しなくても、学力入試で合格する生徒が極めて多い。

準学士課程4年次編入学試験は、6月に編入生対象学校見学会を開き、説明や施設見学を行うと同時に、各専門科の編入生との座談会を行い、本校の理解や入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）の理解に役立てている。だが、高校から推薦で大学に進学できる道が広がったことや、学力試験を受けて合格しようとする高校生が少なくなっているせいか、本校の学力試験で合格する生徒は少なくなっている。しかし、合格者の辞退はほとんどない。

本校も進学希望者が増えるなかで、学生に専攻科の入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

を説明することは当然のことであるが、7月には全4年生保護者を対象に進路説明会を行い、専攻科の説明にも力をそそいでいる。専攻科入試は、大学編入希望者が多い年、専攻科を希望する学生が多い年、その年により、また各専攻により若干の差異があるが、本校専攻科を希望する者は多くなっている。

(分析結果とその根拠理由)

資料4-2-①-1, 2に示すように、入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)に沿って、準学士課程1年への中学校からの入学、準学士課程4年への高校からの編入学、そして専攻科入学に対する選抜要項を明確に定めており、それによって学力試験や面接試験等を適切に実施し、入学判定会議(資料4-2-①-4 入試委員会規程第2条)において公正に可否を判定している。

以上のことから、本校では、入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)に沿って適切な学生の選抜要項を定め、実際の入学者選抜が適切に実施されている。

入学者選抜の具体的方法

(1) 準学士課程1年次への入学者選抜

種別	実施月	割合 (%)	定員 (人)	試験内容	評価
推薦	1月	40	240	面接	面接、 調査書、推薦書
学力	2月	60	(機械 80・電気 40・電子 40・応用化学 40・都市 40)	英語、数学、国語	試験、 調査書

(2) 準学士課程4年次への編入学選抜

編入試	実施月	対象	定員 (人)	試験内容	評価
学力	8月	工業高校 普通高校	若干名	小論文、英語、数学、専門科目、 (あるいは物理、応用化学科は 化学が可)、面接	試験、面接、 推薦書、調査書

(3) 専攻科への入学者選抜

種別	実施月	定員 (人)	試験内容	評価
学力試験免除	6月	24	口頭試問	口頭試問、調査書
学力	6月 10月	(機械 8・ 電気電子 8・ 応用化学 4・ 都市 4)	英語、数学、専門科目 口頭試問	試験、 口頭試問、 調査書

出典：平成 20 年度学生募集要項より

資料4-2-①-2

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）と入学者選抜方法との関連

(1) 準学士課程入学者選抜

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）		学力	推薦
(1)	工学に興味を持ち、将来技術者として活躍したいと強く希望をもっていること	英語、数学、国語の試験と「調査書」で評価	「調査書」「推薦書」「面接」で評価
(2)	論理的に考えることができ、実験や実習に興味をもっていること	英語、数学、国語の試験と「調査書」で評価	「調査書」「推薦書」「面接」で評価
(3)	数学や理科が得意なこと、英語が好きなこと	英語、数学、国語の試験と「調査書」で評価	「調査書」「推薦書」「面接」で評価
(4)	基礎的な学力を有していること	英語、数学、国語の試験と「調査書」で評価	「調査書」で評価

(2) 第4年次編入学者選抜

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）		学力
(1)	工学に関する基礎知識を有し、各専門分野（機械工学、電気工学、電子工学、応用化学、都市工学）に強い関心を持っていること	数学、理科及び専門科目の試験と、「調査書」「推薦書」「面接」で評価
(2)	論理的に考えることができ、実験や実習に興味をもっていること	「調査書」「推薦書」「面接」で評価
(3)	理数系科目が得意なこと、外国語学習に関心があること	英語、数学、理科及び専門科目の試験と、「調査書」「推薦書」「面接」で評価

(3) 専攻科入学者選抜

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）		学力免除	学力
(1)	総合的な基礎学力を有し、数学や英語が得意なこと	「調査書」及び「口頭試問」で評価	数学や英語の試験や「調査書」で評価
(2)	各専門分野（機械工学、電気工学、電子工学、応用化学、都市工学）の基礎知識を有し、さらに専門性を深めることに熱意を持っていること	「調査書」及び「口頭試問」で評価	専門科目の試験や「口頭試問」で評価
(3)	他分野の技術にも興味を持ち、複合的な視点で問題発見と問題解決することに意欲的なこと	「調査書」及び「口頭試問」で評価	「調査書」及び「口頭試問」で評価

出典：平成20年度学生募集要項より

入学試験実施状況一覧表

準学士課程1年次

■入学志願状況(過去5年間)

学 科 (定員)		年 度	16	17	18	19	20
機械工学科 (80)	推薦志願者	84(0)	93(2)	111(6)	72(3)	95(2)	
	学力志願者	181(1)	155(4)	178(9)	129(3)	136(2)	
	学力受検者	139(1)	115(3)	143(5)	101(1)	104(2)	
	合格者	80(0)	80(1)	80(5)	80(2)	80(0)	
	倍 率	2.2	1.8	2.3	1.6	1.7	
電気工学科 (40)	推薦志願者	36(4)	52(2)	38(2)	26(2)	42(1)	
	学力志願者	66(6)	81(2)	63(2)	45(2)	70(4)	
	学力受検者	48(6)	63(2)	47(1)	28(1)	54(4)	
	合格者	40(2)	40(0)	40(1)	40(2)	40(0)	
	倍 率	1.6	2.0	1.6	1.2	1.8	
電子工学科 (40)	推薦志願者	55(7)	54(5)	62(8)	49(3)	48(4)	
	学力志願者	106(12)	111(9)	86(10)	80(4)	80(7)	
	学力受検者	78(12)	88(5)	70(7)	62(3)	65(6)	
	合格者	40(5)	40(5)	40(5)	40(2)	40(3)	
	倍 率	2.4	2.6	2.2	2.0	2.0	
応用化学科 (40)	推薦志願者	45(16)	69(30)	59(20)	41(16)	56(21)	
	学力志願者	84(31)	109(36)	77(23)	81(21)	85(31)	
	学力受検者	66(30)	81(22)	61(17)	65(13)	69(26)	
	合格者	40(14)	40(19)	40(8)	40(15)	40(15)	
	倍 率	2.1	2.5	1.9	2.0	2.1	
都市工学科 (40)	推薦志願者	26(6)	39(12)	39(10)	29(5)	35(8)	
	学力志願者	68(11)	82(21)	72(14)	60(11)	72(13)	
	学力受検者	56(11)	60(17)	57(8)	47(7)	59(6)	
	合格者	40(12)	40(7)	40(12)	40(8)	40(11)	
	倍 率	1.7	1.9	1.8	1.5	1.8	
合 計 (240)	推薦志願者	246(33)	307(51)	309(46)	217(29)	276(36)	
	学力志願者	505(61)	538(72)	476(58)	395(41)	443(57)	
	学力受検者	387(60)	407(49)	378(38)	303(25)	351(44)	
	合格者	240(33)	240(32)	240(31)	240(29)	240(29)	
	倍 率	2.0	2.1	2.0	1.7	1.9	

() 内は女子で内数

(次ページへ続く)

準学士課程4年次

■編入学志願状況(過去5年間)

学 科	年 度 区 分	16		17		18		19		20	
		工業科	普通科	工業科	普通科	工業科	普通科	工業科	普通科	工業科	普通科
		合 計		合 計		合 計		合 計		合 計	
機械工学科	志願者	8	0	6	0	5	0	4	0	3	1
	合格者	8		6		5		4		4	
電気工学科	志願者	2	0	4	0	2	0	4	0	3	0
	合格者	2		4		2		4		3	
電子工学科	志願者	3	0	2	0	0	0	0	0	1	0
	合格者	3		2		0		0		1	
応用化学科	志願者	3	0	0	0	1	1	4	3	1	1
	合格者	0		0		1		2		0	
都市工学科	志願者	1	0	1	0	1	0	6	0	1	0
	合格者	1		1		1		6		1	
合 計	志願者	17	0	13	0	9	1	18	3	9	2
	合格者	17		13		10		21		11	

専攻科

■定員及び現員

平成20年4月8日現在

専 攻	定 員	現 員		計
		1 年	2 年	
機械システム工学専攻	8	12(0)	14(0)	26(0)
電気電子工学専攻	8	18(0)	15(1)	33(1)
応用化学専攻	4	6(0)	7(2)	13(2)
都市工学専攻	4	3(0)	6(1)	9(1)
計	24	39(0)	42(4)	81(4)

() 内は女子で内数

■入学志願状況

専攻(定員)		年 度				
		16	17	18	19	20
機械システム工学専攻	志願者	20(0)	12(0)	20(2)	17(0)	16(0)
	合格者	13(0)	8(0)	17(1)	12(0)	12(0)
電気電子工学専攻	志願者	18(2)	25(1)	24(1)	19(2)	25(0)
	合格者	14(2)	18(1)	17(1)	14(1)	18(0)
応用化学専攻	志願者	8(0)	5(2)	6(3)	7(2)	10(0)
	合格者	6(0)	4(2)	5(2)	7(2)	6(0)
都市工学専攻	志願者	8(2)	9(0)	7(0)	9(1)	6(0)
	合格者	5(2)	7(0)	6(0)	5(1)	5(0)
計	志願者	54(4)	51(3)	57(6)	52(5)	57(0)
	合格者	38(4)	37(3)	45(4)	38(4)	41(0)

() 内は女子で内数

出典：平成20年度 学校要覧 (p27-28)

入試委員会規程

制 定 昭和40年4月1日
最終改正 平成18年8月1日

(目的)

第1条 この規程は、本校における入学者選抜検査（以下「入試」という。）の厳正的確な事務を確保するために設置する入試委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営に関して必要な事項を定めることを目的とする。

(構成)

第2条 委員会は、校長、教務主事、学生主事、専攻科長、各科主任、事務室長及び一般科の入試科目担当教員代表者で構成する。なお、委員会が必要と認めるときは、委員以外の関係職員を加えることができる。

2 委員長は、校長とする。

(委員会の任務)

第3条 委員会の任務は、次のとおりとする。

- (1) 入試に関する重要かつ基本的事項の協議及び決議
- (2) 入試の実施
- (3) 入試説明会の実施
- (4) 入試に付随する問題の処理（本科学力入試予備問題作成を含む）
- (5) その他入試に関する情報の収集及び整理

(会議の開催)

第4条 会議は、必要に応じて委員長が招集する。

(他の委員会との関係)

第5条 委員会の決議事項は、校務運営委員会その他関係のある他の委員会に報告しなければならない。

(事務の処理)

第6条 委員会に係る事務は、学生係で行う。

(その他)

第7条 この規定の改廃は、委員会の議を経て定める。

附 則

この規程は、昭和40年4月1日から施行する。

(略)

附 則

この規程は、平成18年8月1日から施行する。

観点4-2-②： 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿った学生の受入が実際に行われているかどうかを検証しており、その結果を入学者選抜の改善に役立てているか。

（観点に係る状況）

(a) 準学士課程入学

推薦入試はかなりレベルが高く入学者の5段階評価のほとんどは4.5を越えている。学力入試も前述の国立高専機構の統計からみると、本校の英語・数学・国語の合計点は極めて上位に位置していると思われる。準学士課程入学者の中学時成績は非常に高い水準にあり、優秀な学生が入学していることがわかる。次に、毎年1年生の入学直後に実施している数学、英語の実力試験の結果を見ると（資料4-2-②-1）数学にややばらつきがあるものの、全体的に見ると、数学を得意とする学生が入学しているといえる。英語も基本的なことはマスターできており、平均点も高い。春季休業中課題の国語の作文では、その年の学生気質が窺えるものがあり、基礎学力のある学生が入学していると考えられる（具体例は訪問調査時に提示する予定）。

また、新入生アンケートを実施している。本校のイメージと自らのそれが合っていたか等、自由記述も含む詳細な内容から、1年生の実態を知ること努めている。今後の入学者選抜の改善のために、地域ごとや、学科別ごとに比較ができるよう、まとめた結果をウェブサイトで全教職員に公開している（資料4-2-②-2）。

退学者数は毎年平均で29人程度であり、全体の約2.6%である。学年でみると3、4年生が多く、これは成績不振による退学が主である。一方、1、2年生は毎年2～3名程度と少なく、従っておおむね入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿った、技術者として人類の幸福に貢献することを目指す学生の受け入れがなされていると判断できる。

なお、さらに成績が優秀で強い志望動機を有する学生を獲得するために、推薦入学試験合格者数の増加を平成15年度入試から行い、推薦枠を25%程度から40%程度に増加させた。学力入試でも、数学の配点を高くすることも決めた。入試改革は平成13年から討議をはじめ、平成14年5月に具体案が提出されて慎重に討議した結果、6月の校務運営委員会で決定された。

(b) 準学士課程4年次編入学

資料4-2-①-3は、高校からの編入状況を示したもので、若干名の受入数に対して、受験者数はあまり多くない。高等学校から大学へ、学力試験や推薦入試を受ける学生が多くなっており、本校の近隣にはそのような大学も多い。なお、工業高校からの編入受験生はあるが普通高校からは減少しており、合格者も少ない状況である。十分な面接時間があるため、入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）にあった学生であるか否かの判断はできるが、編入合格者の数は少ないものの、合格者で辞退する者はほとんどいない。

(c) 専攻科入学

専攻科入試は、平成17年度修了生からJABEE認定を受けることになった結果、前述の資料4-2-①-3に示すように、専攻科の入学志望者が定員24名に対して1.5倍～2倍弱と増えてきており、学力免除入学者の数も合格者の半数近くと増加傾向で、レベルの高い学生が多く入学するようになってきている。このように、専攻科も入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿って勉学意欲の高い優秀な学生の受け入れができるようになってきている。

また、検討の結果、社会人特別選抜制度を平成20年度の専攻科後期試験から実施することになった。

平成19年度新入生実力試験結果

平成19年度新入生実力試験（数学）の結果について

神戸高専 数学科

1. はじめに

数学科では、毎年4月のオリエンテーションの際に、1年生の全クラスを対象にした実力試験を実施し、入学時の学生の数学の実力を把握するとともに以後の指導に生かしている。本年度も「高数への基礎練習(数研出版)」を春休みの課題として与え、関連した内容の試験を60分で実施した。問題は毎年ほぼ同じである。

2. 各問題ごとの分析

1.(1)は指数と分数が混在する計算問題である。毎年正答率が低く、今年は昨年よりも5ポイント低くなっている。

8.の平面図形に関する証明問題の正答率が低い。これは毎年の傾向であるが、過去5年の正答率の推移は37%→42%→30%→25%→22%となっており、最近の落ち込みが目立っている。

その他の問題については、6.の整数に関する証明問題の正答率が低いなど、昨年以前と比べて目立った差はなかった。

3. 得点分布の分析

クラスごとの平均点については、CとSが昨年より良く、EとDは昨年より悪く、Mは昨年並みであった。各科に関して気づいたこととしては、Dは過去最低であり、Sは1年おきに平均点が上下していることが挙げられる。また、毎年の傾向であるが、各クラスに低得点者が数名おり、気をつけて指導に当たる必要がある。

4. まとめ

全体の平均点は昨年と同程度であり、平成14年度以降、同程度の水準が続いている。

また、採点して気づいたことが2点ある。1つ目は、基本的な計算力の不足である。途中までは手をつけているものの、最後まで正確に計算できていないという答案が目立った。2つ目は論理的に説明する力の不足である。平面図形の証明問題で辺の長さや角の大きさが等しいことを示すのに、きちんと説明ができていないという答案が目立った。これらの傾向はここ数年続いているので、引き続き改善すべく指導していきたいと考えている。

(次ページへ続く)

H19新入生実力考査 正答率(%)の表 (受験者 245人)

人数	1	1	1	1	1	1	1	2	3	4	5	5	5	6	7	8	平均	
	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7				-1	-2	-3					
M1A	41	51	78	68	85	83	90	73	100	68	80	93	78	88	54	56	12	68.6
M1B	42	62	69	64	62	93	90	71	88	71	86	79	64	88	60	55	29	68.6
E1	41	49	71	71	61	85	78	63	93	63	76	80	61	88	41	76	15	64.5
D1	40	60	80	73	63	88	93	75	95	78	93	90	85	93	43	65	20	71.0
C1	40	65	80	88	75	93	90	75	93	85	88	90	80	90	73	55	33	75.5
S1	41	51	83	78	78	83	83	80	98	66	80	83	78	88	63	61	22	70.5
平均	56	77	73	71	87	87	73	94	72	84	86	74	89	56	61	22	69.8	

H19新入生実力考査 度数分布表

M1A 41人

100-		0	
90-	****	4	
80-	*****	6	
70-	*****		14
60-	****	4	
50-	*****		9
40-	***	3	
30-	*	1	
20-		0	
合計		2812	平均 68.6
最高		91	最低 35
標準偏差		14.5	

M1B 42人

100-	*	1	
90-	***	3	
80-	*****	7	
70-	*****		15
60-	****	4	
50-	*****	6	
40-	****	4	
30-	*	1	
20-	*	1	
合計		2882	平均 68.6
最高		100	最低 29
標準偏差		16.3	

E1 41人

100-	*	1	
90-	*	1	
80-	****	4	
70-	*****		10
60-	*****		10
50-	*****		9
40-	****	4	
30-	*	1	
20-		0	
10-	*	1	
合計		2645	平均 64.5
最高		100	最低 14
標準偏差		15.5	

D1 40人

100-	*	1	
90-	***	3	
80-	*****	6	
70-	*****		13
60-	*****		10
50-	****	4	
40-	*	1	
30-	**	2	
20-		0	
10-		0	
合計		2839	平均 71
最高		100	最低 34
標準偏差		13.4	

C1 40人

100-	**	2	
90-	****	4	
80-	*****		11
70-	*****		9
60-	*****		9
50-	****	5	
40-		0	
30-		0	
20-		0	
合計		3021	平均 75.5
最高		100	最低 52
標準偏差		12.1	

S1 41人

100-	*	1	
90-	*	1	
80-	*****	9	
70-	*****		15
60-	*****	8	
50-	***	3	
40-	**	2	
30-	*	1	
20-	*	1	
合計		2891	平均 70.5
最高		100	最低 26
標準偏差		14.8	

全クラスの集計 245人

100-	*****	6	
90-	*****		16
80-	*****		43
70-	*****		76
60-	*****		45
50-	*****		36
40-	*****	14	
30-	*****	6	
20-	**	2	
10-	*	1	
合計		17090	平均 69.8 標準偏差 14.9

(次ページへ続く)

平成19年度 新入生英語実力テストについて

【結果】

<平成19年度>

クラス	M1A		M1B		E1		D1		C1		S1		学年	
	課題	応用	課題	応用	課題	応用	課題	応用	課題	応用	課題	応用	課題	応用
平均	51.5	26.9	50.0	25.7	49.3	25.5	51.8	28.6	53.5	29.3	50.5	26.6	51.1	27.0
	78.4		75.7		74.8		80.3		82.7		77.1		78.1	
最高	62	34	62	33	64	34	64	34	64	34	66	34	66	34
	94		91		98		93		98		100		100	
最低	40	12	35	10	33	13	37	19	40	10	27	11	27	10
	61		52		53		60		59		38		38	

<平成18年度>

クラス	M1A		M1B		E1		D1		C1		S1		学年	
	課題	応用	課題	応用	課題	応用	課題	応用	課題	応用	課題	応用	課題	応用
平均	52.1	27.4	49.6	25.7	50.9	27.7	54.2	29.1	51.9	28.1	47.7	25.7	51.1	27.3
	79.5		75.3		78.6		83.3		80.0		73.4		78.4	
最高	65	33	66	34	65	34	63	34	60	34	64	32	66	32
	95		95		95		96		93		90		96	
最低	38	12	37	14	37	15	34	19	27	8	25	14	25	8
	56		54		59		62		35		43		35	

【コメント】

テスト問題の内容について：

◎ テストは、春休みの課題『Springboard to English』をもとに作成した問題

(64点分)と、課題とは全く関係の無い実力問題(36点分)から構成されている。

★Springboard to English:

中学校で習った重要文法項目の復習とバラエティに富んだテーマの英文を読み、読解力を身に付けさせることを目的に編集されている。また各レッスンでは、辞書の引き方の説明もされている。

◎ 課題からは、中文問題を一つ、基礎的な文法知識を問う問題を10問程度出題した。文法問題においても、課題の問題をそのまま使用せず、読解演習用の長文から関連箇所を引用するといった工夫を凝らした。

★課題からの中文問題：英文中の単語のアクセント、語形変化等の文法問題と内容理解を問う問題。

★課題からの文法問題：前置詞、比較級、受動態、to不定詞、動名詞、現在分詞、関係代名詞などに関する問題。

◎ 実力問題では、読解力を問う長文問題と文章の脈絡の理解度を問う中文の穴埋め問題を一題ずつ出題した。

★実力問題：英文のレベルは高校入試問題程度か、高校1年英語の入門指導用の教材レベルである。

◎ 本年度は、昨年度と同じ問題を使用した。

◎ クラスにより多少のばらつきはあるが、学年平均が78.1点であることを考えると、大半の新入生が中学で学習すべき基礎的な項目を理解できていると考えられる。ただし、60点未満が8名いる。過去の新生実力試験で60点未満の学生が、その後の英語学習で苦勞している現状を考えると、今後の指導においてこれらの学生に留意していく必要がある。

出典：平成19年6月度 FD 学習会資料より抜粋

2008年度新入生アンケート結果 (学生編)

(質問1-2) この学科を選択した理由を教えてください。(複数回答可)

■全クラス(回答人数: 236 人)(複数回答可)

1. 興味がある分野の勉強ができそうだったから。	191	29%
2. 将来、進みたい分野(就職・進学)と合っていたから。	139	21%
3. 学科の進路(就職・進学)の状況が合っていたから。	63	9%
4. 保護者や兄姉など近親者に勧められたから。	42	6%
5. 友達や先輩に勧められたから。	11	2%
6. 中学校の先生に勧められたから。	16	2%
7. 塾の先生に勧められたから。	13	2%
8. ホームページや高専ガイドなどの広報資料の内容が興味深かったから。	66	10%
9. オープン・キャンパスや見学会で見学した内容や雰囲気よかったから。	106	16%
10. 模試の偏差値など成績の条件が合っていたから。	19	3%
11. 特に理由はなしに、なんとなく選択した。	2	0%

(質問3) 神戸高専を最初に知ったきっかけについて教えてください。

■全クラス(回答人数: 236 人)(複数回答可)

1. 自宅や小学校、中学校が神戸高専の近所だった。	2	1%
2. 保護者や兄姉、いとこなど近親者が高専の卒業生・在校生だった。	37	14%
3. 先輩や友達から話を聞いて。	56	21%
4. 中学校での進路指導の中で先生から話を聞いて。	52	19%
5. 塾の進路指導の中で先生から話を聞いて。	25	9%
6. 公立高校や私立高校以外に受験できる学校を探していて。	24	9%
7. ホームページや中学校で配布された神戸高専の広報資料を見て。	72	27%

(質問4-2) 神戸高専を受験することに決めた際に影響を受けた事柄について選んでください。

■全クラス(回答人数: 236 人)(複数回答可)

1. (誰の影響というのではなく)自分ひとりで考えた。	90	28%
2. お父さんやお母さんの意見を聞いて。	104	32%
3. 中学校の担任や進路指導の先生の意見を聞いて。	77	24%
4. 塾の先生の意見を聞いて。	32	10%
5. いとこや先輩の意見を聞いて。	19	6%
6. 友達と相談して。	0	0%

(次ページへ続く)

(質問5) 神戸高专を受験することに決めた際、「魅力だ!」と感じた事柄を教えてください。

■全クラス(回答人数: 236 人)(複数回答可)

1. 専門分野の勉強が早くからできる。	185	15%
2. 理数系の学校であること。	112	9%
3. もの作りや実験を重視していること。	148	12%
4. 就職状況が良く、企業の求人数も多いこと。	153	12%
5. 専攻科への進学や大学3年生への編入学ができること。	102	8%
6. 国公立大学の大学院へ進学する人が多いこと。	47	4%
7. 教育環境や設備が充実していること。	118	10%
8. JABEE(日本技術者教育認定機構)の認定校であること。	22	2%
9. 普通科高校-大学コースより学費が安いこと。	42	3%
10. ロボコンへの参加やクラブ活動など課外活動が充実していること。	53	4%
11. 「普通の高校」とは異なる学校であること。	70	6%
12. 大学入学のための受験勉強が必要ないこと。	59	5%
13. 「制服が無い」、「校則が少ない」学校であること。	79	6%
14. 20歳で就職して、早く社会で活躍できる進路が選べること。	47	4%

(質問6) 神戸高专への進路決定に際して、心配だった事柄について教えてください。

■全クラス(回答人数: 236 人)(複数回答可)

1. 入学後に授業が理解できるかどうか、皆についていけるかどうか心配。	203	40%
2. 英数国など以外の専門科目の授業や実験・実習が理解できるかどうか心配。	99	20%
3. 今後エンジニア以外の事柄に興味を持った場合、進路変更できるかどうか心配。	29	6%
4. 学費が高いことが心配。	9	2%
5. 通学に時間がかかることが心配。	65	13%
6. 入学後にクラスの人と仲良くなれるかどうか心配。	100	20%

(質問7-1) これらの資料を見た時期や場所を覚えていますか。

■全クラス(回答人数: 236 人)(複数回答可)

1. 神戸高专のホームページ(合計: 196人)

1. 中学3年生になる前に。	87	44%
2. 中学3年生の1学期に出身中学校で見た。	25	13%
3. 中学3年生の夏休みに神戸高专に来てもらった資料の中にあっただ。	14	7%
4. 中学3年生の2学期に出身中学校で掲示・配布があっただ。	14	7%
5. 中学3年生の冬休み前に進路に関する3者懇談のころに見た。	56	29%

2. 神戸高专のリーフレット(合計: 162人)

1. 中学3年生になる前に。	8	5%
2. 中学3年生の1学期に出身中学校で見た。	38	23%
3. 中学3年生の夏休みに神戸高专に来てもらった資料の中にあっただ。	86	53%
4. 中学3年生の2学期に出身中学校で掲示・配布があっただ。	22	14%
5. 中学3年生の冬休み前に進路に関する3者懇談のころに見た。	8	5%

(次ページへ続く)

3. 神戸高専のポスター（合計：84人）

1. 中学3年生になる前に。	8	10%
2. 中学3年生の1学期に出身中学校で見た。	31	37%
3. 中学3年生の夏休みに神戸高専に来てもらった資料の中にあった。	16	19%
4. 中学3年生の2学期に出身中学校で掲示・配布があった。	25	30%
5. 中学3年生の冬休み前に進路に関する3者懇談のころに見た。	4	5%

4. 神戸高専のオープンキャンパスや見学会の案内ポスター（合計：138人）

1. 中学3年生になる前に。	3	2%
2. 中学3年生の1学期に出身中学校で見た。	68	49%
3. 中学3年生の夏休みに神戸高専に来てもらった資料の中にあった。	32	23%
4. 中学3年生の2学期に出身中学校で掲示・配布があった。	31	22%
5. 中学3年生の冬休み前に進路に関する3者懇談のころに見た。	4	3%

5. 神戸高専ガイド（合計：107人）

1. 中学3年生になる前に。	12	6%
2. 中学3年生の1学期に出身中学校で見た。	28	14%
3. 中学3年生の夏休みに神戸高専に来てもらった資料の中にあった。	100	51%
4. 中学3年生の2学期に出身中学校で掲示・配布があった。	35	18%
5. 中学3年生の冬休み前に進路に関する3者懇談のころに見た。	22	11%

6. それ以外の資料（合計：15人）

1. 中学3年生になる前に。	0	0%
2. 中学3年生の1学期に出身中学校で見た。	5	33%
3. 中学3年生の夏休みに神戸高専に来てもらった資料の中にあった。	8	53%
4. 中学3年生の2学期に出身中学校で掲示・配布があった。	1	7%
5. 中学3年生の冬休み前に進路に関する3者懇談のころに見た。	1	7%

（質問7-2）（質問7-1）の資料1～5のうち、役に立ったと思う順番に並べてください。

■全クラス

	1番	2番	3番	4番	5番
ホームページ	04	40	22	15	4
リーフレット	22	53	64	20	8
ポスター	5	17	18	28	17
オープンキャンパス案内	12	20	44	42	24
高専ガイド	90	72	26	4	1

1番と2番の合計

高専ガイド	171人
ホームページ	131人
リーフレット	75人
オープンキャンパス案内	32人
ポスター	22人

（次ページへ続く）

(質問8) 参加したことがある行事にすべて○をつけてください。

■全クラス(回答人数: 236 人)(複数回答可)

1. 出身中学校での公立・私立高校など合同進路説明会	37	11%
2. 神戸高専のオープンキャンパス	150	44%
3. 神戸高専の見学会と高専祭	102	30%
4. 阪神地区・播磨地区の地区説明会	18	5%
5. 神戸高専が開催している夏休み、冬休みの公開講座	5	1%
6. ロボコン近畿大会	1	0%
7. 水泳指導・ラグビースクールや吹奏楽部定期演奏会など神戸高専のクラブ活動	5	1%
8. 高専祭(中学2年生以前)	24	7%

質問(9-1) 他の高専を受験することも検討しましたか。

■全クラス(回答人数: 236 人)

1. 神戸高専以外は検討しなかった。	1	0%
2. 他の高専を受験することを検討した。	235	100%

(質問9-2) (質問9-1) で2. を選択した人に尋ねます。最終的に神戸高専を受験した理由を教えてください。

■全クラス(回答人数: 236 人)(複数回答可)

1. 他の高専には希望する学科がなかったから。	15	11%
2. 他の高専と違い、神戸高専は受験科目が3科目だったから。	15	12%
3. 他の高専を受験するには当時の成績・学力が足りなかったから。	43	32%
4. 他の高専は通学するのに不便だったり、寮に入らなければならないから。	31	23%
5. 見学会や資料でわかった施設や校風(学校生活やクラブ活動など)を比較して。	29	22%

(質問10-2) 最終的に神戸高専を選択した理由として、決め手になった事柄を教えてください。

■全クラス(回答人数: 236 人)(複数回答可)

1. 神戸高専が第一志望校だったこと。	183	68%
2. 神戸高専の合格発表が他校より早かったこと。	17	6%
3. 公立高校の特色選抜や私立高校入試など他校が不合格だったこと。	2	1%
4. 保護者、兄姉など近親者からの助言。	26	10%
5. 中学校の先生の助言。	24	9%
6. 塾の先生の助言	13	5%
7. 友達と一緒に合格したこと。	5	2%

出典：ウェブサイト（教職員用）より抜粋

(分析結果とその根拠理由)

準学士課程の入試は、推薦入試では内申点の高い生徒が合格し、学力入試でも全国国立高専共通の問題で数学・英語・国語は高い平均点をとっていることがうかがえ、入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿った適切な試験を実施し、優秀な学生の確保が実現している。また、編入試や専攻科入試については、判定会議後の入試委員会で議論され、常に適正化をはかっている。それにより優秀な学生が入学してきている。以上のことから、本校では、入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切な学生の受入れが行われ、さらに、それぞれの入学者選抜の改善を図っている。

これらすべての入試データは教務主事を長とする教務主事室が管理しており、必要に応じて入試委員会で守秘資料（入試関係のすべてのデータは訪問調査時に開示したい）として提出され、入学者選抜の改善を図っている。そして、推薦枠の拡大や入試科目の傾斜配点等の大きな改変には、入試委員会が発議し、校務運営委員会を通じて、各学科で全教員が真剣に議論できる場が設けられ、その意見が校務運営委員会に集約される形で入学者選抜の改善を図ってきた。しかしながら、少子化等による入学者の学力低下等の問題が生じてくれば、入試委員会として組織だった検討が、必要になると思われる。これまでは広報プロジェクトを中心とした全教職員の努力で、優秀な学生が確保できているので、現状は大きな問題はないと考えている。

観点4-3-①： 実入学者数が、入学定員を大幅に超える、又は大幅に下回る状況になっていないか。また、その場合には、これを改善するための取組が行われるなど、入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。

(観点到に係る状況)

準学士課程入試での実入学者数（前述の資料4-2-①-3参照）は、240名の定員通りであり、辞退者はほとんど無い。毎年240人が入学しており、適切であると判断できる。

また、編入学入試での実入学者数（前述の資料4-2-①-3参照）は、受験者の学力レベルによって合格者数が変動するものの、全学科で4～9名、多い年でもクラスで3名程度であり、適切であると判断できる。

専攻科入試での実入学者数（前述の資料4-2-①-3）は入学定員24名に対して37～45名であり、定員の1.5倍～2倍弱であるが、専攻科担当の教員数を超えるものではなく、教員数及び施設設備の両面から教育に支障を来す数ではない。

(分析結果とその根拠理由)

準学士課程では、実入学者数は定員通りであり、専攻科課程では、実入学者が定員の1.5倍～2倍弱となっているが、教育に支障を及ぼすものではない。

以上のことから、本校の実入学者数は、入学定員を大幅に超える、又は大幅に下回る状況になっていない。

観点4-3-②： 入試倍率等、入学定員に対して適正な状態になるよう継続的な広報活動が行われているか。

(観点に係る状況)

広報活動(広報プロジェクト)の概要

①組織と経緯

(a) 構成メンバー

構成メンバーは以下の通りである。

尾崎進(教務主事, プロジェクトリーダー), 中川一穂(学生主事), 大淵真一(地域協働研究センター長, プロジェクトサブリーダー), 中辻武(教育プログラム委員長), 赤対秀明(専攻科長), 橋本好幸(総合情報センター長), 橋本渉一(地域協働研究センター第1部会長), 八百俊介(地域協働研究センター第2部会長), 石崎繁利(総合情報センター長補佐), 田中修一(事務室庶務係主幹), 阪下伸一(事務室学生係長)

(b) 広報プロジェクト設立の経緯

中学生に対する神戸高専の広報活動を実施する部門は, 情報センター広報部会(平成14年度から平成15年度), 広報委員会(平成16年度から17年度)であった。情報センター広報部会ならびに広報委員会は, 新生入生に対するアンケートを実施し, 次年度の広報活動に対応するなど, 一定の成果を挙げている。しかし, 中学生に対する広報内容, 広報活動は多岐にわたるため, 一つの委員会で広報活動の計画・立案・実行の全てに対応するにはスタッフの数が不足していた。このため, 平成18年度に広報に関する内容は, 総合情報センター(企画・立案)とオープンカレッジを実施していた地域協働研究センター第2部会(実行)が対応することとなった。しかし, 総合情報センターが設立されたのもこの年であり, すぐに全ての内容の企画・立案に対応することができなかった。

平成18年度の入試倍率は平成17年度と比べてあまり変化は無かったが, 平成19年度に実施された入学試験において, 前年度より約80名の受験者減となり, 全体の入試倍率も1.7倍となった。この受験者数の減少を食い止めるために, 年度途中の5月に本プロジェクトが立ち上がった。

5月29日に最初の広報プロジェクト戦略会議を実施し, 平成19年度に新たに実施する広報活動を決定した。なお, これらを決定するにあたっては, 総合情報センターが実施した平成19年度入学生へのアンケートを参考にした。

②実施した活動

(a) 神戸高専ガイドの作成(全面的なリニューアル)

総合情報センター(情報委員)が中心となり, 全面的な改訂を行った。各科の紹介のところでこれまでは在校生の声だけであったが, 新たに卒業生の声を入れた。

(b) 神戸高専リーフレットの作成(新規作成)

総合情報センター(情報委員)が中心となり, 神戸高専の内容が簡潔にわかるように新規作成した。

(c) 神戸高専の説明会(各中学校へ派遣)

これまでは校務運営委員会のメンバーが中心となり, 依頼があった中学校へ神戸高専の説明を行っていた。ある程度の意思統一はなされていたので説明者によるばらつきはそんなに大きくは無かったが, さらに統一性をもたせるために, 本プロジェクト委員が事前打合せをした後に説明を行った。今年度は以下の11中学校(神戸市内10校, 西宮市1校)と1地区での依頼があった。これらの説明会は, 総合情報センター(情報委員)が作成した説明用pptファイルでプレゼンター

ションを行った。

(d) 神戸高専のサテライト進学説明会の実施

本校の在校生は神戸市内が約 50%を占め、残りは明石・播磨・阪神地区で占めている。今年度は阪神地区と播磨地区でサテライト説明会を実施した。この説明会に用いるための各科リーフレットを作成した。

・阪神地区説明会

日時：平成 19 年 8 月 5 日（日）10:00 から 11:45

場所：西宮市大学交流センター(アクタ西宮東館 6 階)

内容：高専の全体説明，全体質問，個別質問コーナー

配布資料：高専ガイド，高専リーフレット，各科リーフレット

参加者：約 100 名（阪神地区の対象中学生は約 12, 500 人であり，そのうちの 0.8%が来場した）

・播磨地区説明会

日時：平成 19 年 10 月 14 日（日）10:00 から 11 :45

場所：西播地域地場産業振興センター(じばさんびる) 5 階

内容：高専の全体説明，全体質問，個別質問コーナー

配布資料：高専ガイド，高専リーフレット，各科リーフレット，募集要項

参加者：約 34 名（播磨地区の対象中学生は約 9,200 人であり，そのうちの 0.4%が来場した）

・明光義塾「進学相談会」への参加

日時：平成 19 年 9 月 9 日（日）13:00 から 16:00

場所：兵庫県民会館 11 階ホール

内容：ブース内での高専の P R

配布資料：高専ガイド，高専リーフレット，各科リーフレット

(分析結果とその根拠理由)

平成 19 年度の広報プロジェクトの努力により、準学士課程の平成 20 年度の入試倍率が前年度の 1.7 倍から 1.9 倍まで増加した。これは、サテライト説明会の成果であると捉えている。以上のことより、継続的な広報活動が行われている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

- ・準学士課程入学予定者に分かりやすい表現や方法で、本校の特色を知ってもらう努力をしている。
- ・中学生が望む情報を調査の上、活動を展開したため、説明内容の統一、次回の活動へのフィードバックができる。また中学生及び保護者に直接訴える広報活動も行うことができる。

(改善を要する点)

特になし。

(3) 基準4の自己評価の概要

学生の受入について、入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）を明確に定めており、学内の教職員については、それを明記した「入学者選抜実施要項」「教務必携」を配布して周知を行っている。また、入学対象者についても、「学生募集要項」や本校ウェブサイト等に明記して広く公表している。

入学者の選抜は、準学士課程1年への中学校からの入学、準学士課程4年への高校からの編入、そして専攻科入学に対する選抜要項を明確に定めており、それに従って学力試験や面接試験等を適切に実施し、入試判定会議において公正に可否を判定している。また、それぞれの選抜要項の改善を入試委員会に諮り、実際の選抜試験に適用することにより、より適正な試験で優秀な学生の確保ができるよう努力しており実現している。

準学士課程における各学科の実入学者数は入学定員と同じである。また、専攻科課程の各専攻の実入学者数は、多いときは定員の2倍弱であるが、絶対数が少ないために、教育に支障を来す数ではない。このように、両課程とも入学定員と実入学者数との関係を適正に維持している。

本校の広報は、中学生およびその保護者に本校の教育方針および本校で行われている教育研究活動を広く認識してもらうために行われている。その実施にあたっては、校内各部署の教職員で構成される広報プロジェクトを設け、組織的かつ計画的に進めることにより、一定の成果を上げている。今後は企業、教育研究期間など外部会社への広報活動と連携を進める方向にある。

なお、入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）の教職員への周知度は概ね88%であった。

基準5 教育内容及び方法

(1) 観点ごとの分析

<準学士課程>

観点5-1-①： 教育の目的に照らして、授業科目が学年ごとに適切に配置（例えば、一般科目及び専門科目のバランス、必修科目、選択科目等の配当等が考えられる。）され、教育課程が体系的に編成されているか。また、授業の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿って、教育の目的を達成するために適切なものになっているか。

（観点に係る状況）

準学士課程（資料5-1-①-1）は、5年間一貫教育の長所を生かして、教養教育の目標の達成に向けて各学年に適した科目が設計されている。教育課程は、各学科とも低学年に一般科目を多く配置し、学年が上がるに従って専門科目の比重が高まる楔形の科目配置となっている（資料5-1-①-2）。

一般科目は、ほぼ全学科共通で、本校の教育目標達成に必要な不可欠な人文社会系科目、理数系科目を習得させるように配置されている（資料5-1-①-3）。

専門科目は、学科、コースごとに定めた専門教育の内容・水準に沿って、授業科目が学年ごとに適切に配置され、内容的な体系性が確保されている。

選択科目は4、5年の高学年に配当され、工学基礎を学習した後、周辺技術の習得に至るというようにバランスよく配置されている（資料5-1-①-4）。

（分析結果とその根拠理由）

教育の目的に照らして、学年ごとに一般科目及び専門科目がバランスよく配置・編成されている。準学士課程の学習・教育目標に沿って、学科ごとの教育課程が系統的に編成されている。

また、学習・教育目標と授業科目との関係を周知させるため、各目標項目とそれを達成するための開設科目が、学科ごとに系統図（授業科目の流れ）によって提示されている。

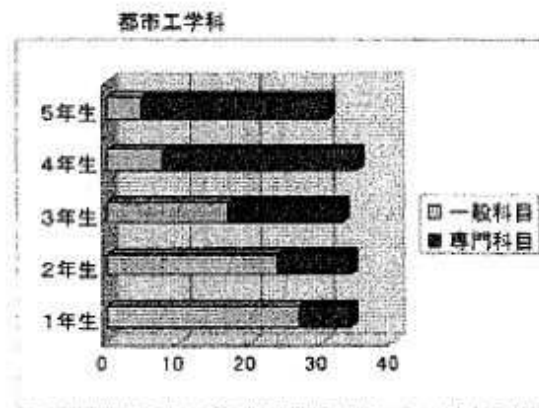
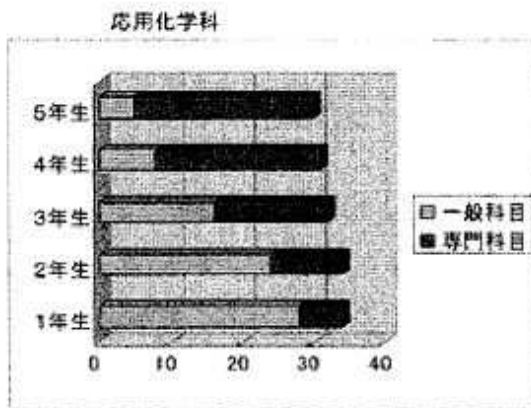
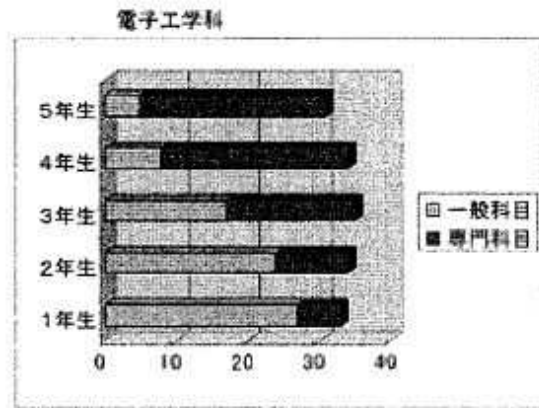
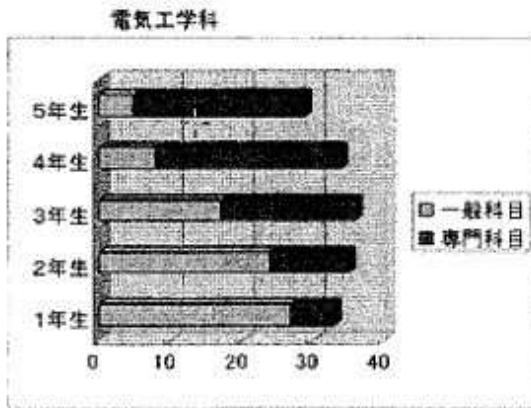
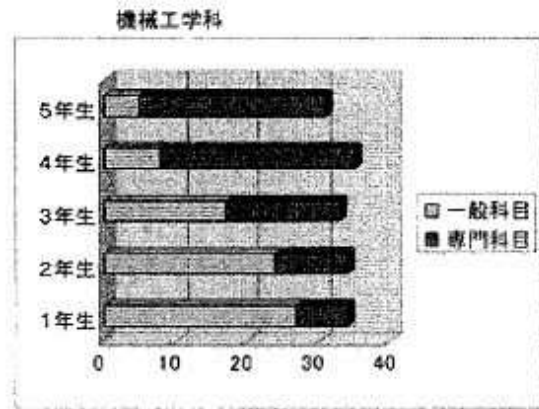
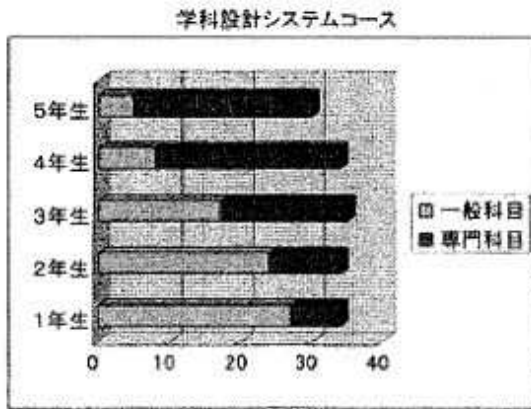
学科ごとの系統図（授業科目の流れ）

機械工学科設計システムコース→機械システム工学専攻の教育課程の体系性と科目系統図(H22年度修了生) (修正版)

学習・教育目標	本科4年		本科5年		専攻科1年		専攻科2年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
(A-1) 数学	応用数学Ⅰ◎ 応用数学Ⅱ◎	確率統計◎ 応用数学Ⅰ◎ 応用数学Ⅱ◎				数値統計セ◎ 数理工学Ⅰセ◎	数理工学Ⅱセ◎	
(A-2) 自然科学	応用物理学◎	応用物理学◎	電子工学概論◎ 機械力学Ⅰ◎ 機械力学Ⅱ◎	電子工学概論◎	レーザー工学セ◎ 量子物理解セ◎	光工学セ◎ シミュレーション工学◎	振動・音響論セ◎	
(A-3) 情報技術			数値計算法セ	情報処理		シミュレーション工学◎		
(A-4-M1) 材料	材料力学Ⅰ◎	材料力学Ⅱ◎	材料力学特論セ		弾性力学セ◎ 破壊力学セ◎ 動的材料解析セ◎	光工学セ◎ 金属表面加工工学セ◎ 応用力学セ◎		
(A-4-M2) 熱・流体	工業熱力学◎	工業熱力学◎	工業熱力学◎	エネルギー変換工学セ		熱機関論セ◎ 熱流体計測セ◎ 流体計測セ◎	熱・物質移動論セ◎ 流体力学セ◎	専攻科実験◎
(A-4-M3) 計測・制御	計測工学◎	計測工学◎	自動制御◎ 電子工学概論◎ ロボット工学セ 機械力学Ⅰ◎ 機械力学Ⅱ◎	自動制御◎ 電子工学概論◎	レーザー工学セ◎ 画像計測セ◎ 制御工学セ◎	航空工学概論セ◎ システム制御理論Ⅰセ◎ 応用ロボット工学セ◎	システム制御理論Ⅱセ◎ 振動・音響論セ◎	専攻科実験◎
(A-4-M4) 設計・生産	応用機械設計◎ 設計製図◎	応用機械設計◎ 設計製図◎	工作機械 精密加工セ 設計製図◎ 機械力学Ⅰ◎ 機械力学Ⅱ◎	生産工学◎ 設計製図◎	ワイロロボセ◎		成形加工工学セ◎	専攻科実験◎
(B-1) 専門的視野	機械工学実験◎	機械工学実験◎	卒業研究◎	卒業研究◎	レーザー工学セ◎ 専攻科特別研究Ⅰ◎	専攻科特別研究Ⅰ◎	専攻科特別研究Ⅱ◎	専攻科特別研究Ⅱ◎
(B-2) 実験	機械工学実験◎	機械工学実験◎	卒業研究◎	卒業研究◎	専攻科特別研究Ⅰ◎	専攻科特別研究Ⅰ◎ 流体計測セ◎	専攻科特別研究Ⅱ◎	専攻科特別研究Ⅱ◎
(B-3) 日常実践	英語実習◎	英語実習◎	英語実習◎	英語実習◎	英語特講セ◎	時事英語セ◎		
(B-4) 技術実践			工業実習◎	工業実習◎	卒業研究◎ 専攻科ゼミナールⅠ◎ レーザー工学セ◎	卒業研究◎ 専攻科特別研究Ⅰ◎ 専攻科ゼミナールⅡ◎ 技術定セ	専攻科特別研究Ⅱ◎ 専攻科ゼミナールⅡ◎	専攻科特別研究Ⅱ◎
(C-1) 応用・解析	機械工学実験◎	機械工学実験◎	機械工学実験◎					専攻科実験◎
(C-2) 複合・解決	設計製図◎ 学外実習セ	設計製図◎	卒業研究◎	卒業研究◎	専攻科特別研究Ⅰ◎ 専攻科ゼミナールⅠ◎ 専攻科特別実習セ◎	専攻科特別研究Ⅰ◎ 専攻科ゼミナールⅡ◎ 技術定セ	専攻科特別研究Ⅱ◎ 専攻科ゼミナールⅡ◎ 専攻科実験◎	
(C-3) 体力・教養	保健体育◎	保健体育◎	保健体育◎ 社会科学特講◎☆ 哲学◎☆ 日本史◎☆ 世界史◎☆ 人文科学特講◎☆ 経済学◎☆	社会科学特講◎☆ 哲学◎☆ 日本史◎☆ 世界史◎☆ 人文科学特講◎☆ 経済学◎☆			情報学セ◎ 応用倫理学セ◎	哲学特講セ◎
(C-4) 協賛・報告書	機械工学実験◎	機械工学実験◎	機械工学実験◎					専攻科実験◎
(D-1) 倫理	学外実習セ 設計製図◎ 機械工学実験◎	設計製図◎ 機械工学実験◎	電子工学概論◎ 産業工学セ 機械工学実験◎	電子工学概論◎ 生産工学◎		専攻科特別実習セ◎ 技術英語セ	工学倫理◎ 応用倫理学セ◎	専攻科実験◎
(D-2) 異文化	ドイツ語◎☆ 中国語◎☆	ドイツ語◎☆ 中国語◎☆	社会科学特講◎☆ 哲学◎☆ 日本史◎☆ 世界史◎☆ 人文科学特講◎☆ 経済学◎☆	社会科学特講◎☆ 哲学◎☆ 日本史◎☆ 世界史◎☆ 人文科学特講◎☆ 経済学◎☆			技術定セ	

出典：教育プログラム委員会資料

一般科目と専門科目の比率



出典：平成20年度学生便覧より作成

一般科目のカリキュラム

別表1 (第12条関係) 一般科目に関する授業科目等
各学科共通

授 業 科 目	単位数	学 年 別 配 当					備 考
		1年	2年	3年	4年	5年	
必 修 科 目	国 語	9	3	3	2	1	
	倫 理	2		2			
	政 治・経 済	2			2		
	論 理 学	1			1		
	歴 史	4	2	2			
	地 理	2	2				
	数 学 I	14	6	4	4		
	数 学 II	4	2	2			
	確 率 統 計	1				1	
	物 理	5	2	3			
	化 学	5(4)	3(4)	2(0)			
	生 物	1(2)		(2)	1(0)		
	保 健・体 育	9	2	2	2	2	1
	芸 術	1	1				
	英 語	12	4	4	4		
英 語 演 習	5			1	2	2	
修 得 単 位 計	77	27(28)	24(24)	17(16)	6	3	
選 択 科 目	ド イ ツ 語	2				2	いずれか 1 科目を選択
	中 国 語	2					
	哲 学	2					いずれか 1科目を 選択
	日 本 史	2					
	世 界 史	2					
	社会科学特講	2					
	人文科学特講	2					
	経 済 学	2					
開 設 単 位 計	16				4	12	
修 得 単 位 計	4				2	2	
一般科目開設単位計	93	27(28)	24(24)	17(16)	10	15	
一般科目修得単位計	81	27(28)	24(24)	17(16)	8	5	

(注) () 内は、応用化学科の実施単位数である。

出典：平成20年度学生便覧(p17)

4・5年の選択科目(例)

別表2(第12条関係) 専門科目に関する授業科目等

(1) 機械工学科

ア 共通

授業科目	単位数	学年別配当					備考
		1年	2年	3年	4年	5年	
共通	応用数学ⅠA	2				2	
	応用数学ⅠB	1				1	
	応用数学Ⅱ	2				2	
	応用物理	2			1	1	
	工業力学	2			2		
	材料力学	2			2		
	材料力学Ⅰ	2				2	
	材料力学Ⅱ	1				1	
	工業熱力学	3				2	1
	流体工学	3				2	1
必修	機械力学Ⅰ	1				1	
	機械力学Ⅱ	1				1	
	情報基礎	2	2				
	情報処理	2		1			1
	計測工学	2				2	
	工業英語	2					2
	材料工学	2		2			
	機械工作法	1		1			
	機械工学概論	1		1			
	機械設計	2			2		
科目	設計製図	6	2	2	2		
	機械実習	7	3	3	1		
	創造設計製作	1			1		
	機械工学実験	6				4	2
	電気工学	2			2		
	電子工学概論	1					1
	卒業研究	7					7

イ 設計システムコース

授業科目	単位数	学年別配当			備考
		3年	4年	5年	
必修科目	自動制御	2		2	
	材料工学	2	2		
	加工工学	2	2		
	生産工学	1		1	
	工作機械	1		1	
	応用機械設計	2		2	
	機構学	1	1		
選択科目	設計製図	6		3	3
	学外学習	1		1	
	エネルギー変換工学	2			2
	精密加工学	2			2
	材料力学特論	2			2
	環境工学	2			2
	ロボット工学	2			2
数値計算法	2			2	

出典：平成20年度学生便覧(p18)

観点5-1-②： 学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請等に対応した教育課程の編成（例えば、他学科の授業科目の履修、他高等教育機関との単位互換、インターンシップによる単位認定、補充教育の実施、専攻科教育との連携等が考えられる。）に配慮しているか。

（観点に係る状況）

学生の多様なニーズについては、本校では留学規程（資料5-1-②-1）を設け、留学先で履修単位を、30単位を超えない範囲で認定する事や、学則により、校長が有益と認めた場合については他大学、他高等専門学校で履修した単位について30単位を超えない範囲で認定することができる（資料5-1-②-2）等、学生のニーズに対応したシステムを有している。

また、インターンシップにより認定する科目として、「学外実習」（4年生選択科目1単位）も設けており（前述の資料5-1-①-4）、報告会も実施している（資料5-1-②-3）。また、専攻科と連携した教育プログラムとして日本技術者教育認定機構（JABEE）に認定された工学系複合プログラムがあり、本科4、5年科目と専攻科科目を連携させたカリキュラムを有している（後述の資料5-5-①-1）。

社会からの要請については、本校の教育に対する社会の要望を配慮するため、外部評価およびアンケートを行っている。平成15年度に外部評価を実施し、社会的要望を取りまとめている（資料5-1-②-4）。また、アンケートについては、平成15年度に修了生、企業および大学院に対して実施している。さらに、平成16年度に過去40年間の本科卒業生、就職先企業を対象とした大規模なアンケートを行っている（資料5-1-②-5）。

これらの外部評価およびアンケートの結果を評価委員会で分析・評価し、その結果が各学科・専攻に対して、フィードバックされることで、社会の要望が教育点検システムに反映する仕組みになっている（前述の資料2-2-①-1）。

（分析結果とその根拠理由）

学外で履修した単位の認定、専攻科との連携によるJABEE認定プログラムの設置などを行っていることから、学生の多様なニーズ、社会からの要請等に対応した教育課程の編成に配慮している。

学生留学生規定

4. 学生留学規程

(制定 平成10年6月1日)

(趣 旨)

第1条 この規程は、神戸市立工業高等専門学校学則第28条の規定による本校学生の外国の高等学校又は大学（以下「外国学校等」という。）への留学（以下「留学」という。）の取扱いについて必要な事項を定める。

(留学の申請)

第2条 留学を希望する学生は、所属学科の学科主任を経て、原則として留学の3か月前までに、留学願（別紙様式1）に次の各号に掲げる書類を添えて校長に願い出なければならない。

- (1) 留学希望先の外国学校等の規模、沿革、教育方針、教育課程等が記載されている書類
- (2) その他校長が必要と認める書類

(留学の許可)

第3条 校長は、前条に規定する留学の願い出があったときは、教務委員会の議に付し、次の各号に掲げる要件を満たしているときは、これを許可するものとする。

- (1) 留学しようとする外国学校等が正規の教育機関であり、体系的な教育課程を有していること。
 - (2) 前号の外国学校等から在籍することについての許可を得ていること。
 - (3) 留学の目的、理由が当該学生にとって教育上有益であり、かつ、本校における当該学生の学業成績及び生活態度が良好であること。
 - (4) 留学先で履修する科目が、留学期間中における本校の履修科目とその内容において相当とみなすことができ、復学後の修学に支障がないと認められること。
- 2 校長は、前項の規定により留学を許可した後、出国前に前項各号の要件を欠くような事態が生じたときは、留学許可を取り消すことができる。

(留学期間)

第4条 留学期間は、10か月以上1年以内とする。ただし、校長は、留学中においてやむを得ない事情があると認めるときは、留学期間の短縮又は1年を限度としてその延長を許可することができる。

(次ページへ続く)

2 前項ただし書きに規定する留学期間の短縮又は延長の許可を受けようとする学生は、留学期間変更願（別紙様式2）を校長に提出しなければならない。

3 留学期間は、本校の修学年限に含めるものとする。

（留学の終了）

第5条 留学を許可された学生は、留学が終了したときは、直ちに所属学科の学科主任を経て、校長に留学報告書及び留学先外国学校等の長が発行する単位取得証明書、成績証明書等を提出しなければならない。

（単位修得の認定等）

第6条 留学期間中の単位の認定及び復学後の所属学年については、教務委員会の審議を経て、校長が決定する。

2 留学期間中の単位の認定については、留学を許可された学生が留学先外国学校等において良好に履修したと認められる場合は、30単位を超えない範囲で単位の修得を認める。この場合、評価は行わない。

3 第4条第1項ただし書きの規定により留学期間の短縮を許可された場合において、短縮後の留学期間が10か月未満となったときは、前項の単位の認定は行わない。

4 第1項の規定により30単位の認定を受けた者は、「学業成績評価及び進級並びに卒業の認定に関する規程」第12条第2項に規定する進級の要件を満たしているものとみなす。

（留学許可の取消）

第7条 校長は、留学を許可された学生が次の各号のいずれかに該当するときは、留学先外国学校等の長と協議の上、留学許可を取り消すことができる。

(1) 履修の見込みがないと認められるとき。

(2) 留学先外国学校等の規則等に違反し、又は留學生の本分に反する行為があると認められるとき。

(3) その他留学の趣旨に反する行為があると認められるとき。

（雑 則）

第8条 この規程の実施に関し必要な事項は、校長が別に定める。

附 則

この規程は、平成10年6月1日から施行する。

出典：平成20年度学生便覧(p50-51)

第4章 教育課程等

第11条 1年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め、35週にわたることを原則とする。

第12条 本校の教育課程は、授業科目及び特別活動をもって編成するものとする。

2 授業科目及びその履修単位数は、一般科目にあつては別表1、専門科目にあつては別表2のとおりとする。

3 各授業科目の単位数は、30単位時間の履修を1単位として計算するものとする。

4 前項の規定にかかわらず、授業科目の単位数の計算は、高等専門学校設置基準（昭和36年文部省令第23号）第17条第4項によることが出来るものとする。

5 第2項の規定にかかわらず、卒業研究及び学外実習の授業科目については、その学修の成果を評価して単位を修得することが適切と認められる場合には、それに必要な学修を考慮して単位数を定めることができる。

6 特別活動の単位時間は、別表3のとおりとする。

第13条 校長は、教育上有益と認めるときは、学生が他の高等専門学校において履修した授業科目について修得した単位を、30単位を超えない範囲で、本校における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

第14条 校長は、教育上有益と認めるときは、学生が行う大学における学修その他文部科学大臣が定める学修を本校における授業科目の履修とみなし、単位の認定をすることができる。

2 前項の規定により認定することができる単位数は、前条の規定により本校において修得したものとみなす単位数とあわせて30単位を超えないものとする。

第15条 各学年の課程の修了又は卒業を認めるにあたっては、学生の平素の成績を評価して行うものとする。

第16条 前条の認定の結果、原学年にとどめられた者は、当該学年に係る全授業科目を再履修するものとする。

出典：平成19年度 電気工学科4学年 学外実習報告会資料

日時：平成19年 9月 14日(金)

13:05～15:50

場所：本部棟2階 ホール

予定時間	持ち時間	出席番号	氏名	実習先
13:15 ~ 13:21	6分	1	青野 雅俊	パナソニックエレクトロニックデバイス株式会社
13:21 ~ 13:27	6分	2	赤松 恒平	大陽日酸株式会社
13:27 ~ 13:38	11分	4	阿野 浩一郎	神戸新交通株式会社
		34	宮本 雄太	
13:38 ~ 13:44	6分	5	有田 悠	株式会社KDDIテクニカルエンジニアリングサービス
13:44 ~ 13:55	11分	8	伊藤 満孝	阪神機器株式会社
		38	山下 高広	
13:55 ~ 14:01	6分	12	大久保 広訓	アイネットシステムズ株式会社
14:01 ~ 14:07	6分	13	大西 裕也	ニチゾウ電子制御株式会社
14:07 ~ 14:18	11分	15	加藤 陸	親和パッケージ株式会社
		24	鮫島 佑太	
14:18 ~ 14:24	6分	17	河端 友貴	住友精化株式会社
休憩				
14:35 ~ 14:41	6分	22	坂部 真奈	東芝メディカルシステムズ株式会社
14:41 ~ 14:47	6分	23	貞松 夏樹	キャノンマーケティングジャパン株式会社
14:47 ~ 14:58	11分	25	重松 遼	エム・シーシー食品株式会社
		39	山中 康平	
14:58 ~ 15:04	6分	26	白阪 允洋	日本放送協会
15:04 ~ 15:20	16分	29	長野 良	大阪ガス株式会社
		30	広地 俊一	
		37	安田 結平	
15:20 ~ 15:31	11分	32	松榮 龍二	中部電力株式会社
		35	村上 拓馬	
15:31 ~ 15:37	6分	40	米澤 泰斗	株式会社日本触媒

発表・質疑の時間とベル(発表開始からの時間)

- ・1人：発表4分、質疑2分・・・3分：第一鈴、4分：第二鈴(発表終了)、6分：第三鈴(質疑終了)
- ・2人：発表7分、質疑4分・・・8分：第一鈴、7分：第二鈴(発表終了)、11分：第三鈴(質疑終了)
- ・3人：発表10分、質疑6分・・・9分：第一鈴、10分：第二鈴(発表終了)、16分：第三鈴(質疑終了)

※注意事項

1. 時間の節約のため、次の発表者は前の席で準備しておくこと。
2. 第二鈴(発表終了)のベルがなれば、ただちにまどめに移ること。
3. 時計・ベル係は・・・前坐：田村 健司 並坐：田村 健司

出典：電機工学科4年学外実習報告会資料

平成15年度 外部評価報告書（平成16年3月10日実施）

A4サイズ：1～42ページ



学科主任のプレゼンテーション



施設見学

3. 第1回外部評価委員会の風景



太田勲外部評価委員長挨拶



西野種夫校長総旨説明

出典：平成15年度外部評価報告書より転載

神戸高専準学士課程卒業生・専攻科修了生へのアンケート依頼文

神戸高専アンケートのお願い

神戸市立工業高等専門学校
校長 西野 種夫
専攻科長 早ノ瀬 信彦

拝啓

寒さ厳しい季節になってまいりましたが、神戸高専専攻科修了生のみなさまにおかれましては、益々ご活躍のこととお喜び申し上げます。

さて、神戸高専では平成16年度からアンケート用紙にもありますような学習・教育目標を掲げ、より一層の学習・教育を充実させて行くことになりました。そして、平成17年度にはJABEE（日本技術者教育認定機構）に申請する予定になっております。そこで、これまでに神戸高専本科、専攻科を修了されたみなさまに、本校の教育課程に対する評価や現状で感じておられる事などのご意見を伺い、今後の参考とさせて頂きたくアンケートを実施することになりました。ご多忙中のこととは存じ上げますが、同封させて頂いたアンケートの質問に対する回答を「アンケート回答用紙」にご記入頂き、同封しております返信用封筒で1月30日（金）までに郵送して頂きたいと思っております。

将来の神戸高専のため、また、今後修了していく後輩のためにもぜひご協力をお願い致します。

敬具

出典：教育プログラム委員会資料

観点5-2-①： 教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。（例えば、教材の工夫、少人数授業、対話・討論型授業、フィールド型授業、情報機器の活用、基礎学力不足の学生に対する配慮等が考えられる。）

（観点に係る状況）

各講義を学習目標毎に重みづけし、講義、演習、実験実習の構成割合を学年毎に表に示した（資料5-2-①-1）。この表からも各学科ともバランスよく配置されていることが確認できる。一般科目の基本的な授業形態は講義としているが、一部の理数系科目には実験実習も取り入れ（資料5-2-①-2）、また文系科目においても教授内容に合わせて対話・討論型授業や授業を取り入れている（資料5-2-①-3）。

情報リテラシーについては学内作成テキストに基づき、全学科共通のテキストにより行うという工夫が見られる。また、総合情報センターでは演習室の講義での利用頻度が高く、視聴覚室を平成20年度より第3演習室として利用している（資料5-2-①-4）。

専門学科においては、教育目標（B）について、実験実習科目におけるレポート作成、指導教官とのディスカッションや卒業研究論文の作成を通じてその達成を図っている。それらの科目においては基本的に少人数で実施している。

その他、学生からの質問に答えられるよう各教員がオフィスアワーズを設定して、便宜を図ることにより、基礎学力の定着及び不足分の補充を図っている（資料5-2-①-5）。

（分析結果とその根拠理由）

教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスは適切である。少人数教育、情報リテラシー教育、ディスカッションを取り入れた授業など、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされている。

学習・教育目標ごとの講義・演習・実験実習の構成割合

機械工学科(設計システムコース)の学生が卒業時に身に付ける学力や資質・能力の各項目に対する専門科目授業形態の割合(H16年度入学)

学科名	学年	合計単位数 割合	A				B				C				D			
			講義	演習	実験・実習	累計	講義	演習	実験・実習	累計	講義	演習	実験・実習	累計	講義	演習	実験・実習	累計
機械工学科 (設計システムコース)	1年	合計単位数	9.1	5.9	2.9	17.9	5.2	1.0	0.9	7.1	3.4	0.8	3.4	7.6	0.6	0.2	0.6	1.4
		割合	51%	33%	16%	100%	74%	14%	13%	100%	45%	11%	45%	100%	40%	17%	43%	100%
	2年	合計単位数	11.6	4.2	2.9	18.7	5.2	1.0	0.9	7.1	1.8	0.4	2.4	4.6	2.2	0.6	0.6	3.4
		割合	62%	23%	16%	100%	74%	14%	13%	100%	39%	9%	52%	100%	64%	19%	18%	100%
	3年	合計単位数	14.7	6.3	0.6	21.6	5.2	1.8	0.6	7.6	1.8	0.4	2.2	4.4	0.7	0.3	0.4	1.4
		割合	68%	29%	3%	100%	69%	23%	8%	100%	41%	9%	50%	100%	47%	24%	29%	100%
	4年	合計単位数	13.1	3.9	5.0	22.0	3.0	0.0	0.4	3.4	0.0	0.0	3.7	3.7	4.0	0.0	0.9	4.9
		割合	59%	18%	23%	100%	88%	0%	12%	100%	0%	0%	100%	100%	82%	0%	18%	100%
	5年	合計単位数	14.8	4.9	2.8	22.5	2.8	1.2	2.5	6.5	7.7	1.9	6.5	16.1	3.8	1.0	0.2	4.9
		割合	66%	22%	12%	100%	43%	18%	38%	100%	48%	12%	40%	100%	77%	19%	4%	100%
	合計	合計単位数	63.3	25.2	14.2	102.7	21.5	4.9	5.3	31.7	14.7	3.5	18.2	36.4	11.1	2.2	2.7	16.0
		割合	62%	25%	14%	100%	68%	15%	17%	100%	40%	10%	50%	100%	70%	14%	17%	100%

機械工学科(システム制御コース)の学生が卒業時に身に付ける学力や資質・能力の各項目に対する専門科目授業形態の割合(H16年度入学)

学科名	学年	合計単位数 割合	A				B				C				D			
			講義	演習	実験・実習	累計	講義	演習	実験・実習	累計	講義	演習	実験・実習	累計	講義	演習	実験・実習	累計
機械工学科 (システム制御コース)	1年	合計単位数	9.1	5.9	2.9	17.9	5.2	1.0	0.9	7.1	3.4	0.8	3.4	7.6	0.6	0.2	0.6	1.4
		割合	51%	33%	16%	100%	74%	14%	13%	100%	45%	11%	45%	100%	40%	17%	43%	100%
	2年	合計単位数	11.6	4.2	2.9	18.7	5.2	1.0	0.9	7.1	1.8	0.4	2.4	4.6	2.2	0.6	0.6	3.4
		割合	62%	23%	16%	100%	74%	14%	13%	100%	39%	9%	52%	100%	64%	19%	18%	100%
	3年	合計単位数	13.9	5.7	0.6	20.2	5.2	1.8	0.6	7.6	1.8	0.4	2.2	4.4	1.0	0.4	0.4	1.8
		割合	69%	28%	3%	100%	69%	23%	8%	100%	41%	9%	50%	100%	54%	23%	22%	100%
	4年	合計単位数	14.1	3.9	3.8	21.8	3.0	0.0	0.4	3.4	0.0	0.0	4.8	4.8	4.0	0.0	1.1	5.1
		割合	65%	18%	17%	100%	88%	0%	12%	100%	0%	0%	100%	100%	79%	0%	21%	100%
	5年	合計単位数	17.6	7.1	2.8	27.5	2.8	1.2	2.5	6.5	7.7	1.9	6.5	16.1	3.8	1.0	0.2	4.9
		割合	64%	26%	10%	100%	43%	18%	38%	100%	48%	12%	40%	100%	77%	19%	4%	100%
	合計	合計単位数	66.2	26.9	13.0	106.1	21.5	4.9	5.3	31.7	14.7	3.5	19.3	37.5	11.5	2.3	2.9	16.6
		割合	62%	25%	12%	100%	68%	15%	17%	100%	39%	9%	51%	100%	69%	14%	17%	100%

電気工学科の学生が卒業時に身に付ける学力や資質・能力の各項目に対する専門科目授業形態の割合(H16年度入学生)

学科名	学年	合計単位数 割合	A				B				C				D			
			講義	演習	実験・実習	累計	講義	演習	実験・実習	累計	講義	演習	実験・実習	累計	講義	演習	実験・実習	累計
電気工学科	1年	合計単位数	11.5	7.5	0.0	19.0	5.2	1.0	0.0	6.2	3.4	0.8	2.8	7.0	0.6	0.2	0.0	0.8
		割合	61%	39%	0%	100%	85%	15%	0%	100%	49%	11%	40%	100%	70%	30%	0%	100%
	2年	合計単位数	13.2	5.8	0.9	19.9	5.2	1.0	0.6	6.8	2.1	0.5	2.7	5.3	1.8	0.6	0.6	3.0
		割合	66%	29%	5%	100%	77%	14%	9%	100%	40%	9%	51%	100%	61%	19%	20%	100%
	3年	合計単位数	14.6	5.4	1.2	21.2	5.3	1.7	0.8	7.8	1.8	0.4	3.0	5.2	0.7	0.3	0.8	1.8
		割合	69%	25%	6%	100%	68%	22%	10%	100%	35%	8%	58%	100%	38%	18%	44%	100%
	4年	合計単位数	4.2	1.2	0.8	6.2	3.8	1.2	0.8	5.8	0.2	0.0	3.8	4.0	3.2	0.8	0.4	4.4
		割合	68%	20%	13%	100%	66%	21%	14%	100%	5%	0%	95%	100%	73%	18%	9%	100%
	5年	合計単位数	11.2	2.8	0.4	14.4	1.2	0.8	0.4	2.4	7.8	1.9	1.9	11.6	1.9	0.5	0.2	2.6
		割合	78%	19%	3%	100%	50%	33%	17%	100%	67%	17%	16%	100%	74%	18%	8%	100%
	合計	合計単位数	54.7	22.7	3.3	80.7	20.8	5.6	2.6	29.0	15.3	3.6	14.2	33.1	8.2	2.4	2.0	12.6
		割合	68%	28%	4%	100%	72%	19%	9%	100%	46%	11%	43%	100%	65%	19%	16%	100%

(次頁へ)

電子工学科の学生が卒業時に身に付ける学力や資質・能力の各項目に対する専門科目授業形態の割合(H16年度入学生)

学科名	学年	合計単位数 割合	A				B				C				D			
			講義	演習	実験・実習	累計	講義	演習	実験・実習	累計	講義	演習	実験・実習	累計	講義	演習	実験・実習	累計
電子工学科	1年	合計単位数	11.5	6.3	0.0	17.8	5.4	1.2	0.0	6.6	3.6	1.0	2.8	7.4	0.7	0.5	0.0	1.2
		割合	64%	36%	0%	100%	82%	18%	0%	100%	48%	14%	38%	100%	61%	39%	0%	100%
	2年	合計単位数	12.2	4.8	1.6	18.6	5.2	1.0	0.8	7.0	2.1	0.5	2.6	5.2	1.8	0.6	0.8	3.2
		割合	65%	26%	9%	100%	75%	14%	11%	100%	41%	9%	50%	100%	58%	18%	25%	100%
	3年	合計単位数	14.3	4.7	1.6	20.6	5.3	1.7	0.8	7.8	1.8	0.4	2.6	4.8	0.7	0.3	0.8	1.8
		割合	69%	23%	8%	100%	68%	22%	10%	100%	38%	8%	54%	100%	38%	18%	44%	100%
	4年	合計単位数	18.1	4.9	1.6	24.6	2.2	0.8	0.4	3.4	0.2	0.0	3.5	3.7	3.2	0.8	1.3	5.3
		割合	74%	20%	7%	100%	65%	24%	12%	100%	5%	0%	95%	100%	60%	15%	25%	100%
	5年	合計単位数	13.1	2.9	1.6	17.6	2.6	1.4	3.1	7.1	7.8	1.9	8.4	18.1	1.9	0.5	0.8	3.2
		割合	74%	16%	9%	100%	37%	19%	44%	100%	43%	11%	46%	100%	60%	15%	25%	100%
	合計	合計単位数	69.1	23.7	6.4	99.2	20.8	6.0	5.1	31.9	15.5	3.8	19.9	39.2	8.4	2.6	3.7	14.7
		割合	70%	24%	6%	100%	65%	19%	16%	100%	39%	10%	51%	100%	57%	18%	25%	100%

応用化学科の学生が卒業時に身に付ける学力や資質・能力の各項目に対する専門科目授業形態の割合(H16年度入学生)

学科名	学年	合計単位数 割合	A				B				C				D			
			講義	演習	実験・実習	累計	講義	演習	実験・実習	累計	講義	演習	実験・実習	累計	講義	演習	実験・実習	累計
応用化学科	1年	合計単位数	10.0	6.0	2.4	18.4	5.2	1.0	0.8	7.0	3.4	0.8	3.2	7.4	0.6	0.2	0.4	1.2
		割合	54%	33%	13%	100%	75%	14%	11%	100%	46%	11%	43%	100%	47%	20%	33%	100%
	2年	合計単位数	12.6	4.4	2.4	19.4	5.2	1.0	0.8	7.0	2.1	0.5	2.2	4.8	1.8	0.6	0.4	2.8
		割合	65%	23%	12%	100%	75%	14%	11%	100%	44%	10%	46%	100%	66%	20%	14%	100%
	3年	合計単位数	11.2	4.6	2.4	18.2	5.3	1.7	0.8	7.8	1.8	0.6	2.2	4.6	0.7	0.3	0.4	1.4
		割合	62%	25%	13%	100%	68%	22%	10%	100%	40%	12%	48%	100%	49%	23%	29%	100%
	4年	合計単位数	14.5	4.5	2.4	21.4	2.7	1.3	0.4	4.4	0.2	0.0	3.1	3.3	3.2	0.8	0.9	4.9
		割合	68%	21%	11%	100%	61%	30%	9%	100%	6%	0%	94%	100%	65%	16%	18%	100%
	5年	合計単位数	20.2	3.7	0.0	23.9	1.2	0.8	3.0	5.0	7.9	1.9	7.9	17.7	2.7	0.7	0.0	3.4
		割合	84%	16%	0%	100%	24%	16%	60%	100%	44%	11%	45%	100%	80%	20%	0%	100%
	合計	合計単位数	68.4	23.3	9.6	101.3	19.7	5.7	5.8	31.2	15.4	3.8	18.6	37.8	9.0	2.6	2.1	13.7
		割合	68%	23%	9%	100%	63%	18%	19%	100%	41%	10%	49%	100%	66%	19%	15%	100%

都市工学科の学生が卒業時に身に付ける学力や資質・能力の各項目に対する専門科目授業形態の割合(H16年度入学生)

学科名	学年	合計単位数 割合	A				B				C				D			
			講義	演習	実験・実習	累計	講義	演習	実験・実習	累計	講義	演習	実験・実習	累計	講義	演習	実験・実習	累計
都市工学科	1年	合計単位数	10.5	6.5	0.6	17.6	5.2	1.0	0.0	6.2	3.4	0.8	4.0	8.2	0.6	0.2	0.2	1.0
		割合	60%	37%	3%	100%	85%	15%	0%	100%	41%	10%	49%	100%	56%	24%	20%	100%
	2年	合計単位数	14.0	4.0	0.6	18.6	5.2	1.0	0.0	6.2	2.1	0.5	3.0	5.6	1.8	0.6	0.2	2.6
		割合	75%	22%	3%	100%	85%	15%	0%	100%	38%	9%	54%	100%	71%	22%	8%	100%
	3年	合計単位数	14.1	4.9	0.6	19.6	5.3	1.7	0.3	7.3	1.8	0.4	3.6	5.8	0.7	0.3	0.3	1.3
		割合	72%	25%	3%	100%	73%	23%	4%	100%	31%	7%	62%	100%	52%	25%	23%	100%
	4年	合計単位数	20.5	4.5	0.2	25.2	2.2	0.8	0.2	3.2	0.2	0.0	3.2	3.4	4.2	0.8	0.2	5.2
		割合	81%	18%	1%	100%	69%	25%	6%	100%	6%	0%	94%	100%	81%	15%	4%	100%
	5年	合計単位数	13.0	1.0	0.3	14.3	2.2	0.8	0.3	3.3	8.4	1.9	3.0	13.3	4.3	0.5	0.3	5.1
		割合	91%	7%	2%	100%	67%	24%	9%	100%	63%	14%	23%	100%	85%	9%	6%	100%
	合計	合計単位数	72.1	20.9	2.3	95.3	20.2	5.2	0.8	26.2	15.9	3.6	16.8	36.3	11.6	2.4	1.2	15.2
		割合	76%	22%	2%	100%	77%	20%	3%	100%	44%	10%	46%	100%	76%	16%	8%	100%

出典：教育プログラム委員会資料

一般科目理系(例)

科目	物理(Physics)		
担当教員	大多喜 重明		
対象学年等	電気工学科・1年・通年・必修・2単位(学修単位1)		
学習・教育目標	工学複合プログラム		JABEE基準1(1)
授業の概要と方針	物理的な事象・現象についての観察、実験や課題研究などを通して、物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則の理解を深め、それを活用する能力を育成する。第一学年では、演示実験を行いながら、物理の基礎部分である力学を教授する。測定値の平均値の推定方法などを加えたが、ほぼ、テキストに従った授業内容である。		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	等加速度直線運動の「速度と時刻」、「位置と時刻」、「速度と変位」の関係式を理解し、活用できる。		中間・定期試験とレポートで、授業内容の理解度を評価する。試験では、基礎60%、応用40%の割合で出題し、75%正答を標準とする。(直線運動については前期、平面と空間運動については後期)
2	運動の第1法則、第2法則、第3法則を理解し、活用できる。		中間・定期試験とレポートで、授業内容の理解度を評価する。試験では、基礎60%、応用40%の割合で出題し、75%正答を標準とする。(直線運動については前期、平面と空間運動については後期)
3	運動量保存の法則を理解し、活用できる。		中間・定期試験とレポートで、授業内容の理解度を評価する。試験では、基礎60%、応用40%の割合で出題し、75%正答を標準とする。(直線運動については前期、平面と空間運動については後期)
4	力学的エネルギー保存の法則を理解し、活用できる。		中間・定期試験とレポートで、授業内容の理解度を評価する。試験では、基礎60%、応用40%の割合で出題し、75%正答を標準とする。
5	つり合いの条件を理解し、活用できる。		中間・定期試験とレポートで、授業内容の理解度を評価する。試験では、基礎60%、応用40%の割合で出題し、75%正答を標準とする。(質点については前期、剛体については後期)
6	圧力と浮力について理解し、活用できる。		中間・定期試験とレポートで、授業内容の理解度を評価する。試験では、基礎60%、応用40%の割合で出題し、75%正答を標準とする。
7	真の平均値が得られる量と原理的にそれが得られない量の区別ができる。		レポートで評価する。
8	図書館や情報センター等を利用して必要な情報を入手し、課題についての説明ができる。		中間試験とレポートで評価する。
9			
10			
総合評価	成績は、試験70%、レポート30%として評価する。試験成績は、中間試験と定期試験の平均点とする。レポート提出では、良いものを提出することが大事であるが、 \wedge 切を守ることも重要である。100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト	「高専の物理[第5版]」和達三樹監修(森北出版) 「高専の物理問題集[第3版]」田中富士男編著(森北出版)		
参考書	「物理の基礎」長岡洋介著(東京数学社) 「理化学辞典」長倉三郎他編集(岩波書店) 「理科年表」国立天文台編集(丸善)		
関連科目	国語、数学I、数学II		
履修上の注意事項	テキストに従って、予習をすること。問題演習を行い、学んだことを定着させることも大切である。授業では数式をよく使う、また、人の考えを受け取る力と自分の考えを伝える力も必要である。「数学」や「国語」もよく勉強すること。		

(次ページへ続く)

授業計画1 (物理)		
週	テーマ	内容(目標, 準備など)
1	直径の測定(母平均の区間推定)	入学試験などの点数の真の平均値は知ることが出来ませんが、プリントにある手書きの直径の真の平均値は知ることが出来るでしょうか。このことについて考察します。
2	直線運動1(平均の速度・加速度)	直線運動での、速度と加速度の平均値について考察します。
3	直線運動2(x-t, v-t, a-tグラフ)	位置と時刻、速度と時刻、加速度と時刻の関係をグラフを使って考察します。
4	直線運動3(瞬間の速度・加速度)	電車やバス、速度や加速度は刻々と変化しています。平均の速度と瞬間の速度について考察します。平均を取る時間を限りなく短くするとどうなるでしょう。
5	直線運動4(まとめ)	等加速度直線運動について、これまで考え分かったことを式にまとめます。物理では分かったことを、文(国語)だけでなく、式(数学)としても表現しておきます。国語や数学も物理を学習して行く上で大切です。
6	運動の法則1(力, 第一法則)	物体を動かすには、押し引きの力が必要です。紐で引くなど物体にさわってはたらく力や、磁力で引き付けるなどさわらなくてもはたらく力があります。また、軽いものは動かし易いが、重いものは動かし辛い。力の種類と動かし易さに関する考察をします。
7	運動の法則2(第二法則, 第三法則)	力と加速度の関係(運動方程式)、2つの物体の間にはたらく力の関係(作用反作用の法則)について考察します。
8	中間試験	試験前に研究テーマを出します。図書館やインターネットを使って調べて、自分なりにまとめてみましょう。計算問題も出題します。教科書や問題集のAとB問題を練習しておいて下さい。
9	中間試験の解説	中間試験の答え合わせと解説をします。
10	運動の法則3(まとめ)	慣性の法則、運動方程式、作用反作用の法則についてのまとめと補足説明をします。
11	いろいろな直線運動1(方程式作成)	これまで学習してきたことをいろいろな直線運動に応用します。
12	いろいろな直線運動2(自由落下)	これまで学習してきたことをいろいろな直線運動に応用します。
13	いろいろな直線運動3(摩擦と斜面)	これまで学習してきたことをいろいろな直線運動に応用します。
14	運動量1(力積と運動量)	「力とその力がはたらいた時間の積」と「物体の質量と速度の積」について考察します。
15	運動量2(運動量保存の法則)	作用反作用の法則から運動量保存の法則を導きます。文から式をつくり、式から文をつくり、文と式を使って、重要な法則を導きます。
16	力学的エネルギー1(仕事)	荷物を持ってじっとしていると疲れてくる。このとき、人間はエネルギーを消費しているが、荷物にエネルギーを消費していない。荷物に対して仕事をしていない。物理での仕事について、説明する。
17	力学的エネルギー2(運動, 位置)	仕事と運動エネルギー、位置エネルギーについて考察する。
18	力学的エネルギー3(保存法則)	摩擦などが無い条件での、運動エネルギーと位置エネルギーの関係について考察する。
19	力学的エネルギー4(まとめ)	力学的エネルギーについてのまとめを行う。
20	平面・空間運動1(ベクトルとスカラー)	速度のように大きさと向きを持つ量と質量のように大きさだけの量について、その表記方法と足し算引き算の仕方について考察する。
21	平面・空間運動2(速度と運動量, 力)	直線運動について速度や運動量など学習した。平面や空間運動でどのように表すか考察する。
22	平面・空間運動3(運動方程式, 仕事)	物体は力を加えた向きに加速する(x方向に力を加えて、y方向に加速しない)。平面運動での運動方程式と仕事について考察する。
23	中間試験	試験前に研究テーマを出します。図書館やインターネットを使って調べて、自分なりにまとめてみましょう。計算問題も出題します。教科書や問題集のAとB問題を練習しておいて下さい。
24	中間試験の解説	中間試験の答え合わせと解説をします。
25	いろいろな空間運動4(等速円運動)	物体が速さ一定で円運動するとき、進む向きは変わるので、速度は変化します。したがって、加速運動です。また、ハンマー投げで選手がハンマーを回すとき、どちら向きに力を入れていますか。これらについて考察します。
26	いろいろな空間運動5(惑星の運動)	太陽の周りを回る惑星は楕円運動しています。天体観測により、ケプラーが発見した法則と万有引力の法則について考察します。
27	いろいろな空間運動6(単振動)	バネ振り子の運動について考察します。
28	剛体に働く力(モーメント, つりあい)	傘を立てかけるとき倒れないように気をつけます。倒れないとき、傘に働く力の関係がどのようになっているか考察する。
29	流体に働く力(圧力, 浮力)	「満員電車で、運動靴の人に足を踏まれるより、ハイヒールの人に踏まれた方が痛い。」ことと、「海に入ると体が浮く。」ことは全く関係ないことですが関係があります。圧力と浮力について考察します。
30	摩擦係数の測定(学生実験)	静止摩擦係数を測定します。(実験題目を変更することもあります。)
備考	中間試験および定期試験を実施する。	

一般科科目文系(例)

科目	国語 (Japanese Language and Literature)		
担当教員	土居 文人		
対象学年等	電気工学科・3年・通年・必修・2単位(学修単位I)		
学習・教育目標	工学複合プログラム		JABEE基準1(I)
授業の概要と方針	第1, 2学年で行った, 一般教養としての国語の基礎的学習の発展編として, さらに高度な文章読解法・文章表現法について講義と実践を行う。批評については, いくつかの方法を提示して具体的に批評を執筆する。また, 日本文化の特徴と問題点について, 最新の話題を提供しつつ議論する。		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	速読・熟読の両方により, 的確かつ創造的に文章を読解し, その文章を要約できる。		速読・熟読の両方による, 的確かつ創造的な文章読解力を身につけているか, 定期試験で評価する。
2	根拠を示し, 文体と内容の整合性の保たれた, 論理的で文意の明快な説明を書くことができる。		明確な根拠を示し, 文体と内容の整合性の取れた, 論理的で文意の明快な説明を書くための知識・方法を身につけているか, 定期試験で評価する。
3	批評のための知識を習得し, それを説明できる。		批評のための知識を身につけているか, 定期試験で評価する。
4	日本語・日本文学・日本文化の特性について理解し, それを説明できる。		日本語・日本文学・日本文化の特性についての知識と理解度を, 定期試験で評価する。
5	内容・構成・文体の整合性の取れたエッセイを執筆できる。また, 芸術作品を適切な方法でわかりやすく批評できる。		各自でテーマを選んでエッセイを書くレポート, また, 各自の選んだ芸術作品・作者などについての批評を書くレポートを提出させ, 表現力・文章構成力・内容を評価する。
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は, 試験90%, レポート10%として評価する。教育目標1, 2, 3, 4に関する, 2回の定期試験の平均値を90%, 教育目標5に関するレポートを10%として評価する。100点満点で, 55点以上を合格とする。		
テキスト	「高等学校 現代文」: 山田有策編(旺文社) プリント教材		
参考書	「日本語表現のレッスン」: 長沼行太郎ら著(教育出版) 「日本文学の歴史10」: ドナルド・キーン著(中央公論社) 「シリーズ・日本語のしくみを探る(4) 日本語学のしくみ」: 町田健編・加藤重広著(研究社) 「ハリーと千尋時代の子どもたち」: 山中康裕著(朝日出版社)		
関連科目	第2, 4学年「国語」。		
履修上の注意事項			

(次ページへ続く)

授業計画1 (国語)		
週	テーマ	内容(目標、準備など)
1	日本語を書くトレーニング(1)	自己PRの方法について説明する。自己PRの実例を示し、その問題点について、グループで討論する【グループワーク】。ジャンル別漢字プリントを配布し、宿題とする。
2	日本語を書くトレーニング(2)	志望動機を書く方法について説明する。志望動機の実例を示し、その問題点について、グループで討論する【グループワーク】。
3	現代のエッセイの鑑賞(1)	エッセイの原義と本質について解説する。教科書のエッセイを熟読し、構成・内容・文体について理解する。
4	現代のエッセイの鑑賞(2)	教科書のエッセイを熟読し、構成・内容・文体について理解する。
5	様々な「文体(style)」—自分の文体を発見する	様々な種類の文体の具体例を示し、解説する。文体についての理解を深める。
6	悪文とは何か	文章が悪文になる条件を、具体例を示しつつ解説する。悪文をわかりやすい文章に書き直す。
7	速読の方法—問題提起と結論、キーワード	速読と要約の方法を、具体例を示しつつ説明する。ワープロソフトの要約機能の方法と問題点を考える【グループワーク】。
8	速読の実践—教科書のエッセイの速読と要約(1)	グループで教科書のエッセイを速読し、要約を作成する【グループワーク】。
9	速読の実践—教科書のエッセイの速読と要約(2)	第8週で速読した教科書のエッセイについて、グループワークで作成した要約、ワープロソフトの要約機能による要約、教員が作成した要約を比較し、方法と内容について考える。
10	エッセイの作成法(1)	エッセイを作成する手順を解説する。
11	エッセイの作成法(2)	評論用語とその性質について解説する。
12	批評の方法	「印象批評」「規範的批評」「記述的批評」を中心とした、批評の方法について具体例に即して解説する。
13	現代小説概説	村上龍と村上春樹の小説の比較を通して、現代小説家と現代小説の抱える問題について解説する。(村上龍「インザ・ミッドスープ」、村上春樹「ダンス・ダンス・ダンス」を取り上げる予定である)
14	文芸批評とユング心理学(1)	普遍的無意識、元型(アーキタイプ)などのユングの提示した概念と、それを小説・映画などの作品の解釈に使うことの意味と問題点について、具体例に即して解説する。
15	文芸批評とユング心理学(2)	普遍的無意識、元型(アーキタイプ)などのユングの提示した概念と、それを小説・映画などの作品の解釈に使うことの意味と問題点について、具体例に即して解説する。
16	文芸批評とユング心理学(3)	普遍的無意識、元型(アーキタイプ)などのユングの提示した概念と、それを小説・映画などの作品の解釈に使うことの意味と問題点について、具体例に即して解説する。ジャンル別漢字プリントを配布し、宿題とする。
17	詩の作成法と分析法(1)	詩の作成法と分析法を説明し、教科書の詩を鑑賞する。
18	詩の作成法と分析法(2)	詩の作成法と分析法を説明し、教科書の詩を鑑賞する。
19	詩の作成法と分析法(3)	詩の作成法と分析法を説明し、教科書の詩を鑑賞する。
20	伝承される作品の条件	昔話が伝承される理由など、具体例に即して、作品が時間の覆食に耐えて伝承されていくための条件について解説する。
21	日本語を書くトレーニング(3)	Eメールの書き方について説明する。Eメールの実例を示し、その問題点についてグループで話し合う【グループワーク】。
22	近代日本と文学(1) 恋愛の発見	夏目漱石の小説における漱石の恋愛観を通じて、西欧文学が日本近代文学に与えた影響「恋愛の発見」について解説する。
23	近代日本と文学(2) 個の発見	近代の自然主義小説、私小説を取り上げつつ、西欧文学が日本近代文学に与えた影響「個の発見」について解説する。
24	夏目漱石の考えたこと(1)	教科書所載の夏目漱石の小説「こころ」を読解、批評する。
25	夏目漱石の考えたこと(2)	教科書所載の夏目漱石の小説「こころ」を読解、批評する。
26	夏目漱石の考えたこと(3)	教科書所載の夏目漱石の小説「こころ」を読解、批評する。
27	日本語概説(1)	世界の言語の中での日本語の特徴、日本語の歴史について概説する。
28	日本語概説(2)	世界の言語の中での日本語の特徴、日本語の歴史について概説する。
29	日本文化の特徴(1)	対抗文化(カウンター・カルチャー)に現れた天才が、新しい文化を創造してきた日本文化の歴史について、概説する。
30	日本文化の特徴(2)	世界を席巻する、日本の表象文化(浮世絵、アニメーション、映画など)の歴史と評価、そして今後の可能性について考察する。
備考	中間試験は実施しない。定期試験を実施する。	

出典：平成19年度シラバス

*** 平成19年度 総合情報センター 使用予定表 ***

[2007.04.01]

前 期														
第1演習室					第2演習室					小演習室				
	月	火	水	木	金		月	火	水	木	金	火	水	金
1	M2B 情報処理 (L)	M2A 情報処理 (L)	D2 プログラミング (L)		M5D 材料力学特論 (L)	1	E2 情報処理 (L)	D5 画像処理 (L)			C1 情報基礎 (W/L)			
2	小林(洋)	朝倉	若林		早稲田	2	赤松	戸崎			牧野		M5D 機械実験	
3		E1 情報基礎 (L)		D1 情報基礎 (W/L)		3	D5 情報処理II (W)	C4 情報処理II (L)			M1A 情報基礎 (W/L)	AM1 知的材料 (L)	(L)	朝倉
4		森田		藤本		4	藤本	九鬼			早稲田	朝倉		
5	清掃	D3 プログラミング (L)		清掃	S1 情報基礎 (W/L)	5	清掃	S2 情報処理 (W/L)		清掃	M1B 情報基礎 (W/L)			
6		戸崎			亀屋	6		上中			和田	D4 実験実習 (L)		E4 実験実習 (L)
7	センター開放 (15:00~17:45)					7			電算部		C5 プロセス設計 (W)	D4 統計 (L)	若林	
8						8								世古

後 期															
第1演習室					第2演習室					小演習室					
	月	火	水	木	金		月	火	水	木	金	月	火	金	
1	C1 情報基礎 (W/L)	E5 通信工学 (W)		AEC1 数理工学I (W)	AM1 数理工学I (W)	1	S1 情報処理 (W/L)	D4 プログラミング (L)		D3 プログラミング (L)	S2 情報処理 (W/L)				
2	牧野	芝田(運)		藤本	八木	2	並河	若林		戸崎	上中		M4D 実験		
3	D1 実験実習 (W/L)	E1 情報基礎 (L)	C3 情報処理 (W)	AMS1 プログラミング (W)	D2 プログラミング (L)	3	D5 情報処理II (W)	M2B 材料工学 (W/L)		M1A 情報基礎 (W/L)	E2 情報処理 (L)		(L)	早稲田	
4	長頭	森田	平池	朝倉	若林	4	藤本	早稲田		早稲田	赤松				
5	清掃	AED1 プログラミング (L)	清掃	D1 情報基礎 (W/L)	M4C 情報工学 (W/L)	5	清掃	M5D 情報処理 (L)		清掃	M2A 材料工学 (W/L)	S4 情報処理特論 (L)	清掃		
6		戸崎		藤本	朝倉	6		宋		早稲田	中西		E2 実験実習 (L)	D4 実験実習 (L)	
7	センター開放 (15:00~17:45)					7	E1 情報処理 (L)	M5C 情報処理 (L)	電算部		M1B 情報基礎 (W/L)	AM1 数理統計 (W)	実験 (L)	(L)	若林
8						8						加藤	宋		和田

W=Windows L=Linux M=Mathematica

出典：総合情報センター資料

神戸高専教職員データベース

Database System for Education and Research in Kobe City College of Technology

Login: 福田 敬子

現在の位置: HOME → オフィスアワーズの表示

2008年度 オフィスアワーズ表示(全教員)

1. 年度を選択すると、当該年度のオフィスアワーズ一覧が表示されます。

表示年度の選択 2008 ▼ 年度 表示

ページ下へ

氏名	オフィスアワーズ	備考
森本 義則	毎週水曜日 15:00~17:30	在室時随時OK
尾崎 元泰	毎週火曜日 16:30~18:30	在室時はいつでも可
中辻 武	毎週火曜日 16:30~18:00 毎週木曜日 16:30~18:00	
吉本 隆光	毎週木曜日 15:30~17:00	昼休みまた放課後在室時は随時
小林 滋	毎週金曜日 16:40~18:10	上記以外でも時間が空いておれば対応しますので、事前または kobayash@kobe-kosen.ac.jp まで連絡願います。
赤対 秀明	毎週金曜日 16:30~18:00	在室していればいつでも可能ですが、できるだけ shakutui@kobe-kosen.ac.jp でアボを取ってから入室してください。
斉藤 茂	毎週木曜日 16:30~18:00	在室時は随時対応します。
長 保浩	毎週水曜日 16:30~18:00	在室時はいつでも対応します。
小林 洋二	毎週火曜日 16:30~18:00	事前に連絡があれば、(時間調整をしたうえで)左記以外の時間でも対応可能です。
西田 真之	毎週月曜日 16:30~18:00	
田口 秀文	毎週水曜日 15:00~16:45	事前にメール(taguchi@kobe-kosen.ac.jp)で連絡してもらえると確実です。
宮本 猛	毎週水曜日 15:30~17:00	在室時は、いつでもOKです。
石崎 繁利	毎週木曜日 16:30~18:00	在室時は随時対応します。
和田 明浩	毎週火曜日 16:30~18:00	在室時は随時対応します。
尾崎 純一	毎週木曜日 16:45~18:00	
朝倉 義裕	毎週木曜日 16:40~18:30	在室時は随時。
山本 高久	毎週火曜日 16:30~18:00	在室時は適宜対応します
早稲田 一嘉	毎週水曜日 16:40~18:40	可能な場合には随時受け付けます。(e-mail等)予約が望ましい。
熊野 智之	毎週火曜日 16:30~18:00	在室時随時
武縄 悟	毎週木曜日 16:30~18:00	

以下、全常勤教員が続く。

- ・教職員データベースに登録した全常勤教員のオフィスアワーズ一覧をA3サイズで印刷し、全てのホームルーム教室に掲示する。
- ・全常勤教員の研究室前に、各教員のオフィスアワーズの時間が掲示されている。

出典：ウェブサイト(教職員用)

観点5-2-②： 教育課程の編成の趣旨に沿って、適切なシラバスが作成され、活用されているか。

(観点に係る状況)

適切なシラバスの作成のため、各担当教員がシラバス作成後2名のチェックを受けることになっている。チェック担当者は特に留意すべき点について、チェックシートによりシラバスを点検することになっている(資料5-2-②-1)。

シラバスは1, 2, 3年と4, 5年生では若干体裁が異なっている。これは4, 5年生の科目はJABEE認定を受けた神戸高専工学系複合プログラムの一部を構成しているためである。1, 2, 3年生用シラバス, 4, 5年生用シラバスの一例をそれぞれ(資料5-2-②-2, 5-2-②-3)に示す。

シラバスには各週の授業計画が記載され、小テストなどの計画も明示されており、学生に利用されていると共に、記載された評価方法に基づき、評価シートにより成績評価を行っている(資料5-2-②-4)。

また、これらシラバスは授業開始時に科目担当教員より説明を行い、ノート等に貼付し、常に見るよう指示している。

なお、シラバスの単位表記に用いる学修単位 I, II, III は「学業成績評価および卒業の認定に関する規定」により下記の通り定められている(資料5-2-②-5)。

学修単位 I	1 単位を 30 単位時間の授業を行う。
学修単位 II	1 単位を 45 時間の学修を必要とする内容とし、15 単位時間の授業を行う。
学修単位 III	1 単位を 45 時間の学修を必要とする内容とし、30 単位時間の授業を行う。

(分析結果とその根拠理由)

シラバスは作成時に複数教員がチェックするなど適切に作成され、学生も利用し、教員もシラバスに基づき評価するなど十分に活用されている。

シラバスチェックシート

平成(20)年度シラバスチェックシート

実施年月日(年 月 日)
点検責任者() [学科・専攻]主任 ()

科目名	クラス	科目担当者	点検者A	点検者B

(留意事項)

- (1) 点検責任者は科目担当者を除く2名に点検を依頼し、要修正の場合は科目担当者に修正を依頼する。
- (2) 点検者A,Bは、チェック欄に、a,b,cを記入して(学科・専攻)主任に提出する。b,cを記入した場合は、裏面にコメントをかくこと。
- (3) 点検責任者は、修正されたことをWeb確認した後、シラバスチェック報告書(別紙)およびこのシートを教務主事に提出する。
- (4) チェック項目中の「学習教育目標」は、本校のWebページに記載されているものを指す。ただし、学習教育目標A4については、各学科・各専攻のもの)

チェック項目	チェック内容	チェック欄		
		点検者A	点検者B	点検責任者
1	ヘッダ部(科目、英語名、担当教員、学科、対象学年、クラス、通年・前期・後期、必須・選択、学習教育目標)に間違いはないか。 a 間違いない b 一部修正が必要 (間違い箇所○印)			
2	到達目標が、学習教育目標に沿った内容であるか。また、関連科目との連携に沿った内容であるか。 a 沿っている b 一部修正が必要 c 基本的な修正が必要			
3	到達目標に、「何が、どの程度できるようになるか」が具体的に設定されており、学生自身がその達成度を評価できるものになっているか。 a 設定されている b 一部修正が必要 c 基本的な修正が必要			
4	総合評価および到達目標毎の評価方法が具体的に書かれており、学生が学習し易いものになっているか。 a なっている b 一部修正が必要 c 基本的な修正が必要			
5	総合評価と到達目標毎の評価に矛盾はないか。例えば、到達目標毎の評価にレポート評価がないのに総合評価にレポート評価があってはいけない。逆もいけない。 a 矛盾はない b 一部修正が必要 c 基本的な修正が必要			
6	総合評価に、評価基準(例えば、100点満点で60点以上を合格とする)が書かれているか。 a 書かれている b 一部修正が必要 c 基本的な修正が必要			
7	総合評価に、「小テスト等が良好な場合加点する。」のような100点を超える記述は書かれていないか。 a 書かれていない b 一部修正が必要 c 基本的な修正が必要			
8	複数の手段を併用して評価している場合は、総合評価にそれぞれの重みが書かれているか。(70~85%のような幅を持たせないこと) a 書かれている b 修正が必要			
9 (4年以上)	総合評価で、試験成績が70%以上になっているか。 a なっている b 修正が必要			
10	評価方法で、学習態度に関する記述はないか。(出席点や欠席状況を加味することなども含む) a ない b 修正が必要			
11	授業計画で、テーマ、内容が必要回数(週)分書かれているか。定期試験は1回(1週)に含まない。 a 書かれている b 修正が必要			
12	授業計画の備考欄に、定期試験、中間試験を実施する(しない)が書かれているか。 a 書かれている b 一部修正が必要 c 基本的な修正が必要			
13	授業計画が学習教育目標に沿った内容であるか。また、関連科目との連携に沿った内容であるか。 a 沿っている b 一部修正が必要 c 基本的な修正が必要			
14	テキスト、参考書、関連科目が書かれているか。 a 書かれている b 一部修正が必要 c 基本的な修正が必要			

項目	点検者名	コメント

出典：教務主事室資料

1～3年用シラバス(例)

【2008年度 授業概要】

科目	物理(Physics)
担当教員	大多喜 重明 教授
対象学年等	電気工学科・2年・通年・必修・3単位(学修単位I)
学習・教育目標	A2(100%)
授業の概要と方針	物理的な事象・現象についての観察, 実験や課題研究などを通して, 物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則の理解を深め, それを活用する能力を育成する. 第二学年では, 演示実験を行いながら, 熱力, 波動, 電磁気, 原子物理の基礎を教授する.
到達目標	1 【A2】 温度と熱について理解し, 実験などで, その活用ができる.
	2 【A2】 波と光について理解し, 実験などで, その活用ができる.
	3 【A2】 電磁気について理解し, 実験などで, その活用ができる.
	4 【A2】 原子の世界について理解し, その活用ができる.
	5 【A2】 直接測定量と間接測定量の区別ができ, それぞれの誤差の見積もりができる.
	6 【A2】 図書館や情報センター等を利用して必要な情報を入手し, 課題についての説明が自分のことばを取り入れて出来る.
	7
	8
	9
	10

評価方法と基準	到達目標毎	1	学校で定めた期間に行うテストと適時行うレポートで, 授業内容の理解度を評価する. テストでは, 基礎60%, 応用40%の割合で出題し, 75%正答を標準とする. 学生実験とレポートで, その活用を評価する.
		2	学校で定めた期間に行うテストと適時行うレポートで, 授業内容の理解度を評価する. テストでは, 基礎60%, 応用40%の割合で出題し, 75%正答を標準とする. 学生実験とレポートで, その活用を評価する.
		3	学校で定めた期間に行うテストと適時行うレポートで, 授業内容の理解度を評価する. テストでは, 基礎60%, 応用40%の割合で出題し, 75%正答を標準とする. 学生実験とレポートで, その活用を評価する.
		4	学校で定めた期間に行うテストと適時行うレポートで, 授業内容の理解度を評価する. テストでは, 基礎60%, 応用40%の割合で出題し, 75%正答を標準とする. レポートで, その活用を評価する.
		5	公差(母平均の区間推定)と誤差の伝播則を理解し, 計算が出来る. レポートで評価する.
		6	レポートで評価する.
		7	
		8	
		9	
		10	
	総合評価	成績は, 試験70% レポート30% として評価する. 試験成績は, 試験の平均点とする. レポート提出では, 良いものを提出することが大事であるが, 〆切を守ることも重要である. 試験成績とレポート成績で総合評価する. 100点満点で評価し, 60点以上を合格とする.	
テキスト	「高専の物理[第5版]」和達三樹監修(森北出版) 「高専の物理問題集[第3版]」田中富士男編著(森北出版)		
参考書	「物理の基礎」長岡洋介著(東京数学社) 「理化学辞典」長倉三郎他編集(岩波書店) 「理科年表」国立天文台編集(丸善)		
関連科目	国語, 数学I, 数学II		
履修上の注意事項	テキストに従って, 予習をすること. 問題演習を行い, 学んだことを定着させることも大切である. 授業では数式をよく使う, また, 人の考えを受け取る力と自分の考えを伝える力も必要である. 「数学」や「国語」もよく勉強すること.		

(次ページへ続く)

【授業計画(物理)】	
週	上段:テーマ/下段:内容(目標、準備など)
	温度と熱
1	物体が熱い冷たいという人間の感覚を数値として表したものが温度である。温度を測る方法、温度とは何かについて考える。
	熱量
2	前回で学んだように、熱量はエネルギーの一つの形態である。熱容量と比熱に加えて、固体と液体の膨張率について教授する。
	気体の運動1理想気体の法則
3	温度や熱量が分子の運動とどのように関係があるかを考える。気体の状態を表す圧力、体積、温度は互いに独立な量ではなく、このうち2つが決まるとそれに依りて、残りの1つが決まる。このことについて、教授する。
	気体の運動2気体の分子運動
4	分子の運動を詳しく調べることによって、温度、圧力、熱量の出入りといった巨視的な量と微視的な分子運動とのがよりはっきりする。ここではもっとも取り扱いが簡単な理想気体について考える。
	内部エネルギー、熱力学の第1法則
5	摩擦があるときには、力学的エネルギーが減少する。これはエネルギーが消費するのではなく、熱エネルギーに転化する。熱エネルギーまで含まると、エネルギーは増えたり減ったりせず、保存する。このことについて教授する。
	熱力学過程、熱力学の第2法則
6	気体の加熱、冷却、圧縮、膨張による状態の変化を熱力学過程という。ガソリンエンジンや蒸気機関などの熱機関は、熱力学過程によって、熱エネルギーを仕事に変える。熱エネルギーを、すべて、仕事に変えることが出来るだろうか、このことについて考える。
	学生実験(ボルトの振り子、間接測定と誤差伝播)
7	実験値には、直接測定と間接測定がある。直接測定の処理で、交差(母平均の区間推定)を復習する。間接測定量の処理で、誤差の伝播則を教授する。
	中間試験とその解説
8	試験前に研究テーマを出す。図書館やインターネットを使って調べ、自分なりにまとめておくこと。計算問題も出題する。教科書や問題集のAとB問題を練習しておくこと。試験後の授業で、中間試験の答え合わせと解説をする。
	横波と縦波、正弦波、重ね合わせの原理
9	波には、波を伝える媒質の各点の振動方向と波の進行方向が垂直な横波とそれが平行な縦波がある。媒質の変位が位置と時刻の正弦関数で表される波を正弦波という。二つの波が重なったとき、媒質の変位はどうなるか、これらについて教授する。
	反射による波の位相の変化、定常波
10	反射による波の位相の変化、右にも左にも進まない定常波について教授する。
	反射による波の位相の変化、定常波
10	反射による波の位相の変化、右にも左にも進まない定常波について教授する。
	干渉、回折、反射、屈折
11	水面に出来る波の干渉、回折、反射と屈折について、ホイヘンスの原理とともに教授する。
	音波1伝わり、共振
12	これまでに学んだ波の性質から、うなり、共振などを考える。
	音波2ドップラー効果
13	緊急車両がサイレンを鳴らして近づくときと遠ざかるときでは、音の高さが異なる。このことについて考える。
	光波1反射、屈折、回折、干渉
14	虹はなぜ出来るか。シャボン玉に色が付くのはなぜか。光波について、反射、屈折、回折、干渉を考える。
	光波2偏光、分散、散乱
15	光は横波であるが、自然光は進行方向に垂直な面であらゆる方向に振動している。一つの方向に振動が偏った光をつくるようなことが出来るだろうか。また、夕日は赤、空はなぜ青いのか。これらについて教授する。
	光学機器(レンズ、レーザー)
16	鏡、めがね、光ファイバー、レーザーなどの光学機器について解説する。
	静電界1静電気力、電界1
17	毛皮で摩擦した紙片などを引き付けたり、ある種の鉱石が鉄を引き付けたりするのは紀元前のギリシャ時代から知られていた。電気と磁気の科学的な研究は17世紀ころから始まり、現在、多種多様な電気電子機器を生み出した。この回では、静電気力について考える。
	静電界2電界2、電位差
18	電気を帯びた物体に電気力を及ぼす性質をもつ空間を電界または電場という。電界は大きさ(強さ)と向きをもつ電界ベクトルで表される。電界、ガウスの定理、電位差について教授する。
	静電界3コンデンサー
19	一對の導体(電気をよく通す物質)を対向させて、導体に電気を蓄える装置をコンデンサーという。コンデンサーの性質について教授する。
	直流1電圧と電流、直流回路1
20	オームの法則の復習、キルヒホッフの法則の紹介(予習が出来る程度)、抵抗の性質の説明を行う。
	直流2直流回路2、半導体
21	キルヒホッフの法則と半導体について教授する。
	電流と磁界1磁界、磁力線
22	電気を帯びたもののまわりの空間には電界があることを学んだ。同様に、電気を帯びたもののまわりには磁界ができる。また、電磁石のように、電流のまわりにも磁界ができる。これらについて考える。
	中間試験とその解説
23	試験前に研究テーマを出す。図書館やインターネットを使って調べ、自分なりにまとめておくこと。計算問題も出題する。教科書や問題集のAとB問題を練習しておくこと。試験後の授業で、中間試験の答え合わせと解説をする。
	電流と磁界2ローレンツ力
24	フレミングの左手の法則(中指が電流、人差し指が磁界、親指が力)を間知っている学生も多いが、このことと磁界中を運動する荷電粒子にはたらく力(ローレンツ力)について教授する。
	電磁誘導の法則、相互誘導、自己誘導
25	ファラデーは、一定の強さの磁界のまわりには電流が発生せず、磁界が変化したときにそばにおかれたコイルに電流が流れることを見出した。この現象を電磁誘導という。このことについて教授する。
	交流回路、電磁波
26	抵抗、コイル、コンデンサーからなる簡単な回路に交流電圧を加えたときの様子について考える。自己誘導のため、コイルは抵抗と同じ働きをする。また、コンデンサーは交流を通す。そのときの抵抗値(リアクタンス)などについて教授する。
	学生実験(RLC回路)
27	RLC回路の実験を行う。実験内容の説明後、可変抵抗、コンデンサー、コイルを使って回路を作ってもらい、回路の周波数特性などをオシロスコープを用いて考察する。
	電子と光
28	光の波動性と電子の粒子性について学んだ。ここでは、どちらも波動性と粒子性をあわせ持つことを教授する。
	原子と原子核
29	光の波動性と電子の粒子性について学んだ。ここでは、どちらも波動性と粒子性をあわせ持つことを教授する。
	素粒子
30	陽子と中性子からなる原子核は陽子間の電氣的斥力よりはるかに強い核力によってまとまっていることを学んだ。ここでは、核力がどうして生じるかと共に、素粒子とそれを構成すると考えられている基本粒子(クォーク)について教授する。
	前期、後期ともに中間試験および定期試験を実施する。物理は、1コマと2コマの授業を交互に行う。3単位の科目である。内容はそのセットの内容である。

出典：ウェブサイト (2008年度シラバス)

4・5年生用シラバス(例)

【2008年度 授業概要】

科目	電気磁気学II (Electromagnetics II)	
担当教員	森田 二郎 教授	
対象学年等	電気工学科・4年・前期・必修・1単位(学修単位)	
学習・教育目標	A2(100%)	
JABEE基準(1)	(c),(d)1	
授業の概要と方針	3年生で履修した電磁気学の現象をベクトルの微分形表現で解説し、変位電流を含めたマクスウェルの方程式の解説、同方程式から電磁波の基本である波動方程式を導く数式変形などの解析的な手法を理解する。具体的な平面波の境界値問題を解答できる能力を身につけることを目的とする。後半では、インダクタンスといった物理定数の求め方を理解すること、磁気エネルギー、電磁力の考え方を理解することを目的とする。	
到達目標	1	【A2】 電磁気学全分野の法則について理解できること。
	2	【A2】 数式変形での解析的手法を身につけることによって、光、マイクロ波などの波長の異なった電磁波での類似問題にも拡大できる考えが理解できること。
	3	【A2】 インダクタンスといった物理定数の求め方を理解すること、磁気エネルギー、電磁力の考え方を理解できること。
	4	
	5	
	6	
	7	
	8	
	9	
	10	
評価方法と基準	1	ガウスの法則、磁界に関するガウスの法則、変位電流も含めたアンペアの法則、ファラデーの法則などの積分形を微分形に変形できるかどうかを中間試験の設問で確認する。基本問題の80%の正解を合格の目安とする。
	2	マクスウェルの方程式から平面波の電磁界波動方程式への式の変形の途中で、境界値問題のレポート課題を出し、この課題と中間試験の設問で理解度を確認する。基本問題の80%の正解を合格の目安とする。
	3	インダクタンスの計算には、鎖交磁束数から求める方法と磁気エネルギーから求める方法とがあるがどちらでも計算できるかどうかを定期試験の設問とレポートで評価する。基本問題の80%の正解を合格の目安とする。
	4	
	5	
	6	
	7	
	8	
	9	
	10	
総合評価	成績は、試験90% レポート10% として評価する。100点満点で60点以上を合格とする。	
テキスト	「電気磁気学」:石井良博著(コロナ社)プリント	
参考書	「電気磁気学」:安達三郎,大貫繁雄共著(森北出版) 「電磁気学」:卯本重即著(昭晃堂) 「電磁気学」:沢新之輔,小川英一,小野和雄著(朝倉書店) 「電磁気学」:多田泰芳,柴田尚志著(コロナ社)	
関連科目	電気磁気学I, 電気材料	
履修上の注意事項	3年:電磁気学の継続科目,5年:電気材料の分極問題の時に電磁気学の知識が必須。	

(次ページへ続く)

【授業計画(電気磁気学II)】

週	上段:テーマ/下段:内容(目標、準備など)
1	第3学年で習った電磁気学の現象論 第3学年で習った電磁気学の現象論の復習の講義を行う。
2	第3学年で習った電磁気学の現象論, 復習の講義 前回に引き続き, 第3学年で習った電磁気学の現象論の復習の講義を行う。
3	変位電流とアンペアの法則 変位電流の定義の説明から, 変位電流を含めたアンペアの法則の解説を行う。
4	マクスウェルの方程式 マクスウェルの方程式を積分したときに, それぞれの第3学年でならった物理現象の式と同じになることを説明し, さらにこの方程式を展開すると2回の微分方程式に帰着することを示す。
5	波動方程式の導出の講義 前回に引き続き, 2回の微分方程式は, 時間と距離の2つの要素が混じった偏微分方程式になることを示し, さらに変数分離法によって, 一般解が得られることまで解説する。
6	平面波, 直線偏波, 楕円偏波の講義 前回に引き続き, 波動方程式の解から平面波の図示し, 直線偏波, 円偏波, 楕円偏波の解説を行う。
7	平面波の境界値問題 誘電率の異なる材質に対して, 任意角度から平面波を入射したときの境界部分での扱い方を解説する。
8	中間試験 中間試験
9	中間試験解答, マクスウェルの方程式 中間試験の解答を行い, 再度マクスウェルの方程式の解説復習する。
10	ファラデーの電磁誘導の法則の復習 第3学年で習ったファラデーの電磁誘導の法則の復習講義する。
10	ファラデーの電磁誘導の法則の復習 第3学年で習ったファラデーの電磁誘導の法則の復習講義する。
11	自己インダクタンスと相互インダクタンス システムとして考えた場合の自己インダクタンスと相互インダクタンス計算方法を解説する。
12	自己誘導と自己インダクタンス ファラデーの電磁誘導の法則から自己誘導現象の解説を行い, 自己インダクタンスの計算を求めるところまで例題を混ぜながら解説する。
13	相互誘導と相互インダクタンス ファラデーの電磁誘導の法則から相互誘導現象の解説を行い, 相互インダクタンスの計算を求めるところまで例題を混ぜながら解説する。
14	磁気エネルギーと力 インダクタンスに蓄えられる磁気エネルギーを解説を行い, 仮想変位の原理から鉄片と磁石間に働く力の計算方法を解説する。
15	インダクタンスの計算問題 色んな形状のインダクタンスに対して, 計算方法の基本的なテクニックを解説する。
備考	前期中間試験および前期定期試験を実施する。

出典：ウェブサイト（2008年度シラバス）

評価内訳表

評 価 内 訳 表

学科・専攻：本科M・E・D・C・S 専攻科AM・AED・AC・AS

(西暦) 2008 年度

学年： 年

組：

科目名：()

担当教員：()印 非常勤担当者()

出席番号	氏名	学業成績 (100%) T 点	試 験 成 績 ()%				小テスト (100点満点) A	レポート ()% B 点満点	()% C 点満点	()% D 点満点	()% E 点満点	備考
			前期		後期							
			中間	定期	中間	定期						
1												
2												
3												
4												
5												
6												
7												
8												
9												
10												
11												
12												
13												
14												
15												
16												
17												
18												
19												
20												
21												
22												
23												
24												
25												
26												
27												
28												
29												
30												
31												
32												
33												
34												
35												
36												
37												
38												
39												
40												
41												
42												
43												
44												
45												

※学業成績を算出した計算式を以下に記載すること。また、算術平均でない場合はAの算出方法を記載すること。
 ※その他必要に応じて、別紙により評価方法等について明記し添付すること。

$$T=A \times () / 100 + B \times () / 100 + C \times () / 100$$

学修単位 I, II, III の規定

1. 学業成績評価及び進級並びに卒業の認定に関する規程

〔制定 昭和41年4月1日〕
〔改正 平成19年4月1日〕

第1章 総 則

第1条 この規程は神戸市立工業高等専門学校における試験・学業成績の評価・進級及び卒業の認定について定める。

第2章 単 位 数

第2条 単位数は、次のとおりとする。

- (1) 学修単位 I 1単位は30単位時間の授業を行う。
- (2) 学修単位 II 1単位を45時間の学修を必要とする内容とし、15単位時間の授業を行う。
- (3) 学修単位 III 1単位を45時間の学修を必要とする内容とし、30単位時間の授業を行う。

なお、50分の授業は1単位時間、90分の授業は2単位時間として扱う。

1～3学年の授業科目の単位数は学修単位 I を適用。4～5学年の授業科目の単位数は学修単位 I、学修単位 II 及び学修単位 III で構成する。

第3章 試 験

第3条 試験は、定期試験、中間試験及び必要に応じて随時、臨時試験を行うものとする。

2 定期試験及び中間試験は、期日を定めて実施するものとし、試験の開始10日前までに、試験科目及び時間表を学生に発表する。

第4条 定期試験及び中間試験を病気・忌引などその他やむを得ない理由で受験できなかった学生に対しては追試験を行うことができる。

2 追試験の成績は、その試験成績の80%で評価する。

第5条 故意に試験を忌避したと認められた者は、当該試験の成績を0点とする。

観点5-2-③： 創造性を育む教育方法（PBL など）の工夫やインターンシップの活用が行われているか。

（観点に係る状況）

平成19年3月に本校のカリキュラムで、創造性教育に関する科目の調査を実施した（資料5-2-③-1）。各学科とも少なくとも1科目以上の科目を有している。

また、インターンシップにより認定する科目として、「学外実習」（4年生選択科目1単位）も設けており、報告会も実施している（前述の資料5-1-②-3）。

さらに、機械工学科では、早期のPBLが重要との認識から、2年生後期の機械工学概論で、エンジニアリングデザイン教育の1つを実施している（資料5-2-③-2）。

（分析結果とその根拠理由）

各学科とも1科目以上のPBLを含んだ科目を有している。とくに機械工学科では、ユニークな3年の創造設計製作（平成3年から実施）（資料5-2-③-3）や早期教育としての機械工学概論（2年）において、重点的にPBL教育を実施している。

インターンシップについては、期間が1週間程度では時間数も不十分である。 Semester制の導入などと合わせ、実施時期の見直し、時間数の拡充など改善が期待される。学生の受講意欲を高めるためにも受け入れ先の充実も求められる。

各科におけるエンジニアリング教育, PBL に値する教科の一覧

【機械工学科】

1. 創造設計製作（3年両コース、1単位）

創造設計製作では、グループごとに与えられたテーマに従って作品を製作する。その際に、これまでに学んだ知識や技術を用いて、工程計画、強度計算、運動機構のシミュレーション、設計図面の作成を実践し、これらの作業を通して、創造性、計画性を養う。また、製作した作品について発表会を行うことにより、プレゼンテーション能力を養う。

2. 設計製図（4年、4単位または3単位）

設計システムコース4学年の設計製図（4単位）では、手巻きウインチ、歯車ポンプを対象として、学生各人が設計仕様に基づき、設計計算書、基本計画図、製作図の順に作成する。これらの作業を通して、機械工学に関連する知識を駆使し、具体的な製品製作図にまとめる能力を養う。あわせて、CADで図を描くことによりCADの取り扱いを学ぶ。

制御システムコース4学年の設計製図（3単位）では、グループ毎に与えられた課題に対して学生個々に搬送用ロボットの概念設計、詳細設計ならびに製図を行う。まず、ロボットの運動や駆動方式を考案し、つぎにそれを実現するための機構部とアクチュエータ（サーボモータや空気圧シリンダなど）を統合させ、最後にシステムを具体化させるために製図を行う。これらの作業を通してPDCAの理念を理解し、機械システム設計の能力を養成する。あわせてCADを用いた製図作業を行い、CADの取り扱いを学ぶ。

3. 設計製図（5年両コース、3単位または2単位）

5学年における設計製図では、研削盤心押台、鋳鉄製歯車減速機ケーシングを対象として、企業で製作に用いる図面に近い内容の図面を作図する。さらに機械設計の内容を発展させた歯車減速装置の精密な設計・製図を行うことにより、設計と製図に対する基本姿勢を養うとともに、機械設計についての理解力、洞察力を身につける。

【電気工学科】

1. 電気工学実験実習（2年、3単位）

実習テーマとして、安定化電源の作製を取り上げている。決められた基本回路図をもとに、各自でその配線図を設計し、それを実現するためのプリント基板のエッチングから半田づけまで行い、安定化電源を製作する。設計段階において、如何にコンパクトな配置図を考案できるか、電圧降下などの影響に配慮しながら、如何に配線距離やエッチング面積を最小にできるかを考えながら実現させていく。

(次ページへ続く)

【電子工学科】**1. ソフトウェア工学（4年、2単位）**

この科目では、3年までに習得したプログラミングの基礎の上に、“自分の実現したいことを他人に分かるように表現すること”（設計仕様書の作成）と、“仕様書からプログラムを実際の実現できること”（プログラミング）を学習する。

演習課題として、詳細まで規定しない大雑把なテーマ（例：成績処理）を与え、学生各自が詳細部分（入力方法、内部のデータ構造、出力帳票など）を決めて設計仕様書にまとめる。それを元にプログラムを完成させる。

また、後期は5人程度のグループで一つのシステムを共同開発する演習に取り組む。最後にプレゼンテーションを行い、学生相互で評価する。

2. 電子工学実験実習（4年、4単位）4テーマの内2テーマが該当**（1）アナログ回路の実験**

電子工学実験実習4年のアナログ回路の実験は、6回の授業で構成される。第1回～第4回の実験では、電源回路、増幅器、発振回路、フィルタ回路について実験実習を行い、アナログ回路の基礎動作について学習する。第5回目の授業は、各班毎（2～3名で構成）に、例えば「超音波を遮断したらLEDが点灯する回路を作成し、その動作解析をせよ」のように実験テーマのみを与え、主に第1回から第4回で使用した電子部品を使って電子回路を学生に設計・製作させている。また、その回路動作を解析するための実験項目も各学生に考えさせている。第6回目の実験では、第5回目に学生が作製した電子回路について、プレゼンテーションを行わせ、その回路がどのように動作したか、また、動作原理はどうなっているか、その回路の応用は何か等について説明させている。

（2）ネットワーク環境の構築

電子工学科実験実習4年のネットワーク環境構築の実験は合計6回の実験で構成される。本実験の最終テーマは小規模LANの構築となっており、第1回目～第5回目まではLANに用いられる各種サーバ（DHCPサーバ、DNSサーバ、ファイルサーバ、Mailサーバ、FTPサーバ、WWWサーバなど）に関する構築方法や設定方法について学ぶ。また、パケットフィルタリングに代表されるようなセキュリティ手法についても実際に実習を行っている。実験は2～3人を1組とした班で分け、それぞれでサーバを立ち上げ、最後に班全員でサーバの動作の確認を行っている。

第6回目の授業では、実際に使用するLANの目的や構成を学生達に考えさせ、各班毎に小規模LANを作成させて、その動作の確認を行っている。また、レポートで、そのLANが

（次ページへ続く）

どのような目的で使用され、どのような構成で構築されているのかという簡単な仕様書を書かせている。

3. 電子工学実験実習 (5年、4単位) 4テーマの内1テーマが該当

(1) VHDLによるデジタル回路の設計

本実験では現代のエレクトロニクスエンジニア必須の技術となっているFPGAとHDL(回路記述言語)を用いたデジタル回路設計を行う。最初の2.5週を開発環境の使い方とHDLの基本の習得にあてている。その後の2.5週は自由課題の時間とし、各自がオリジナルな電子回路の立案と設計を行う。

実験で使用しているボードはそれほど多様なインターフェースを有しているわけではないが、迷路ゲーム、電光掲示板、ストップウォッチ、スロットマシンなど教員側が想定した以上の回路(作品)を完成させる学生も多い。最終週には自分が作り上げた回路に関するプレゼンテーションを行う。



(次ページへ続く)

【応用化学科】

1. プロセス設計（5年、2単位）

反応・分離・精製などの装置（ユニット）を物質および熱の流れ（ストリーム）で結合した化学プロセスにおいて、ユニットのモデル化とそれらの結合法（プロセス合成）を学ぶ。これらモデルを用いたシミュレーションや最適化に加え、利益・リスクを設計段階で予測（経済評価）し生産設備の建設可否の判定法を学ぶ。次に、建設された設備の運転管理（制御、安全・環境対策など）法を習得する。

【都市工学科】

1. 都市工学実験実習（4年生、2単位）

3年次までに学習した構造力学、水理学、土質力学など学専門基礎科目の一層の理解を深め、各分野の実験を通じて、工学的な感覚を磨くことを目的とする。また、各専門分野のシミュレーションや実験装置で理論の理解と実際問題への応用・展開能力を養う。創造教育においては、橋の構造および材料の特徴を理解し、模型の製作と載荷実験を通じて創造力を養い力学の理解を深める。

2. デザイン工学（5年、1単位）

土木と共に環境を形成する方法である建築と関連する部分での空間デザインを、住まいを中心に様々な角度から検討を行うことによって創造性を養う。また、基本的な課題を体験することにより、総合的な環境プランナーとして必要となる企画力を養い、空間デザインへの興味とその基礎的素養を身につける。

出典：教育プログラム委員会資料

機械工学概論での取り組み

－アイデア発表会「付加価値の創造」－

Improvement of Introduction to Mechanical Engineering
- The Idea Presentation : "Creation of Added Values" -

○赤対 秀明^{*1}

中辻 武^{*1}

小林 滋^{*1}

和田 明浩^{*1}

Hideaki SHAKUTSUI Takeshi NAKATSUJI Shigeru KOBAYASHI Akihiro WADA

キーワード：機械工学概論，付加価値，アイデア発表会

Keywords: Introduction to Mechanical Engineering, Added Values, Idea Presentation

1. はじめに

高専・大学の各専門学科において導入教育が行われているが、本校においても平成16年度から「機械工学概論」を機械工学科2年生後期において開講している。その内容については既報¹⁾において報告した。

本科目は、当初の3年間、学生の授業評価が低く、その原因を分析し対応したが、改善は認められなかった。しかし、平成19年度に新たに取り込んだアイデア発表会の効果が著しく、4年目にして初めて授業評価がクラス平均値に近づき、改善することができた。

本報では、このアイデア発表会の内容と効果について報告する。なお、このアイデア発表会は、JABEEで指摘するところのエンジニアリングデザインのひとつの形である。

2. アイデア発表会

2.1 着想に到った経緯

機械工学概論は、既報¹⁾で紹介したように、技術史、材料分野、エネルギー分野、制御情報分野について、数回ずつ各分野の専門教員がオムニバス形式で授業を行うとともに、地元企業のOBや5年生を外部講師として授業を行ってきた。外部講師の評価は高かったが、4人の教員がわずか3コマの中で行うオムニバス形式の授業は、評価が低かった。これは、時間数が少ないので“あせり”から積み込み型、つまり教員→学生への一方通行の授業となっていたためと考えた。

これを改善するには、学生参加型授業²⁾に改善する必要がある。議論の結果、何かを調べさせ発表させることにした。そのテーマは、現存する様々な製品に、付加価値をつけさせる内容にした。これを「付加価値の創造」と呼んだ。

^{*1}神戸市立工業高等専門学校機械工学科

2.2 発表会までの準備

15回の授業のうち、2回をその発表会にあてた。発表会の内容説明を第1回目の授業で行い、十分な準備期間をとり、中間試験明けの第8回と第9回に発表会を行なった。課題説明から約2ヶ月後の中間試験前に、付加価値を付与した製品の概要をA4用紙1枚にまとめさせ、また発表用のOHP原紙(3枚以内)を提出させた。

第1回目のガイダンスにおいて、課題を発見し解決する方法として、NHKのドキュメント番組「プロジェクトX」で放送された開発物語を2件紹介し、「潜在的に課題を頭においておく」ことを薦めた。また、開発ツールとして、遅速、逆転、破壊、転用、五感があることを伝えた。

2.3 発表会

本校の機械工学科は今時めずらしく2クラス¹⁾である。4人の教員が二人ずつにわかれ、それぞれのクラスの座長・コメンテーターを務めた。発表時間3分、質疑1分に設定し、初日にクラスの前半の20人が発表し、二日目に後半の20人が発表した。通常、このような形式にすると、発表者以外の学生は居眠りをしたりして人の話を聞くことに専念できない場合が多い。その対策として、聴講している学生には全員審査員の役目を与え、審査票に下記の項目について5段階で点数をつけさせた。

アイデアに関して：①アイデアとしておもしろい(実用性)、②開発できる可能性が高い(実現性)、③企業が商品として売り出す可能性が高い(商品性)
発表に関して：④OHPの文字は大きく太いので見やすい、⑤OHPには図が含まれていて分かりやすい、⑥OHPの枚数は3枚である、⑦発表時間は3分であった、⑧大きな声ではきはきとしゃべっていたので、聞き取りやすい、⑨目線、姿勢がよく、説明もうまかった、⑩質疑応答はうまかった。

<論文>

創造設計製作における学生の意欲

中辻 武, 斉藤 茂, 松村信夫, 羽達彰治, 田上輝也, 藤谷雅彦
神戸市立高専 〒651-21 神戸市西区学園東町8丁目3番地

5年間一貫教育における内的要因として、常々、話題になっていた3学年での中だるみの解決策、あるいは、技術革新に伴い拡大する教科内容と機会系学科の再編問題等の外的要因など、高専を取り巻く環境は目まぐるしく変遷してきています。しかし、その中であって、高専として必要な授業内容を如何に教授するか（これは学生のやる気の問題と表裏一体の関係にあるが）は、高専が現在、未来と永遠に問い続け対処していかなければならない最重要課題であると認識しています。本科では、3学年の中だるみも考慮に入れ、創造設計製作を3学年で実施し、その成果や意義について検討し、学生の勉学意欲を高める一つの方法として、これは有効であるとの確信を得ることができるようになったので、本報ではそれらについて詳細に報告したい。

1. はじめに

機械工学科が3学年からのコース制（設計システムコースとシステム制御コースの2コース）実施に向け、その目玉の一つとして3学年の機械実習の後期2時間を1単位の創造設計製作として独立させて以来、早4年を経過した。その間、設計システムコースの創造設計製作担当者は、常々、設計の概念や図面の必要性から、設計製図の授業との融合を要望してきたが、それがつい4年目の平成7年度に実現した。その結果、連続4時間枠の中で考案設計→製図→加工→組立の一連の物作りの過程を教官2名（1名は設計製図担当、1名は工作加工担当）と技術員4名のスタッフで指導できるようになり、完成度の高い製作品が生まれるとともに、学生の創造性と思考力が以前に比べかなり高まったように思われる。本報では、これら一連の作業過程の中で培われ示された学生の意欲に主眼を置きながら、創造設計製作の授業の意義についての私見をまとめたので、それらについて報告する。

2. 設計製図との融合

冒頭にも述べたが、設計製図との融合を計れたことが、平成7年度、完成度の高い製作品が生まれることにつながったと思われる。それ以前は、学生との話し合いも十分ではなく、はめあい部の精度落ち、溶接によるケースの変形、過度の精度向上、不十分な図面による製作ミス等が重なって、8～9テーマ中まともに動くのは、1テーマ程度だった。それが、平成7年度は9テーマ中1テーマの未完成を残すレベルにまで引き上げられた。これは、設計製図との融合の結果、考案の時点で適切なアドバイスができるようになったこと、設計の時点で力学的計算ができるようになったこと、製図に十分な時間がとれ不適切な箇所の指導を行うことが可能になったことおよび加工・組立時に学生と十分相談できる時間がとれるようになったことによると思われる。極論すれば、作業時間が倍になったことによるのかもしれないが、適切なアドバイスが、学生のやる気と情熱を創出し、我々が当初思っていたレベルをはるかに

観点5-3-①： 成績評価・単位認定規定や進級・卒業認定規定が組織として策定され、学生に周知されているか。また、これらの規定に従って、成績評価、単位認定、進級認定、卒業認定が適切に実施されているか。

(観点に係る状況)

「学業成績評価及び進級ならびに卒業の認定に関する規定」は教務委員会などの審議を経て、改正されている(資料5-3-①-1)。従来より、本校では各教員は学生の成績を0点から100点で評価しているが、平成18年度の「学業成績評価及び進級ならびに卒業の認定に関する規定」の改定に伴い、評価の基準が変更された。0点から59点の成績は「不可」とし、単位を認定しない。60点から69点を「可」、70点から79点を「良」、80点から100点を「優」と区分している(資料5-3-①-2)。

学生便覧に「学業成績評価及び進級ならびに卒業の認定に関する規定」が掲載され、学生に配布されている(資料5-3-①-3)。

成績評価については、前期中間、前期定期、後期中間試験で、シラバスに明記のとおり、学生に答案用紙を返却し、訂正する時間を設けている。その際、点数の間違い等、学生からの意見申し立ての機会を設定している。後期定期試験では、時間的に返却の機会はないが、担任等を通じて、総合成績等に問題があれば対処している。平成20年度からは、この状況を改めるべく、年間行事予定表に後期定期試験の返却日を明記(資料5-3-①-4)した。

進級、卒業の認定については、「学業成績評価及び進級ならびに卒業の認定に関する規定」に基づき、例年、2、3月に卒業認定会議、進級認定会議が開かれ、単位認定、卒業認定、進級認定の審議が行われている(資料5-3-①-3)。卒業認定、進級認定は、卒業認定会議、進級認定会議の審議を経て、校長が決定している。

(分析結果とその根拠理由)

成績評価・単位認定規定や進級・卒業認定規定が組織として策定され、学生便覧により、学生に周知されている。また、これらの規定に従って、成績評価、単位認定、進級認定、卒業認定が計画的に実施されている。

「学業成績評価及び進級ならびに卒業の認定に関する規定」の改正経過

10月度教務委員会議事録

日時：平成17年10月5日 15:30～16:30

場所：第1会議室

出席者：

中辻教務主事、戸崎(司会)、福田(書記)、吉村、渡邊、上垣、
今村、和田、津吉、笠井、九鬼、嵯峨、西岡、高橋、
朝倉、加藤、北村知、泉岡(事務室)

1. 主事挨拶

教務委員会で検討頂かねばならない事項が多いのでご協力下さい。

- ・ PDCAシステムは、k-proの小委員会で検討中、11月あたりで報告の予定。
- ・ 平成17年9月9日付けで『高等専門学校の一部を改正する省令の施行について(通知)』が出された。【教務委員に別紙6枚を配布】すでに立ち上げている「カリキュラム検討委員会」を通じ、新しい単位計算方法を考慮した新カリキュラムを早いうちに作っていきたい。(4・5年生の変更が中心)

2. 60点合格の件について

(以下が教務主事室案です。詳しい内容は教務委員にメールする)
→送信済み

<H18年度の1年生と4年生に適用される60点合格に伴う変更点>
教務主事室で低学年・高学年とも検討したが、
合格点を55点から60点とするだけで、他は現行を基本とする。
履修辞退の内容も現行通りとする。

- ・ 累積不認定科目数は第3学年までは3科目以内、第4学年以上は5科目以内とし、変更はしない。
- ・ 学年成績の平均点が60点以上であること。に変更。
- ・ 再評価合格に関しては、認められた者の未修得科目の再評価の成績は、不合格年度時の合格点とする。に変更。

(注)新しい単位計算方法との関連で総合的に考えてはどうかとの意見もあったが、新カリキュラムの全体像がすぐに決まる状況にはない。
来年度から実施が決まっている1・4年生の60点合格の詳細は早く決め、
学生便覧にのせねばならないので、次回の教務委員会で各科の意見をお聞かせ下さい。

3. 前期定期試験について

- ・ カンニング1件。
- ・ 従来通りの見回りに加え、何か伝言がある場合は付箋紙をドアに貼付することを検討している。

[意見]2年生のテストで、ノートのコピーも含め全て持ち込み「可」のテストがあった。テストといえるのだろうか。

[主事]担当教官の話も聞いて考えます。

4. 前期終了科目(必修のみ)の再評価手続き

申請書提出✓切 10月26日(水)

常勤科目:学生→教科担当、非常勤科目:学生→事務室学生係

申請者一覧表提出✓切 11月11日(金)、担任→教務主事室

申請状況と許可については、11月度の教官会議で報告予定

(次ページへ続く)

[質問]「30点未満の前期終了科目の再評価はできない」の確認

[主事] 3月の認定会議でもお願いしたように、前期段階であきらめねばならないような評価はつけないで欲しい。30点未満は再評価はできない。

[質問]累積不認定科目数を入れると、前期終了段階で欠点科目数が5科目をこえる場合には再評価対象となるのか？

[主事]学年制であり、学生にチャンスを与えるという主旨でこの制度があるので、累積不認定科目数は計算にいれず、今年度前期終了科目(必修のみ)で考えて欲しい。

※ 学生便覧との整合性の観点については、教官会議で報告したい。

5. 選択科目の追加履修申請

申請書提出〆切 10月19日(水)、学生→事務室学生係

6. 前期終了時点での退学・休学・留学・転出者数(10/3現在)

- ・本科 除籍：なし
- 退学：E4(2名) C4(2名)
- 休学：なし
- 留学：なし
- 転出：なし
- ・専攻科 退学：AS1(1名)
- 休学：AC2(1名)

7. 高専祭の出欠

10月28日(金)	高専祭準備(午後)	(3hr)	(1~4限は授業)
10月29日(土)	高専祭	(6hr)	出席記入は11月1日
10月30日(日)	高専祭	(6hr)	出席記入は11月2日
10月31日(月)	後片づけ(全校清掃)	(6hr)	
11月1日(火)	代休		
11月2日(水)	代休		

8. 後期時間割

試行期間 10月3日(月)~10月6日(木)
 ただし金曜授業に関しては10月14日(金)まで。
 学生にとって良い変更点であれば、10月14日(金)までに教務委員を通して教務主事室に連絡。ただし金曜授業に関しては10月19日(水)までに連絡してください。

9. 教科主担当者(成績責任者)の報告について [別紙2枚]

主担当者が前期と後期で異なる場合、及び後期開講科目を別紙に記入し提出。後期の時間割を参考にして下さい。
 提出〆切10月21日(金)教務主事室まで。
 (変更がない場合も提出して下さい)

- ・11月度の教務委員会は、10月26日(水)です。

出典：ウェブサイト(教職員用) 教務委員会議事録

「学業成績評価及び進級ならびに卒業の認定に関する規定」の改正

第10条 学業成績は100点法により評価し、60点以上の科目は単位の「修得」を認定する。評価が60点未満は「未修得」となる。

- 2 卒業研究の評価は、優、良、可及び不可の区別で行う。
- 3 学外実習を修得した場合の評価は、認定となる。
- 4 学業成績の優、良、可及び不可の評語の区分は次の通りとする。

学 業 成 績	評 語
80点～100点	優
70点～79点	良
60点～69点	可
0点～59点	不 可

第5章 進級及び卒業の認定

第11条 進級・卒業認定会議は、次の者をもって構成する。

- (1) 校 長
- (2) 教務主事，学生主事，教務副主事
- (3) 学科主任
- (4) 審議する学年の学級担任及び科目担当教員

第12条 進級及び卒業の認定は、進級・卒業認定会議の審議を経て校長がこれを決定する。

- 2 次に定める(1)のすべて又は(2)に該当する者は、進級認定会議の審議を経て、進級を認められる。
 - (1) ア 当該学年で修得すべき科目に不履修科目がないこと。
 - イ 学業成績の平均点が60点以上であること。
 - ウ 累計不足科目が第3学年までは3科目以内、第4学年は5科目以内であること。（累計不足科目とは当該学年までに修得すべき科目数と修得科目数との差である。）
 - エ 未修得科目に30点未満の科目がないこと。
 - オ 卒業研究で、他の科目の30点未満に相当する評価がないこと。
 - カ 特別活動（学校行事を含む）の履修状況が良好であること。
 - (2) 進級認定会議において適当と認められた者。
- 3 次に定める(1)と(2)のすべての項目に該当する者は、卒業認定会議を経て、卒業を認められる。
 - (1) 必修科目をすべて修得していること。
 - (2) 総修得単位数が167単位以上で、一般科目の修得単位数が81単位（ただし英会話を除く）専門科目の修得単位数が86単位以上であること。

（次ページへ続く）

第13条 進級が認められた者のうち未修得科目を有する者は、次年度本人の申請により、所定の手続きを経て「再評価」を受けることができる。なお、前期で修了する必修科目については、その年度内に再評価を受けることができる。

- 2 第5学年で未修得科目を有する者のうち、第12条第2項の第4学年の規定に該当する者は、年度内の指定する日までに再評価を受けることができる。
- 3 再評価は、原則として「不可」の評価をした科目担当教員もしくは同一科目の後任担当教員が、試験やレポートによって行う。
- 4 再評価の結果は学期末の定期試験の成績提出時に提出する。再評価の結果、修得が認定される科目の評価は60点とする。

第14条 進級又は卒業を認定されない者は原級に留置する。

- 2 原級留置者は、当該学年の全科目を再履修・修得しなければならない。ただし、第4学年と第5学年の原級留置者は、前年度の評価が70点以上の科目、優の評価の卒業研究及び認定の評価の学外実習については、年度当初の本人の申請により再履修・修得が免除される。

第15条 休学による場合のほか、連続して2回原級にとどまることはできない。

第16条 休学した場合は、原則としてその年度の進級を認めない。

附 則

この規程は、昭和41年4月1日から施行する。

(略)

附 則

- 1 この規程は、平成18年4月1日から施行する。
(経過措置)
- 2 第13条第4項に規定する再評価の結果は、この規程の改正前に未修得科目を有し、改正後再評価を受け、取得を認定された場合には、なお従前のおりとする。

附 則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

出典：平成20年度学生便覧(p46-48)

「学業成績評価及び進級ならびに卒業の認定に関する規定」変更を学生便覧で学生に周知

1. 学業成績評価及び進級並びに卒業の認定に関する規程

〔制定 昭和41年4月1日〕
〔改正 平成19年4月1日〕

第1章 総 則

第1条 この規程は神戸市立工業高等専門学校における試験・学業成績の評価・進級及び卒業の認定について定める。

第2章 単 位 数

第2条 単位数は、次のとおりとする。

- (1) 学修単位Ⅰ 1単位は30単位時間の授業を行う。
- (2) 学修単位Ⅱ 1単位を45時間の学修を必要とする内容とし、15単位時間の授業を行う。
- (3) 学修単位Ⅲ 1単位を45時間の学修を必要とする内容とし、30単位時間の授業を行う。

なお、50分の授業は1単位時間、90分の授業は2単位時間として扱う。

1～3学年の授業科目の単位数は学修単位Ⅰを適用。4～5学年の授業科目の単位数は学修単位Ⅰ、学修単位Ⅱ及び学修単位Ⅲで構成する。

第3章 試 験

第3条 試験は、定期試験、中間試験及び必要に応じて随時、臨時試験を行うものとする。

2 定期試験及び中間試験は、期日を定めて実施するものとし、試験の開始10日前までに、試験科目及び時間表を学生に発表する。

第4条 定期試験及び中間試験を病気・忌引などその他やむを得ない理由で受験できなかった学生に対しては追試験を行うことができる。

2 追試験の成績は、その試験成績の80%で評価する。

第5条 故意に試験を忌避したと認められた者は、当該試験の成績を0点とする。

(次ページへ続く)

- 2 試験中、不正行為を行った者は、当該試験期間中の全科目の試験成績を0点とする。

第4章 学業成績の評価

第6条 年間欠課時数が年間授業総時間の1/3を超えない科目を「履修科目」とし、「評価」を行う。1/3を超える科目は「不履修科目」とし、評価は行わない。

第7条 学業成績の評価は、各授業科目ごとに、試験の成績及び平素の成績を総合して行う。

- 2 試験成績は、定期試験、中間試験により評価するものとする。
- 3 平素の成績は、学習態度が良好なことを前提としてレポート及び演習等を総合して評価するものとする。
- 4 学年成績の評価は、各学期末の学業成績を総合して行う。ただし、前期のみ又は後期のみで修了する科目については、学期末の学業成績を学年成績とする。

第8条 科目担当教員は、必要に応じてレポート及び演習等の成績を試験成績に代えることができる。

第9条 科目担当教員が二人以上のときの学業成績は、当該担当教員が協議してその評価を行う。

出典：平成20年度学生便覧(p45-46)

- ・ 過渡期の年度は、担任から説明し、ホームルーム教室に変更箇所を掲示した。
- ・ 平成20年度より全学年同一の成績評価となった。

観点5-4-①： 教育課程の編成において、特別活動の実施など人間の素養の涵養がなされるよう配慮されているか。

(観点に係る状況)

ホームルーム以外の特別活動である学年行事、学科行事、高専祭、定期試験などの行事については、学校行事という名称で出席を管理している。「学業成績評価及び進級ならびに卒業の認定に関する規程」に規定するとおり（前述の資料5-3-①-2）、ホームルーム及び学校行事を含めた特別活動の履修状況が良好であることを進級のための条件としている。

基本的には、ホームルームを1年から3年の月曜5時限に実施することで、4年次へ進級した時点で高等専門学校設置基準第17条第5項に定められた特別活動の実施時間数が十分に確保できている。本校ではホームルーム以外には授業期間内に下記のような学校行事を通じて生活指導、社会教育を実践している（資料5-4-①-1）。

1年生の5月に実施する新入生向けの導入教育をかねた野外活動

各学年の5月に実施する学年行事

各学年の10月に実施する学年学科行事

10月下旬もしくは11月上旬に実施する高専祭。

4年生の1月に実施するスキー旅行

* スキー旅行に関しては、平成20年度より、国際性を高めることや異文化理解を深める意味から、一部、海外企業訪問等も検討している。

(分析結果とその根拠理由)

ホームルームや学校行事など特別活動の出席状況を進級要件に含むなど、教育課程の編成において、人間の素養の涵養がなされるよう配慮している。

観点5-4-②： 教育の目的に照らして、生活指導面や課外活動等において、人間の素養の涵養が図られるよう配慮されているか。

(観点に係る状況)

学生生活や課外活動に対しては、学生主事室(学生主事、学生副主事5名)が中心となり、全ての教員が分担して指導・助言などの支援業務に従事している。学生主事室では各業務に応じた担当者を決め、教員への学生支援、指導のための計画、要請を行っている(資料5-4-②-1)。

[クラブ、課外活動]

本校には体育系19クラブ、文化系12クラブがあり、それぞれのクラブには2~4人の顧問が配置されている(資料5-4-②-2)。クラブ活動は、放課後に加えて、休日にも行われている。主に休日を利用して、他校(地域の高校・大学)との練習試合や地域で行われる大会、高専大会に参加している。高専における体育系クラブの公式の大会として、近畿地区体育大会と全国体育大会があり、本校からは毎年多くのクラブが近畿の代表となり、全国大会に出場している。特に近年ではバレー部、ラグビー部、水泳部などが全国大会で優秀な成績を収めている(資料5-4-②-3)。その他、プログラミング、ロボットなどのコンテストが近畿地区及び全国のレベルで行われ、本校は優秀な成績を収めている。

[学生会活動とクラス委員]

学生会は、中央執行委員会を中心として、学生によって運営されている(資料5-4-②-4)。学生会内の主な協議事項は委員長、副委員長で組織する評議会、クラブ代表者で組織する課外活動協議会で決定されている。その他、学生会には保健体育委員会、図書委員会、高専祭実行委員会などが置かれ、学生主導の行事として高専祭などが行われている。

全クラスに委員長、副委員長、会計委員2名、保健体育委員2名、高専祭委員2名、全校行事委員2名、美化(KEMS)委員2名を選任している(資料5-4-②-5)。委員長、副委員長は、学級担任と連携してクラスの円滑な運営に貢献している。具体的な仕事は、学生会や担任からの連絡事項の取り次ぎ、各種学校行事に関する調整や委員・役員の選出などである。委員長含め、その他のクラスの各種委員を務めることにより、企画・調整・実施に係わる能力が養成されている。

高専祭は10月下旬もしくは11月上旬の土日の2日間を利用して開催される。高専祭は学生より選出された高専祭実行委員会によって、企画・運営がなされている。半年前から計画と準備がなされ、プログラムの編集・刊行と会場の設営を経て、当日の催しを実施される。高専祭では、文化系クラブの発表展示、模擬店、ライブ、各科展示、クラス展示等が催されている。学生は、高専祭を通して、将来、社会で仕事を遂行する上で必要な企画・調整・管理等に関する基礎的な能力を養成している。

(分析結果とその根拠理由)

本校では、独立行政法人化された各国立高専と異なり、クラブ指導など時間外での教員の支援に特に制約が無いため、教員は非常に多くの時間をかけてクラブやロボットなどの各種大会への協力を行なうことが可能である。その結果、多数の体育系クラブが近畿高専体育大会で優秀な成績を収め、全国高専体育大会に出場していることから分かるように、クラブ活動などの課外活動は大変活発な状況である。このような環境から教育の目的に照らして、生活指導面や課外活動等において、人間の素養の涵養が図られるよう配慮されている事は明白である。

学生主事室の分掌と中央執行委員会役員名簿

V. 学生主事室の分掌

	主担当者	副担当者
学生委員会、表彰、記録	西	尾崎純
健康安全(全校清掃、ゴミ処理含む)	上 中	西
会議、式典、集会(司会など)	道 平	小森田
クラブ・同好会顧問会議等	小森田	道 平
学生会、高専祭	西	道 平
野外活動、学年・学科行事	小森田	道 平
渉外(消防、警察、保健所、自転車)	上 中	小森田
垂舞地区連絡会	上 中	-----
人権教育	道 平	-----
巡回指導	尾崎純	-----
評価委員	道 平	-----
LAN担当	尾崎純	-----
学習支援、各種配布物	尾崎純	西
教官会議	全 員	

VI. 学生会中央執行委員会

【中央執行委員会役員名簿】

分 担	氏 名
会 長	C 4 的井 麻美
副会長	D 3 東 圭太
書記局	M 3 D 沖 美里
会計局	D 3 東 圭太
渉外局	C 4 的井 麻美
事業局	M 3 D 羽子岡 督祥
広報局	E 3 宇田 愛美

出典：平成20年度 学生指導の手引き(p10)

平成20年度 クラブ・同好会 顧問、部長名簿

区分	クラブ	顧問					部長
運動部	陸上競技	S 宇野宏司	G 菅野聡子	C 渡邊昭敬	E 森田二郎	M4C	住谷浩基
	ソフトテニス	G 横山卓司	M 小林洋二	G 本田敏雄	M 尾崎純一	E4	浦井 誠
	ラグビー	G 小森田敏	S 並河努	S 中西 宏	M 森本義則	C5	松谷圭祐
	バレー	C 大淵真一	E 道平雅一	M 赤対秀明		M5D	芳川昇次郎
	バスケット	G 春名 桂	M 石崎繁利	E 加藤真嗣	G 北村知徳	E5	大久保広訓
				M 林 公祐	M 山本高久		
	卓球	M 西田真之	M 早稲田一嘉	S 山下典彦	M 武縄 悟	M3C	赤山優太
	剣道	G 佐藤洋俊	G 中川一穂	M 齋藤 茂	D 長谷芳樹	C5	山本航平
	柔道	G 土居文人	S 中尾幸一			M3C	井本 廉
	弓道	G 町田吉隆	G 末次武明			C4	内田健哉
	水泳	G 寺田雅裕	M 田口秀文	E 山本伸一	S 亀屋忠三子	E4	堤晃一
	サッカー	S 橋本渉一	E 山本和男	C 田中 守		M5D	今里和樹
	空手道	M 長 保浩	G 一瀬昌嗣			S3	中里尚央
	バドミントン	D 笠井正三郎	G 手代木陽	G 上垣宗明	S 辻本剛三	M3D	新田浩樹
	野球	D 西 敬生	M 宮本 猛	C 牧野貴至	E 市川和典	E5	船嶋彰人
	アーチェリー	C 松井哲治	M 和田明浩	G 八百俊介		C3	堀田泰久
テニス	E 津吉 彰	D 藤本健司	E 下代 雅啓	M 熊野智之	C3	鷲尾哲平	
文化部	吹奏楽	D 小矢美晴	C 宮下芳太郎	M 小林 滋	D 尾崎 進	D5	宮永 歩
	華道	G 福田敬子	G 田口純子	G 今里典子		D5	木本順也
	ESS	G 折附良啓	G 柳生成世	G 西山正秋		M2B	小池徹弥
	自然科学	G 大多喜重明	G 八木善彦	M 吉本隆光	C 下村憲司朗	C2	河野雅博
	電気工学実験	D 橋本好幸	E 松田忠重	D 小矢美晴	D 林 昭博	D1	石田裕太郎
	電子計算機	G 児玉宏児	D 戸崎哲也	M 朝倉義裕	D 若林 茂	D4	小田悠介
	写真	S 高科 豊	G 柳生成世	G 西岡一也		D4	中戸寛喜
	ライトミュージック	C 小泉拓也	E 山本誠一	C 九鬼導隆		D5	安部直樹
	MRC	M 朝倉義裕	G 前田誠一郎			M5C	上念拓馬
	美術	G 石塚正洋	G 今里典子	C 根津豊彦		C3	小山紗季
同好会	スキー	G 高橋秀実					
	ハンドボール	S 柿木哲哉	S 上中宏二郎			S4	仲村真祐
	囲碁	C 杉 広志				C5	松原基耶
	文芸	G 土居文人	M 朝倉義裕	S 宇野宏司		D3	浜田直樹
	生協	D 西 敬生	E 山本和男			M5C	杉野勇起
その他	ロボット工学研究会	M 朝倉義裕	M 武縄 悟			M3C	渡部恭平
	ソーラーカー	M 吉本隆光	E 松田忠重	M 和田明浩	M 中辻武	M4C	小西将貴

出典：2008年度(平成20年度)クラブ手帳(p1)

高専体育大会等の成績(過去5年間)

種目	競技名	近畿大会成績					全国大会成績				
		15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
【高専体育大会】											
陸上競技	男子 800m	優勝	優勝	2位	優勝	2位	—	2位	—	—	—
	男子 400m	—	—	—	—	2位	—	—	—	—	
	男子 200m	—	—	2位	—	2位	—	—	—	—	
	男子 100m	2位	2位	2位	3位	優勝・2位	—	7位	5位	5位	7位
	男子 4×100mリレー	—	2位	2位	—	2位	—	—	—	—	3位
	男子 4×400mリレー	—	—	—	—	2位	—	—	—	—	—
	男子 走り幅跳び	—	—	—	—	優勝	—	—	—	—	—
	男子 三段跳	優勝	—	—	—	3位	7位	—	—	—	—
	男子 円盤投げ	—	—	4位	4位	—	—	—	—	—	—
	女子 100m	—	—	—	—	優勝・2位	—	—	—	—	2・8位
女子 砲丸投げ	—	—	—	2位	—	—	—	—	—	—	
ソフトテニス	団体	—	2位	2位	—	2位	—	—	—	—	
	個人の部(男子)	—	優勝	—	—	—	—	—	—	—	
ラグビー	個人の部(女子)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
バレーボール	(男子)	優勝	優勝	優勝	優勝	優勝	優勝	優勝	優勝	2位	優勝
	(女子)	優勝	優勝	2位	優勝	優勝	優勝	2位	優勝	2位	2位
バスケットボール	(男子)	優勝	優勝	優勝	優勝	優勝	—	—	—	—	
	(女子)	優勝	優勝	優勝	優勝	優勝	3位	3位	—	3位	3位
卓球	団体	2位	2位	3位	—	3位	—	—	—	—	
	男子ダブルス	優勝・3位	3位	3位	—	3位	—	—	—	—	
	男子シングルス	2位	—	—	—	—	—	—	—	—	
	女子シングルス	—	優勝	—	—	—	—	—	—	—	
剣道	団体	優勝	2位	優勝	2位	優勝	—	—	—	3位	
	個人・男子の部	優勝・2位・3位	2位	—	—	優勝	3位	—	—	2位	
	個人・女子の部	3位	2位・3位	3位	—	3位	—	—	—	—	
柔道	団体戦	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	男子60kg以下級	2位	—	—	—	—	—	—	—	—	
	女子63kg以下級	2位	優勝	—	—	—	—	—	—	—	
	73kg以下級	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
水泳	90kg以下級	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	団体総合	優勝	優勝	優勝	優勝	優勝	—	—	2位	優勝	優勝
	男子 50m自由形	—	—	—	優勝・3位	優勝・3位	—	—	—	—	—
	男子 100m自由形	—	—	優勝	優勝	優勝	—	—	4位	3位	4位
	男子 200m自由形	3位	—	—	5位	優勝	—	—	—	—	9位
	男子 400m自由形	3位	—	2・3位	2・3位	優勝	7位	—	—	6位	—
	男子 800m自由形	—	3位	3位	2位	3位	—	—	—	—	—
	男子 100m背泳	3位	3位	優勝	優勝・2位	優勝・2位・3位	—	—	6位	7位	7位
	男子 200m背泳	優勝	優勝	2位	2・3位	優勝・2位・3位	—	6位	—	7位	2・5・8位
	男子 100m平泳	2位	3位	優勝・2位	2・3位	2・3位	—	—	7位	6位	9位
	男子 200m平泳	優勝	優勝	2位	2位	3位	4位	5位	—	—	—
	男子 100mバタフライ	3位	—	2位	2・3位	2・3位	—	—	8位	3位	5・6位
	男子 200mバタフライ	—	2位	3位	優勝・2位	優勝・3位	—	—	—	8位	4位
	男子 200m個人メドレー	2位	—	—	優勝	—	—	—	—	3位	—
	男子 400mフリーリレー	優勝	2位	優勝	2位	優勝	6位	3位	優勝	優勝	2位
	男子 400mメドレーリレー	優勝	優勝	優勝	3位	優勝	7位	—	2位	優勝	2位
	男子 800mリレー	3位	2位	2位	2位	—	×	—	—	—	—
	女子 100m平泳	優勝・3位	優勝・2位	優勝・2位・3位	優勝・2位	優勝・2位	4位	5位・9位	3・6位	4位	6位
	女子 100m自由型	優勝・2位	優勝・3位	優勝・2位	優勝・3位	優勝・2位	4位	4位	4位	3位	6位
	女子 50mバタフライ	優勝・2位	優勝・2位	優勝・2位	優勝	優勝	—	—	—	6位	7・8位
女子 50m背泳	優勝・3位	優勝・2位	優勝・2位	優勝	優勝・2位	7位	—	5位	5位	5位	
サッカー	団体戦	優勝	優勝	2位	2位	2位	2位	—	2位	—	—
	男子個人ダブルス	—	3位	2位	優勝	優勝	—	—	—	—	
バドミントン	男子シングルス	3位	2位	2位	3位	2・3位	—	—	—	—	
	男子ダブルス	—	3位	2・3位	—	優勝	—	—	—	—	
	女子団体戦(近畿選抜)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3位
ハンドボール	男子個人ダブルス	2位・3位	—	優勝・3位	優勝・3位	2・3位	—	—	—	—	
	女子シングルス	—	3位	優勝・3位	2位	3位	—	—	—	—	
硬式野球	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
テニス	団体	優勝	—	3位	2位	優勝	8位	—	—	—	
	男子ダブルス	3位	—	—	優勝	2位	—	—	—	—	
	男子シングルス	優勝	優勝	—	2位	—	3位	—	—	—	
	女子ダブルス	3位	—	—	—	—	—	—	—	—	
女子シングルス	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
【西日本地区高等専門学校アーチェリー競技会】											
アーチェリー	男子団体の部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	女子団体の部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	新人戦 男子の部	—	—	2位	—	2・3位	—	—	—	—	
新人戦 女子の部	—	—	—	優勝	—	—	—	—	—	—	
【近畿・東海・北陸・信越地区弓道大会】											
弓道	個人の部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	団体 Bチーム	—	—	—	5位	3位(A)	—	—	—	—	
【近畿地区高専空手道選手権大会】											
空手	男子団体組手	—	—	—	優勝	優勝	—	—	—	—	
	型試合個人(男子)	—	—	2・3位	3位	2・3位	—	—	—	—	
	組手試合個人(男子)	—	—	—	3位	優勝・2位・3位	—	—	—	—	
	男女混合型試合	—	—	—	—	—	—	—	—	—	

(次ページへ続く)

◆関西高専吹奏楽合同演奏会

回	開催年度	主管校	開催場所
第25回	平成13年度		
第26回	平成14年度		
第27回	平成15年度		
第28回	平成16年度		
第29回	平成17年度		
第30回	平成18年度	奈良高専	八尾市文化会館
第31回	平成19年度	神戸高専	

◆プログラミングコンテスト

回	開催年度	主管校	開催場所
第12回	平成13年度	鶴岡高専	
第13回	平成14年度	石川高専	
第14回	平成15年度	東京高専	
第15回	平成16年度	新居浜高専	
第16回	平成17年度	米子高専	
第17回	平成18年度	茨城高専	茨城高専体育館・武道館
第18回	平成19年度	津山高専	津山文化センター

◆NHKロボットコンテスト

回	開催年度	主管校	開催場所
第14回	平成13年度		
第15回	平成14年度	近畿地区(神戸)	神戸高専体育館
	平成14年度		両国国技館
第16回	平成15年度	近畿地区(舞鶴)	舞鶴文化公園体育館
	平成15年度		両国国技館
第17回	平成16年度	近畿地区(近大)	近畿大学記念館
第18回	平成17年度	近畿地区(奈良)	大和郡山市総合公園多目的体育館
第19回	平成18年度	近畿地区(大阪)	四条橋市立四民総合体育館
第20回	平成19年度	近畿地区(明石)	高砂市総合体育館

◆レスキューロボットコンテスト

回	開催年度	チーム名	開催場所
第4回	平成16年度	がんばろう神戸	神戸サンボーホール
第5回	平成17年度	がんばろう神戸	神戸国際展示場
第6回	平成18年度	がんばろう神戸	神戸サンボーホール
第7回	平成19年度	がんばろう神戸	神戸サンボーホール

◆ソーラーカーラリー

開催年月	大会名	開催場所
平成13年10月	ソーラーカー・ラリーin鈴鹿	鈴鹿サーキット
平成14年10月	朝日ソーラーカーラリー	フルーツフラワーパーク
平成15年10月	朝日ソーラーカーラリー	フルーツフラワーパーク
平成16年10月		
平成17年10月		
平成18年10月		
平成19年8月	ソーラーカー・レース鈴鹿	鈴鹿サーキット

◆エコデンレース

開催年月	大会名	開催場所
平成18年11月	06エコデンレース大会	万博記念公園
平成19年11月	07エコデンレース大会	万博記念公園

◆メロディ・ブリッジ・コンテスト

開催年月	大会名	開催場所
平成14年11月	メロディ・ブリッジ・コンテスト	ホト7イラト2期芝生広場

◆デザインコンペティション

開催年月	大会名	開催場所
平成18年11月	全国高専デザインコンペティション	都城市メインホールナカムラ大会議場
平成19年11月	全国高専デザインコンペティション	周南市総合スポーツセンター

学生会規約

7. 学生会規約

(制定 昭和52年5月16日)

(改正 平成12年4月1日)

第1章 総 則

(名 称)

第1条 本会は、神戸市立工業高等専門学校学生会と称する。

(目 的)

第2条 本会は、会員相互の人格と自治自律の精神をもって、民主的に活動し、学生生活全般にわたりその改善と向上を図るとともに社会公共生活に有益かつ必要な訓練に努め、もって堅実な校風の樹立を目的とする。

(会 員)

第3条 本会は、神戸市立工業高等専門学校全校生をもって組織し、本校生は等しく本会会員としての義務並びに権利を有する。

第2章 機 構

(機 構)

第4条 本会に次の機関をおく。

- | | | |
|------------|--------------|-------------|
| 1. 学生総会 | 2. 中央執行委員会 | 3. 評議会 |
| 4. 保健体育委員会 | 5. 図書委員会 | 6. 課外活動協議会 |
| 7. 学級会 | 8. 全校行事实行委員会 | 9. 高専祭実行委員会 |

(学生総会)

第5条 学生総会は、本会の最高議決機関で原則として毎年1回学生会会長がこれを召集する。ただし、次の場合には学生会会長が臨時に召集することができる。

- (1) 全会員の1/4以上の要求があったとき
- (2) 評議員の1/2以上の要求があったとき
- (3) 中央執行委員会が必要と認めたとき
- (4) 校長の要求があったとき

(次ページへ続く)

(学生総会)

第6条 学生は総会に出席する義務と権利を有する。総会は、全会員の2/3以上の出席をもって成立し、次のことを出席人員の過半数の賛成により議決する。

- (1) 会費に関する事
- (2) 規約に関する事
- (3) その他重要事項

(学生総会の役員)

第7条 総会の役員を次のようにおき、特別な場合を除いて評議会の役員がこれを兼ねる。

1. 議長
2. 副議長
3. 書記 各1名

(中央執行委員会)

第8条 中央執行委員会は学生会役員をもって組織し、次の役員をおく。

1. 会長 1名
2. 副会長 1名
3. 書記局 若干名
4. 会計局 若干名
5. 事業局 若干名
6. 広報局 若干名
7. 渉外局 若干名

(会長)

第9条 会長は選挙管理規定に従い全会員の直接選挙によって決定される。

- 2 会長は、本会を代表し、会務を統括する。又、本会活動について責任を有する。

(副会長)

第9条の2 副会長は、選挙管理規定に従い全会員の直接選挙によって決定される。

- 2 副会長は、会長を補佐する。

(会長・副会長を除く役員)

第9条の3 会長・副会長を除く役員は、会長及び副会長が推薦し評議会の承認を得る。

書記局 書記局は、本会事務を行う。

会計局 会計局は経費出納に関する責任を有し会計事務を行う。

事業局 事業局は、全校行事实行委員会・高専祭実行委員会・図書委員会・

(次ページへ続く)

保健体育委員会を統括し、本会の行事を執行する。

広報局 広報局は、執行部の広報を行う。

渉外局 渉外局は、本会が必要とする渉外活動を行う。

(課外活動協議会)

第10条 課外活動協議会（以下協議会という）は各クラブ・同好会相互間の友好と協力をはかる重要な機関で、各クラブ・同好会の代表者各1名で組織する。

2 協議会は、次の場合にこれを開く。

- (1) 全クラブ・同好会の代表者の1/3以上の要求があったとき
- (2) 中央執行委員会の要求があったとき
- (3) 評議会の要求があったとき
- (4) 校長の要求があったとき
- (5) 協議会役員が必要と認めたとき

(協議)

第10条の2 協議会は、次のことを協議する。

- (1) クラブ費に関すること
- (2) クラブ・同好会活動における諸問題について
- (3) その他重要事項

(学生会各機関との関係)

第10条の3 他の学生会各機関と関係のある事項については、協議会は必要な学生・教職員に出席を求めることができるほか、他の学生会各機関に審議および処理を要請することができる。

(役員)

第10条の4 協議会に次の役員をおく。

- | | | | |
|-------|----|--------|----|
| 1. 議長 | 1名 | 2. 副議長 | 1名 |
| 3. 書記 | 2名 | | |

(会議の成立)

第10条の5 協議会は、全クラブ・同好会代表者の2/3以上の出席をもって成立し、議決は全て出席人員の過半数をもって成立する。

(任期)

第10条の6 協議会役員の任期は、4月1日より3月31日までの1カ年とする。

(次ページへ続く)

(任期)

第11条 学生会役員の任期は、1月1日より12月31日までの1ヵ年とする。

(辞任)

第12条 学生会役員は、病気その他やむを得ない事情により職務を遂行できない場合に限り、評議会の承認を得て辞任することができる。

(不信任)

第13条 学生会役員の不信任は、評議会の出席人員の2/3以上の議決をもって発議し、学生総会において全会員の2/3以上の賛成があれば成立する。

(解散)

第14条 学生会会長が、辞任若しくは不信任により辞職した場合は、中央執行委員会を直ちに解散しなければならない。

(欠員)

第15条 不信任・辞任・その他の理由により役員に欠員が生じた場合、会長・副会長については25日以内に補欠選挙を、その他の役員については中央執行委員会が後任者を直ちに選び、評議会の承認を得るものとする。なお、後任者の任期は前任者の残任期とする。

ただし、解散してから新会長の選出までの期間は、中央執行委員会の任務を評議会に一任する。

第3章 評議会

(評議会)

第16条 本会に学生総会に次ぐ議決機関として評議会をおく。評議会は各学級の正・副委員長をもって、毎月1回これを開かねばならない。ただし、次の場合には評議会議長が臨時に召集することができる。

- (1) 評議会の1/3以上の要求があったとき
- (2) 中央執行委員会が必要と認めたとき
- (3) 校長の要求があったとき
- (4) その他議長が必要と認めたとき

(次ページへ続く)

(議 決)

第17条 評議会は、次のことを議決する。

- (1) 学生会諸行事に関すること
- (2) クラブ・同好会の設立・廃止に関すること
- (3) 予算・決算の承認
- (4) その他重要事項

(役 員)

第18条 評議会に次の役員をおく。

- | | | | |
|-------|----|---------|----|
| 1. 議長 | 1名 | 2. 副議長 | 1名 |
| 3. 書記 | 1名 | 4. 会計監査 | 3名 |

第19条 評議会に、評議員（各クラス正・副委員長）の1/2(30人)以上の出席をもって成立し、議決は出席人員の2/3以上の賛成をもって成立する。

第4章 専 門 委 員 会

第20条 中央執行委員会の直属機関として次の専門委員会をおく。

1. 保健体育委員会
2. 図書委員会
3. 全校行事实行委員会
4. 高専祭実行委員会

第5章 学 級 会

第21条 学級会は学生全員で構成し、その運営は担任の指導のもとに、それぞれの自治に委ねられる。

第22条 各学級会に次の役員をおく。

- | | | | |
|-----------|----|--------------------|----|
| 1. 学級委員長 | 1名 | 2. 学級副委員長（図書委員を兼務） | 1名 |
| 3. 会計委員 | 2名 | 4. 保健体育委員 | 2名 |
| 5. 全校行事委員 | 2名 | 6. 高専祭委員 | 2名 |

第23条 学級委員は各学級において選出する。

(委員の任期)

第24条 学級委員の任期は、4月1日より3月31日までとする。ただし、1学年

(次ページへ続く)

については、前期中間試験終了後に変更することができる。

第6章 附 則

(議長採決)

第25条 各委員会及び総会において賛否同数のときは議長がこれを決定する。

(執行委員の権利)

第26条 中央執行委員は、評議会並びに各専門委員会、その他において発言する権利と義務を有する。ただし、それらの議長・副議長・書記になることはできない。

(発言責任)

第27条 各専門委員・評議会・その他の議員は各委員会・評議会・その他各種会議においてなされた発言に対し、会議外においてその責任を問われない。

(規約改正)

第28条 この規約の改正は全会員の1/4以上若しくは、評議員の2/3以上の賛成でこれを発議し、学生に提案して、その承認を得なければならない。この承認には学生総会において全学生会員の1/2以上の賛成を必要とする。

(執行)

第29条 本会規約は昭和43年1月30日より実施する。

クラブ・同好会一覧表

体 育 ク ラ ブ	陸上競技, ソフトテニス, テニス, ラグビー, 野球, バレーボール, バスケットボール, 卓球, 剣道, 弓道, 水泳, 柔道, サッカー, バドミントン, 空手道, アーチェリー
文 化 ク ラ ブ	吹奏楽, 写真, アマ無線, E・S・S, 自然科学, 華道, 電気工学実験, 電子計算機, ライトミュージック, M・R・C, 美術
同 好 会	スキー, 囲碁, ハンドボール, アウトドア

出典：平成20年度学生便覧(p80-85)

平成20年度 学級役員一覧

平成20年度 学級役員一覧

平成20年4月

クラス	委員長	副委員長	会計委員	保健体育委員	高等学委員	全校行善委員	美化(KEMS)委員	担任名	クラス
M1A	小池 颯	桑田 博典	黒川洋太郎	徳島 慶彦	藤田 謙	池野 勇汰	坂井 幸司	折附 良啓	M1A
M1B	鎌谷 望	植田 明	松本 一希	大野 尚彦	玉橋 尚民	尾藤 成	小泉 勇太	一瀬 剛嗣	M1B
E 1	木下 颯	堀川 峻	徳田 圭佑	森田 創一	岩見 卓哉	桑 泰彦	星山 眞嗣	藤岡 佑樹	E 1
D 1	高田 敏介	武田 佳恵	田辺 啓	八巻 颯彦	堀本 龍平	佐々木 歩	辻井 賢汰	土居 文人	D 1
C 1	藤本 裕也	櫻井 孝	市瀬 佑磨	茅根 大輔	高田 貴大	依野 快子	藤本 聖哉	森名 桂	C 1
S 1	山本 和彦	大山 耕生	島本 佑輝	祝詞 悟史	山口 博也	高田 理英	富田 恭平	武田 翔太	S 1
M2A	橋田 全人	阿部 祥平	西角 和彦	大野 健太	大火保 政秋	三浦 希大	西山 勇気	原 宏太郎	M2A
M2B	福田 謙一	栗治 礼士	加藤 翼	池本健太郎	坂本 龍司	武石 慎司	矢野 智平	成美 貴亮	M2B
E 2	大野 恒太	田川 翔	佐伯 智宏	戸嶋 祐也	北村 尚之	小田 賢	菅野 航聖	堀見 俊介	E 2
D 2	西本 祐和	松元 空之	石山 佳史	渡瀬 大悟	伊藤 徳太	原口 泰菜	増田 祐磨	前田 誠一郎	D 2
C 2	栗本 希	佐々木俊輔	安東 謙	吉川 俊樹	芦田 晃	金月 史郎	山口 大樹	坂井 大知	C 2
S 2	水井 勇輔	高吉 俊介	嶋主 達史	島津 和真	岩本 武寛	岡野 希希	小泉 洋輔	八木 善彦	S 2
M3D	中西 謙太	重村 亮介	高島 立至	鳴瀬 健志	岡本 広大	岡本 広大	水井 優斗	山田 大輝	M3D
M3C	岸田 祐和	松尾 知剛	澤井 大輔	田中 峻	宮前 大輝	藤部 孝行	松下 泰也	渡部 恭平	M3C
E 3	栗津 裕貴	坂更 祐太	新橋 重隆	山口 自寛	杉原 賢也	小牧 誠生	植田藤太郎	上村 幸大	E 3
D 3	石本 光輝	英田 真樹	坂本 慎平	末吉 和也	竹島 叶実	藤原 真之	野村 和文	柳生 成哉	D 3
C 3	安井 幸輝	藤山 英幸	片岡 晶	西原 文典	神尾 卓哉	吉井 守	井筒 一裕	平松 拓真	C 3
S 3	岡本 健太	堀島 夢	深田明日美	木頭 千鶴	新井 淳平	松尾 雄大	神本 慎一	中西 宏彰	S 3
M4D	出口 幸治	津 康裕	山崎 真生	木頭 正博	原 なつみ	渡邊 康太郎	福本 信一	菅本 颯	M4D
M4C	渡邊 敏	八島 裕紀	野口 和真	富 良貴	栗部 翔太	山口 崇雄	石本 悠真	小林 洋二	M4C
E 4	堀 晃一	辻井 智晶	大瀬 悠二	藤原健太郎	吉田 智志	川原 昌平	若槻 孝昭	松江 裕博	E 4
D 4	谷谷 祥吾	唐田 有美	権本 翔梧	三宅 圭介	権本 圭太	長谷 晃英	大嶋 崇之	三石 裕嗣	D 4
C 4	増田 裕輝	山口 大輔	田村 聡	野路 将純	入野 大地	赤森 智恵	榑原 希聖	土屋 慶太	C 4
S 4	萩原 拓也	南谷 賢晃	田中 丞	水田 雄大	村上 一風	石井 孝明	高田 裕太郎	井上 誠哉	S 4
M5D	上之清 竜二	岩城 裕貴	江口 武徳	種 竜乃介	石野 裕輝	小林 智一	中 祥彦	佐藤 之則	M5D
M5C	大滝 仁	渡辺 亮太	筒井 恒平	佐々木智敏	前坂 希	小中 良介	千峰 尊彦	杉野 勇起	M5C
E 5	大久保広樹	高橋 利明	青野 恒平	山中 康平	川角 大	重松 遼	鮫島 佑太	杉野 彰	E 5
D 5	大西 雅也	植 知秀	宮本 恭	山下 裕介	高田 伸一	安部 直樹	田村 真一	山口 政樹	D 5
C 5	清水 芳	草部 あい	竹田 茂樹	安谷 佳浩	松谷 圭基	西岡 佳朗	松原 基耶	山下 裕介	C 5
S 5	樹谷 恵	繁尾 法子	成田有加里	風呂 暁	大西 亮平	寺田 佳菜	重江 文	岩田 誠介	S 5

＜専攻科課程＞

観点5-5-①： 準学士課程の教育との連携を考慮した教育課程となっているか。

（観点に係る状況）

本校の専攻科課程は、準学士課程4，5年生部分と一体化された形（資料5-5-①-1）で、日本技術者教育認定機構（JABEE）認定プログラムの工学系複合プログラムを構成している。

ただし、機械工学科の設計システムコース，システム制御コースは共に機械システム工学専攻と連携し、電気工学科，電子工学科は電気電子工学専攻と連携している。応用化学科，都市工学科はそれぞれ，応用化学専攻，都市工学専攻と連携している。

そのため，本プログラムの学習・教育目標を軸に完全な体系化が図られている（資料5-5-①-2）。

（分析結果とその根拠理由）

準学士課程2コース，もしくは2学科を合流させた形で設計されている専攻もあるが，いずれも純然たる積み上げ型のカリキュラム構成となっており，連携が十分考慮された教育課程となっている。

学科ごとの系統図（授業科目の流れ）

機械工学科設計システムコース→機械システム工学専攻の教育課程の体系性と科目系統図(H22年度修了生) (修正版)

学習・教育目標	履 修 科 目 系											
	本科4年		本科5年		専攻科1年		専攻科2年		専攻科3年		専攻科4年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
(A-1) 数学	応用数学Ⅰ◎ 応用数学Ⅱ◎	線形代数◎ 応用数学Ⅰ◎ 応用数学Ⅱ◎					数値解析セ◎ 数値工学Ⅰセ◎	数値工学Ⅱセ◎				
(A-2) 自然科学	応用物理◎	応用物理◎	電子工学概論◎ 機械力学Ⅰ◎ 機械力学Ⅱ◎	電子工学概論◎	レーザー工学セ◎ 量子物理セ◎	光工学セ◎ シミュレーション工学◎	振動・振動論セ◎					
(A-3) 情報技術			数値計算法セ	情報処理		シミュレーション工学◎						
(A-4-M1) 材料	材料力学Ⅰ◎	材料力学Ⅱ◎	材料力学特論セ		弾性力学セ◎ 破壊力学セ◎ 相的材料解析セ◎	応用工学セ◎ 金属材料加工工学セ◎ 疲労力学セ◎						
(A-4-M2) 熱・流体	工業熱力学◎ 流体工学◎ 機械工学実験◎	工業熱力学◎ 流体工学◎ 機械工学実験◎	工業熱力学◎	エネルギー変換工学セ		熱機関論セ◎ 熱流体計測セ◎ 流体計測セ◎	数値流体力学セ◎ 熱・物質移動論セ◎ 流れ学セ◎					
(A-4-M3) 計測・制御	計測工学◎ 電気工学◎	計測工学◎	自動制御◎ 電子工学概論◎ ロボット工学セ 機械力学Ⅰ◎ 機械力学Ⅱ◎	自動制御◎ 電子工学概論◎	レーザー工学セ◎ 画像計測セ◎ 制御工学セ◎	航空工学概論セ◎ システム制御理論Ⅰセ◎ 応用ロボット工学セ◎	システム制御理論Ⅱセ◎ 振動・振動論セ◎					
(A-4-M4) 設計・生産	応用機械設計◎ 設計製図◎ 機械工学実験◎	応用機械設計◎ 設計製図◎	工作機械 精密加工セ 設計製図◎ 機械力学Ⅰ◎ 機械力学Ⅱ◎	生産工学◎ 設計製図◎	トワイロロジーセ◎	成形加工工学セ◎						
(B-1) 基礎的視野	応用物理◎ 機械工学実験◎	機械工学実験◎	卒業研究◎	卒業研究◎	レーザー工学セ◎ 専攻科特別研究Ⅰ◎	専攻科特別研究Ⅰ◎ 専攻科特別研究Ⅱ◎	専攻科特別研究Ⅱ◎ 専攻科特別研究Ⅲ◎					
(B-2) 基礎	機械工学実験◎	機械工学実験◎	卒業研究◎	卒業研究◎	専攻科特別研究Ⅰ◎ 専攻科特別研究Ⅱ◎	専攻科特別研究Ⅰ◎ 専攻科特別研究Ⅱ◎	専攻科特別研究Ⅱ◎ 専攻科特別研究Ⅲ◎					
(B-3) 日常実務	実践演習◎	実践演習◎	実践演習◎	実践演習◎	実践演習セ◎ シミュレーション実験◎	時事実習セ◎ 技術実習セ◎						
(B-4) 技術実務			卒業研究◎	卒業研究◎	専攻科特別研究Ⅰ◎ 専攻科ゼミナールⅠ◎ レーザー工学セ◎	専攻科特別研究Ⅰ◎ 専攻科特別研究Ⅱ◎ 専攻科ゼミナールⅡ◎	専攻科特別研究Ⅱ◎ 専攻科特別研究Ⅲ◎					
(C-1) 応用・解析	機械工学実験◎	機械工学実験◎	機械工学実験◎			技術実習セ◎						
(C-2) 複合・解決	設計製図◎ 学外実習セ	設計製図◎	卒業研究◎	卒業研究◎	専攻科特別研究Ⅰ◎ 専攻科ゼミナールⅠ◎ 専攻科特別実習セ◎	専攻科特別研究Ⅰ◎ 専攻科ゼミナールⅡ◎ 技術実習セ◎	専攻科特別研究Ⅱ◎ 専攻科ゼミナールⅢ◎ 技術実習セ◎					
(C-3) 体力・教養	保健体育◎	保健体育◎	保健体育◎ 社会科学特講◎☆ 哲学◎☆ 日本史◎☆ 世界史◎☆ 人文科学特講◎☆ 経済学◎☆	社会科学特講◎☆ 哲学◎☆ 日本史◎☆ 世界史◎☆ 人文科学特講◎☆ 経済学◎☆			地域学セ◎ 応用倫理学セ◎	哲学特講セ◎				
(C-4) 協働・報告書	機械工学実験◎	機械工学実験◎	機械工学実験◎									
(D-1) 備前	学外実習セ 設計製図◎ 機械工学実験◎	設計製図◎ 機械工学実験◎	電子工学概論◎ 深奥工学セ 生産工学◎	電子工学概論◎ 生産工学◎	専攻科特別実習セ◎	技術実習セ◎	工学倫理◎ 応用倫理学セ◎					
(D-2) 異文化	ドイツ語◎☆ 中国語◎☆	ドイツ語◎☆ 中国語◎☆	社会科学特講◎☆ 哲学◎☆ 日本史◎☆ 世界史◎☆ 人文科学特講◎☆ 経済学◎☆	社会科学特講◎☆ 哲学◎☆ 日本史◎☆ 世界史◎☆ 人文科学特講◎☆ 経済学◎☆			技術実習セ◎					

出典：教育プログラム委員会資料

工学系複合プログラムの修了要件

2-3 教育プログラムの修了要件

専攻科のカリキュラムは専攻科の修了要件を満たせば必然的に J A B E E 対応の教育プログラムの修了要件を満たすように構成されていますが、専攻科の修了要件と教育プログラムの修了要件とは異なることに注意してください。

以下の 8 つの条件が教育プログラムの修了要件です。

- (1) 高専の課程を卒業し、かつ本校の専攻科の課程を修了すること。
- (2) 大学評価・学位授与機構より学士の学位を受けること。
- (3) 学習保証時間の総計が 1,800 時間以上、その中の人文科学、社会科学の学習（語学学習を含む）が 250 時間以上、数学、自然科学、情報技術の学習が 250 時間以上および専門分野の学習が 900 時間以上であること。
- (4) 高専の 4 年、5 年の課程と専攻科の 1 年、2 年課程の計 4 年間で 124 単位以上を修得すること。ただし単位は評価点が「60 点以上」の成績で修得した科目について認定する。
なお、評価が「優」「良」「可」で判定される科目については、評価点が「60 点以上」に相当する区分の評価で修得した科目について認定する。
- (5) 他専攻の専門展開科目の内から 1 科目以上修得すること。
- (6) 国際コミュニケーション英語能力テスト「TOEIC」の得点 400 点相当を獲得すること。
- (7) 総合試験 I・II に合格すること。ただし、プログラムが指定する主要科目の平均点が 80 点以上の場合には免除する。
- (8) 学会発表等の実績があること。

ただし(4)の適用については次のように取り扱う。60点未満の科目については補講を行い、試験・レポート等により評価し、認定する場合がある。なお、J A B E E 非認定プログラムを履修した者については、70点以上の科目を認定し、60点以上70点未満の評価の科目については審査の上、認定の可否を決める。60点未満の科目は認定しない。

なお、本教育プログラムを受ける場合には専攻科入学時に「確約」が必要となります。

途中から本プログラムへの変更はできませんので注意してください。本教育プログラムの修了生には「修了証」が授与されます。また、本教育プログラム修了生は「修習技術者」や「技術士補」になる資格を得ることができます。このように J A B E E の認定を受けた教育機関と共に教育プログラムの修了生は社会的に高い評価を受けることになり、就職・進学にも有利となります。専攻科入学者全員が本教育プログラムを選択され、プログラムの修了・「修習技術者」「技術士補」の資格取得を目指して勉学に励まれることを望みます。

出典：平成 20 年度専攻科のしおり (p6-7)

観点5-5-②： 教育の目的に照らして、授業科目が適切に配置（例えば、必修科目、選択科目等の配当等が考えられる。）され、教育課程が体系的に編成されているか。また、授業の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿って、教育の目的を達成するために適切なものになっているか。

（観点に係る状況）

専攻科の授業科目は、一般教養としての「一般教養科目」、専門に関する基礎的な内容の「専門共通科目」、専門性を深める「専門展開科目」に分類される。それぞれの分類において、学習・教育目標の充足に特に必要とされるべき科目を必修科目とし、学生の志向に応じて選択可能な選択科目と分類した。カリキュラムでは各学年に必修科目、選択科目を適切に配置している（資料5-5-②-1）。「専門展開科目」では、特別研究と関連したより高度かつ応用的な内容を含め、学位取得の条件を満たすようにしている。各科目の学習・教育目標との対応及び科目間の関連は、シラバスに「授業科目の流れ」（前述の資料5-5-①-1）として示されている。学習・教育目標を達成するために特に重要な科目は◎として指定している。その他の専攻科の科目については、特に重要とは言えないが、◎に準じて学習・教育目標の達成に主体的に関係する科目として○印が付けられている。

（分析結果とその根拠理由）

授業科目は、内容・程度によって、一般科目、専門共通科目、専門展開科目に分類するとともに、教育の目的に照らして、必修、選択の区別を行い、各学年に必修科目、選択科目を適切に配置している。また、学習・教育目標の達成に向けて、科目を目標毎に明確に分類し、各目標に必修科目を適宜配置することにより、教育課程が体系的に編成されている。

専攻科カリキュラム

別表4(第44条関係)専攻科に関する授業科目等

区分	授業科目	単位数	学年別配当				備考
			第1学年		第2学年		
			前期	後期	前期	後期	
一般教養科目	必修 現代思想文化論	2	2				
	必修 コミュニケーション英語	1	1				
	必修 必修科目開設単位計	3	3				
	選択 哲学特講	2			2		
	選択 地域学	2			2		
	選択 時事英語	2		2			
	選択 英語講読	2	2				
	選択 応用倫理学	2			2		
	一般教養科目開設単位計	13	5	2	4	2	
	一般教養科目修得単位計	8単位以上を修得					
専門共通科目	必修 工学倫理	2			2		
	必修 シミュレーション工学	2		2			
	必修 必修科目開設単位計	4		2	2		
	選択 数理工学Ⅰ	2		2			※
	選択 数理工学Ⅱ	2			2		※
	選択 数理統計	2		2			※
	選択 数値流体力学	2			2		
	選択 量子物理	2	2				※
	選択 技術史	2			2		
	選択 技術英語	2		2			
選択科目開設単位計	14	2	6	6			
専門科目	必修 専攻科実験	1				1	
	必修 専攻科ゼミナールⅠ	2	2				
	必修 専攻科ゼミナールⅡ	2			2		
	必修 専攻科特別研究Ⅰ	7	3	4			
	必修 専攻科特別研究Ⅱ	8			3	5	
	必修 必修科目開設単位計	20	5	4	5	6	
	選択 専攻科特別実習	2	2				
	選択 レーザー工学	2	2				※
	選択 X線工学	2		2			※
	選択 弾性力学	2	2				◎
選択 流れ学	2			2			
選択 熱機関論	2		2				
選択 知的材料解析	2	2				◎	
選択 成形加工学	2			2			
選択 システム制御理論Ⅰ	2		2				
選択 システム制御理論Ⅱ	2			2			
選択 振動・波動論	2			2		※	
選択 制御工学	2	2					
選択 応用ロボット工学	2		2				
選択 表面計測	2	2					
選択 航空工学概論	2		2				
選択 トライボロジー	2	2					
選択 破壊力学	2		2			◎	
選択 熱・物質移動論	2			2			
選択 熱流体計測	2		2				
選択 切削工学	2		2				
選択科目開設単位計	40	14	16	10			
専門科目開設単位合計	78	21	28	23	6		
専門科目修得単位合計	46単位以上を修得						
一般教養・専門科目開設単位合計	91	26	30	27	8		
一般教養・専門科目修得単位合計	62単位以上を修得						

(注)備考欄に※を付した科目中2科目以上を、◎を付した科目中1科目以上を修得すること。

出典：平成20年度専攻科のしおり(p40)

観点5-5-③： 学生の多様なニーズ，学術の発展動向，社会からの要請等に対応した教育課程の編成（例えば，他専攻の授業科目の履修，他高等教育機関との単位互換，インターンシップによる単位認定，補充教育の実施等が考えられる。）に配慮しているか。

（観点に係る状況）

本校では4専攻をもって一つの教育プログラム（プログラム名：工学系複合プログラム）を構成している。その学習・教育目標達成のため，他専攻の専門展開科目を1科目以上取得することが修了要件となっている（前述の資料5-5-①-2）。

また，地域の大学との単位互換制度（資料5-5-③-1）や放送大学など他大学で取得した単位を，16単位（ただし，専攻に係る科目以外の科目については8単位を超えない範囲）まで，修得単位として認定される。この単位互換制度は，1999年4月より神戸研究学園都市連絡協議会の相互交流の一環として発足された。学園都市駅に隣接するユニティで他大学学生と一緒に講義を受け，学習・教育目標の達成以外に，広く文科系学生との交流を深め，人格形成にも役立っている。

また，選択科目ではあるが，専門展開科目として専攻科特別実習の科目を設け，インターンシップを単位化している（前述の資料5-5-②-1）。

専攻科についても修了生，進学先である大学院，企業からのアンケートを実施しており，カリキュラムの改善に生かされている（資料5-5-③-2）。

英語教育については社会の要請を考慮し，TOEIC等に力点を置いた「コミュニケーション英語」を必修科目として配置した（前述の資料5-5-②-1）。

（分析結果とその根拠理由）

他専攻科目，他大学科目などの単位認定を行う，インターンシップの単位認定を行うなど学生の多様なニーズに対応した教育課程を編成している。社会からの要請などについてはより英語教育に力を入れるように配慮している。

地域の大学（ユニティー）との単位互換制度

4. 大学での科目の受講及び単位取得に関すること

専攻科を修了するためには、本校専攻科が開設した科目の中から62単位以上を修得すれば条件が満たされます。

その62単位のうち、他の大学との交流を図り広く教養を身につける観点から、学園都市単位互換講座で修得した単位についても、16単位を限度に本校専攻科での修得単位として認定されます。ただし、専攻に係る科目以外の科目については、8単位を越えない範囲で認定されます。

4-1 学園都市単位互換講座の履修について

学園都市および周辺にある7つの大学等（流通科学大学、神戸市外国語大学、兵庫県立大学神戸学園都市キャンパス・神戸商科大学、神戸芸術工科大学、兵庫県立大学明石キャンパス・兵庫県立看護大学、神戸市看護大学、神戸市立工業高等専門学校）がお互いに提供した授業科目を学習したことについて、それぞれ所属する学校（神戸高専）における履修とみなし、単位の修得を認定する制度です。

なお、履修の可否については開設大学等に権限がありますので、履修申請しても履修が許可されるとは限りません。

学園都市単位互換講座には、① UNITY（学園都市駅前「ユニバープラザビル」）で時間外（原則として18：15～19：45）に開講される『特別科目』と、②各大学等に行き履修する『学内提供科目』の2種類あります。

1. 申込者の資格

- (1) 神戸研究学園都市大学連絡協議会に加入している大学及び高等専門学校専攻科に所属する学生で所属大学等が許可すれば、誰でも受講資格があります。ただし、科目の性格から既履修科目や学年等の条件がある場合があります。
- (2) 所属大学により、単位認定可能な講義の種類や単位数等が異なります。詳細は学生係に問い合わせください。

2. 出願方法等

- (1) 学生係の窓口で、毎年3月下旬の所定の期間に受け付けます。学生係の指示に従って手続きを行ってください。
- (2) 提出書類は、「学園都市単位互換講座出願票」のみです。1科目につき1枚記入してください。（2科目以上履修する方は、出願票をコピーして下さい）
- (3) 受講料は無料です。

3. 履修許可及び履修手続き

- (1) 科目開設大学等は、学園都市単位互換講座出願票に基づき選考を行います。
- (2) 選考結果は、4月中旬に学生係を通じて連絡します。
- (3) 前期については、履修者の確定が授業開始後になりますので、注意して下さい。
- (4) 科目によっては科目開設大学で別の手続きが必要な場合があります。この場合は、指示に従って手続きを行ってください。

(次ページへ続く)

4. 身分・成績等の取扱い

- (1) 履修を許可された学生は、科目開設大学の「特別聴講学生」となります。
- (2) 講義を受ける時の注意や試験の実施方法等は、科目開設大学の指示に従ってください。
- (3) 単位の認定や成績は、学生係を通じて連絡します。

5. 開講科目

- (1) 詳細は単位互換講座募集ガイドを参照してください。
- (2) 本校開講科目は、専攻科での単位であり、大学での単位とは認定されませんので注意してください。

《特別科目》

期	曜	科 目 名	担当大学	担当教員	単位	時 間
前	月	比較地域研究 I	神戸外大	並河	2	17:50～19:20
		会計学原理	流通科学大	木村	4	18:15～19:45
		現代思想文化論	神戸高专	本田	2	16:30～18:00
		応用倫理学	神戸高专	手代木	2	18:15～19:45
		「格差」からみる世界	神戸外大	守崎・大石	2	17:50～19:20
		日本史 2	神戸外大	長志	2	17:50～19:20
前	火	臨床心理学 I	神戸外大	村本	2	17:50～19:20
		マクロ経済学	県立大(学園)	橋本	4	16:30～18:00
		地域学	神戸高专	八百	2	18:15～19:45
		環境・建築デザインとは	神戸芸工大	小玉	2	16:30～18:00
		知的財産権論	流通科学大	小畑	2	18:15～19:45
期	水	会計学原理	流通科学大	木村	4	18:15～19:45
		女性と女性の健康	神戸市看護大	高田	1	16:40～18:00
		プロダクトデザイン史	神戸芸工大	森山	2	16:30～18:00
		医療英語	神戸市看護大	川越	1	18:15～19:45
期	木	ラテンアメリカ社会論	県立大(学園)	眞鍋	2	16:30～18:00
		歴史学方法論 I	神戸外大	指	2	17:50～19:20
		技術史	神戸高专	中辻	2	16:30～18:00

(次ページへ続く)

前期	木	ファイナンス市場論	流通科学大	福田	2	18:15~19:45
		米国の社会Ⅰ	神戸外大	南川	2	17:50~19:20
		国際取引法Ⅰ	神戸外大	植田	2	17:50~19:20
	金	ハンク*ル入門A=韓国語コミュニケーションⅠA	流通科学大	金 眞	2	18:15~19:45
		マクロ経済分析	県立大(学園)	橋本	4	16:30~18:00
後期	月	比較地域研究Ⅱ	神戸外大	並河	2	17:50~19:20
		哲学特講	神戸高专	本田	2	18:15~19:45
		女性と世界	神戸外大	長志・濱崎	2	17:50~19:20
		医療経済学	流通科学大	中島	2	18:15~19:45
	火	大気環境化学	神戸高专	根津	2	18:15~19:45
		臨床心理学Ⅱ	神戸外大	村本	2	17:50~19:20
		流通システム論	県立大(学園)	上瀬	4	16:30~19:45
		情報メディア論	県立大(学園)	秋吉	4	16:30~19:45
	水	哲学概論	神戸市看護大	松葉	2	18:15~19:45
		多国籍企業論	流通科学大	今西	2	18:15~19:45
	期木	文化人類学	神戸市看護大	紙村	2	18:15~19:45
		歴史学方法論Ⅱ	神戸外大	指	2	17:50~19:20
		貿易政策	流通科学大	岡島	2	18:15~19:45
		米国の社会Ⅱ	神戸外大	南川	2	17:50~19:20
		国際取引法Ⅱ	神戸外大	植田	2	17:50~19:20

《学内提供科目》

提供科目および曜日・時間等は、別途配付する『学園都市単位互換講座2008募集ガイド』を参照してください。開講時間は通常の時間帯(9:00~16:20)になります。

※単位互換講座 休講等の連絡は、UNITY掲示板及び専攻科棟掲示板・校内Eメールで、又科目開設大学の掲示板で確認して下さい。

出典：平成20年度専攻科のしおり(p10-12)

企業へのアンケート

総計（企業）
回答企業名（12社）

【A】採用実績について

過去5年の本科採用人数	0名	1名	2名	3～5名	6～10名
	4	1	0	4	3
	11～20名	21名以上			
過去5年の専攻科採用人数	0名	1名	2名	3～5名	6～10名
	5	6	0	1	0
	11～20名	21名以上			
過去5年の他の高専本科採用人数	0名	1名	2名	3～5名	6～10名
	4	2	0	1	0
	11～20名	21名以上			
過去5年の他の専攻科採用人数	0名	1名	2名	3～5名	6～10名
	7	1	1	0	0
	11～20名	21名以上			
	1	1			

【B】本科、専攻科に関して

	適切である	更に特化する	複合統合する	新学科設立
本科の形態について	10	2	0	0
専攻科の形態について	11	1	0	0

【C】学習教育目標について

	不満	やや不満	普通	ほぼ満足	満足
学習教育目標(A-1)の達成度	0	1	6	4	1
学習教育目標(A-2)の達成度	0	2	4	6	0
学習教育目標(B)の日本語達成度	1	4	3	4	0
学習教育目標(B)の英語達成度	3	7	0	2	0
学習教育目標(C-1)の達成度	0	1	8	3	0
学習教育目標(C-2)の達成度	0	2	4	3	3
学習教育目標(D)の達成度	0	3	7	2	0
重要と思われる学習教育目標	A-1	A-2	B		
	0	3	7		
	C-1	C-2	D		
	5	5	2		

【D】卒業生、修了生の評価について

本科卒業生が学部卒業生と比べて優れていると感じる点	開発力	創造力	企画力	行動力	専門知識
	0	0	0	4	2
	一般常識	管理能力	指導力	協調性	誠実さ
	1	0	0	4	6
	語学力	プレゼン能力	コミュニ能力	パソコン技術	製作技術
	1	0	0	3	0

(次ページへ続く)

専攻科修了生が学部卒業生と比べて優れていると感じる点	開発力	創造力	企画力	行動力	専門知識
	0	0	0	2	4
	一般常識	管理能力	指導力	協調性	誠実さ
	1	0	0	2	5
本科卒業生が学部卒業生と比べて劣っていると感じる点	語学力	プレゼン能力	コミュニケーション能力	パソコン技術	製作技術
	0	0	0	1	0
	開発力	創造力	企画力	行動力	専門知識
	0	0	0	1	2
専攻科修了生が学部卒業生と比べて劣っていると感じる点	一般常識	管理能力	指導力	協調性	誠実さ
	1	0	0	1	0
	語学力	プレゼン能力	コミュニケーション能力	パソコン技術	製作技術
	2	2	4	1	1
専攻科修了生が学部卒業生と比べて劣っていると感じる点	開発力	創造力	企画力	行動力	専門知識
	0	2	2	1	0
	一般常識	管理能力	指導力	協調性	誠実さ
	0	0	0	0	0
	語学力	プレゼン能力	コミュニケーション能力	パソコン技術	製作技術
	4	3	3	0	0
	不満	やや不満	普通	ほぼ満足	満足
	卒業生の英語の能力	3	2	2	0
修了生の英語の能力	3	4	2	0	0
卒業生の勤務評価	0	1	4	3	1
修了生の勤務評価	0	1	6	2	0

【E】資格について

	300以上	400以上	500以上	600以上	700以上
入社時に必要なTOEICの点数	2	6	1	3	0
入社後に必要なTOEICの点数	1	3	3	4	1
採用時にTOEICを考慮しますか？	する:0		しない:10		
採用時に考慮している資格は？	ある:2		ない:9		
貴社で推奨している資格は？	ある:6		ない:6		

【F】今後に関して

	増やしたい	現時点不明	減らしたい		
今後の卒業生の採用予定は？	2	8	0		
今後の修了生の採用予定は？	1	10	0		
採用したい職種は？ (本科、専攻科)	研究開発	設計	生産管理	品質管理	営業
	4, 5	4, 6	3, 1	2, 1	1, 1
インターンシップは受入れていますか (本科、専攻科)	施工管理	SE	サービスE	プログラマ	調査企画
	0, 0	1, 2	2, 2	0, 0	0, 0
インターンシップは受入れていますか (本科、専攻科)	受入れている	受入れてない	今後、検討	話は聞きたい	予定なし
	5, 4	5, 7	2, 2	0, 0	4, 6

出典：評価委員会資料

観点5-6-①： 教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。（例えば、教材の工夫、少人数授業、対話・討論型授業、フィールド型授業、情報機器の活用等が考えられる。）

（観点に係る状況）

各専攻における、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスについて、（資料5-6-①-1）によって示す。どの専攻も講義の割合はほぼ70%程度で30%程度の講義以外の演習、実験、研究などを含んだ構成をしている。

本校の専攻科科目の多くは少人数で実施されている。一部の科目では、討論型の授業を行っている（資料5-6-①-2）。

（分析結果とその根拠理由）

授業の方法・内容によって、授業形態を講義、演習、実験（研究）に分類し、教育の目的に照らしてこれらを適切な割合で配置することにより教育課程を構成している。また、小人数教育や討論型での学習など、教育内容に応じた学習の工夫をしている。

資料5-6-①-1

専攻科課程の学習・教育目標ごとの講義・演習・実験実習の構成割合(例)

機械工学科(設計システムコース)→機械システム工学専攻の学生が修了時に身に付ける学力や資質・能力の各項目に対する専門科目授業形態の割合

学科名	学年	合計単位数 割合	A				B				C				D			
			講義	演習	実験・ 実習	累計	講義	演習	実験・ 実習	累計	講義	演習	実験・ 実習	累計	講義	演習	実験・ 実習	累計
機械システム工学専攻	A1年	合計単位数	24.9	10.9	0.0	35.8	6.0	2.6	2.1	10.7	0.6	0.6	5.9	7.1	2.3	0.1	1.0	3.4
		割合	69%	31%	0%	100%	56%	25%	20%	100%	9%	8%	83%	100%	67%	4%	29%	100%
	A2年	合計単位数	10.8	3.2	0.2	14.2	0.4	0.4	2.6	3.4	6.5	0.9	6.1	13.5	1.6	0.2	0.1	1.9
		割合	76%	23%	1%	100%	12%	11%	76%	100%	48%	7%	45%	100%	82%	13%	5%	100%
	合計	合計単位数	35.7	14.1	0.2	50.0	6.4	3.0	4.7	14.1	7.1	1.5	12.0	20.6	3.8	0.4	1.1	5.3
		割合	71%	28%	0%	100%	45%	21%	33%	100%	34%	7%	58%	100%	72%	7%	21%	100%

機械工学科(システム制御コース)→機械システム工学専攻の学生が修了時に身に付ける学力や資質・能力の各項目に対する専門科目授業形態の割合

学科名	学年	合計単位数 割合	A				B				C				D			
			講義	演習	実験・ 実習	累計	講義	演習	実験・ 実習	累計	講義	演習	実験・ 実習	累計	講義	演習	実験・ 実習	累計
機械システム工学専攻	A1年	合計単位数	24.9	10.9	0.0	35.8	6.0	2.6	2.1	10.7	0.6	0.6	5.9	7.1	2.3	0.1	1.0	3.4
		割合	69%	31%	0%	100%	56%	25%	20%	100%	9%	8%	83%	100%	67%	4%	29%	100%
	A2年	合計単位数	10.8	3.2	0.2	14.2	0.4	0.4	2.6	3.4	6.5	0.9	6.1	13.5	1.6	0.2	0.1	1.9
		割合	76%	23%	1%	100%	12%	11%	76%	100%	48%	7%	45%	100%	82%	13%	5%	100%
	合計	合計単位数	35.7	14.1	0.2	50.0	6.4	3.0	4.7	14.1	7.1	1.5	12.0	20.6	3.8	0.4	1.1	5.3
		割合	71%	28%	0%	100%	45%	21%	33%	100%	34%	7%	58%	100%	72%	7%	21%	100%

電気工学科→電気電子工学専攻の学生が修了時に身に付ける学力や資質・能力の各項目に対する専門科目授業形態の割合(H22年度修了生)

学科名	学年	合計単位数 割合	A				B				C				D			
			講義	演習	実験・ 実習	累計	講義	演習	実験・ 実習	累計	講義	演習	実験・ 実習	累計	講義	演習	実験・ 実習	累計
電気電子工学専攻	A1年	合計単位数	24.4	7.6	0.0	32.0	4.0	3.8	2.1	9.9	1.4	1.4	6.5	9.3	2.0	0.4	0.2	2.6
		割合	76%	24%	0%	100%	40%	38%	21%	100%	15%	15%	70%	100%	77%	15%	8%	100%
	A2年	合計単位数	5.0	3.0	0.2	8.2	0.0	1.2	2.6	3.8	7.8	3.2	6.1	17.1	2.8	1.0	0.1	3.9
		割合	61%	37%	2%	100%	0%	32%	68%	100%	46%	19%	36%	100%	72%	26%	3%	100%
	合計	合計単位数	29.4	10.6	0.2	40.2	4.0	5.0	4.7	13.7	9.2	4.6	12.6	26.4	4.8	1.4	0.3	6.5
		割合	73%	26%	0%	100%	29%	36%	34%	100%	35%	17%	48%	100%	74%	22%	5%	100%

出典：教育プログラム委員会資料

討論型の授業のシラバス

神戸市立工業高等専門学校 2008年度シラバス

科目	専攻科ゼミナールI (Advanced Course Seminar I)		
担当教員	山本 和男 准教授, 西 敬生 准教授, 藤本 健司 准教授, 赤松 浩 准教授, 加藤 真嗣 講師		
対象学年等	電気電子工学専攻・1年・前期・必修・2単位		
学習・教育目標	B4(60%) C2(40%)	JABEE基準1(1)	(d)2-a,(d)2-b,(d)2-c,(e),(f),(g)
授業の概要と方針	専門工学に関連する外国語文献を輪読する。担当部分について、その内容を説明し考察を述べるとともに討論をゼミナール形式で行う。幅広い工学分野の新しい学識を得るとともに、関連する文献を調査することにより最新技術や研究の手法について実践的に学ぶ。		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【B4】電気電子工学関連の英語の文献を、必要最小限の辞書の活用により読解し、その内容を把握し的確に説明することができる。		担当者が学生の発表内容をもとに評価する。
2	【C2】英語の論文から有用な情報を引き出し研究に生かす方法を身に付ける。		担当者が学生の発表内容に関する質疑応答等から評価する。
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は、担当者の評価100%として評価する。担当者ごとに各学生の発表、提出資料、質疑などをもとに100点満点で評価し、5名の平均点(100点満点)で評価する。60点以上を合格とする。		
テキスト	各担当教員が必要に応じて準備する。		
参考書	各担当教員が必要に応じて準備する。		
関連科目	英語, 工業英語: これらの内容をさらに研究に近い内容に発展させたものである。		
履修上の注意事項	事前に資料が配布される場合があるので、各教員と連絡を取っておくこと。		

(次ページへ続く)

観点5-6-②： 創造性を育む教育方法（PBL など）の工夫やインターンシップの活用が行われているか。

（観点に係る状況）

1年次必修科目のシミュレーション工学では、自由課題として数学モデルの設計ならびにそのモデルの解析を行い、解析結果についてプレゼンテーション、ディスカッションを行っている（資料5-6-②-1）。

また、選択科目ではあるが、専門展開科目として「専攻科特別実習」の科目を設け、インターンシップを単位化している（前述の資料5-5-①-1）。さらに、専門共通の選択科目である「技術史」の授業を設け、エンジニアリングデザイン教育を行っている（資料5-6-②-2）。

専攻科特別実習は受講希望者が少なく、今後改善の余地がある。技術史は選択科目ではあるものの受講生が多く、「遅速、逆転、破壊、転用、五感の発想ツールと技術開発の関係」を学べ、必修のシミュレーション工学と共に、エンジニアリングデザイン教育として重要である。

また、「現代思想文化論」は異文化理解を通じて、広義の意味の創造性や倫理観の習得をもたらすものであり、特徴ある講義の一つとなっている。

（分析結果とその根拠理由）

シミュレーション工学、技術史、現代思想文化論などで、創造性を育む教育方法の工夫が行われている。

シミュレーション工学のシラバス

科 目	シミュレーション工学 (Simulation Engineering)		
担当教員	藤本 健司 准教授, 朝倉 義裕 講師		
対象学年等	全専攻・1年・後期・必修・2単位		
学習・教育目標	A2(50%) A3(50%)	JABEE基準1(t)	(c),(d)1
授業の概要と方針	シミュレーションは、対象とする現象を定量的に解明し、その現象を利用したデバイスやシステムの解析、設計に役立てることを目的としており、対象の理解に基づいた数学的モデルの作成、シミュレーション技法の修得が必要である。本講では、数式処理システムである Mathematica を実際に使いながらシミュレーションについて学ぶ。		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【A2】シミュレーションの概念を理解し、シミュレーションを適切に行う事ができる。		授業の最後に出す課題のレポートにより評価を行う。
2	【A2】数学や、物理学の有名な事象、現象に対してシミュレーションを行い解析することができる。		数学や、物理学の有名な事象、現象に対してシミュレーションを行っているかレポートの内容で評価する。
3	【A3】各自でテーマを設定し、そのテーマに対してシミュレーションを行い解析することができる。		自分の研究分野においてテーマを設定し、シミュレーションを行えるかどうか、自由課題のレポートで評価を行う。
4	【A3】自分の研究分野に関するシミュレーション結果の説明、及び討議ができる。		プレゼンテーションの資料、内容、討議により評価する。
5			
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は、レポート30%、プレゼンテーション40%、自由課題の内容30%として評価する。100点満点で60点以上を合格とする。なお、原則としてレポートは当日に提出しているもののみ評価する。		
テキスト	「Mathematica数値数式プログラミング」上坂吉則著(牧野書店)		
参考書	「工学系のためのMathematica入門」小田部荘司著(科学技術出版)		
関連科目	各科によって関連科目は異なる。それぞれ本科において、M科は情報処理、E科は情報処理、D科はソフトウェア工学、C科は情報処理、S科は情報処理の知識を身につけている事が重要である。		
履修上の注意事項	また、今年度はAM1とAC1を合同した1グループと、AE1とAS1を合同した1グループの2つのグループに分け授業を行う。AE1とAS1のグループを藤本が、AM1、AC1のグループを朝倉が担当する。		

(次ページへ続く)



授業実践を通じた技術史教育とその必要性

中辻 武

正会員 神戸市立工業高等専門学校 機械工学科 (〒651-2194 兵庫県神戸市西区学園東町 8-3)

E-mail: nakatujj@kobe-kosen.ac.jp

技術の歴史的な進展の過程を理解することは、将来の技術発展の方向性を把握することにつながる。また、基本的な原理や法則の理解が発明の根幹にあることも実感できるようになる。さらに、高度な卒業研究や特別研究であっても、多くの場合、突然の発想で生まれてくるものではなく、何らかの歴史的な進展の過程を経て存在していることも、自身の研究テーマの進展史を調べることによって理解できるようになる。また、それにより自身の研究の意義や位置付けが可能になる。このように本論の主旨は、学生自身に将来の技術予測や発明および研究の本質やその意義について考えさせることにある。

Key Words: education, history, technology, necessity

1. はじめに

神戸研究学園都市連絡協議会は、1999年4月より7大学1高専（現在は5大学1高専）の相互交流の一環として、単位互換制度を発足させた。また、2000年4月より高大連携も立ち上げた。本校はユニティ開講科目として哲学特論、地域学、現代思想文化論、技術史の科目を提供することになり、小生は、学園都市駅に隣接した共同利用施設ユニティで技術史を教えることになり、半期、4大学1高専（専攻科）2高校の学生に授業を行ってきた。その間、技術の歴史の講義や学生とのディスカッションを通じて、私自身、技術史教育の重要性を再認識した。まだまとまったことは言えないが、授業内容、学生が書いた種々の感想文および授業アンケート結果等を紹介しながら、技術教育の実践例の一つとしての技術史教育の内容とその必要性^{1), 2)}についての報告をしたい。

2. 授業の理念と目的

図-1に技術史の講義要目を示す。毎回、講義だけではなく、簡単な計算と討論の時間を設けている。受講生は30人程度と小人数であるため、マンツーマンの教育が可能となっている。成績は授業の感想レポートおよび各人の研究テーマの進展史のレポートで評価している。各週1テーマの講

技術史 *History of Technology* 2単位

大学名：神戸市立工業高等専門学校 担当教員：中辻 武

開講期間：前期（4/12-7/26） 開講日・時間：木曜 16:30

-18:00 対象学年：1年以上

募集人数：30名

<科目内容>

技術の歴史的発展を把握することは、将来の技術の進むべき方向に対する有用な示唆を与える。本講義では、工学的な観点から従来の技術史を見つめ直すとともに、とくにそのルーツについて明示したい。古代にまで遡ると考古学的資料も少ないが、比較的原形を保っている象形文字すなわち契文や金文などの中国古代文字やエジプトのヒエログリフが実体模写の典型的なものとして、ルーツ探求の有力な武器の一つとなる。本講義では技術の文化史的な流れに立脚しながらも、工学的なメスを入れつつ、歯車、軸受、ねじ、車、船、織機、湧水筒、トライボロジー等の発展の歴史について詳細に説明する。

<評価方法・教科書>

各人の研究テーマの進展史および授業の感想文等をレポートにまとめて提出していただく。オリジナルテキストを用意する。

<履修にあたって>

講義を通じて機械工学の技術史を把握するとともに、レポートにより自身のテーマの歴史的認識を深める。

図-1 技術史の授業要目

義をし、15週で完結するようにしている。

(1) 本講義の理念

a) 農耕民族・騎馬民族説に立脚した技術史概説

観点5-6-③： 教育課程の編成の趣旨に沿って、シラバスが作成され、事前に行う準備学習、教育方法や内容、達成目標と評価方法の明示など内容が適切に整備され、活用されているか。

(観点に係る状況)

適切なシラバスの作成のため、各担当教員がシラバス作成後2名のチェックを受けることになっている。チェック担当者は特に留意すべき点について、チェックシートによりシラバスを点検することになっている(前述の資料5-2-②-1)。

シラバスの一例は前述の資料5-6-②-1に示す。

シラバスには各週の授業計画が記載され、小テストなどの計画も明示されている。シラバスは授業の初めに教員から説明し、ノート等に綴じさせて、学生に常に利用させている。また、記載された評価方法に基づき、評価シートにより成績評価を行っている(前述の資料5-2-②-4)。

これら資料は学校で一括保管されている。

(分析結果とその根拠理由)

シラバスは作成時に複数教員がチェックするなど適切に作成され、学生も利用し、教員もシラバスに基づき評価するなど十分に活用されている

観点5-7-①： 専攻科で修学するにふさわしい研究指導(例えば、技術職員などの教育的機能の活用、複数教員指導体制や研究テーマ決定に対する指導などが考えられる。)が行われているか。

(観点に係る状況)

本専攻の卒業と密接に関係しているJABEE修了要件として、学会発表を義務付けている。専攻科特別研究I、専攻科特別研究IIの報告会を年2回実施しており、2年間で4回も研究発表を行うカリキュラムになっている(資料5-7-①-1)、加えて、ほぼ全員が学位授与機構に学位申請を行うため、学修成果報告書を2年次の9月に提出している。

他にも多くの学生が学校主催の産学官技術フォーラムにおいてポスター発表、オーラル発表を行っている。

(分析結果とその根拠理由)

大学の卒業研究等と異なり、2年間の研究期間において4回以上の専攻内の発表を行っており、学科の他の教員から受ける指導の機会が多いなど、学生の研究を多数の教員でサポートする仕組みがあると同時に、フォーラムを通じて企業等からも意見をいただく機会が多く、十分な研究指導が行われている。

専攻科生の研究報告会について

Date: Wed, 17 Jan 2007 21:25:31 +0900
 From: 赤対秀明 <shakutui@kobe-kosen.ac.jp>
 To: gijiroku@kobe-kosen.ac.jp
 Subject: (gijiroku:00047) 第10回専攻科運営委員会議事録

各位

下記のとおり、専攻科運営委員会の第10回議事録をお届けします。

平成18年度 第10回専攻科運営委員会議事録

日時：平成19年1月10日（水）16:30～18:30

場所：専攻科長室

出席者：赤対、長、斉藤、山本（誠）、西、中尾、八木、中川、山下、東

記録：中尾

I 報告・確認事項

1. 総合試験

第1回合格 I : 6/9、II : 3/11、

第2回合格 I : 3/3、II : M以外全員合格（Mは1名合格
3名不合格、引続き再試験実施中）

中略

II 当面の行事に関すること

1. ラグビー決勝の応援について

日時：1月9日（火）この日は、月曜日の授業である。本科は、
全員で応援に出かけるが、専攻科は通常授業とした。

2. 最終発表会の日程について

(1) 日時：平成19年1月31日（水）9:00～15:00

(2) 会場：

第1会場：専攻科大講義室（予約済み）

9:00～E専攻（17人）

第2会場：ホール（予約済み）

9:00～M専攻（6人）：会場準備（ホールの暖房依頼も）

11:00～C専攻（5人）

13:05～S専攻（6人）：会場片付け

他専攻の発表を聴講可

(3) その他

・発表10分、質疑5分（学科ごとに決める）、各専攻で要旨集を作成

・専攻科大講義室に新しい液晶プロジェクターが配置された。

(4) 1年生については、3月初旬各専攻で、中間発表会を実施

3. 特別研究論文集の作成日程

専攻主任へ提出締切：2月16日（金）

学生係へ提出締切：2月20日（火）

論文の書式は研究紀要に準じる。6ページで作成する。

観点5-8-①： 成績評価・単位認定規定や修了認定規定が組織として策定され、学生に周知されているか。また、これらの規定に従って、成績評価、単位認定、修了認定が適切に実施されているか。

(観点に係る状況)

成績評価、単位認定規定、修了認定規定は、学則ならびに「専攻科の授業科目の履修などに関する規定」として定められている。この規定は学則第45条3項、第51条により教育長の承認を得て、校長が定めることになっている(資料5-8-①-1)。

これらの規定は専攻科全学生に配布される専攻科のしおりにより学生に周知されている。

成績評価は各授業担当者がシラバスに基づき実施し、校長、専攻科長、教務主事、学生主事、事務室長、専攻主任、専攻科授業担当教員が出席する修了認定会議において修了認定を行っている。

(分析結果とその根拠理由)

成績評価・単位認定規定や修了認定規定が組織として策定され、学生に周知されている。また、これらの規定に従って、成績評価、単位認定、修了認定が適切に実施されている。

8. 専攻科の授業科目の履修等に関する規程

〔制定 平成10年4月1日〕
〔改正 平成18年4月1日〕

(趣 旨)

第1条 この規程は、神戸市立工業高等専門学校学則（以下「学則」という。）第45条第3項及び第51条の規定に基づき、専攻科の授業科目の履修方法及び成績の評価並びに修了の認定に関して必要な事項を定めるものとする。

(単位の計算方法)

第2条 各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45単位時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。

- (1) 講義については、15単位時間をもって1単位とする。
- (2) 演習及び特別研究については、30単位時間をもって1単位とする。
- (3) 実験については、45単位時間をもって1単位とする。
- (4) 特別実習については、別に定めるところにより、毎週40単位時間3週以上をもって2単位とする。

(履修方法)

第3条 専攻科に開設されている授業科目のうち選択科目の履修にあたっては、受講科目の履修届を所定の期日までに提出しなければならない。

(試験等)

第4条 専攻科の試験は、学期末に期日を定めて行う試験（以下「定期試験」という。）、追試験及び再試験とする。

- 2 病気その他やむを得ないと認められる理由によって定期試験を受験できなかった者については、追試験を行うことができる。
- 3 定期試験又は追試験において不合格となった者について、再試験を行うことができる。
- 4 平素の成績によって評価できる科目については、試験を行わないことができる。

(成績の評価)

第5条 学業成績は、各授業科目ごとに、試験の成績及び平素の成績を総合して100点法で評価する。ただし、専攻科特別研究等については、合格又は不合格で評定する。

- 2 学業成績を評語で表す場合の区分は、次のとおりとする。

学 業 成 績	評 語
80点～100点	優
70点～79点	良
60点～69点	可
0点～59点	不 可

(次ページへ続く)

(単位の認定)

第6条 前条第2項に定める成績が「可」以上に評価された授業科目の単位について、修得を認定する。

2 大学において修得した単位は、16単位を超えない範囲で専攻科における授業科目の履修とみなし、その単位を認定することができる。ただし、専攻に係る科目以外の科目は、8単位を超えない範囲で認定することができる。

3 大学で開設されている授業科目の履修を希望する場合には、受講申告書を事前に校長に提出しなければならない。

(他の専攻の授業科目の修得)

第7条 教育上支障がない場合は、他の専攻の専門展開科目を履修し、単位を修得することができる。

2 前項の規定に基づき認定される単位は、6単位を限度として当該専攻の修了認定要件の単位に含めることができる。

(進級)

第8条 休学等特別の場合を除き、第2学年への進級を認める。

(再履修)

第9条 単位を修得できなかった授業科目のうち修得する必要がある科目は、原則として次年度に再履修しなければならない。

2 再履修する場合は、第3条に規定する手続きを行うものとする。

(修了認定会議)

第10条 修了認定会議は、次の者をもって構成する。

- (1) 校長
- (2) 専攻科長、教務主事、学生主事
- (3) 事務室長
- (4) 専攻主任
- (5) 専攻科授業担当教員

(修了認定)

第11条 専攻科の修了認定は、第5条から第9条の規定に基づき修了認定会議の審議を得て校長が、これを決定する。

(修了認定会議の開催)

第12条 会議は、校長が必要に応じてこれを招集する。

(記録)

第13条 会議に係る記録は、校長が委嘱した記録担当者が行う。

出典：平成20年度学生便覧(p53-55)

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

教育課程は教育の目的に照らして体系的に編成されている。講義と実技のバランスが適切であり、それぞれの内容に応じた指導方法の工夫がなされている。授業概要、到達目標、詳細な評価方法、学習・教育目標、授業計画等が記載されているシラバスが作成され、これに沿って授業が行われるとともに、成績評価が評価シートを用いて適切に実施されている。進級や卒業の基準が定められ、これに沿って認定が行われている。生活指導やクラブ活動を支援する体制が整備され、様々な行事やクラブ活動により人間素養の涵養がなされている。特にクラブ活動では多くの体育系クラブが全国大会に出場するなど、活動が活発的である。専攻科においても、本校の目的に沿った教育課程が編成され、教育課程を展開するにふさわしい授業形態と指導方法が採用されていることに加え、学園都市単位互換講座など、他校では簡単に実現できないサービスを提供している点は特に評価できる。

(改善を要する点)

今後、PBL 教育をさらに充実させるべく、e-learning の活用やインターンシップの実施期間延長など授業改善に取り組みたい。e-learning に関しては、平成 20 年 4 月 1 日から導入されている。

(3) 基準5の自己評価の概要

準学士課程においては高専制度に特有の5年間一貫教育を生かすために、一般科目・専門科目を楔形にバランスよく配置している。カリキュラムの作成にあたっては、学生や外部からの意見を反映させるしくみを有しており、それがカリキュラムの改善や学習指導法の工夫と結びついている。教育課程の編成や成績の評価にあたっては、手続きに従って、各委員会、会議において審議され、厳密な評価と問題への対応が行われている。またインターンシップやホームルームでの特別活動に対する時間が保証されており、創造性や人間性を育む教育を行っている。また学校行事や課外活動を通じた人間性の涵養にも努めており、それらを通じた教育的効果も認められる。

専攻科課程については、より専門性を深めると同時に、他の工学分野と共通する一般教養、専門共通の科目も修得できるように配慮されたカリキュラムがある。カリキュラムの作成にあたっては、学生や外部からの意見を反映させるしくみを有しており、それがカリキュラムの改善や学習指導法の工夫と結びついている。またシラバスの活用を通じて、学生および他の教員とのカリキュラムに対する認識を共有できるよう図られている。専攻科課程では外部に発表できるレベルの研究指導を図るしくみが機能している。教育課程の編成と成績評価については、準学士課程と同様、手続きが整備され、厳密に適用されている。

また、両課程とも PBL 教育を導入し、より実践型、より開発型の技術者の育成を目指している。

基準6 教育の成果

(1) 観点ごとの分析

観点6-1-①： 高等専門学校として、その目的に沿った形で、課程に応じて、学生が卒業（修了）時に身に付ける学力や資質・能力、養成する人材像等について、その達成状況を把握・評価するための適切な取組が行われているか。

（観点到係る状況）

[準学士課程]

本校では、上記達成状況を把握・評価するために、平成19年8月に教育プログラム委員会にて到達目標と配当科目との関係を整理し（前述の資料5-1-①-4）、各教科を履修・習得することで目的が達成されるようにした。達成状況の把握・評価は、年度末に行われる1年から4年の進級認定会議および5年の卒業の認定会議で行われる。両会議は、「学業成績評価及び進級並びに卒業の認定に関する規程」（資料6-1-①-1）に従って行われ、校長をはじめ関係教員により審議・決定される。平成18年度から準学士課程の1年及び4年の成績評価の合格基準が55点から60点に変更され、その後、学年進行で変更がなされ、平成20年度からは全ての学年で合格基準が60点となった。また、平成17年に行われた高等専門学校設置基準の一部改正により新たな単位計算方法（学修単位）が認められ、一部大学と同等の単位を導入することができるようになった。本校では平成18年度にカリキュラム検討委員会を設け、各学科のカリキュラム及び単位計算について検討を行い、教務委員会に答申し、教務委員会で検討の結果、平成19年度より新単位計算に基づく単位が導入されている。これらにより、準学士課程の学生が卒業時に身につける学力や資質・能力の評価基準について、外部の高等教育機関との整合性が高められた。

[専攻科課程]

専攻科についても、基本的には本科と同様に、修了に必要な単位を履修・習得することで目的が達成されるようになっている。達成状況の把握・評価は、年度末に行われる修了認定会議で行われる。この会議は、「専攻科の授業科目の履修等に関する規程」（資料6-1-①-2）に従って行われ、校長をはじめ関係教員により審議・決定される。さらに、これらは単位規程だけではなく、学習・教育目標の達成度の観点も踏まえて評価される（具体例は訪問調査時に提示する予定）。

（分析結果とその根拠理由）

準学士課程、専攻科課程ともに学習・教育目標について定めた卒業時の具体的到達目標が主体であり、それを各教科に反映させている。本科から進学した専攻科生は基本的にJABEE（工学系複合プログラム）対象者であり、修了要件を併せて定めている。現時点では、専攻科のカリキュラムは専攻科の修了要件を満たせば必然的にJABEEの修了要件を満たすように構成されているが、専攻科の修了要件とJABEEの修了要件の一部が異なっているため、両修了要件を検討し、平成21年度入学生から統一した。

なお、これまでの専攻科修了者は全員、大学評価・学位授与機構のより学士の学位を受けており、JABEE認定後はJABEEの修了要件も満たして来ているので、これまでの達成状況の把握・評価に関しても適切な取組が行われているといえる。

1. 学業成績評価及び進級並びに卒業の認定に関する規程

〔制定 昭和41年4月1日〕
〔改正 平成19年4月1日〕

第1章 総 則

第1条 この規程は神戸市立工業高等専門学校における試験・学業成績の評価・進級及び卒業の認定について定める。

第2章 単 位 数

第2条 単位数は、次のとおりとする。

- (1) 学修単位Ⅰ 1単位は30単位時間の授業を行う。
- (2) 学修単位Ⅱ 1単位を45時間の学修を必要とする内容とし、15単位時間の授業を行う。
- (3) 学修単位Ⅲ 1単位を45時間の学修を必要とする内容とし、30単位時間の授業を行う。

なお、50分の授業は1単位時間、90分の授業は2単位時間として扱う。

1～3学年の授業科目の単位数は学修単位Ⅰを適用。4～5学年の授業科目の単位数は学修単位Ⅰ、学修単位Ⅱ及び学修単位Ⅲで構成する。

第3章 試 験

第3条 試験は、定期試験、中間試験及び必要に応じて随時、臨時試験を行うものとする。

2 定期試験及び中間試験は、期日を定めて実施するものとし、試験の開始10日前までに、試験科目及び時間表を学生に発表する。

第4条 定期試験及び中間試験を病気・忌引などその他やむを得ない理由で受験できなかった学生に対しては追試験を行うことができる。

2 追試験の成績は、その試験成績の80%で評価する。

第5条 故意に試験を忌避したと認められた者は、当該試験の成績を0点とする。

2 試験中、不正行為を行った者は、当該試験期間中の全科目の試験成績を0点とする。

第4章 学業成績の評価

第6条 年間欠課時数が年間授業総時間の1/3を超えない科目を「履修科目」とし、「評価」を行う。1/3を超える科目は「不履修科目」とし、評価は行わない。

第7条 学業成績の評価は、各授業科目ごとに、試験の成績及び平素の成績を総合して行う。

2 試験成績は、定期試験、中間試験により評価するものとする。

3 平素の成績は、学習態度が良好なことを前提としてレポート及び演習等を総合して評価するものとする。

4 学年成績の評価は、各学期末の学業成績を総合して行う。ただし、前期のみ又は後期のみで修了する科目については、学期末の学業成績を学年成績とする。

第8条 科目担当教員は、必要に応じてレポート及び演習等の成績を試験成績に代えることができる。

第9条 科目担当教員が二人以上のときの学業成績は、当該担当教員が協議してその評価を行う。

第10条 学業成績は100点法により評価し、60点以上の科目は単位の「修得」を認定する。評価が60点未満は「未修得」となる。

2 卒業研究の評価は、優、良、可及び不可の区別で行う。

3 学外実習を修得した場合の評価は、認定となる。

4 学業成績の優、良、可及び不可の評語の区分は次の通りとする。

8. 専攻科の授業科目の履修等に関する規程

〔制定 平成10年4月1日〕
〔改正 平成18年4月1日〕

(趣 旨)

第1条 この規程は、神戸市立工業高等専門学校学則（以下「学則」という。）第45条第3項及び第51条の規定に基づき、専攻科の授業科目の履修方法及び成績の評価並びに修了の認定に関して必要な事項を定めるものとする。

(単位の計算方法)

第2条 各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45単位時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。

- (1) 講義については、15単位時間をもって1単位とする。
- (2) 演習及び特別研究については、30単位時間をもって1単位とする。
- (3) 実験については、45単位時間をもって1単位とする。
- (4) 特別実習については、別に定めるところにより、毎週40単位時間3週以上をもって2単位とする。

(履修方法)

第3条 専攻科に開設されている授業科目のうち選択科目の履修にあたっては、受講科目の履修届を所定の期日までに提出しなければならない。

(試験等)

第4条 専攻科の試験は、学期末に期日を定めて行う試験（以下「定期試験」という。）、追試験及び再試験とする。

- 2 病気その他やむを得ないと認められる理由によって定期試験を受験できなかった者については、追試験を行うことができる。
- 3 定期試験又は追試験において不合格となった者について、再試験を行うことができる。
- 4 平素の成績によって評価できる科目については、試験を行わないことができる。

(成績の評価)

第5条 学業成績は、各授業科目ごとに、試験の成績及び平素の成績を総合して100点法で評価する。ただし、専攻科特別研究等については、合格又は不合格で評定する。

- 2 学業成績を評語で表す場合の区分は、次のとおりとする。

学 業 成 績	評 語
80点～100点	優
70点～79点	良
60点～69点	可
0点～59点	不 可

(単位の認定)

第6条 前条第2項に定める成績が「可」以上に評価された授業科目の単位について、修得を認定する。

観点6-1-②： 各学年や卒業（修了）時などにおいて学生が身に付ける学力や資質・能力について、単位修得状況、進級の状況、卒業（修了）時の状況、資格取得の状況等から、あるいは卒業研究、卒業制作などの内容・水準から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

[進学士課程]

- ・ 単位修得、進級、卒業時の成績評価等は適切になされている（資料6-1-②-1、資料6-1-②-2）。
- ・ 資格取得については、資格の取得を奨励のため資格取得による単位の認定は行っていないが、学科ごとに外部資格の取得を奨励し、指導している（資料6-1-②-3）。
- ・ 卒業研究では、各学科で予稿集を作り発表会を行い、それぞれ卒業研究報告書を作成している（資料6-1-②-4）。

[専攻科課程]

- ・ 単位修得、修了時の成績評価等は、JABEE に対応した基準も含め、適切になされている。
- ・ 資格取得については、専攻科では JABEE（技術修習生）取得を目標にしている。
- ・ 学協会での論文発表を義務づけている（資料6-1-②-5）。
- ・ 特別研究では、論文集を刊行している（資料6-1-②-6）。
- ・ 学協会やフォーラムにおける発表で賞を受けている学生がいる。詳細は訪問調査時に示したい（資料6-1-②-7）。

（分析結果とその根拠理由）

- ・ 教育の実績・効果は上がっている。
- ・ 本科・専攻科とも、留年・退学者は一部を除いて少なく、また、概ね全員が就職・進学できている。
- ・ 卒業研究報告書や特別研究論文集も、高専の卒業研究・制作および特別研究の報告としては一定の水準に達している。専攻科での外部発表では、学会で受賞する者もあり、十分高いレベルであるといえる。

資料6-1-②-1

平成18年度 進級・卒業・原級留置・退学者数一覽表

平成19年3月31日現在

学年	学 科	組	年度当初 在 籍 者	中途転入	原級留置	退 学	進級/卒業	備 考
1 年	機 械 工 学 科	A	40	0	2	0	38	
	機 械 工 学 科	B	40	0	1	0	39	
	電 気 工 学 科		41	0	1	0	40	
	電 子 工 学 科		40	0	0	1	39	
	応 用 化 学 科		40	0	0	0	40	
	都 市 工 学 科		41	0	1	1	39	
	1 年 小 計		242	0	5	2	235	
2 年	機 械 工 学 科	A	40	0	1	1	38	
	機 械 工 学 科	B	40	0	2	0	38	
	電 気 工 学 科		38	0	1	1	36	
	電 子 工 学 科		40	0	2	1	37	
	応 用 化 学 科		40	0	0	1	39	
	都 市 工 学 科		39	0	3	1	35	
	2 年 小 計		237	0	9	5	223	
3 年	機 械 工 学 科	D	42	0	1	1	40	
	機 械 工 学 科	C	41	0	1	5	35	
	電 気 工 学 科		42	0	0	4	38	
	電 子 工 学 科		39	0	2	0	37	
	応 用 化 学 科		40	0	1	3	36	
	都 市 工 学 科		41	0	0	2	39	
	3 年 小 計		245	0	5	15	225	
4 年	機 械 工 学 科	D	41	0	4	2	35	
	機 械 工 学 科	C	42	0	7	3	32	
	電 気 工 学 科		38	0	1	1	36	
	電 子 工 学 科		42	0	3	1	38	
	応 用 化 学 科		41	0	3	2	36	
	都 市 工 学 科		41	0	1	1	39	
	4 年 小 計		245	0	19	10	216	
5 年	機 械 工 学 科	D	41	0	1	0	40	
	機 械 工 学 科	C	37	0	1	0	36	
	電 気 工 学 科		36	0	0	0	36	
	電 子 工 学 科		36	0	0	0	36	
	応 用 化 学 科		32	0	0	0	32	
	都 市 工 学 科		32	0	1	0	31	
	5 年 小 計		214	0	3	0	211	
	合 計		1,183	0	41	32	1,110	

出典：教務主事室資料

平成19年4月
教務主事

平成18年度 学年末成績報告

クラス別平均点

科	学年	1年	2年	3年	4年	5年
	MA(MD)	76.2	74.1	75.9	74.7	72.4
	MB(MC)	74.3	74.2	76.6	68.7	71.8
	E	74.6	76.2	75.0	75.6	74.0
	D	77.2	72.8	76.6	74.2	73.8
	C	78.0	76.6	74.6	71.0	75.4
	S	74.3	71.2	79.3	78.3	73.8
	学年平均	75.8	74.2	76.3	73.8	73.5

平均 74.7

74.9-H17

74.2-H,16

74.4-H,15

74.0-H,14

科目別平均点の分布

評価点	科目数	割合
90点以上	6	1.1%
80点以上	67	12.4%
70点以上	362	66.9%
60点以上	106	19.6%
50点以上	0	0.0%
40点以上	0	0.0%
計	541	100.0%

70点以上

84.6%-H,17

78.1%-H,16

70.3%-H,15

65.3%-H,14

出典：教務主事室資料

資格取得について

資格試験関係

全学科共通

工業英検

年度		1級	2級	3級	4級
18年	受験者		3	24	8
	合格者		2	12	6
19年	受験者		1	28	19
	合格者		0	14	10

その他、危険物取扱者などの資格について案内を行なっている。

各科

M科(19年度)

ガス溶接技能講習会(4年)

学生 44名受講 全員合格

E科

H17年

第二種電気主任技術者 1名

第三種電気主任技術者 1名

第2種電気工事士 17名

H18年

第2種電気工事士 24名

H19年

第三種電気主任技術者 1名

第2種電気工事士 16名

*第2種電気工事士の筆記試験対策として、4月、5月の毎週木曜日の放課後90分の補講を7回実施。技能試験対策は、6月中旬から7月中旬にかけて、毎週水曜日の放課後90分の補講を4回実施。

*電気主任技術者に関しては、電気法規および電気機器の科目に関して、夏休み中に過去問題についての解説講義を半日を5回ずつ実施。

D科

情報処理技術者

H18年

初級シスアド 8名 基本情報 5名 ソフトウェア開発 2名

H19年

基本情報 1名

*希望があれば、資料を配布とか、補講を行なっている。

出典：教育プログラム委員会資料

プログラム

◆◆◆ 第1セッション 講演時間 9:05~10:35 (司会・進行 戸崎, 小矢) ◆◆◆

- | | | |
|------------------------------|-------|---------|
| 1 遠隔操作型車輪ロボットの開発 | 曾我 亮介 | (笠井研究室) |
| 2 dsPICを用いた光ピックアップのデジタル制御 | 村上 遼 | (笠井研究室) |
| 3 移動物体の追跡と速度推定 | 前場 宏美 | (笠井研究室) |
| 4 同期現象をモデル化した認知知能システムの開発 | 豊山 剛嗣 | (若林研究室) |
| 5 データマイニング・テキストマイニングに関する研究 | 岡平 正照 | (若林研究室) |
| 6 部分実行を用いたテストツールの開発 | 川島 聖仁 | (若林研究室) |
| 7 構造化ニューラルネットワークを用いた文字画像認識 | 中西 大樹 | (藤本研究室) |
| 8 初心者向けニューラルネットワークシミュレータの作成 | 茂利 智史 | (藤本研究室) |
| 9. JAVAを用いたe-learningシステムの開発 | 高田 宏明 | (藤本研究室) |

(休憩 10分)

◆◆◆ 第2セッション 講演時間10:45~12:15 (司会・進行 笠井, 橋本) ◆◆◆

- | | | |
|----------------------------|-------|---------|
| 10 光ファイバを用いた瞬き計測に関する研究 | 浦井 政尚 | (林研究室) |
| 11 参照光を用いた光ファイバ瞬きセンサに関する研究 | 小林 弘明 | (林研究室) |
| 12 人のキーボード入力特性に関する研究 | 濱田 勇輝 | (林研究室) |
| 13 キーボード入力時間間隔のゆらぎ特性に関する研究 | 荻谷 明昌 | (林研究室) |
| 14 種々の照明下における明るさマッチング | 常深 義博 | (尾崎研究室) |
| 15 RGBホトセンサを用いた簡易色彩計の製作 | 坂本 祥平 | (尾崎研究室) |
| 16 LBD光源のグレアに関する研究 | 津田 恵実 | (尾崎研究室) |
| 17 LBD交照法による分光視感効率の計測 | 神 真司 | (尾崎研究室) |
| 18 CT画像を用いた血管の3次元構造の作成 | 田淵 正俊 | (小矢研究室) |

(昼休み 12:15-13:05)

◆◆◆ 第3セッション 講演時間13:05~14:35 (司会・進行 若林, 藤本) ◆◆◆

- | | | |
|--|--------|---------|
| 19 細線化を用いた身体部位の検出 | 林 啓太 | (小矢研究室) |
| 20 防犯カメラ画像からの人物抽出 | 淀川 静花 | (小矢研究室) |
| 21 MOD法によるEu添加BaAl ₂ S ₄ 薄膜の作製 | 鳴尾 貴空 | (西研究室) |
| 22 Si基板へのCuAlS ₂ 薄膜の作製 | 網崎 恭祐 | (西研究室) |
| 23 有機金属塗布光分解法による酸化チタン薄膜の作製 | 金花 祐哉 | (西研究室) |
| 24 Bi置換YIG薄膜の平坦性向上に関する研究 | 城 侑生 | (西研究室) |
| 25 仮想空間における操作デバイスに関する研究 | 西尾 真由美 | (橋本研究室) |
| 26 仮想空間における操作性の向上に関する研究 | 西尾 崇 | (橋本研究室) |
| 27 プラズマソースイオン注入における短パルス高電圧電源の作成 | 堀 遼矢 | (橋本研究室) |

(休憩 10分)

◆◆◆ 第4セッション 講演時間14:45~16:15 (司会・進行 尾崎, 西) ◆◆◆

- | | | |
|--|-------|---------|
| 28 プラズマソースイオン注入におけるプラズマの計測に関する研究 | 橋本 瑞穂 | (橋本研究室) |
| 29 Theoretical Analysis of Non-linear On-line Learning for Ensemble Teachers | 内海 秀人 | (三好研究室) |
| 30 ブロック直交射影学習に関する研究 | 松山 達郎 | (三好研究室) |
| 31 確率的フィルタリングを用いた集団学習に関する研究 | 水野 一平 | (三好研究室) |
| 32 低密度パリティ検査符号の性能評価に関する研究 | 藤田 昌輝 | (三好研究室) |
| 33 顔画像を用いた個人認識システムの実装化に関する研究 | 池田 善紀 | (戸崎研究室) |
| 34 View Morphingを用いた顔の向き自動補正に関する研究 | 高田 公平 | (戸崎研究室) |
| 35 等高線画像からの立体復元に関する研究 | 幹 翔大 | (戸崎研究室) |
| 36 カメラキャリブレーションに基づく建造物の電子保存に関する研究 | 前田 一真 | (戸崎研究室) |

出典：電子工学科資料

AM専攻科生 発表一覧 (平成18年度修了生)		
学生氏名 (指導教員)	学年	No. 論文名、著者(掲載順)、誌名、巻号頁等、時期・開催地等(年代順)
北村英樹 (吉本隆光)	1年	1 水素噴流拡散火炎の挙動に関する実験的研究 吉本隆光、伊藤大介、北村英樹、高城敏美 日本燃焼学会、第43回燃焼シンポジウム講演論文、p144-145 (2005/12)
		2 噴流拡散火炎の挙動と安定要素に関する実験的研究 北村英樹、伊藤大介、安本祐治、塩島史哉、吉本隆光 産学官技術フォーラム 2005講演論文集 p21, 22 (2005/11) P/L
		3 正、逆拡散火炎の安定限界と火炎挙動に関する実験的研究 安本祐治、塩島史哉、北村英樹、伊藤大介、吉本隆光 産学官技術フォーラム 2005講演論文集p105 (2005/11)
		4 水素噴流拡散火炎の挙動に関する実験的研究 伊藤大介、北村英樹、吉本隆光 産学官技術フォーラム 2005講演論文集p104 (2005/11)
		5 正、逆拡散火炎での燃焼特性と安定要素に関する実験的研究 北村英樹、吉本隆光、伊藤大介、塩島史哉、高城敏美 日本機械学会関西支部81期総会一般講演論文集、pp12-25, 12-26 (2006/3)
		6 水素噴流拡散火炎の挙動に関する実験的研究 吉本隆光、伊藤大介、北村英樹、安本祐治、岡田進、高城敏美 日本機械学会関西支部81期総会一般講演論文集、pp12-23, 12-24 (2006/3)
		7 水素噴流拡散火炎における燃焼特性 安本祐治、塩島史哉、伊藤大介、北村英樹、吉本隆光、岡田進 日本機械学会関西学生会卒業研究発表講演会前刷集、p12-20 (2006/3)
		8 正、逆拡散火炎の挙動に関する実験的研究と数値解析 塩島史哉、安本祐治、伊藤大介、北村英樹、吉本隆光、岡田進 日本機械学会関西学生会卒業研究発表講演会前刷集、p12-17 (2006/3)
		9 水素噴流拡散火炎の挙動に関する実験的研究 伊藤大介、吉本隆光、神戸市立高専紀要集 神戸市立高専紀要集第44号、pp43-48 (2006/3)
		10 水素噴流拡散火炎の挙動に関する実験的研究 伊藤大介、吉本隆光、北村英樹、安本祐治、塩島史哉 日本高専学会誌 Vol.12 NO2, 第1回論文集 PP17-22 (6/2007) : 奨励賞受賞
	2年	11 Stability Limits, Behaviors and Characteristics of the Hydrogen Diffusion Flame T.Yoshimoto, D.Ito, H. Kitamura, H. Shiosima, Y. Yasumoto and T.Takag 31 st Ainternational Symposium Combustion, WIPP 377, Oct./2006
		12 高速噴流拡散燃焼での火炎安定限界と挙動 北村英樹、伊藤大介、安本祐治、塩島史哉、吉本隆光 日本機械学会年次大会講演論文集 Vol.3 P231' 232 (2006/9)
		13 噴流拡散火炎の挙動と安定要素に関する実験的研究 北村英樹、塩島史哉、安本祐治、永田雄一、吉本隆光 日本高専学会第12回年次大会講演論文集P137-138 (2006/8)
		14 水素噴流拡散火炎における燃焼特性 安本祐治、北村英樹吉、塩島史哉、永田雄一、吉本隆光 日本高専学会第12回年次大会講演論文集P155-156 (2006/8)
		15 噴流拡散火炎の挙動と安定要素に関する実験的研究 北村英樹、吉本隆光、塩島史哉、安本祐治、永田雄一、高城敏美 日本燃焼学会、第44回燃焼シンポジウム講演論文p168-169 (2006/12)
		16 水素噴流拡散火炎における火炎挙動と燃焼特性に関する実験的研究 吉本隆光、安本祐治、北村英樹、塩島史哉、高城敏美 日本燃焼学会、第44回燃焼シンポジウム講演論文p170-171 (2006/12)
		17 水素噴流拡散火炎における燃焼特性 安本祐治、北村英樹、塩島史哉、永田雄一、吉本隆光 神戸高専産学官技術フォーラム2006講演論文集、p.82 (2006/10) P
		18 噴流拡散火炎の挙動と安定要素に関する実験的研究 北村英樹、伊藤大介、安本祐治、塩島史哉、吉本隆光 産学官技術フォーラム 2006講演論文集 p81 (2006/10) P
		19 メタン拡散火炎構造に関する数値シミュレーション 塩島史哉、安本祐治、北村英樹、伊藤大介、吉本隆光 産学官技術フォーラム 2005講演論文集 p.85 (2006/11) P
		20 速噴流拡散火炎の挙動と安定要素に関する実験的研究 吉本隆光、北村英樹、高城敏美 日本機械学会関西支部82期総会一般講演論文集、p3-30 (2007/3)
		21 希薄燃焼での水素拡散火炎の挙動に関する実験的研究 安本祐治、北村英樹、永田雄一、吉本隆光、高城敏美 日本機械学会関西支部82期総会一般講演論文集、p3-29 (2007/3)
		22 予混合/拡散火炎における火炎安定に関する研究

(次ページへ続く)

			永田雄一、北村英樹、安本祐治、吉本隆光 日本機械学会関西学生会卒業研究発表講演会前刷集、(2007/3)
		23	噴流拡散火炎の挙動と安定要素に関する実験的研究 北村英樹、吉本隆光 神戸市立高専紀要集、第45号、p7-p12(2007/3)
姜貴暢 (小林洋二)	1年	1	変位出力を用いた動的フィードバックによる大型宇宙構造物のロバスト安定化制御 姜 貴暢, 小林 洋二 日本機械学会関西支部平成17年度関西学生会学生員卒業研究発表講演会前刷集、口頭発表、pp. 3、18 (2006. 3. 16)、同志社大学京田辺キャンパス
	2年	2	大型宇宙構造物の動的な不確かさに対するロバスト分散制御 姜 貴暢, 小林 洋二 神戸高専研究紀要、45、pp.19-24 (2007. 3. 1)
楠本正史 (小林滋)	1年	1	クローラ型レスキューロボットの開発 楠本正史, 小林滋, 村元四郎, 中村利成, 下土井康晴, 秋田健太郎, 高森年, 仲川宜秀, Nguyen Huu Minh 産学官技術フォーラム'05(ポスター) (H17.11)
	2年	2	レスキューロボットの走破性向上に関する研究 楠本正史, 小林滋 日本高専学会 第12回年会講演会(ポスター) (H18. 8)
長野正徳 (小林滋)	1年	1	マンボウロボットの開発 長野正徳, 小林滋, 村元四郎, 中村利成, 下土井康晴, 秋田健太郎 産学官技術フォーラム'05(ポスター) (H17.11)
	2年	2	マンボウロボットの開発研究 長野 正徳, 小林 滋 日本高専学会 第12回年会講演会(ポスター) (H18. 8) (優秀賞受賞)
伊藤 寛和 (嘉)	2年	1	インクジェット技術を用いた傾斜機能材料の開発 伊藤寛和, 早稲田 一嘉 日本高専学会第12回年会 2006/8/19
		2	インクジェット技術を用いた傾斜機能材料の開発 伊藤寛和, 早稲田 一嘉 神戸高専研究紀要、45、pp.13-18(2007. 3)
		3	インクジェット技術を用いた傾斜機能材料の開発 早稲田 一嘉, 伊藤寛和 日本高専学会誌論文特集号、第12巻2号、2007 63-68、Journal of JACT Vol. 12
竹田博昭 (赤対秀明)	1年	1	鉛直管内旋回気液二相流の流動特性に関する研究 竹田博昭, 赤対秀明, 大成博文 神戸高専産学官技術フォーラム'05技術シーズ&講演論文集、pp.108(2005. 11. 15)
	2年		鉛直管内旋回気液二相流の流動様式に関する研究 竹田博昭, 高垣慎太郎, 赤対秀明 神戸高専産学官技術フォーラム'06技術シーズ&講演論文集、pp. 35-38(2006. 11. 15) 鉛直管内旋回気液二相流の流動様式に関する研究(第2報) 竹田博昭, 高垣慎太郎, 赤対秀明 神戸高専研究紀要、45、pp.13-18(2007. 3)
			AE専攻科生 発表一覧(平成18年度修了生)
学生氏名 (指導教員)	学年	No.	論文名、著者(掲載順)、誌名、巻号頁等、時期・開催地等(年代順)
井上晴喜 (若林茂)	2年	1	プログラム間の類似性に関する研究 井上晴喜, 若林茂 教育システム情報学会第31回全国大会講演論文集、pp.401-402(2006. 8)
小原孝介 (藤井富朗)	2年	1	Air Creaning Test by Corona Reactor with Water K. Ohara, T. Fujii, Y. Arao and M. Rea 10th international Symposium on High Pressure Low Temperature Plasma Chemistry、(HAKONE X)、 Proceedings、5P-03、p.371-374 (Saga) 2006年9月
		2	コロナ放電リアクタによる燃焼排ガス中のダスト及びNOx処理 小原孝介、藤井富朗 神戸高専研究紀要、Vol. 45、p. 37-42 (2007年3月)
橋高勇介 (道平雅一)	1年	1	二次側位相シフトDC-ACコンバータの特性解析に関する研究 橋高勇介, 網本健志, 道平雅一, 加藤真嗣, 津吉彰 神戸高専産学官技術フォーラム'05、pp.57-58 (2005. 11. 19)、オーラル
		2	二次側位相シフトDC-ACコンバータの特性解析 橋高勇介, 堀江悟史, 道平雅一, 加藤真嗣, 津吉彰 パワーエレクトロニクス学会 12月定例会 講演論文集、pp.18(2005. 12. 17) オーラル&ポスター
木本恭平 (橋本好幸)	1年	1	歩行動作による仮想空間操作用デバイスの開発 木本恭平, 橋本好幸 平成17年電気関係学会関西支部連合大会講演論文集、G15-5、G329(2005)
越澤広幸 (松田忠重)	1年	1	フーリエ変換を用いたステレオ法による視差測定 越澤広幸, 松田忠重 電気関係学会関西支部連合大会
		2	CCDカメラを用いたフーリエ変換による距離計測

(次ページへ続く)

			越澤広幸, 松田忠重 神戸高専 産学官技術フォーラム'05 ポスターセッション 講演論文集 P117
	2年		フーリエ変換を用いたステレオ法による視差測定 越澤広幸, 松田忠重 神戸高専研究紀要, 45, pp. 43-48 (2007. 3)
極楽寺大樹			
山藤 佑太 (林昭博)	1年	1	人のキーボード入力特性の測定 山藤佑太, 西本和樹, 林昭博 神戸高専産学官技術フォーラム'05講演論文集, P306(ポスター) (2005. 10)
	2年	2	人のキーボードタイピング特性の測定 山藤佑太, 濱田勇輝, 林昭博 神戸高専産学官技術フォーラム'06講演論文集, P305(ポスター) (2006. 10)
		3	人のキーボード入力特性の測定 山藤佑太, 才木常正, 林昭博 平成18年電気関係学会関西支部連合大会講演論文集, G2-2(2006. 11)
		4	人のキーボードタイピング特性の測定 山藤佑太, 才木常正, 林昭博 神戸高専研究紀要, No. 45, pp. 55-60(2007. 3)
瀧大補 (西敬生)	1年	1	Si基板上へのカルコパライト形半導体薄膜の作製法 瀧大補, 小山倫太郎, 宇崎健史郎, 西敬生 産学官技術フォーラム'05講演論文集, pp. 41-42(2005. 11. 9)
	2年	2	MOD法によるCuAlS ₂ 薄膜の作製と基板依存性 宇崎健史郎, 網崎恭祐, 瀧大補, 西敬生 産学官技術フォーラム'06講演論文集, pp. 31-32(2006. 11. 15)
田口正樹 (津吉彰)	1年	1	潜熱蓄熱器を併用した熱電発電器の特性解明 田口正樹, 津吉彰, 道平雅一, 加藤真嗣 産官学フォーラム'05, P. 109
	2年	2	潜熱蓄熱器を用いた熱電発電器の特性解析 田口正樹, 瀧谷彰吾, 津吉彰, 道平雅一, 加藤真嗣 産官学フォーラム'06, P. 39-40
		3	潜熱蓄熱器の熱電発電への応用 田口正樹, 津吉彰, 道平雅一, 加藤真嗣 H19電気学会全国大会第7分冊P. 12-12
		4	潜熱蓄熱器利用熱電発電の実験による評価 加藤将, 田口正樹, 津吉彰, 道平雅一, 尼子邦之 産官学フォーラム'04 P. 129
		5	潜熱蓄熱器を併用した熱電発電器の特性解明 田口正樹, 津吉彰, 道平雅一, 尼子邦之 H16電気学会関西支部高専卒業研究発表会pp. 37-38
橘 賢治 (藤井富朗)	2年	1	円筒バリア放電リアクタによるNO _x 処理 橘賢治, 藤井富朗 平成18年電気関係学会関西支部連合大会 講演論文集G4-19, 2006年11月(大阪)
辰野隆 (道平雅一)	1年	1	マトリクスコンバータの基礎的検討 辰野隆, 原田卓, 道平雅一, 加藤真嗣, 津吉彰 神戸高専産学官技術フォーラム05, pp. 61-62 (2005. 11. 19)、オーラル
		2	高周波ACリンクDC-DCコンバータの高効率化に関する研究 横山 大, 辰野 隆, 玉出 芳久, 道平 雅一, 尼子 邦之, 津吉 彰 産官学技術フォーラム '04, pp. 126(2004. 11) ポスター
寺田将規 郎)	1年	1	画像処理によるねじ加工の検査に関する研究 寺田将規, 笠井正三郎 日本機械学会関西支部技術情報交流会研究シーズポスター発表(2005. 10)(ポスター)
	2年	2	視差変換を用いたステレオ画像の床検出 寺田将規, 笠井正三郎 平成15年電気関係学会関西支部連合大会講演論文集G329(2006. 11)
		3	平面投影ステレオ法を用いた床検出法による地図作成システムの開発 寺田将規, 笠井正三郎 神戸市立工業高等専門学校研究紀要, 46, (2008. 3)(掲載予定)
長谷中仁志 (山本伸一)	1年	1	The Nano-particle Arrangements of Metal Studied by Scanning Probe microscopy H. Hasenaka, H. Kirimura, T. Matsumura, A. Miura, Y. Uraoka, T. Fuyuki, M. Okuda, K. Nishio, I. Yamashita, and S-I. Yamamoto 発表)
		2	Surface Investigations of Self-Organized Metal Nano-particle on SiO ₂ Substrate with Scanning Force Microscope 長谷中仁志, 浦岡行治, 冬木隆, 山田啓文, 奥田充宏, 西尾和晃, 山下一郎, 山本伸一 産学官技術フォーラム
	2年	3	AFMを用いたフェリチン粒子の観察および局所領域の加工

(次ページへ続く)

			長谷中仁志, 浦岡行治, 冬木隆, 奥田 充宏, 山下 一郎, 山本 伸一 日本表面化学界 第26回表面科学講演大会 p20
		4	AFMを用いたフェリチン粒子の観察および局所領域の加工 長谷中仁志, 吉岡秀樹, 浦岡行治, 冬木 隆, 山下一郎, 山本伸一 産学官技術フォーラム
藤井 菜美 (藤井富朗)	1年	1	バリア放電リアクタによる燃焼排ガスのNOx処理 藤井菜美, 北村洋, 藤井富朗 電気学会プラズマ研究会資料, PST-05-75, p.11-14 2005年10月(姫路)
		2	平板電極型バリア放電を利用した排ガスのNOx処理 藤井菜美, 北村洋, 藤井富朗 平成17年電気関係学会関西支部連合大会, 2005年11月(京都)
	2年	3	Treatment of NOx by the Barrier Discharge Reactor M. Fujii and T. Fujii HAKONE X Proceedings, 70-06, p.375-378 (Saga) 2006年9月
		4	平板積層型バリア放電リアクタによる燃焼排ガスのNOx処理 藤井菜美, 北村洋, 藤井富朗 2006年度静電気学会春季講演会論文集, p.21-24 2007年3月(東京)
		5	積層型リアクタを用いた交流バリア放電による汚染ガス処理 藤井菜美, 藤井富朗, 荒生靖史 神戸高専研究紀要, Vol. 45, p.31-36 (2007年3月)
堀江 悟史 (道平雅一)	1年	1	部分共振型DCリンク電力変換システムの高性能化に関する研究 堀江悟史, 長尾陽介, 道平雅一, 加藤真嗣, 津吉彰 神戸高専産学官技術フォーラム05, pp.111 (2005.11.19), ポスター
		2	二次側位相シフトDC-ACコンバータの特性解析 橋高勇介, 堀江悟史, 道平雅一, 加藤真嗣, 津吉彰 パワーエレクトロニクス学会 12月定例会 講演論文集, pp.18(2005.12.17), オーラル&ポスター
松村 哲孝 (津吉彰)	1年	1	神戸高専に設置した太陽電池の特性 松村哲孝, 河本佳宏, 津吉彰, 道平雅一, 加藤真嗣 産学官フォーラム'05, P.110
	2年	2	実データを用いた太陽光発電シミュレーションの改善 松村哲孝, 山崎正太郎, 津吉彰, 道平雅一, 加藤真嗣 産学官フォーラム'06, P.41-42
		3	実データを用いた太陽光発電シミュレーションの改善 山崎正太郎, 松村哲孝, 永井貞光, 津吉彰, 道平雅一, 加藤真嗣 産学官フォーラム'06, P.88
山口 隆司 (松田忠重)	1年	1	移動対象を撮影した動画を用いたフーリエ変換による速度測定 山口隆司, 松田忠重 電気関係学会関西支部連合大会
		2	CCDカメラを用いたフーリエ変換による速度計測 山口隆司, 松田忠重 神戸高専 産学官技術フォーラム'05 ポスターセッション 講演論文集 P118
	2年	3	移動対象を撮影した動画を用いたフーリエ変換による速度測定 山口隆司, 松田忠重 神戸高専研究紀要, 45, pp.49-54(2007.3)
			AC専攻科生 発表一覧(平成18年度修了生)
学生氏名 (指導教員)	学年	No.	論文名、著者(掲載順)、誌名、巻号頁等、時期・開催地等(年代順)
高瀬 真由 (大淵真一)	1年	1	導電性有機材料の合成 高瀬真由, 松田雄貴, 大淵真一 産学官技術フォーラム'06 講演要旨集, pp.97-97(2005.10) (ポスター)
	2年	2	ハロゲン置換基を持つペンタセン誘導体の合成 高瀬真由, 赤松佳芳利, 大淵真一 日本高専学会第12回年会講演会 講演論文集, pp.115-115(2006.8) (ポスター)
	2年	3	置換基にハロゲンを持つペンタセン誘導体の合成 高瀬真由, 小泉拓也, 大淵真一 産学官技術フォーラム06講演論文集, pp.79-79(2006.10) (ポスター)
	2年	4	ハロゲンを導入したペンタセン誘導体の合成 高瀬真由, 小泉拓也, 大淵真一 第12回高専シンポジウム 講演要旨集, pp.76-76(2007.1) (口頭)
	2年	5	ジアルデヒドからの置換ペンタセン誘導体の合成 大淵真一, 高瀬真由 日本化学会第87回春季年会講演予稿集 CD-ROM, pp.(2007.3) (ポスター)
石川 俊文 (九鬼導隆)	2年	1	ルテインの励起状態からの緩和過程に対する同位体効果 九鬼導隆・石川俊文・季 春勇・小山 泰 第20回カロテノイド研究談話会講演要旨集p.2 2006.09. (口頭)
	2年	2	ルテインのS1状態からの緩和過程に対する同位体効果 九鬼導隆・石川俊文

(次ページへ続く)

			第12回高専シンポジウム講演要旨集p.20 2007.1 (口頭)
増田剛士 (杉廣志)	1年	1	カールカラム抽出塔の分散係数の実測 杉廣志、武田雄希、増田剛士、鈴木祐二、阿部匡悦、山科学、住友 化学工学会第37回秋季大会講演要旨集, M305, (2005.9) (口頭)
	2年	2	カールカラム抽出塔の流動特性—フラッシング流速、分散係数、ホールドアップ— 杉廣志、武田雄希、増田剛士、鈴木祐二、阿部匡悦、山科学、住友 分離技術会年会2006技術研究発表要旨集S4-06 (2006.6) (口頭)
梅田健一 (樋口俊一)	1年	1	ニッケル系アルカリ二次電池のニッケル極の研究 梅田健一、樋口俊一 第11回高専シンポジウム講演要旨集 2006.1 (口頭)
多田英莉香 (松本久司)	1年	1	光触媒架橋粘土の合成と環境改善への応用 吉田英莉香、尾田昭大、利川咲良、松本久司 産官学技術フォーラム講演論文集, pp.95 (2005.10) (ポスター)
	2年	2	光触媒架橋粘土の合成と応用 多田英莉香、樋上千恵、松井哲治、松本久司 第12回高専学会講演会 要旨集, pp.141-144 (2006.8.19) (口頭)
	2年	3	光触媒架橋年度の合成と応用開発 多田英莉香、松本久司、松井哲治 第12回高専シンポジウム 講演要旨集, pp.102-102 (2007.1.27) (口頭)
			AS専攻科生 発表一覧 (平成18年度修了生)
学生氏名 (指導教員)	学年	No.	論文名、著者 (掲載順)、誌名、巻号頁等、時期・開催地等 (年代順)
高岡 健司 (柿木哲哉)	1年	1	
黒葛原 誠 (日下部重幸)	1年	1	河床凹凸部の局所洗掘に及ぼす主な要因(小原・黒葛原・日下部) 産官学技術フォーラム '04 講演論文集, pp.10-11, 2004. 11. 1, Unity
	2年	2	河床凹部に流入した土砂の挙動(黒葛原・小原・日下部・辻本) 砂防学会研究発表会, pp.398-399, 2005.5.
	2年	3	河床凹凸部における還元土砂の挙動(黒葛原・小原・朝山・日下部) 産官学技術フォーラム '05講演論文集, pp.35-36, 2005.11., Unity
濱浦 雄太 (辻本剛三)	2年	1	A study on sediment trasnport inside and outside a permeable submerged A study on sediment trasnport inside and outside a permeable submerged (G. Tsujimoto, T.Kakinoki Y.Hamaura, T.Shigematsu), Journal of Coastal Reseach, SI 2007(in press)
	1年	2	Macroscopic乱流モデルを用いた透過性構造物内外の底質移動に関する研究 (辻本剛三、柿木哲哉、浜浦雄太、重松孝昌、日下部重幸) 海岸工学論文集, 第52巻, pp.456-460, 2005
	2年	3	人工リーフの透過性が消波機能に及ぼす影響に関する実験的研究(浜浦雄太、辻本剛三、柿木哲哉) 平成18年度土木学会関西支部, II-48, 2006
松尾 祐典 (中西宏)	2年	1	ペントナイトの機械的特性に関する実験的研究(中西宏、竹内靖典), 土木学会関西支部平成18年度 学術講演会, 2006.6.

出典：専攻科生発表一覧（平成18年度修了生）

特別研究論文集（平成18年度）

平成18年度

特別研究論文集

神戸市立工業高等専門学校 専攻科

研究論文集

（次ページへ続く）

目 次

* 巻 頭 言	校 長 黒 田 勝 彦	1
* インクジェット技術を用いた傾斜機能材料の開発	機械システム工学専攻 伊 藤 寛 和	3
* 大型宇宙構造物の動的な不確かさに対するロバスト分散制御	機械システム工学専攻 姜 貴 嶋	9
* 噴流拡散火炎の挙動と安定要素に関する実験的研究	機械システム工学専攻 北 村 英 樹	15
* レスキューロボットの走破性向上に関する研究	機械システム工学専攻 楠 本 正 史	21
* 鉛直管内旋回気液二相流の流動様式に関する研究	機械システム工学専攻 竹 田 博 昭	27
* マンボウロボットの開発研究	機械システム工学専攻 長 野 正 徳	33
* プログラム間の類似性に関する研究	電気電子工学専攻 井 上 晴 喜	39
* コロナ放電リアクタによる燃焼排ガス中のダスト及びNO _x 処理	電気電子工学専攻 小 原 孝 介	45
* 二次側位相シフトDC-ACコンバータの特性解析に関する研究	電気電子工学専攻 橘 高 勇 介	51
* 仮想空間用操作デバイスの開発	電気電子工学専攻 木 本 恭 平	57
* フーリエ変換を用いたステレオ法による視差測定	電気電子工学専攻 越 澤 広 幸	63
* 交照法を用いた2色間の明るさマッチングに関する研究	電気電子工学専攻 極 楽 地 大 樹	69
* 人のキーボード入力特性の測定に関する研究	電気電子工学専攻 山 藤 佑 太	75
* 遷移金属添加CuAIS ₂ の有機金属塗布熱分解流化法による作製と評価	電気電子工学専攻 瀧 大 補	81
* 潜熱蓄熱器の熱電発電への応用	電気電子工学専攻 田 口 正 樹	87
* 円筒バリア放電リアクタによるNO _x の処理	電気電子工学専攻 橘 賢 治	93
* マトリクスコンバータの基礎的解析	電気電子工学専攻 辰 野 隆	99
* 平面投影ステレオ方を用いたステレオ画像内の床検出法	電気電子工学専攻 寺 田 将 規	105
* 自己組織化単粒子(フェリチン)の作製および走査プローブ顕微鏡を用いた評価手法の確立	電気電子工学専攻 長 谷 中 仁 志	111
* 平行平板電極を用いた交流バリア放電特性のNO _x 処理への応用	電気電子工学専攻 藤 井 茉 美	117
* 高周波共振DCリンク回路の高性能化に関する研究	電気電子工学専攻 堀 江 悟 史	123
* 実システムのデータを用いた太陽光発電シミュレーションの改善	電気電子工学専攻 松 村 哲 孝	129
* 移動対象を撮影した動画をを用いたフーリエ変換による速度測定	電気電子工学専攻 山 口 隆 司	135
* all-trans-ルテインの単離・精製と 2^1A_g 状態の寿命に対する同位体効果	応用化学専攻 石 川 俊 文	141
* ニッケル系アルカリ二次電池のニッケル正極の特性	応用化学専攻 梅 田 健 一	147
* 溶解性をもつ置換ペンタセン誘導体の合成	応用化学専攻 高 瀬 真 由	153
* 光触媒架橋粘土の合成と環境改善への応用	応用化学専攻 多 田 英 莉 香	159
* カールカラム抽出装置の流動特性	応用化学専攻 増 田 剛 士	165
* 画像解析を用いた砂漣上および砕波点付近の浮遊砂粒度計測	都市工学専攻 高 岡 健 司	171
* 河床凹部に流入した土砂の挙動	都市工学専攻 黒 葛 原 誠	177
* 市街地開発における土地利用変化に関する研究 ー震災復興事業を対象としてー	都市工学専攻 西 本 英 一 郎	183
* 人工リーフの透過性の低下が消波機能に及ぼす影響に関する実験的研究	都市工学専攻 濱 浦 雄 太	189
* ベントナイトの弾性係数および含水比測定に関する実験的研究	都市工学専攻 松 尾 祐 典	195
* 中心市街地における土地利用と景観形成に関する研究 ー神戸市旧居留地を対象としてー	都市工学専攻 宮 廻 壮 太 郎	201

出典：専攻科特別研究論文集

日本高専学会第12回年会講演論文集、pp125-126 (2006,8).

3. 高面圧すべり接触における水溶性加工油剤のトライボロジー特性

大山雄介、八木大輔、中辻 武、奥津晶彦

日本機械学会関西学生会学生員卒業研究発表会講演前刷集、p7-19 (2007,3).

(BPA賞受賞)

柏原隆行

1. 超省エネ型リニア駆動機構の研究

柏原隆行、小森 洋、中辻 武、山本伸一、村尾良男、安藤隆志、熱田稔雄、山口寿

—

産学官技術フォーラム '06講演論文集、(2006,11).

(ベストポスター賞受賞)

2. 超省エネ型リニア駆動機構の研究

柏原隆行、小森 洋、中辻 武、山本伸一、村尾良男、安藤隆志、熱田稔雄、山口寿

—

日本高専学会第12回年会講演論文集、pp127-128 (2006,8).

3. 2段階作動方式リニア駆動ユニットの実用化

柏原隆行、サイエンティフィックテクノロジーズ会社 (PL)、小木曾工業会社、ミクロテック会社、神戸高専 (SL)、兵庫県立工業技術センター、新産業創造研究機構
知財ビジネスマッチングフェア2006, 11/30・12/1 インテックス大阪1号館ポスター発表 [PL:プロジェクトリーダー、SL:プロジェクトサブリーダー] でポスター発表

4. 超省エネ型リニア駆動機構の研究

柏原隆行、小森 洋、中辻 武、山本伸一、村尾良男、安藤隆志、熱田稔雄、山口寿

—

日本機械学会関西学生会学生員卒業研究発表会、p15-18 (2007,3).

八木大輔

1. 高面圧すべり接触における水溶性加工油剤のトライボロジー特性

八木大輔、大山雄介、柏原隆行、福田真也、中垣誠太、増山卓己、中村光弘、中辻 武

産学官技術フォーラム '07講演論文集、pp70-71 (2007,11).

(ベストオーラル賞受賞)

観点6-1-③： 教育の目的において意図している養成しようとする人材像等について，就職や進学といった卒業（修了）後の進路の状況等の実績や成果から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

[進学士課程]

- ・ 求人倍率は例年高倍率で，就職率は例年ほぼ100%である（資料6-1-③-1）。
- ・ 進路状況を資料（資料6-1-③-1）に示す。
- ・ 就職先は，それぞれの教育を受けた関連分野にほとんど進んでいる（資料6-1-③-1）。

[専攻科課程]

- ・ 就職希望者の就職率は例年ほぼ100%であり，希望する関連分野に就職することが出来ている。
- ・ 進路状況を資料（資料6-1-③-1）に示す。

（分析結果とその根拠理由）

就職や進学後の進路の状況から判断して，これら進路先は本校の教育の目的に相応しいものである。また，進学士課程と専攻科課程の就職希望者の就職率はほぼ100%である。傾向としては，進学士課程も専攻科課程も関連分野への進学希望が増えてきている。これらより教育の成果や効果が十分上がっている。

進路状況「神戸高専COLLEGE」より

平成19年度 神戸市立工業高等専門学校 卒業・修了予定者進路状況

1. 求人求職・就職進学状況（平成20年2月末現在）

（単位：人）（ ）は女子で内数

学科/専攻名	卒業・修了 予定者数	就 職		進 学		自 営 その他	就職希望と進学希望の割合		求 人 の 状 況			
		希望者数	内定数	希望者数	内定数		就職希望	進学希望	求人件数	求人数	求人倍率	
本 科	機械工学科	68(1)	35(1)	35(1)	30	30	3	54%	46%	658件	699	20.6倍
	電気工学科	36	14	14	20	20	2	41%	59%	650件	674	48.1倍
	電子工学科	38	15	15	23	22	0	39%	61%	585件	585	39.0倍
	応用化学科	36(17)	20(15)	20(15)	14	14	2(2)	59%	41%	276件	279	14.0倍
	都市工学科	40(10)	21(4)	21(4)	15(5)	15(5)	4(1)	58%	42%	246件	250	11.9倍
	合 計	218(28)	105(20)	105(20)	102(5)	101(5)	11(3)	50%	50%	2415件	2487	23.9倍
専 攻 科	機械システム工学	16(1)	6	6	9(1)	9(1)	1	40%	60%	361件	372	62.0倍
	電気電子工学	15(1)	6	6	9(1)	9(1)	0	40%	60%	383件	389	64.8倍
	応用化学	3(2)	2(1)	2(1)	1(1)	1(1)	0	67%	33%	171件	172	86.0倍
	都市工学	7	6	6	1	1	0	86%	14%	154件	157	26.2倍
	合 計	41(4)	20(1)	20(1)	20(3)	20(3)	1	50%	50%	1069件	1090	54.5倍

2. [本科] 大学等進学状況（平成20年2月末現在）

（単位：人）（ ）は女子で内数

学 校 名	機 械 工学科	電 気 工学科	電 子 工学科	応 用 化学科	都 市 工学科	合 計
北 海 道 大					1(1)	1(1)
山 形 大			1			1
東 京 大					1	1
東 京 工 業 大	1					1
東 京 農 工 大		1				1
長 岡 技 科 大	5	2	1	1	1	10
金 沢 大	1					1
豊 橋 技 術 科 学 大 学	2	2	4	1	1	10
京 都 大 学				1		1
京 都 工 芸 繊 維 大 学	2			1		3
大 阪 大 学	1	1		1		3
神 戸 大 学			2	1	1	4
和 歌 山 大 学			1			1
鳥 取 大 学					1(1)	1(1)
岡 山 大 学	1					1
広 島 大 学				1	1	2
徳 島 大 学		3			1	4
山 口 大 学			1			1
九 州 大	1					1
首 都 大 学 東 京		1				1
兵 庫 県 立 大 学		1				1
創 価 大	1					1
鹿 屋 体 育 大					1(1)	1(1)
東 海 大	1					1
立 命 館 大 学	1		1	1	1(1)	4(1)
神 戸 芸 術 工 科 大			1		1(1)	2(1)
神 戸 高 専 専 攻 科	12	9	9	6	3	39
そ の 他 高 専 専 攻 科	1					1
そ の 他 専 門 学 校			1		1	2
合 計	30	20	22	14	15(5)	101(5)

3. [専攻科] 大学院進学状況（平成20年2月末現在）

（単位：人）（ ）は女子で内数

学 校 名	機 械 システム 工学専攻	電 気 電 子 工学専攻	応 用 化 学 専 攻	都 市 工 学 専 攻	合 計
東 京 工 業 大 学 大 学 院	1	3			4
筑 波 大 学 大 学 院	1				1
名 古 屋 大 学 大 学 院				1	1
京 都 工 芸 繊 維 大 学 大 学 院	1				1
九 州 工 業 大 学 大 学 院	2	2			4
大 阪 大 学 大 学 院	1	3			4
神 戸 大 学 大 学 院	2				2
徳 島 大 学 大 学 院	1(1)				1(1)
山 形 大 学 大 学 院		1(1)	1(1)		2(2)
合 計	9(1)	9(1)	1(1)	1	20(3)

4. [専攻科] 就職内定企業（平成20年2月末現在）

機械システム工学専攻（6名）	応用化学専攻（2名）
明石機械工業	シオノギ製薬
大阪大学大学院特任研究員	東洋ゴム工業
JR西日本	
神鋼テクノ	都市工学専攻（6名）
新菱ハイテック	アーバンエース
ニコン	五洋建設
	社団法人 近畿建設協会
電気電子工学専攻（6名）	修成建設コンサルタント
ILUX	阪神高速技術コンサル
シスメックス	横河ブリッジ
DTS	
ソニーEMC湖西テック	
富士通テン	
松下エクセルテクノロジー	

（次ページへ続く）

5.〔本科〕就職内定企業一覧 (順不同・(株)略)(単位:人)()は女子で内数 平成20年2月末現在

機械工学科	内定者数	電気工学科	内定者数	応用化学科	内定者数
出光興産	1	アイネット・システムズ	1	アールテックウエノ	1(1)
大阪ガス	1	大阪ガス	2	旭化成	1
カネカ	1	サントリー	1	アルボース	1(1)
川崎重工	1	大陽日酸	2	王子製紙	1(1)
川重車両テクノ	1	中部電力	1	科学情報システムズ	1(1)
関西電力	1	東芝三菱電機産業システム	1	関西電力	1
神崎高級工機	1	日立ビルシステム	1	京セラ玉造工場	1(1)
京セラ	1	富士通テン	1	神戸合成	1
グリコ	1	三菱電機	1	コベルコ科研	2(2)
神戸工業試験場	1(1)	三菱電機ビルテクノサービス	1	サントリー	1(1)
神戸製鋼所	1	ミレニアムリテイニング	1	第一三共	1(1)
サントリー	1	明電舎	1	ダイキン	1
三洋電機モバイル	1	計	14	中外製薬	1(1)
シャープ	1			東岳マテリアルテクノロジー	1(1)
JAL整備	1			東レ	1(1)
神鋼E&M	1	電子工学科	内定者数	日本触媒	1
神鋼テクノ	1	NTTファシリティーズ	1	日本精化	1(1)
セガ	1	大阪ガス	1	ハニー化成	1(1)
第一三共	1	関西電力	1	半導体エネルギー研究所	1(1)
ダイキン	1	第1コンピュータリソース	1	計	20(15)
ダイハツ	1	テクノスジャパン	1		
東芝三菱電機産業システム	1	トヨタプロダクションエンジニアリング	1	都市工学科	内定者数
トヨタ車体	1	パナソニックITS	1		
バスカル	1	富士ソフト	1	アイテック阪神	1
日立製作所	1	富士通ソフトウェアテクノロジーズ	1	アシックス商事	1(1)
富士通	1	富士通テン	1	エルクコンサル	1(1)
ホンダ	1	三菱重工高砂製作所	2	応用技術	1
松下電器生産革新本部	1	三菱電気神戸製作所	2	大阪ガス	1
マツダ	1	ムトーアイテックス	1	片山ストララック	1
ミツ精機	1	計	15	関西電力	1
三菱重工高砂製作所	1			神戸市役所	1
三菱重工長崎造船所	1			コベルコ科研	1(1)
三菱重工神戸造船所	1			JR貨物	1
日本山村電子硝子	1			JR東海	1
リコー	1			JR西日本	3
計	35(1)			神鋼環境ソリューション	1
				神鋼興産建設	1
				神盟	1
				ダイドウ	1(1)
				日本橋梁	1
				本州四国連絡橋公団	1
				八雲建設	1
				計	31(4)
				各科合計	103(20)

出典：神戸高専COLLEGE (No. 53 P11-12 2008.3)

観点6-1-④： 学生が行う学習達成度評価等，学生からの意見聴取の結果から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

本校では，学生が行う学習達成度評価のために神戸高専学習支援システムが構築されている。平成18年度に試行が行われた。このシステムにおいては，学生は総合情報センター，図書館，あるいは卒研室のパソコンから上記システムに，各自のIDとパスワードでログインし，オンラインで各自の達成度を入力できるようになっている（資料6-1-④-1，2）。学生はログイン後，科目毎に個々の学習教育目標に対して「達成した」，「ほぼ達成した」，「半ば達成した」，「少し達成した」，「達成していない」の5段階で達成度の入力を行う。全科目の入力が完了すると，各自で科目毎，あるいは学習教育目標毎の達成度の累積値，達成度の目標値，達成度が一覧表で確認できるようになっている（資料6-1-④-3）。

準学士課程5年次に行った分析結果や専攻科2年次に行った分析結果は，担任や専攻主任が把握し，学生指導を行っている。平成19年度は，本格的に実施し，全学年に適用した。平成20年度は，この結果をもとに本校全学生に指導を行っていく予定である。

一方，授業方法の改善・工夫を図り，効果的な授業を行うことを目的として平成15年度から毎年授業アンケートが実施されている。科目ごとに集計され，担当教員の分析・コメントが記入された結果はただちに校内向けウェブサーバを介して学生にも公開されるようになっている。また，平成15年度には670ページに及ぶ報告書が印刷製本され，全教員に配布された（資料6-1-④-4）。授業アンケートの項目は大きく(A)群（先生の授業の様子），(B)群（先生の授業準備や工夫），(C)群（授業の進め方や評価内容），(D)群（学生自身の授業へのとりくみ），(E)群（この科目の総合評価）に分けられ，学生は各項目を5点満点で記入する。印刷製本した平成15年度の結果は以下の通りである。

準学士課程については各学年で大きな違いはなく，(D)群を除いた4群の平均は3.1～3.7である。(D)群は2.0～2.2である。専攻科課程については(D)群を除いた4群の平均は3.5～3.9であり，(D)群は2.5である。この(D)群は「シラバスを活用しているか」の項目も含まれている。その活用については，現在，授業開始時に全教員がシラバスを詳細に説明するとともに，学生にノート等にシラバスを貼付させ，利用率の改善をはかっている。

（分析結果とその根拠理由）

学生が行う学習達成度評価による達成度状況を確認した結果，準学士課程および専攻科課程ともに卒業（修了）時に学習教育目標の達成度は，全体で概ね良好な評価が得られている。このことから，授業アンケートにおける(D)群（学生自身の授業へのとりくみ）の点は若干低いものの，本校の教育の成果や効果は上がっていると言える。

Web からによる「学習達成度評価」の入力のお願いと方法

学生の皆さん、神戸高专は、大学と同じ高等教育機関なので、法律に定められた大学評価・学位認証機構による機関別認証評価を受けなければなりません。

神戸高专は、平成20年度に「認証評価」を受ける予定です。

その「認証評価」の審査項目に、[『学生による学習達成度評価』が行われているか?]

があります。これを行うことにより、将来的には、学生の学習支援のために有効に活用していきたいと考えていますから、面倒でも真剣に答えてください。

次に Web 入力の方法を説明します。

※ 一度、入力終わった科目も再度入力すると訂正されます。

※ 全科目に入力すると、20～30分かかると思いますが、よろしくお願いします。

・ Internet Explorer 等の Web ブラウザを起動する。

① [http://www2](http://www2.kobe-u.ac.jp/) と入力で OK

② [学習達成度評価のページ](#) をクリック

神戸高专学内用 Web Page へようこそ

2007年4月18日最終更新

- 平成18年度授業アンケート結果
- [学習達成度評価のページ](#)
- 事務室学生協のページ
- 図書館蔵書検索
- 都市工学科学内用Webページ
- 教育プログラム委員会学内用ページ
- 総合情報センターのページ
- Anonymous FTP Server(フリーソフトウェアアーカイブ) (HTTP でアクセス、FTP でアクセス)
- 教職員のためのページ(※password)
- 2006/12/21 以前の www.kobe-kosen.ac.jp へ

改訂履歴

2007年4月18日

高7

出典：ウェブサイト（教職員用）教務主事室のページ「達成度入力」マニュアルより抜粋

神戸高専学習支援システム
Education Support System in Kobe City College of Technology

ログインユーザー名: 機械工学科4年C組3番 テスト

【学習目標達成度を入力する科目の選択】

1. 学習目標達成度を評価する科目をマウスでクリックしてください。
2. 選択科目の場合、各自が登録している科目のみ記入してください。
3. 達成度は、5段階評価です。達成した(B) → 半ば達成した(C) → 達成しなかった(D)

■ 2006年度の履修科目一覧

科目	学期	必修/選択	担当教	達成度
国語	前期	必修	高崎 尚徳子	未
数学Ⅰ	後期	必修	石塚 正洋	未
保健・体育	通年	必修	中川一徳, 寺田 雅昭, 小森田 勲, 香名 桂	未
英語Ⅰ	通年	必修	折野 良徳, ユイナール/セン	未
応用数学Ⅰ	通年	必修	小林 崇	未
応用数学Ⅱ	通年	必修	長 保浩	未
応用物理	後期	必修	折野 尚之, 小林 崇	未

ログインユーザー名: 機械工学科4年C組3番 テスト

【学習目標達成度の入力方法】

1. 各学習目標に対する各自の達成度を5段階で評価してください。
2. 達成度の欄をマウスでクリックし、該当する達成度を選択します。
3. すべての学習目標に対して回答しなければ、登録できません。

■ 学習目標と各自の達成度

No.	JABEE 基準	【英語】の学習目標	達成度評価 (5段階)
1	B-1	日常生活やビジネスの場における正しい言葉遣いを習得する。	達成した
2	B-1	正しい電話の掛か方を習得する。	
3	B-1	理論的な文章における客観性とは何かを理解する。	
4	B-1	理論的な文章の基本を習得する。	
5	B-1	基本的なビジネス文書の書き方を習得する。	
6	B-1	手紙を書く技術の基本を習得する。	
7	B-1	小論文の書き方の基本を習得する。	
8	B-1	正確な文章表現の基本を習得する。	

達成度登録

⑦ それぞれの目標ごとの達成度評価を選択(5段階)
訂正は上書すればできます。
選択が終わったら、「達成度登録」ボタンをクリック

出典：ウェブサイト（教職員用）教務主事室のページ「達成度入力」マニュアルより抜粋

神戸高専学習支援システム

Education Support System in Kobe City College of Technology

学生名:2008年度 D.5(11番) 本

HOME → 開設科目一覧

2008年度の開設科目一覧

【学習目標達成度を入力する科目の選択】

1. 学習目標達成度を評価する科目をマウスでクリックしてください。
2. 選択科目の場合は、各自が履修している科目のみ記入してください。
3. 達成度は、評価値5を100%として算出した平均値です。

科目	学期	必/選	担当者	達成度 [%]	授業評価
保健・体育	前期	必修	寺田 晶裕 非常勤講師, 小森田 敏 准教授, 寺田 雅裕 教授	--	未
英語演習	通年	必修	(前期)柳生 成世 教授, エイナー・ニルセン 非常勤講師 (後期)柳生 成世 教授	--	未
電子回路II	通年	必修	長谷 芳樹 講師	--	未
情報通信ネットワーク	通年	必修	森本 健司 准教授	--	未
情報理論	通年	必修	秋吉 一郎 非常勤講師	--	未
制御工学II	前期	必修	笠井 正三郎 教授	--	未
電子工学実験実習	通年	必修	笠井 正三郎 教授, 戸崎 哲也 准教授, 小矢 美晴 准教授, 長瀬 宗二 非常勤講師	--	未
卒業研究	通年	必修	講義科目担当教員	--	未
哲学	通年	選択	手代木 陽 教授	--	未
日本史	通年	選択	福田 敬子 教授	--	未
世界史	通年	選択	町田 吉隆 准教授	--	未
社会科学特講	通年	選択	八百 俊介 准教授	--	未
人文科学特講	通年	選択	今里 典子 准教授	--	未
経済学	通年	選択	高橋 秀実 教授	--	未
工業英語	前期	選択	木村 一成 非常勤講師	--	未
電子応用	前期	選択	山口 秀樹 非常勤講師	--	未
光エレクトロニクス	後期	選択	林 昭博 教授	--	未
画像処理	前期	選択	戸崎 哲也 准教授	--	未
コンピュータアーキテクチャ	後期	選択	戸崎 哲也 准教授	--	未

学習・教育目標達成度(2007年度)

科目	単位	必/選	学年・学期	学習・教育目標別評価値(目標値)																累積値(目標値)	達成度 (%)				
				A1	A2	A3	A4-1	A4-2	A4-3	A4-4	A4-5	B1	B2	B3	B4	C1	C2	C3	C4			D1	D2		
国語	1	必修	本科4年 後期												0.49 (1.00)									0.49 (1.00)	49.0%
確率統計	1	必修	本科4年 前期	0.95 (1.00)																				0.95 (1.00)	95.0%
保健・体育	2	必修	本科4年 通年																0.92 (2.00)					0.92 (2.00)	46.0%
英語演習	2	必修	本科4年 通年														1.53 (2.00)							1.53 (2.00)	76.5%
中国語	2	選択	本科4年 通年																			1.60 (2.00)	1.60 (2.00)	80.0%	
応用数学	2	必修	本科4年 通年	1.77 (2.00)																				1.77 (2.00)	88.5%
応用物理	2	必修	本科4年 通年		1.60 (2.00)																			1.60 (2.00)	80.0%
ソフトウェア工学	2	必修	本科4年 通年			1.00 (1.00)					0.70 (1.00)													1.70 (2.00)	85.0%
半導体工学	2	必修	本科4年 通年						1.38 (2.00)															1.38 (2.00)	69.0%
電子計測	2	必修	本科4年 通年								1.53 (2.00)													1.53 (2.00)	76.5%
電気回路III	2	必修	本科4年 前期				1.58 (2.00)																	1.58 (2.00)	84.0%
電子回路I	2	必修	本科4年 通年				1.73 (2.00)																	1.73 (2.00)	86.5%
電気磁気学II	2	必修	本科4年 通年				1.85 (2.00)																	1.85 (2.00)	92.5%
数値解析	2	必修	本科4年 通年			1.60 (2.00)																		1.60 (2.00)	80.0%
制御工学I	2	必修	本科4年 通年						1.80 (2.00)															1.80 (2.00)	90.0%
電子工学実験実習	4	必修	本科4年 通年														1.70 (2.00)				1.20 (2.00)			2.90 (4.00)	72.5%
学外実習	1	選択	本科4年 前期															0.10 (0.50)				0.20 (0.50)		0.30 (1.00)	30.0%
通信方式	2	必修	本科4年 通年							1.90 (2.00)														1.90 (2.00)	95.0%
達成度の累積値(目標値)				2.72 (3.00)	1.60 (2.00)	2.60 (3.00)	5.26 (6.00)	1.38 (2.00)	3.33 (4.00)	2.60 (3.00)	0.00 (0.00)	0.49 (1.00)	0.00 (0.00)	1.53 (2.00)	0.00 (0.00)	1.70 (2.00)	0.10 (0.50)	0.92 (2.00)	1.20 (2.00)	0.20 (0.50)	1.60 (2.00)			27.23 (35.00)	77.8%
教育目標毎の達成度[N]				90.7%	80.0%	86.7%	87.7%	69.0%	83.3%	86.7%	--	49.0%	--	76.5%	--	85.0%	20.0%	46.0%	60.0%	40.0%	80.0%				

出典：ウェブサイト（学内用）「神戸高専学習支援システム」具体例

平成15年度学生による授業アンケート(結果の分析と対応) 冊子より

【平成16年度より学内ウェブサイトに掲載】

表1-2-2 本科のアンケート結果(専門学科、一般科、学年の平均)

	A1	A2	A3	A4	A	B1	B2	B3	B4	B	C1	C2	C3	C4	C	D1	D2	D3	D4	D	E1	E2	E3	E4	E
M科	3.7	3.4	3.4	3.7	3.6	3.6	3.6	3.3	3.3	3.5	3.5	3.3	3.5	3.4	3.4	1.7	3.3	1.9	1.4	2.1	3.2	3.2	3.0	3.5	3.3
E科	3.7	3.2	3.4	3.5	3.5	3.5	3.5	3.3	3.2	3.4	3.6	3.2	3.4	3.4	3.4	1.8	3.4	2.1	1.5	2.2	3.0	3.1	3.0	3.4	3.1
D科	3.7	3.3	3.5	3.5	3.5	3.6	3.5	3.3	3.2	3.4	3.6	3.2	3.4	3.4	3.4	1.7	3.2	2.1	1.4	2.1	2.9	3.0	3.1	3.0	3.2
C科	3.6	3.2	3.3	3.6	3.4	3.5	3.4	3.2	3.1	3.3	3.4	3.1	3.3	3.2	3.2	1.6	3.2	2.2	1.4	2.1	2.9	3.0	2.8	3.3	3.0
S科	3.7	3.3	3.4	3.6	3.5	3.6	3.5	3.4	3.2	3.4	3.5	3.3	3.4	3.4	3.4	2.0	3.4	2.2	1.8	2.3	3.2	3.2	3.0	3.5	3.2
専門科全体	3.7	3.3	3.4	3.6	3.5	3.6	3.5	3.3	3.2	3.4	3.5	3.2	3.4	3.4	3.4	1.8	3.3	2.1	1.5	2.2	3.1	3.1	3.0	3.4	3.2
数学科	4.0	3.7	3.2	3.8	3.7	3.7	3.7	3.6	3.4	3.6	3.4	3.3	3.5	3.4	3.4	1.7	3.4	2.2	1.5	2.2	3.1	3.1	2.9	3.5	3.2
英語科	4.0	3.5	3.6	3.8	3.7	3.8	3.5	3.5	3.5	3.6	3.5	3.5	3.6	3.4	3.5	1.7	3.4	2.3	1.5	2.2	3.3	3.2	3.0	3.6	3.3
国語科	4.1	3.9	3.6	3.9	3.7	3.9	3.7	3.5	3.6	3.6	3.6	3.6	3.8	3.7	3.7	1.7	3.2	1.8	1.4	2.0	3.5	3.2	3.1	3.6	3.4
理科	3.7	3.4	3.5	3.6	3.5	3.8	3.5	3.4	3.3	3.5	3.4	3.4	3.7	3.5	3.5	1.8	3.3	2.0	1.7	2.2	3.0	3.1	2.9	3.5	3.1
社会科	4.1	3.9	4.0	4.0	4.0	3.9	3.5	3.4	3.6	3.7	3.6	3.6	3.6	3.5	3.6	1.7	3.3	1.9	1.5	2.1	3.6	3.4	3.1	3.8	3.5
ドイツ語	4.2	3.5	3.6	4.0	3.8	3.8	3.9	3.6	3.7	3.7	3.4	3.7	4.0	3.3	3.6	1.6	3.3	1.9	1.3	2.0	3.3	3.4	3.1	3.7	3.4
芸術	3.8	3.3	3.4	3.8	3.6	3.6	3.2	3.3	3.2	3.3	3.3	3.3	3.4	3.3	3.3	1.7	3.5	1.7	1.4	2.1	3.1	2.9	2.9	3.3	3.1
体育	4.6	4.3	4.3	4.3	4.4	4.2	4.1	4.1	3.9	4.0	3.7	3.8	3.9	3.7	3.8	1.9	4.2	3.3	1.6	2.8	4.1	4.1	3.5	4.3	4.0
一般科全体	4.1	3.7	3.7	3.9	3.8	3.8	3.6	3.5	3.5	3.6	3.5	3.5	3.7	3.5	3.6	1.7	3.5	2.1	1.5	2.2	3.4	3.3	3.0	3.7	3.4

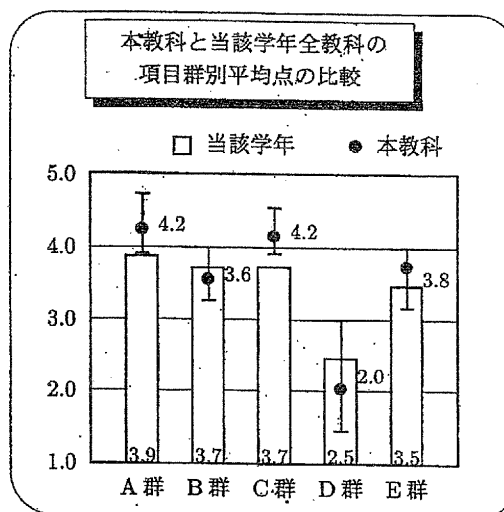
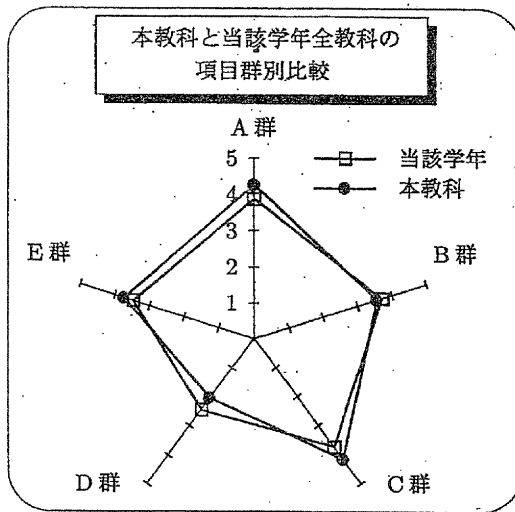
1年	3.8	3.6	3.5	3.8	3.7	3.8	3.7	3.6	3.4	3.6	3.4	3.4	3.6	3.5	3.5	1.6	3.5	2.3	1.5	2.2	3.2	3.2	2.9	3.6	3.2
2年	3.7	3.4	3.4	3.7	3.5	3.6	3.5	3.4	3.2	3.4	3.5	3.2	3.4	3.4	3.4	1.8	3.4	2.1	1.6	2.2	3.2	3.2	3.0	3.5	3.2
3年	3.8	3.5	3.4	3.7	3.6	3.7	3.6	3.4	3.4	3.5	3.5	3.3	3.5	3.4	3.4	1.7	3.4	2.0	1.4	2.1	3.3	3.2	3.0	3.6	3.2
4年	3.8	3.4	3.5	3.7	3.6	3.6	3.5	3.3	3.3	3.5	3.5	3.3	3.4	3.3	3.4	1.6	3.2	1.9	1.3	2.0	3.1	3.1	3.0	3.5	3.1
5年	3.8	3.4	3.5	3.8	3.6	3.6	3.5	3.3	3.3	3.4	3.5	3.3	3.6	3.4	3.5	1.9	3.3	2.1	1.6	2.2	3.3	3.3	3.1	3.6	3.3

表1-2-3 専攻科のアンケート結果(専攻、一般教養、専門共通の平均値)

	A1	A2	A3	A4	A	B1	B2	B3	B4	B	C1	C2	C3	C4	C	D1	D2	D3	D4	D	E1	E2	E3	E4	E
機械工学専攻科	4.2	3.8	3.8	4.0	4.0	3.9	3.9	3.6	3.6	3.8	4.1	3.8	3.8	3.7	3.9	1.6	3.6	2.3	1.5	2.2	3.3	3.5	3.3	3.8	3.5
電気電子工学専攻	4.2	3.7	3.9	4.0	4.0	3.9	3.9	3.5	3.6	3.7	3.6	3.7	3.8	3.7	3.7	1.7	3.5	2.7	1.9	2.4	3.4	3.6	3.1	3.8	3.5
応用化学専攻	4.0	3.4	3.6	3.6	3.7	3.9	3.8	3.5	3.5	3.7	3.7	3.6	3.8	3.6	3.7	2.3	3.6	3.2	2.0	2.8	3.7	3.6	3.5	3.8	3.6
都市工学専攻	4.1	3.9	4.1	4.2	4.1	4.0	3.9	3.9	3.9	3.9	3.8	4.0	4.1	3.9	3.9	1.9	3.5	2.7	1.8	2.5	3.5	3.6	3.3	3.9	3.6
一般教養	4.1	3.3	3.4	3.9	3.7	3.7	3.5	3.4	3.0	3.4	3.5	3.1	3.2	3.2	3.3	1.5	3.1	2.2	1.4	2.0	2.9	3.0	2.9	3.3	3.0
専門共通	4.1	3.5	3.1	3.9	3.7	3.6	3.5	3.4	3.2	3.4	3.8	3.1	3.1	3.3	3.3	1.7	3.4	2.4	1.5	2.2	2.7	3.0	2.8	3.3	3.0
専攻科平均	4.2	3.7	3.7	3.9	3.9	3.9	3.8	3.6	3.6	3.7	3.8	3.7	3.7	3.6	3.7	1.9	3.5	2.7	1.8	2.5	3.4	3.5	3.2	3.8	3.5

(次ページへ続く)

クラス	教科名	必修・選択	単位数	前期・後期・通年
a2e	照明工学	選択	2単位	前期



本教科と当該学年の各項目別得点の比較

群	A 群 (授業の様子)				B 群 (準備・工夫)				C 群 (授業の進め方)				D 群 (学生の取り組み)				E 群 (総合評価)			
設問項目	A1	A2	A3	A4	B1	B2	B3	B4	C1	C2	C3	C4	D1	D2	D3	D4	E1	E2	E3	E4
本教科	4.3	3.9	4.7	4.1	4.0	3.5	3.3	3.5	3.9	3.9	4.5	4.3	1.5	3.0	1.9	1.8	3.9	3.9	3.2	4.0
学年平均	4.2	3.7	3.7	3.9	3.9	3.8	3.6	3.6	3.8	3.7	3.7	3.6	1.9	3.5	2.7	1.8	3.4	3.5	3.2	3.8

結果の分析	<ul style="list-style-type: none"> 総合評価 (E 群) の平均値は学年平均より良く、総合的に学生は普通以上と答えている。 学生自身の取り組み (D 群) の値が低い、シラバスの活用・予習復習ができてないと答えている。 後半で照明関連の学術論文を各自読み、その内容をまとめ、他の受講者に対してプレゼンさせている。また、この内容を試験に出しているが、他人の書いた論文を理解するのは大変で意味がないのではという意見もある。
対応策	<ul style="list-style-type: none"> 学生から大きな不満はあがっていないので、大きな対応策は考えていない。 他人の論文を読むことは、学習の基本であるので、続けていきたい。 また、プレゼンテーションも大切に考えている。 シラバスを活用させるためには、シラバスの内容を考えねばならない。 学校としてのシラバス以外に、講義内容をもう少し詳しく事前に知らせることのできるこの科目独自のシラバスをできれば作成し、WebPageに公開したいと考えている。 予習・復習を促すためには、ある程度の時間外課題が必要であるのではと考えている。
その他	<ul style="list-style-type: none"> 特になし。

出典：平成 15 年度学生による授業アンケート（結果の分析と対応） [672 ページの冊子より抜粋]

【平成 16 年度より学内ウェブサイトに掲載】

観点6-1-⑤： 卒業（修了）生や進路先などの関係者から、卒業（修了）生が在学時に身に付けた学力や資質・能力等に関する意見を聴取するなどの取組を実施しているか。また、その結果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

本校では平成15年度に専攻科修了生，専攻科修了生が就職した企業・進学した大学院を対象にアンケートを実施した。また，平成16年度に本科卒業生，本科卒業生が就職した企業を対象にアンケートを実施した。それらの結果は平成17年3月に2冊の報告書としてまとめられ，印刷製本された（資料6-1-⑤-1～3）。

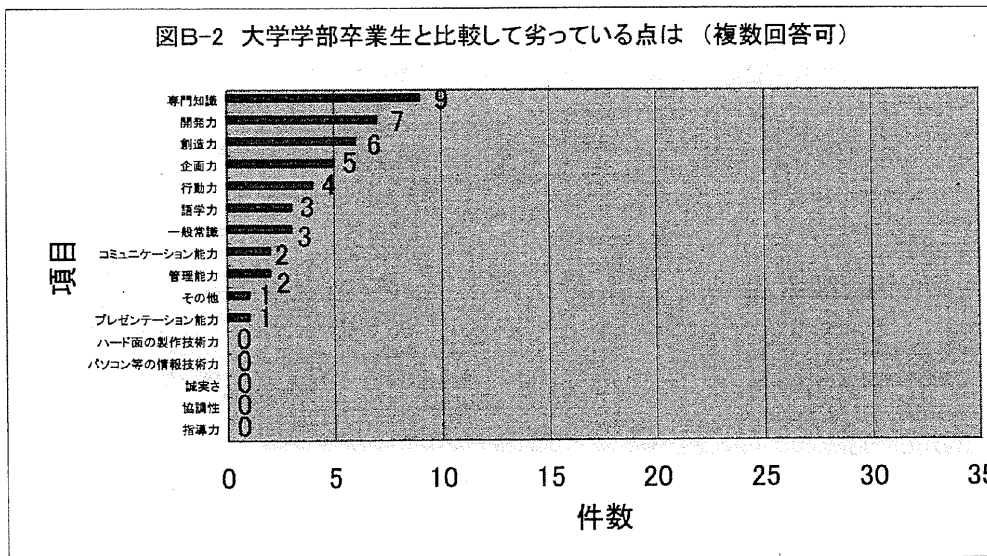
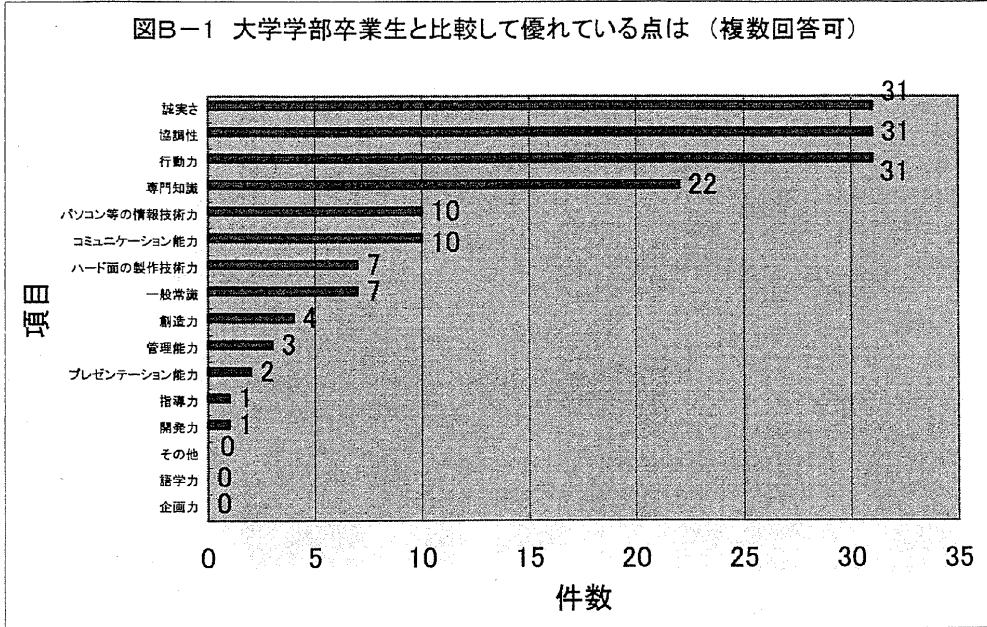
いずれの結果からも準学士課程，専攻科課程の両方において，学習・教育目標B3（日常英語），B4（技術英語）の英語によるコミュニケーション能力についてはやや低い評価となっている。しかし，それら以外の能力，特に基礎知識，専門知識，IT技術（パソコン技術），プレゼンテーション能力については高い評価を受けている。このコミュニケーション能力については，専攻科で「コミュニケーション英語」を必修科目として設置し，改善を試みている。

（分析結果とその根拠理由）

卒業生，修了生，企業，大学院へのアンケートにおいて多くの項目で高い評価が得られていることから，本校の教育の成果や効果が上がっていると言える。

企業アンケートより

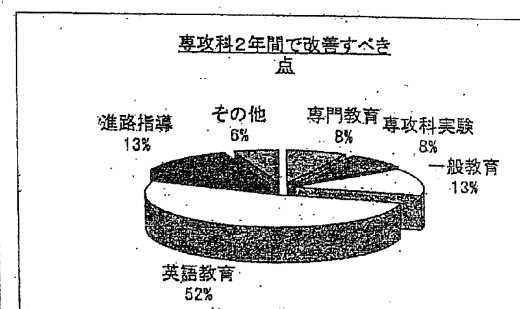
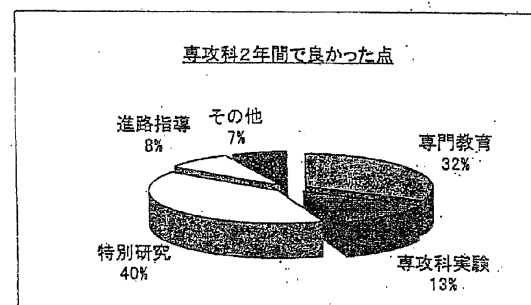
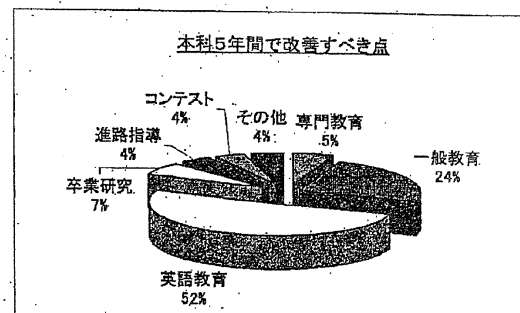
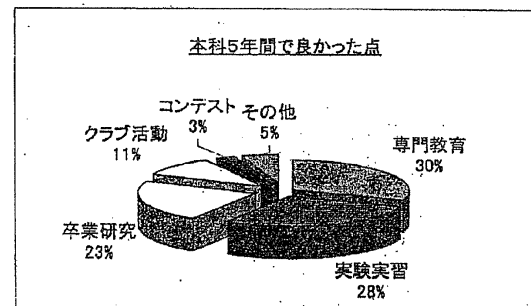
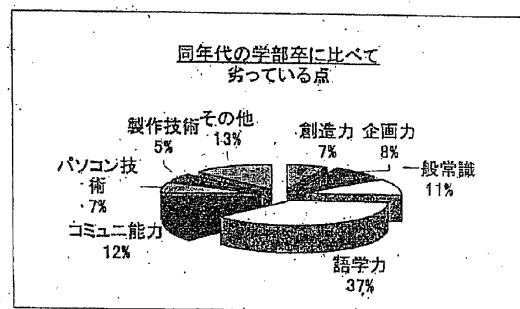
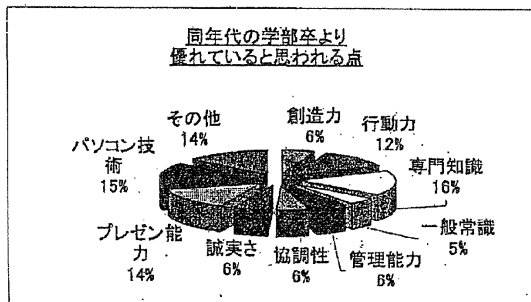
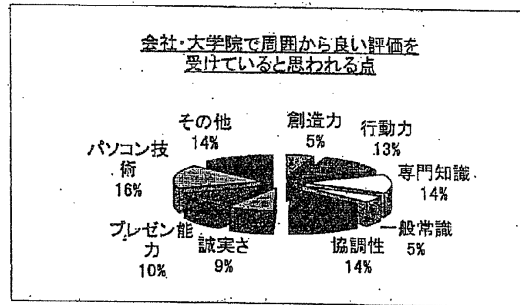
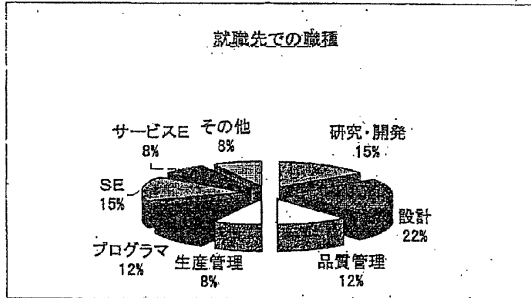
B.神戸高専卒業生の評価について



大学学部卒と比べて優れている点を示す図B-1は、劣っている点を示す図B-2より圧倒的に回答件数が多く、全体として大きな問題がないと思われる。しかし、細部についてみると、語学力・企画力が優れているとした回答は、0であり、指導力・開発力も1と非常に少ない。当然これらの項目は劣っているとした回答で、何件か指摘されている。図B-1, 2は、従来の高専教育を卒業生の活動面から評価したもので、今後本校の教育方針を議論する上でも貴重な資料といえる。

出典：「企業・卒業生アンケート調査結果報告書」抜粋

専攻科修了生アンケート



出典：「神戸高専専攻科に関するアンケート調査結果報告書」抜粋

準学士課程卒業生アンケート

F.総合的に見て

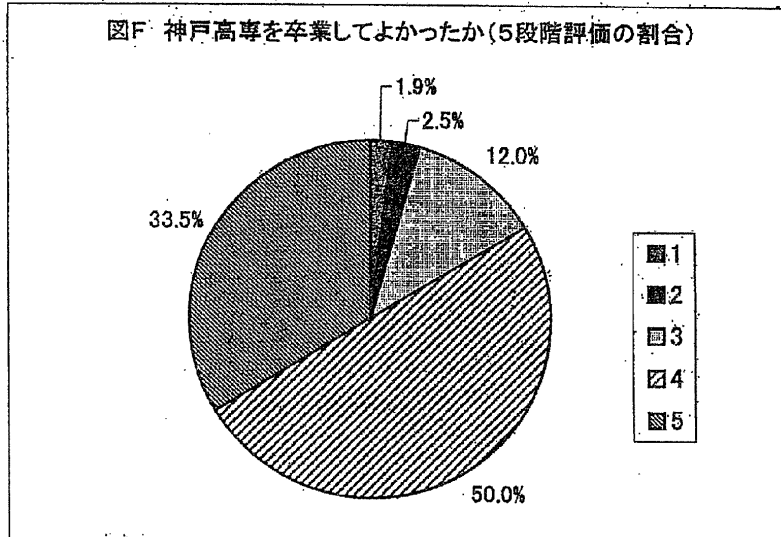
最後に、神戸高専を卒業してよかったと思うか（5段階評価）という質問に答えてもらった。全体の平均が5段階評価で4.1点であり、大変よい結果であると思われる。しかも全学科で4点を超え、各学科の差はほとんどない状態である。

創立以来の本校の教育が、卒業生からおおむね肯定されている結果と見る事が出来る。

表F 神戸高専を卒業してよかったか(5段階評価)

評点	全科平均	M	E	D	C	S
1	3	0	1	0	1	1
2	4	0	0	0	4	0
3	19	5	3	0	5	6
4	79	10	14	8	24	23
5	53	8	9	5	14	17
回答数	158	23	27	13	48	47
平均点	4.1	4.1	4.1	4.4	4.0	4.2

図F 神戸高専を卒業してよかったか(5段階評価の割合)



図Fは、「卒業してよかったと思えますか」という質問に対する答を、全体的に見て表したものである。4が50.0%、5が33.5%で、合わせると83.5%となり、大変よい結果である。しかし、少数とはいえ1や2も数%づつあり、細部の内容も検討し、全体として謙虚に受け止める必用がある。

2.3 卒業生アンケート自由記述

回答項目ごとに設けた自由記述欄に卒業生から多くの意見が寄せられている。これらの意見を学科別に、まとめて次に記載する。ただし、学科内では記述者（卒業年を表記）ごとに記載している。

出典：「企業・卒業生アンケート調査結果報告書」抜粋

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

平成12年3月の専攻科第一期修了生から全員が学士の学位を取得している。また、卒業研究、専攻科特別研究は高い水準に達しており、専攻科での外部発表では学会で受賞が多数ある。就職に関してはほとんどの学生が教育を受けた関連分野に進んでいる。

(改善を要する点)

特になし。

(3) 基準6の自己評価の概要

これまでの専攻科修了生は全員が学士の学位を受けており、JABEE認定後はその修了要件も満たしている。また、本科・専攻科とも留年者・退学者は少なく、またおおむね全員が就職・進学している。就職はほとんどの学生がそれぞれの教育を受けた関連分野に進んでいる。さらに、卒業研究や専攻科特別研究も一定の水準に達している。専攻科の外部発表では学会受賞をするものも多数いる。学生が行う学習達成度評価においては一定の評価が得られている。また、卒業生・修了生・企業・大学院へのアンケートにおいて多くの項目で高い評価が得られている。以上のことから、教育の成果や効果が上がっているといえる。

基準7 学生支援等

(1) 観点ごとの分析

観点7-1-①: 学習を進める上でのガイダンスが整備され、適切に実施されているか。また、学生の自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制が整備され、機能しているか。

(観点到に係る状況)

準学士課程の新入生の学習を進める上でのガイダンスとして、入学前に合格者招集日(資料7-1-①-1)を設け、保護者とともにオリエンテーションを実施している。入学後は新入生オリエンテーションを実施。学習を進め、健全な学生生活を送る上での全般的なガイダンスと、学科別の教科を中心とした指導を行っている(資料7-1-①-2)。選択科目が導入されている前年の第3、4学年末にはその説明会をクラス別に実施している(資料7-1-①-3)。編入生向けのガイダンスとして、入学前に編入生全員に対するオリエンテーション(資料7-1-①-4)を、その後専門学科別にそれぞれの主要教科について教科指導を複数日にわたって実施している。また、専攻科入学予定者のガイダンスを前年の2月に、4月に学年別の入学にあたってのガイダンスを、7月と9月には学位申請に向けてのガイダンスを、10月には後期にあたってのガイダンスを実施している。

準学士課程の全学級で担任制を導入し、「学生指導の手引き」(資料7-1-①-5)や「教務必携」(資料7-1-①-6)などの指導マニュアル、学生から提出を受けた「学生票」の内容、授業公開や保護者会および保護者個別懇談会等を通じて指導を行っている(資料7-1-①-7)。準学士課程1～3学年時においては、特別教育活動の時間を利用し、学習の動機付けを行っている。成績不振学生に対する指導や学級運営等を支援するため、学級担任と教科担当教員による連絡会、年2回の全校的な担任会議や学年別の学級担任を通してと各学科との連絡(資料7-1-①-8)を密にしている。専攻科課程においては、専攻科長が中心になって全般的な指導監督を行い、専攻主任と特別研究指導教員が協力しながら学生の日常的指導に当たっている。学生の自主的学習の相談・助言等の学習支援体制として、オフィスアワーズが全教員に義務づけられており、各ホームルーム教室に一覧表として掲示されるとともに、各研究室の前にも明示されている(資料7-1-①-9)。

(分析結果とその根拠状況)

本校では入学前、入学時、後期開始時やその他必要に応じて、学校全体、学年および学科、クラス単位で各種のガイダンスを実施している。学校全体は教務および学生主事室が中心となり、学科やクラスは学科主任や担任や専攻主任を配置することにより、個別の指導をする体勢が整備されている。これらのことから、学習を進める上でのガイダンスが整備され、適切に実施されており、また、学生の自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制が整備され、機能していると判断する。

新入生合格者招集日について

- (1) 日 時 平成20年3月14日(金) 9:00~
 (2) 場 所 体育館
 (3) 時系列

時刻	項目	内 容
8:30	担当者集合	① 会場点検 ② 合格者等案内・整理
8:35	受 付	【事務室】 M科:児玉・松本 E科:東 D科:永峰 C科:柏木 S科:中田 ① 受検票を受取り、合格者名簿と照合しチェックを入れる。 ② 受検票は、チェック終了後合格者に返還する。 ③ 交付書類等の入った封筒を手渡す。
9:00	説 明 会	司 会 学生係長 次 第 (1)開 会 (2)教務関係 教務主事 (3)学生指導 学生主事 (4)事務関係 学生係長 (5)その他 (6)閉会 ※編入学生【担当:松本】 4名 9:30 集合(体育館玄関前) (1)出席者の確認 (2) 交付書類等の封筒を手渡す。 9:35 (1)顔写真撮影 (2)自転車通学申込 (3)体育館シューズ購入・体操服採寸 (4)教科書購入 10:00 教務・学生指導関係説明 教務・学生副主事 (第2会議室) 10:15 各科(4年担任)へ引継ぎ 選択科目履修申請書提出
9:45	教材等購入	【神戸高専生協・宝文館・ジュンク堂】 ※ 場内整理(係長・東) ※ 質問受付コーナー (教務副主事・学生副主事)・事務室(松本) ※ 顔写真受付(児玉) ※ 自転車通学申込(中田) 設定時間:説明会終了後~11:15頃
11:15	終 了	後片付け

(次ページへ続く)

本科合格発表日交付書類一覧（編入生は郵送） * 新入生のみ ◎編入生のみ

1. 合格者及び保護者の皆さんへ *
2. 編入学者及び保護者の皆さんへ ◎
3. 入学のしおり (内容が異なる)
4. 教科書価格表（検定）1年生用 *
5. 教科書価格表（非検定） *
6. 教科書価格表（非検定）4年生用 ◎
7. 入学金に関する申請書
8. 入学金に関する申請書の提出について
9. 誓約書
10. 住所・通学方法届
11. 自転車通学関係届出等 (内容が異なる)
12. 後援会のご案内について
13. 神戸高専返送用封筒
14. 選択科目履修申請の手引き ◎
15. 電子辞書のご案内
16. 神戸高専生協加入のご案内・申込書

合格者招集交付書類一覧 * 新入生のみ ◎編入生のみ

1. 新入生及び保護者の皆さんへ *
2. 編入学生及び保護者の皆さんへ ◎
3. 数学問題集 *
4. 英語問題集 *
5. 国語課題作文用紙（2枚） *
6. 数学・英語・国語の課題について *
7. 平成20年度入学式のご案内（内容が異なる）
8. 学生指導についてのお願ひ（内容が異なる）
9. 学生便覧
10. 入学金納付書
11. 野外活動参加費等納付書（内容が異なる）
12. 授業料及び諸会費について
13. 顔写真撮影用名札
14. 合格者招集日配置図および購入順序 *
15. 教材教具等申込用紙兼領収書 *
16. 新入生・保護者へのアンケート *

出典：事務室学生係資料

1年生オリエンテーションについて

平成20年度 学生指導の手引き

Ⅱ. 1年生オリエンテーション実施要領

タイムスケジュール

4月10日(木)		担当	4月11日(金)		担当
9:00	ホームルーム (クラス写真、M1Aから順次)	担任	9:00	実力試験(数学)	教務主事室
9:50	ホールへ移動				
10:00	オリエンテーション (本部棟ホール) 司会: 学生係長 教務主事、 学生主事、 図書館長、 総合情報センター長、 学生相談室長 管理員	学生係	10:00		
			10:15	実力試験(英語)	教務主事室
			11:00		
11:20	移動			移動	
11:30	各科オリエンテーション M科…本部棟ホール E,D,C,S…ホームルーム [各科主任]	各科主任	11:15	新入生歓迎会 (本部棟ホール) [司会: 学生会]	学生会
12:25			12:15		
	昼休み			昼休み	
13:05	校歌指導 [大倉先生] (本部棟ホール)	学生主事室	13:05	新入生歓迎会 (本部棟ホール) [司会: 学生会]	学生会
13:35					
13:40	校内見学 [各科] (各クラス 2名)	各科			
14:15					
14:20	ホームルーム	担任	15:20	移動	
			15:30	ホームルーム (クラス写真予備日)	担任

- 1) 新入生歓迎会、クラブ紹介参加の学生は公欠扱いとする。(2~5年、但し各クラブ2名以内)
- 2) 各場所への学生の誘導は、各担任の先生でお願いします。
- 3) 10日(木)のオリエンテーション(ホール)へは、学生便覧・筆記用具、校歌指導へは学生便覧を持参させてください。

(次ページへ続く)

4年生に説明する新5年生用の選択科目より

選択科目

履修申請の手引き

平成20年度

応用化学科

<<第5学年用>>

神戸市立工業高等専門学校

(次ページへ続く)

選択科目の申請にあたって

教 務 主 事

本校では、第4学年以上に選択制を実施しております。

選択制の目的は、学生自身が学びたい科目を自主的に選ぶことにより、学習への動機づけができ、自主的学習意欲を高めることにあります。

したがって、何の目的意識もなく、単位の取得し易い科目を選ばないようにしてください。また、履修申請した科目は最後まで責任をもって受講してください。

現在、施設等の関係もあって学生諸君の希望どおり選択ができない場合も考えられますが、可能な限り諸君の意を満たすよう努力するつもりです。

(次ページへ続く)

履修申請要領

1. 履修申請の方法

- (1) 平成20年度に履修を希望する選択科目を「授業科目表および授業概要・到達目標を参考にして決め、所定の「履修申請書」に必要事項を記入してください。
- (2) 「履修申請書」は、平成20年1月16日(水)までに学級担任へ提出してください。
但し、原級留置となった人は「履修申請書」を平成20年3月21日(金)までに学級担任に提出してください。
- (3) 前期履修科目が欠点で、単位不足が生じる場合に限り、後期に追加履修申請ができます。

2. 履修申請上の注意事項

- (1) 学年所定の履修基準単位数以上に履修申請しなければなりません。
- (2) 5年生の並列の選択科目(一般科目)は、履修を希望する3科目までを申請してください。4年生は、「選択科目履修申請書」の注意を読んでください。
- (3) 選択科目の「授業概要・到達目標」等を熟読の上、自分の適性に応じて慎重に履修申請を行い責任を持って最後まで受講してください。
- (4) 履修申請書提出後、若干の調整をする場合があります。
- (5) 履修を許可された後は、原則として選択科目の変更は認めません。
但し、専門科目については、どうしても止むを得ない理由による場合、「選択科目 受講辞退願書」を担任を通じて事務室学生係に提出してください。
- (6) 履修申請書の提出期限を厳守してください。

選択科目の成績評価と取り扱い

1. 選択科目の成績評価および欠課時数の取り扱いについては、必修科目と同じように行います。
2. 選択科目は原則として再評価は実施しません。
但し、取得単位数が履修基準単位数に達しない場合は、必修科目と同様に、進級(卒業)認定会議の承認を得て、再評価を申請することができます。
3. 進級(卒業)認定にかかわる平均点は、履修基準単位数に達するまで成績上位の科目から組入れて算出します。
4. 取得した科目は、すべて指導要録、成績証明に記載されます。

(次ページへ続く)

授業科目表(各学科共通)

平成20年度 第5学年

授 業 科 目	単 位 数	学 年 別 配 当					備 考
		1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	
必修科目	国 語	9	3	3	2	1 I	
	倫 理	2		2			
	政 治 ・ 経 済	2			2		
	論 理 学	1			1		
	歴 史	4	2	2			
	地 理	2	2				
	数 学 I	14	6	4	4		
	数 学 II	4	2	2			
	確 率 統 計	1				1 I	
	物 理	5	2	3			
	化 学	5(4)	3(4)	2(0)			
	生 物	1(2)		0(2)	1(0)		
	保 健 ・ 体 育	9	2	2	2	2 I	1 I
	芸 術	1	1				
	英 語	12	4	4	4		
英 語 演 習	5			1	2 I	2 I	
修 得 単 位 計	77	27(28)	24(24)	17(16)	6	3	
選択科目	ド イ ツ 語	2				2 I	いずれか1科目を選択する。
	中 国 語	2					
	哲 学	2					2 I いずれか1科目を選択する。
	日 本 史	2					
	世 界 史	2					
	社 会 学 特 講	2					
	人 文 学 特 講	2					
	経 済 学	2					
開 設 単 位 合 計	16	0	0	0	4	12	
修 得 単 位 合 計	4				2	2	
一般科目開設単位合計	93	27(28)	24(24)	17(16)	10	15	
一般科目修得単位合計	81	27(28)	24(24)	17(16)	8	5	

※()内は、応用化学科の実施単位数である。

特別教育活動	単 位 時間数	学 年 別 配 当					備 考
		1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	
	90	30	30	30	—	—	

出典：事務室学生係・教務主事室資料

教務主事室主催の編入合格者ガイダンス

平成19年8月21日

<編入合格者ガイダンス>

日時：9月12日（水） 15：00～

場所：第2会議室

内容：尾崎教務主事の挨拶、

- ・一般科主任（吉川先生）の講話 （10分）
- ・英語科主任（折附先生）の講話 （15分）
- ・数学科主任（石塚先生）の講話 （15分）
- ・諸注意

ガイダンス終了予定（15：50頃）

- ◎ ガイダンス終了後、編入合格者は各専門科主任に対応をお願いします。
- ・（機械）尾崎（元）先生
 - ・（電気）松田先生
 - ・（化学）杉先生

[平成20年度編入合格者は、M科1名・E科1名・C科2名です]

15：50頃、合格者のいる専門科主任の先生は、第2会議室まで編入合格者を迎えにお越しください。

教務主事室

（次ページへ続く）

編入合格者ガイダンス(議事録)

日時：H19、9、12 15:00～16:00

場所：第二会議室

出席：教務主事、一般科主任（吉川）、英語科主任（折附）、数学科主任（石塚）

事務室学生係(松本)、学生主事室（小森田、上中）、教務主事室（和田、上垣）

編入生 M：中野君・景山君 E：林君 D：中島君

- ・事務室より（松本さんより）
 - ・資料の確認（学生便覧。シラバスのコピー、高専ガイド、教科書の案内）
 - ・2月末に文書で通知（合格者招集日について）

一般科主任（吉川先生から）

- ・一般科と専門科がある。一般科は、国語、数学、英語などの高校で勉強する内容を教える。4年生でドイツ語、中国語の選択と国語半期、体育などの授業を受け持っている。大学の教養課程と同じような感じ。
- ・部活動などに入り、友達作り 気の良い学生が多く、積極的に輪の中に入って行く。進級時やテストのときに、助けてくれる。
- ・進級のハードルが高く、留年生が各クラスに数名いる。
- ・普段は、さほど勉強してないようにみえるが、試験前は、必死になって勉強している。
- ・受験勉強はないが、年4回の試験を5年間受けている。受験勉強に変わりになっている。また、中間や定期試験がそのまま、進級に影響する。5年終了後に大学へ編入する学生もいる。

英語科主任（折附先生より）（別紙参照②）

- ・英語を好きな学生は殆どいない。しかし、技術者として世界の人々とコミュニケーションできる国際的な言語としての英語は、必要。
- ・4年生 90分の1こま。（前期）科学技術英語とTOEICの勉強
（後期）外国人の授業。コミュニケーションの能力の育成。
- ・5年生 90分の1こま。（前期）クラスを半分に分けて学習。外国人：プレゼンテーション能力の基礎を育成する。日本人：科学技術英語とTOEICの勉強
（後期）科学技術英語とTOEICの勉強。PowePointを利用したプレゼンテーションコンテストが1月にある。
- ・辞書をよむ。（paperでも電子辞書でもOK）。英語の発想を身に付けてください。
- ・学習参考書を1冊用意しておく。卒業後も使える。学生は「FOREST」を使用。
- ・高校卒業レベルの単語を身に着る。TOEICテストでも、発音や単語力は重要。IPテストを12月15日に実施する。
- ・読解力を高めるために、文法と単語力を。
- ・各自で勉強するような環境に身をおく。

（次ページへ続く）

- ・継続は力なり。自分で学習してください。1日、30分程度でいいから、毎日続けてください。
- 問い)・お勧めの問題集は? ⇒ 入学後相談して下さい。
- ・高専の英語のレベルは? ⇒ できる学生はできる。目標は、4年終了時に英検2級合格を。

数学科主任(石塚先生より)(別紙参照③)

- ・2,3年生のシラバスと、教科書、問題集を配布。
- ・高専5年間で高校と大学4年間の科目を扱う。当然、高校で学習していない内容を高専の3年生までで学習済み。3年生までの学習内容が、専門科の先生方が教える、応用数学などの基礎となる。
- ・大学は、全員が同じスタートラインに立っているが、君たちは、違う。
- ・微分積分、重積分、微分方程式、変動関数、ベクトル、行列などは、新しい分野なので、入学までに目を通してください。このような分野は、専門家の応用数学などで必要になってくる。専門科の先生方に質問してください。
- ・高校で習った内容だけでは、不十分。
- ・参考書などは、入試対策の書籍ではなく、学術的な書籍に分類される。参考書等も入学後に質問してください。
- ・シラバスに書いてある言葉を理解してください。

・教務主事(尾崎先生から)

- ・編入学入試 難関を通り抜け、合格おめでとうございます。
- ・5年間一貫教育で、1~3年までと4,5年生とは厳密に区別できない。同じ4年生でも、君たちが知らないことを知っている。
- ・各科から、この後に説明があり、スクーリング等の打ち合わせをしてください。4月から授業についていけるようにしっかりと勉強してください。
- ・進学:開発や研究に従事する。専攻科と大学編入。4割強、進学。6割弱、就職。
- ・職員室はなく、研究室に先生方がいる。担任の先生もいる。office hoursで先生に質問をする
- ・シラバス(高校にはない)をWEBに掲載している。利用してください。到達目標を達成しているかなども、単位を認定するのと同じように大切。
- ・友達同士で協力し助け合って勉強していく。
- ・JABEEに認定されていて、国際的に認められている。

学生主事室(小森田先生より)

- ・学生主事室とは、学生生活を円滑に行なえるように支援していく。処分をするところ、学生会とクラブ活動を支援。
- ・服装については、スーツを用意してください。式典、工場見学に着用。普段も授業を受けるのにふさわしい服装を。
- ・KEMS、喫煙・飲酒、免許証、自転車通学、アルバイト、処分について。
- ・クラブ活動が盛ん。全国でも有数の学校。

(次ページへ続く)

教務主事室より

1、高校との違い

- ・前期、後期でそれぞれに、中間、定期試験がある。
- ・9:00 から授業が始まり、90 分の授業が基本。実験や実習などは、4 時間続きの授業もある。
- ・合格点 (60,70,80)、再評価制度
- ・4 年生から、選択科目を履修
学外実習、ドイツ語と中国語の選択、電気工学科はそれ以外に 3 つの授業が開講されている。

便覧の p45～48 までは、一度目を通すこと。

- ・研究室がある。
- ・office hour について
- ・シラバスについて。各教科の備考欄を参考にして、その教科を学習する前に、どのような教科とつながりがあるかを確認してください。

2、友人を作る

16:00～各科主任へ引き継ぐ

(文責：上垣)

出典：教務主事室資料

平成20年度 学生指導の手引

A4サイズ

1～17 ページ

平成 20 年 度

学 生 指 導 の 手 引

神戸市立工業高等専門学校

平成20年度 教務必携

A4サイズ

1～34ページ

教 務 必 携

平成20年度版

＜神戸市立工業高等専門学校入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）＞

○ 準学士課程入学者受入方針（アドミッションポリシー）

- (1) 工学に興味を持ち、将来技術者として活躍したいと強く希望を持っていること
- (2) 論理的に考えることができ、実験や実習に興味を持っていること
- (3) 数学や理科が得意なこと、英語が好きなこと
- (4) 基礎的な学力を有していること

○ 編入学者受入方針（アドミッションポリシー）

- (1) 工学に関する基礎知識を有し、各専門分野（機械工学、電気工学、電子工学、応用化学、都市工学）に強い関心を持っていること
- (2) 論理的に考えることができ、実験や実習に興味を持っていること
- (3) 理数系科目が得意なこと、外国語学習に関心があること

○ 専攻科課程入学者受入方針（アドミッションポリシー）

- (1) 総合的な基礎学力を有し、数学や英語が得意なこと
- (2) 各専門分野（機械工学、電気工学、電子工学、応用化学、都市工学）の基礎知識を有し、さらに専門性を深めることに熱意を持っていること
- (3) 他分野の技術にも興味を持ち、複合的な視点で問題発見と問題解決することに意欲的なこと

神 戸 高 専 教 務 主 事 室

平成20年4月

出典：平成20年度 教務必携

7月保護者会の案内

平成19年6月20日

保護者各位

神戸市立工業高等専門学校
校長 黒田 勝彦

保護者会の開催について（ご案内）

初夏の候、保護者の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、前期中間試験の結果も出てまいります。試験成績・出席状況等をお知らせし、併せて本校の教育方針をご理解いただくため、下記のとおり保護者会を開催いたします。ご多忙中のところ恐縮ではございますが、是非ともご出席くださいますよう、ご案内申し上げます。

なお、下記の出欠表を7月2日（月）までに、担任あてにご提出ください。

また、ご来校には駐車スペースがありませんので公共交通機関をご利用ください。やむを得ず自家用車を利用される場合は、総合運動公園の有料駐車場(1回500円)をご利用いただけますようお願いいたします。

記

1. 日時 平成19年7月7日（土） 14:00～
2. 集合 本部棟2階ホール
 - ① 全体集会〔教務主事・学生主事・専攻科長講話〕
 - ② 学生生協設立について
 - ③ 担任と懇談（全体集会終了後、ホームルームにて）

* 個別懇談を希望される方は、お申し出ください。

----- 切 取 線 -----

保護者会に 出席 ・ 欠席 します。

.....学科学年組 出席番号

学生氏名

保護者氏名

個別懇談を希望します （午前 時頃・午後 時頃）
（時間が重なった場合は時間をずらす場合があります。ご了承下さい）

担任会議 議事録

[前期担任会議]

平成19年度 前期 担任会議 議事録

日時：平成19年4月10日（火曜日）15:30～17:40

場所：本部棟二階 第2会議室

司会：山下 記録：上垣

0. 校長挨拶

赴任して1年たってようやく様子がわかりました。学校運営上の最前線で担任の先生方が頑張っているのを理解している。この会議を通して、Back up できることとすべきことを勉強したい。

1. 教務主事室関係

1 教務主事挨拶

議題は多くあるが、よろしくお願いします。

1.1 教室の掲示について

「試験についての注意事項」「授業時間割」「学生の座席表」の準備、及び、掲示をお願いします。

1.2 申請書の提出

① 未修得科目再評価申請書

合格したときは履修した年度の合否基準の点数になる

H18年後期より、申請書の変更

学生⇒教科担当（事務）⇒担任 4/13 金 〳切

担任⇒教務 4/23 月 〳切

② 免除申請（70点以上の科目）

学生⇒教科担当 4/20 金 〳切

担任⇒教務（名表の提出） 4/27 月 〳切

1.3 試験・成績・出欠関連

① 「試験についての注意事項」の学生への周知徹底をお願いします。

中間試験は、教科担当が出欠を記入し、教科扱い。

定期試験は、試験監督が出欠を記入し、学校行事扱い。

② 出欠は、欠席が1/3をこえると、不履修科目となり評価しない。

4/9 始業式：6時間 （1年生、入学式：6時間）

4/10 講演会：3時間 身体測定：3時間

4/11,12 1年生 オリエンテーション：6時間

月曜の5時限以外は学校行事として扱う。

③ 学生指導カードについて

1年生は、指導要録を事務室から受け取り、転記

留年生分も確認をお願いします。

提出は、本年度末。

質問) 中間試験は試験成績で、定期試験は学業成績の提出。通年科目に関しては、学年末の成績提出時と同じ評価方法で前期末の成績提出をお願いしたい。その旨を教科担当に連絡してほしい。

(次ページへ続く)

主事) ほぼ、同じ評価方法ではなかったのか? 不都合が生じているのか?

意見) 不都合が生じた。前期末と学年末で同じような評価方法でないと、年度途中で進級をあきらめた学生がいた。

主事) 通年科目では、学年末と同じような評価方法で前期末の提出時に評価するよう、教務委員会で検討。

質問) 編入生分のカードがない。

答) 主事室に取りに来てください。

意見) 中間試験と定期試験の文言を統一してほしい。年間行事予定では、文言が分けられているので、1年生の保護者は理解しにくい。

1.4 ガイドランスの記録 (別紙参照)

HR や家庭訪問などの記述をお願いします。

1.5 選択科目関連

文書や資料は配布済み。学外実習についてもお願いします。

1.6 学生による達成度評価 (別紙参照)

担任の先生には、学生の WEB 入力の手助けをお願いします。

本年度試行して、来年度の実施に向けて修正していきたい。

2年生以上の学生、全員を対象にする (留年生に関しても、入力をお願いします。)

認証評価の審査項目にも「学生による達成度評価」がある。

基本的には、情報系の授業で入力をお願いするが、その授業がないクラスは HR の授業を利用して入力。

学生が入力し、プリントアウトしたものを担任が保管し、全員が入力したかの確認をお願いします。

入力が終われば、主事室まで、連絡ください。また、都合が悪いときにも連絡ください。

4・5年生は、K-Pro と教務委員の先生で協力して入力をお願いします。

5月末までの入力をお願いします。

質問) M3C の 5/7 の HR は、学年行事の説明に利用したい。

答) 5/14 に変更

質問) 来年度も同じ方法で実施するのか?

答) そのように考えている。

質問) 先生に既に評価されているのに、なぜ、自分自身で評価するのか?

意見) 学生の自分自身の評価と教科担当の評価との差をみる目的もあるのではないか?

主事) 学生にも自分自身を評価させてください。教員も評価してください。自己評価の必要性を企業や大学からも聞いている。「素直に自分自身で評価し入力してください」と連絡して下さい。

校長) 先生は、100点をつけた。でも、学生は、その授業をあまり理解できていない。先生、考えてください。などの、意味合いを含んでいる。

質問) H18年度の授業に対するの評価ですか? 年度で、くい違いがあるのでは?

答) 本年度は、試行なのでデータなどは、ほとんど利用できない。来年度、本格的に実施していく。

意見) 授業中の入力はあまりよくないのではないか? 安易に、授業をつぶしすぎていないか?

(次ページへ続く)

質問) 欠席者は?

答) 演習室の放課後開放などを利用して、全員が入力するように。

質問) 留年生も入力が必要か?

答) はい。

質問) 留年生はシラバスが違うのではないか?

答) 確認する。

質問) 図書館でも入力できるのか?

答) はい。

意見) 不正使用が懸念されるが・・・

質問) プリントアウトしたものは、記名か?

答) はい。アンケートではないです。

学生への案内文は、用意するので不要な先生は連絡ください。

その他

学修単位導入について

3.4.5 年生については、学修単位についてのプリント(別紙参照)を配布、及び掲示をお願いします。

質問) 欠席許容時間は、単位についてか?

答) 授業時間数に対してなので、以前と同じ時間数。

質問) 学修単位がカリキュラム表は便覧に掲載しないのか?

答) 今後も変更があると思うので、現在は考えていない。

担任会議は、年2回の開催です。それ以外で、学年で会議等を持ってください。

なお、保護者会は、7月7日(土)です。

2. 学生主事室関係

2.1 学生主事挨拶

2.2 依頼事項

2.2.1 クラス運営について

クラス役員に KEMS 委員の追加をお願いします。

a) クラス役員を 4/16 日を目途に、決定して下さい。4/18 日に評議会を開催するので。

b) 委員長、副委員長の役割

学生評議会への出席と「クラス連絡箱」のチェック。その他は、「学生指導の手引き」

2.2.2 学生指導について

a) クラス全体への指導

ルールやマナーについての指導をお願いします。特に、授業中は授業に集中するように。

b) 個別指導

寝ている学生に対しても声かけは必要。無視はしないように。

認定会議で、この学生は寝ているや授業に集中できていない、などの理由で合格点が出ない

(次ページへ続く)

場合が多くある。

担任一人で抱え込むのではなく、多くの教員で関わっていく。先生方に相談するなどして。

c) 保護者への連絡

昨年度は、特定のクラスで、クレームが保護者からあった。

小・中学校と同じように、本校のことを考えている保護者いる。高専が不親切だ、と思われる場合がある。⇒早めの連絡で、密に連絡を取り合ってください。

事故や怪我があったときは、家庭に連絡を！！クラブも同じ。

2.2.3 盗難防止について

特定のクラスで起きている。盗癖のある学生が入学したらそのクラスはしんどい。警察の介入は、学校なので難しい。⇒そのような学生が盗難しないよう、できないような取組みが必要。

1年生は特に注意。

2.2.4 安全対策について

災害が起きれば、「災害時の避難経路」を持ち出し、出席簿代わりにしよう。「災害時の避難経路」に名表を貼ってください。

2.2.5 校内掲示板について

休講などの掲示もあるので、毎日確認するように。

2.2.6 HR の活用について

有効な利用をお願いします（別紙参照）。

質問) 1年生の役員の選出も4/18までか？

答) 評議会を4/18に開催するのでお願いします。

クラブ予算を4月末日に決定。そのため、評議会を4/18日に実施する必要があるため。

質問) 学生指導の手引きに「お茶を食堂に取りに行く」と記述してあるが、食堂には多くのやかんがない。どうすべきか？

意見) ほしい学生は持参するので、取りに行く必要なくなる。手引きの文言を削っても差支えがないのでは。

答) 手引きの文言については、削る方向で検討する。

質問) 教室に以前からある荷物を捨てることは可能か？

答) 告知だけしていれば、廃棄しても問題ない。

2.3 その他

2.3.1 KEMS について

森本先生より説明があった。

KEMS の取組みを機械工学科から、本年度は全学科へ広げる。4,5月に試行し、7月以降に本格的に取り組んでいきたい（別紙参照）。

質問) 昨年はゴミの軽量は1週間に1度だったが、本年度は、ゴミ袋一杯になったら計量するのか？

答) はい。表への記入は、その測定日に計量したもののみを記入してください。

質問) KEMS 委員の仕事は？

答) 見張り役

主事) 計量し捨てるのが KEMS 委員の仕事では？

意見) KEMS 委員は、ゴミに関してだけでなく、学生に資源を大切に利用させるのが役割。

(次ページへ続く)

7つの柱を中心に。

質問) 計量するのは、教室内のゴミだけ?

答) 全校清掃時は、教室内のゴミのみ計量。それ以外のゴミは計量しなくても良い。

質問) 今週も分別するのか?

答) ゴミ袋を連絡箱に本日中に入れる。その後は、担任が管理員室へとりに行く。

ゴミの分別について

「ゴミ分別のルールと処理方法」についての説明 (別紙参照)

4月から神戸市内の事業所で処理方法が変わった。そのため、「ゴミ分別のルールと処理方法」を教室掲示する。

- ① 可燃ごみ ⇒ 専用の袋 (計量)
 - ② ペットボトル ⇒ 透明の袋 (計量) ただし、業者が回収。
 - ③ 資源ごみ ⇒ 計量不要。ゴミ箱は用意していない。
(カン、ビン) (担任で用意をお願いします。)
 - ④ 不燃ごみ ⇒ 計量不要。各階に設置
- ③、④については、体育館裏に直接持参。

質問) ゴミ袋の配布は?

答) 管理員室で

質問) 枚数は記録しているのか?

答) 事務室は、記録している。担任しか取りにいけない。

質問) 他のクラスのゴミ箱にゴミを捨てたら?

答) そこまで厳しく管理できないのでしかたがないこと。

質問) 分別の習慣がついていない学生がいるが

答) 指導をお願いします。

質問) ベールに直接捨てる学生がいるが?

答) 計量はほかのところで行なっているので、かまわない。

質問) ペットボトルは洗わなくて良いか?

答) はい。

質問) ゴミ箱のラベルはどうするのか?

答) 担任で用意してください。

質問) 現在ゴミ箱は3つ用意されているが?

答) 担任で判断してください。

質問) KEMS は、何の略称?

答) Kobe Environmental Management System

質問) 認定証は?

答) M科で認定を受けた。今年は、全学科で取り組みたい。環境宣言を教室に掲示する。

意見) ゴミを計量するのではなく、ゴミを計量することでゴミを減らすことに意識を向けること。

資源について考えるような取組みをすべきだ。

意見) ISO14001に相当。神戸市では、小・中・高で取り組んでいる。

(次ページへ続く)

2.3.2 神戸市学校園安全互助会加入について

申し込み〆切 4/20 本人のサインが必要で、費用はクラス費から引き落とし。
法律の改正で、本年度のみサインが必要となった。本校では、多くの学生が利用している。

質問) 全員から回収すべきか

答) はい。クラス費から全額引き落とす。

質問) 本人の意思で、加入しない場合は？

答) 今後検討。

校長) 全員が加入しないと学校運営上支障をきたすかも。Option なしの強制。

それ以外に既に加入していれば別。志賀先生と相談。

その他

- ・スキー旅行は H20,1/22 ～1/25 まで。
- ・平成 19 年度の基本方針を印刷するので、掲示してください。
- ・式典の設営をクラスの 1/3 づつをやめてほしい。(本年度は、これで、今後検討。)

平成 19 年度[前期担任会議]議事録はここまで。

<2008 年 5 月 24 日ウェブサイト 『神戸高専だより』より抜粋>

● 授業公開(24日)

本校後援会の総会を兼ねて、本校の保護者を対象とした授業公開が行われました。あいにく天候には恵まれず雨となりましたが、多くの保護者が授業を見学されました。特に、新入生である1年生の教室には多くの保護者が見学されており、子供が高専でどんなことを勉強しているか非常に興味を持っている印象を受けました。昼食時にはたくさんの保護者が生協を訪れ、日頃子供がどんな所でどんな昼食を食べているか、体験しました。(加藤 真嗣)



実験実習(都市工学科)



数学の授業(3年生)



英語の授業(3年生)



1年生の廊下の様子



昼食時の生協



昼休みの図書館

(平成 19 年度[後期担任会議] 議事録が、次ページへ続く)

[平成19年度[後期担任会議]議事録]

非常勤への周知は？

学年修了（条件付学年末修了退学）は、失点でもできる（必携参照）。

・学生への周知は？

担任間での共通理解。

重要なことは、全校集会で連絡する。

・追試験の届けは、出しているがまだ、試験実施されていない。
特殊事情である。

5 選択科目追加履修申請

5年とE4,S4が該当 申請締切：10月17日（水） 提出先：事務室学生係

6 ガイダンス記録集約

4月の会議で配布済み

9 次年度選択科目の集計

[別紙参照] 3年・4年担任の先生にお願い（学生係担当：中田さん）

10 その他

・学年末の「学習記録一覧」について：データベース情報との関係
データを消去せずに、書き加える。

・名表提出締切：3/21(金)

・シラバスの確認

学生に確認するように、連絡ください。

注) 前期修了科目で失点の場合は？

特別な場合を除いては、再評価を認めない。

相談の余地があり。

(学生主事室関係議事録)

日時：16:40～17:10

1. 学生主事挨拶

お忙しい中、学生への対応ありがとうございます。

先生方の取組みが、学生の学校への信頼感に繋がっている。

日々、ありがとうございます。

2. 高専祭関係

(1) 出席について

高専祭（10/27(土)、28(日)） 午前1回と午後1回の最低2回確認をお願いします。

・できれば、顔を見て、出席を確認してください。

片付け及び全校清掃（10/29(月)） 10:20～HR、10:40～全校清掃

(2) 居残り承諾書について

居残り承諾書は取りまとめの上、提出一覧を添付して学生主事室へ提出してください。

提出締切は本且です。なお、承諾書は提出締切後でも随時受け付けますので、居残りをする学生は必ず提出するようご指導下さい。

・駅までは、家族で対応する、などの文言がない。学生主事室から個人的に連絡する。

(次ページへ続く)

- (3) 土日の居残りについて
土日は学生が活動をしなない場合があります。土日の居残りをするかどうかを各クラスの担任、各科は調査の上、事前に居残り担当者へ学生主事室から連絡をお願い致します。
- (4) 机とイスの移動について
10月26日(金) 13:30～13:50に、机およびイスの貸し出しを高専祭実行委員で行います。貸し出し、返却とも、実行委員会で責任をもって行いますが、クラス代表者または担任が搬入出の際に立ち会って頂きますようお願いいたします。また、移動日までに以下の2点について学生に連絡、指導をお願いいたします。
①事前に机の中を含め、荷物の持ち帰りを徹底させてください。
②机、イスの貸し出しはすべて高専祭実行委員会を通じて行います。たとえ自分のクラスの机、イスであっても届け無しに搬出しないように注意してください。
・勝手に搬出しないように！！
- (5) ステージの片付けについて (10/29 (月))
1～3年の高専祭委員は9:00にステージ前中央広場集合させてください。
欠席した場合は後日、奉仕活動をさせます。
3. 学生生活について
- (1) 校舎施錠時間について
校舎施錠時間を過ぎても教室に残る学生がいますので、校舎施錠時には必ず下校するよう指導をお願いします。また、最後に帰る学生は窓の施錠、エアコンおよび暖房機の停止、消灯を忘れないようご指導下さい。なお、校舎施錠時間は以下の通りです。
夏時間 (3/16～11/15) 19時 冬時間 (11/16～3/15) 18時15分
・時間を守るよう連絡してください。
- (2) 教室の環境維持について
ロッカーの上や床に漫画、雑誌、プリント類が散乱しているクラスが目につきます。定期試験期間中でもロッカーの上が整理されていないクラスもありました。教室の環境維持のためゴミ捨てや整理整頓を日頃から心がけるようご指導をお願いします。また、教室内にクラブ所有の用具やボールなどがありましたら返却するようお願いいたします。今年度はKEMSを学校として取得しているためゴミの分別の徹底をお願いします。特に、ペットボトルは体育館裏には捨てずに、指定の回収バールまで持って行くようご指導ください。
・登下校中に買ったペットボトルについても、クラスのゴミ箱でOK。
業者には依頼している。
- (3) 盗難について
主事も見回っている。

低学年での盗難が目立ちます。貴重品の自己管理を怠らないようご指導ください。また、ゲーム機などの高価なものや不要物を学校に持ち込まないようご指導ください。
従来の対応では管理が難しい場合は、個別にHR教室の施錠も検討させていただきます。

M1A 教室の施錠するよう学生から依頼。協議の上、施錠。移動教室の場合は、委員長が責任を持って対処。遅刻した学生は、移動教室の時に、活動場所に鍵を取りに行く必要がある。
朝： 大多喜先生より、鍵を受け取り、帰宅時に、再度、大多喜先生に渡す。
- (4) 図書の本の紛失について
相変わらず図書の紛失が続いています。図書は必ず貸し出し手続きをして持ち出すようご指導ください。もし、無断で持ち出されている図書がありましたら早急に返却させてください。
機械のほうが高い。盗難された本のほうが安い。
4. その他
清掃業者が変わって分かりにくい。分かりやすい様にしてください。事務室に連絡する。腕章をするなどして、分かるようにしてほしい。

(次ページへ続く)

その他

KEMS に関して

9月18日、19日に実施審査があったが、再度受審の必要性があり。
 10月18日（木）に実施調査。学生へのインタビュー可能性あり。
 計量計が2kgまでだったので、ヘルスメーターを購入。
 生産加工3の部屋で受け渡し（月曜日の午後と水曜日終日）。
 一覧表を張ってください（未記入でもOK）。
 入力は、できない。手書きでお願いします。

・明日12日（学年学科行事）は、部活動もしないように、また、学生会館の閉鎖する。

出典：教務・学生両主事室資料

<ウェブサイトより抜粋『高専祭』>



ロボコン展示



ソーラーカー展示



クラス企画



模擬店(1)



模擬店(2)



ビンゴゲーム大会



1年生による演奏会



ライトミュージック部によるバンド演奏



教職員餅つきの会による餅つき



神戸高専進路フォーラム(1)



神戸高専進路フォーラム(2)



中学生学校見学会

2007年度 オフィスアワーズ一覧(後期)

2007年度 オフィスアワーズ一覧(後期)			
氏名	オフィスアワーズ	備考	
機械工学科	森本 義則	毎週水曜日 16:00～18:30	在室時随時OK
	長野 優雄	毎週金曜日 15:30～17:00	事前に連絡してください。
	尾崎 元泰	毎週火曜日 16:30～18:00	在室時は、いつでも可
	中辻 武	毎週火曜日 16:30～18:00	
		毎週金曜日 16:30～18:00	
	吉本 隆光	毎週木曜日 16:30～17:30	昼休みまた放課後在室時は随時
	小林 滋	毎週木曜日 16:30～18:00	なお昼休み、放課後等もあいておれば随時。できれば事前に連絡下さい。
	赤対 秀明	毎週木曜日 16:30～18:00	これ以外でも在室時は可能です。ただし、時間がかかる場合には必ず予約をしてください。
	斎藤 茂	毎週木曜日 16:30～18:00	
	長 保浩	毎週水曜日 16:30～18:00	在室時は随時お越しください。
	小林 洋二	毎週火曜日 16:40～18:00	事前に連絡をもらえれば、より確実に時間を確保できます。ご協力をお願いします。
	田口 秀文	毎週水曜日 15:00～16:45	他の時間でもできるだけ対応します。事前にメール(taguchi@kobe-kosen.ac.jp)で連絡してもらえると確実です。
	西田 真之	毎週月曜日 16:20～18:00	昼休みは随時。
	宮本 猛	毎週水曜日 15:00～	在室時はいつでも
	石崎 繁利	毎週水曜日 15:00～18:00	
	尾崎 純一	毎週火曜日 16:30～17:30	簡単な質問等であれば随時対応します。
	和田 明浩	毎週火曜日 16:30～18:00	E-mailで予約を取れば随時対応します。
	朝倉 義裕	毎週金曜日 16:40～18:30	在室時は随時
	早稲田 一轟	毎週水曜日 17:00～18:00	随時対応します。(e-mailで予約が望ましい)
	熊野 智之	毎週火曜日 16:30～18:00	在室時随時
林 公祐	毎週木曜日 15:00～18:00	登校時間外でも在室しておれば対応いたします	
電気工学科	藤井 富朗	毎週月曜日 16:00～19:00	上記以外でも在室時はOKです。
		毎週金曜日 16:00～19:00	
	松田 忠重	毎週金曜日 16:30～18:30	
		毎週火曜日 16:30～18:30	
	下代 穂芽	毎週火曜日 16:30～18:30	在室中であればいつでも対応します
	山本 誠一	毎週火曜日 12:30～12:55	
		毎週金曜日 12:30～12:55	
	津吉 彰	毎週月曜日 16:00～17:30	上記以外はできればメールで予約してもらおうと確実です。
	森田 二郎	毎週月曜日 16:20～17:00	
		毎週火曜日 16:20～17:00	
		毎週木曜日 16:20～17:50	前期中間試験前までは、電気工事士筆記試験の対策勉強会、試験後から夏休みでは電気工事士技能試験、夏休み開始第1週目に受験3種試験対策勉強会、その後は線形代数の勉強会、冬休みは物理の勉強会を実施する。
		毎週金曜日 16:20～17:00 毎日 12:20～12:55	
	山本 伸一	毎週水曜日 10:00～16:00	在室時はいつでも来てください。メールで予約してもらった方が確実です。shin1@kobe-kosen.ac.jp
	遠平 雅一	毎週金曜日 16:30～18:30	
	山本 和男	毎週月曜日 16:30～18:30	在室時はいつでもOK
赤松 浩	毎週月曜日 16:00～18:30	上記以外の場合は事前にメール(ahamatsu@kobe-kosen.ac.jp)で確認をとること。	
加藤 真嗣	毎週火曜日 16:30～18:00	在室時にも対応しますが、事前にメール(kato@kobe-kosen.ac.jp)で予約することが望ましい。	
林 昭博	毎週火曜日 16:30～18:00	在室時は随時対応します。	
尾崎 進	毎週火曜日 16:30～17:30	事前にメールなどで予約してもらえれば上記以外でも対応します。ozaki@kobe-kosen.ac.jp	
若林 茂	毎週月曜日 16:30～18:00	これ以外でも在室時は対応します。	
笠井 正三郎	毎週木曜日 16:30～18:00		
三好 誠司	毎週木曜日 16:30～18:00		
橋本 好幸	毎週火曜日 16:30～18:00	在室時はいつでも対応します。	
戸崎 哲也	毎週木曜日 16:30～18:00	在室時はいつでも対応します。	
西 敬生	毎週月曜日 16:30～		
	毎週木曜日 16:30～	研究室に在室時は先約等がない限り、いつでも受け付けます。	
藤本 健司	毎週火曜日 17:00～18:00	基本的に、在室時にはいつでもかまいません。但し、各種業務で部屋にいないこともあるので事前にメール(fujimoto@kobe-kosen.ac.jp)で予約するようにしてください。	
小矢 美晴	毎週木曜日 16:30～18:00	在室時はいつでも可能です	
応用化学科	松本 久司	毎週木曜日 16:30～18:00	予約して、随時実施します。
	田中 守	毎週月曜日 15:30～17:50	その他の日も連絡してもらえれば放課後時間を取ります。
	松井 哲治	毎週火曜日 16:00～18:00	その他の曜日・時間でも、可能な限り随時対応します。
	杉 廣志	毎週月曜日 15:40～17:30	その他随時
	根津 豊彦	毎週月曜日 16:30～18:00	
	大淵 真一	毎週金曜日 16:30～18:00	
		毎週月曜日 16:30～18:00	第1月曜日は除きます。事前連絡があれば随時対応します。
	九鬼 博隆	毎週木曜日 16:30～18:00	在室時は何時でもお気軽に。
	渡辺 昭敬	毎週火曜日 16:30～18:00	第二火曜日のみ会議のため不在。指定曜日以外については、電子メール aki1@kobe-kosen.ac.jpにて予約可能
	小泉 拓也	毎週金曜日 16:30～18:00	在室時は随時。月曜日は不在です。
牧野 貴至	毎週月曜日 16:00～18:00	基本的に在室時はいつでも対応します。事前に連絡があるとベターです。	

(次ページへ続く)

	氏名	オフィスアワーズ	備考
都市工学科	中西 宏	毎週月曜日 16:20～18:00	在室時に随時
	橋本 渉一	毎週月曜日 16:00～17:00	在室時は、随時対応します。
	中尾 幸一	毎週火曜日 16:30～18:00	事前に連絡があれば他の時間帯でも可能
	辻本 剛三	毎日 12:30～13:00	表記時間帯以外でも対応します。なお来客中にご遠慮ください。
	高科 豊	毎週月曜日 16:30～17:30	
	山下 典彦	毎週金曜日 16:30～18:00	該当時間以外は、事前に予約して下さい。
	並河 芳	毎週火曜日 16:30～18:00	上記以外の日でも、在室時は訪問可能です。
	上中 宏二郎	毎週月曜日 16:30～17:30	在室時はいつでも対応可能です。
	柿木 哲哉	毎週月曜日 16:20～17:15	
	宇野 宏司	毎日 12:30～13:00	在室時は、随時受け付けます。
国語	亀屋 真三子	毎週火曜日 16:00～18:30	連絡をもらえれば、随時対応します。
	西岡 一也	毎週金曜日 16:25～17:05	その他予約があれば随時対応します。
	吉川 敏郎	毎週木曜日 16:00～17:30	会議のない日はいつでも対応します。
	土居 文人	毎週木曜日 16:00～17:30	メール、口頭などで事前に予約して下さい。随時質問に応じます。
数学	石塚 正洋	毎週火曜日 16:30～17:00	上記以外の曜日は放課後に会議等がありますが、在室の場合は対応します。
	末次 武明	毎週金曜日 16:00～18:00	木曜日は、研修で朝から学校にはいません。
	八木 善彦	毎週金曜日 16:00～17:35	随時可、火曜不在
	児玉 宏児	毎週木曜日 16:30～17:00	
	横山 卓司	毎週火曜日 14:40～17:00 毎週水曜日 14:40～17:00	オフィスアワーズで指定されている時間以外でも、在室時はいつでも質問や相談ができます。気軽に研究室に来てください。尚、水曜日については会議が入ることがありますので、事前に確認をお願いします。
	菅野 聡子	毎週火曜日 16:00～17:30	
	吉村 弥子		
理科	北村 知徳	毎週火曜日 16:40～18:00	在室時は随時対応します。
	大多喜 重明	毎週月曜日 16:30～18:00	
	岡崎 志	毎週水曜日 17:00～18:00	金曜日は不在です。それ以外は事前に連絡してください。会議などの関係で、時間が前後することがあります。3年次以上の学生で、進路関係等の内容が含まれる場合、個別の案件は原則として対応できません。
英語	佐藤 洋俊	毎週月曜日 16:30～18:00	電子メール(nsstoh@kobe-kosen.ac.jp宛)で予約をお願いします。
	一瀬 昌嗣	毎週金曜日 16:30～18:00	在室時は、いつでも対応します。
	西山 正秋	毎週木曜日 16:30～18:00	またはe-mail(nisiyama@kobe-kosen.ac.jp)で予約を取って随時
	前田 誠一郎	毎週火曜日 16:30～18:30	火曜日以外でも在室時は可能ですが、火曜日以外及び時間がかかる場合は、gmaeda@kobe-kosen.ac.jp宛のメールで必ず要予約。
	折附 良啓	毎週月曜日 16:30～17:30	
	柳生 成世	毎週木曜日 16:30～17:30	学生からの質問等に対しては、休憩時間・放課後を利用し、随時対応します。
	田口 純子	毎日 12:30～13:00	
	今里 典子	毎週月曜日 16:00～17:30	メールで予約にて随時。
体育	上垣 宗明	毎週月曜日 16:30～18:00	
	中川 一穂		
	寺田 程裕		
	小森田 敏	毎日 15:00～17:00	在室中はいつでも対応します
人文社会	妻名 祥		
	福田 敬子	毎週木曜日 15:30～17:00	毎週金曜日15時30分～17時は、相談室です。左記以外でも在室時は随時対応します。
	高橋 秀実	毎週水曜日 16:30～17:30	在室時随時対応
	手代木 隼	毎週火曜日 16:30～18:00	電子メール (tesirogi@kobe-kosen.ac.jp) で予約を取れば随時可能。
独語	町田 吉隆	毎週火曜日 16:30～18:00	質問などがあれば、随時来室してください。E-mailで予約することも可。machida@kobe-kosen.ac.jp
	八百 俊介	毎週木曜日 16:30～18:00	その他在室時は随時
本田 敏雄	毎週水曜日 15:00～17:00	会議のない日の水曜放課後を当てる。事前に連絡をしてからの来室が望ましい。	

出典：教務主事室資料

観点7-1-②： 自主的学習環境（例えば、自主学習スペース、図書館等が考えられる。）及び厚生施設、コミュニケーションスペース等のキャンパス生活環境等が整備され、効果的に利用されているか。

（観点に係る状況）

図書館は、閲覧スペース、雑誌コーナーとAV室、図書検索パソコンを設置している。書庫への入室も可能であり、文献資料収集の便を図っている（後述の資料8-1-①-4）。図書購入に際して学生の希望も受け付けているほか、教員の推薦図書も積極的に購入している。なお、図書館の開館時間は9時～18時と短く、夜間の開放がないのは本校には寮がなく、原則的には自宅通学のみであるからである。また、近隣の大学と相互に利用を図るために神戸研究学園都市大学図書館相互利用閲覧要綱を設け、学生及び教職員の利用の便宜を図っている。なお、図書館に関しては基準8の施設・設備の項目を参照されたい。

総合情報処理教育センターにはパソコン室(PC48台)が2室あり、それらは学生に開放(平日の15時～17時45分)されている(資料8-1-①-5)。自学自習の支援として、定期試験前には専攻科棟大講義室が学習スペースとして開放(18時～19時45分、7日間程度)されている(資料7-1-②-1)。

厚生施設としては学生会館と食堂がある。学生会館1階には学生会室と学生会議室、2階には文化部・同好会の部室、3階は和室、研修室等があり、合宿等の部活動に活用されている。コミュニケーションスペースとしては、食堂周辺にテーブル椅子の設置、自動販売コーナーなどコミュニケーションスペースが設けられている。図書館横には日本庭園が配置され、ベンチも設置されており読書や憩いの場所として四季折々の風情を味わえる。専門学科棟の4階に設けられた休態スペースにはソファが設置されており、学生に活用されている。また、これらの項目は、基準8 施設・設備の箇所も参照されたい。

なお、平成20年度からは学生生協が設立されることが決まっており、食堂メニュー、購買物品、各種のサービスが充実される予定である(資料7-1-②-2)。

これらのことから、自主的学習環境及び厚生施設、コミュニケーションスペース等のキャンパス生活環境等は十分に整備されており、効果的に利用されている。

（分析結果とその根拠状況）

図書館や総合情報処理教育センターなどが整備され活用されている。また定期試験前は放課後の学習スペースとして大講義室が開放され利用されている。最近の利用実態を示す(資料7-1-②-1)。学習や学生生活に潤いを与える厚生施設として食堂や部室、会議室、合宿施設などが完備されており十分活用されている。これらのことから、自主的学習環境、厚生施設およびキャンパス生活環境等が整備され、効果的に利用されていると判断する。

学習支援の案内

平成19年5月26日

保護者各位

学生主事

学習支援について

保護者の皆様には、平素より、本校の教育活動にご理解、ご協力いただき厚くお礼申し上げます。

さて、本校では前期、後期に中間試験、定期試験を一年間に4回行っております。今年度も各試験期間前に学校で学習を希望する学生に対して下記の通り、学習場所を提供いたします。居残って学習する学生は、帰宅時間が遅くなります。本人が保護者と連絡を取っているか確認は致しますが、安全のため本人との連絡を前もって取っていただくようよろしくお願い致します。

記

実施期間 : 各試験期間前の5日間（土日祝日、補講日は行なわない）

時 間 : 午後6時から7時45分までの1時間45分

場 所 : 専攻科棟大講義室

諸注意 : 保護者に事前に連絡を取っておくこと

（次ページへ続く）

平成18年度学習支援利用状況

前期中間試験

月日	6/6(火)	7(水)	8(木)	9(金)	12(月)	利用 のべ人数
教員氏名	G 田口	M 朝倉	E 森田	D 林	C 根津	
利用人数	0	4	8	15	13	40

前期定期試験

月日	9/13(水)	14(木)	15(金)	19(火)	20(水)	利用 のべ人数
教員氏名	G 高橋	M 森本	S 中尾	D 戸崎	E 山本伸	
利用人数	0	9	12	7	0	28

後期中間試験

月日	11/24(金)	27(月)	28(火)	29(水)	30(木)	利用 のべ人数
教員氏名	G 北村	M 斉藤	S 中尾	C 松本	E 加藤	
利用人数	1	9	6	12	18	46

後期定期試験

月日	2/13(火)	14(水)	15(木)			利用 のべ人数
教員氏名	D 小矢	C 小泉	S 中尾			
利用人数	7	8	14			29

平成19年度学習支援利用状況

前期中間試験

月日	6/5(火)	6(水)	7(木)	8(金)	11(月)	利用 のべ人数
教員氏名	G 手代木	M 尾崎純	E 赤松	D 橋本	C 牧野	
利用人数	8	5	1	17	5	36

前期定期試験

月日	9/11(火)	12(水)	13(木)	14(金)	18(火)	利用 のべ人数
教員氏名	G 土居文	M 尾崎元	E 森田	D 西	S 並河	
利用人数	2	5	5	4	8	24

後期中間試験

月日	11/19(月)	20(火)	21(水)	22(木)	26(月)	利用 のべ人数
教員氏名	G 中川	M 石崎	E 下代	C 根津	S 宇野	
利用人数	3	4	4	9	5	25

出典：学生主事室資料

神戸市立工業高等専門学校生活協同組合の設立

A4サイズ

1～48 ページ



神戸市立工業高等専門学校生活協同組合

創立総会 議案書

日 時：2007年10月1日（月）13時40分～

場 所：神戸市立工業高等専門学校 体育館 にて

＝議 案＝

- 第1号議案 創立総会に至るまでの経過報告承認の件
- 第2号議案 定款（案）及び諸規約（案）承認の件
- 第3号議案 事業計画（案）及び収支予算（案）承認の件
- 第4号議案 取引金融機関決定の件
- 第5号議案 借入金最高限度額決定の件
- 第6号議案 連合会加入の件
- 第7号議案 議案決議効力発生の件
- 第8号議案 役員選出の件

※ 議案書は、創立総会当日ご持参ください。

出典：神戸市立工業高等専門学校生活協同組合

設立発起人会

出典：神戸市立工業高等専門学校生活協同組合

観点7-1-③： 学習支援に関する学生のニーズ（例えば、資格試験や検定試験受講、外国留学等に関する学習支援等が考えられる。）が適切に把握されているか。

（観点に係る状況）

学習支援に関する学生のニーズは、授業アンケートの自由記述欄、オフィスアワーズ、担任や専攻主任の普段の学生とのコンタクト、その他種々の会合等の多様な手段により、適切に把握されている。また、学生会組織である学生評議会（各クラスの正副委員長と学生会執行部により構成）が活発に機能しており、学生の要望を直接学生主事室に伝える仕組みができています（資料7-1-③-1）。平成17年度には、学生評議会の要望が大きかったホームルーム教室へのエアコンの設置が実現した。平成20年度からは、事務室横に「学生意見箱」を設置（資料7-1-③-2）し、個々の学生の要望を直接聞く機会を設けた。

（分析結果とその根拠状況）

授業アンケート、オフィスアワーズ、担任や専攻主任の個別の指導や学生評議会を通しての学生の要望を聞く機能がある。これらのことから、学習支援に関する学生のニーズが適切に把握されていると判断する。

学生評議会について

18年度評議会運営に関するアンケート クラス()

今年度の評議会では、さまざまな事に関して話し合いを行い、学生生活を改善していきたいと思えます。そのためにアンケートでは正副委員長の皆さんから、「変えてほしい事」ではなく、評議会の議題にして「変えていきたい事」についての意見を幅広く取り入れていきたいと思えます。

○冷房設備に関して

- | | |
|--|--|
| <p>1. 現状の冷房設備の満足度</p> <p>a. 現状で十分満足している</p> <p>b. 改善すべき点はあるが満足している</p> <p>c. 改善すべきところが多い</p> <p>d. 現状に不満である。</p> | <p>2. 冷房に対して不満な点 (1でa以外の回答の方のみ)</p> <p>a. 冷房の設定温度が高い</p> <p>b. " が低い</p> <p>c. その他</p> <div style="border: 1px solid black; height: 40px; width: 100%;"></div> |
|--|--|

○学生生活について

- | | |
|--|--|
| <p>1. 学内での学生の喫煙について</p> <p>a. 学生の喫煙を見た事がある</p> <p>b. 喫煙していると聞いた事がある</p> <p>c. 喫煙したと思われる場所がある(臭いなど)</p> <p>d. 知らない</p> <p style="padding-left: 20px;">具体的な場所()</p> | <p>3. クラスの様子について(複数回答可)</p> <p>a. 授業中 私語・居眠り・内職が多い</p> <p>b. 遅刻や欠席が多い</p> <p>c. HR教室が汚い</p> <p>d. 他にもクラスに問題があると感じる</p> |
| <p>2. 学生喫煙の指導について(複数回答可)</p> <p>a. 教員の指導不足(黙認等)があると感じる</p> <p>b. 教員の指導に問題はない</p> <p>c. 学生側でも対応すべきである</p> | <p>4. 教室の清掃状況</p> <p>a. 週数回清掃している(頻度: 回)</p> <p>b. 週1回掃除している</p> <p>c. 月1回掃除している</p> <p>d. その他()</p> |

意見(その他)

○カーブミラーの設置について

北門から専門科棟横の道路を横断する際に、車が通って危険な事があるので、車の有無を確認できるカーブミラーを設置したほうがよいのでは?という意見があった。

- | | |
|--|---|
| <p>1. 危険度の調査</p> <p>a. 危険を感じたことがある</p> <p>b. 危険を感じた事はない</p> <p>c. 北門を使用しないので知らない</p> | <p>2. 設置要望の調査</p> <p>a. カーブミラーの設置をしてほしい</p> <p>b. どちらでもよい</p> <p>c. 設置の必要はない</p> <p>d. 使用しないのでわからない</p> |
|--|---|

意見(その他)

(次ページへ続く)

○ポイ捨ての状況について

学内及び地域の学生のごみ捨て状況がどうなっているか

- a. 学内・地域共に学生が捨てたごみがある
- b. 学内にはある
- c. 地域にはある
- d. 学内にも地域にも捨てられていない
- f. その他()

意見

○評議会の今後の方針について

年間を通じて取り組んでいきたい評議会活動に○をいれる(複数回答可)

- | | |
|--------------------------|---------------|
| ① HRの清掃状況の確認=学校の美化活動 | ⑤ 清掃用具の管理 |
| ② 学生会の会計(予算)を透明化するための行動 | ⑥ 高専の宣伝活動 |
| ③ クリーン作戦の実施(学内及び地域の清掃活動) | ⑦ 授業態度改善の働きかけ |
| ④ ポイ捨て禁止の働きかけ | ⑧ 挨拶運動 |

○評議会全般に関して上記以外で変えていきたい事

例, 次回の議題にしてほしいこと, 評議会でこんな活動がしたい こんなアンケートを取ればいい 等

(次ページへ続く)

2006/06/07 2:52

第3回 評議会資料-1

空調設備の使用について

○空調の温度についての連絡

- ・昨年度の空調温度は27～26℃である（神戸市役所等では28℃）
- ・冷房温度を下げるすぎると、健康に悪影響がある。
- ・体感温度は外気温と室温の差である。
- ・現行の空調の温度では、気温が高くないと涼しくない。
Ex. 気温 29℃で26℃の空調では多少暑いので、窓を開けて風を通したほうが涼しい。
気温 31℃で空調26℃であれば、温度差が5℃あるので涼しく感じる、等
- ・多少の我慢は必要である。
- ・電力消費は絶対温度であるので低温にすると電力消費が高くなる。
- ・冷房の時期は前期中間試験の前後（気温による）

○設定温度について

- ・学生の希望する設定温度を調査する。（別紙アンケート）
- ・温度設定を学生で行うには、自主規制（最低温度）と、事務室が心配している機器の破損や違反に対する罰則等の規定が必要。そのためのデータを集める。
（事務室による温度管理でもこういった情報は有効）

○喫煙問題について

- ・学内外で本校学生の喫煙が多数目撃されている。（20歳以上でも本科生の学内喫煙は禁止）
- ・学内で喫煙の目撃情報がある場所は、授業中を含め教員が交代で定期的に巡回している。
- ・タバコ臭いと思う場所があれば、担任または学生主事まで連絡する。
- ・喫煙が見つかったら停学等の処罰の対象となる。

○HR等の清掃について

- ・前回のアンケートなどからHRが汚いクラスが多いという結果が出た。
- ・今後の取り組みとして、HRの清掃点検を評議会で定期的に行っていく。
- ・方法については現在見当中。試験明けの21日以降（6月中）に試験的に行う予定。
- ・以降は評議会のメンバーで役割分担していく。

○ポイ捨てについて

- ・アンケート結果では、学内外でポイ捨てされたゴミが多い。
- ・特に学外では近隣住民の方に迷惑がかかるので、そういったことは行わないようにする。
- ・登下途中に出たゴミは、学校や駅・自宅のゴミ箱に捨てる。
- ・評議会や課外協議会の活動で、周辺地域の清掃活動も今後実施する予定。

（次ページへ続く）

2006/06/07 2:52

第3回 評議会資料-2

18年度評議会運営に関するアンケート集計結果

学生評議会では、クラスでの問題点や学校全体の問題などについて、どのようにすれば学生生活をよりよいものにできるか話し合いを行います。

本アンケートは各クラスの代表である正副委員長に行ったもので、この結果を今後の話し合いの参考にしていきます。

○冷房設備に関して

- | | |
|-----------------------|------------------------------|
| 1. 現状の冷房設備の満足度 | 2. 冷房に対して不満な点 (1でa以外の回答の方のみ) |
| a. 現状で十分満足している 6 | a. 冷房の設定温度が高い 8 |
| b. 改善すべき点はあるが満足している 9 | b. " が低い 1 |
| c. 改善すべきところが多い 9 | c. その他 9 |
| d. 現状に不満である 1 | |

2-C その他) 学生が温度設定をできるように6(微調整できるように1) 計7
部屋が均一に冷えない 1
ガスヒーターをエアコンに移行する 1

○学生生活について

- | | |
|---------------------|---------------------------|
| 1. 学内での学生の喫煙について | 2. 学生喫煙の指導について(複数回答可) |
| a. 学生の喫煙を見た事がある 7 | a. 教員の指導不足(黙認等)があると感じる 13 |
| b. 喫煙していると聞いた事がある 5 | b. 教員の指導に問題はない 7 |
| c. 喫煙したと思われる場所がある 7 | c. 学生側でも対応すべきである 6 |
| d. 知らない 9 | |

学生の喫煙場所)

トイレ6	機械工場1	丘の上(吸殻)2
通学路2	階段裏 2	学生会館(1Fトイレ・アウトドア部室) 2

- | | |
|------------------------|------------------------|
| 3. クラスの様子について(複数回答可) | 4. 教室の清掃状況 |
| a. 授業中 私語・居眠り・内職が多い 15 | a. 週数回清掃している(頻度:週2回) 6 |
| b. 遅刻や欠席が多い 9 | b. 週1回掃除している 14 |
| c. HR教室が汚い 16 | c. 月1回掃除している 4 |
| d. 他にもクラスに問題があると感じる 4 | d. その他(半月に1回 = 月2回) 1 |

意見(その他)

・教員の見回り当番があるようだが、実際にみまわっている所を見た事がない。 見回りをしっかりとすれば、自然に喫煙は減る。
・ゴミ箱に空き缶入れが必要。

(次ページへ続く)

2006/06/07 2:52

第3回 評議会資料-3

○カーブミラーの設置について

北門から専門科棟横の道路を横断する際に、車が通って危険な事があるので、車の有無を確認できるカーブミラーを設置したほうがよいのでは?という意見があった。

1. 危険度の調査

- | | | |
|-------------------|----|----|
| a. 危険を感じたことがある | 8 | |
| b. 危険を感じた事はない | 14 | 17 |
| c. 北門を使用しないので知らない | 3 | |

2. 設置要望の調査

- | | |
|--------------------|----|
| a. カーブミラーの設置をしてほしい | 6 |
| b. どちらでもよい | 11 |
| c. 設置の必要はない | 5 |
| d. 使用しないのでわからない | 2 |

意見(その他)

- ・車が速度を守れば問題はない
- ・十分左右が見られるので必要がない

- ・自転車危険
- ・危険な車がいる。(速度が速い)
- ・最徐行の意味を知らない車がいる

○ポイ捨ての状況について

学内及び地域の学生のごみ捨て状況がどうなっているか

- | | |
|-----------------------|----|
| a. 学内・地域共に学生が捨てたごみがある | 16 |
| b. 学内にはある | 7 |
| c. 地域にはある | 2 |
| d. 学内にも地域にも捨てられていない | 1 |

- | | | |
|-----|--|---|
| 意見) | ・通学路に捨てられているのを見る(総合運動公園からの道でJR敷地のフェンスの中) | 2 |
| | ・個人の意識の問題でそれを改善させる必要がある。 | |
| | ・ポイ捨てに関する指導が必要 | |
| | ・学生のモラルが低い | |

○評議会の今後の方針について

年間を通じて取り組んでいきたい評議会活動に○をいれる(複数回答可)

- | | | | |
|--------------------------|---|---------------|---|
| ① HRの清掃状況の確認-学校の美化活動 | 5 | ⑤ 清掃用具の管理 | 4 |
| ② 学生会の会計(予算)を透明化するための行動 | 4 | ⑥ 高専の宣伝活動 | 6 |
| ③ クリーン作戦の実施(学内及び地域の清掃活動) | 9 | ⑦ 授業態度改善の働きかけ | 6 |
| ④ ポイ捨て禁止の働きかけ | 9 | ⑧ 挨拶運動 | 1 |

○評議会全般に関して上記以外で変えていきたい事

- ・学生喫煙の防止
 - ・カンニングの問題に関してもっとしっかりした活動をするべき
 - ・黒板を曲げる or 教室を広くする
 - ・外廊下を内廊下にする
 - ・校内に電灯が少ない
 - ・高専祭以外に大きな行事がもう一つほしい
 - ・高専祭で有人ごみステーションを設置して、ゴミ分別を積極的に行う
 - ・ロッカーサイズを大きくする
- 等

出典：学生主事室資料

観点7-1-④： 資格試験や検定試験受講，外国留学のための支援体制が整備され，機能しているか。

（観点に係る状況）

資格及び検定試験に関する支援体制としては，各学科・各教科において受検を奨励（前述の資料6-1-②-3）し，受検申し込みの取りまとめ等や補講等を行っている。英語力の向上を図るために外部の資格試験による単位認定科目を設けており，学生の学習意欲の向上に結び付けている。準学士課程及び専攻科課程の学生を対象に TOEIC-IP テストや工業英検を校内で実施している（資料7-1-④-1）。

外国留学に関する支援体制としては，平成10年に学生留学規程（資料7-1-④-2）を制定し，留学先で修得した単位の認定を行うなど，年度途中からの留学でも帰国後継続して履修ができるよう配慮しており，平成19年度までに数人の学生が外国留学している。

（分析結果とその根拠状況）

資格及び検定試験に関する学科各教科の支援，英語における外部資格試験の単位認定制度，検定試験の学内実施などが実施されている。外国への留学規程が設けられ，年度途中からの留学でも極力不利にならないよう配慮されている。これらのことから，資格試験や検定試験受講，外国留学のための支援体制が整備され，機能していると判断する。

TOEIC申込み用紙

2007年11月5日

TOEIC 団体受験申込みについて

英語科

下記の要領で、今年度のTOEICのIP（団体特別受験制度）試験を実施します。
 受験希望者は、11月22日(木)までに、受験料を添えて日本人の英語科の先生に申し込んでください。

記

1. 実施日：2007年12月15日(土) (13:00～)
2. 場所：神戸高专 一般科棟
3. 受験対象者：3年生、4年生、5年生、専攻科生、教職員
4. 受験料：4,200円
5. ガイダンス：なお、受験者は、12月12日(水) 15:00～LL教室にて、行われるガイダンスに必ず出席して下さい。ガイダンスの時に、受験番号と受験教室などを連絡します。

..... 切り取り

TOEIC 団体受験申込書

学年・クラス*	番号	氏 名	受験料
*			済 ・ 未

*学年・クラス名は、M4B や AC2 のように記入すること。

受付日 _____

出典：英語科

学生留学生規定

4. 学生留学規程

(制定 平成10年6月1日)

(趣 旨)

第1条 この規程は、神戸市立工業高等専門学校学則第28条の規定による本校学生の外国の高等学校又は大学（以下「外国学校等」という。）への留学（以下「留学」という。）の取扱いについて必要な事項を定める。

(留学の申請)

第2条 留学を希望する学生は、所属学科の学科主任を経て、原則として留学の3か月前までに、留学願（別紙様式1）に次の各号に掲げる書類を添えて校長に願い出なければならない。

- (1) 留学希望先の外国学校等の規模、沿革、教育方針、教育課程等が記載されている書類
- (2) その他校長が必要と認める書類

(留学の許可)

第3条 校長は、前条に規定する留学の願い出があったときは、教務委員会の議に付し、次の各号に掲げる要件を満たしているときは、これを許可するものとする。

- (1) 留学しようとする外国学校等が正規の教育機関であり、体系的な教育課程を有していること。
 - (2) 前号の外国学校等から在籍することについての許可を得ていること。
 - (3) 留学の目的、理由が当該学生にとって教育上有益であり、かつ、本校における当該学生の学業成績及び生活態度が良好であること。
 - (4) 留学先で履修する科目が、留学期間中における本校の履修科目とその内容において相当とみなすことができ、復学後の修学に支障がないと認められること。
- 2 校長は、前項の規定により留学を許可した後、出国前に前項各号の要件を欠くような事態が生じたときは、留学許可を取り消すことができる。

(留学期間)

第4条 留学期間は、10か月以上1年以内とする。ただし、校長は、留学中においてやむを得ない事情があると認めるときは、留学期間の短縮又は1年を限度としてその延長を許可することができる。

(次ページへ続く)

2 前項ただし書きに規定する留学期間の短縮又は延長の許可を受けようとする学生は、留学期間変更願（別紙様式2）を校長に提出しなければならない。

3 留学期間は、本校の修学年限に含めるものとする。
（留学の終了）

第5条 留学を許可された学生は、留学が終了したときは、直ちに所属学科の学科主任を経て、校長に留学報告書及び留学先外国学校等の長が発行する単位取得証明書、成績証明書等を提出しなければならない。
（単位修得の認定等）

第6条 留学期間中の単位の認定及び復学後の所属学年については、教務委員会の審議を経て、校長が決定する。

2 留学期間中の単位の認定については、留学を許可された学生が留学先外国学校等において良好に履修したと認められる場合は、30単位を超えない範囲で単位の修得を認める。この場合、評価は行わない。

3 第4条第1項ただし書きの規定により留学期間の短縮を許可された場合において、短縮後の留学期間が10か月未満となったときは、前項の単位の認定は行わない。

4 第1項の規定により30単位の認定を受けた者は、「学業成績評価及び進級並びに卒業の認定に関する規程」第12条第2項に規定する進級の要件を満たしているものとみなす。
（留学許可の取消）

第7条 校長は、留学を許可された学生が次の各号のいずれかに該当するときは、留学先外国学校等の長と協議の上、留学許可を取り消すことができる。

(1) 履修の見込みがないと認められるとき。

(2) 留学先外国学校等の規則等に違反し、又は留学生の本分に反する行為があると認められるとき。

(3) その他留学の趣旨に反する行為があると認められるとき。

（雑 則）

第8条 この規程の実施に関し必要な事項は、校長が別に定める。

附 則

この規程は、平成10年6月1日から施行する。

観点7-1-⑤： 特別な支援を行うことが必要と考えられる者（例えば、留学生、編入学生、社会人学生、障害のある学生等が考えられる。）への学習支援体制が整備されているか。また、必要に応じて学習支援が行われているか。

（観点に係る状況）

編入学生に対しては、入学前の3月中旬に入学オリエンテーションを実施し、学生生活全般のガイダンスをするとともに、その後専門学科別にそれぞれの主要教科について教科指導を複数日にわたって実施している（前述の資料7-1-①-4）。現在、障害のある学生は在籍していないが、校内のバリアフリー化（スロープ、車椅子での利用可能トイレ、エレベータの設置など）がほぼなされており、受入は可能である。これらのことから、特別な学習支援が必要な者に対する学生支援体制が整備され、機能している。なお、本校は兵庫県在住の学生のみを受け入れており、留学生の受け入れ態勢はない。

（分析結果とその根拠状況）

編入生に対する学習や学校生活を送る上での支援体制があり、ガイダンスや補講が実施されている。校内のバリアフリー化はほぼ完成しているものの、留学生の受け入れ態勢は現在ない。

これらのことから、一部未整備なものもあるものの、総合的にみて特別な支援が必要な者に対し、学習支援体制が整備され、機能していると判断する。

観点7-1-⑥： 学生のクラブ活動や学生会等の課外活動に対する支援体制が整備され、機能しているか。

（観点に係る状況）

学生のクラブ活動や学生会等の課外活動は学生会規約（前述の資料2-2-③-3）に基づき組織運営され、学生主事室が指導監督し、学生委員会が主催行事の支援を行っている。現在は17の運動部と11の文化部、3つの同好会があり（資料7-1-⑥-1）、部・同好会ごとに延べ94名の顧問教員が配置され、年3回開催されるクラブ顧問会議で諸課題が検討されている。土日・祭日や夏季・冬季・春季休業中の活動はあらかじめ提出した予定表に基づき活動している。また、必要に応じて外部コーチを招聘し、顧問教官ではできない専門的な指導を受けている。その他の課外活動としては、アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト、プログラミングコンテストやソーラーカーレース等において支援プロジェクトを発足し、教員が活動を支援している。課外活動に特別な功績があった者に対して、特に高専体育大会や夏季休業中の各種大会の優秀な成績に対しては後期開始時の集会上、また特に顕著な業績を残したものに対しては卒業式時において特別表彰を実施している。保健室には緊急医薬品等を常備し、学校内で発生した疾病や傷害等に対して応急処置を行っている。学生会室及びクラブ部室は学生会館・グラウンド横の部室棟などにクラブ毎に配置されている（資料7-1-⑥-2）。後援会からはクラブ部費はクラブ代表者からなる課外活動評議会が活動実績や部員数などから査定し配分している（資料7-1-⑥-3）。

また、課外活動を含む学生の健康管理を計画的に実施しており、特に夏の高専体育大会前には特別検診を実施している。休日活動時などにおける緊急事態に対しては学生主事室やクラブ顧問間の連絡体制を完備するとともに（資料7-1-⑥-4）、部活動中の心停止に対処するためAEDを常備している。また、運動クラブ部員や顧問教員には市民救命士の講習会（資料7-1-⑥-5）を実施している。

学生会活動は、中央執行委員会を中心に、学生会規約に基づき運営されている。学生会主催行事は、学生主事室および学生委員会が運営を支援している。

(分析とその根拠状況)

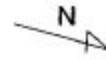
クラブ、学生会や各種プロジェクト等の活動に対して支援体制があり、表彰制度も充実している。活動時における救急処置策が整備され機能している。これらのことから、課外活動に対する支援体制が整備され、機能していると判断する。

平成20年度 クラブ・同好会 顧問、部長名簿

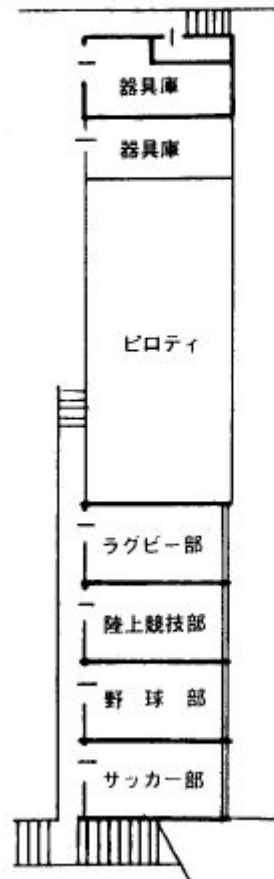
区分	クラブ	顧問					部長
運動部	陸上競技	S 宇野宏司	G 菅野聡子	C 渡邊昭敬	E 森田二郎	M4C 住谷浩基	
	ソフトテニス	G 横山卓司	M 小林洋二	G 本田敏雄	M 尾崎純一	E4 浦井 誠	
	ラグビー	G 小森田敏	S 並河努	S 中西 宏	M 森本義則	C5 松谷圭祐	
	バレー	C 大淵真一	E 道平雅一	M 赤対秀明		M5D 芳川昇次郎	
	バスケット	G 春名 桂	M 石崎繁利	E 加藤真嗣	G 北村知徳	E5 大久保広訓	
				M 林 公祐	M 山本高久		
	卓球	M 西田真之	M 早稲田一嘉	S 山下典彦	M 武縄 悟	M3C 赤山優太	
	剣道	G 佐藤洋俊	G 中川一穂	M 齋藤 茂	D 長谷芳樹	C5 山本航平	
	柔道	G 土居文人	S 中尾幸一			M3C 井本 廉	
	弓道	G 町田吉隆	G 末次武明			C4 内田健哉	
	水泳	G 寺田雅裕	M 田口秀文	E 山本伸一	S 亀屋忠三子	E4 堤晃一	
	サッカー	S 橋本渉一	E 山本和男	C 田中 守		M5D 今里和樹	
	空手道	M 長 保浩	G 一瀬昌嗣			S3 中里尚央	
	バドミントン	D 笠井正三郎	G 手代木陽	G 上垣宗明	S 辻本剛三	M3D 新田浩樹	
	野球	D 西 敬生	M 宮本 猛	C 牧野貴至	E 市川和典	E5 船嶋彰人	
	アーチェリー	C 松井哲治	M 和田明浩	G 八百俊介		C3 堀田泰久	
テニス	E 津吉 彰	D 藤本健司	E 下代 雅啓	M 熊野智之	C3 鷲尾哲平		
文化部	吹奏楽	D 小矢美晴	C 宮下芳太郎	M 小林 滋	D 尾崎 進	D5 宮永 歩	
	華道	G 福田敬子	G 田口純子	G 今里典子		D5 木本順也	
	ESS	G 折附良啓	G 柳生成世	G 西山正秋		M2B 小池徹弥	
	自然科学	G 大多喜重明	G 八木善彦	M 吉本隆光	C 下村憲司朗	C2 河野雅博	
	電気工学実験	D 橋本好幸	E 松田忠重	D 小矢美晴	D 林 昭博	D1 石田裕太郎	
	電子計算機	G 児玉宏児	D 戸崎哲也	M 朝倉義裕	D 若林 茂	D4 小田悠介	
	写真	S 高科 豊	G 柳生成世	G 西岡一也		D4 中戸寛喜	
	ライトミュージック	C 小泉拓也	E 山本誠一	C 九鬼導隆		D5 安部直樹	
	MRC	M 朝倉義裕	G 前田誠一郎			M5C 上念拓馬	
	美術	G 石塚正洋	G 今里典子	C 根津豊彦		C3 小山紗季	
同好会	スキー	G 高橋秀実					
	ハンドボール	S 柿木哲哉	S 上中宏二郎			S4 仲村真祐	
	囲碁	C 杉 広志				C5 松原基耶	
	文芸	G 土居文人	M 朝倉義裕	S 宇野宏司		D3 浜田直樹	
	生協	D 西 敬生	E 山本和男			M5C 杉野勇起	
ロボット工学研究会	M 朝倉義裕	M 武縄 悟			M3C 渡部恭平		
ソーラーカー	M 吉本隆光	E 松田忠重	M 和田明浩	M 中辻武	M4C 小西将貴		

出典：2008年度(平成20年度)クラブ手帳(p1)

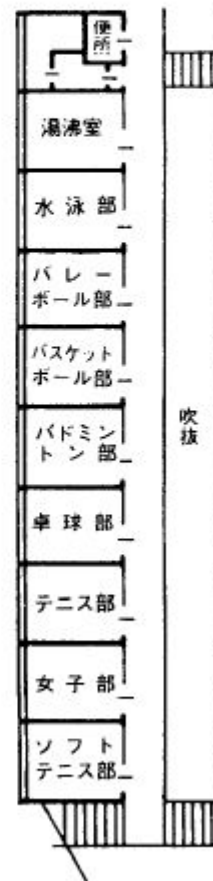
体育部室



《1階平面図》



《2階平面図》



出典：平成20年度学生便覧(p104-105)

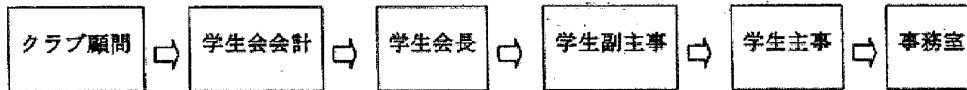
クラブ予算について

1. クラブ・同好会の設立と廃止

- (1) 新たにクラブまたは同好会を結成しようとする者は、次の書類を2部準備し、学生主事室と学生会長に各1部提出する。
- ① 学生団体結成願 …………… 様式第1号
 - ② 顧問および部員（会員）名簿 …………… 書式自由
 - ③ 年間活動計画 …………… 様式第3号
- (2) クラブ・同好会の設立にあたっては、顧問1人、部員・会員5人以上を必要とする。
- (3) 学生会長は書類を確認のうえ、学生評議会にかけるものとする。
- (4) 学生評議会の決議により、クラブ顧問会議の同意を得たのち、職員会議の承認を得るものとする。
- (5) 同好会がクラブへの昇格を希望する場合、その承認は(4)の手続きに準ずるものとする。
- (6) クラブ・同好会の降格および廃止について
 クラブは部員数が5人未満の状態が2年続いた場合は、同好会へ降格するものとする。
 同好会は会員数が2人以下になった場合は廃止するものとする。

2. クラブ予算の配分と執行

- (1) 毎年4月にクラブ代表者が、学生会に申請書を提出する。
- (2) 学生会は申請書にもとづき予算案を作成し、評議会の承認を得る。
- (3) 予算の執行は、クラブ代表者が請求書又は領収書を「学生会経費支出票」に添付し、次の順序で印をもらい、事務室庶務係に提出すること。



※ 同好会については原則として予算をつけないが、申請により必要と認められたときは、臨時に予算をつけることがある。

3. クラブ活動上の留意点

※クラブ活動は、学校の教育計画に基づく課外指導であり、スムーズな活動ができるよう、次の点に留意すること。

- (1) 年度当初に、「部活動ならびに課外活動に関する年間活動書兼活動報告書」（様式第3号）を別に定める日までに学生主事室に提出すること。
- (2) クラブ活動時間は、
- ① 平日夏期（3月16日～11月15日）は、19：00
 - ② 平日冬期（11月16日～3月15日）は、18：15
 - ③ 休日（顧問が付き添う場合に限り認める）は、17：00
- を限度として認める。
- (3) 原則として試験開始日の1週間前から試験終了までのクラブ活動は認めない。もし試験終了日直後に大会が開催される場合は、競技中の怪我の予防のために試験期間中でも勉学に支障のない

クラブ活動上の事故について

5. クラブ活動上の事故について

※ クラブ活動中は、事故を起こさないように注意することは当然であるが、万一事故が起きた場合は、次の要領で処理すること。

- (1) 保健室に連絡を取ること。保健室が不在の時は、学生主事室・事務室・体育教官室等に連絡をとり、適切な措置を取ること。
- (2) 軽傷の場合は、保健室で応急の措置を受けたのち、指示を受けること。
重症と思われる時は、保健室の指示に従い、タクシー・救急車等を利用し、すぐに病院に連れていくこと。状況により保護者にも連絡すること。
- (3) 休日の事故で重症の場合、学生主事または学生副主事にも連絡すること。
中川学生主事 ☎090-3943-9451・道平学生副主事 ☎090-3726-3178・小森田学生副主事 ☎090-1156-9255
- (4) 翌日以降、速やかに保健室で日本体育学校健康センターの手続きをすること。

6. その他

- (1) クラブ練習中の盗難事故が多いので、クラブ・個人での貴重品の管理を徹底すること。
- (2) 下校時間を遵守すること。
- (3) 学生のクラブ等の参加については、学生団体加入・脱退届(様式第1-1号)を有効に活用してください。

7. 本校で大会ならびに对外試合等を実施する場合の注意

- (1) 大会関係者(役員・保護者)の車は、必ず駐車場に駐車するように指示・誘導すること。
- (2) 活動終了後は、使用した施設(更衣室・トイレを含む)を清掃し、現状復帰をすること。
- (3) 大会で出たゴミは各チームで持ち帰ることを原則とする。その他のゴミは本校のルールに則して分別し、全て指定の専用ゴミ袋に入れて集積場まで直接持っていき捨てること。

出典：2008年度(平成20年度)クラブ手帳(p4)

市民救命士の資格取得

学生各位

2007年6月11日

“市民救命士”受講者の募集について

市民救命士の講習会を下記の通り実施します。

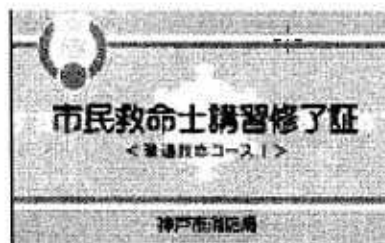
神戸市は現在一家に一人が市民救命士になることを目標に市民救命士を増やそうと取り組んでいます。

例年、3年生を対象に実施していますが、受講者数にゆとりがあれば他学年でも受講可能です。多くの学生諸君の受講を期待します。

記

日 時 : 2007年8月1日(水) 午後1時30分～ (約3時間)
集合時間 : 午後1時20分(遅刻厳禁) ※遅刻すると受講できなくなるので注意
場 所 : 学生会館3階
対 象 : 本校学生および教職員(学生は3年生を優先します)
定 員 : 約50名
募集締切 : 6月26日(火) (早めの申し込みをお願いします)
申 込 先 : 担任

以上



修了者にはこの修了証がもらえます



講習の様子 ※本校ではありません

出典：学生主事室資料

観点7-2-①： 学生の生活や経済面に係わる指導・相談・助言を行う体制が整備され、機能しているか。

(観点に係る状況)

準学士課程においてはクラス担任が、専攻科課程においては専攻主任が事務室担当者（授業料の減免や奨学金等の諸問題（資料7-2-①-1）や教務・学生両主事室（学生生活上の悩みや勉学に関する諸問題）と密接な連絡をし、問題解決を図っている。また学生からの教育環境に関する様々な要望を集約し、担任会議、専攻科運営委員会および科内会議で討議するとともに、教務・学生両主事室とも相談し実現に向けた取り組みがなされている。

各クラスの正副委員長から構成される学生評議会で集約された様々な意見に対して、学生主事が直接対応している。また、学生評議会の決定事項は各クラスに掲示されている。

(分析結果とその根拠状況)

クラス担任や専攻主任の役割が明記され、学生への指導・相談・助言を補佐する組織が存在する。学生白らの要望を直接学校側に伝えられる評議会や課外活動協議会があり、機能している。

これらのことから、学生の生活や経済面に係わる指導・相談・助言を行う体制が整備され機能していると判断する。

授業料免除・奨学金等

1. 授業料減免制度について

神戸市では授業料の経済的負担が大きいご家族を対象に、授業料の減額又は免除を行っています。(この制度は、だれもが教育を等しく受けるためのものです。したがって、基準に当てはまる方は、だれでもこの制度を利用することができます。又利用したことによっていかなる不利益を受けることもありません。)

授業料の減額又は免除を希望される方は、申請書に必要書類を添付のうえ事務室庶務係までご提出ください。学年の途中でも申請はできます。(減免の案内および申請書は事務室にあります。)

2. 奨学金制度について

現在、本校学生が貸与もしくは給付を受けている奨学金の種類には、次のようなものがあります。

(平成18年度実績月額：単位 円)

種 類	貸与・給付の別	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	備 考
日本学生 支援機構	第1種 (貸与)	21,000	21,000	21,000	45,000	45,000	自 宅 通 学
		22,500	22,500	22,500	51,000	51,000	自 宅 外 通 学
兵庫 県 奨 学 金	貸 与	18,000	18,000	18,000	18,000	18,000	自 宅 通 学
		23,000	23,000	23,000	23,000	23,000	自 宅 外 通 学

- (1) 奨学生の募集は、毎年行われますが、その要領は掲示その他によってお知らせします。
- (2) 希望者は、事務室学生係へ申し出て募集要領及び願書の交付を受け、指定期日までに必要書類をご提出ください。
- (3) 貸与の奨学金については、貸与終了後返還しなければなりません。
- (4) 奨学生の採用は人数の制限もあり、学業成績や家庭状況が考慮されることもありますので、希望者全員の期待にそえない場合もあります。
- (5) 神戸市以外に在住する学生についても、各自治体等の奨学金制度(貸与又は給付)があります。

(次ページへ続く)

- (6) その他、各団体の奨学会による奨学生募集があり、学校長の審査のうえ適格者をそれぞれ推薦します。

3. 学生の災害給付について

本校の学生には、「独立行政法人日本スポーツ振興センター」及び「神戸市学校園安全互助会」の適用があり、学校管理下における災害につき、災害共済給付が行われている。その概要は次のとおり。(災害とは、学生の負傷・疾病・廃疾又は死亡をいう。ただし、交通事故等の第三者の加害行為には適用されません。)

(1) 日本スポーツ振興センター

災害の種類	災害の範囲	給付金額
負傷	学校の管理下の事故によるもので、療養に要した費用の額が5,000円以上のもの	医療費 健康保険なみの療養に要する費用の額の4/10(そのうち1/10の分は、療養に伴って要する費用として加算される分) ただし、高額療養費の対象となる場合はその支給を受けて自己負担となる費用月額」の1/10を加算した額
疾病	学校の管理下の行為によるもので、療養に要した費用の額が、5,000円以上のもの のうち、文部大臣が定めたもの (ガス等に因る中毒・日射病・溺水・異物の嚥下・漆等に因る皮膚炎・外部衝撃等に因る疾病・負傷に因る疾病)	医療費 健康保険なみの療養に要する費用の額の4/10(そのうち1/10の分は、療養に伴って要する費用として加算される分) ただし、高額療養費の対象となる場合はその支給を受けて自己負担となる費用月額」の1/10を加算した額
障害	学校の管理下の負傷及び上欄の疾病がなおった後に残った障害で、その程度により1級から14級に区分される。	障害見舞金 3,770万円～82万円(通学中の災害の場合1,885万円～41万円)
死亡	学校の管理下で ①運動などの行為が直接起因となって発生するもの ②運動などの行為と関連なく発生するもの (通学およびこれに準ずる場合・突然死など)	① 2,800万円 ② 1,400万円

(次ページへ続く)

(2) 神戸市学校園安全互助会

死亡見舞金	1,200万円（通学時及び突然死は600万円）
障害見舞金	障害の程度に応じて1級・1,570万円から15級・45万円（通学時は1級785万円から15級23万円）を給付します。
歯 ^め 見舞金	前歯が欠けて根管治療を要するものは、1本につき10万円を給付します。完全欠損の場合は1本につき20万円を給付します。
事故見舞金	1週間以上の長期入院等の場合、入院期間等に応じて3万円から10万円を給付します。
眼鏡等見舞金	体育や部活動の際に身につけていためがね、コンタクトレンズや補聴器が外部衝撃により破損したとき、めがねのレンズ（1枚）・フレームは1万円、コンタクトレンズ（1枚）1万5千円、補聴器は3万円を限度に実費を給付します。
弔慰金	死亡の原因、理由に関係なく一律5万円を給付します。ただし、学校管理下の死亡については10万円を給付します。

(神戸市学校園安全互助会災害給付規程による。)

(3) 学校の管理下とは、おおむね次の場合をいう。

- (ア) 学校が編成した教育課程に基づく授業を受けているとき。
- (イ) 学校の教育計画に基づく課外指導を受けているとき。
- (ウ) (ア)(イ)のほか、休憩時間中に学校にあるとき、その他校長の指示又は承認に基づいて学校にあるとき。
- (エ) 通常の経路及び方法により通学するとき。（寄道などは管理下外です。）

(4) その他

災害共済給付の制限、医療費の額等については、保健室に問い合わせること。

出典：事務室学生係資料

観点7-2-②： 特別な支援を行うことが必要と考えられる者（例えば、留学生、障害のある学生等が考えられる。）への生活支援等を適切に行うことができる状況にあるか。また、必要に応じて生活支援等が行われているか。

（観点に係る状況）

種々の悩みを抱える学生に対して学生相談室（資料7-2-②-1）を設置し、2名の担当教官が週2回相談室や研究室に待機し、直接に相談室や研究室で相談できるようにしている。また、外部のカウンセラーも定期的に来校して対応してもらっている。事案によって外部の機関に紹介するなどして更なる処置を施している。セクシュアル・ハラスメントおよび相談員については学生向けのパンフレット（資料7-2-②-2）を作成し全学生に配布してその対応策を学生に周知すると共に、教員に対しては、神戸市教育委員会が作成した「セクシュアル・ハラスメントの防止に関する指針」、校内の人権教育推進委員会が作成した「セクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）の防止に関する指針」（資料7-2-②-3）を配布するなど啓蒙活動に努めている。

保健室においては、学生の検診結果を担当に知らせることによって、学生の健康状態にも関心をもたせ、健康に学生生活を送れるように支援している。また、麻疹やインフルエンザなどの伝染病に対する注意喚起や持病や怪我などの相談や支援を行っている。前にも述べたが留学生制度はなく、入学前から障害がありその後の支援を要するものはいない。入学後、交通事故等で通学が困難となった学生に対して、試験中の別室受験を認めるなど、学生の状況に応じた個別の支援をした実績も多い。

（分析結果とその根拠状況）

学生相談室、セクシュアル・ハラスメントに関する活動および保健室での各種支援などがある。これらのことから、特別な支援が必要な者の生活面の支援が行われていると判断する。

学生相談室の掲示案内

平成20年4月

学生相談室の案内●学生相談室とは

学生生活の悩みについて、何でも相談できる所です。相談の内容については、原則として、秘密は守ります。

●その他には

相談室では希望があれば外部専門カウンセラーの先生に性格テストをおこなってもらっています。詳しいことは相談員に尋ねてください。

●いつどこへ行けばいい

月間行事予定表を見てください。原則、毎週火曜日15:30から17:00まで、学生相談室があいています。また、月曜日は昼休みもあいています。木曜日の15:30から17:00は福田研究室でも相談室を開いています。試験中は少し変わりますので注意してください。

	月	火	水	木	金
【開室時間】	昼休み 12:20～13:00	○			
	15:30～17:00		○	外部カウンセラー 第3水曜日 15:00～17:00 (福田研究室) ○	

●学生相談室のあるところは

本部棟1階です。保健室の向かいの部屋です。

●外部カウンセラーの先生は

第3水曜日15:00～17:00 学生相談室にいます。(試験期間中は13:00～15:00)
3月と8月はありません。

●相談員は誰

石塚 正洋(一般科・数学) 研究室(一般科棟6階) 電話番号 078-795-3301
福田 敬子(一般科・歴史) 研究室(一般科棟6階) 電話番号 078-795-3294
高木 公人 先生(神戸市教育委員会・スクールカウンセラー)
相談室電話番号 078-795-3528(常時在室はしていません)

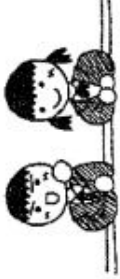
●注意することは

直接に話を聞きたいので、電話、メール等での相談はおこないません。留守番電話による相談もしません。相談員の研究室や相談室に来てください。
ゆっくりと話をしたときには、電話などで相談員と時間などの予約をしてください。

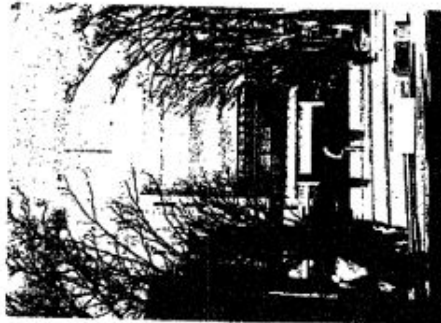
●学校のHPも参考にしてください。 <http://www.kobe-kosen.ac.jp/soudan/index.html>

出典：学生相談室

セクシュアル・ハラスメントの学生向けのパンフレット



セクシュアル・ハラスメント
 『しない』
 『させない』



神戸市立工業高等専門学校

お互いが大切なパートナー
 尊重し合って
 キャンパスライフを
 さわやかに！

(次ページへ続く)



キャンパス・セクシュアル・ハラスメントとは

一般にセクシュアル・ハラスメント(セクハラ)は、相手を不快にさせる性的な言動とされています。

「性的言動」には、性的な欲求や関心による言動だけでなく、性別により役割を分担すべきとする意識に基づく言動も含まれます。

また、不快であるか否かは、相手の主観にゆだねられています。

したがって、自分ではセクシュアル・ハラスメントに該当しないと考える言動でも、相手が不快に感じれば、それはセクシュアル・ハラスメントになるものです。

そして、大学や高等専のキャンパス内でおこるセクシュアル・ハラスメントを特に「キャンパス・セクシュアル・ハラスメント」と言います。



キャンパス・セクハラ Q&A

Q: どんな場所で見えますか?

A: 授業、学校行事、クラブ活動等、学内でのあらゆる場面で想定される。

Q: どんな場所で見えますか?

A: 教室、研究室、実習室、部室等の密室になりやすい環境で起こりやすい。

Q: セクハラにはどんなものがありますか?

A: ① 性的な雰囲気について

- ・スリーサイズを聞くなど身体的特徴を話題にする。
- ・聞くに耐えない性的な冗談を交わす。
- ・性的な噂を立てたり、性的なからかいの対象とする。
- ・「男のくせに根性がない」「女には実験をまかせられない」等の発言をする。

② 性的な行動について

- ・雑談等の性的な写真・記事等をわざと見せたり勝手に送りつける。
- ・身体を必要以上に触れ回す。
- ・性的な内容の電話をかけたり、性的な内容の手紙や E-メールを送る。
- ・身体に不必要に接近する。



セクハラをしないようにするための留意点

1. お互いの人格を尊重しあうこと。
2. お互いが大切なパートナーであるという意識を持つこと。
3. 相手を性的な関心の対象としてみる意識をなくすること。
4. 女性を劣った性としてみる意識をなくすること。
5. 性に関する意図に対する受け止め方には、個人や男女間で差があることを認識すること。



あなたが被害者になったら

1. 不快であること、嫌いだということをハッキリ伝えよう。
2. いつ、どこで、どんなセクハラを受けたのが記録をしよう。
3. 友人や信頼できる人に相談しよう。
4. 下記の相談窓口も利用できます。



もし、あなたの友人が被害にあったとき

1. 友人が困っているのを目撃したら、相談にのってあげよう。
2. 友人に、相談窓口やカウンセリングの利用をすすめよう。

相談員と連絡先

一般科	石塚 正洋	078-795-3301
一般科	福田 敬子	078-795-3294
事務室	田中 修一	078-795-3324
名誉教授	高崎 正之	

◎ 担当職員

人権科セクシャルハラスメント研究協議

「セクシャルハラスメント防止対策の字引き」

別冊等女性局編

「協議におけるセクシャルハラスメント防止マニュアル」

イラストは本校実証部員制作です。

セクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）の防止に関する指針

制定 平成11年度2月1日

改正 平成15年度 月 日

神戸市立工業高等専門学校
人権教育推進委員会

I 目的

この指針は、神戸市立工業高等専門学校（以下「本校」という。）において、個人の尊重、法の下での平等及び勤労の権利を定めた憲法、労働基準法及び雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等に関する法律（男女雇用機会均等法）の精神に則り、教職員及び学生が個人として尊重され、性差別のない環境において就労又は就学する権利を保障するため、セクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）（以下「セクシュアル・ハラスメント」という。）の防止とその対応等について必要な事項を定めることを目的とする。

II セクシュアル・ハラスメントの定義及び基準

- 1 セクシュアル・ハラスメントとは、言葉、視覚、行動等により、就学、就労、教育及び研究上の関係を利用してなされる次に掲げる行為をいう。
 - 1-1 性的要求への服従又は拒否を理由に、就学、就労、教育及び研究上において利益又は不利益に影響を与えること。*1
 - 1-2 相手が望まないにもかかわらず、就学、就労、教育及び研究上の利益又は不利益を条件として性的誘いかけを行うこと又は性的に好意的な態度を要求すること。*2
 - 1-3 性的言動、掲示等により相手に不快の念を抱かせ、就労又は就学上の環境を著しく損なうこと。*3
- 2 セクシュアル・ハラスメントの存在の有無の判断は、行為者の意図にかかわらず、その行為が相手の意に反したものであるかどうかによるものとする。

III 防止等の対応

- 1 人権~~同~~和推進委員会の委員長（以下「委員長」という。）は、セクシュアル・ハラスメントの発生の防止のため、本校の教職員及び学生に対する啓発・指導を行うものとする。
- 2 委員長は、セクシュアル・ハラスメントに関するしかるべき機関を設置し、適切な措置を講じるものとする。

IV 雑則

- 1 この指針に定めるもののほか、セクシュアル・ハラスメントの防止及び対応等に関し必要な事項は、委員長が別に定める。
- 2 この指針は、今後において適宜見直しを行い、その都度必要な改定を行うものとする。

V 附則

この指針は、平成11年4月1日から施行する。

（次ページへ続く）

* 1

「性的要求への服従又は拒否を理由に、就学、就労、教育及び研究上において利益又は不利益に影響を与えること。」とは、例えば次の行為をいう。

- 1 個人的な性的要求への服従又は拒否を、人事又は労働条件の決定、業務指揮等に反映させること。
- 2 個人的な性的要求への服従又は拒否を、教育又は研究上の指導、評価又は学業成績に反映させること。

* 2

「相手が望まないにもかかわらず、就学、就労、教育及び研究上の利益又は不利益を条件として性的誘いかけを行うこと又は性的に好意的な態度を要求すること。」とは、例えば次の行為をいう。

- 1 人事権若しくは業務指揮権の行使、教育若しくは研究上の指導及び評価又は利益若しくは不利益の与奪等を条件とした性的働きかけをすること。
- 2 相手への性的な関心の表現を業務遂行に混交させること。
- 3 執拗に又は強制的に性的行為に誘ったり、交際の働きかけをすること。
- 4 強引な接触及び性的な行為を行うこと。
- 5 性的魅力をアピールするような服装や振る舞いを要求すること。

* 3

「性的言動、掲示等により相手に不快の念を抱かせ、就労又は就学上の環境を著しく損なうこと。」とは、例えば次の行為をいう。

- 1 正常な業務の遂行を性にかかわる話題又は行動で妨害すること。
 - ア 仕事の途中に、相手の性的魅力や自分の抱く性的関心にかかわる話題等で妨害すること。
- 2 性的な意図をもって、身体への一方的な接近又は接触等、次の行為を行うこと。
 - ア 相手の身体を上から下まで長い間じろじろと眺めること。又は、目で追うこと。
 - イ 相手の身体の一部（肩、背中、腰、頬、髪等）に意識的に触れること。
- 3 性的な面でも不快感を催すような話題、行動及び状況を作る等、次の行為を行うこと。
 - ア 相手が返答に窮するような性的な冗談又は下品な冗談を言うこと。
 - イ 職場にポルノ写真若しくはわいせつ図画を貼る等、扇情的な雰囲気を作ること。又は、卑猥な絵画、映像若しくは文章等を見ることを強要すること。
 - ウ 性に関する悪質な冗談やからかいを行うこと。
 - エ 親睦会、終業後の付き合い等で、集団で下品な行動をとること。
 - オ 相手が不快感を表明しているにもかかわらず、その場からの離脱を妨害すること。
 - カ 意図的に性的な噂を流すこと。又は、異性の前で、他の異性との性的魅力の比較をすること。特にいずれかを悪く言うこと。
 - キ 個人的な性体験等を尋ねること。又は、経験談を話したり、聞いたりすること。
- 4 異性一般に対する蔑視的な発言や話題等、次の行為を行うこと。
 - ア 異性であるという理由のみによって、性格、能力、行動、傾向等において劣っているとかが望ましくないとか決め付けること。
 - イ 異性の主張や意見を異性としての魅力に結び付けること。

例えば、権利を主張する女性は、性的魅力に乏しい人だからなど。

観点7-2-③： 学生寮が整備されている場合には、学生の生活及び勉学の場として有効に機能しているか。

(観点に係る状況)

兵庫県在住の学生のみ入学を許可している。したがって、家から登校できる範囲の学生ばかりであり、学生寮は有していない。登校が可能であるかどうかは、入試時に確認している。

(分析結果とその根拠理由)

特になし。

観点7-2-④： 就職や進学などの進路指導を行う体制が整備され、機能しているか。

(観点に係る状況)

準学士課程における進路指導については、3学年までの低学年においてはホームルーム時に担任や学科主任が進路に関する講話を行い、将来への目標・動機付けを行っている(資料7-2-④-1)。4学年の年度始めの担任による進路希望調査に始まり、7月の保護者会時において4学年としての説明会がなされる。なお、インターンシップ先の選定時に就職先を見越した取り組みも一部に見られる。11月の保護者と個別懇談会(資料7-2-④-2)においては保護者を交えての意向調査をしている。

また、平成18年度からは学園祭時に4年生と専攻科1年生向けに後援会主催の進路フォーラム(資料7-2-④-3)を実施している。2月には4年生対象の進路説明会を実施し、「進路の手引き」を用いて就職活動直前の実務を含めた指導を行っている。あわせて進学希望者に対しても説明会も実施している。

5年生の就職先の選定や企業との連絡は、学科主任が中心となり、担任と協力して進めている。専攻科は学生数も少なく、全体的なガイダンスは行っていないが、学生の希望を専攻主任が学科主任に伝え、企業との連絡や推薦にあたっている。求人一覧表と求人票は事務室が取りまとめて、各学科に提示され、掲示された求人一覧表を学生はいつでも閲覧することができる。大学編入や大学院への進学に関しては、入試要項等の書類は担任・専攻主任が保管しており、学生は個々の志望先に関する情報を閲覧することができる。また、図書館において、それらを閲覧することも可能である。推薦状や調書などの記入や進路先の相談などは主として担任・専攻主任や特別研究担当教員が行っている。また、進学に関する各種説明会や大学関係者の来校説明等の情報は学内メールで該当者に知らされる。

(分析結果とその根拠状況)

準学士課程においては低学年ではホームルームを中心とした進路指導が、高学年時では進路説明会などさまざまな機会を捉えて実施している。学級担任、学科主任、学生主事室、教務主事室および事務室の連携による進路指導が行われている。それは専攻科においても同様である。

これらのことから、就職や進学などの進路指導を行う体制が整備され、機能していると判断する。

1～3年生 ホームルームの企画例 (参考)

1～3年生 ホームルームの企画例 (参考) 2007年4月作成

		全学年共通項目		学年別項目		
				1年	2年	3年
4月	第1週	クラス役員・日替・掃除当番の決定・自転車通学緊急連絡網・KEMS・ゴミ分別・要学舎制度	学年生活に関するガイダンス(学生定章・クラス運営他)	野外活動(班決め他)		
5月	第1週	学年行事関係(説明・班決め等)	野外活動全体説明会	野外活動全体説明会		
	第2週	学年行事の事後指導(アンケートや作文)	野外活動事後指導(アンケート他)			
	第3週	勉強方法に関する指導(ノートの取り方、予習復習の必要性など)	防犯教育(朝顔観察、洒水採取観察)			
	第4週	秋の学年行事の希望調査・進路指導				
6月	第1週	中間試験事前指導(カンニング・座席などの徹底)	中間試験事前指導(カンニング・座席などの徹底)	熱帯教育	敬愛は郷土に関する諸注意	
	第2週	試験に関する諸注意(カンニング・座席など)、スポーツ大会・大会・保護者会関係			敬愛は郷土アンケート	
	第3週	高専祭クラス企画・秋の学年行事決定	高専祭クラス企画・秋の学年行事決定			
7月	第1週	全校清掃の準備(分別ゴミ確認)、中間試験後の指導	全校清掃の準備(分別ゴミ確認)、中間試験後の指導			
	第2週	夏休みの諸注意・スポーツ大会諸注意など	夏休みの諸注意・スポーツ大会諸注意など			交通安全教育
8月						市民教諭士(3、4年生希望者)
9月	第1週	夏休みの行動調査	夏休みの行動調査			
	第2週	定期試験事前指導	定期試験事前指導			
	第3週					
10月	第1週	全校行事の諸注意・保護者会案内・高専祭関係	全校行事の諸注意・保護者会案内・高専祭関係			
	第2週	高専祭準備指導、定期試験後の指導	高専祭準備指導、定期試験後の指導			
	第3週					
11月	第1週	高専祭アンケート	高専祭アンケート			
	第2週	保護者会を促して講話(マナー教育を兼ねて)	保護者会を促して講話(マナー教育を兼ねて)			
	第3週	人権作文指導、中間試験事前指導	人権作文指導、中間試験事前指導			
	第4週	人権作文指導	人権作文指導			
12月	第1週	学生総会案内	学生総会案内			
	第2週	各休みの諸注意、中間試験後の指導	各休みの諸注意、中間試験後の指導			
1月	第1週	各休みの行動調査	各休みの行動調査			
	第2週	5年生の選考状況や各科による進路指導	5年生の選考状況や各科による進路指導			
	第3週	学年末準備に関する調査(著作・クイズ等)	学年末準備に関する調査(著作・クイズ等)			
	第4週					
2月	第1週	終業準備・全校清掃・入試関係準備・進路決定の確認	終業準備・全校清掃・入試関係準備・進路決定の確認			
	第2週	定期試験事前指導、年度末予定の連絡	定期試験事前指導、年度末予定の連絡			

その他(全学年対象)
 ○勉強の仕方(ノートの取り方、予習復習の必要性など)
 ○徹底教育(喫煙、飲酒、薬物など)
 ○安全教育(交通ルール、ネット犯罪、詐欺商法など)
 ○道徳・マナー教育(ゴミ分別、ポイ捨て、携帯、通学など)
 ○生活習慣、態度改善指導(アルバイト、遅刻、服装、言葉遣いなど)
 ○職業教育(一般常識、SPIなど)
 ○エンジニアリング教育(新聞記事、ビデオ鑑賞など)

資料7-2-④-2

高専祭時の保護者個別懇談会

平成18年10月2日

保護者各位

神戸市立工業高等専門学校
校長 黒田勝彦

保護者個別懇談会のご案内

仲秋の候、保護者の皆様方には益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、前期授業も終了し、前期の学業成績ができました。学校での学習状況・生活態度等をお知らせしたいと存じます。

つきましては、ご多忙中とは存じますが、下記のとおり個別懇談会を開催いたしますので、ご出席いただきますよう、ご案内申し上げます。

記

1. 日時 平成18年10月27日(金)～10月30日(月)
※ 各クラスで担任より別途個別に日時指定されます。
2. 懇談場所 神戸市立工業高等専門学校 各クラス担任の研究室
3. その他 別紙高専祭のご案内のとおり、高専祭の期間中は駐車できません。
お車でのご来校は固くお断りいたします。

(きりとりせん)

出席

保護者会個別懇談会に します。

欠席

※ 出席の方のみ記入してください。

 いつでも良い。 月 日 () 午前・午後 時 分頃を希望します。

学 科	学 年	ク ラ ス (M科のみ)	出席番号
学 生 氏 名	学 科	学 年	保 護 者 氏 名

印

出典：教務主事室資料

進路フォーラムについて

平成19年10月4日

4年生、専攻科1年生保護者各位

神戸市立工業高等専門学校後援会
会長 種田 一夫

“進路フォーラム”開催について(案内)

秋涼の候、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、後援会は今年も学生会と共催で別添リーフレットのとおりに“進路フォーラム”を開催いたします。

高専祭の二日目(28日)に卒業生2名と本校 尾崎進副校長より「これからの君たちへ」と題してご講演いただきます。

ご案内は進路の岐路にある4年生と専攻科1年生の保護者の方に送付させていただいております。この機会に進路について保護者の方と学生が話し合うきっかけにいただければと思います。学生とご一緒に参加されてはいかがでしょうか。

なお、同封の返信用はがきにて出欠のお返事を10月22日(月)までにお願いたします。当日は質問の時間も設けますので質問のある方はその内容をはがきにご記入ください。

- * 当日は5年生、専攻科生による研究成果ポスターセッションを小体育館にて開催しております。
- * 駐車スペースがありませんので、公共交通機関をご利用ください。やむを得ず自動車を利用される場合は、総合運動公園の有料駐車場(1回500円)をご利用ください。

担当 神戸高専事務室 児島

TEL 078-795-3311

後援会 E-mail: kouenkai@kobe-kosen.ac.jp

(次ページへ続く)

高専祭 2日目 特別企画



神戸高専進路フォーラム

—君の明日を考える—

神戸高専後援会・学生会 主催

日時： 2007年10月28日(日)
(受付) 12:30～ (講演) 13:00～14:30
会場： 神戸高専 本部棟2Fホール

講演会

「これからの君たちへ (仮題)」

若き先輩からのメッセージ

電子工学科卒業生
応用化学科卒業生



「最近の進路状況について」

副校長 (教務担当)

電子工学科教授 尾崎 進 氏

同時開催

産学官技術フォーラム 研究成果ポスター発表

14:00～15:30 神戸高専 小体育館

出典：事務室庶務係資料

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

学生の顔が見える授業アンケート，オフィスアワーズや学生とのコンタクト時等における学生の要望や意見聴取だけではなく，不特定多数の意見が集約された形で伝えられる学生会組織である学生評議会（各クラスの正副委員長と学生会執行部により構成）が活発に機能しており，学生の要望を直接学生主事室に伝える仕組みができています。また，本年度から事務室横に「学生意見箱」を設置し，個々の学生の意見を聞く機会を設けた。

(改善を要する点)

特になし。

(3) 基準7の自己評価の概要

本校では1,200名を超える在校生のために，さまざまな支援を行っている。担任制度（専攻科は専攻主任）により，入学時から卒業に至るまで，学生個々に対するガイダンス，相談など教員による日常的な勉学・生活両面にわたる指導が行われており，それはオフィスアワーズ，試験期間前の学習支援など制度的にも裏づけられている。図書館，学生相談室などのよる学生への働きかけや，各種の資格取得のための支援も行われている。また障害など特別支援が必要な学生に対する受け入れ体制も整備されている。課外活動（学生会を含む）に対する支援・指導は教育活動の改善にもフィードバックされている。セクシャル・ハラスメントに対する対応など学生の生活面，経済面に対する相談についても学生・教員間のコミュニケーションが機能していると考えられる。

基準 8 施設・設備

(1) 観点ごとの分析

観点 8-1-①： 学校において編成された教育課程の実現にふさわしい施設・設備（例えば、校地、運動場、体育館、教室、研究室、実験・実習室、演習室、情報処理学習のための施設、語学学習のための施設、図書館等、実験・実習工場さらには職業教育のための練習船等の設備等が考えられる。）が整備され、有効に活用されているか。また、施設・設備のバリアフリー化への配慮がなされているか。

（観点到に係る状況）

施設・設備は、本校の教育内容を達成するために昭和 38 年（1963 年）の創設以来計画的に拡充されてきている。特に、平成 2 年（1990 年）に神戸市垂水区舞子台の前校舎から現在の校舎に移転の際に約 85,000 m²の敷地にすべての建物が新築された。その後、平成 6 年（1994 年）に生物工学実験室の増設（その後、同実験室は平成 14 年に遺伝子組み換え実験可能なレベルの実験室としての認可を受けている）、平成 11 年（1999 年）10 月に専攻科棟の新設が行われ、現在有効に活用されている。

また、施設・設備のバリアフリー化の一環として、スロープ、身体障害者用トイレ、スライドドア、エレベータが設置されている。

施設・設備の概要は次のとおりである。

(a) 教室、実験室、演習室（資料 8-1-①-1, 資料 8-1-①-2）

準学士課程 1～3 年の教室は一般科棟 A 棟に、4～5 年の教室は専門科講義棟に配置されている。平成 17 年度の 4 月にすべてのホームルーム教室（全 30 室）にエアコン（クーラー）が設置された。専攻科の授業を行う教室（大講義室 A, B, 中講義室 1, 2, 小講義室）は専攻科棟に配置されている。合併授業や講演会等を行うことができる教室としては、本部棟ホール、専攻科棟の大講義室 A, B（A と B は可動式のパネルで仕切られているのでひとつの特大の講義室として使用することができる）、専門科講義棟の合同講義室、一般科棟 B 棟の視聴覚教室、人文社会視聴覚教室がある。一般科棟 B 棟には LL 教室、物理階段教室、化学階段教室、数学演習室、人文社会科演習室、国語演習室、物理実験室、光学実験室、化学実験室、測定室が配置されており、これらは主として低学年の実験や演習に活用されている。また、これらとは別に高学年や専攻科で使用する実験室・演習室、準学士課程 5 年と専攻科の学生が卒業研究や専攻科特別研究を行う実験室、卒研室が各学科棟と専攻科棟に配置されている。

(b) 設備（資料 8-1-①-3）

実験機器等（50 万円以上）を（資料 8-1-①-3）の設備一覧表に示す。実験・実習に必要な機器は十分に整備されている。

(c) 図書館（資料 8-1-①-2, 資料 8-1-①-4, 資料 8-1-①-5）

図書館（981 m²）には蔵書約 7.7 万冊（和書 7.4 万冊、洋書 0.3 万冊）、学術雑誌約 300 種、視聴覚資料（CD, カセットテープ, ビデオテープ, DVD）約 1300 タイトルがある。閲覧座席数は 84 である。また、CD, カセットテープ, ビデオテープの館内視聴ができる AV コーナーがあり、1 人席のオーディオ・ブースが 6 個、4 人席のビデオブースが 4 個ある。

(d) 情報関連施設（資料 8-1-①-5）

総合情報センターは、教育、研究のためのコンピュータ環境を提供する校内共同利用施設である。総合情報センターには、学生の演習室として、PC48 台が設置された教室が 2 室あり、1 クラス一斉授

業で学生 1 人 1 台ずつの演習環境を提供している。また、実験実習や卒業研究など少人数の演習が行える小演習室があり PC10 台が設置されている。

またこれらとは別に、機械工学科棟には CAD 室（パソコン 11 台），電気工学科棟には情報演習室（パソコン 20 台），電子工学科棟にはソフトウェア工学実験室（パソコン 12 台），都市工学科棟には情報処理室（パソコン 24 台）があり、専門分野ごとに特徴を持たせた情報関連教育に活用されている。卒研室（研究室）・実験室等のコンピュータは基本的にそのすべてがネットワークに接続されている。

(e) 地域協働研究センター（資料 8-1-①-6）

地域協働研究センターは本部棟 1 階に設置されており、本校の教育および研究の向上と地域貢献の推進を図ることを目的としている。本センターは運営委員会、第 1 部会、第 2 部会から構成されている。運営委員会では、学術講演会（月例）、イブニングセミナー、花時計ギャラリー展示などを、第 1 部会では、産学官技術フォーラム、合同見学会、兵庫産学交流会（HIX）、こうベテクノサロンなどを、第 2 部会では、各種公開講座（水泳教室—科学のおまけ付き—、ものづくり教室、親子ロボット工作教室、七宝焼など）、ユニティ公開講座（わくわく理科教室、役にたつ電気の知識、生命倫理の問題、ユビキタス時代に向けた情報技術入門など）、編入生見学会、オープンキャンパス、中学生見学会などを行っている。また、学校として、工業英検会場校、図書館・グラウンドなどの開放、学会・研究会などの招致、各クラブの大会招致、各種イベントにおいてロボコンデモや吹奏楽演奏などを行っている。

(f) 自習・休憩設備（資料 8-1-①-7）

図書館には自習スペースとしての閲覧席が 84 席ある。情報教育センター演習室は放課後に開放され、学生は授業の演習の続きやインターネットの利用などを行える。また、各学科には学生のための自習スペースが設けられている。さらに、オープンなスペースとしては一般科棟 A 棟 1 階と専門科講義棟 1 階に椅子、テーブル、自動販売機を配したスペースがある。応用化学科棟と機械工学科棟の間の 4 階部分にある見晴らしの良いスペースにはイスが置かれており学生が景色を楽しみながら談話・休憩できるようになっている。同じく応用化学科棟と機械工学科棟の間には階段を兼ねた吹き抜けの空間があり、1 階と 2 階の間の踊り場にはベンチが設置されており、学生が談話・休憩できるようになっている。このほかにも学生が談話・休憩できる場所は校舎内に点在している。さらに、これら以外に天気の良い日に学生の憩いの場として活用されているスペースとして図書館横の日本庭園（ベンチ有り）、希望の丘と呼ばれている本校北西側の芝生区域、専攻科棟南東側の野外ステージ（多数の座席有り）、専門学科棟中庭（ベンチ有り）などがある。

(g) 食堂、運動施設、その他（資料 8-1-①-1）

本校の学生が利用できる食堂（497 m²）および学生ホール（購買部）がある。学生の健康保持のため本部棟 1 階に保健室を設置している。運動施設（グラウンド 25,800 m²、25m プール、テニスコート 6 面、武道場、体育館、体育室、トレーニングルーム等）も整備されている。身体障害者用の設備として、スロープ、身体障害者用トイレ、スライドドアを設置している。また、一般科棟、専門科棟、専攻科棟に各 1 機エレベータが設置されている。

（分析結果とその根拠理由）

現在の校舎に移転してから約 19 年が経過しており、また、13 年前には阪神淡路大震災の被害を受けたが、現在のところ建築物の基本的な部分の劣化はほとんどない。教室、実験室、図書室、情報関

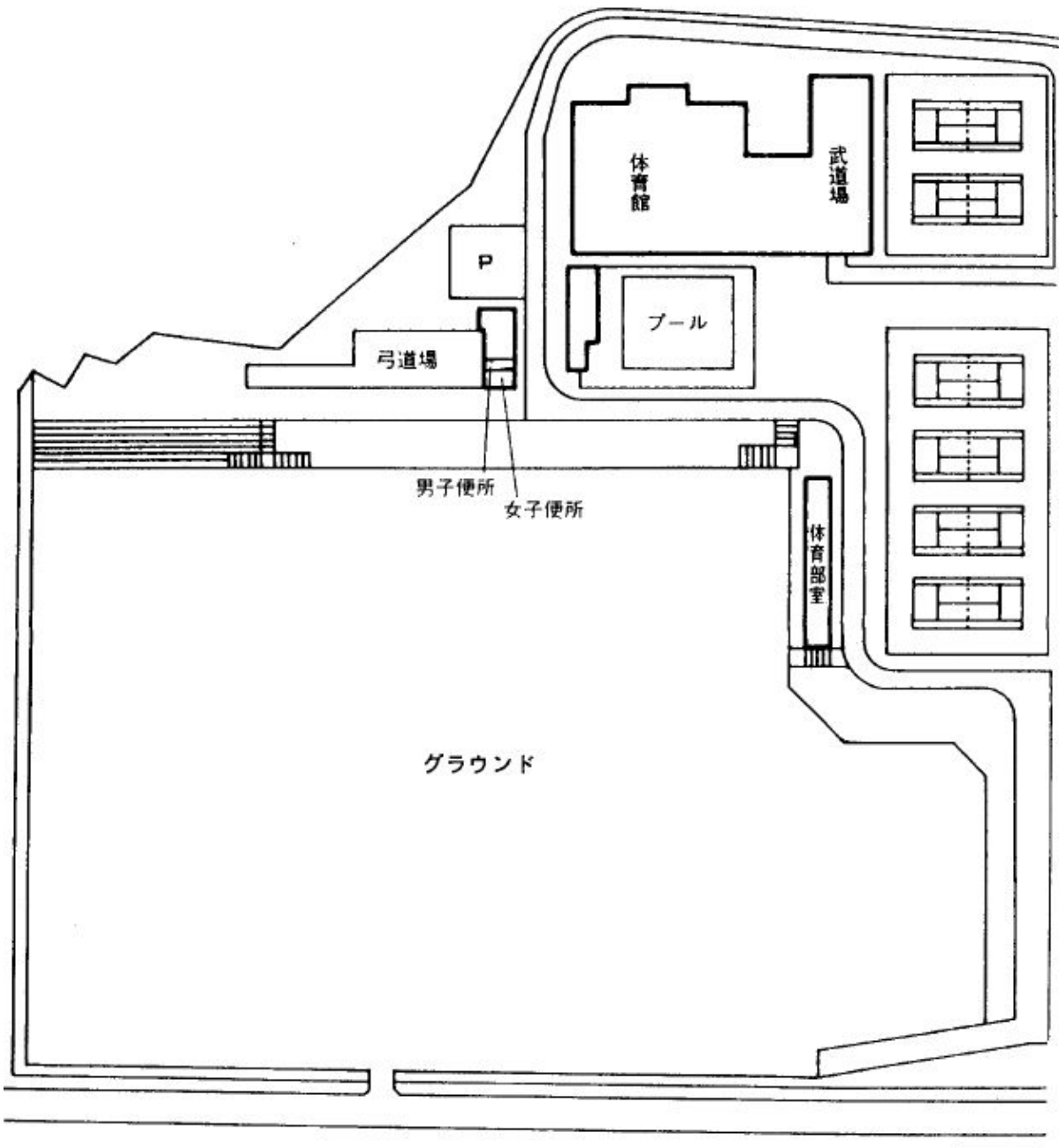
連施設等, 本プログラムの学習・教育目標を達成するために必要な施設, 設備は整備されているといえる。

なお, バリアフリー化への配慮という点は, 身体障害者用の設備として, スロープ, 身体障害者用トイレ, スライドドアを設置し, 一般科棟, 専門科棟, 専攻科棟に各1機エレベーターが設置されているものの, 校内にはまだ施設内外問わず大小様々の段差が残されており, これらの改善を行っていくことが必要である。これらの改善改修を計画的に実施するため毎年, 予算請求を行っている。

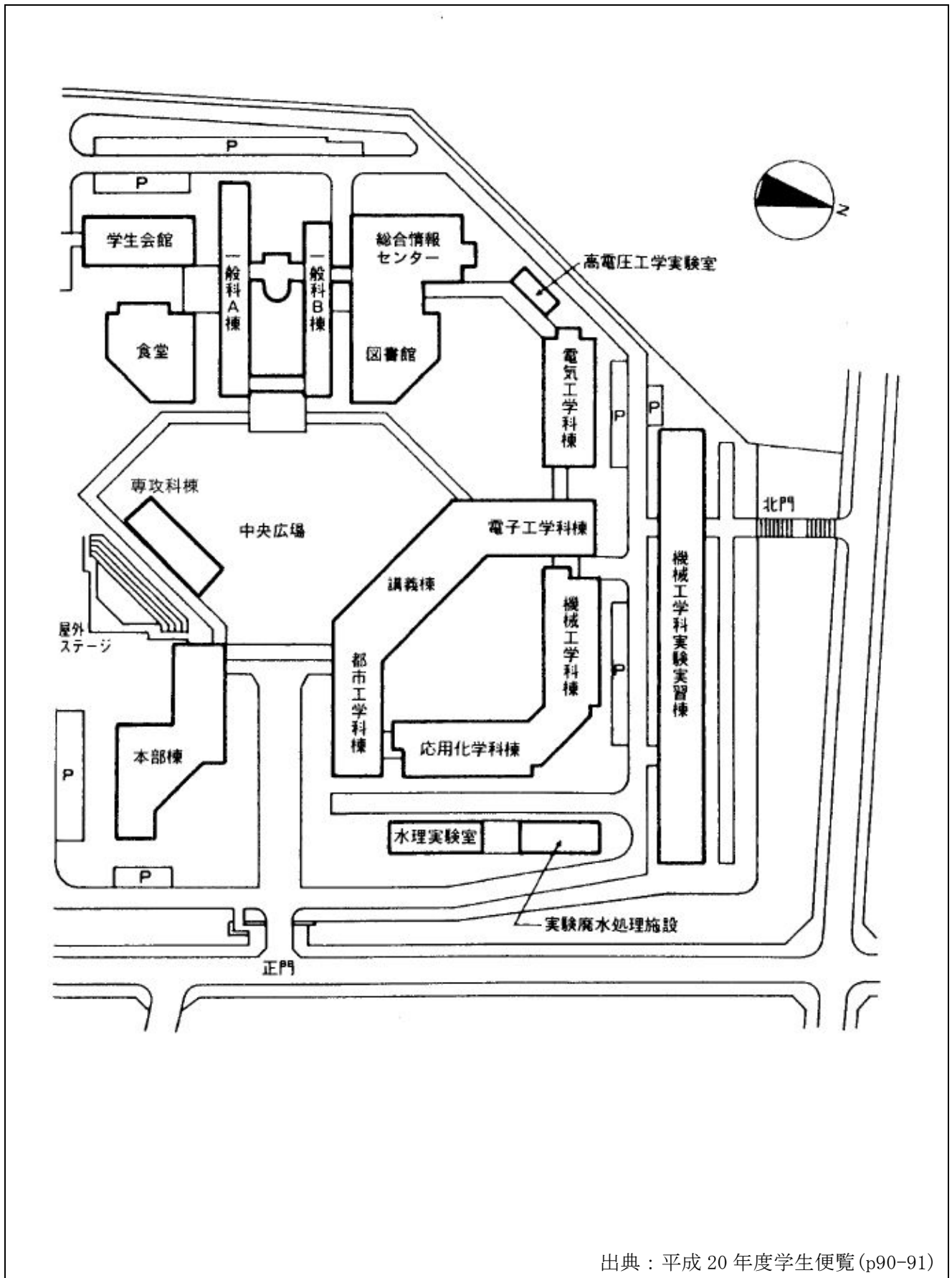
以上のことから, 本校の施設, 設備については, 高等専門学校設置基準における基準を満たし, 整備されており有効に活用されている。

校舎配置図

校舎配置図



(次ページへ続く)

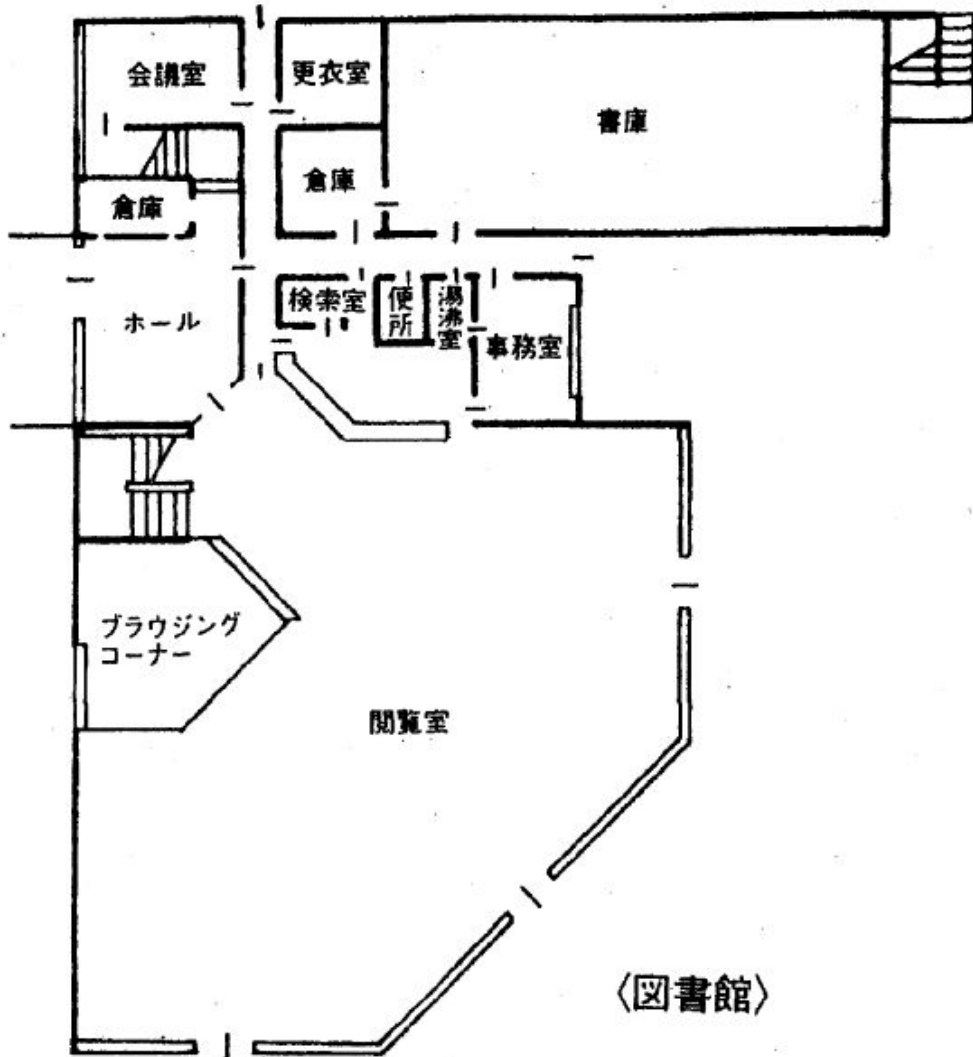


出典：平成 20 年度学生便覧 (p90-91)

図書館・情報教育センター

情報教育センター・図書館

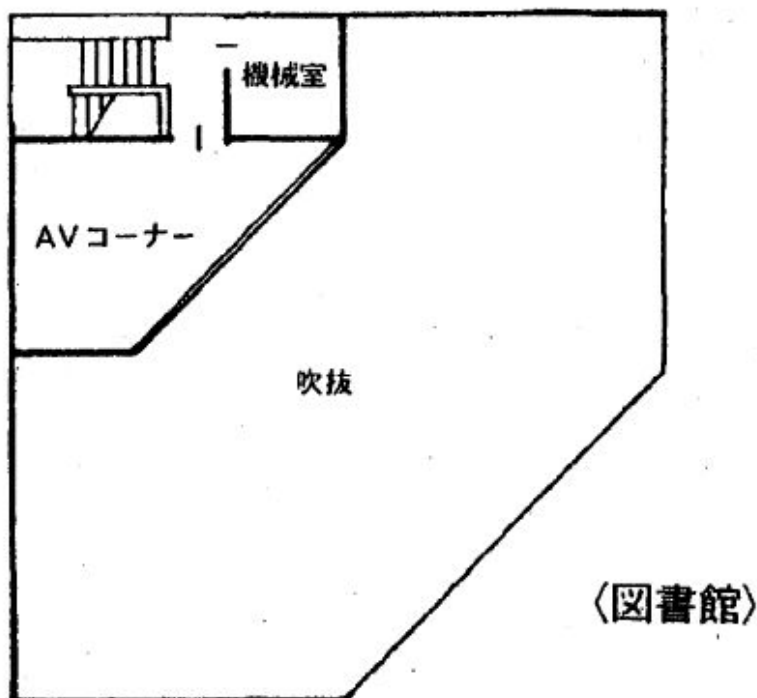
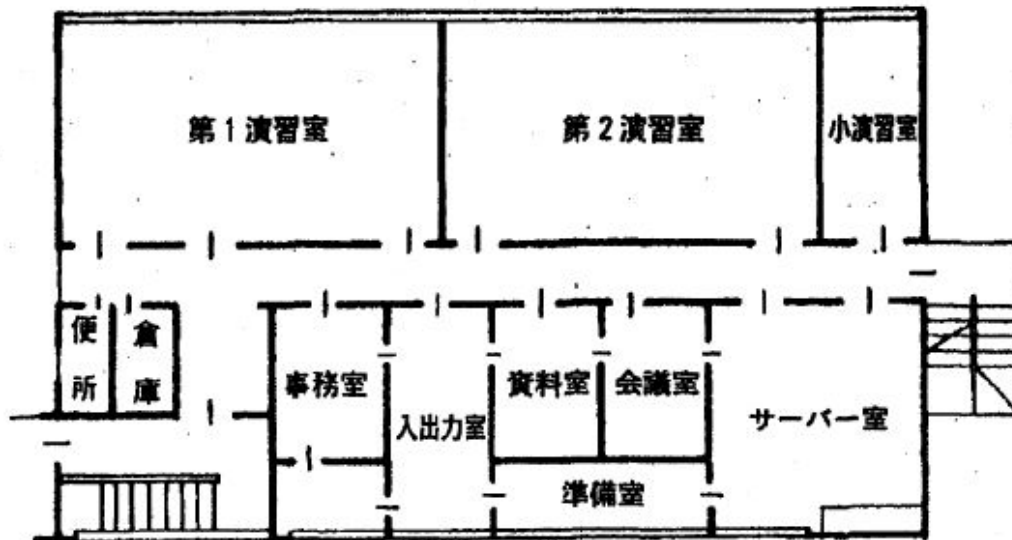
《1階平面図》



(次ページへ続く)

《2階平面図》

〈情報教育センター〉



出典：平成20年度学生便覧(p45)

備品一覧表

設備一覧表 (備品合計より50万円以上の物品を抜き出して作成)

設備一覧表

平成16年5月31日

学科	保管場所	品名	型式	数量	単価	金額	取得年月日	備考
C	C計測機器室4	ガスクロマトグラフ	G-3800TFP	1	1,740,000	1,740,000	98.03.31	
C	C 卒研室1	多検体サンプル点部電子工業CHG-26		1	539,150	539,150	14.02.14	
C	C 卒研室1	密度比重計DA-505蒸餾電子工業		1	1,017,000	1,017,000	14.01.09	
C	C 卒研室3	LGR測定器		1	1,236,000	1,236,000	01.12.27	
C	C 田中研究室	顕微鏡写真撮影装置	PM-10K-1	1	652,417	652,417	10.11.18	
C	C 田中研究室	紫外顕微鏡システム	BX50-F-SET	1	699,930	699,930	10.11.18	
C	C 有機化学実験室	電気化学測定システム	ホフマン/ホフマン/スチット HA-501G	1	1,205,200	1,205,200	10.12.08	
C	C 化学工学実1	向流式吸収塔	NC特型	1	1,193,790	1,193,790	02.02.26	
C	C 化学工学実1	恒圧ろ過試験器	S型	1	771,855	771,855	02.02.26	
C	C 化学工学実1	充填層圧力損失実験装置	SK-D型	1	660,312	660,312	02.02.27	
C	C 化学工学実1	真空高圧缶	SC型	1	1,514,264	1,514,264	02.02.27	
C	C 化学工学実1	精留装置	BG型	1	2,439,864	2,439,864	02.02.26	
C	C 化学工学実1	抽出装置	CMS-60-4	1	2,323,680	2,323,680	02.02.26	
C	C 化学工学実1	動伝達率測定装置	SS型	1	1,280,444	1,280,444	02.02.27	
C	C 化学工学実1	反応装置	KT型	1	793,924	793,924	02.02.26	
C	C 化学工学実1	流動試験装置	BP改良型	1	1,597,530	1,597,530	02.02.27	
C	C 化学工学実2	平衡蒸留試験装置	HS-2	1	697,104	697,104	02.02.26	
C	C 計測機器1	核磁気共鳴装置	R-1500	1	6,921,600	6,921,600	02.02.28	
C	C 計測機器2	核磁気共鳴装置	5200TA	1	3,059,100	3,059,100	02.02.23	
C	C 計測機器3	熱分析システム (PCシステム)	EXSTAR6000	1	3,299,100	3,299,100	10.03.06	
C	C 計測機器4	ダブルビーム分光光度計	Ubest 30-52	1	1,534,700	1,534,700	02.02.23	
C	C 計測機器5	小型OX化付アルミナ&YAGレーザー	Surelite 1-10用	1	1,239,000	1,239,000	11.03.12	
C	C 計測機器6	小型OX化付アルミナ&YAGレーザー	Surelite 1-10	1	4,200,000	4,200,000	11.03.12	
C	C 計測機器室1	フーリエ変換赤外分光光度計	Henschel FT/IR-300	1	6,077,000	6,077,000	06.10.26	
C	C 計測機器室4	原子吸光分光光度計	優先型-7N Z-6100	1	4,240,000	4,240,000	03.02.18	
C	C 生物工学実験室	ジャーブアーメンター	CFM-2	1	1,370,930	1,370,930	02.02.26	
C	C 生物工学実験室	恒温槽とう培養機	BR3001	1	1,081,500	1,081,500	02.12.11	
C	C 生物工学実験室	高速冷却离心机	CR20BS	1	2,369,000	2,369,000	02.12.11	
C	C 生物工学実験室	生物顕微鏡装置	AHBS3-514	1	7,438,248	7,438,248	03.08.20	
C	C 卒研室1	溶解度測定装置	T-89	1	939,154	939,154	02.02.27	
C	C 卒研室2	ライカミクロン	AGA型	1	548,000	548,000	01.09.20	
C	C 卒研室3	超電導物質測定装置	アドヴァンスド TR6142	1	628,300	628,300	02.02.20	
C	C 分析化学実験室	高温型エレクトロバルブ		1	998,000	998,000	07.08.20	
C	C 分析化学実験室	相臨界反応装置	TSC-002型	1	1,821,750	1,821,750	10.11.06	
C	C 有機化学	オートクレーブ		1	1,133,000	1,133,000	02.02.27	
C	C 有機化学	高速液クロ用 UV検出器	SPD-6A型	1	581,950	581,950	02.02.27	
C	C 有機化学実験室	ガスクロマトグラフ装置	GC-14APT 本体 運転部品一式	1	1,169,050	1,169,050	02.11.27	
C	C 有機化学実験室	自動融点記録測定装置	MR-2型	1	575,000	575,000	06.10.20	

出典：事務室庶務係資料

図書館について（ウェブサイト）

図書館

● 図書館の概要

図書館は、工学・自然科学系を中心とした蔵書約8万冊の他に雑誌約100タイトルやDVD・CDなどを所蔵しています。2階で視聴覚資料を利用できます。又、端末が16台設置されており、インターネットからの情報収集が可能です。

[（図書館に関するQ & Aへ）](#)



閲覧席

● 開館時間・休館日

開館時間

月曜日～金曜日 午前9時～午後6時

（学則に定める休業期間中は、午前9時～午後4時55分）

休館日

日曜日及び土曜日、国民の祝日、年末・年始（12月29日から1月3日）、その他図書館長の定める日。臨時に休館する場合は、あらかじめ掲示します。



閲覧席

● 利用のしかた

閲覧する（館内利用）するときには手続きはいりません。自由に利用してください。私語をつつしみ、他の利用者に迷惑をかけないようにしてください。また、館内での飲食・喫煙はできません。

蔵書検索

学内からのみ利用できます。（[蔵書検索のページへ](#)）

貸出

1. 手続き

- 図書・・・学生証と借りたい図書をカウンターへ持ってきて下さい。
- 雑誌・・・「図書貸出票」に必要事項を記入して下さい。



雑誌コーナー

2. 貸出冊数と期間

- 1人5冊2週間（ただし、雑誌は1週間）
- 卒業研究が必要な場合は、5冊1ヶ月間借りられます。
- 継続して借りるときは、一度返却して再度借りてください。ただし、その本が予約されているときは継続できません。
- 長期休業中には特別貸出を実施しています。
- なお、百科事典・辞典・年鑑等の参考図書類と、雑誌の最新号は、貸出できません。



AVコーナー



AVコーナー



情報端末

（次頁へ）

希望図書の購入について

図書は学生、教職員の要望に沿って図書館で選書し、購入しています。購入を希望する図書があれば、「予約カード」に記入してカウンターへ提出してください。

● 市民の利用

図書館では、地域の社会教育に貢献するとともに市民の科学技術への理解を深めるため、一般開放を行っています。

- 貸出資格は、市内に在住または在学、在勤している人です。(中学生以上)
- はじめて利用される方は、上記資格を証明する書類を提示してください。
- 貸出冊数・期間は1人5冊2週間です。
- AVコーナーの利用はできません。また、閲覧席のみの利用はご遠慮ください。

● 図書館に関するデータ

蔵書数

	和漢書	洋書	計
総記	10,606	149	10,755
哲学	1,795	175	1,970
歴史	3,311	44	3,355
社会科学	5,662	65	5,727
自然科学	16,103	864	16,967
工学	26,202	1,018	27,220
産業	601	10	611
芸術	2,259	31	2,290
語学	2,598	322	2,920
文学	6,692	505	7,197
計	75,829	3,183	79,012



DVDソフト

雑誌タイトル数

和雑誌	73タイトル
洋雑誌	104タイトル
計	177タイトル

視聴覚資料数

CD	757本
カセットテープ	85本
ビデオテープ	428本
DVD	147本
計	1,417タイトル

専用延べ床面積・閲覧座席数

専用延べ床面積	981平方メートル
閲覧座席数	84席

※ 数字は平成20年3月末現在のものです。

出典：ウェブサイト（図書館）

図書館と情報教育センター

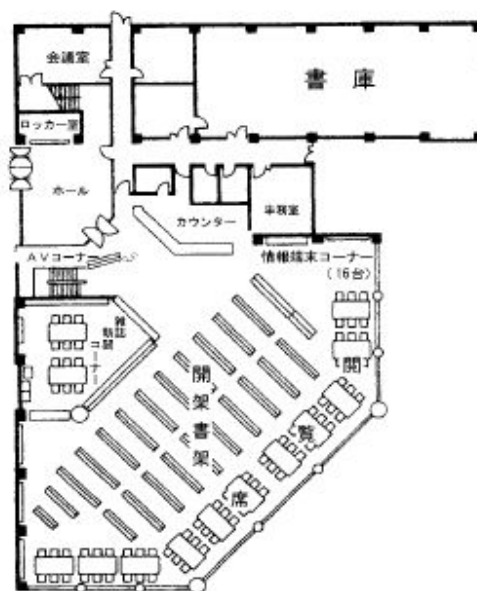
図書館

1階は閲覧室、開架書架、雑誌・新聞コーナー、参考図書コーナー等があり、学習他、多目的に利用されています。

尚、H.15年4月から図書館システムが稼動し、貸出・返却・蔵書検索等が容易になりました。又、端末が16台設置され、就職・進学等の情報収集に役立ってます。

2階のAVコーナーには、CDブース2台、DVDブース8台、ビデオデッキが3台あり、昼休み等に多く利用されています。

H20年4月現在、蔵書79,012冊、CD757枚、カセット85本、ビデオ428本、DVD147本を所蔵しています。



蔵書数

平成20年4月現在

	和漢書	洋書	計
総記	10,606	149	10,755
哲学	1,795	175	1,970
歴史	3,311	44	3,355
社会	5,662	65	5,727
自然	16,103	864	16,967
工学	26,202	1,018	27,220
産業	601	10	611
芸術	2,259	31	2,290
語学	2,598	322	2,920
文学	6,692	505	7,197
計	75,829	3,183	79,012

平成19年度利用状況

開館日	入館者数		貸出者数		貸出冊数	
	入館者数	1日平均	貸出者数	1日平均	貸出冊数	1日平均
240	51,590	215.0	7,114	29.6	12,485	52.0

総合情報センター

総合情報センターは、教育、研究および事務の情報化を支援するためのコンピュータ環境およびネットワーク環境を提供する校内共同利用施設であり、神戸高专情報ネットワークシステムを管理、運営しています。

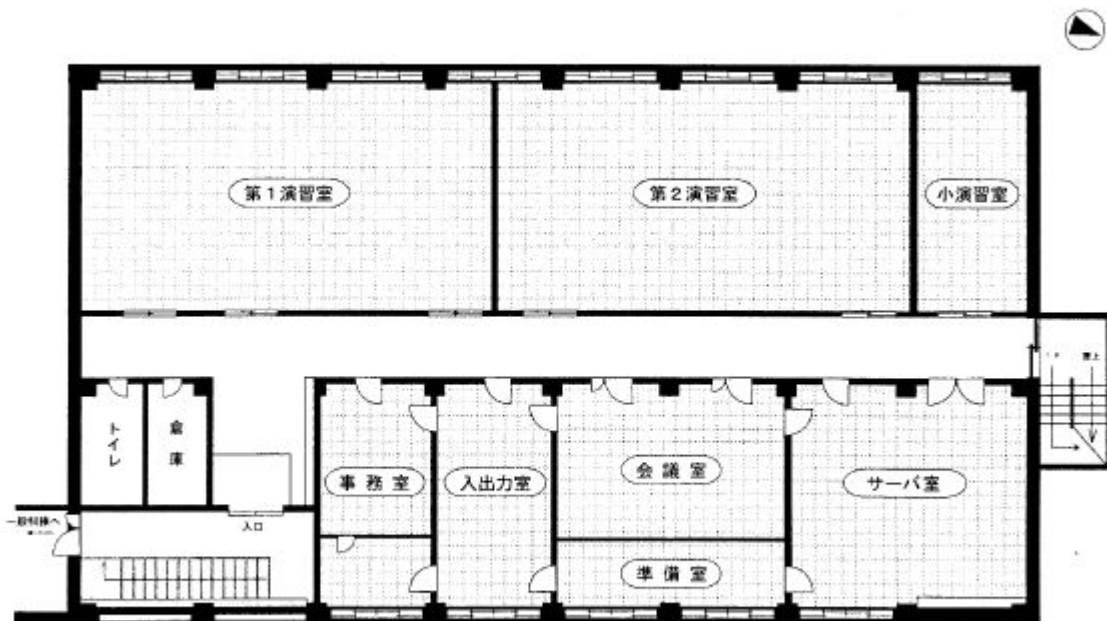
当センターには、授業で1人1台ずつコンピュータが利用できるように、48台のコンピュータが設置された演習室が2部屋と、実験実習や卒業研究など少人数の授業で利用できるコンピュータ20台が設置された小演習室があります。これらを利用して、情報リテラシー教育、プログラミング教育、さらに各学科の情報関連専門教育などを行っています。そのほかにも、クラブ活動（電子計算機部）、公開講座などに利用されています。また、演習室は毎日放課後に開放され、

学生は授業の演習やインターネットの利用などを行っています。図書館は16台、本部棟には2台の情報端末が設置され、学生は昼休みなどに自由に利用できます。

また、同センターには、サーバ室があり4台の実サーバ上で約40台の仮想サーバが稼動しています。これらのサーバにより、電子メールをはじめとする各種ネットワークサービスを教職員および学生に提供しています。各種サービスは、校内に設置されたコンピュータから利用することができます。校内ネットワークは、学術情報ネットワーク（SINET）へ1Gbps、民間プロバイダへ100Mbpsで外部接続され、教職員および学生に高速なインターネット環境を提供しています。

(次ページへ続く)

〔総合情報センター配置図〕



〔導入機器一覧〕

室名	機器	機種(構成)	台数
サーバ室	サーバ	IBM System x3650	4式
	ディスクアレイ装置	IBM System Strage DS4200	1式
	無停電電源装置	APC smartUPS1500RM	5式
第1演習室	演習用端末	Epson Endeavor ST100 (19inch液晶モニタ付)	50式
	教示システム	液晶プロジェクタ (1台)、書画カメラ (1台)、DVDビデオデッキ (1台)、RGBマトリックススイッチ (1式)、間モニター (25台)	1式
	音響システム	ミキサーアンプ (1台)、スピーカ (1組)、ワイヤレスチューナ (1式)、ワイヤレスマイク (2本)	1式
	レーザープリンタ	リコー IPSIO SP6110	2台
第2演習室	第1演習室に同じ		
小演習室	演習用端末	Epson Endeavor ST100 (19inch液晶モニタ付)	21式
	レーザープリンタ	リコー IPSIO SP6110	1台
入出力室	カラーレーザープリンタ	Canon LBP5900SE	1式
	長尺プリンタ	Epson PX9550	1式
	ドキュメントスキャナー	Canon DR-5010C	1式

出典：平成20年度 学校要覧(p32-33)

地域協働研究センターについて（ウェブサイト）

神戸高専 地域協働研究センター

KCCT Regional Collaboration Research Center

[HOME](#) | [センター概要](#) | [中高生の皆様へ](#) | [企業の皆様へ](#) | [公開講座](#) | [刊行物](#) | [アクセス](#) | [リンク](#)

■ MENU LIST

- センター概要
- 中高生の皆様へ
- 企業の皆様へ
- 公開講座
- 刊行物
- アクセス
- リンク

地域協働研究センターからのお知らせ

今年度も各種公開講座を開催します。年間行事予定をごらん下さい。各行事の申し込み等については、そのつどお知らせします。

ニュース一覧	年間行事予定表
<ul style="list-style-type: none"> ・オープンキャンパスに関するお知らせ ・ものづくり教室に関するお知らせ ・水泳教室に関するお知らせ 	<p>2008.6.21 編入生見学会</p> <p>2008.7月22日～26日 初心者のための水泳教室</p> <p>2007.7月下旬～8月下旬 夏季公開講座「ものづくり教室」</p> <p>2008.8.10 レスコン工作教室</p> <p>2008.8.19～21 中学生対象オープンキャンパス</p> <p>2008.11.3 中学生対象学校見学会</p> <p>2008.12月 冬季公開講座</p>

各種行事報告

各種行事報告は以下の各ページからご覧下さい。(現在準備中)

更新履歴

2008.07.17
-各種行事リンク変更

行事案内

7月は水泳教室やものづくり教室が開催されます。

8月はものづくり教室やオープンキャンパスが開催されます。

■ MENU LIST

- センター概要
- 中高生の皆様へ
- 企業の皆様へ
- 公開講座
- 刊行物
- アクセス
- リンク

センター紹介

組織的には、運営委員会、第1部会、第2部会があります。

運営委員会

第1部会

第2部会

運営委員会：
各種事業の企画・立案

第1部会：
企業向け各種行事
(産学官技術フォーラム、共同研究など)

第2部会：
市民向け各種行事
(オープンキャンパス、公開講座など)

(次ページへ続く)

公開講座（例）

神戸高専夏季公開講座

さすが高専

とっても楽しい！ためになる！

小学生のための 初心者水泳教室

日時

平成20年7月22日(火)～26日(土)

5日間 9:30～12:30

(※7月22日のみ、科学のおまけ12:35～13:00)

対象

小学生の水泳初心者（50名）



講師

数々の水泳の個人記録を持ち、神戸市スポーツ功労賞や神戸市中学校優秀指導者賞を受賞した、本校の経験豊かな体育教授 寺田雅裕が担当。
また、水泳部のお兄さん、お姉さんがマンツーマンで指導します！

内容

着衣泳などを含んだ初心者水泳 + 科学のおまけつき！

費用

3000円(材料費+保険代実費) (5日間の費用)

申込

往復はがきに・住所・氏名・学校名・学年・電話番号・どの位泳げるか(顔を水に浸けられるか浮けるか等)を明記し(返信はがきの表にも住所・氏名を書いて、

〒651-2194 神戸市立工業高等専門学校 (住所は要りません)
夏季公開講座 水泳教室の係 宛

締切

7月6日(日) 消印有効 (申込多数の場合は抽選)

問い合わせ TEL078-795-3311

ホームページも見てね! <http://www.kobe-kosen.ac.jp/>

水泳教室日程

- 7/22(火) 水慣れ及び浮き方・呼吸法を学ぶ
- ／23(水) 色々な補助や支持をしてもらって浮く
- ／24(木) 浮いて進んでみる
- ／25(金) 補助具を使って一人で浮いて進む
- ／26(土) 25メートルのスイムに挑戦と着衣泳

「お兄さんお姉さん」がマンツーマンで指導します！

<裏面へ>

(次ページへ続く)



科学のあそび



7/22(火) 空気の不思議

普段、特に気にすることのない空気、実は不思議な力を持っているよ。野球の変化球も空気の仕業って知ってた？ さあ、高専で空気の不思議を体感しよう！



/23(水) 気分は高専生！ 実験室探訪



せっかく高専に来たのに、実験室を覗かない手はない。高専生はあたりまえに触っている実験装置。君たちもちょっと高専生気分を味わってください。さて、どんな実験室があるかお楽しみに！

/24(木) 見て・触って！！☆ソーラーカー☆ホバークラフト

太陽の光で走るソーラーカー、浮いて走る不思議なホバークラフト！乗って、触って体験しよう！



ソーラーカーの乗り心地は？



ホバークラフトに乗ってびゅー

/25(金) ロボットサッカーを楽しもう！ ほか

高専といえばNHKロボコン！でも神戸高専はそれだけじゃない！今年校内で行われた「ロボットサッカー」に参加したチームが集まって、熱い戦いを再現するよ。実際にロボットの操縦を体験できるかも！？



それっ、シュート！！



ゴール前の攻防



/26(土) 色の不思議



日本の夏はやっぱり花火！だけど、花火ってどうしてあんなに色とりどりに輝くんだろう？最終日は色についてのお話だよ。これで、今年の花火を10倍楽しめるかも？

出典：ウェブサイト（地域協働研究センター）

資料8-1-①-7

談笑・休憩スペース



椅子，テーブル，自動販売機を配したスペース（一般科棟）



応用化学科棟と機械工学科棟の間の4階部分

(次ページへ続く)



応用化学科棟と機械工学科棟の間の階段踊り場

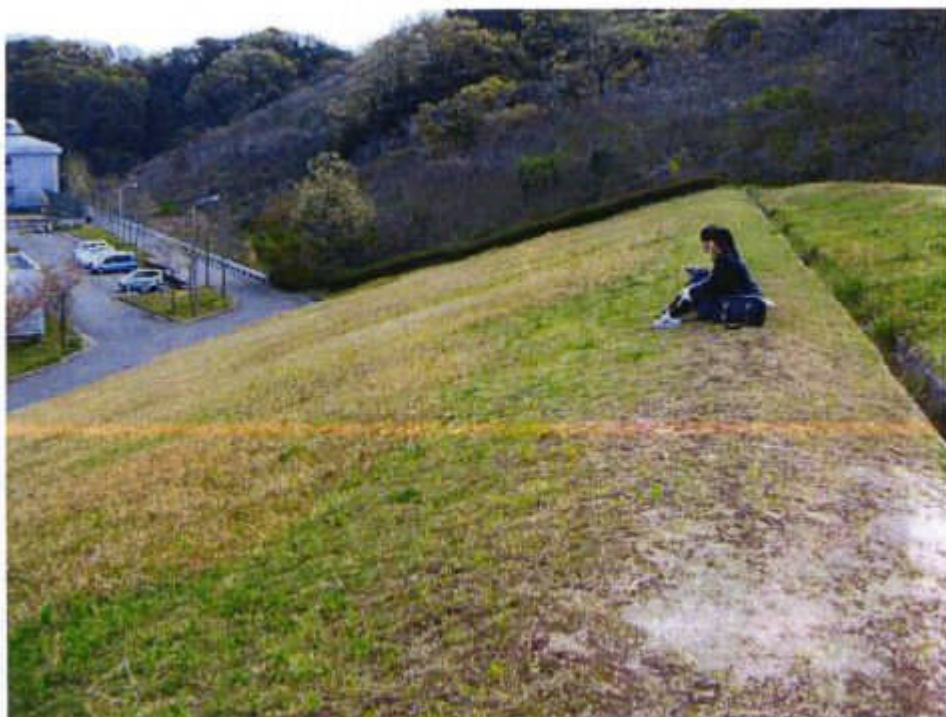


日本庭園

(次ページへ続く)



希望の丘



希望の丘

(次ページへ続く)



野外ステージ



専門学科棟中庭

出典：神戸高専校内の写真

観点 8-1-②： 教育内容、方法や学生のニーズを満たす情報ネットワークが十分なセキュリティ管理の下に適切に整備され、有効に活用されているか。

(観点に係る状況)

教育、研究のためのコンピュータ環境を提供する校内共同利用施設として総合情報センターがある。総合情報センターには、学生の演習室として、PC48 台が設置された教室が 2 室あり、1 クラス一斉授業で学生 1 人 1 台ずつの演習環境を提供している。また、実験実習や卒業研究など少人数の演習が行える小演習室があり PC10 台が設置されている。これらの PC には OS として Linux と Windows がインストールされており、種々のプログラミング言語、アプリケーションソフトなどが利用できる。これらを利用して、情報リテラシー教育、プログラミング教育、さらに各学科の情報関連専門教育などを行っている。そのほか、情報教育センターは、クラブ活動（電算部）、公開講座などにも利用されている。演習室は毎日放課後に開放され、学生は授業の演習の続きやインターネットの利用などを行える。

またこれらとは別に、機械工学科棟には CAD 室（パソコン 11 台）、電気工学科棟には情報演習室（パソコン 20 台）、電子工学科棟にはソフトウェア工学実験室（パソコン 12 台）、都市工学科棟には情報処理室（パソコン 24 台）があり、専門分野ごとに特徴を持たせた情報関連教育に活用されている。卒研室・実験室等のコンピュータは基本的にそのすべてがネットワークに接続されている。

なお、本校から外部へのネットワーク接続については、学術情報ネットワーク SINET（1Gbps の専用回線）、および民間プロバイダ（100Mbps ベストエフォート形）との接続という回線の 2 重化を実現している（前述の資料 8-1-①-1，資料 8-1-①-5）。

(分析結果とその根拠理由)

授業・演習・研究における利用、就職情報や進学情報収集などの情報検索など、学生の情報ネットワークの利用は非常に活発である。また、ネットワークのセキュリティ確保のために校内の LAN は教員用と学生用を物理的に分離し、さらに全てのコンピュータにアンチウイルスを導入するなど、ハード・ソフトの両面から対策を講じている。なお、校内のネットワークを利用するにあたり、職員・学生ともにガイダンスを何らかの形で少なくとも 1 度は受けるようになっており、情報リテラシー教育も十分に行われている。

以上のことから、本校の情報ネットワークについては、十分なセキュリティ管理の下に適切に整備され、有効に活用されている。

観点 8-2-①： 図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に整備され、有効に活用されているか。

(観点に係る状況)

図書館（981 m²）には蔵書約 7.7 万冊（和書 7.4 万冊，洋書 0.3 万冊）、学術雑誌約 300 種、視聴覚資料（CD、カセットテープ、ビデオテープ、DVD）約 1,300 タイトルがある。閲覧座席数は 84 である。また、CD、カセットテープ、ビデオテープの館内視聴ができる AV コーナーがあり、1 人席のオーディオ・ブースが 6 個、4 人席のビデオブースが 4 個ある。平成 15 年 4 月から図書館の電子システムが稼働し、貸出・返却・蔵書検索等が容易になったため利用者が増加した。また、情報端末が 16 台設置され、学生は昼休みなどに自由に利用でき、就職・進学等の各種情報収集に役立っている。図書館の開館時間は平日の 9:00～18:00（学則に定める休業期間中は 9:00～16:55）である（前述の資料

8-1-①-2, 資料8-1-①-4, 資料8-1-①-5)。

(分析結果とその根拠理由)

平成15年4月から図書館の電子システムが稼働し、貸出・返却・蔵書検索等が容易になったため利用者が増加した。また、情報端末が16台設置され、学生は昼休みなどに自由に利用でき、就職・進学等の各種情報収集に役立っている。また、本校の図書館には図書の持ち出しを管理する入退館システムが無いことから、行方不明図書が後を絶たず、そういった点からは必ずしも十分な設備とは言いがたい。これに関しては予算要求を継続的に行い、実現に向けて努力する必要がある。

以上のことから図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育上必要な資料が系統的に整備され有効に活用されている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

- ・本校から外部へのネットワーク接続については、学術情報ネットワーク SINET および民間プロバイダとの接続という回線の二重化を実現している。
- ・情報ネットワークは十分なセキュリティ管理がなされている。
- ・図書館の電子システムが稼働し、貸出・返却・蔵書検索等が容易になり、サービスが向上した。

(改善を要する点)

- ・無断での図書持ち出しを管理する入退館システム等を図書館に導入する必要がある。

(3) 基準8の自己評価の概要

現在のところ建築物の基本的な部分の劣化などはほとんどない。教室、実験室、図書室、情報関連施設等、本プログラムの学習・教育目標を達成するために必要な施設、設備は整備されていると言える。

また、ネットワークのセキュリティ確保のためにハード・ソフトの両面から対策を講じており、さらには、校内のネットワークを利用するにあたり、職員・学生ともにガイダンスを何らかの形で少なくとも1度は受けるようになっており、情報教育も十分に行われている。

図書館については、学生および職員のニーズにあった図書、学術図書、視聴覚資料などの教育上必要な資料が備えられている。また、電子システムの導入により貸出・返却・蔵書検索等が容易になり、情報端末が16台設置され、就職・進学等の各種情報収集ができることなどから、学生も有効に活用している。ただし、本校の図書館には図書の持ち出しを管理する入退館システムが無いことから、これに関しては予算要求を継続的に行い、実現に向けて努力する必要がある。

基準9 教育の質の向上及び改善のためのシステム

(1) 観点ごとの分析

観点9-1-①： 教育の状況について、教育活動の実態を示すデータや資料が適切に収集・蓄積され、評価を適切に実施できる体制が整備されているか。

(観点に係る状況)

教育の質の向上及び継続的な教育改善を目的として、平成7年度から学生による授業アンケートとその分析を行い(前述の資料3-2-②-3, 資料3-2-②-4), 平成15年度から定期的に授業公開を実施し, 保護者からの教育等に関する意見を聴取している。平成16年度には教員相互の授業公開を行い, 授業改善に役立てている。また, 各学生の教育達成度を平成19年度よりWeb入力により行い, 資料の保管を行っている。また平成20年度には授業アンケートのWeb入力システムも完成される予定である(資料9-1-①-1)。教育内容をシラバスにより教員間で相互にチェックし, 成績評価に関連する試験やレポート, 評価方法などの資料保管を実施している(前述の資料5-2-②-1)。また, オフィスアワーズや卒業研究の活動状況についても資料(資料9-1-①-2)を保管している。また, 学生会の評議会および中央執行委員会は学生に対し, 学校環境に対するアンケート調査を実施している。

(分析結果とその根拠理由)

教育改善に関する体制やアンケート結果を含む教育の状況を的確に把握できる体制が整備されている。学生の教育達成度やシラバス内容の相互点検がなされている。また, 成績評価方法を明確にしておき, その資料の保管もされている。

以上のことより, 教育の状況に関しては教育活動の実態を示すデータや資料を十分かつ適切に収集・保管しており, 適切な評価を実施する体制を十分に整備している。

授業アンケートのWeb入力システム (試行)

神戸高専学習支援システム

Education Support System in Kobe City College of Technology

学生名:2006年度 AE2(1番) AE2

< ログアウト >

授業アンケートおよび達成度評価の入力

【説明】各自が履修している科目の授業アンケートおよび目標別の達成度を入力します。下記より、評価する年度を選択してください。

電子工学科4年(2005年度)

電子工学科5年(2006年度)

電気電子工学専攻1年(2007年度)

電気電子工学専攻2年(2008年度)

学習教育目標別達成度の表示

【説明】各自の学習教育目標別の達成度を確認することができます。下記より確認する年度を選択してください。

電子工学科4年(2005年度)

電子工学科5年(2006年度)

電気電子工学専攻1年(2007年度)

電気電子工学専攻2年(2008年度)

達成度の総合評価

【説明】学習・教育目標に対する現時点での総合評価を見ることができます。

専攻科課程 総合評価

その他

パスワードの変更

学習・教育目標の表示

各種手続き方法(外部リンク)

HOME → 開設科目一覧 → 授業アンケート

■ 2008年度【英語演習】の授業アンケート

私たち教員は、授業内容の向上を図り、学生の皆さんと共によりよい授業を実現したいと考えています。その資料とするために、皆さんの率直な意見を聞きたいと思っていますので、高専生として自覚ある回答をお願いします。回答の記入は各問毎に5段階評価で、設問順に該当する評価点の数字をマウスでクリックしてください。回答が終わったら「評価する」ボタンをマウスでクリックしてください。なお、1つの項目でも「1」の評価を付けた場合は、必ずその理由を【自由記述欄】に明記してください。

評価する

アンケート項目	評価(5段階)				
	1 いいえ	2	3 どちらとも いえない	4	5 はい
A この授業はわかりやすかったですか (話し方、板書、ノート時間、熱意)	1 ○	2 ○	3 ○	4 ○	5 ○
B この授業の工夫や準備は十分行われていましたか (準備、点検、理解・技能、アフターケア)	1 ○	2 ○	3 ○	4 ○	5 ○
C この授業の進め方や評価方法は適切でしたか (シラバス、進み具合、質問への対応、試験)	1 ○	2 ○	3 ○	4 ○	5 ○
D あなたはこの授業にまじめに取り組みましたか (集中度、質問、予習・復習)	1 ○	2 ○	3 ○	4 ○	5 ○
E この授業は総合的に見て良いと評価できますか (内容、興味・意欲、達成感)	1 ○	2 ○	3 ○	4 ○	5 ○

【自由記述欄】 この授業をよくするための建設的な意見や要望があれば書いてください。

(次ページへ続く)

神戸高専学習支援システム

Education Support System in Kobe City College of Technology

ユーザ名:2008年度 D5(1番) D6

<ログアウト>

HOME → 開設科目一覧 → 授業アンケート結果の登録

■ 授業アンケートの再確認(保健・体育)

【アンケートの評価値の再確認】

- アンケートの評価値の再確認です。入力した評価が正しければ、「確認」をマウスでクリックしてください。
- 評価値を修正する場合は、「修正」をマウスでクリックして再入力してください。

修正

確認

	評価項目	評価値
A	この授業はわかりやすかったですか (話し方・要点・コツ, 活動時間配分, 熱意)	4
B	この授業の工夫や準備は十分行われていましたか (準備, 安全点検, 運動量, アフターケア)	5
C	この授業の進め方や評価方法は適切でしたか (シラバス, 進み具合, 質問への対応, 試験)	5
D	あなたはこの授業にまじめに取り組みましたか (積極性, 活動量, 安全への配慮)	4
E	この授業は総合的に見て良いと評価できますか (内容, 興味・意欲, 達成感)	5

【自由記述欄】この授業をよくするための建設的な意見や要望があれば書いてください。

記入なし

神戸高専学習支援システム

Education Support System in Kobe City College of Technology

学生名:2008年度 D5(1番) D6

<ログアウト>

HOME → 開設科目一覧

■ 2007年度の開設科目一覧

【授業アンケートまたは学習目標達成度を入力する科目の選択】

- 入力する科目をマウスでクリックしてください。
- 選択科目の場合は、各自が履修している科目のみ入力してください。
- 授業アンケートは一度評価すると、再入力できません。慎重に入力してください。
- 表示される達成度は、評価値5を100%として算出した平均値です。

科目	学期等	担当者	授業 評価	達成度 [%]
国語	後期・必修・1単位	高専太郎	--	未
確率統計	前期・必修・1単位	高専太郎	--	未
保健・体育	通年・必修・2単位	高専太郎	--	未
英語演習	通年・必修・2単位	高専太郎	--	未
応用数学	通年・必修・2単位	高専太郎	--	未
応用物理	通年・必修・2単位	高専太郎	--	未
ソフトウェア工学	通年・必修・2単位	高専太郎	--	未
電気磁気学II	通年・必修・2単位	高専太郎	--	未
半導体工学	通年・必修・2単位	高専太郎	--	未
電気回路III	前期・必修・2単位	高専太郎	--	未
電子計測	通年・必修・2単位	高専太郎	--	未
電子回路I	通年・必修・2単位	高専太郎	--	未
数値解析	通年・必修・2単位	高専太郎	--	未
通信方式	通年・必修・2単位	高専太郎	--	未
制御工学I	通年・必修・2単位	高専太郎	--	未
電子工学実験実習	通年・必修・4単位	高専太郎	--	未
ドイツ語	通年・選択・2単位	高専太郎	--	未
中国語	通年・選択・2単位	高専太郎	--	未
学外実習	前期・選択・1単位	高専太郎	--	未

出典：ウェブサイト(学内用)

卒業研究活動表 (用紙)

卒業研究活動表(平成19年度)

()月分

学生名

日	曜日	時間帯	時間数	内容
1日		~		
2日		~		
3日		~		
4日		~		
5日		~		
6日		~		
7日		~		
8日		~		
9日		~		
10日		~		
11日		~		
12日		~		
13日		~		
14日		~		
15日		~		
16日		~		
17日		~		
18日		~		
19日		~		
20日		~		
21日		~		
22日		~		
23日		~		
24日		~		
25日		~		
26日		~		
27日		~		
28日		~		
29日		~		
30日		~		
31日		~		
合計時間				

指導教官名

印

(次ページへ続く)

オフィスアワーズ記録用紙

D

科 氏名 _____

① オフィス アワーズ	月 日 () : ~ :	分
② その他		
① オフィス アワーズ	月 日 () : ~ :	分
② その他		
① オフィス アワーズ	月 日 () : ~ :	分
② その他		
① オフィス アワーズ	月 日 () : ~ :	分
② その他		
① オフィス アワーズ	月 日 () : ~ :	分
② その他		
① オフィス アワーズ	月 日 () : ~ :	分
② その他		
① オフィス アワーズ	月 日 () : ~ :	分
② その他		
① オフィス アワーズ	月 日 () : ~ :	分
② その他		
① オフィス アワーズ	月 日 () : ~ :	分
② その他		
① オフィス アワーズ	月 日 () : ~ :	分
② その他		

出典：教務主事室資料

観点9-1-②： 学生の意見の聴取（例えば、授業評価、満足度評価、学習環境評価等が考えられる。）が行われており、教育の状況に関する自己点検・評価に適切な形で反映されているか。

（観点に係る状況）

平成7年度から学生による授業アンケートとその分析を行い（前述の資料3-2-②-3，資料3-2-②-4），冊子にまとめ全学生が回覧できるようにしている。学生主事室のバックアップの下，学生会の評議会および中央執行委員会は，学生の教育環境等への要望をアンケートで調査し，それらの要望は各種委員会等で取り上げられ，学生へ回答している。全教員はオフィスアワーズを設定し，また担任制度により，学生の意見を取り入れる体制を整えている。

また，学生会組織である学生評議会（各クラスの正副委員長と学生会執行部により構成）が活発に機能しており，学生の要望を直接学生主事室に伝えるしくみができている（前述の資料7-1-③-1）。その例として，平成17年度に，学生評議会からの要望が大きかったホームルーム教室へのエアコンの設置が実現したことがあげられる。

（分析結果とその根拠理由）

学生による授業アンケートを行い，その改善策やコメント等を公表し，自己点検や教育改善に反映させている。以上のことから，学生の意見の聴取を定期的に行っており，その結果を自己点検や教育改善に反映させている

観点9-1-③： 学外関係者（例えば、卒業（修了）生、就職先等の関係者等が考えられる。）の意見が、教育の状況に関する自己点検・評価に適切な形で反映されているか。

（観点に係る状況）

平成15年に外部の組織からなる外部評価を行い，報告書を作成した（資料9-1-③-1）。また，卒業生や企業へのアンケート調査を実施している。インターンシップ派遣先の人事担当者から，4年生クラス担任や各専攻主任へ派遣した学生の活動状況（前述の資料5-1-②-3）が，また，学生が就職活動を行った企業の人事担当者から，学科主任，5年生クラス担任，各専攻主任にコメントが寄せられ，それらは自己点検に反映されている（前述の資料5-5-③-2）。また，学会での活動や各種の社会活動の役員を務める中で教員個々が得た意見や，本校の同窓会組織（六神会）からも意見を得ることができる。

（分析結果とその根拠理由）

学外の関係者に対して，組織的に意見を得る機会があり，自己点検に活かされている。組織的になされていない意見聴取を，自己点検や教育改善に反映するしくみは十分ではないが，それらの機会は有効に活用されている。以上のことから，学外関係者の意見が教育の状況に関する自己点検・評価に適切に反映されていると考えられる。

平成15年度 外部評価報告書より

A4サイズ：42ページ

2. 実施日程

日時：平成16年3月10日(水)

場所：校長室、第1会議室

日程：

- 13:00-13:30 外部評価委員事前打ち合わせ（校長室）
- 13:30-14:30 外部評価委員によるヒアリング(第1会議室)
- 14:30-15:15 外部評価委員打ち合わせ（本校関係者退席）
- 15:15-15:25 外部評価委員長講評（本校関係者出席）
- 15:25-15:30 校長挨拶（閉会）

3. 第2回外部評価委員会の風景



外部評価委員長 講評

(左から、福永委員、鶴井委員、和田委員、太田委員長、松井委員、花川委員)



講評を聞く学校側出席者

出典：平成15年度外部評価報告書より転載

観点9-1-④： 各種の評価（例えば、自己点検・評価、教員の教育活動に関する評価、学生による達成度評価等が考えられる。）の結果を教育の質の向上、改善に結び付けられるようなシステムが整備され、教育課程の見直しなど具体的かつ継続的な方策が講じられているか。

（観点に係る状況）

基準2でPDCAシステムの稼働状況の詳細について述べたが、その中で、特に力を入れている点を列挙する。評価委員会を中心にして、学生の授業アンケートを実施し、そのアンケート結果と改善策等を報告書（前述の資料3-2-②-3，資料3-2-②-4）にまとめている。教務主事室を中心として、教務委員会，専攻科委員会，教育プログラム委員会，自己評価委員会と連絡をとりながら、科目間ネットワーク会議（前述の資料2-2-②-1，資料2-2-②-3）を開催し、教育の質やカリキュラム等の見直しを行っている。各教員は授業点検シート（資料9-1-④-1）を教科毎に作製して、評価を行っている。学生はWeb入力により各教科の達成目標に対する自己の達成度を5段階で評価し、自分自身の評価と成績通知書による実際の達成度を比較することで、学生自身が学習方法等を自省することができる。評価一覧は担任が保管しており、学生指導に寄与している。データベース上に電子化されているために、各教員は学生の達成度と授業アンケート、シラバスなどを比較・総合することができる。

（分析結果とその根拠理由）

基準2で継続的改善の具体例について詳細に述べているので、ここでは、とくに力を入れている点を列挙した。

学生の授業アンケート評価結果を教育の質の向上や改善に反映している。科目間連携の会議を通じてカリキュラムの改善や教育課程の見直しを行っている。学生自身の達成度をWeb入力によりデータベース化している。

以上のことから、評価結果を教育の質の向上、改善に結びつけられるようなシステムが整備され、授業方法の改善及びカリキュラムの見直しに継続的な方策が講じられている。

教員用の授業自己点検シート

授業自己点検シート

授業科目名			記入日	平成 年 月 日
対象学科・専攻名	本科M・E・D・C・S			講義・演習・実験
対象学年	専攻科AM・AED・AC・AS		年	通年・前期・後期
担当教員			非常勤担当者	

以下の質問にお答え下さい。

1. 学生に本授業科目の学習・教育目標を十分理解させることができましたか？	はい・いいえ
2. 授業の冒頭でシラバスの内容を説明しましたか？	はい・いいえ
3. 授業はシラバスの内容・順序どおりに実施できましたか？	はい・いいえ
4. 適切な教材を用いていますか？	はい・いいえ
5. 学生の授業中の反応をチェックしていますか？	はい・いいえ
6. レポートや小テストを実施していますか？	はい・いいえ
7. 試験・レポート・小テストを返却しましたか？(学生からの問い合わせも含む)	はい・いいえ
8. 成績評価はシラバスどおりに行いましたか？	はい・いいえ
9. 成績評価の根拠となる資料は残してありますか？	はい・いいえ
10. 学生の興味や理解度を高めるために何か工夫をしていますか？	はい・いいえ
「はい」の場合は具体的に記入して下さい。	
11. 学生からのアンケート結果を授業に反映させていますか？	はい・いいえ
「はい」の場合は具体的に記入して下さい。	
12. 本授業科目の実施上で何か問題がありますか？	はい・いいえ
「はい」の場合は具体的に記入して下さい。	
13. その他記述することがありましたら、自由にお書き下さい。	

※7. について 試験・レポート・小テストは学生に一旦返却し、質問等に対応した後回収し保管すただし、返却しなかった場合でも、学生からの問い合わせに対応すれば返却したことと同等とする。

出典：ウェブサイト（教職員用）
教務主事室資料

観点9-1-⑤： 個々の教員は、評価結果に基づいて、それぞれの質の向上を図るとともに、授業内容、教材、教授技術等の継続的改善を行っているか。また、個々の教員の改善活動状況を、学校として把握しているか。

(観点に係る状況)

平成7年度から学生による授業アンケートを行い、その結果を教員が分析して、自己評価委員会や学科主任に対して授業改善策やコメント等を提示し、教育改善に努めている。改善案等は学生や他の教員にも公開され、改善状況を把握するシステムを構築しつつある。(資料9-1-⑤-1)に示すように、授業アンケートによる学生の評価は概ね向上している。

(分析結果とその根拠理由)

各教員は、学生による授業評価アンケート結果に基づいて授業の改善策やコメントをまとめ、これを学内に公表している。

以上のことから、各教員は評価結果に基づいて、それぞれの質の向上を図るとともに、授業内容、教材、教授技術等の継続的改善を行っている。また、学校としても個々の教員の改善活動状況を把握している。

学生による授業アンケート結果と授業改善状況

2007年度

表1-2-2本科のアンケート結果(専門学科, 一般科, 学年の平均)

	A1	A2	A3	A4	A	B1	B2	B3	B4	B	C1	C2	C3	C4	C	D1	D2	D3	D4	D	E1	E2	E3	E4	E	
機械工学科	4.1	3.8	3.8	4	3.9	4.1	4	3.8	3.7	3.8	3.9	4	3.7	3.9	3.8	3.8	2.5	3.8	2.6	1.9	2.7	3.6	3.6	3.5	3.8	3.6
電気工学科	4.1	3.6	3.7	4	3.8	3.9	3.9	3.8	3.5	3.6	4.1	3.6	3.8	3.7	3.8	2.1	3.7	2.5	1.9	2.5	3.4	3.4	3.4	3.7	3.5	
電子工学科	3.9	3.5	3.5	3.7	3.7	3.9	3.7	3.5	3.3	3.6	3.8	3.4	3.6	3.5	3.6	2.4	3.6	2.5	1.7	2.6	3.3	3.3	3.3	3.5	3.4	
応用化学科	4.1	3.6	3.7	4	3.8	4.1	3.8	3.6	3.5	3.8	3.9	3.5	3.7	3.7	3.7	2.2	3.7	2.6	1.8	2.6	3.4	3.4	3.3	3.7	3.4	
都市工学科	4	3.7	3.7	4	3.9	4	3.9	3.8	3.6	3.8	4	3.7	3.8	3.8	3.8	2.5	3.7	2.6	2.3	2.8	3.5	3.5	3.5	3.7	3.6	
専門科全体	4.1	3.7	3.7	3.9	3.9	4	3.9	3.7	3.6	3.8	4	3.6	3.8	3.7	3.8	2.4	3.7	2.6	1.9	2.6	3.5	3.5	3.4	3.7	3.5	
国語科	4.2	3.9	4	4.1	4.1	4.1	3.8	3.8	3.7	3.8	3.8	3.8	4	3.8	3.8	2.2	3.4	2.2	1.8	2.4	3.7	3.4	3.4	3.8	3.6	
人文社会科	4.4	4.1	4.1	4.2	4.2	4.2	3.9	3.9	3.9	4	4	3.8	3.7	3.9	3.8	2.2	3.6	2.4	2	2.5	3.7	3.6	3.5	4	3.7	
数学科	4.2	4	3.8	4.2	4	4.2	4.2	4.1	4	4.1	4.1	3.9	4.1	4	4	2.4	3.7	2.8	2.1	2.7	3.7	3.6	3.5	4	3.7	
理科	4	3.8	3.8	3.7	3.8	4	3.7	3.6	3.5	3.7	3.8	3.4	3.8	3.6	3.6	2.1	3.5	2.4	2	2.5	3.2	3.3	3.2	3.6	3.3	
英語科	4.3	4	3.9	4.1	4.1	4.1	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	3.8	3.9	4	3.9	2.4	3.7	2.6	1.9	2.7	3.7	3.5	3.5	3.9	3.6	
ドイツ語科	4.3	3.5	3.7	4.4	4	4.1	3.9	3.8	3.7	3.9	4	3.8	4	4	3.9	2.2	3.6	2.4	2	2.6	3.5	3.4	3.4	3.8	3.6	
中国語	3.9	3.2	3.5	3.9	3.6	4	3.8	3.9	3.6	3.8	4	3.7	3.6	4.1	3.9	2.4	3.1	2.6	1.9	2.5	3.5	3.4	3.5	3.7	3.5	
芸術	4.5	4.1	3.9	4.4	4.2	4.2	3.9	3.9	4	4	4.2	4.1	4.1	3.9	4.1	2.5	3.9	2.2	1.9	2.7	3.9	3.7	3.5	4	3.8	
5年一般科目選択	4.5	4.1	4	4.4	4.3	4.3	4	4	3.9	4.1	4.1	4	4.1	4	4.1	2.2	3.4	2	1.6	2.3	3.6	3.7	3.6	4	3.7	
保健体育科	4.8	4.6	4.6	4.6	4.6	4.5	4.4	4.4	4.2	4.4	4.3	4.3	4.2	4.2	4.3	2.4	4.5	3.7	1.9	3.1	4.3	4.3	4	4.5	4.3	
一般科全体	4.4	4.1	4	4.2	4.2	4.2	4	4	3.9	4	4	3.9	4	3.9	4	2.3	3.8	2.7	1.9	2.7	3.8	3.7	3.5	4	3.7	
1年	4.3	4	3.9	4.1	4.1	4.2	4	3.9	3.9	4	4	3.8	3.9	3.9	3.9	2.4	3.9	2.8	2.1	2.8	3.7	3.7	3.4	4	3.7	
2年	4.2	4	4	4.1	4.1	4.2	4	4	3.8	4	4.1	3.8	3.9	3.9	3.9	2.3	3.8	2.7	1.8	2.7	3.7	3.6	3.6	3.9	3.7	
3年	4.2	3.8	3.9	4.1	4	4.1	3.9	3.8	3.6	3.8	3.9	3.7	3.8	3.8	3.8	2.2	3.7	2.6	1.8	2.6	3.6	3.6	3.5	3.8	3.6	
4年	4.1	3.7	3.7	3.9	3.9	4	3.8	3.7	3.6	3.8	3.9	3.6	3.8	3.7	3.8	2.6	3.7	2.8	2.1	2.8	3.5	3.5	3.5	3.7	3.5	
5年	4.3	3.9	3.9	4.1	4.1	4.1	4	3.9	3.8	4	4	3.9	4	3.9	3.9	2.2	3.7	2.4	1.8	2.5	3.6	3.6	3.6	3.5	3.9	3.6

表1-2-3専攻科のアンケート結果(専攻, 一般教養, 専門共通の平均)

	A1	A2	A3	A4	A	B1	B2	B3	B4	B	C1	C2	C3	C4	C	D1	D2	D3	D4	D	E1	E2	E3	E4	E
機械システム工学専攻	4.2	3.9	3.9	4.1	4	4	4	3.8	3.8	3.9	4.2	4	4.2	3.9	4.1	2.8	4.1	3.1	2.1	3	3.8	3.7	3.7	4	3.8
電気電子工学専攻	4.5	4	4	4.3	4.2	4.2	4.1	3.9	3.8	4	4.2	3.9	4	3.9	4	2.8	4	3.3	2.1	3	3.7	3.8	3.6	3.9	3.8
応用化学専攻	4.3	4	4.1	4.2	4.2	4.2	4.3	4.2	4.3	4.2	4.3	4.2	4.3	4.2	4.2	3.2	4	3.2	2	3.1	3.9	4	3.9	4.3	4
都市工学専攻	4.2	3.9	3.9	3.9	4	4.1	3.9	4	3.8	3.9	4.1	3.8	3.9	3.9	3.9	2.8	3.8	2.8	2	2.8	3.5	3.7	3.4	3.9	3.6
一般教養	4.5	3.8	3.9	4.3	4.1	4.2	4	3.9	3.7	4	4.3	3.7	3.6	3.7	3.8	2.9	3.8	2.7	1.6	2.8	3.6	3.6	3.6	3.9	3.7
専門共通科目	4.1	3.6	3.7	3.9	3.8	4	3.8	3.6	3.5	3.7	4.1	3.7	3.7	3.7	3.8	2.7	3.8	2.9	1.8	2.8	3.6	3.6	3.5	3.7	3.6
専攻科平均	4.3	3.8	3.9	4.1	4	4.1	4	3.9	3.8	3.9	4.2	3.8	3.9	3.8	3.9	2.9	3.9	3	1.8	2.9	3.7	3.7	3.6	3.9	3.7

(次ページへ続く)

2006 年度

表1-2-2本科のアンケート結果(専門学科, 一般科, 学年の平均)

	A1	A2	A3	A4	A	B1	B2	B3	B4	B	C1	C2	C3	C4	C	D1	D2	D3	D4	D	E1	E2	E3	E4	E
機械工学科	3.9	3.6	3.6	3.8	3.7	3.9	3.8	3.6	3.5	3.7	3.8	3.5	3.7	3.6	3.6	2.1	3.6	2.2	1.6	2.4	3.4	3.4	3.3	3.6	3.4
電気工学科	4	3.5	3.6	3.8	3.7	3.9	3.7	3.6	3.5	3.7	4	3.5	3.6	3.6	3.7	1.9	3.7	2.2	1.7	2.4	3.4	3.3	3.3	3.6	3.4
電子工学科	3.9	3.6	3.5	3.8	3.7	3.9	3.7	3.5	3.4	3.6	3.8	3.4	3.7	3.6	3.6	2.1	3.6	2.3	1.6	2.4	3.3	3.3	3.2	3.6	3.3
応用化学科	4	3.5	3.6	3.9	3.8	3.9	3.7	3.6	3.4	3.7	3.6	3.4	3.6	3.7	3.6	2.3	3.6	2.4	1.6	2.5	3.3	3.3	3.2	3.6	3.4
都市工学科	4.1	3.7	3.8	4	3.8	4.1	4	3.9	3.7	3.9	4	3.7	3.8	3.8	3.8	2.2	3.7	2.4	2.1	2.6	3.5	3.6	3.5	3.8	3.6
専門科全体	4	3.6	3.6	3.9	3.8	3.9	3.8	3.6	3.5	3.7	3.8	3.5	3.7	3.6	3.7	2.1	3.6	2.3	1.7	2.4	3.4	3.4	3.3	3.6	3.4
国語科	4.2	4	3.8	4	4	4	3.8	3.8	3.8	3.9	3.9	3.8	3.9	4	3.9	2	3.5	2.1	1.6	2.3	3.8	3.4	3.5	3.9	3.6
人文社会科	4.3	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2	3.9	3.9	3.8	4	3.9	3.8	3.8	3.9	3.9	2.1	3.6	2.4	1.9	2.5	3.7	3.6	3.5	4	3.7
数学科	4.2	4.1	3.8	4.1	4.1	4.2	4.2	4.2	4	4.2	4.1	4	4.1	4.1	4.1	2.1	3.8	2.7	2	2.6	3.8	3.7	3.6	4.1	3.8
理科	4.2	3.9	3.8	3.9	4	4.1	3.7	3.7	3.5	3.8	3.9	3.5	3.8	3.6	3.7	2	3.7	2.4	1.9	2.5	3.3	3.4	3.3	3.7	3.4
英語科	4.4	3.9	4	4.1	4.1	4.1	3.9	3.9	3.8	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	2.3	3.7	2.5	1.9	2.6	3.6	3.5	3.5	3.9	3.6
ドイツ語科	4.5	3.7	3.8	4.3	4.1	4.2	4	3.9	3.9	4	4	3.9	4.1	4	4	1.9	3.8	2.1	1.5	2.3	3.4	3.4	3.3	3.9	3.5
中国語	4.3	3.5	3.8	4	3.9	4.3	4	4.1	3.8	4.1	4.1	3.7	3.9	4.1	4	2	3	2.1	1.5	2.1	3.5	3.6	3.5	3.9	3.6
芸術	4.4	4.1	3.9	4.3	4.2	4.2	4	3.9	4	4	3.8	4	4.2	3.8	4	2.2	4	2.3	1.9	2.6	3.9	3.7	3.5	4	3.8
5年一般科目選択	4.5	4	4.1	4.4	4.2	4.2	4	3.9	3.8	4	4	3.9	3.9	4	3.9	2.3	3.4	2.1	1.8	2.4	3.8	3.9	3.6	4.1	3.9
保健体育科	4.7	4.6	4.5	4.6	4.6	4.5	4.3	4.3	4.1	4.3	4.2	4.2	4.2	4.1	4.2	2.2	4.5	3.7	1.7	3	4.3	4.3	3.8	4.4	4.2
一般科全体	4.4	4.1	4.1	4.2	4.2	4.2	4	4	3.9	4	4	3.9	4	3.9	4	2.1	3.8	2.7	1.8	2.6	3.8	3.7	3.5	4	3.8
1年	4.3	4	4	4.1	4.1	4.2	4	4	3.9	4	4	3.8	4	3.9	3.9	2.2	3.9	2.7	1.9	2.7	3.7	3.7	3.5	4	3.7
2年	4.2	3.9	3.8	4	4	4.1	4	3.9	3.7	3.9	4	3.7	3.8	3.8	3.8	2	3.8	2.6	1.7	2.5	3.7	3.6	3.5	3.9	3.7
3年	4.1	3.8	3.8	4	3.9	4	3.9	3.8	3.6	3.8	3.9	3.6	3.8	3.8	3.8	2.3	3.7	2.5	1.8	2.6	3.6	3.5	3.4	3.8	3.6
4年	4.2	3.8	3.8	4	3.9	4	3.9	3.8	3.7	3.9	3.9	3.7	3.8	3.8	3.8	2.1	3.7	2.3	1.7	2.4	3.5	3.5	3.4	3.8	3.5
5年	4.1	3.7	3.7	3.9	3.9	3.9	3.8	3.6	3.5	3.7	3.8	3.6	3.8	3.6	3.7	2.2	3.6	2.2	1.7	2.4	3.4	3.4	3.4	3.7	3.5

表1-2-3専攻科のアンケート結果(専攻, 一般教養, 一般教養, 専門共通の平均)

	A1	A2	A3	A4	A	B1	B2	B3	B4	B	C1	C2	C3	C4	C	D1	D2	D3	D4	D	E1	E2	E3	E4	E
機械システム工学専攻	4.1	3.8	3.5	4	3.8	3.9	3.8	3.6	3.6	3.7	3.8	3.8	3.8	3.5	3.7	2.6	3.8	2.9	1.9	2.8	3.5	3.6	3.4	3.8	3.6
電気電子工学専攻	4.1	3.7	3.7	3.6	3.8	3.7	3.7	3.5	3.4	3.6	3.8	3.4	3.8	3.5	3.6	2.4	3.6	3.1	1.7	2.7	3.3	3.3	3.3	3.7	3.4
応用化学専攻	3.7	3.4	3.9	3.7	3.7	3.7	3.8	3.5	3.3	3.6	3.8	3.7	3.8	3.6	3.7	2.4	3.7	2.5	1.5	2.5	3.2	3.5	3.1	3.5	3.3
都市工学専攻	3.9	3.5	3.5	3.9	3.7	3.9	4	3.7	3.6	3.8	3.9	3.6	3.7	3.5	3.7	2.3	3.6	3.1	1.8	2.7	3.3	3.5	3.3	3.6	3.4
一般教養	4.2	3.5	3.6	4.1	3.8	3.9	3.7	3.6	3.4	3.7	3.9	3.4	3.4	3.4	3.5	2.3	3.7	2.4	1.4	2.5	3.3	3.5	3.3	3.7	3.5
専門共通科目	4.1	3.5	3.5	3.8	3.7	3.8	3.7	3.4	3.4	3.6	3.9	3.4	3.7	3.5	3.6	2.4	3.7	2.6	1.7	2.6	3.3	3.4	3.3	3.5	3.4
専攻科平均	4.1	3.6	3.6	3.9	3.8	3.8	3.8	3.6	3.4	3.6	3.9	3.5	3.7	3.5	3.6	2.4	3.7	2.7	1.6	2.6	3.4	3.5	3.3	3.6	3.4

(次ページへ続く)

2005 年度

表 1-2-2 本科のアンケート結果 (専門学科, 一般科, 学年の平均)

	A1	A2	A3	A4	A	B1	B2	B3	B4	B	C1	C2	C3	C4	C	D1	D2	D3	D4	D	E1	E2	E3	E4	E
機械工学科	3.8	3.5	3.5	3.8	3.6	3.8	3.7	3.5	3.4	3.6	3.7	3.4	3.6	3.5	3.5	1.7	3.6	2.1	1.5	2.2	3.3	3.4	3.2	3.6	3.4
電気工学科	4.0	3.5	3.7	3.8	3.8	4.0	3.8	3.7	3.5	3.7	4.0	3.6	3.8	3.6	3.7	1.9	3.6	2.3	1.7	2.4	3.4	3.3	3.3	3.7	3.4
電子工学科	3.7	3.4	3.4	3.5	3.5	3.7	3.5	3.3	3.2	3.4	3.6	3.3	3.5	3.4	3.5	1.8	3.5	2.2	1.5	2.2	3.2	3.2	3.1	3.5	3.2
応用化学科	4.0	3.4	3.5	3.8	3.7	3.9	3.7	3.5	3.4	3.6	3.6	3.4	3.6	3.5	3.5	1.7	3.6	2.3	1.5	2.3	3.2	3.3	3.1	3.6	3.3
都市工学科	3.8	3.4	3.4	3.7	3.6	3.8	3.6	3.5	3.3	3.6	3.7	3.4	3.5	3.5	3.5	1.8	3.5	2.3	1.8	2.4	3.2	3.3	3.2	3.6	3.3
専門科全体	3.9	3.4	3.5	3.7	3.6	3.8	3.7	3.5	3.4	3.6	3.7	3.4	3.6	3.5	3.6	1.8	3.6	2.2	1.6	2.3	3.3	3.3	3.2	3.6	3.3
国語科	4.0	3.8	3.7	3.9	3.8	3.9	3.6	3.6	3.6	3.7	3.6	3.7	3.9	3.9	3.7	1.8	3.4	2.0	1.6	2.2	3.7	3.4	3.3	3.7	3.5
人文社会科	4.1	3.9	4.0	3.9	4.0	4.0	3.6	3.6	3.6	3.7	3.6	3.5	3.6	3.7	3.6	1.7	3.5	2.2	1.6	2.3	3.5	3.3	3.2	3.7	3.4
数学科	4.2	3.9	3.5	4.0	3.9	4.1	4.0	4.0	3.8	4.0	3.8	3.6	3.8	3.8	3.8	1.8	3.6	2.5	1.8	2.4	3.5	3.4	3.2	3.9	3.5
理科	4.1	3.7	3.6	3.7	3.8	4.0	3.6	3.5	3.3	3.6	3.6	3.4	3.7	3.4	3.5	1.7	3.5	2.3	1.9	2.4	3.1	3.2	3.1	3.5	3.2
英語科	4.2	3.7	3.8	4.1	4.0	4.0	3.7	3.7	3.7	3.8	3.7	3.7	3.8	3.7	3.7	1.7	3.6	2.3	1.6	2.3	3.5	3.4	3.3	3.7	3.5
ドイツ語科	4.5	3.5	3.5	4.3	4.0	4.1	3.8	3.7	3.7	3.8	3.8	3.8	3.9	3.8	3.9	1.6	3.7	2.0	1.4	2.2	3.3	3.3	3.2	3.7	3.4
中国語	4.0	2.8	3.2	3.8	3.4	3.8	3.8	3.9	3.5	3.8	3.9	3.4	3.6	4.2	3.8	1.8	3.0	2.1	1.6	2.1	3.4	3.3	3.2	3.8	3.5
芸術	4.3	3.7	3.5	4.3	4.0	4.0	3.6	3.5	3.7	3.7	3.5	3.7	3.8	3.5	3.6	1.8	4.1	2.0	1.5	2.3	3.9	3.6	3.2	3.9	3.7
5年一般科目選択	4.3	3.8	3.8	4.2	4.0	3.9	3.6	3.6	3.6	3.7	3.9	3.6	3.8	3.7	3.7	1.9	3.3	1.9	1.5	2.2	3.5	3.6	3.3	3.9	3.6
保健体育科	4.7	4.5	4.4	4.5	4.5	4.4	4.2	4.3	4.1	4.2	4.0	4.1	4.1	4.0	4.0	1.9	4.4	3.6	1.7	2.9	4.3	4.2	3.7	4.4	4.2
一般科全体	4.3	3.9	3.9	4.1	4.0	4.1	3.8	3.8	3.7	3.9	3.7	3.7	3.8	3.7	3.8	1.8	3.7	2.5	1.7	2.4	3.6	3.5	3.3	3.9	3.6
1年	4.2	3.7	3.7	4.0	3.9	4.0	3.8	3.7	3.6	3.8	3.6	3.5	3.6	3.7	3.6	1.7	3.9	2.6	1.7	2.5	3.5	3.5	3.1	3.8	3.5
2年	4.1	3.8	3.8	4.0	3.9	4.1	3.8	3.8	3.6	3.8	3.9	3.6	3.8	3.7	3.8	1.8	3.7	2.5	1.7	2.4	3.6	3.5	3.3	3.8	3.5
3年	4.1	3.6	3.7	3.8	3.8	3.9	3.8	3.7	3.5	3.7	3.7	3.6	3.7	3.7	3.7	1.7	3.6	2.3	1.5	2.3	3.4	3.4	3.3	3.7	3.4
4年	4.1	3.6	3.6	3.9	3.8	3.9	3.8	3.6	3.5	3.7	3.8	3.5	3.7	3.6	3.7	1.9	3.6	2.3	1.6	2.4	3.4	3.4	3.3	3.7	3.5

表 1-2-3 専攻科のアンケート結果 (専攻, 一般教養, 一般教養, 専門共通の平均)

	A1	A2	A3	A4	A	B1	B2	B3	B4	B	C1	C2	C3	C4	C	D1	D2	D3	D4	D	E1	E2	E3	E4	E
機械システム工学専攻	3.9	3.6	3.6	3.9	3.7	3.7	3.8	3.6	3.5	3.7	3.8	3.6	3.7	3.7	3.7	1.8	3.6	2.9	1.6	2.4	3.4	3.5	3.3	3.7	3.5
電気電子工学専攻	4.2	3.7	3.9	4.0	4.0	3.9	4.0	3.8	3.7	3.9	3.8	3.6	4.0	3.7	3.8	2.2	3.9	3.0	1.7	2.7	2.7	3.6	3.7	3.4	3.9
応用化学専攻	3.7	3.6	3.8	3.7	3.7	3.7	3.8	3.6	3.3	3.6	3.7	3.6	3.9	3.4	3.6	1.5	3.2	2.4	1.6	2.2	3.3	3.4	2.8	3.6	3.3
都市工学専攻	3.8	3.6	3.8	3.7	3.7	3.8	3.7	3.6	3.5	3.6	3.8	3.7	3.9	3.4	3.7	2.0	3.7	2.7	1.8	2.6	3.3	3.4	3.1	3.5	3.3
一般教養	4.2	3.6	3.8	4.3	4.0	4.1	3.6	3.6	3.4	3.7	4.0	3.4	3.4	3.5	3.6	2.2	3.7	2.3	1.4	2.4	3.3	3.5	3.2	3.7	3.4
専門共通科目	4.1	3.6	3.6	3.9	3.8	3.9	3.7	3.6	3.3	3.6	3.9	3.4	3.7	3.4	3.6	2.1	3.7	2.6	1.7	2.5	3.2	3.5	3.2	3.5	3.4
専攻科平均	4.1	3.6	3.7	4.0	3.8	3.9	3.8	3.7	3.5	3.7	3.9	3.5	3.7	3.6	3.7	2.0	3.7	2.7	1.6	2.5	3.4	3.5	3.2	3.7	3.5

(次ページへ続く)

イ. 各科目の報告書

各科目の報告書の様式を(4)-③のように決めた。コンピュータに入力したデータから自動的に5群のレーダグラフ・棒グラフを作成した。また、このグラフには学年平均も載せ分析を容易にした。担当者はグラフ、数値データおよび学生との話し合いの結果をもとに、分析、対応を記入することにした。

ウ. 学科主任・教科主任・専攻主任によるまとめ

アンケート結果について、各科・各専攻で話し合いを持った後、まとめを学科主任・教科主任・専攻主任が文章化し、各科・各教科・各専攻で授業方法の改善に取り組むことにした。

エ. Web上の公表

アンケート結果は、担当者および教務主事室で保管し活用していたが、平成15年度は冊子化し学内に公表した。利用しやすい形態であったが、大冊になったこともあり、特に学生に対するフィードバックに十分活用されない憾みがあった。そこで、平成16年度からは授業アンケート結果を校内専用のWeb(WWW2)上にPDFファイル形式で公開・閲覧できるようにした。また、印刷・製本したものを図書館・教務室・各学科に配置し利用の便宜を図った。学校全体としての教育活動の活性化、質の向上への活用が期待される。

オ. 単年度処理

中間試験の後にアンケートを実施し、年度内に処理を行うことにした。これにより、年度間の分析が可能となり、中・長期にわたる分析・改善が期待できる。

カ. コンピュータ処理

コンピュータ、ネットワークを利用するシステムを構築した。これにより、データ入力および結果のまとめに要する教職員の作業が省力化できると共にデータの電子化が実現した。

② アンケート結果

表1-2-2に本科、表1-2-3に専攻科のアンケート結果を示す。それぞれについて特徴的な点は次のとおりである。

[本科]

- ・各専門科、一般科全体としては、平成16年度の結果と比べて大きな変化はない。ほとんどが0.2ポイント以下の変化である。
- ・学年別にみると、2～4年は各群とも0.1～0.2ポイント程度の上昇傾向がある。
- ・平成16年度と同様に、一般科の方が専門科よりもやや高い傾向がある。

[専攻科]

- ・一般教養科目、専門共通科目、各専攻の科目(都市工学専攻以外)ともに平成16年度の結果と比べて大きな変化はない。

また、いつも低いD群の「学生自身の取り組み」については、17年度も他群に比べ著しく低いが、それでもやや上昇傾向は見られる。特に、項目D1「シラバスの活用」について、17年度はシラバスを全学生に印刷配付し周知徹底を図った。結果は0.1～0.2ポイント程度上昇した。

アンケート結果の数値を上げることが、授業アンケートの目的ではないが、経年的な比較を通して、大きな傾向を把握することは大切であろう。また、オフィスアワーズなどの学習支援体制の整備は徐々に効果が現れることが期待できよう。今後とも教員側・学生側双方のさらなる努力と工夫が必要と思われる。

本科および専攻科の詳細な分析・対応は第2章、第3章にまとめている。また、各科目ごとの

分析・対応は第4章にまとめている。

(平成17年度授業アンケート・プロジェクト：若林茂・小林洋二・岡崎忠・戸崎哲也)

出典：評価委員会資料

観点9-1-⑥： 研究活動が教育の質の改善に寄与しているか。

(観点に係る状況)

研究活動の評価については、後述する選択的評価事項Aで、その詳細について説明する。準学士課程の卒業研究や専攻科の特別研究において学生を指導する上で、教員の研究能力は不可欠である。その観点からすれば、専攻科生が各専攻の学習・教育目標を満たした十分な資質を有して修了していることは、教員の研究活動が学生の教育に良い効果を与えていることを示している。また、その研究活動を通じて得られた成果が、平成5年から実施されている産学官技術フォーラム等の場において発表され、準学士課程5年生の卒業研究、専攻科生の特別研究が口頭やポスターにより学会で発表され、あるいは国内外の学会に論文投稿されていることは、研究を通じて、日常の研究活動が改善されていることを示している。

(分析結果とその根拠理由)

後述する選択的評価事項Aで示しているように、研究活動の集大成である卒業研究や専攻科特別研究の内容が学外においても良好な評価を得ている。

以上のように研究活動が教育の質の改善に寄与している。

観点9-1-⑦： JABEE 認定と KEMS 認定は、教育の質の改善に寄与しているか。

(観点に係る状況)

平成15年度に有識者による外部評価を受け(前述の資料5-1-②-4)、まず、基準1で示したように、学校の教育方針の改定を行った。続いて、異文化理解の必要性を指摘されたことから、準学士課程4年生に中国語の導入、また、専攻科課程に現代思想文化論を新設した。さらに、ネイティブ講師の拡充を図り、英語教育を充実させるとともに、実用国語を重視し、準学士課程高学年の国語が充実した。これらの準備を行い、平成17年度にJABEEを受審したが、2つのW判定を有し、2年間の認定に留まった。その判定内容とは、「PDCAシステムの稼働が不足している点。」および「シラバスの一部に成績の評価方法・評価基準が不明瞭・あいまいなものがある。」という2つの問題点について改善が求められたものであった。これら問題点の改善を図るべく、努力した結果、平成20年6月には、中間審査で正式認定され、これらすべてにA判定をいただいた。この間を通じて、本校の教育システムは、格段に進展し、学生にも明確かつ親切なシステムを提供できるようになったと思われる。一方、世界的にも重要視されている環境問題に対する教育の必要性から、学校としてISO14001に相当するKEMS認定(Kobe Environmental Management System)を受ける方針を固めた。平成19年度には、学校としてプロジェクトを組織し、全学でKEMSステップ2の認証を取得(資料9-1-⑦-1)した。これは、資料9-1-⑦-2に示すように、全科、全専攻、事務室、学生会等、本校のすべての構成員に係わるシステムであり、清潔、ゴミの分別収集、CO₂削減、省エネ等学内環境のあらゆる点において、各自に考えさせる機会を提供してくれている。また、実際に、各教室には秤が設置されており、学生自身、輩出するごみの量等を管理している。これらを発展させるべく、外部講師を招いてFD学習会を開催した(資料9-1-⑦-3)。リサイクル、ゼロエミッション等の重要性等の指摘をいただくとともに、環境問題もビジネスチャンスにつながる等の啓蒙もしていただいた。学校としては、これらを契機に、さらに環境教育に力を入れていく方針である。

(分析結果とその根拠理由)

上述のように、JABEE 認定は教育システムの改善に、KEMS 認定は環境教育の拡充に寄与し、いずれも教育の質の向上に寄与していると考えている。

KEMS 登録証

KEMS

神戸環境マネジメントシステム

登録証

神戸市立工業高等専門学校

神戸市西区学園東町8丁目3番地



登録範囲 上記登録組織全域における全ての教育研究活動

登録番号 KEMS2-0082 KES2-4-0082

登録日 2007年10月31日 有効期限 2008年10月30日

貴組織は KEMS ステップ2 の環境マネジメントシステム審査の結果
上記の範囲において規格に適合していることを証します

こうべ環境フォーラム
代表 内藤正明



出典：KEMS 登録証

KEMS 認証への全学的取り組み

出典： CJICHMTMD-2006

**HISTORY OF MECHANICAL
TECHNOLOGY AND
MECHANICAL DESIGN (6)**

**Proceedings of the Sixth China-Japan
International Conference
On History of Mechanical Technology
and Mechanical Design**

Oct. 29-Nov. 1, 2006

Beijing, China

BEIHANG UNIVERSITY

(次ページへ続く)

学校教育での KEMS と JABEE の必要性

KEMS AND JABEE TO BE NECESSARY FOR COLLEGE EDUCATION

森本義則教授, 神戸市立工業高等専門学校, 兵庫県, 神戸市, 651-2194
 齊藤 茂教授, 神戸市立工業高等専門学校, 兵庫県, 神戸市, 651-2194
 吉本隆光教授, 神戸市立工業高等専門学校, 兵庫県, 神戸市, 651-2194
 早稲田一嘉講師, 神戸市立工業高等専門学校, 兵庫県, 神戸市, 651-2194

Yoshinori MORIMOTO, Professor, Shigeru SAITO, Professor, Takamitsu YOSHIMOTO, Professor, Kazuyoshi WASEDA, Lecturer, Kobe City College of Technology
 8-3, Gakuen, Higashi-machi, Nishiku, Kobe, Hyogo, 651-2194, JAPAN

Abstract KEMS (Kobe Environmental Management System) fitted for ISO14001 and JABEE(Japan Accreditation Board for Engineering Education) compared with ISO9000 are necessary for the College Education. Those outlines and effects are described as follows.

Key Words: KEMS, JABEE, ISO, College Education

1. はじめに

近年,製造業を中心に ISO9000,ISO14001 のダブル取得が盛んである。ISO9000 は製品の品質保証で,ISO14001 は環境問題を全社的に取り上げている。いわば企業の姿勢を社会に見えるようにしたものである。教育機関においても大学ではこれらの認証取得に取り組むのが増加している。高専では学生の品質保証に JABEE を取得する傾向が見られる。工学系の高専に環境教育を導入するに当たって,ISO の取得は必要であるが価格が高く,なおかつ,煩雑膨大な事務量で敬遠されている。神戸市では, ISO の取得に困難な中小企業,自治体,学校などを対象に 2004 年 4 月に環境マネジメントシステムである KEMS を導入した。神戸高専は,2005 年 2 月に KEMS ステップ 2 を,2006 年 5 月に JABEE を取得した。この報告は KEMS と JABEE が,何故高専に必要なのかを述べるものである。

2. KEMS とは

2-1 設立の趣旨

20 世紀の大量生産・大量消費・大量廃棄型の社会は,地球環境問題や廃棄物の問題をはじめとするさまざまな環境問題を引き起こしてきた。こうした環境問題に適切に対処していくためには,経済活動と環境保全の両立を図り,日常の社会活動,経済活動を環境に配慮したものへと変えていかなければならない。そのための手段の一つとして,環境マネジメントシステムがある。

近年,環境マネジメントシステムの国際規格である ISO14001 の認証取得が,製造業を中心に盛んになっている。しかし,規模的・経済的等さまざまな理由でこの規格の認証取得に取り組みにくい組織もある。そこで,神戸では「具体的で取り組みやすく,かつ,その取り

(次ページへ続く)

2-3 神戸高専の構成

神戸高専の構成人数を表2に示す。教員は校長を含んで97人、事務室は技術職員を含んで34人、学生は本科1年から5年までで1183人そのうち女子は140人である。専攻科は1年2年合わせて81人で女子は8人であり、総計1395人である。

表2 神戸高専の構成人数 (人)

教員 (校長含む)	97
事務室	34
本科 (1~5年)	
機械工学科	404 (9)
電気工学科	195 (3)
電子工学科	197 (3)
応用化学科	193 (76)
都市工学科	194 (49)
専攻科 (1,2年)	
機械システム専攻	25 (1)
電気・電子専攻	34 (3)
応用化学専攻	10 (4)
都市工学専攻	12 (0)

2-4 組織の立ち上げ

KEMSの運用に際して組織図が必要になる。組織図を図1に示す。

最高責任者を校長に、環境管理責任者に事務室長、自己評価員各科から選出して頂き、自己評価チームとし、環境管理委員会は委員長に学生主事と庶務係長、環境教育推進委員会は教務主事と学生係長、学生会の協力も得られる組織にした。

() 女子内数

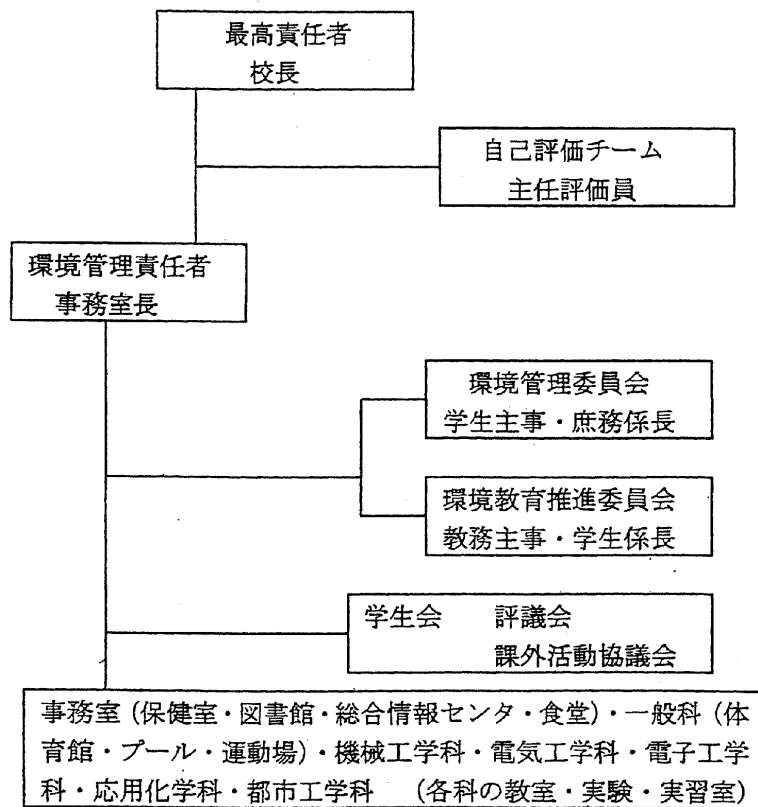
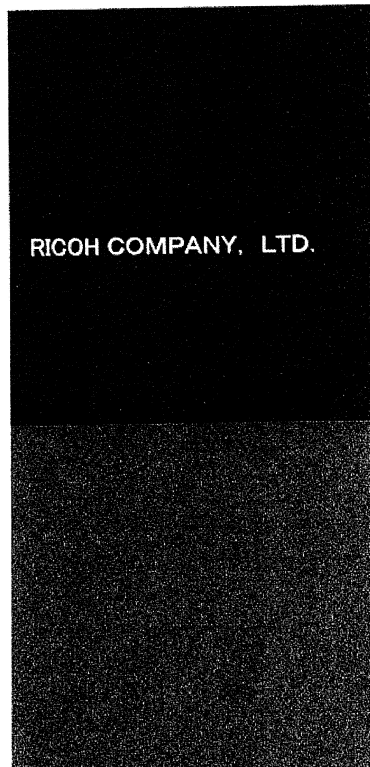


図1 組織図

環境教育についてのFD学習会



RICOH

(株)リコー沼津事業所における
環境経営への取り組み

2007.11.21

(株)リコー沼津事業所 総務センター

木村 小七

本日ご説明させていただく内容

RICOH

1. リコーグループの環境経営の考え方
2. 沼津事業所の取り組み
 - ・ CO₂削減活動事例
 - ・ 廃棄物削減活動事例
 - ・ 製品含有化学物質の削減活動事例
 - ・ 地域社会とのコミュニケーション

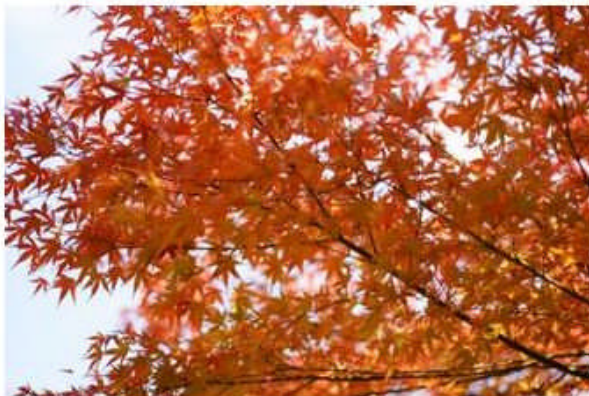
出典：平成19年11月21日FD学習会における講演

(次ページへ続く)

『(株) リコー沼津事業所における環境経営への取り組み』を、平成19年11月21日FD学習会で、ご講演いただいた翌日、本校のウェブサイト『神戸高専だより』に以下の季節の便りがアップされました。平成2年4月当地、学園都市に移転以来、本年は最も美しい紅葉とっていたところでした。

<2007年11月22日ウェブサイト 『神戸高専だより』より抜粋>

地球温暖化の影響(?)により、昔に比べて季節の移り変わりが早くなり、春や秋を体感できなくなっているように思います。しかし、周りを見渡せば木々は紅葉し、短いながらも秋を肌で感じることができます。高専にもたくさんの木々が植えられ、今まさに秋本番である。そこで、高専内でいろいろな秋を探してみました。(加藤 真嗣)



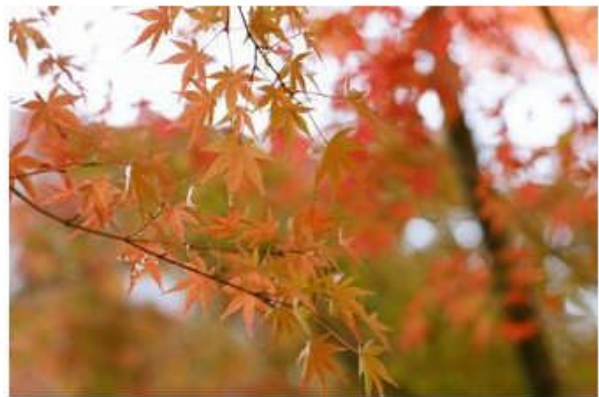
日本庭園にて(1)



日本庭園にて(2)



日本庭園にて(3)



日本庭園にて(4)



観点9-2-①： ファカルティ・ディベロップメントについて、組織として適切な方法で実施されているか。

（観点に係る状況）

高専の教員が行うべき仕事の範囲は他の高等教育機関と比較して、極めて多義に及んでいるため、様々な研修が実施されており、これらは広い意味でのファカルティ・ディベロップメント（FD）と考えられる。本校の教員が参加しているFDは以下のようなものがある。

- ・ 文部科学省の新任教員研修会には、新たに採用された教員が毎年数名程度参加している。
- ・ 本校に新たに教員として加わった新任教員に対して、校長、各主事及び各係りから、教員としての心構え等を2日間で説明等を行っている。
- ・ FD学習会を数ヶ月に1回程度の頻度で教官会議の前に30分間程度、各教員が取り組んでいる教育改善等の話題を提供し、情報を共有している。
- ・ 学内学術講演会を毎月1回実施し、各教員が研究発表を行い研究レベルの向上と共同研究等の可能性に寄与している。
- ・ 人権研修会を年に数回実施している。具体的には人権教育等に携わる専門家による講演や映画鑑賞を行っている。
- ・ 学生による授業アンケートや保護者への授業公開、学生会による教育環境要望アンケートを継続的に行っている。

（分析結果とその根拠理由）

各種の研究会および研修会が定期的実施され、その結果が公表され、教職員間に情報の共有が図られている。

以上のことから、ファカルティ・ディベロップメントが組織として適切な方法で実施されている。

観点9-2-②： ファカルティ・ディベロップメントが、教育の質の向上や授業の改善に結び付いているか。

（観点に係る状況）

観点9-2-①で記述しているようにFDに関連すると思われるさまざまな研究会や研修会の成果（前述の資料9-1-⑦-3）がまとめられ、各種委員会等を通じて教育の質の向上に結び付けられている。特に学生の授業に対するアンケートに対しては、各教員が分析を行い、その改善等を報告している。また、教育環境としては、クーラーの設置や自動販売機等の拡張などが、学生会による学生アンケートの要望を受けて実行された。

（分析結果とその根拠理由）

さまざまな研修会等が教員自ら教育改善の方針を定め、授業改善に寄与している。また、学生の声を直接取り入れている。以上のことから、ファカルティ・ディベロップメントが教育の質や向上、授業改善に十分に寄与している。

観点9-2-③： PDCAシステムの稼働状況が進んでいるか。また、システムの点検がなされているか。

(観点に係る状況)

本年6月にJABEE中間審査の結果が公表されたが、平成17年度に2Wを有し、2年認定であったものが、この6月に5年認定になった。その2Wは、シラバスの不備とPDCAシステムの稼働状況が悪いとの指摘であった。その後、学内で努力し、シラバスについては、チェックシステムが完備し良好になった。工学系複合プログラムのPDCAシステム(資料9-2-③-1)は、P→D→C→A→Cまで進み、校務運営委員会で教育システムの点検を行っている。それは、基準2に示したとおりであるが、それについて、次のような所見をいただいた。「教育点検システムは適切に運用されており、それぞれの活動が連携を取りながら組織的に進められていることがうかがえる。」これらを受け平成20年度は、さらにこのシステムのスパイラルアップを図るべく、資料9-2-③-2の「神戸高専のPDCAサイクル」でスタートした。この特徴は、従来、主に準学士課程4、5年生と専攻科課程1、2年生を対象としたPDCAシステムであったものを、全校を対象としたPDCAサイクルに改めた点である。とくに、Action部門を将来計画委員会から運営改善会議(校長・3副校長・事務室長)に変更し、Action部門を強化した点がその特徴である。これによって、授業改善や教員業績改善がさらに進むと考えている。このPDCAサイクルの変更に伴い、校務運営組織も変更された(資料9-2-③-3, 資料9-2-③-4)。2副校長(教務担当・学生担当)に加え、研究担当副校長(専攻科長兼務)が新設された。また、学科主任の名称を学科長に改め、主任の権限が強化された。本校は、教育、研究、地域貢献を3本柱に歩みを続けている。これらの改善は、このような方針の前進に寄与すると考えている。

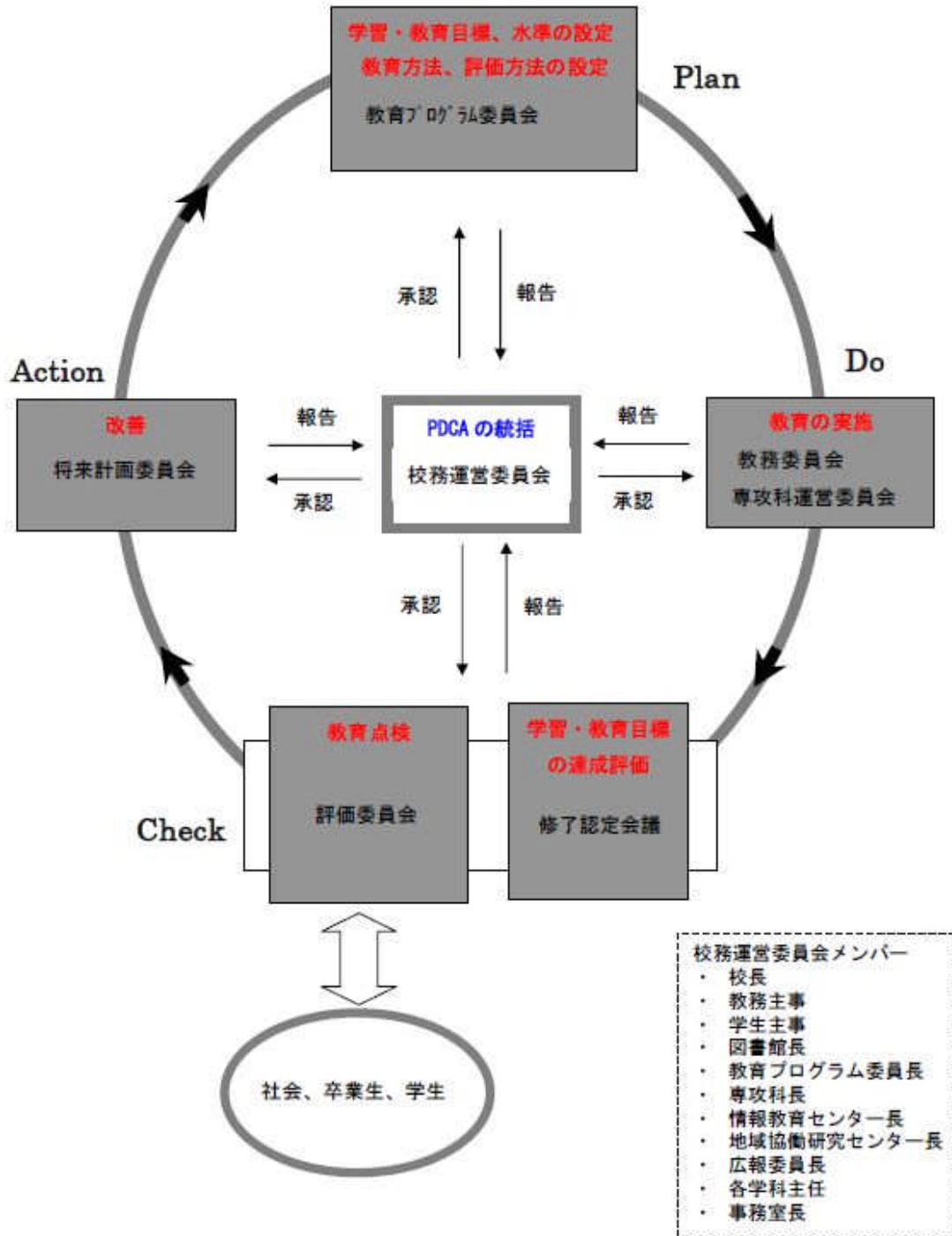
(分析結果とその根拠理由)

工学系複合プログラムとしてのPDCAシステムは、一巡してCまで進んでいる。その間、実効ある改革がなされてきた。これをスパイラルアップした神戸高専PDCAサイクルが本年度からスタートした。まだ、各会議および各委員会の規定の確定には至っていないが、本年1年かけて検討し、さらなる教育改善に繋げていきたい。

以上のように、PDCAの稼働状況は良好であるとともに、本システムの点検をして改良した。

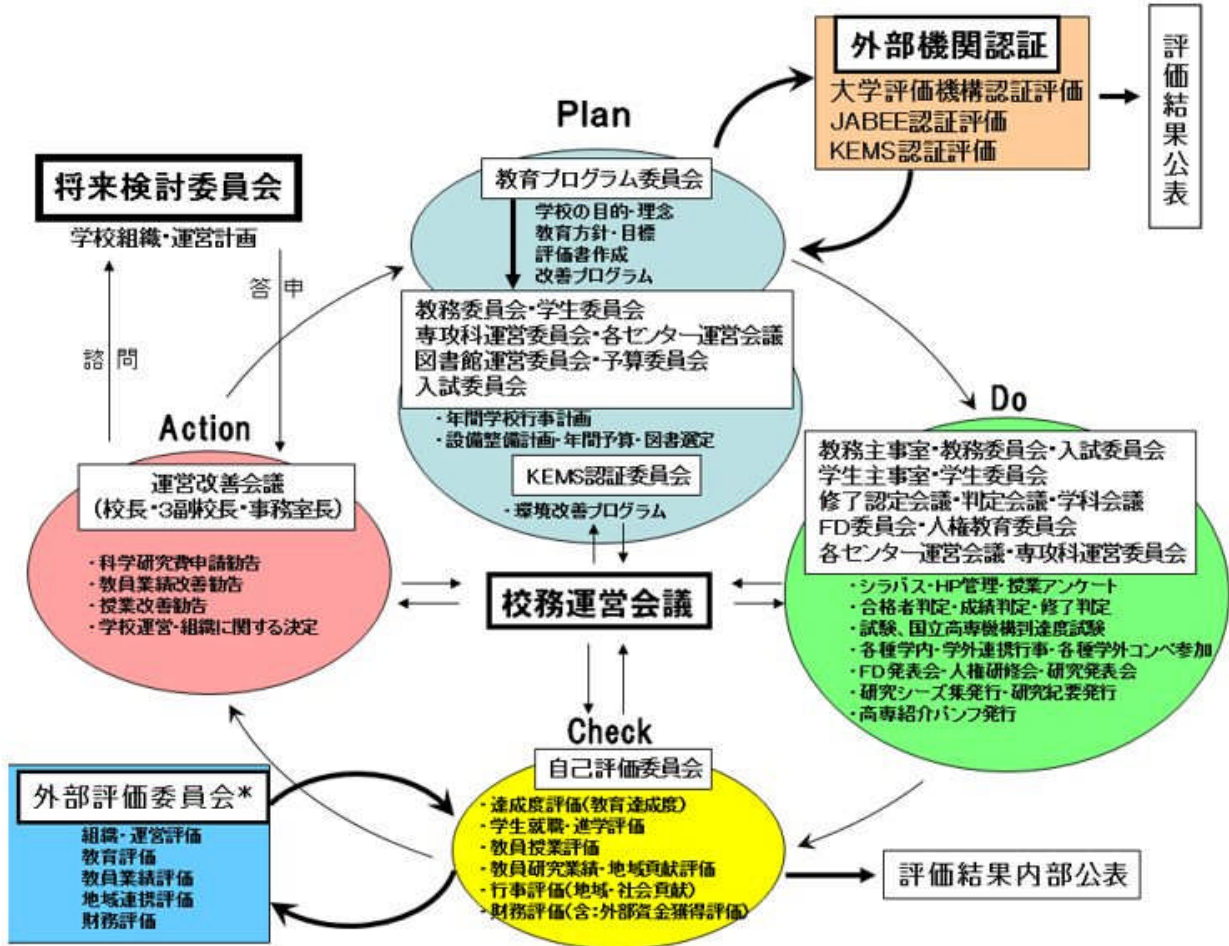
平成20年3月31日までの「PDCAシステム」

工学系複合プログラムのPDCAシステム



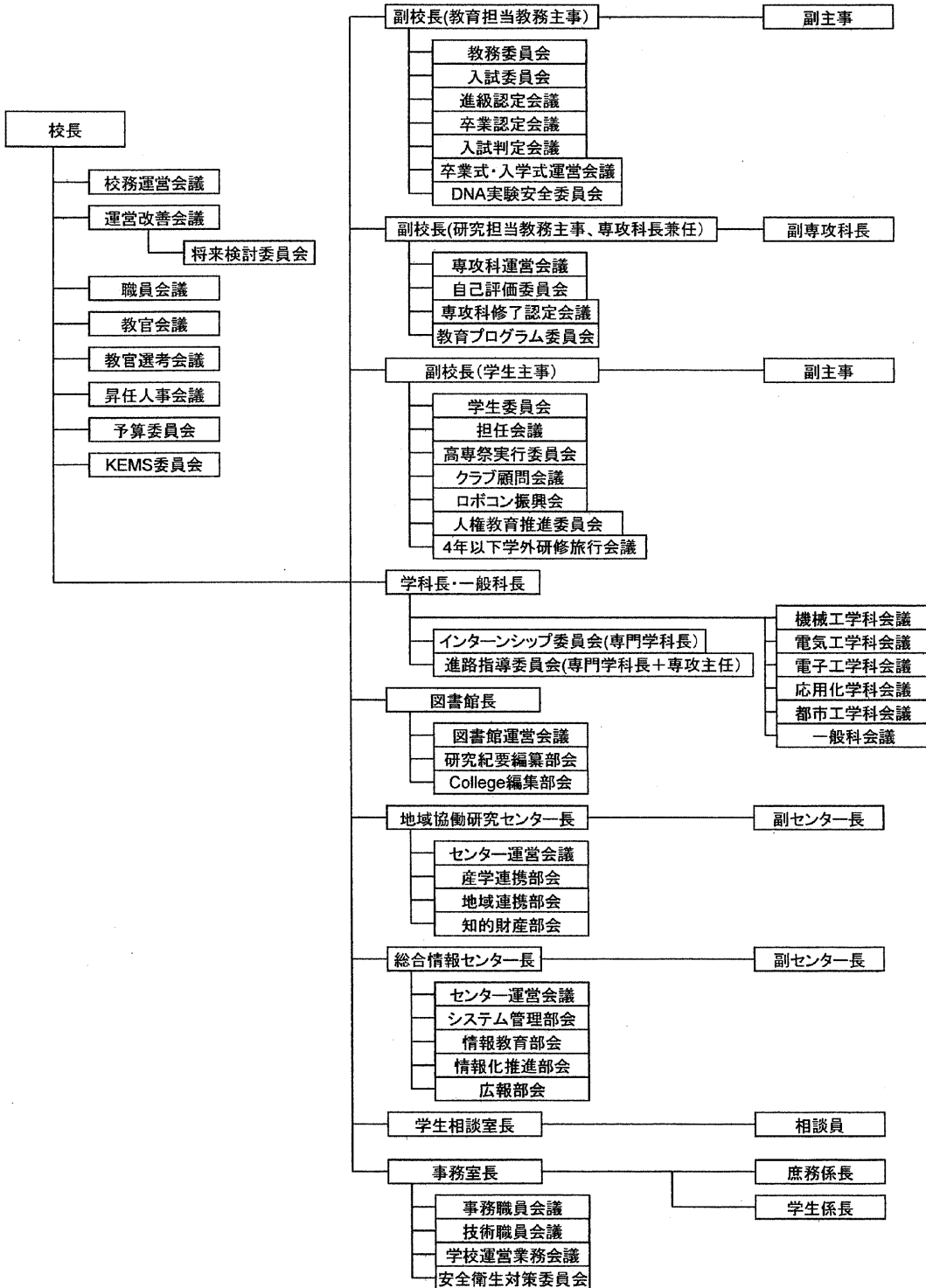
出典：平成20年4月校務運営会議資料

平成20年4月1日よりの「神戸高専のPDCAサイクル」



出典：平成20年4月校務運営会議資料
(ウェブサイトより)

平成20年4月1日よりの「神戸高専の組織図」



出典：平成20年4月校務運営会議資料

平成20年4月校務運営会議より

1. 校内組織

平成20年度からの組織図および神戸高専のPDCAサイクルを図に示す。従来からの主な変更点は次の通りである。

①研究担当副校長の新設

研究担当の副校長（専攻科長兼任）を設置し、専攻科の充実ならびに研究活動の活性化を図ることとした。

②運営改善会議の新設

校長、3副校長、事務室長の管理職から構成する運営改善会議を新設し、より効率よく改善が実行できるように、神戸高専のPDCAサイクルを再構築した。自己評価委員会の評価結果に基づき、神戸高専の明確な運営方針に基づいたアクションを行うこととした。準学士課程、専攻科課程の教育改善はこのPDCAサイクルで実施する。

出典：平成20年4月校務運営会議資料

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

平成7年度から随時、学生による授業アンケートを実施し、その結果や意見に対して、各教員からの自己評価や改善策を含むコメントが出され、評価委員会や教務委員会によりまとめられ学生や他の教職員に公開されるシステムが整備されている。

多くの教員が研究活動を活発に行い、その成果が卒業研究や専攻科特別研究の教育に良好な効果を与えている。

PDCAシステムを継続的に運用し、そのスパイラルアップを図っている。

(改善を要する点)

特になし

(3) 基準9の自己評価の概要

教育の質を向上させるために、授業アンケート等を通じて学生から、公開授業によって保護者から、求人のために学校にこられる企業からなど多様な方法で意見を集めるしくみを構築しており、また、学生自身が自ら学習の理解度を確かめている。さらに、教員の自己研鑽の場としてさまざまなFD学習会に参加しており、これらがPDCAを効果的に機能させている。

とくにPDCAに関しては、JABEE認定時に指摘を受けたことから、主に高学年用PDCAシステムの充実に力点を置き努力してきたが、認証評価を受けることを契機に、全学生を対象としたPDCAサイクルにスパイラルアップさせた。また、KEMS認定を受け環境問題にも着手しようと考えている。これらは、各種聴取の仕組みの構築と合わせて教育の質の向上に寄与している。

基準 10 財務

(1) 観点ごとの分析

**観点 10-1-①： 学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行できる資産を有しているか。
また、債務が過大ではないか。**

(観点に係る状況)

本校は、神戸市立の工業高等専門学校として「神戸市立学校設置条例」(資料 10-1-①-1)により設置された「公の施設」であり、学校の目的に沿った教育研究活動のための資産である校地(85,478 m²)、校舎(28,675 m²)等を占有使用している。なお、その所有権は神戸市が持っている。また、運営に関する経費は神戸市の予算で措置されており、本校としての債務はない。

(分析結果とその根拠理由)

本校は、神戸市の公の施設として「神戸市立学校設置条例」により設置され、本校の目的に沿う実践的技術者、開発型技術者を育成するための教育研究活動を安定して遂行できる校地(土地)、校舎(建物)等の資産を占有使用している。また、神戸市の予算で運営されているため、本校独自の債務はない。

神戸市立学校設置条例より

神戸市立学校設置条例（抜粋）

昭和 39 年 3 月 30 日

条例第 87 号

〔設置〕

第 1 条 この条例により、神戸市立学校（以下「市立学校」という。）を設置する。

〔市立学校〕

第 2 条 この条例で「市立学校」とは、学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号）第 1 条及び第 83 条第 1 項に定める学校で本市が設置し、教育委員会が管理するものをいう。

〔名称及び位置〕

第 3 条 市立学校の名称及び位置は、別表 1 から別表 7 までに掲げるものとする。

別表 4（第 3 条関係） 高等専門学校

名称	位置
神戸市立工業高等専門学校	神戸市西区学園東町 8 丁目 3 番地

出典：神戸市ホームページ

観点 10-1-②： 学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行するための、経常的収入が継続的に確保されているか。

(観点に係る状況)

本校の運営は、神戸市の一般財源を基本として毎事業年度ごとに市会で議決される神戸市予算に計上されている(資料 10-1-②-1)。なお、本校の収入としては授業料等の自己収入(資料 10-1-②-2)と科学研究費(資料 10-1-②-3)や受託研究費、共同研究費等の外部資金(資料 10-1-②-4)がある。

(分析結果とその根拠理由)

本校の予算は、事業年度ごとに神戸市予算として安定的に措置されており、教育研究活動を行うための経常的収入が継続的に確保されている。

科学研究費及び共同研究費等の外部資金の獲得は十分とは言えず、獲得に向けた取り組みが必要である。

資料 10-1-②-1

神戸市立工業高等専門学校の予算

神戸高専予算

単位：千円

事業名	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
教職員費	1,588,615	1,529,991	1,749,628	1,677,019	1,533,576
運営費	337,837	326,422	303,629	303,885	331,926
合計	1,926,452	1,856,413	2,058,257	1,980,904	1,865,502

出典：事務室庶務係資料

資料 10-1-②-2

本校の自己収入

収入の状況(5年間)

区分	単位:円				
	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
自己収入					
(授業料)	226,754,100	236,902,900	237,517,400	245,452,075	247,740,800
(入学金)	13,451,400	14,513,900	14,644,200	15,047,200	14,128,200
(入学選抜料)	8,205,400	9,759,500	10,102,900	9,084,800	7,887,000
(受講料)	59,000	130,000	124,500	322,282	301,990
(諸収入)	8,955,000	10,167,647	13,225,279	14,170,200	24,023,049
国庫補助金					
(設備補助)	2,108,000	4,371,000	0	0	0
合計	259,532,900	275,844,947	275,614,279	284,076,557	294,081,039

出典：事務室庶務係資料

資料 10-1-②-3

科学研究費補助金獲得状況(5年間)

年度	交付額	応募件数 交付件数	特定領域研 究(継続)	基盤研究(B)		基盤研究(C)		萌芽研究	若手研究 (B)	若手ステー トアップ
				一般	一般	企画調査				
H15	10,200,000	19		1	8	1			9	
		8		1	2				5	
H16	16,400,000	18			11				7	
		7		1	2				4	
H17	14,400,000	21		1	7			2	11	
		9		1	3				5	
H18	15,060,000	27	1	2	10			3	8	3
		9		1	4				4	
H19	23,130,000	48		2	21			6	15	4
		9		1	5				2	1

出典：事務室庶務係資料

資料 10-1-②-4

外部資金獲得状況(5年間)

(H19.12.20現在) 単位:円

	共同研究		奨励研究		受託研究		奨学寄附金		合計	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
15年度	0	0	0	0	5	5,812,000	8	2,600,000	13	8,412,000
16年度	0	0	0	0	8	7,361,000	13	4,188,000	21	11,549,000
17年度	0	0	0	0	5	5,663,000	12	6,300,000	17	11,963,000
18年度	4	2,385,903	1	980,000	6	14,473,400	21	9,442,473	32	27,281,776
19年度	5	4,755,000	2	1,650,000	7	26,556,200	12	5,650,000	26	38,611,200

出典：事務室庶務係資料

観点 10-2-①： 学校の目的を達成するための活動の財務上の基礎として、適切な収支に係る計画等が策定され、関係者に明示されているか。

（観点に係る状況）

毎事業年度の収支予算・決算は、市会の予算・決算特別委員会で慎重に審議された後、それぞれ議決・認定されており、また、教職員には学内の予算委員会で協議の後全員に予算書を配布し周知を図っている（資料 10-2-①-1）。

（分析結果とその根拠理由）

収支予算・決算は、市民の代表である市会で審議の後、議決・認定され市民に周知されている。また、教職員には予算委員会で協議の後、全員に予算書を配布し開示している。

資料 10-2-①-1

平成19年度 神戸高専予算概要

事項名	19年度校内予算	18年度	対18年度増△減	項目名	予算額	備考	18予算
高専教職員費(1781)	1,533,576	1,677,019	△ 143,443				
1 旅 費	7,764	7,651	113	普通旅費	3,776		3,776
				特別旅費 (1)赴任旅費	921	別表 1	1,290
				(2)部活動旅費	2,576		2,094
				(3)研修旅費	491		491
高専運営費(1782)	331,926	303,885	28,041				
1 教 務 費	41,586	41,613	△ 27	非常勤講師報酬費	32,629		32,629
				教務費	2,851		2,851
				入学試験経費	2,883		2,883
				国内留学費	876		876
				公開講座・オープンカレッジ経費	200		200
				地域協働研究センター運営費	495		495
				学校紹介	635		305
				保健厚生費	266		277
				聴講生等受入れ費	57		403
				自己点検授業計画等印刷費	230		230
				教務主事室運営費	180		180
				専攻科運営費	135		135
				KCEMS認定取得	149		149
2 研究振興費	61,363	62,232	△ 869	研究費(国外旅費を含む)	48,734	別表 2	49,234
				研究旅費(国内)	5,130		5,238
				共同研究費	4,150	別表 3	5,150
				校長裁量費	1,000		0
				洋雑誌購入費	2,349		2,610
2' 研究振興費その2	45,000	15,000	30,000	民間等との共同研究費	1,000		1,000
				委託研究費	32,000		2,600
				奨学金附金	12,000		12,000
3 実験実習費	28,583	28,583	0	実験実習用消耗品費	26,057		26,057
				燃料費	306	別表 4	308
				カクーンルームランニング経費	1,932		1,932
				LL教室教材整備	286		286
4 図書館運営費	8,857	8,956	△ 99	図書購入費	2,700		2,700
				事務費	186		186
				AVコーナー経費	148		176
				委託報酬等	5,823		5,894
5 部活動推進費	9,898	8,690	1,208	運営費	1,048		1,048
				指導員手当等	2,253		2,253
				各種大会旅費補助	5,391		4,183
				学生主事室運営費	180		180
				運搬分担金	1,026		1,026
6 一般管理費	98,056	100,730	△ 2,674	管理事務費	3,825		3,825
				光熱水費	45,508		45,508
				校舎校舎維持管理費	35,166		36,243
				施設・設備管理費	6,736		8,333
				公害対策費	6,821		6,821
7 情報処理教育	22,876	22,857	△ 181	電子計算機賃借料	21,617		21,798
				消耗品等	520		520
				情報処理教育保守経費	539		539
8 設備更新費	11,500	11,500	0	設備更新費	11,500	別表 6	11,500
小 計	327,519	300,161	27,358				
9 交流ﾌﾞﾗｯｸﾞ経費	2,413	2,413	0	分担金	2,413		2,413
10 レスキューロボットコンテスト参加	700	700	0	レスキューロボットコンテスト参加	700		700
11 地域産業技術力強化	611	611	0	職務発明に伴う知的財産登録	611		611
12 JABEEの申請と認定	683	0	683	JABEEの申請と認定	683		0
小 計	4,407	3,724	683		4,407		
合 計	1,865,502	1,980,904	△ 115,402	別途、校費(実験実習費)有り		別表 5	

員会資料

機関名	機関配分額19	需要費	機関配分額18
・教務主事室	180	130	180
・学生主事室	180	130	180

出典：予算委員会資料

観点 10-2-②： 収支の状況において、過大な支出超過となっていないか。

（観点に係る状況）

過去5年の決算状況は（資料 10-2-②-1）に示すとおりであり、毎年度神戸市会の承認を得ている。

（分析結果とその根拠理由）

支出は適正に予算管理され、過大な支出超過となっていない。

資料 10-2-②-1

神戸市立工業高等専門学校の決算

神戸高専決算

単位：千円

事業名	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
教職員費	1,502,294	1,469,760	1,714,530	1,646,134	1,537,605
運営費	322,990	311,688	294,154	294,458	304,654
合計	1,825,284	1,781,448	2,008,684	1,940,592	1,842,259

出典：事務室庶務係資料

観点 10-2-③： 学校の目的を達成するため、教育研究活動（必要な施設・設備の整備を含む）に対し、適切な資源配分がなされているか。

（観点に係る状況）

平成 19 年度学内予算配分は資料 10-2-①-1 に示すとおりである。神戸市財政が厳しい中職員費は所要額が確保されており、一般管理費が大幅に減額される中、教務費や研究振興費等は微減である。また、高専教育充実設備費として神戸市から配分される予算は、校長の了解のもと教務主事を中心に各科主任が協議し、主に大型設備の充実を図るため、18 年度に 5 カ年計画を策定し（資料 10-2-③-1）、重点的な資源配分に努めている。

（分析結果とその根拠理由）

物件費のうち、一般管理費が大幅に減額される中、教務費や研究振興費等は微減である。高専教育充実設備費の学内配分も、各科主任協議による 5 カ年計画により重点的な資金配分を行っており、教育研究活動に対して適切に資源配分している。

資料 10-2-③-1

大型設備整備 5 カ年計画

番号	学科名	設備備品名	金額 (千円)	計画	実績
1	電子	ダイシングソー	9000	H18	H18
2	一般	電子黒板システム	1800	H18	H18
3	電気	交流直流耐圧試験器	5550	H19	H18
4	応化	原子吸光分析装置	5000	H19	H19 予定
5	都市	万能試験機	10000	H20	H19 予定
6	応化	紫外可視分光光度測定システム	5000	H21	H19 予定
7	電気	アナログコンピュータ	3200	H21	
8	機械	原子間力顕微鏡	9975	H22	
合計			49525		

出典：事務室庶務係資料

観点 10-3-①： 学校を設置する法人の財務諸表等が適切な形で公表されているか。

（観点到係る状況）

設置者である神戸市は、「神戸市「財政事情」の公表に関する条例」（昭和 39 年 3 月 23 日，条例第 73 号）の定めに基づき，年に 2 回（予算・決算について）「財政のあらまし」を作成し，神戸市のホームページで公表している（資料 10-3-①-1）。

（分析結果とその根拠理由）

神戸市は財務諸表を適切に公表している。

I. 平成18年度決算のあらまし

(1) 決算の内容

① 全会計の決算

■全会計の歳入歳出決算額

	18年度	17年度	増減	増減率
歳入	1兆7,838億3,000万円	(1兆9,364億8,200万円) 2兆5,361億1,500万円	(△1,526億5,200万円) △7,522億8,500万円	(△7.9%) △29.7%
歳出	1兆8,075億3,600万円	(1兆9,904億7,500万円) 2兆5,904億7,500万円	(△1,829億3,900万円) △7,829億3,900万円	(△9.2%) △30.2%

上段()書きでは、以下の内容を除いた実質的な決算額を表示しています。

歳入：阪神・淡路大震災復興基金への出捐金・貸付金の市への返済額

歳出：その財源として発行していた市債の償還額

□歳入決算額の内訳

	18年度	17年度	増減	増減率
一般会計	7,201億2,700万円	(7,708億1,600万円) 1兆704億4,900万円	(△506億8,900万円) △3,503億2,200万円	(△6.6%) △32.7%
特別会計	7,714億4,200万円	(8,772億500万円) 1兆1,772億500万円	(△1,057億6,300万円) △4,057億6,300万円	(△12.1%) △34.5%
企業会計	2,922億6,100万円	2,884億6,100万円	38億円	1.3%

□歳出決算額の内訳

	18年度	17年度	増減	増減率
一般会計	7,071億8,100万円	(7,635億3,000万円) 1兆635億3,000万円	(△563億4,900万円) △3,563億4,900万円	(△7.4%) △33.5%
特別会計	7,647億9,000万円	(8,721億7,500万円) 1兆1,721億7,500万円	(△1,073億8,500万円) △4,073億8,500万円	(△12.3%) △34.8%
企業会計	3,355億6,500万円	3,547億7,000万円	△192億500万円	△5.4%

ポイント解説

●一般会計

福祉、教育、道路・公園の整備など、市の基本的な事業を行う会計です。もっぱら市税や地方交付税などによってまかなわれます。

●特別会計

特定の事業を特定の収入によって実施するための会計の総称です。一般会計から切り離して整理することで、個々の事業の取支や運営実績が明確になります。国民健康保険事業費や介護保険事業費、市営住宅事業費など、本市では16会計あります。

●企業会計

地方公共団体が直接、社会公共の利益を目的として経営する地方公営企業の会計の総称です。主に利用者のみなさんが支払う料金収入で事業を行います。交通事業や上下水道事業など、本市では8会計あります。

(次ページへ続く)

2 予算の内容

1 予算の概要

■予算編成の基本的な考え方

- 神戸の「元気と魅力を創る」「こどもと環境を育てる」「福祉と健康を守る」ことを政策目標とし、「豊かな神戸の創造」にむけて、市民とともに「神戸2010ビジョン」と「区中期計画」を実現するために、予算を編成しました。
- 神戸開港140年を契機に、これからの神戸づくりを一層推進します。
- 行政経営方針に基づき、市民の目線に立った市政改革を着実に実行していきます。

■平成19年度当初予算額

	19年度	18年度	対前年度比
一般会計	7,297億100万円	7,490億6,200万円	△193億6,100万円
特別会計	8,634億4,000万円	7,700億5,000万円	933億9,100万円
企業会計	3,447億2,500万円	3,517億1,900万円	△69億9,400万円
予算総額	1兆9,378億6,600万円	1兆8,708億3,100万円	670億3,600万円

※端数処理の関係で合計が一致しない場合があります。

用語の解説

- **一般会計** 福祉、教育、道路・公園の整備など、市の基本的な事業を行う会計（財布）です。もっぱら市税や地方交付税などによってまかなわれます。
- **特別会計** 特定の事業を特定の歳入によって実施するための会計の総称です。一般会計から切り離して整理することで、個々の事業の収支や運営実績が明確になります。国民健康保険事業費や介護保険事業費、市営住宅事業費など、本市では16会計あります。
- **企業会計** 地方公共団体が直接、社会公共の利益を目的として経営する地方公営企業の会計の総称で、主に利用者の皆さんが支払う料金収入で事業を行います。交通事業や上下水道事業など、本市では8会計あります。

出典：事務室庶務係資料

観点 10-3-②： 財務に対して、会計監査等が適正に行われているか。

（観点に係る状況）

神戸市の財政事務や経営にかかる事業の管理が、法令等に基づき適正に行われているかなどについて、監査事務局が「財務定期監査」（地方自治法第 199 条第 1 項，第 4 項）を実施している。

また，市の自主監査要綱（資料 10-3-②-1）に基づき，毎年課長級職員が点検者となり現金取り扱い事務や各所属の事務について自主監査を実施するとともに，自主監査実施後，教育委員会内において，他の課長級による相互監査を実施するなど財政事務の適正化を図っている。

（分析結果とその根拠理由）

監査事務局による監査及び教育委員会内における自主監査等により，財務に係る会計監査等が適正に行われている。

自主監査要綱

〔平成 19 年 7 月 10 日〕
〔市 長 決 定〕

自主監査要綱（昭和 60 年 8 月市長決定）の全部を改正する。

（目的）

第 1 条 この要綱は、部局の長が所掌事務に関し、その職務の一端としてこの要綱の定めるところにより行う監督及び検査について必要な事項を定めることにより、事故を未然に防止し、事務事業の適正な執行を確保することを目的とする。

（定義）

第 2 条 この要綱において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

- (1) 部局 神戸市事務分掌条例（平成 15 年 10 月条例第 19 号）第 1 条に規定する局及び室、会計室並びに区役所をいう。
- (2) 所属 公文書管理規程（昭和 35 年 4 月訓令甲第 8 号）第 3 条第 4 号に規定する所管課をいう。
- (3) 所属長等 公文書管理規程第 3 条第 5 号に規定する所管課長及びこれに準ずる者をいう。
- (4) 他の機関の長 消防長、公営企業管理者、教育長、市選挙管理委員会事務局長、人事委員会事務局長、監査事務局長及び市会事務局長をいう。
- (5) 自主監査 部局の長が所管する所属の所掌事務に関し、当該所属の所属長等に指示して行う監督及び検査をいう。
- (6) 相互監査 部局の長が所管する所属の所掌事務に関し、当該所属以外の所属長等に指示して行う監督及び検査並びに第 6 条第 2 項ただし書きの規定により、行財政局長が指定する所属に対し、部局の長が所属長等に指示して行う監督及び検査をいう。

（実施機関）

第 3 条 部局の長は、その所掌する事務について、この要綱の定めるところにより、自主監査及び相互監査（以下「自主監査等」という。）を行うものとする。

2 行財政局長は、部局の長が行う自主監査等について、必要な助言を行うものとする。

（監査事項）

第 4 条 自主監査等を行うべき事項は、所掌事務全般にわたるものとし、その都度、部局の長が定める。

2 行財政局長は、部局の長に対し、自主監査等についての実施重点事項を示すことができる。

（次ページへ続く）

3 行財政局長は、事故の再発防止を図るため、必要と認めるときは、部局の長に対し、時期、点検事項及び点検方法を指定して自主監査等を行うよう要請することができる。

4 部局の長は、前項の規定により、自主監査等を要請されたときは、これを行わなければならない。

(実施時期)

第5条 自主監査等は、前条第3項に規定するものを除き、毎年1回、11月及び12月中に行うものとする。

2 部局の長は、前項の期間内に自主監査等を行うことが事務処理上支障があると認めるときは、当該年度内の適当な時期に自主監査等を行うことができる。

3 部局の長は、必要があると認めるときは、前2項の規定にかかわらず、随時、自主監査等を行うことができる。

(実施方法)

第6条 所属長等は、部局の長の指示に基づき自主監査を行う場合において、所属の係長等（係長及びこれに準ずる者をいう。）を補助者とすることができる。

2 部局の長は、相互監査の実施に当たっては、各所属長等が担当する所属をあらかじめ指定し、当該所属長等に伝達するものとする。ただし、行財政局長は、所属数が2以下である部局の長に対し、当該部局の長の同意を得て、他の部局に属する所属も含めて監督及び検査を行う所属を指定することができる。

3 相互監査を行う所属長等は、相互監査を受ける所属（以下「被監査所属」という。）における自主監査が実施された後に、被監査所属の所属長等に対し、当該自主監査の実施状況を確認する方法により行い、当該所属長等に対し、その結果を報告するものとする。この場合において、相互監査を行う所属長等は、必要に応じて書面を調査することができる。

(実施結果報告)

第7条 所属長等は、自主監査を行い、及び前条第3項の規定による相互監査の結果報告を受けた後、それらの結果を速やかに部局の庶務を担当する所属の長を経由して部局の長に報告するものとする。

2 前項の報告に当たっては、所属長等の直近上位の上司（当該上司が部局の長及びこれに準ずる者である場合は、当該所属の長）の所見を付すものとする。

(他の機関)

第8条 行財政局長は、他の機関の長に対し、所掌事務のうち長の権限に属するものについて、この要綱に定める要領により、自主監査等を行うべきことを指示することができる。

2 行財政局長は、他の機関の長に対し、前項に規定するもの以外の所掌事務について、この要綱に定める要領により、自主監査等を行うよう協力を要請することができる。

(行財政局長への報告)

第9条 行財政局長は、部局の長及び他の執行機関の長（前条第1項に規定する自主監査等に限る。）に対し、自主監査等の実施結果について報告を求めることができる。

2 行財政局長は、他の執行機関の長に対し、前条第2項に規定する自主監査等の実施結果を報告するよう協力を要請することができる。

(出資法人への適用)

第10条 部局の長及び他の機関の長は、本市が資本金、基本金その他これらに準ずるものを出資し

(次ページへ続く)

ている法人のうち、その所管に係るものに対し、この要綱に定める要領により、自主監査等を行い、その実施結果を報告するよう協力を要請するものとする。

(細目)

第 11 条 この要綱の施行に関し必要な細目は、主管局長が定める。

附 則

この要綱は、平成 19 年 7 月 10 日から施行する。

出典：神戸市例規

所属(事業所) → 局室区長 → (写)行財政局監察室(提出期限 H20.1.31)

(別紙3)

教委高等 第 327 号
平成 20 年 1 月 1 日

教育長 局・室・区長様

点検者(補職)神戸市立工業高等専門学校 参事

(氏名) 樽谷利信



所属(事業所)別実施結果報告書

平成19年12月6日に実施した平成19年度自主監査結果について、以下のとおり報告します。
なお、自主監査項目の内容は別添チェックリストのとおりです。

1. 指定事務

点検を行った事務名	リストNo	点検を行った事務名	リストNo
現金収納事務(領収書)	1-1	財産事務	4-1, 2, 3
寄附受納事務	1-7	コンプライアンス推進責任者の業務	5-1, 2, 3
資金前渡事務	2-1		

2. 任意事務(任意事務については、点検を行ったリストNoだけで結構です)

点検を行ったリストNo	6-1, 10-16
-------------	------------

3. 不適項目(指定事務・任意事務とも)

リストNo	チェックNo	不適理由 (一部不適も含む)	具体的対応策等
1-1	9	収納に正確証明の手数料の 払い込みに遅れが加わった	今後、遅延なく払い込む
2-1	16	精算が遅れている事例が あった。	学生への補助が中心に、担当教官を通じて遅延なく 精算するように指導する
4-1	8	97シートE1冊限に いる事例が1件あった	今後は改善枚数を交付する。

【担当部長の指示内容・所見】 ※自筆で記入してください。

手数料の収納、前渡金の精算について、今後早め早め実施すること。

補職名 神戸鶴 参事 氏名 樽谷利信

(次ページへ続く)

相互監査人 → 監査対象課 → 局室区長 → (写)行財政局監察室(提出期限 H20.1.31)

(別紙5)

教委東 第 179 号

平成19年12月25日

神戸市立工業高等専門学校

教育委員会社会教育部

相互監査人(補職) 東牟水公民館長

(氏名) 野口英明

相互監査実施結果報告書

平成19年12月25日に実施した平成19年度相互監査結果について、以下のとおり報告します。なお、相互監査項目の内容は別添チェックリストのとおりです。

監査対象課: 教育委員会 局・室・区 神戸市立工業高等専門学校 部

相互監査を行ったリストNo.	監査結果の不備項目記入欄		
	リストNo.	チェックNo.	不備内容・意見等
1-1	1-1	9	一部収入した現金の振込みが遅れていた その間金庫に保管していた。
2-1	2-1	16	前年度の精算で一部精算書が遅れていた 学会の請求・会費の精算
4-1	4-1	8	ワリシートと冊子版と違っている ものがあったが学内での事(4が等)の おかげで、病院搬送用
1-7			

【相互監査人所見】※必ず自筆で記入してください。

概ね適正に執行されておりました。
上記項目も自主監査での指摘事項ですので改善に努めて
下さい。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

神戸市の財政状況が依然として厳しい中、本校の運営に必要な予算は所要額が確保されている。また、学内予算配分は学内予算委員会における質疑等を通じて教職員に周知されている。

(改善を要する点)

神戸市の財政状況は引き続き厳しいと予想されるため、科学研究費補助金及び共同研究等の外部資金獲得に向けた一層の取り組みが必要である。

(3) 基準 10 の自己評価の概要

本校は、目的に沿った教育研究活動を安定して行うため「神戸市立学校設置条例」により設置された「公の施設」であり、必要な土地、建物等を占有使用している。

資金面では、所要額が神戸市の予算として計上されるとともに、競争的資金や外部資金の確保に向けた取り組みも行っている。

これらの財務にかかる運営は、神戸市会の予算・決算特別委員会で審議され、議決・認定されるとともに、校長指導のもと学内予算委員会で協議の後、予算書を全教職員に配布し周知徹底している。

財務に係る監査等は、神戸市監査事務局の「財務定期監査」が実施されるとともに、教育委員会内における自主監査も実施し、公正な執行を行っている。

基準 11 管理運営

(1) 観点ごとの分析

観点 11-1-①： 学校の目的を達成するために、校長、各主事、委員会等の役割が明確になっており、校長のリーダーシップの下で、効果的な意思決定が行える態勢となっているか。

(観点到係る状況)

校長の職務は、学則第 8 条 2 項で「校務を掌り、所属職員を監督する。」と規定し、同 9 条で教務主事は「校長の命を受け、教育計画の立案その他教務に関することを掌理する。」、学生主事は「校長の命を受け、学生の厚生、補導に関することを掌理する。」と規定しており、校長と各主事の役割を明確化している(資料 11-1-①-1)。特に 20 年度には研究担当教務主事を新設し、研究活動の促進を強化している。

また、各種会議・委員会の設置は、「神戸市立工業高等専門学校校務組織規程」で規定しており(資料 11-1-①-2)、各種会議の組織・審議事項等については、それぞれの会議規程に定められている。各種会議等で審議・協議された事項は、校務運営委員会や教官会議等で報告され、教職員に周知される態勢となっている。

なお、本校の組織図は前述の(資料 9-2-③-3)とおりでである。

(分析結果とその根拠理由)

校長と各主事の役割は学則で明確に規定されており、また「校務運営委員会」など主要な委員会の委員長は校長が務めるなど、校長のリーダーシップの下で、効果的な意思決定が行える態勢となっている。

神戸市立工業高等専門学校学則（抜粋）

第8条 本校に校長、教授、准教授、講師、助教及び助手を置く。

2 校長は、校務を掌り、所属職員を監督する。

3 教授、准教授及び助教は、学生を教授する。

4 助手は、教授または准教授の職務を助ける。

5 講師は、教授または准教授に準ずる職務に従事する。

第9条 本校に教務主事及び教務主事補佐並びに学生主事及び学生主事補佐を置く。

2 教務主事は、教授をもって充て、校長の命を受け、教育計画の立案その他教務に関することを掌理する。

3 学生主事は、教授または准教授をもって充て、校長の命を受け、学生の厚生、補導に関することを教授する。

出典：神戸市立工業高等専門学校規定集

観点 11-1-②： 管理運営に関する各種委員会及び事務組織が適切に役割を分担し、効果的に活動しているか。

(観点に係る状況)

各種会議・委員会は、以下のとおりであり、その構成員には各学科の教員及び事務・技術職員を適切に割り振っている(資料 11-1-②-1)。

また、事務組織としては、事務室に室長、主幹(庶務係長兼務)、学生係長、事務職員、技術職員が配置され、庶務、人事、予算掌理、会計、諸証明の発行等を担当している。

(分析結果とその根拠理由)

管理運営に関する各種課題は、関係の会議・委員会で審議協議し、決定事項については教職員が連携協力して速やかに業務を遂行しており、効果的に活動を行っている。

平成20年度 校務運営組織及び校内委員会一覧

校長		黒田 勝彦								
教務主事室	主事(教育)	尾崎 進	主事	中川 一穂	一般	吉川 敏郎	専攻科長	赤対 秀明	事務室長	榑谷 利信
	主事(研究)	赤対 秀明	副主事	小森田 敏	機械	尾崎 元泰	教育プログラム委員	中辻 武	主幹(庶務係)	田中 修一
	副主事	和田 明浩	副主事	尾崎 純一	電気	松田 忠重	図書館長	中西 宏	学生係長	阪下 伸一
	副主事	上垣 宗明	副主事	進平 雅一	電子	若林 茂	総合情報C長	榑本 好幸		横山 卓司
	副主事	山本 伸一	副主事	西 敬生	化学	杉 廣志	地域協働研究C長	大淵 真一	総合情報C副センター長	石崎 繁利
	副主事	山下 典彦	副主事	上中 宏二郎	都市	榑本 渉一	相談室長	石塚 正洋		加藤 真嗣
副主事	北村 知徳					相談員	榑田 敬子		林 祐祐	
								地域協働研究C副センター長	庶学 津吉 彰	
									地域 八百 俊介	

学年	学年主任	機械(M)		電気(E)	電子(D)	化学(C)	都市(S)
1	折附 良啓	折附 良啓	一瀬 正嗣	田口 純子	土居 文人	春名 桂	町田 吉隆
2	寺田 雅裕	MA 大多喜重明	MB 菅野 聡子	寺田 雅裕	前田誠一郎	八木 善彦	西山 正秋
3	榑生 成世	早稲田一憲	朝倉 義裕	下代 雅啓	榑生 成世	牧野 貴至	並河 努
4	小林 洋二	MD 宮本 猛	MC 小林 洋二	山本 和男	小矢 美晴	根津 豊彦	亀屋惠三子
5	森本 剛則	森本 剛則	小林 滋	赤松 浩	藤本 健司	小泉 拓也	宇野 宏司
専攻主任		齋藤 茂		戸崎 哲也		松井 哲治	榑木 哲哉

	校長	教務主事(教育)	教務主事(研究)	専攻主事(教育)	専攻主事(研究)	学生主事	学生主事	学科学長	図書館長	総合情報C長	地域協働研究C長	庶学	学生係長	機械	電気	電子	応用化学	都市	一般	技術	事務	
校務運営会議	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
運営改善会議	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
将来検討委員会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
自己評価委員会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
教務委員会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
教育プログラム委員会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
学生委員会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
専攻科運営委員会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
予算委員会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
入試委員会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
人材教育推進委員会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

図書館運営委員会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
総合情報センター運営委員会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
情報委員会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
地域協働研究センター運営委員会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
庶学運営委員会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
地域連携委員会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

安全衛生対策委員会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
DNA実験安全委員会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
口ポコン振興会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
KEMS委員会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
卒業式・入学式運営委員会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

注) ○⇒委員長 * ⇒副センター長又は実施委員長・補佐

神戸市立工業高等専門学校校務組織規程（抜粋）

第3条 校長に所属する組織として、次の各号に掲げる会議、委員会等を設置する。

- (1) 職員会議
- (2) 教官会議
- (3) 校務運営委員会
- (4) 予算委員会
- (5) 入試委員会
- (6) 人権教育推進委員会
- (7) 自己評価委員会
- (8) JABEE対策委員会
- (9) ロボット振興会
- (10) ロボコン競技委員会
- (11) 組換えDNA実験安全委員会

第4条 教務主事に所属する組織として、次の各号に掲げる委員会を設置する。

- (1) 教務委員会
- (2) カリキュラム検討委員会

第5条 学生主事に所属する組織として、次の各号に掲げる委員会を設置する。

- (1) 厚生補導委員会
- (2) 高専祭委員会

第6条 専攻科長に所属する組織として、専攻科運営委員会を置く。

第7条 事務室長に所属する組織として、安全衛生対策委員会を置く。

出典：神戸市立工業高等専門学校規定集

観点 11-1-③： 管理運営の諸規定が整備されているか。

(観点に係る状況)

管理運営の諸規定は、本校 Web ページの事務室庶務係の箇所に記載されている。

(分析結果とその根拠理由)

上述のように記載され、学内に周知されている。

観点 11-2-①： 外部有識者の意見が適切な形で管理運営に反映されているか。

(観点に係る状況)

本校では、平成 15 年 12 月に外部評価委員会を設置し、平成 16 年 3 月に「外部評価報告書」としてまとめ、学内外に公表している（前述の資料 9-1-③-1）。報告書で、「神戸の地域性を活かした独自性のある目標を述べるのが望ましい。」との指摘を受け、平成 18 年に本校の目的を定める学則第 1 条について、「深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成すること」の次に、「並びにその教育及び研究機能を活用して国際港都神戸の産業及び文化の発展向上に寄与すること」を付け加えた。

また、本校学生の保護者が組織する「後援会」には教務主事、学生主事等が理事で運営に参画しているが、保護者から進路指導の充実を求める声が多かったため、後援会と共催で本校卒業生の進路状況と進学・就職体験を語る「進路フォーラム」を開催している。

(分析結果とその根拠理由)

外部評価委員会や後援会からの報告・提言について、関係の委員会等で対応策を検討し、適切に実施している。

観点 11-3-①： 自己点検・評価（や第三者評価）が高等専門学校の活動の総合的な状況に対して行われ、かつ、それらの評価結果が公表されているか。

(観点に係る状況)

自己点検・自己評価については、平成 7 年以降 3 回実施し、それぞれ『神戸高専の現状と課題』として、冊子にまとめ、公表している。

平成 16 年には前述のとおり、外部評価を行い、その結果を公表している。

また、平成 17 年度には準学士課程 4、5 年と専攻科 1、2 年の 4 年間のカリキュラムが「工学系複合プログラム」として JABEE（日本技術者教育機構）認定を受けている。

平成 17 年には環境マネジメントシステムの国際規格である ISO-14001 に連動している神戸環境マネジメントシステム「KEMS」（前述の資料 9-1-⑦-1）の認証を受けている。

平成 19 年度には、「神戸高専の現状と課題 第 4 回報告書」を冊子にまとめ、他高専等に公表している。

(分析結果とその根拠理由)

本校の活動の総合的な状況に対して自己点検・評価を過去 4 回実施し、その結果を冊子にまとめて公表している。また、平成 16 年に外部評価を行いその結果も公表されている。

さらに、教育カリキュラムについては国際基準となる JABEE 認定を受けており、また神戸環境マネジメントシステム「KEMS」の認証も受けている。

観点 11-3-②： 評価結果がフィードバックされ、高等専門学校の目的の達成のための改善に結び付けられるようなシステムが整備され、有効に運営されているか。

(観点到に係る状況)

評価結果は、基準 2 に示したように神戸高専の PDCA システムに則り、改善に結びつけている。その統括を行う校務運営委員会では、必要な改善策について検討した後、関係部署での速やかな実施を促している。

(分析結果とその根拠理由)

それぞれの課題は、PDCA システムに則って処理されており、特に重要な課題については校務運営委員会で検討し、関係部署での速やかな実施を促すなど、本校の目的達成のための必要な改善がなされるよう適切に運営されている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

校長のリーダーシップの下、各種会議・委員会が所管事項を適切に協議し実施する体制が整っていること。

(改善を要する点)

特になし。ただし、厳しい財政状況や社会情勢に対応するために適宜組織を見直していく必要がある。この点に関して基準 9 に示したように、平成 20 年度から新しい神戸高専 PDCA サイクルを稼働させ、対処していく予定である。

(3) 基準 11 の自己評価の概要

本校における管理運営体制は、校長のリーダーシップの下、校務運営委員会、将来計画委員会、評価委員会等の主要な委員会は校長が主催し、専門的事項を所掌する専門委員会等は、教務主事、学生主事、専攻科長等がそれぞれの所掌の中で関係委員会を主催しており、それらの委員会には教員はもとより事務室長、主幹、係長以下事務室職員も構成員として参画している。本校の運営は PDCA システムに則り改善されているが、特に必要な改善策については、校長がリーダーシップをとる校務運営委員会で検討した後、各部署で速やかに実施するよう促している。

規程等は整備されており、教職員はホームページから情報を共有することができる。

管理運営に関する自己評価は、これまでに 4 回実施しており、その結果は冊子にして公表している。また外部評価は平成 15 年度に実施し、その結果は報告書にまとめられ、公表されている。

本校「工学系複合プログラム」は、平成 17 年度に日本技術者教育認定機構 (JABEE) から JABEE 適合プログラムとして認定を受けており、これは教育における外部評価のひとつと考えている。

以上のことから、本校の目的を達成するための管理運営体制は整っている。